鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（79）

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 XII

大坪遺跡

（鹿児島県出水市）

上巻

２００５年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

序　　文

この報告書は，九州新幹線鹿児島ルート建設工事に伴って，平成10年度から平成12年度にかけて実施した出水市美原町に所在する大坪遺跡の発掘調査の記録です。

平成16年3月13日に待望の九州新幹線鹿児島ルートが部分開業（鹿児島中央駅～新八代駅間）し，多くの人びとや情報が行き交って，21世紀に飛躍する鹿児島を象徴しています。新幹線開通に至るまでには30年余を要してさまざまな分野での関わりがありましたが，埋蔵文化財との調整もその中の一つでした。発掘調査は，平成5年4月に西鹿児島駅緊急整備事業の一環として鹿児島市武遺跡の調査を開始し，平成13年5月末，川内市京田遺跡を最後に21か所の発掘調査全てを終了しました。

本遺跡では縄文時代の終わり頃を中心に，古代・中世など多彩な遺構や遺物が発見され，出水地方の歴史の一端を垣間見ることができました。縄文時代後期終末から晩期にかけては，37基の埋設土器をはじめ勾玉・管玉などの玉類，各種土器や石器が多く出土しました。奈良時代から平安時代初期の竪穴住居に伴うつくり付けの竈の発見例は，他県では一般的にみられるものの県内では初めての検出となりました。また，平安時代末から鎌倉時代初期には，東西南北に合わせた大規模な土地区画である条里型地割が行われていたことがわかりました。

この調査の成果が地域の歴史研究や埋蔵文化財の啓発普及の一助になれば幸いです。

最後になりましたが，調査に当たり御協力いただいた日本鉄道建設公団九州新幹線建設局及び出水市の関係部局並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所長　　木　原　　俊　孝

報 告 書 抄 録

書　　名	大坪（おおつぼ）遺跡
副 書 名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	Ⅻ
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター 埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	79
編著者名	東（ひがし） 和幸（かずゆき）　野間口（のまぐち） 勇（いさむ）　関（せき） 明恵（あきえ）　森（もり） 雄二（ゆうじ）　長崎（ながさき） 慎太郎（しんたろう）　宮田（みやた） 栄二（えいじ） 八木澤（やぎさわ） 一郎（いちろう）　川口（かわぐち） 雅之（まさゆき）　山元（やまもと） 真美子（まみこ）　上床（うわとこ） 真（まこと）
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所 在 地	〒899-4461　鹿児島県国分市上之段1175番地１　TEL 0995-48-5811
発行年月日	西暦2005年３月

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大坪（おおつぼ）遺跡	鹿児島県（かごしまけん） 出水市（いずみし） 美原町（みはらちょう）	46208	051	32° 05′ 51″	130° 21′ 23″	1999.5.6.～ 2000.3.31. 2000.5.1.～ 2001.3.27.	27,247㎡	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大坪（おおつぼ）遺跡	散布地	縄文後期終末～晩期	埋設土器，凹地，土坑，焼土石溜り，ドングリピット	上加世田式土器，入佐式土器，黒川式土器，石器各種，玉類各種	埋設土器の検出数は県内で最も多い。 玉類の製作地である。
		古代初期	竈付竪穴住居跡，焼成土坑，土坑，溝状遺構	須恵器，土師器，甑，土錘，鉄製品鞴の羽口，紡錘車，馬の歯，刻書土器，ガラス玉，円面硯？	竈付の竪穴住居跡及び焼成土坑の検出例は県内で最初である。
		古代末～中世	掘立柱建物跡，溝状遺構，波板状凹凸面，条里型地割	青磁，白磁，土師器，滑石製石鍋，砥石	県内で条里型地割が発掘調査されたのは初めてである。
		近世～近代	波板状凹凸面，道跡	薩摩焼，輸入陶磁器，肥前系陶磁器キセル，金属製かんざし，鉛弾	各時代の波板状凹凸面の芯々距離は共通する。

大坪遺跡の位置（1／50,000）

例　言

1　本報告書は，平成11年度・平成12年度に，鹿児島県立埋蔵文化財センターが日本鉄道建設公団九州新幹線建設局の受託事業として実施した「九州新幹線鹿児島ルート建設」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査の時点では小字名により，大坪遺跡・見入来遺跡・榎木田遺跡に分けていたが，遺跡自体が時期的にも空間的にも連続していることから，本報告書では全体を大坪遺跡として報告することとする。

3　調査の組織は，「第Ⅰ章　発掘調査の経緯」の中に記した。

4　本書に用いたレベル数値は，海抜絶対高である。

5　遺物番号は通し番号とし，本文・挿図・表・写真図版の番号は一致する。

6　本報告書に掲載した遺構・遺物の縮尺はそれぞれの挿図内に提示してある。

7　遺構・遺物の実測や製図は主として担当職員のもと臨時職員及び委託業者が行った。

遺構の実測及び玉類の実測製図については，㈱埋蔵文化財サポートシステム（以下，埋文サポート）に委託した。また，石器類の実測製図については，九州文化財研究所に委託した。

8　本報告書に使用した写真図版のうち，遺構撮影を高岡和也が主に行い，遺物撮影については当センターの西園勝彦が主に行った。

9　玉類の石材産地分析を京都大学原子炉実験所の藁科哲男氏に，また，各種科学分析については㈱古環境研究所に依頼し，その分析結果を掲載した。

10　遺物で出土地点が不明なものもあるが，平成11年9月23日の台風でプレハブが飛ばされ，遺物カードが分離してしまったものである。また，担当者の不注意でわからなくなってしまったものもある。

11　石器の分類は東が行ったものを，宮田栄二が確認した。

12　石器の石材鑑定については東が行ったものを，宮田栄二が確認した。

13　土師器及び須恵器の分類については東が行ったものを，当センターの中村和美が確認した。

14　鉄製品の保存処理及び赤色顔料の分析については，当センターの永濱功治が行った。

15　遺構及び遺物の該当時期は，目次の各時期に合わせてあるが，レイアウト等の都合上必ずしもそうでない場合もある。記述及び表等で確認していただきたい。

16　出土した遺物は，報告書作成後，鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，活用する予定である。

17　本報告書の執筆・編集は，東和幸・関明恵・八木澤一郎・宮田栄二・川口雅之・野間口勇・山元真美子・森雄二・長﨑慎太郎・上床真が行った。

18　各項目の執筆は，次のとおり分担して実施し，それ以外の文責は東である。

第Ⅱ章	第１節 遺跡の位置と立地	森・長崎
第Ⅱ章	第２節 周辺の遺跡と歴史的環境	野間口
第Ⅲ章	第３節 各グリッドの状況	野間口・東
第Ⅳ章	第１節 ２.（２）⑤ ピエスエスキーユ	宮田・東
	⑦ 石核	宮田・東
	⑨ 石製土掘具	川口
	⑪ 磨石・敲石・凹石	八木澤・東
	⑬ 石錘	山元・東
	⑭ 異形石器	宮田・東
第Ⅳ章	第３節 １.（４） 土坑	野間口・東
第Ⅳ章	第３節 １.（６） 03区～01区の土坑等	野間口・東
第Ⅳ章	第３節 ２.（１） 掘立柱建物跡	八木澤・東
第Ⅳ章	第３節 ２.（２） 土坑	野間口・東
第Ⅳ章	第３節 ３.（１） 土坑	野間口・東
第Ⅳ章	第３節 ４.（５）① 紡錘車	山元・東
第Ⅳ章	第３節 ４.（５）② 土錘	山元・東
第Ⅳ章	第３節 ４.(10) 陶磁器	関
第Ⅳ章	第３節 ４.(13) 鉄製品	野間口
第Ⅳ章	第４節 ２.近世後半期～現代の出土遺物	野間口
第Ⅵ章	調査のまとめ	東・上床・野間口

19　本報告書は上巻と下巻に分かれているが，遺物番号・図番号・表番号及びページは通し番号となっている。下巻は第Ⅳ章第２節以降を掲載している。

凡　例

1　例言に記したが，発掘調査時点で分けていた見入来遺跡及び榎木田遺跡を含めて大坪遺跡と総称する。03 区～01 区が榎木田遺跡の範囲であり，１区～８区が見入来遺跡の範囲である。これより以南を大坪遺跡の範囲として調査時には進めてきた。したがって，記述の上では遺跡名で呼んだり，区名で呼んだりする部分が出てくるので，予めご了承いただきたい。

2　調査時点での遺構名と本報告書での遺構名の対応は，表５～表９に示してある。

3　調査時点での遺物取上番号と本報告書での遺物番号の対応は，各遺物観察表に示してある。

4　調査日誌抄は，調査時点で認識していたことをそのまま書いているので，本文の内容と異なる部分もある。

5　溝状遺構及び道路遺構については，それぞれ検出した長さが異なるので，１ページに収まるように調整してある。したがって，各遺構の縮尺率は異なり，それぞれスケールを添えてある。なお，断面図は１／50 に統一した。

6　各遺構については，方位，スケール，公共座標を表示し，断面図には絶対高を記す。

7　断面を切った部分は，▶ー，ー◀ で示し，断面が複数ある断面図の場合は，アルファベットを添えた。

8　断面を切った線がない場合は，見通し断面である。ただし，見通して見えるはずの上ハ線，下ハ線は省略した。

9　波板状凹凸面及び溝状遺構の縦断面については，直線の部分でおさえることができないので，見通し断面で表現しており，床面の部分だけを表した。スケールは平面図と同じである。

10　遺構内で出土した遺物については，遺構図に図示しているのもあるが，図のスケールは不統一である。出土遺物の頁で，時代順あるいは種類ごとに載せてあるので，参照されたい。遺物番号と同じである。

11　遺跡では縄文時代から現代までの遺構や遺物が重複して出てくるので，各グリッド状況図では色を変えて提示してある。縄文時代の遺構と遺物及び公共座標・方位・スケールを赤色で示し，弥生時代以降の遺構と遺物及びグリッド調査範囲・土層断面を黒色で示してある。壁面で位置を示す場合，北側壁面では西側から，西側壁面では南側からの数値である。

12　各グリッド状況図での遺物ドットの種類は下記のとおりである。

＜縄文時代＞

縄文土器	●
玉	★
石鏃	△
磨石・敲石・凹石・石皿	□
石製土掘具	■
石錘	☆
スクレイパー	⊙
磨製石斧	○
石匙・ﾌｯﾁﾄﾞｽｸﾚｲﾊﾟｰ・刃潰し	▽
異形石器	◆
円盤状石製品	◇
ピエス・エスキーユ	＊
石錐	▼
石核	X

＜弥生時代以降＞

土師器	△
須恵器	▲
鞴羽口	★
把手	X
弥生・古墳時代の遺物	□
鉄製品・砥石	▼
焼塩壺	●
滑石製品	■
土錘	◇
陶磁器	☆
刻書土器	＊
薬莢・古銭・馬の鞦・鉛弾	○
その他	▽

13　遺物ドットに番号が入っていないものは，図化はしていないけれども器種が明らかな遺物である。

14　遺物及び遺構の中には，掲載した名称として確証の得られていないものもあるが，注意を喚起する意味で載せているものもある。その際は「？」を付けている。

15　本文中で参考とした文献については，斜体文字で示してある。

16　条里型地割の説明

条里型地割の説明に当たって，それぞれの場所の呼び方が雑になるので，起点を設定する事にする。遺構として検出された部分と昭和40年代の地籍図で条里型地割が合致する場所をその起点としたい。そうするとD-24区の溝状遺構16（SD55）と溝状遺構20（SD57）が直角に交差する地点が最もふさわしく，ここを起点として本報告書内での説明を行うこととする。公共座標では，おおよそX＝－99994，Y＝－60748の地点である。

17　時代･時期の把握について

鹿児島県内の通常の遺跡では，年代の分かる火山灰が堆積しており，検出遺構や遺物の上下関係がはっきりすることから層位を利用して時代を区分することが可能である。しかし，大坪遺跡は低地に立地しており，層位による時代及び時期区分は不可能であった。したがって時代及び時期区分の把握は出土遺物に頼らざるを得ず，通常の報告書では遺構の説明の中で埋土内出土遺物の説明を行うのであるが，今回は遺物を後でまとめ，土器・土師器・須恵器・陶磁器等を指標として時代及び時期区分を行い，それを該当する遺構に戻してある。この件について，埋設土器は遺構でありながらもその単体は遺物であることから，遺構・遺物のどちらの項目で詳しく扱ったほうが良いのかは悩んだ点である。それで先に遺物として分類し，時期を特定した後遺構に戻すことによって，遺構の使用時期や存続した年代を考えていくことにしたい。遺構内遺物については，縮小はしているものの再載して利用の便を図ることとする。

18　遺構の性格等について

本来，未だ統一された見解がない遺構や遺物については，まずその遺構や遺物の客観的な記述を行った後，考察もしくはまとめで見解を示すべきである。しかし，そうすると記述の仕方で混乱を起こすことになりかねないので（例えば，溝状遺構は「掘られた」のか「ほげた」のか），本報告書ではそのような場合結論を先に述べて混乱を避けることとしたい。ただし，発掘調査の過程で考えが次第に変わってきたのもあるので，以前の考えに基づいて書いている場合もある。今回の報告書で提示する結論は次の点である。

「波板状凹凸面の成因は，牛馬が長年歩いたことによるものである。」

「溝状遺構の中には，長年道として使われた結果，窪んだものもある。」

19　遺物及び遺構の説明について

遺物及び遺構の説明について，客観的な報告部分のみを本文に書いて，調査担当者の主観的な考え及び考察的な内容については後の章でまとめるのが一般的なのかもしれない。しかし，客観的な内容については図面及び表等で表現されていることもあり，考察するには短い内容であるものについて，本文中に主観的な記述をしてある。

20　公共座標の数値は，北緯33度・東経131度を基準にしてある。

目　次

〔上巻〕
序文
報告書抄録
例言
凡例
第Ⅰ章　調査の経緯
第１節　調査に至るまでの経緯 …… 1
第２節　調査の組織 …… 1
第３節　調査の概要と調査経過 …… 3
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境
第１節　遺跡の位置と立地 …… 10
第２節　周辺の遺跡と歴史的環境 …… 10
第Ⅲ章　発掘調査の概要
第１節　発掘調査の方法 …… 23
第２節　遺跡の層位 …… 31
第３節　各グリッドの状況 …… 31
第Ⅳ章　発掘調査の成果
第１節　縄文時代の成果
１．縄文時代の検出遺構 …… 125
（１）埋設土器　（２）供献土器　（３）土坑　（４）大型凹地　（５）凹地
（６）不明遺構　（７）焼土　（８）石溜り　（９）ピット
２．縄文時代の出土遺物 …… 154
（１）縄文土器
① 深鉢形土器　② 組織痕土器　③ 浅鉢形土器　④ 小型浅鉢形土器　⑤ 鉢形土器　⑥ 盌形土器　⑦ 深鉢形土器底部　⑧ 縄文土製品
（２）縄文石器
① 石鏃　② 石匙　③ スクレイパー　④ 石錐　⑤ ピエス・エスキーユ　⑥ 刃潰しのある石器　⑦ 石核　⑧ 磨製石斧　⑨ 石製土掘具　⑩ 円盤状石製品　⑪ 磨石・敲石・凹石　⑫ 石皿　⑬ 石錘　⑭ 異形石器　⑮ 石刀？　⑯ 玉類

〔下巻〕
第２節　弥生時代～古墳時代の成果 …… 359
第３節　古代前半期～近世前半期の成果
１．古代前半期の検出遺構 …… 362
（１）竈付竪穴住居跡　（２）焼成土坑　（３）不明遺構　（４）土坑　（５）焼土
（６）03区～01区の土坑等　（７）溝状遺構
２．古代後半期～中世前半期の検出遺構 …… 387
（１）掘立柱建物跡　（２）土坑　（３）焼土　（４）不明遺構　（５）溝状遺構
（６）波板状凹凸面
３．古代前半期～近世前半期の出土遺物 …… 428
（１）須恵器
① 坏・皿　② 埦　③ 蓋　④ 甕　⑤ 壺　⑥ その他　⑦ 硯
（２）土師器
① 坏　② 皿　③ 埦　④ 蓋　⑤ 高坏　⑥ 甕　⑦ その他
（３）焼塩壺

（4）刻書土器
（5）甑
（6）把手
（7）支脚
（8）鞴羽口
（9）土製品
① 紡錘車　② 土錘
(10) 陶磁器
① 中世陶磁器　② 近世陶磁器
(11) 滑石製品
(12) 砥石
(13) 鉄製品
4．中世後半期～近世前半期の検出遺構 …… 472
（1）土坑　（2）溝状遺構　（3）波板状凹凸面
第4節　近世後半期～現代の成果
1．近世後半期～現代の検出遺構 …… 492
溝状遺構
2．近世後半期～現代の出土遺物 …… 498
（1）古銭　（2）鉛弾　（3）キセル　（4）銃弾・薬莢　（5）歯ブラシ
（6）馬具　（7）追加遺物
第Ⅴ章　分析同定
大坪遺跡出土の玉類，玉材片の産地分析 …… 503
大坪遺跡における自然科学分析（平成11年度） …… 533
大坪遺跡における自然科学分析（平成12年度） …… 538
第Ⅵ章　調査のまとめ …… 544

挿図目次

〔上巻〕

第１図　大坪遺跡の位置 …… 11
第２図　グリッド設定図（現況図） …… 12
第３図　グリッド設定図（昭和40年代の地籍図） … 13
第４図　グリッド設定図（昭和40年代の地形図） … 14
第５図　周辺遺跡図（１） …… 17
第６図　周辺遺跡図（２） …… 18
第７図　確認調査の範囲 …… 24
第８図　年度ごとの調査範囲 …… 25
第９図　大坪遺跡土層模式図 …… 31
第１０図　遺構配置図（１）　03区～２区 …… 32
第１１図　遺構配置図（２）　２区～６区 …… 33
第１２図　遺構配置図（３）　11区～15区 …… 34
第１３図　遺構配置図（４）　14区～18区 …… 35
第１４図　遺構配置図（５）　19区～22区 …… 36
第１５図　遺構配置図（６）　23区～26区 …… 37
第１６図　遺構配置図（７）　27区～30区 …… 38
第１７図　遺構配置図（８）　31区～34区 …… 39
第１８図　遺構配置図（９）　35区～38区 …… 40
第１９図　遺構検出及び遺物出土状況（１） …… 41
D・C-03区
第２０図　遺構検出及び遺物出土状況（２） …… 42
D・C-02区
第２１図　遺構検出及び遺物出土状況（３） …… 43
D・C-01区
第２２図　遺構検出及び遺物出土状況（４） …… 44
D・C-１区
第２３図　遺構検出及び遺物出土状況（５） …… 45
D-２区
第２４図　遺構検出及び遺物出土状況（６） …… 46
C-２区
第２５図　遺構検出及び遺物出土状況（７） …… 47
B-２区
第２６図　遺構検出及び遺物出土状況（８） …… 48
A-２・３区
第２７図　遺構検出及び遺物出土状況（９） …… 49
D-３区
第２８図　遺構検出及び遺物出土状況（10） …… 50

C－３区
第２９図　遺構検出及び遺物出土状況（11）・・・・51
B－３区
第３０図　遺構検出及び遺物出土状況（12）・・・・52
D－４区
第３１図　遺構検出及び遺物出土状況（13）・・・・53
C－４区
第３２図　遺構検出及び遺物出土状況（14）・・・・54
B－４区
第３３図　遺構検出及び遺物出土状況（15）・・・・55
A－４・５区
第３４図　遺構検出及び遺物出土状況（16）・・・・56
D－５区
第３５図　遺構検出及び遺物出土状況（17）・・・・57
C－５区
第３６図　遺構検出及び遺物出土状況（18）・・・・58
B－５区
第３７図　遺構検出及び遺物出土状況（19）・・・・59
D－６区
第３８図　遺構検出及び遺物出土状況（20）・・・・60
C－６区
第３９図　遺構検出及び遺物出土状況（21）・・・・61
B－６区
第４０図　遺構検出及び遺物出土状況（22）・・・・62
C－７区
第４１図　遺構検出及び遺物出土状況（23）・・・・63
B－７区
第４２図　遺構検出及び遺物出土状況（24）・・・・64
D－８区
第４３図　遺構検出及び遺物出土状況（25）・・・・65
D・C・B-11区，C・B-12区
第４４図　遺構検出及び遺物出土状況（26）・・・・66
D・C-12区
第４５図　遺構検出及び遺物出土状況（27）・・・・67
D-13区
第４６図　遺構検出及び遺物出土状況（28）・・・・68
C-13区
第４７図　遺構検出及び遺物出土状況（29）・・・・69
D-14区
第４８図　遺構検出及び遺物出土状況（30）・・・・70
C・B-14区
第４９図　遺構検出及び遺物出土状況（31）・・・・71
D-15区
第５０図　遺構検出及び遺物出土状況（32）・・・・72
C-15区
第５１図　遺構検出及び遺物出土状況（33）・・・・73
B-15区
第５２図　遺構検出及び遺物出土状況（34）・・・・74
D-16区
第５３図　遺構検出及び遺物出土状況（35）・・・・75
C-16区
第５４図　遺構検出及び遺物出土状況（36）・・・・76
B-16区
第５５図　遺構検出及び遺物出土状況（37）・・・・77
D-17区
第５６図　遺構検出及び遺物出土状況（38）・・・・78
C-17区
第５７図　遺構検出及び遺物出土状況（39）・・・・79
B-17区
第５８図　遺構検出及び遺物出土状況（40）・・・・80
D-18区
第５９図　遺構検出及び遺物出土状況（41）・・・・81
C-18区
第６０図　遺構検出及び遺物出土状況（42）・・・・82
B-18区
第６１図　遺構検出及び遺物出土状況（43）・・・・83
D-19区
第６２図　遺構検出及び遺物出土状況（44）・・・・84
C-19区
第６３図　遺構検出及び遺物出土状況（45）・・・・85
B-19区
第６４図　遺構検出及び遺物出土状況（46）・・・・86
D-20区
第６５図　遺構検出及び遺物出土状況（47）・・・・87
C-20区
第６６図　遺構検出及び遺物出土状況（48）・・・・88
B-20区
第６７図　遺構検出及び遺物出土状況（49）・・・・89
D-21区
第６８図　遺構検出及び遺物出土状況（50）・・・・90
C-21区
第６９図　遺構検出及び遺物出土状況（51）・・・・91
B-21区
第７０図　遺構検出及び遺物出土状況（52）・・・・92
A-21・22区
第７１図　遺構検出及び遺物出土状況（53）・・・・93
D-22区
第７２図　遺構検出及び遺物出土状況（54）・・・・94
C-22区
第７３図　遺構検出及び遺物出土状況（55）・・・・95
B-22区
第７４図　遺構検出及び遺物出土状況（56）・・・・96
D-23区
第７５図　遺構検出及び遺物出土状況（57）・・・・97
C-23区
第７６図　遺構検出及び遺物出土状況（58）・・・・98

B-23区
第７７図　遺構検出及び遺物出土状況（59）・・・・99
A-23・24区
第７８図　遺構検出及び遺物出土状況（60）・・・100
D-24区
第７９図　遺構検出及び遺物出土状況（61）・・・101
C-24区
第８０図　遺構検出及び遺物出土状況（62）・・・102
B-24区
第８１図　遺構検出及び遺物出土状況（63）・・・103
D-25区
第８２図　遺構検出及び遺物出土状況（64）・・・104
C-25区
第８３図　遺構検出及び遺物出土状況（65）・・・105
B-25区
第８４図　遺構検出及び遺物出土状況（66）・・・106
A-25・26区
第８５図　遺構検出及び遺物出土状況（67）・・・107
D-26区
第８６図　遺構検出及び遺物出土状況（68）・・・108
C-26区
第８７図　遺構検出及び遺物出土状況（69）・・・109
B-26区
第８８図　遺構検出及び遺物出土状況（70）・・・110
B-27区
第８９図　遺構検出及び遺物出土状況（71）・・・111
B-28・29区
第９０図　遺構検出及び遺物出土状況（72）・・・112
B-30区
第９１図　遺構検出及び遺物出土状況（73）・・・113
B-32区
第９２図　遺構検出及び遺物出土状況（74）・・・114
A-31・32区
第９３図　遺構検出及び遺物出土状況（75）・・・115
C-33・34区
第９４図　遺構検出及び遺物出土状況（76）・・・116
B-33区
第９５図　遺構検出及び遺物出土状況（77）・・・117
A-33区
第９６図　遺構検出及び遺物出土状況（78）・・・118
B-34区
第９７図　遺構検出及び遺物出土状況（79）・・・119
A-34区
第９８図　遺構検出及び遺物出土状況（80）・・・120
C・B-35区
第９９図　遺構検出及び遺物出土状況（81）・・・121
B・A-35区
第100図　遺構検出及び遺物出土状況（82）・・・122
B-36区
第101図　遺構検出及び遺物出土状況（83）・・・123
A-36区
第102図　遺構検出及び遺物出土状況（84）・・・124
A・B-37・38区
第103図　埋設土器検出状況（１）・・・・・・・・・・・125
埋設土器１（SJ124）・２（SJ119）
第104図　埋設土器検出状況（２）・・・・・・・・・・・126
埋設土器３（SJ79）
第105図　埋設土器検出状況（３）・・・・・・・・・・・127
埋設土器４（SJ38）
第106図　埋設土器検出状況（４）・・・・・・・・・・・128
埋設土器５（SJ115）・６（SJ８）
第107図　埋設土器検出状況（５）・・・・・・・・・・・129
埋設土器７（SJ33）
第108図　埋設土器検出状況（６）・・・・・・・・・・・130
埋設土器８（SJ６）
第109図　埋設土器検出状況（７）・・・・・・・・・・・131
埋設土器９（SJ80）・10（SJ39）
第110図　埋設土器検出状況（８）・・・・・・・・・・・132
埋設土器11（SJ40）・12（SJ４）
第111図　埋設土器検出状況（９）・・・・・・・・・・・134
埋設土器13（SJ５）・14（SJ31）
第112図　埋設土器検出状況（10）・・・・・・・・・・・135
埋設土器15（SJ12）・16（SJ９）
第113図　埋設土器検出状況（11）・・・・・・・・・・・136
埋設土器17（SJ３）・18（SJ７）
第114図　埋設土器検出状況（12）・・・・・・・・・・・137
埋設土器19（SJ78）
第115図　埋設土器検出状況（13）・・・・・・・・・・・138
埋設土器20（SJ41）・21（SJ130）
第116図　埋設土器検出状況（14）・・・・・・・・・・・139
埋設土器22（SJ30）・23（SJ49）・24（SJ42）・25（SJ50）・26（SJ10）
第117図　埋設土器検出状況（15）・・・・・・・・・・・141
埋設土器27（SJ175）・28（SJ46）
第118図　埋設土器検出状況（16）・・・・・・・・・・・142
埋設土器29（見SJ５）・30（見SJ84）
第119図　埋設土器検出状況（17）・・・・・・・・・・・143
埋設土器31（SJ131）・32（SJ11）
第120図　埋設土器検出状況（18）・・・・・・・・・・・144
埋設土器33（SJ47）・34（SJ51）・供献土器１（SJ48）
第121図　埋設土器検出状況（19）・・・・・・・・・・・145
埋設土器35（SJ128）・36（SJ126）・37（SJ125）
供献土器２（SJP129）
第122図　土坑検出状況（１）・・・・・・・・・・・・・146
土坑１（SK71）・２（SK118）
第123図　土坑検出状況（２）・・・・・・・・・・・・・147

土坑３（SK169）・４（見SK１）
第124図　大型凹地検出状況（SX60）……148
第125図　凹地検出状況（SF193）……149
第126図　不明遺構検出状況（１）……150
不明遺構１（SX67）
第127図　不明遺構検出状況（２）……151
不明遺構２（SF117）
第128図　焼土検出状況（１）……152
焼土１（SF32）・２（SF173）・３（SF127）・４（SF120）・５（見SF４）
第129図　石溜り及びピット検出状況……153
石溜り１（見SS２）・ピット１（SX28）・２（SP121）
第130図　出土遺物　縄文土器（１）……155
第131図　出土遺物　縄文土器（２）……156
第132図　出土遺物　縄文土器（３）……157
第133図　出土遺物　縄文土器（４）……158
第134図　出土遺物　縄文土器（５）……159
第135図　出土遺物　縄文土器（６）……160
第136図　出土遺物　縄文土器（７）……161
第137図　出土遺物　縄文土器（８）……162
第138図　出土遺物　縄文土器（９）……163
第139図　出土遺物　縄文土器（10）……164
第140図　出土遺物　縄文土器（11）……165
第141図　出土遺物　縄文土器（12）……166
第142図　出土遺物　縄文土器（13）……167
第143図　出土遺物　縄文土器（14）……168
第144図　出土遺物　縄文土器（15）……169
第145図　出土遺物　縄文土器（16）……170
第146図　出土遺物　縄文土器（17）……171
第147図　出土遺物　縄文土器（18）……172
第148図　出土遺物　縄文土器（19）……173
第149図　出土遺物　縄文土器（20）……174
第150図　出土遺物　縄文土器（21）……175
第151図　出土遺物　縄文土器（22）……177
第152図　出土遺物　縄文土器（23）……178
第153図　出土遺物　縄文土器（24）……179
第154図　出土遺物　縄文土器（25）……180
第155図　出土遺物　縄文土器（26）……181
第156図　出土遺物　縄文土器（27）……182
第157図　出土遺物　縄文土器（28）……183
第158図　出土遺物　縄文土器（29）……184
第159図　出土遺物　縄文土器（30）……185
第160図　出土遺物　縄文土器（31）……186
第161図　出土遺物　縄文土器（32）……187
第162図　出土遺物　縄文土器（33）……188
第163図　出土遺物　縄文土器（34）……189
第164図　出土遺物　縄文土器（35）……190
第165図　出土遺物　縄文土器（36）……191
第166図　出土遺物　縄文土器（37）……192
第167図　出土遺物　縄文土器（38）……193
第168図　出土遺物　縄文土器（39）……194
第169図　出土遺物　縄文土器（40）……195
第170図　出土遺物　縄文土器（41）……196
第171図　出土遺物　縄文土器（42）……198
第172図　出土遺物　縄文土器（43）……199
第173図　出土遺物　縄文土器（44）……201
第174図　出土遺物　縄文土器（45）……202
第175図　出土遺物　縄文土器（46）……203
第176図　出土遺物　縄文土器（47）……204
第177図　出土遺物　縄文土器（48）……206
第178図　出土遺物　縄文土器（49）……207
第179図　出土遺物　縄文土器（50）……208
第180図　出土遺物　縄文土器（51）……209
第181図　出土遺物　縄文土器（52）……210
第182図　出土遺物　縄文土器（53）……211
第183図　出土遺物　縄文土器（54）……214
第184図　出土遺物　縄文土器（55）……215
第185図　出土遺物　縄文土器（56）……216
第186図　出土遺物　縄文土器（57）……217
第187図　出土遺物　縄文土器（58）……218
第188図　出土遺物　縄文土器（59）……219
第189図　出土遺物　縄文土器（60）……220
第190図　出土遺物　石器（１）　石鏃……223
第191図　出土遺物　石器（２）　石鏃……224
第192図　出土遺物　石器（３）　石鏃……225
第193図　出土遺物　石器（４）　石鏃……226
第194図　出土遺物　石器（５）　石鏃……227
第195図　出土遺物　石器（６）　石鏃……228
第196図　出土遺物　石器（７）　石鏃……229
第197図　出土遺物　石器（８）　石鏃……230
第198図　出土遺物　石器（９）　石鏃……231
第199図　出土遺物　石器（10）　石鏃……232
第200図　出土遺物　石器（11）　石鏃……233
第201図　出土遺物　石器（12）　石鏃……234
第202図　出土遺物　石器（13）　石鏃……235
第203図　出土遺物　石器（14）　石鏃……236
第204図　出土遺物　石器（15）　石鏃……237
第205図　出土遺物　石器（16）　石鏃……242
第206図　出土遺物　石器（17）　石鏃……243
第207図　出土遺物　石器（18）　石鏃……244
第208図　出土遺物　石器（19）　石鏃……245
第209図　出土遺物　石器（20）　石鏃……247
第210図　出土遺物　石器（21）　石匙……248
第211図　出土遺物　石器（22）　石匙……249
第212図　出土遺物　石器（23）　石匙……250
第213図　出土遺物　石器（24）　石匙……251

第 214 図　出土遺物　石器（25）　スクレイパー・・・ 252
第 215 図　出土遺物　石器（26）　スクレイパー・・・ 253
第 216 図　出土遺物　石器（27）　スクレイパー・・・ 254
第 217 図　出土遺物　石器（28）　スクレイパー・・・ 256
第 218 図　出土遺物　石器（29）　スクレイパー・・・ 257
第 219 図　出土遺物　石器（30）　スクレイパー・・・ 258
第 220 図　出土遺物　石器（31）　石錐 ・・・・・・・・ 260
第 221 図　出土遺物　石器（32）　石錐 ・・・・・・・・ 261
第 222 図　出土遺物　石器（33）　ピエス・エスキーユ 262
第 223 図　出土遺物　石器（33）　ピエス・エスキーユ 263
第 224 図　出土遺物　石器（35）　刃潰しのある石器・ 264
第 225 図　出土遺物　石器（36）　石核 ・・・・・・・・ 265
第 226 図　出土遺物　石器（37）　石核 ・・・・・・・・ 266
第 227 図　出土遺物　石器（38）　石核 ・・・・・・・・ 267
第 228 図　出土遺物　石器（39）　磨製石斧 ・・・・ 270
第 229 図　出土遺物　石器（40）　磨製石斧 ・・・・ 271
第 230 図　出土遺物　石器（41）　磨製石斧 ・・・・ 272
第 231 図　出土遺物　石器（42）　磨製石斧 ・・・・ 273
第 232 図　出土遺物　石器（43）　磨製石斧 ・・・・ 274
第 233 図　出土遺物　石器（44）　磨製石斧 ・・・・ 275
第 234 図　出土遺物　石器（45）　磨製石斧 ・・・・ 276
第 235 図　出土遺物　石器（46）　石製土掘具 ・・ 281
第 236 図　出土遺物　石器（47）　石製土掘具 ・・ 282
第 237 図　出土遺物　石器（48）　石製土掘具 ・・ 283
第 238 図　出土遺物　石器（49）　石製土掘具 ・・ 284
第 239 図　出土遺物　石器（50）　石製土掘具 ・・ 285
第 240 図　出土遺物　石器（51）　石製土掘具 ・・ 286
第 241 図　出土遺物　石器（52）　石製土掘具 ・・ 287
第 242 図　出土遺物　石器（53）　石製土掘具 ・・ 288
第 243 図　出土遺物　石器（54）　石製土掘具 ・・ 289
第 244 図　出土遺物　石器（55）　石製土掘具 ・・ 290
第 245 図　出土遺物　石器（56）　石製土掘具 ・・ 291
第 246 図　出土遺物　石器（57）　石製土掘具 ・・ 292
第 247 図　出土遺物　石器（58）　石製土掘具 ・・ 293
第 248 図　出土遺物　石器（59）　石製土掘具 ・・ 294
第 249 図　出土遺物　石器（60）　石製土掘具 ・・ 295
第 250 図　出土遺物　石器（61）　石製土掘具 ・・ 296
第 251 図　出土遺物　石器（62）　石製土掘具 ・・ 297
第 252 図　出土遺物　石器（63）　石製土掘具 ・・ 298
第 253 図　出土遺物　石器（64）　石製土掘具 ・・ 299
第 254 図　出土遺物　石器（65）　石製土掘具 ・・ 300
第 255 図　出土遺物　石器（66）　石製土掘具 ・・ 301
第 256 図　出土遺物　石器（67）　石製土掘具 ・・ 302
第 257 図　出土遺物　石器（68）　石製土掘具 ・・ 303
第 258 図　出土遺物　石器（69）　石製土掘具 ・・ 304
第 259 図　出土遺物　石器（70）　石製土掘具 ・・ 305
第 260 図　出土遺物　石器（71）　石製土掘具 ・・ 306
第 261 図　出土遺物　石器（72）　石製土掘具 ・・ 307
第 262 図　出土遺物　石器（73）　石製土掘具・・ 308
第 263 図　出土遺物　石器（74）　石製土掘具・・ 309
第 264 図　出土遺物　石器（75）　石製土掘具・・ 310
第 265 図　出土遺物　石器（76）　石製土掘具・・ 311
第 266 図　出土遺物　石器（77）　円盤状石製品・ 315
第 267 図　出土遺物　石器（78）　円盤状石製品・ 316
第 268 図　出土遺物　石器（79）　円盤状石製品・ 317
第 269 図　出土遺物　石器（80）　円盤状石製品・ 318
第 270 図　出土遺物　石器（81）　磨石・敲石・凹石 319
第 271 図　出土遺物　石器（82）　磨石・敲石・凹石 320
第 272 図　出土遺物　石器（83）　磨石・敲石・凹石 321
第 273 図　出土遺物　石器（84）　磨石・敲石・凹石 322
第 274 図　出土遺物　石器（85）　磨石・敲石・凹石 323
第 275 図　出土遺物　石器（86）　磨石・敲石・凹石 324
第 276 図　出土遺物　石器（87）　磨石・敲石・凹石 325
第 277 図　出土遺物　石器（88）　磨石・敲石・凹石 326
第 278 図　出土遺物　石器（89）　磨石・敲石・凹石 327
第 279 図　出土遺物　石器（90）　磨石・敲石・凹石 328
第 280 図　出土遺物　石器（91）　磨石・敲石・凹石 329
第 281 図　出土遺物　石器（92）　磨石・敲石・凹石 332
第 282 図　出土遺物　石器（93）　磨石・敲石・凹石 333
第 283 図　出土遺物　石器（94）　磨石・敲石・凹石 334
第 284 図　出土遺物　石器（95）　磨石・敲石・凹石 335
第 285 図　出土遺物　石器（96）　磨石・敲石・凹石 336
第 286 図　出土遺物　石器（97）　石皿・・・・・・・・ 338
第 287 図　出土遺物　石器（98）　石皿・・・・・・・・ 339
第 288 図　出土遺物　石器（99）　石皿・・・・・・・・ 340
第 289 図　出土遺物　石器（100）石皿・・・・・・・・ 341
第 290 図　出土遺物　石器（101）石皿・・・・・・・・ 342
第 291 図　出土遺物　石器（102）石錘・・・・・・・・ 343
第 292 図　出土遺物　石器（103）石錘・・・・・・・・ 344
第 293 図　出土遺物　石器（104）石錘・・・・・・・・ 345
第 294 図　出土遺物　石器（105）石錘・・・・・・・・ 346
第 295 図　出土遺物　石器（106）石錘・・・・・・・・ 347
第 296 図　出土遺物　石器（107）石錘・・・・・・・・ 348
第 297 図　出土遺物　石器（108）石錘・・・・・・・・ 349
第 298 図　出土遺物　石器（109）異形石器・石刀？ 350
第 299 図　出土遺物　石器（110）玉類・・・・・・・・ 353
第 300 図　出土遺物　石器（111）玉類・・・・・・・・ 354
第 301 図　出土遺物　石器（112）玉類・・・・・・・・ 355
第 302 図　出土遺物　石器（113）玉類・・・・・・・・ 356
〔下巻〕
第 303 図　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 360
　　弥生時代及び古墳時代の土器（１）
第 304 図　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 361
　　弥生時代及び古墳時代の土器（２）
第 305 図　竪穴住居検出状況（SH29）・・・・・・・・・ 362
第 306 図　竈（かまど）検出状況（SH29）・・・・・・・・・・・・ 363

第 307 図　焼成土坑検出状況（１）・・・・・・・・・・・ 364
焼成土坑１（SFK82）
第 308 図　焼成土坑検出状況（２）・・・・・・・・・・・ 365
焼成土坑２（SFK133）・３（SK45）
第 309 図　不明遺構検出状況（３）・・・・・・・・・・・ 366
不明遺構３（SX75）
第 310 図　不明遺構遺物出土状況（１）・・・・・・・ 367
不明遺構３（SX75）
第 311 図　不明遺構遺物出土状況（２）・・・・・・・ 368
不明遺構４（SX81）
第 312 図　不明遺構・土坑検出状況・・・・・・・・・・・ 369
不明遺構５（SX85）・土坑６（SK84）・７（SK83）
ピット３（SP86）
第 313 図　土坑検出状況（３）・・・・・・・・・・・・・・ 370
土坑８（SK134）・９（SK135）
第 314 図　土坑検出状況（４）・・・・・・・・・・・・・・ 371
土坑 10（SK76）
第 315 図　土坑検出状況（５）・・・・・・・・・・・・・・ 372
土坑 11（SK113）・12（SK112）・13（SK111）・
14（SK110）
第 316 図　土坑検出状況（６）・・・・・・・・・・・・・・ 373
土坑 15（SK106）・16（SK105）・17（SK104）
ピット５（SP123）・６（SP122）
第 317 図　土坑検出状況（７）・・・・・・・・・・・・・・ 374
土坑 18（SK77）・19（SK102）・20（SK101）・
21（SK100）・22（SK99）・23（SK98）
第 318 図　土坑遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 375
土坑 18（SK77）・24（SK103）
第 319 図　土坑検出状況（８）・・・・・・・・・・・・・・ 376
土坑 24（SK103）・25（SK97）
第 320 図　土坑検出状況（９）・・・・・・・・・・・・・・ 377
土坑 26（SK96）・27（SK87）・28（SK92）・29（SK93）・
30（SK90）・31（SK89）
ピット７（SP95）・８（SP94）・９（SP91）
第 321 図　土坑検出状況（10）・・・・・・・・・・・・・・ 378
土坑 32（SK114）・ピット４(SP116)・10（SP109）・
11（SP108）・12（SP107）
第 322 図　焼土検出状況（２）・・・・・・・・・・・・・・ 379
焼土６（SF19）・７（SF18）・８（SF171）・
９（SF170）・10（SF66）
第 323 図　土坑検出状況（11）・・・・・・・・・・・・・・ 380
土坑 34（榎 SK４）・35（榎 SP７）・
36（榎 SK８）・37（榎 SK５）・38（榎 SK６）
第 324 図　土坑検出状況（12）・・・・・・・・・・・・・・ 381
土坑 39（榎 SK16）・40（榎 SK17）・41（榎 SK18）・
42（榎 SK15）・43（榎 SK９）・44（榎 SK19）・
45（榎 SK３）・46（榎 SK２）・47（榎 SK10）・
48（榎 SK11）・49（榎 SK12）
第 325 図　土坑検出状況（13）・・・・・・・・・・・・・・ 382
土坑 50（榎 SK20）・51（榎 SK22）・52（榎 SK１）・
ピット 15（榎 SP21）・焼土 11（榎 SF27）
第 326 図　溝状遺構検出状況（１）・・・・・・・・・・・ 384
溝状遺構１（SD43）・４（SD70）
第 327 図　溝状遺構検出状況（２）・・・・・・・・・・・ 385
溝状遺構２（見 SD81）
第 328 図　溝状遺構検出状況（３）・・・・・・・・・・・ 386
溝状遺構３（見 SD６）
第 329 図　掘立柱建物跡検出状況（１）・・・・・・・ 387
掘立柱建物跡１（SB166）
第 330 図　掘立柱建物跡検出状況（２）・・・・・・・ 388
掘立柱建物跡２（SB187）
第 331 図　掘立柱建物跡検出状況（３）・・・・・・・ 389
掘立柱建物跡３（SB137）
第 332 図　掘立柱建物跡検出状況（４）・・・・・・・ 390
掘立柱建物跡４（SB190）
第 333 図　掘立柱建物跡検出状況（５）・・・・・・・ 391
掘立柱建物跡５（SB199）
第 334 図　掘立柱建物跡検出状況（６）・・・・・・・ 394
掘立柱建物跡６（SB189）
第 335 図　掘立柱建物跡検出状況（７）・・・・・・・ 396
掘立柱建物跡７（SB188）
第 336 図　掘立柱建物跡検出状況（８）・・・・・・・ 397
掘立柱建物跡８（SB198）
第 337 図　掘立柱建物跡検出状況（９）・・・・・・・ 398
掘立柱建物跡９（SB200）
第 338 図　土坑検出状況（14）・・・・・・・・・・・・・・ 399
土坑 57（SK34）・58（SK35）・59（SK36）・60（SK37）
第 339 図　土坑検出状況（15）・・・・・・・・・・・・・・ 400
土坑 61（SK148）・62（SK151）
第 340 図　土坑検出状況（16）・・・・・・・・・・・・・・ 401
土坑 63（SK139）・64（SK140）・65（SK167）・
66（SK152）・67（SK147）
第 341 図　土坑検出状況（17）・・・・・・・・・・・・・・ 402
土坑 68（SK155）・69（SK154）・70（SK153）・71（SK192）
第 342 図　土坑検出状況（18）・・・・・・・・・・・・・・ 403
土坑 72（SK183）・73（SK184）・74（SK185）・75（SK186）
第 343 図　焼土検出状況（３）・・・・・・・・・・・・・・ 404
焼土 12（SF58）・13（SF174）・15（SF73）・16（SF172）
第 344 図　焼土検出状況（４）・・・・・・・・・・・・・・ 405
焼土 17（SF204）・18（SF194）
第 345 図　不明遺構検出状況（４）・・・・・・・・・・・ 406
不明遺構６（SK69）
第 346 図　不明遺構及びピット検出状況・・・・・・・ 407
不明遺構７（SX149）・８（SX150）・ピット 16（SP59）
第 347 図　溝状遺構検出状況（４）・・・・・・・・・・・ 409
溝状遺構６（SD68）・７（SD136）

第348図　溝状遺構検出状況（5）……410
溝状遺構8（SD65）・9（SD62）・10（SD61）
第349図　溝状遺構検出状況（6）……411
溝状遺構11（SD22）
第350図　溝状遺構検出状況（7）……412
溝状遺構12（SD23）
第351図　溝状遺構検出状況（8）……413
溝状遺構14（SD1）
第352図　溝状遺構検出状況（9）……414
溝状遺構15（SD64）・16（SD63）
第353図　溝状遺構検出状況（10）……415
溝状遺構17（SD55）
第354図　溝状遺構検出状況（11）……416
溝状遺構20（SD52）
第355図　溝状遺構検出状況（12）……417
溝状遺構22（SD146）・24（SD145）
第356図　溝状遺構検出状況（13）……419
溝状遺構25（SD203）・26（SD202）・27（SD205）・28（SD201）
第357図　溝状遺構検出状況（14）……420
溝状遺構23（SD168）・29（SD143）・30（SD144）・31（SD142）・32（SD24）
第358図　溝状遺構検出状況（15）……421
溝状遺構33（SD141）
第359図　波板状凹凸面検出状況（1）……422
波板状凹凸面1（SR26）
第360図　波板状凹凸面検出状況（2）……423
波板状凹凸面2（SR25）
第361図　波板状凹凸面検出状況（3）……424
波板状凹凸面3（SR182）・溝状遺構13（SD181）
第362図　波板状凹凸面検出状況（4）……425
波板状凹凸面4（SR72）
第363図　波板状凹凸面検出状況（5）……426
波板状凹凸面5（SR176）・6（SR191）・7（SR27）・8（SR54）
第364図　波板状凹凸面検出状況（6）……427
波板状凹凸面9（SR197）・10（SR196）・11（SR195）
第365図　出土遺物　須恵器（1）　坏及び皿‥428
第366図　出土遺物　須恵器（2）　埦……429
第367図　出土遺物　須恵器（3）　蓋……430
第368図　出土遺物　須恵器（4）　甕……431
第369図　出土遺物　須恵器（5）　甕……432
第370図　出土遺物　須恵器（6）　甕……433
第371図　出土遺物　須恵器（7）　甕……434
第372図　出土遺物　須恵器（8）　壺……435
第373図　出土遺物　須恵器（9）　円面硯・高坏等・436
第374図　出土遺物　須恵器（10）　硯……437
第375図　出土遺物　土師器（1）　坏……439
第376図　出土遺物　土師器（2）　坏・皿‥‥440
第377図　出土遺物　土師器（3）　埦……441
第378図　出土遺物　土師器（4）　埦……442
第379図　出土遺物　土師器（5）　埦……443
第380図　出土遺物　土師器（6）　蓋・高坏‥444
第381図　出土遺物　土師器（7）　甕……445
第382図　出土遺物　土師器（8）　甕……446
第383図　出土遺物　土師器（9）　甕……447
第384図　出土遺物　土師器（10）　甕……448
第385図　出土遺物　土師器（11）　その他‥‥449
第386図　出土遺物　焼塩壺……451
第387図　出土遺物　刻書土器……452
第388図　出土遺物　甑・支脚・鞴羽口……454
第389図　出土遺物　紡錘車……455
第390図　出土遺物　土錘（1）……456
第391図　出土遺物　土錘（2）……457
第392図　出土遺物　陶磁器（1）……459
第393図　出土遺物　陶磁器（2）……460
第394図　出土遺物　陶磁器（3）……462
第395図　出土遺物　陶磁器（4）……463
第396図　出土遺物　滑石製品（1）……465
第397図　出土遺物　滑石製品（2）……466
第398図　出土遺物　砥石（1）……467
第399図　出土遺物　砥石（2）……469
第400図　出土遺物　砥石（3）……470
第401図　出土遺物　鉄器……471
第402図　土坑検出状況（19）……473
土坑76（見SK9）・77（見SK10）・78（見SK11）・79（見SK16）
第403図　土坑検出状況（20）……474
土坑80（見SK82）・81（見SK50）
第404図　土坑検出状況（21）……475
土坑82（見SK57）・83（見SK63）・84（見SK64）・85（見SK66）・86（見SK65）・87（見SK67）
第405図　土坑検出状況（22）……476
土坑88（見SK83）・89（見SK12）
第406図　土坑検出状況（23）……477
土坑90（見SK14）・91（見SK13）
第407図　土坑検出状況（24）……478
土坑92（見SK15）・93（見SK17）・94（見SK18）・95（見SK19）・96（見SK20）
第408図　土坑検出状況（25）……479
土坑97（見SK21）・98（見SK22）・99（見SK23）・100（見SK24）・101（見SK25）・102（見SK26）
第409図　土坑検出状況（26）……480
土坑103（見SK28）・104（見SK27）・105（見SK29）・106（見SK30）・107（見SK31）・108（見SK32）
第410図　土坑検出状況（27）……481

土坑 109（見 SK33）・110（見 SK34）・111（見 SK35）・112（見 SK36）・113（見 SK37）
第 411 図　土坑検出状況（28）…… 482
土坑 114（見 SK40）・115（見 SK41）・116（見 SK42）・117（見 SK38）・118（見 SK39）
第 412 図　土坑検出状況（29）…… 483
土坑 119（見 SK51）・120（見 SK52）・121（見 SK53）・122（見 SK48）・123（見 SK49）・124（見 SK46）・125（見 SK47）
第 413 図　土坑検出状況（30）…… 484
土坑 126（見 SK54）・127（見 SK55）・128（見 SK56）
第 414 図　土坑検出状況（31）…… 485
土坑 129（見 SK43）・130（見 SK44）・131（見 SK45）
第 415 図　土坑検出状況（32）…… 486
土坑 132（見 SK59）・133（見 SK60）・134（見 SK61）・135（見 SK62）・136（見 SK58）・137（見 SK68）
第 416 図　土坑検出状況（33）…… 487
土坑 138（見 SK69）・139（見 SK70）
第 417 図　土坑検出状況（34）…… 489
土坑 143（見 SK74）・144（見 SK75）・145（見 SK76）・146（見 SK77）
第 418 図　土坑検出状況（35）…… 490
土坑 140（見 SK71）・141（見 SK72）・142（見 SK73）
第 419 図　土坑検出状況（36）…… 491
土坑 147（見 SK79）・148（見 SK80）・149（見 SK78）・150（SK21）
第 420 図　波板状凹凸面・溝状遺構検出状況… 492
波板状凹凸面 12（SR177）
溝状遺構 35（SD178）・36（SD179）
第 421 図　波板状凹凸面検出状況（７）…… 494
波板状凹凸面 13（SR156）・14（SR157）・15（SR158）・16（SR159）
第 422 図　波板状凹凸面検出状況（８）…… 495
波板状凹凸面 17（SR160）・18（SR165）・19（SR161）・20（SR162）・21（SR163）・22（SR164）
第 423 図　溝状遺構検出状況（16）…… 496
溝状遺構 39（SD44）・40（SD13）
第 424 図　溝状遺構検出状況（17）…… 497
溝状遺構 43（SD14）・44（SD15）
第 425 図　出土遺物　古銭…… 498
第 426 図　出土遺物…… 500
鉛弾・キセル・銃弾・薬莢・歯ブラシの柄・馬の鞦
第 427 図　追加遺物…… 502

表目次

〔上巻〕

表１　周辺遺跡地名表１…… 19
表２　周辺遺跡地名表２…… 20
表３　周辺遺跡地名表３…… 21
表４　周辺遺跡地名表４…… 22
表５　遺構一覧表（挿図番号順）１…… 26
表６　遺構一覧表（挿図番号順）２…… 27
表７　遺構一覧表（挿図番号順）３…… 28
表８　遺構一覧表（挿図番号順）４…… 29
表９　遺構一覧表（発掘調査時の遺構名順）…… 30
表 10　縄文土器観察表１…… 161
表 11　縄文土器観察表２…… 163
表 12　縄文土器観察表３…… 170
表 13　縄文土器観察表４…… 175
表 14　縄文土器観察表５…… 176
表 15　縄文土器観察表６…… 182
表 16　縄文土器観察表７…… 184
表 17　縄文土器観察表８…… 199
表 18　縄文土器観察表９…… 200
表 19　縄文土器観察表 10…… 205
表 20　縄文土器観察表 11…… 212
表 21　縄文土器観察表 12…… 221
表 22　縄文土器観察表 13…… 222
表 23　石器観察表１…… 227
表 24　石器観察表２…… 232
表 25　石器観察表３…… 237
表 26　石器観察表４…… 238
表 27　石器観察表５…… 239
表 28　石器観察表６…… 240
表 29　石器観察表７…… 241
表 30　石器観察表８…… 245
表 31　石器観察表９…… 246
表 32　石器観察表 10…… 253
表 33　石器観察表 11…… 254
表 34　石器観察表 12…… 255
表 35　石器観察表 13…… 259
表 36　石器観察表 14…… 261
表 37　石器観察表 15…… 268
表 38　石器観察表 16…… 269
表 39　石器観察表 17…… 276
表 40　石器観察表 18…… 311
表 41　石器観察表 19…… 312
表 42　石器観察表 20…… 313
表 43　石器観察表 21…… 314

表 44　石器観察表 22 …… **314**
表 45　石器観察表 23 …… **329**
表 46　石器観察表 24 …… **330**
表 47　石器観察表 25 …… **331**
表 48　石器観察表 26 …… **337**
表 49　石器観察表 27 …… **337**
表 50　石器観察表 28 …… **349**
表 51　石器観察表 29 …… **351**
表 52　石器観察表 30 …… **357**
〔下巻〕
表 53　弥生時代・古墳時代遺物観察表 …… 359
表 54　須恵器観察表 1 …… 437
表 55　須恵器観察表 2 …… 438
表 56　土師器観察表 1 …… 442
表 57　土師器観察表 2 …… 448
表 58　土師器観察表 3 …… 449
表 59　土師器観察表 4 …… 450
表 60　土師器観察表 5 …… 455
表 61　土師器観察表 6 …… 457
表 62　陶磁器観察表 1 …… 461
表 63　陶磁器観察表 2 …… 464
表 64　石製品観察表 …… 468
表 65　鉄器観察表 …… 471
表 66　キセル他観察表 …… 501

写真図版目次

〔下巻〕
写真図版 1 …… 559
写真図版 2 …… 560
写真図版 3 …… 561
写真図版 4 …… 562
写真図版 5 …… 563
写真図版 6 …… 564
写真図版 7 …… 565
写真図版 8 …… 566
写真図版 9 …… 567
写真図版 10 …… 568
写真図版 11 …… 569
写真図版 12 …… 570
写真図版 13 …… 571
写真図版 14 …… 572
写真図版 15 …… 573
写真図版 16 …… 574
写真図版 17 …… 575
写真図版 18 …… 576
写真図版 19 …… 577
写真図版 20 …… 578
写真図版 21 …… 579
写真図版 22 …… 580
写真図版 23 …… 581
写真図版 24 …… 582
写真図版 25 …… 583
写真図版 26 …… 584
写真図版 27 …… 585
写真図版 28 …… 586
写真図版 29 …… 587
写真図版 30 …… 588
写真図版 31 …… 589
写真図版 32 …… 590
写真図版 33 …… 591
写真図版 34 …… 592
写真図版 35 …… 593
写真図版 36 …… 594
写真図版 37 …… 595
写真図版 38 …… 596
写真図版 39 …… 597
写真図版 40 …… 598
写真図版 41 …… 599
写真図版 42 …… 600
写真図版 43 …… 601
写真図版 44 …… 602
写真図版 45 …… 603
写真図版 46 …… 604
写真図版 47 …… 605
写真図版 48 …… 606
写真図版 49 …… 607
写真図版 50 …… 608
写真図版 51 …… 609
写真図版 52 …… 610
写真図版 53 …… 611
写真図版 54 …… 612
写真図版 55 …… 613
写真図版 56 …… 614
写真図版 57 …… 615
写真図版 58 …… 616
写真図版 59 …… 617
写真図版 60 …… 618

第Ⅰ章　調査の経緯

第１節　調査に至るまでの経緯

日本鉄道建設公団九州新幹線建設局は，九州新幹線鹿児島ルート建設を計画し，事業予定区内の埋蔵文化財の有無について，鹿児島県教育委員会文化課（当時，平成８年４月以降文化財課）に照会した。それを受けて文化課は，平成４年12月に予定地内の分布調査を実施し，21か所の遺跡を確認した。

その後，分布調査に基づいて，日本鉄道建設公団九州新幹線建設局，県教育庁文化財課，県立埋蔵文化財センターの三者で新幹線ルート内の各遺跡の取り扱いについて協議し，平成８年度から用地取得等条件の整った遺跡から確認調査，緊急発掘調査を実施した。

大坪遺跡ほかの確認調査は，平成11年１月５日から同年３月19日にかけて実施した。確認調査の結果，縄文時代晩期から中世・近世にわたる複合遺跡であることが判明した（第７図）。大坪・榎木田・見入来遺跡の本調査は２年間にわたって行われ，平成11年度は平成11年５月６日から平成12年３月31日まで，平成12年度は平成12年５月１日から平成13年３月27日まで実施し，予定地内すべての調査を終了した（第８図）。なお，整理作業は他の新幹線関係遺跡と併行しながら，平成13年４月から平成16年３月まで行い，平成16年度に印刷・製本した。

第２節　調査の組織

事業主体者　日本鉄道建設公団九州新幹線建設局
独立行政法人　鉄道建設運輸施設整備機構
（平成15年度～）
調査主体者　鹿児島県教育委員会
企画・調整　鹿児島県教育庁文化財課

平成10年度（確認調査）
調査責任者
鹿児島県立埋蔵文化財センター所長　吉永 和人
調査企画者
次長　尾﨑 進
主任文化財主事兼調査課長　戸﨑 勝洋
調査課長補佐兼第一調査係長　新東 晃一
主任文化財主事兼第二調査係長　立神 次郎
調査担当者
主任文化財主事　彌榮 久志
文化財主事　前田 誠
調査事務担当
総務課長　尾﨑 進
主　査　前屋敷 裕徳
主　査　政倉 孝弘
主　事　溜池 佳子

平成11年度（本調査）
調査責任者
鹿児島県立埋蔵文化財センター所長　吉永 和人
調査企画者
次　長　黒木 友幸
主任文化財主事兼調査課長　戸﨑 勝洋
調査課長補佐兼第一調査係長　新東 晃一
主任文化財主事兼第二調査係長　立神 次郎
調査担当者
主任文化財主事　彌榮 久志
文化財主事　東 和幸
文化財主事　髙岡 和也
文化財研究員　上床 真
調査事務担当
総務課長　黒木 友幸
総務係長　有村 貢
主　査　政倉 孝弘
主　査　今村 孝一郎
主　事　溜池 佳子
現地指導者
鹿児島大学教授　森脇 広
（平成11年８月26日）
島根大学助教授　山田 康弘
（平成11年12月９～10日）
熊本県文化課課長補佐　島津 義昭
（平成11年12月15～16日）
鹿児島大学助教授　本田 道輝
（平成12年２月８日）
鹿児島大学教授　西中川 駿
（平成12年３月８日）

平成12年度（本調査）
調査責任者
鹿児島県立埋蔵文化財センター所長　井上 明文
調査企画者
次　長　黒木 友幸
主任文化財主事兼調査課長　新東 晃一
調査課長補佐　立神 次郎

主任文化財主事兼第二調査係長　彌榮 久志

調査担当者

文化財主事　濵﨑 一富

文化財主事　東 和幸

文化財主事　髙岡 和也

文化財調査員　森田 裕之

調査事務担当

総務課長　黒木 友幸

総務係長　有村 貢

主　査　今村 孝一郎

主　査　栗山 和己

主　事　溜池 佳子

現地指導者

ラ・サール学園教諭　永山 修一
（平成12年９月25日）

熊本市文化財課文化財保護主事　網田 龍生
（平成12年10月５日）

熊本大学教授　甲元 眞之
（平成13年１月15日）

鹿児島大学教授　新田 栄治
（平成13年２月13日）

平成13年度（整理・報告書作成作業）

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター所長　井上 明文

調査企画者

次　長　黒木 友幸

主任文化財主事兼調査課長　新東 晃一

調査課長補佐　立神 次郎

主任文化財主事兼第二調査係長　彌榮 久志

調査担当者

文化財主事　東 和幸

文化財主事　関 明恵

調査事務担当

総務課長　黒木 友幸

総務係長　前田 昭信

主　査　今村 孝一郎

主　査　栗山 和己

主　事　池 珠美

平成14年度（整理・報告書作成作業）

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター所長　井上 明文

調査企画者

次　長　田中 文雄

調査課長　新東 晃一

調査課長補佐　立神 次郎

主任文化財主事兼第二調査係長　彌榮 久志

調査担当者

文化財主事　東 和幸

文化財主事　森 雄二

文化財研究員　長﨑 慎太郎

調査事務担当

総務課長　田中 文雄

総務係長　前田 昭信

主　査　栗山 和己

主　査　脇田 清幸

主　事　池 珠美

平成15年度（整理・報告書作成作業）

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター所長　木原 俊孝

調査企画者

次　長　田中 文雄

調査課長　新東 晃一

調査課長補佐　立神 次郎

主任文化財主事兼第二調査係長　彌榮 久志

調査担当者

文化財主事　東 和幸

文化財主事　野間口 勇

調査事務担当

総務課長　田中 文雄

総務係長　平野 浩二

主　査　脇田 清幸

主　事　池 珠美

主　事　福山 恵一郎

平成16年度（報告書刊行事業）

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター所長　木原 俊孝

調査企画者

次　長　賞雅 彰

調査課長　新東 晃一

調査課長補佐　立神 次郎

調査事務担当

総務課長　賞雅 彰

総務係長　平野 浩二

主　査　脇田 清幸

第３節　調査の概要と調査経過

１　調査の概要

(1) 平成10年度の調査（確認調査）

保守基地および本線が通る大坪遺跡と見入来遺跡から確認調査を開始した。グリッドは，市道六月田朝熊線上の本線センターと市道沖田２号線上の本線センターを通したラインを基準に10ｍピッチで設定した。トレンチは，65区の市道沖田２号線より南に４本（２×40，２×10，２×10，２×10m），市道六月田朝熊線と市道沖田２号線の間は，基本線の東側Ｄ列と基準線より20m東に平行したＦ列に幅２ｍで約500ｍを２本，合計６本設定した。また，榎木田遺跡は市道六月田朝熊線の本線センターと遺跡の北側端の本線センターを通したラインに６か所のトレンチ（２×80，２×18，２×４，２×10，２×６，２×５m）を設定した（第７図）。調査の結果，大坪遺跡では縄文時代晩期の入佐式土器・黒曜石と奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土した。また，見入来遺跡では縄文時代晩期の入佐式土器と奈良・平安時代の土師器が，榎木田遺跡では縄文時代のものと思われる土器片が出土した。本調査対象範囲は，榎木田遺跡の60m分，１～12区，21～52区，62～72区とした。

(2) 平成11年度の調査（本調査）

前年度実施した確認調査の結果に基づき，５月から９月末まで見入来遺跡の本調査を実施し，その後10月から大坪遺跡の新たなグリッド20区以北の調査に入った。なお，耕作の関係で，未調査部分のＤ－１～３区を11月に，工事進捗の関係でＢ・Ｃ-33～36区の調査を１・２月に実施した。また，途中で安原遺跡と宮野脇遺跡の確認調査を併行して行った。平成11年度の調査面積は12,024㎡であるが，当初予定していなかったＢ・Ｃ-33～36区の調査を実施した代わりに，Ｂ-14～16区は次年度にまわすことになった（第８図）。

(3) 平成12年度の調査（本調査）

平成12年度の調査は大坪遺跡を５月から翌年３月にかけて実施し，10月から12月初旬まで榎木田遺跡の調査を併行して行った。なお，確認調査の時点で発掘調査対象外とされた27区・28区，36区～38区にも遺構がつながって続いていたため，協議の上調査を行った。平成13年３月27日までに調査の全てを終了した。平成12年度の調査面積は15,223㎡である（第８図）。

(4) 平成13年度の調査（整理・報告書作成作業）

国分市上野原遺跡地内の仮設事務所において，４月より整理・報告書作成作業を実施した。途中，寿国寺遺跡・計志加里遺跡の整理作業を併行して実施した。

(5) 平成14年度の調査（整理・報告書作成作業）

県立埋蔵文化財センター内において，４月より整理・報告書作成作業を実施した。途中，山ノ脇遺跡・楠元遺跡の整理作業を併行して実施した。

(6) 平成15年度の調査（整理・報告書作成作業）

県立埋蔵文化財センター内において，４月より整理・報告書作成作業を実施した。途中，上ノ平遺跡の整理作業を併行して実施した。

(7) 平成16年度

平成17年３月に埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。

２　発掘調査の経過

発掘調査の経過は，日誌抄より略述する。

(1)　平成10年度の調査（確認調査）

(ｱ)　大坪遺跡

平成11年１月５日～１月29日の15日間実施。調査面積は1,300㎡。２か所にトレンチを設定。（部分的には３か所設定。）遺跡の範囲は，約13,000㎡と約4,000㎡で，沖田岩戸遺跡の範疇もしくは，隣接地に入る地域。縄文時代晩期の入佐式土器と，奈良・平安時代該当の土師器・須恵器等が出土。

(ｲ)　見入来遺跡

平成11年２月１日～２月12日の10日間実施。調査面積は1,000㎡。２か所にトレンチを設定。遺跡の範囲は，約6,500㎡が推定され，遺物は，縄文時代晩期の入佐式土器と奈良・平安時代該当の土師器と須恵器が出土。

(ｳ)　榎木田遺跡

平成11年２月15日～３月９日の７日間実施。調査面積は140㎡。６か所にトレンチを設定。第１トレンチの第３層より縄文時代晩期を主体とする遺物の出土が確認される。遺跡の範囲は，市道六月田朝熊線から70ｍの範囲が想定され，遺跡としては見入来遺跡と連続した遺跡の範囲が推定される。

(2)　平成11年度の調査

(ｱ)　５月

６日から機材等を搬入し，作業開始。見入来遺跡のＢ・Ｃ－２・３区から掘り下げ。中世の青磁，古代～中世の須恵器，縄文時代晩期の黒川式土器・磨製石斧・石製土掘具・石鏃・石錐が出土。低地の粘土層なので晴れの日が続くとカチカチ，雨の日はグチャグチャになり，発掘に苦慮。10日に松山健司氏（鉄

建公団出水建設局所長）来訪。

(ｲ)　６月

Ｂ・Ｃ－２・３区の一部，Ｂ－４区の掘り下げ。Ⅱ層中（古代～中世）より馬の歯出土。Ⅲ層より縄文時代晩期の土坑１基・石溜まり３基・黒川式土器・石製土掘具・石鏃・石錘・小型の磨石（土器の研磨具か？）等出土。

Ｂ－３区の一部，Ｂ－５・６区の掘り下げ。Ⅱ層上面で遺構検出。深さ20㎝程度・径１ｍ程度の円形もしくは楕円形の土坑を十数基検出。人頭大の礫の配置がみられる。時期・用途については不明。

(ｳ)　７月

Ｂ－４区の掘り下げ。埋設土器検出。入佐式土器と考えられ，底部は故意に打ち欠いている。蓋が被っていたかどうかは，削平されているため不明。内部に円礫が入る。Ⅲ層内に幅40㎝・深さ30㎝の溝状の掘り込み（SD６）が，蛇行しながら10ｍほど検出。埋土からは縄文晩期の土器が出土。（調査時点では，SD６を縄文時代の遺構と考えていた。）

Ｂ－５・６区の掘り下げ。Ⅱ層上面の遺構の半截。Ⅲ層下位の青灰色粗砂土の掘り下げ。須恵器など出土。一部溝状遺構を検出。

Ｃ－４・５区の掘り下げ。近世の石列（SX７）を検出。真北の方向へ延びる。砂質の川跡（SX８）もあり，中世から近世にかけての陶磁器類が出土。

Ｄ－４・５区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。石鏃・石匙等出土。

７月19日（月）　東中野政己氏夫妻（高尾野町在住陶芸家）来訪。

７月31日（土）　（上野原フェスタ見学）

(ｴ)　８月

Ｃ－５区のⅡ・Ⅲ層から銅製かんざし・ノミ形石斧・青磁の底部，Ｃ－６区のⅡ・Ⅲ層から埋設土器・石鏃，Ｂ－２区から石鏃・深鉢出土。Ｂ－３～５区で南東から北西方向に流れる溝状遺構を検出。

８月12日（木）　東京都国分寺市教育委員会　上敷領久氏来跡。

８月26日（木）　鹿児島大学法文学部教授森脇広先生による現地指導。「地表下2.5ｍには粗粒の礫層があり，河床堆積物となっている。その上がフラッドロームと呼ばれるシルト・粘土層であり，遺跡を形成する。縄文時代後期以降目立った洪水は襲来していない。」

(ｵ)　９月

21日から大坪遺跡Ｄ-11～13区の掘り下げ。Ｃ－１・２・４～６区（Ｃ－６区土師器坏出土）Ｂ－２～７区馬歯・土師小皿（Ｂ－６区）出土。溝状遺構検出（Ｂ－４・５区）。須恵器高坏（Ｂ－７区）出土。Ａ－１～３・５区黒川式浅鉢（Ａ－２区）出土。

９月24日（金）　未明の台風18号でプレハブ全壊。

(ｶ)　10月

４日までにプレハブ再設置。６日に池田和人氏（鉄建公団副所長）他３名来訪。

10月６日で一部の未調査区を残し，見入来遺跡の発掘調査終了。大坪遺跡の発掘調査に入る。

Ｄ-11区において東西方向の溝状遺構（SD１）を検出。埋土中に須恵器の小破片が混入しているので少なくとも古代よりは新しい時期のものであると思われる。

Ｄ-13区では時期不明の土坑状遺構を数基検出。精査して明らかにしたい。

10月26日（火）　出水市立米ノ津東小学校６年(87名・引率４名)遺跡見学・発掘体験・火起こし・薫製卵作りを行う。ＫＴＳ・南日本新聞・西日本新聞・鹿児島新報・出水市広報の取材。

(ｷ)　11月

大坪遺跡は11月から本格的に調査を開始。表土を除去した時点で，縄文時代晩期の埋設土器を６基検出した。また，奈良時代から平安時代前半にかけての須恵器や土師器が出土。

見入来遺跡の未調査部分（Ｄ－１～３区）の稲刈り終了後発掘開始。

(ｸ)　12月

〔見入来遺跡の調査〕Ｄ－２区の埋設土器及び縄文時代晩期の土坑を処理して調査終了。直後に工事開始。

Ｃ・Ｄ-11～14区：12月中に調査終了。年明けから工事着工予定。縄文晩期の土器・石器多数出土。古代か中世の東西に延びる小溝１条，縄文時代晩期の土坑４基検出。

15～20区：Ⅱ～Ⅲ層の掘り下げ。奈良時代から平安時代前半の土師器や須恵器が多数出土。土製の紡錘車及び土錘出土。ガラス玉出土（時期不明）。縄文時代晩期の土器・石器多数出土。軟玉製の玉及び「つちのこ」状の異形石器出土。埋設土器は見入来遺跡とあわせて８基になる。

Ｂ・Ｃ-33～35区：工事用道路建設のため先行して調査を開始。玉縁の白磁や滑石製石鍋・内黒土師器など中世の遺物出土。

12月９・10日　島根大学助教授　山田康弘

先生による現地指導。「縄文時代晩期の埋設土器は，すべてが埋葬用とは限らないので土器内に何が入っていたかの科学的な分析が必要である。」

12月15・16日　熊本県文化課課長補佐　島津義昭先生による現地指導。「縄文時代晩期土器は熊本平野よりも人吉地域など南部の土器に類似する。胎土の特徴で見分けられる可能性がある。弥生土器及び古代の土器は熊本のものと共通点が多い。」

12月３日（金）　出水高校１年生280名遺跡見学。

(ｹ)　１月

Ｂ・Ｃ-15～20区：Ⅱ～Ⅲ層の掘り下げ。奈良時代から平安時代前半の土師器や須恵器が多数出土。刻書土器・甑の把手・土製の紡錘車及び土錘等出土。埋設土器は見入来遺跡とあわせて11基になる。Ｂ・Ｃ-33～36区：溝状遺構２条（SD22・SD23）及び波板状遺構１条（SR25）検出。内外面黒色土師器など11世紀から12世紀にかけての遺物出土。

〔宮野脇遺跡の調査〕

トレンチを２か所設定して調査する。客土の下に旧水田層があり，それ以下は砂利層で，遺物・遺構とも確認されなかった。

(ｺ)　２月

Ｂ・Ｃ-15～20区：Ⅱ～Ⅲ層の掘り下げ。奈良時代から平安時代前半の土師器や須恵器が多数出土。焼土３か所。縄文時代晩期の土器・石器多数出土。緑色の管玉・丸玉・勾玉出土。玉砥石の出土は今のところないが，石屑も数点出土しているのでこの場所で玉造りを行っていた可能性が高い。波板状凹凸面を２か所（SR26・SR27）検出。１条（SR27）は南北方向に延びており，条里型地割に重なる可能性有。確実な時期は不明であるが，中世を想定。Ｂ・Ｃ-33～35区の調査。

２月８日（火）　鹿児島大学助教授　本田道輝先生による現地指導。「縄文時代晩期の遺物の組み合わせにおいて，南薩地域と若干の差がみられる（軽石製品がない等）。遺跡の性格差によるものか，地域的なものか検討する時期にきている。」

２月23日（水）　福岡大学教授　小田富士夫先生来跡。

(ｻ)　３月

15～20区：Ⅱ～Ⅲ層の掘り下げ。縄文時代晩期の土器・石器多数出土。緑色の玉類（勾玉・管玉・丸玉）十数点及び異形石器２点出土。埋設土器は見入来遺跡と合わせて13基。古代の焼土は４か所あり，その内１基について調査する。土坑に接して，１ｍ四方に焼土や炭化物が敷き詰められており，土師甕が出土。竈状の遺構となり，全体が竪穴住居状となった。SF29をSH29に変更。Ｂ-20区から検出された波板状凹凸面（SR27）は，条里型地割上にあり，方向も南北に延びており，関係あるものと考えられる。次年度の調査区に延びるものであり，広がりに注目したい。

Ｂ-14～17区については，協議の上次年度の調査にまわすこととなる。

３月８日（水）　鹿児島大学獣医学科教授　西中川駿先生による現地指導。「馬の歯であることは間違いないが，残りの状態が悪いので大きさ等を明らかにできるかどうかわからない。」

(3)　平成12年度の調査

(ｱ)　５月

〔14～16区の調査〕

昨年度残ったＣ-14～16区の一部を掘り下げる。埋設土器３基を検出。緑色の玉類も多く出土。穿孔途中のものや擦り切り技法による切断面の残る破片も出土しており，この場に玉の製作場があった可能性がさらに高くなる。ただし，玉砥石などの製作具は今のところ出土なし。９世紀初めの須恵器・土師器などの遺物取り上げ。

〔Ｄ-21～26区の調査〕

21区：Ⅲ層掘り下げ。22区：平安時代の溝状遺構（SD43）掘り下げ。埋設土器掘り下げ。23区：昭和40年代までの川跡（SD44）掘り下げ。埋設土器検出。24区：平安時代と考えられる溝状遺構検出。長さ150㎝・幅45㎝の長方形の遺構（SD45）検出。焼土が筋状に取り囲む。25区：遺構らしき砂の部分（SR54）を掘り下げ。26区：西側と東側にトレンチを設定して調査中に，表土下１ｍ20㎝のところから縄文土器や玉類が出土。平安時代と考えられる遺構らしきものも確認。

５月１日（月）　平成12年度の調査開始。

５月19日（金）　出水高校教諭３名地域貢献体験事業（岩切義弘先生・東香織先生・堀まゆみ先生）。

５月22日（月）　ＫＴＳテレビ湯田澄春記者及び南日本新聞社蔵薗修治出水市局長現

地取材。

5月26日（金）　南日本新聞掲載。

(イ)　6月

新幹線本線の工事が急がれるため，D区を優先して発掘作業を進める。埋設土器が新たに6基確認され，合計で25基となる。縄文時代晩期の玉類は，21区以南にも出土。なお，穿孔に用いたと考えられる水晶の破片も見つかってきている。条里型地割に該当すると考えられる溝状遺構や波板状凹凸面も検出されているが，つながりや時期は未だ明確でない。

〔D-21～23区の調査〕

21区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器掘り下げ。22区：SD43掘り下げ。埋設土器掘り下げ。23区：SD44掘り下げ。埋設土器掘り下げ。D-21～23区は6月20日に明け渡す。

〔D-24～26区の調査〕

24区：平安時代と考えられる溝状遺構を2条検出。SK45掘り下げ。深さは約40cmで底には炭が約5cmの厚さで堆積している。壁面は全体的に焼けている。用途不明。25区：SR54掘り下げ。波板状凹凸面が3列平行。26区：平安時代と考えられる面までの掘り下げ。

〔C-21～23区の調査〕

D区からの延長を調査。埋設土器の1基（SJ51）には，緑色の石材を用いた磨製石斧が納められている。

6月1日～16日　大口市柿川幸司氏・東郷町萩原潤一郎氏長期研修。

6月12日（月）　長崎外国語短期大学助教授　木本雅康先生来跡。

6月16日（金）　米ノ津東小学校及び桂島分校の6年生約90名，発掘体験。ＫＴＳテレビ・ＮＨＫ「撮ってもビデオ」吉海保氏及び西日本新聞社久保安秀川内支局長・南日本新聞社・鹿児島新報社現地取材。熊本大学教授甲元眞之先生・同大助手　大坪志子氏来跡。

6月20日（火）　大坪遺跡縄文晩期包含層から出土した2点の玉類の材質調査。ガラスの可能性が考えられたため，奈良国立文化財研究所へ持参する。

6月23日（金）　阿久根郷土史会（濵之上訓衛会長）来跡。

(ウ)　7月

新幹線本線の工事が急がれるため，D区を優先して発掘作業を実施。勾玉が新たに2点出土し，勾玉は合わせて製品4点・未製品1点となる。それぞれの溝状遺構の追跡調査を行う。

〔D-24～26区の調査〕

24区：平安時代と考えられる溝状遺構を4条検出。この区で南北と東西方向の溝が交わっている。SD52とSD56は角を切りながら東の方向へ延びており，南と西への通行が終わったことを示す事例であると考えられる。これらの溝内からは，主に須恵器が出土しているが，確実な時期を示す物は出ていない。

SK45の調査。用途については不明。類例の教示を願う。Ⅲ層以下の調査。縄文晩期の土器や石器出土。25区：時期は特定できないが，焼土面（SF58）及び焼土を伴うピット（SP69）検出。26区：平安時代及び縄文時代晩期の調査。D-24～26区については7月21日に明け渡す。

〔C-21～23区の調査〕

21区：Ⅲ層掘り下げ。22区：SD44掘り下げ。SD43掘り下げ。23区：南北に延びる溝（SD57）の調査。

〔C-25～26区の調査〕

25区：SD55の追跡調査及びⅢ層の掘り下げ。26区：Ⅲ層掘り下げ。C-25～26区の西側半分については7月28日に明け渡す。

7月22日（土）　（出水市夏祭りに「大坪縄文人」出現）

蒸気機関車が活躍した頃

(エ)　8月

新幹線引き込み線の工事が急がれるため，C区西側を優先して発掘作業を実施。24区に深い位置から縄文土器が出土する地点（SX60）があり，多量の焼土を伴うことから，上加世田遺跡などにみられる凹地の可能性も考えられる。平安時代以降の溝状遺構の追跡調査を行う。14～16区の平安時代初頭の遺構検出。

〔C-21～23区の調査〕

21区：Ⅲ層掘り下げ。22区：SD44及びSD43掘り下げ。平安時代の溝及び土坑が少なくとも４つ，重なって存在。23区：南北に延びる溝（SD57）の調査。

〔C-24区の西側半分の調査〕

直径５m・深さ１m50cm程度の凹地（SX60）の調査。一番深い位置に，拳大の焼土が直径１m50cmの範囲にみられる。

〔C-25～26区の東側半分の調査〕

25区：SD55の追跡調査及びⅢ層の掘り下げ。26区：Ⅲ層掘り下げ。27区にかけて延びる平安時代の溝状遺構（SD61）の調査。

〔B-14～16区の調査〕

Ⅲ層上面で精査。遺構らしきものの存在は解るが，どのような遺構になるかは不明。８世紀後半から９世紀前半にかけての須恵器類が多数出土。

８月２日～４日　西出水小学校１名（原口真理子先生）地域貢献体験事業。

お盆明けの大雨で，３日間水没状態。

８月18日（金）　北海道恵庭市教育委員会上屋眞一氏・佐藤幾子氏来跡。

(オ)　9月

新幹線引き込み線の工事が急がれるため，C区側を優先して発掘作業を実施。空中写真撮影のため，平安時代以降の溝状遺構の追跡調査。14～16区の平安時代初頭の遺構検出。

C-21区：SD44掘り下げ。C・B-22区：SD43追跡調査。B-22区東側でほぼ直角に曲がり北方向へ延びる。23・24区：溝（SD68）の追跡調査。SD65とつながると思われる。25・26区：SD64・SD55の追跡調査。B-25区東側でほぼ直角に曲がり南向きに27区方向へ延びる。SD55は波板状凹凸面を伴う。

〔B-14～16区の調査〕

遺構掘り下げ。８世紀後半から９世紀前半にかけての須恵器類が多数出土。刻書土器出土。

C-21～26区：９月末明け渡し。

C-17～20区：９月末明け渡し。

９月20日（水）　溝状遺構を中心に空撮。

９月25日（月）　ラ・サール学園　永山修一先生による現地指導。「刻書土器の文字は不明。文字を読めなかった人が見よう見まねで書いたのではないか。もし，類例が増えてくれば，元々の文字がわかってくるのではないか。」

(カ)　10月

B-22・21区：SD43追跡調査。B・C-21・22区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器２基検出。26～29区：SD64・SD55の追跡調査。B-25区東側でほぼ直角に曲がり南向きに29区方向へ延びる。溝の東側に波板状凹凸面が並行して延びている。

〔B-14～16区の調査〕

14～16区：遺構掘り下げ。８世紀後半から９世紀前半にかけての須恵器類が多数出土。Ⅲ層の掘り下げ。埋設土器２基検出。10月末日明け渡し。

〔榎木田遺跡の調査〕

グリッド設定後，調査開始。ベルト部分の掘削と土層断面図作成。

10月10日から，榎木田遺跡及び大坪遺跡32～34区調査開始。

10月３日（火）　北海道埋蔵文化財センター　西田茂氏来跡。

10月５日（木）　熊本市教育委員会　網田龍生先生による現地指導。「大坪遺跡出土の須恵器には，荒尾産と考えられるものが数点入っている。他の須恵器は八代平野以北の熊

時計代わりだった特急「つばめ」

本産とは考えられず，川内市鶴峯窯を中心に比較検討した方がよい。」

10月７日～９日　（日本考古学協会鹿児島大会）

10月14日～11月19日　出水市考古学展示会「いずみのむかし」への遺物貸し出し。於：出水市クレインパーク

10月24日（火）　鉄道建設公団との協議。「榎木田遺跡は工事用道路を優先する。休憩用プレハブの下（B-30区）にも遺構が延びるので，この部分も調査する。」

(キ)　11月

〔21～26区の調査〕

B-22・21区：SD43追跡調査。B・A-21・22区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器３基検出。B-23区：焼土を伴う方形土坑１基（SFK133）・須恵器と土師器を包含する楕円形の土坑１基（SK134）検出。A-23区：土師甕を包含する楕円形の土坑１基（SK135）検出。24～26区：Ⅲ層上面での精査。B-26区：２間×３間の掘立柱建物跡１棟（SB137）検出。平安時代後半か？

〔榎木田遺跡の調査〕

工事が先行する農道部分及び橋脚部分の調査。D-03区：中世頃と考えられる円形土坑を６基検出。柱痕をもつピット１基検出。D-02区：焼土及び炭化物が集中する場所を検出中。C-03区：焼土の入ったピット検出。（調査中は中世頃と考えていたが，古代のものである。）

緑色をした円礫が十数点出土。しかし，大坪遺跡のものに比較すると透明度が無く，加工されたものも無い。見入来遺跡でも玉類に関する遺物は全く出ていないので，この周辺の転石に含まれているものと考えられる。

11月５日（日）　（前期旧石器捏造問題発覚）

11月10日（金）　二県協議会（熊本県・鹿児島県）現地視察。

11月18日（土）　（『新石器発見考古速報展　宮崎』見学）

11月19日（日）まで　出水市考古学展示会「いずみのむかし」への遺物貸し出し。於：出水市クレインパーク　20日返却。

11月29日(水)　埋文センター職員現地研修。

11月29日～　　休憩所用プレハブの移転。

(ク)　12月

〔21～26区の調査〕

B-21区：埋設土器５基取り上げ。SJ131は上甕も深鉢形土器であり，下甕に倒立してすっぽり収まっていた。入佐式土器と考えられる。（調査時点では入佐式土器と考えていた。）縄文時代の円形土坑を１基検出。B・A-22区：SD43に流れ込む溝（SD132）を検出。平安時代と考えられる柱穴３基検出。B-23区：SFK133，SK134の調査。A-23区：SK135の調査。B-24区：Ⅲ層掘り下げ。土器集中区掘り下げ。A-26区：平安時代後半と考えられる溝の検出。

〔30～36区の調査〕

B-30区：アスファルト掘削。A-34～36区：溝３条・波板状凹凸面８条検出。玉縁白磁・須恵器・土師器・鉄製品出土。平安時代末期から鎌倉時代初期と考えられる。

〔榎木田遺跡の調査〕

D-01・02区：直径２m・深さ1.5m程の土坑の掘り下げ。埋土上部から土師器・須恵器が出土。中位には焼土・炭化物の堆積層がみられた。用途は不明である。D-02・03区：焼土を伴う楕円形の遺構の調査。壁面は全体的に焼けており，滑落している箇所がみられる。床面には炭が数cmにわたり堆積している。平安時代前半の遺構と考えられる。12月８日に調査を終了し，明け渡す。

12 月　１日(金)　休憩所用プレハブの移転。

12月　４日（月）　出水高校１年生現地見学。

12月26日（火）　年内（西暦1000年代ミレニアム・20世紀末）の調査終了。

生活と観光を担う肥薩おれんじ鉄道

(ケ)　1月

〔23～26区の調査〕

各グリッドを10mおきに下層確認のためのトレンチ調査。A-23区：SK135の調査。B-23区：SFK133・SK134の調査。B-24区：Ⅲ層掘り下げ。土器集中区検出中。A-26区：平安時代後半と考えられる溝の検出。B-26区：SB137の調査。

〔29・30区の調査〕

B-29・30区：溝の延長部分検出。方形竪穴遺構（SK151）？検出中。柱穴も10数基検出されているものの，建物になるものはない。

〔31・32区の調査〕

A-31・32区：アスファルト掘削。

〔33区～37区の調査〕

A・B-33～37区：溝５条・波板状凹凸面８条検出中。礫を伴う円形土坑などかなりの遺構がでそうである。縄文時代晩期の遺物もみられる。

１月12日（金）　公団との協議。「２月20日までに切り替え道路部分(33区)を終了し，現在の市道部分を３月末までに調査を終える。」

１月15日（月）　熊本大学教授　甲元眞之先生による現地指導。積雪のため出土遺物を中心に指導いただく。「縄文時代の玉つくりの良好な遺跡であり，滑石一個の素材から一点の製品を製作する技法と，切断して多量の角柱状の素材を形成する方法の二通りの製作技法がみられる。砥石・錐・擦切石器などの製作道具を探すように。」同大助手　緒方智子氏来跡。

(コ)　２月

〔23～26区の調査〕

各グリッドを10ｍおきに下層確認のためのトレンチ調査。A-23区：SK135の実測・撮影。B-23区：SFK133・SK134の実測・撮影。縄文晩期の土坑１基の調査。B-24区：Ⅲ層掘り下げ。土器集中区掘り下げ。B-29・30区：方形竪穴遺構と思われた遺構（SK151）は，結局深さ１ｍの逆台形状の土坑になった。性格は不明である。A-31・32区：溝状遺構３条と焼土が点在する区域を検出。

〔33区～37区の調査〕

A・B-33～37区：溝５条・波板状凹凸面11条検出中。溝状遺構からは，玉縁白磁・須恵器・土師器・中央に筋のある砥石・鉄製品・滑石製品など出土。平安時代末期から鎌倉時代初期と考えられる。円形土坑５基検出。溝状遺構よりも波板状凹凸面の方が新しいが，SR25とSD23は同時期と考えられる。柱穴も検出中であるが，１棟のみ２間×３間の掘立柱建物が建った。それに，略方形のジメジメしていたような遺構が２基（SX149・SX150）検出されている。縄文時代晩期の土器・石器・玉類の出土もみられる。

２月13日（火）　鹿児島大学教授　新田栄治先生による現地指導。「縄文晩期の玉類，古代の土師焼成土坑などを東南アジアの視点を含めて指導いただいた。」

２月16日（金）　航空写真撮影

33区は市道付け替えのため２月22日明け渡し。

２月某日　元興寺文化財研究所　佐藤亜聖氏来跡。

(ヂ)　３月

〔25・26区の調査〕

B-25区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器１基検出。A・B-26区：古代末の柱穴及び焼土検出。

〔31～37区の調査〕

A・B-31・32区：溝状遺構３条と焼土１か所検出。掘立柱建物跡３棟検出。A・B-33～37区：溝５条・波板状凹凸面11条検出。２間×３間の掘立柱建物跡５棟検出。縄文時代晩期の焼土を伴う凹地検出。

３月27日　すべて完了。

走り始めた九州新幹線「つばめ」

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置および立地

大坪遺跡は北半球にあり，北緯32° 05′ 55″で中国南京・米国ジョージア州コロンバスなどの都市と同緯度にあり，東経は130° 21′ 23″で中国琿春（フンチュン）・豪州ダーウィンなどの都市と同じである。ユーラシア大陸の東端に位置する日本は，四面を海で囲まれている。大坪遺跡から東京までの直線距離は約950㎞であり，この範囲内に沖縄県那覇市，朝鮮半島のソウル・平壌，中国の上海などの都市は位置する。九州島の西海岸側は東海岸に比べ複雑な地形をなしており，リアス式海岸が続く長崎県，大きな湾内である有明海，穏やかな八代海，そして東シナ海に面した鹿児島県となっている。その中の八代海南部に大坪遺跡はあり，海路としても陸路としても優位な場所に位置する。大坪遺跡から鹿児島市までの直線距離は約60㎞であり，天草諸島はもちろんのこと，甑島・島原半島・人吉地方などの一部にかかる距離である。

大坪・見入来・榎木田遺跡は出水市市街地より北西約1.5㎞の出水市美原町に所在する。出水市は鹿児島県の最北端に位置しており，熊本県水俣市に接する県境の市である。鹿児島・熊本の県境一帯は，標高600～1000ｍの山地が東西方向に伸びた形で広く分布している（以下，「肥薩山地」とよぶ）。肥薩山地は，地質時代でいう新第三紀鮮新世（520万～170万年前）に噴出した火山岩類から構成されており，「肥薩火山区」とよばれている。肥薩火山区の主要な領域は南北30㎞，東西50㎞の広い範囲にわたっており，火山岩類の一部は長島や阿久根にも分布する。これらの火山岩類を，「肥薩火山岩類」と総称している。肥薩火山岩類は主に輝石安山岩の溶岩と凝灰角礫岩からなり，両者が多数累積した地質構造をなす。

北東部は熊本県と境をなす矢筈岳（687m）を主峰とする肥薩山系が略東西方向に走り，熊本県水俣市および鹿児島県大口市と接する。南部は，紫尾山（1,067m）を主峰とする四万十層群と一部花崗閃緑岩よりなる紫尾山地が略南北方向に走り，薩摩郡宮之城町及び鶴田町と接する。紫尾山は北薩地方一の高峰である。この紫尾山地と，出水平野との境の断層崖下には，シラス台地と高位段丘がある。これにつづく大野原一帯は，松山を扇頂とする洪積台地の扇状地で広大に広がっている。この扇状地を囲むように，河岸段丘と沖積地が発達している。矢筈山地に源を発した広瀬川と，紫尾山地を源とする平良川は中流域で合流して米ノ津川となり，北流して八代海に注ぐ。平良川及び米ノ津川の左岸には，知識面と呼ばれる河岸段丘が扇状地をとりまくように細長く形成され，中流域では米ノ津面とよばれる沖積地が発達する。なお，下流域では三角州や海岸平野となり八代海となるが，海岸部は江戸時代以降干拓が行われ，現況の地形を呈している。西部は，扇状地及び高尾野川，野田川によって形成された河岸段丘や沖積地で，出水郡高尾野町と境を接する。北西部は江戸時代以降に造られた干拓地であり，国の特別天然記念物である鶴の渡来地として有名である。さらに，遠浅の八代海を距てて，出水郡東町及び熊本県の天草諸島を望むことができる。なお，今回の調査期間中の晴天の日には東光山（160m）から島原半島の雲仙普賢岳を目視することができ，両県の近さを実感した。

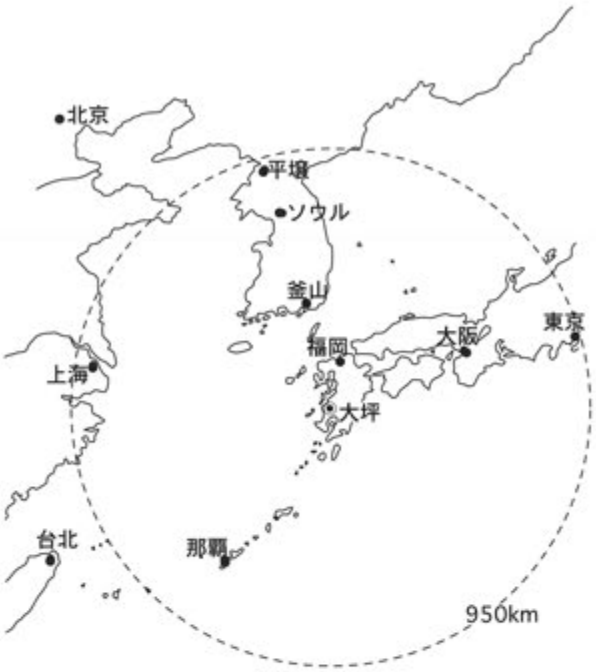
大坪遺跡は，矢筈岳の裾部から出水平野に広がる沖積地に立地している。東光山から延びる裾部で傾斜が緩くなった所には朝熊集落や松尾集落が形成され，小さな谷になった部分にも，ひと昔前までは２，３軒の人家があった様である。この裾部から平野部に移り変わったところに大坪遺跡はある。八代海に注ぐ米ノ津川及び高柳川の右岸にあり，標高は約７～８ｍである。昭和40年代以前の地籍図をみると，高柳川は現在よりも西側を流れており，今回の調査地点はわずかに高い地点に位置する。大坪遺跡は沖田岩戸遺跡と隣接し，見入来遺跡及び榎木田遺跡も連続した地形の同一地域内にあることから，これらを総称して大坪遺跡として紹介することとする。

第２節　周辺の遺跡と歴史的環境

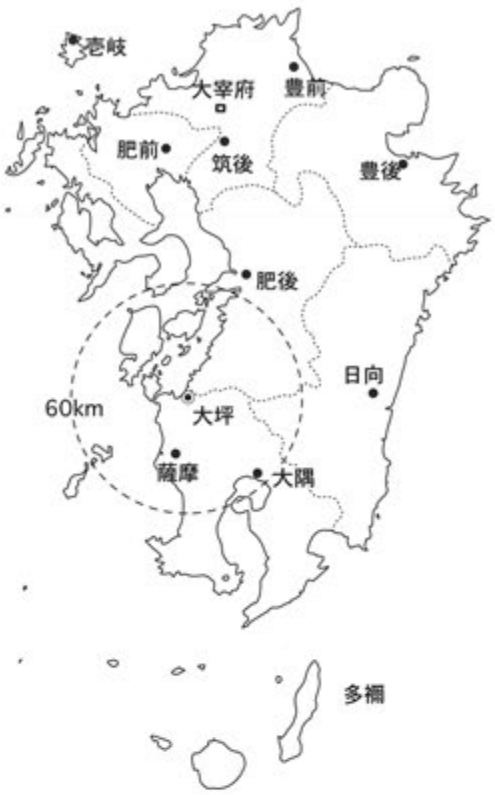
旧石器時代・縄文時代

出水地方は県境の街ということもあり，早くから考古学・歴史学研究のフィールドとして，学術上重要な地として注目されてきた。特に考古学の面では，昭和36年～54年に出水高校に在職された池水寛治先生が考古学部を創設し，上場遺跡や長島の古墳群などの発掘調査をはじめ，研究誌『もぐら』を発行して活発な活動を続けた。出水周辺で確認されている遺跡の多くは，その時期の活動成果である。当時高校生だった童顔たちは，現在全国各地で埋蔵文化財に携わっておられる方も多く，後進の指導にも活躍しておられる。

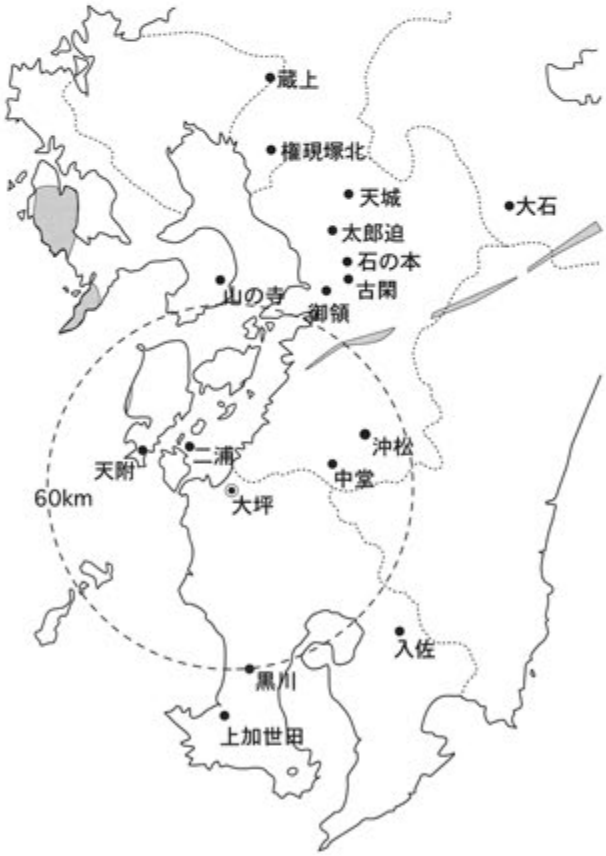
出水市の東部，大口市，水俣市と接する標高約500ｍの上場高原一帯は，旧石器時代の遺物が集中する。特に上場遺跡は，県内で初めて発掘調査された旧石器時代の遺跡であり，爪形文土器と細石器の共出や，姶良テフラ通称シラス（約2.45万年前）の上下でナイフ形石器，台形石器等を包含する７時期の文化層の存在が明らかとなり，前期旧石器の捏造問題以降改めてその成果が再評価されつつある。全国で初めて検出された旧石器時代の住居跡については，再検



主な都市



国府関係所在地



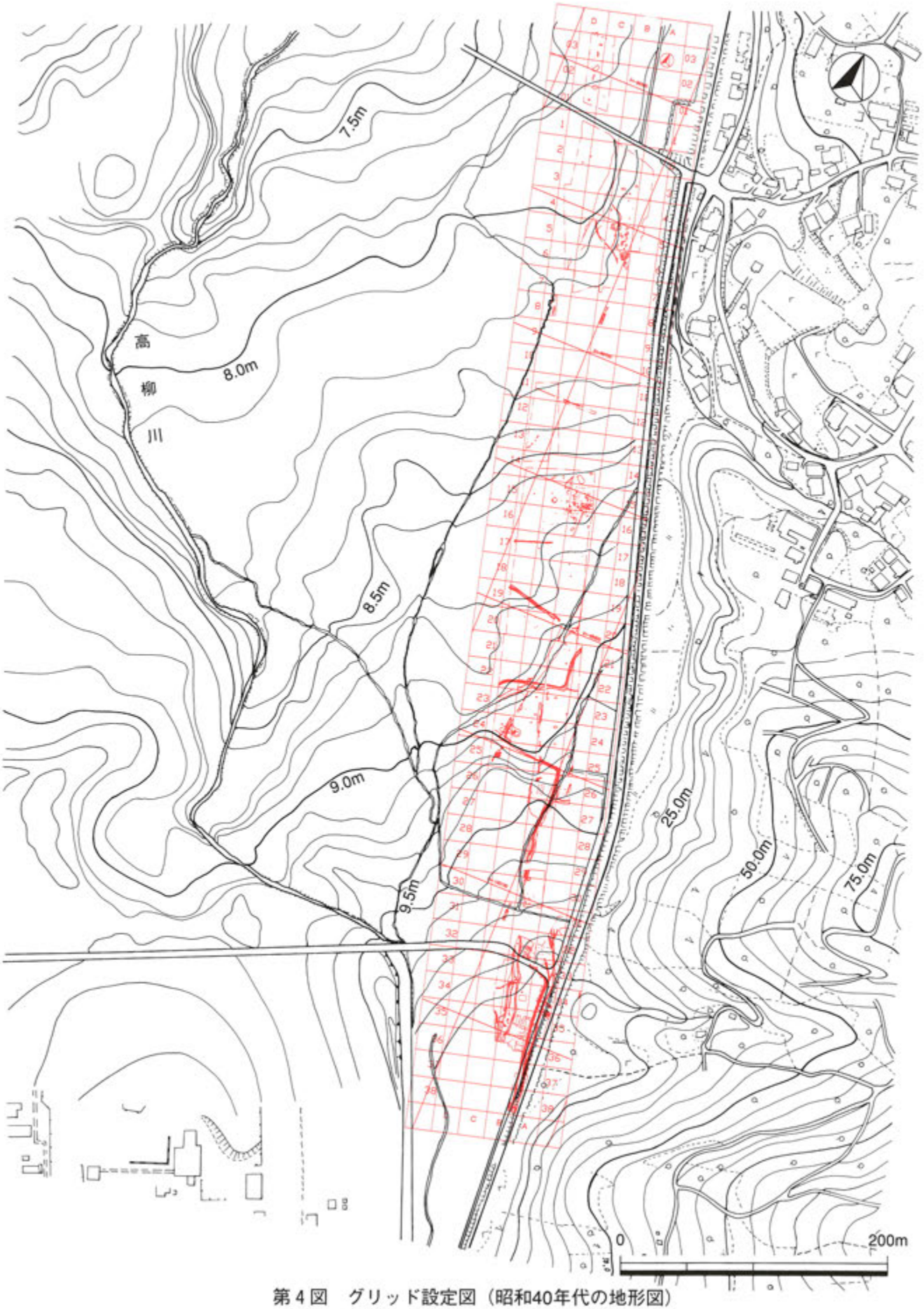
縄文時代後期終末～晩期の主な遺跡
及び蛇紋岩系石材産出地

主な縄文遺跡

第１図　大坪遺跡の位置

第２図　グリッド設定図（現況図）

第３図　グリッド設定図（昭和40年代の地籍図）



第４図　グリッド設定図（昭和40年代の地形図）

討を求める意見も出されている。なお，上場一帯から隣接する大口市日東及び下青木一帯には，黒曜石原産地が所在する。

出水平野での遺跡の立地は主に，扇頂部および扇端部の河岸段丘や山麓縁辺，裾部に集中し，縄文時代早期・前期・後期の牟田尻遺跡やカラン迫遺跡，前期の荘貝塚，中期の柿内遺跡や江内貝塚等が知られている。特に出水貝塚は，大正９年（1920年）に京都大学によって本県で最初の貝塚遺跡調査が行われ，縄文時代後期前半に位置づけられる出水式土器の標式遺跡である。また，戦後の調査によって貝塚下から縄文時代早期の押型文土器の単純層が確認され，南九州においても押型文土器を単独にもつ集落であることがわかった。縄文時代全時期を通して貝殻文を多用する南九州において，これが時期差を示すものなのか，地域差を示すものなのかが今後の課題である。縄文時代後期から晩期の遺跡では大坪遺跡に隣接する沖田岩戸遺跡・中里遺跡が知られ，最近の調査で黒川式土器新段階から刻目突帯文土器にかけての時期の遺物が大量に出土した下柊迫遺跡がある。

弥生時代・古墳時代

弥生時代の遺跡としては，中期の覆石墓から後期の葺石土壙墓，古墳時代の地下式板石積石室へと移行する埋葬形態の変遷を知ることができる堂前遺跡や下高尾野遺跡がある。しかし，主体的な弥生集落の発見例は未だない。

古墳時代になると，洪積台地縁辺に位置し，短甲が出土した地下式板石積石室を主とする溝下古墳群，海岸沿いに位置し箱式石棺墓を主とする切通古墳群，八代海と東シナ海をつなぐ黒之瀬戸海峡によって隔てられた長島には，５世紀から７世紀にかけての高塚古墳が出現する。

古代

出水の地名が文献資料にあらわれるのは奈良時代後期の記述である続日本記の宝亀９年（778年）11月の条に遣唐船が出水海岸に漂着，その後和名抄には「伊豆美」とあり，山内（やまと），勢戸（せと），借家（かしくり），大家（おおやけ），国形（にしかた）の五郷から構成されていると記載されている。

奈良時代出水郡の行政に携わる役人たちの中に，「肥君」や「五百木部」等の肥後系の人物がいることから，大和朝廷がこの地に住んでいた隼人を支配するために肥後から移民を送り込み，この移民を中核として，当時の出水郡は構成されていたことが考えられる（註１）。

平安時代になると全国各地で荘園が開墾されるようになり，出水でも山門院や和泉荘といった荘園が形成されてくる。これらは，島津荘の成立と共に吸収される。

出水の荘園のことが記載されている史料は，「山門院文書」や「肝付文書」がある。これらの文献史料によると，この当時和泉荘を領有している人物は，肝付氏の流れをくむ伴氏が代々下司職を受けて領有していると記載されている（註２）。伴一族は，後に和泉氏を名乗り井上，朝熊，知識，上村方面に土着していった。大坪遺跡は，朝熊と隣接する地域に位置していることから，当時は和泉荘の一部であったのではないかと思われる。また，大坪遺跡は，その名のとおり「坪」という土地面積をあらわす語が使用されている。周辺の字名にも，「八反田・七次・杉坪」等の数詞地名が使用されている。大坪遺跡では条里型地割をあらわすような遺構も検出されていることから，条里制と何らかの関係があるのではないかと考えることができる。

平安時代末期（12世紀後半）には，和泉兼保が亀ヶ城を築き，この地方を領有している。その後鎌倉時代に書かれた建久図田帳には「和泉郡」として登場する。同書によると，現在の出水地区は，「和泉郡（荘），山門院，莫禰院」と記載されている。

中世

鎌倉期では，源頼朝より島津忠久が元暦２年（1185年）に島津荘下司職に補任され，忠久は山門院に守護被官本田貞親を入部させる。貞親は，山門院内に木牟礼城を築き，以後ここは５代貞久まで薩摩国守護所として守護勢力の拠点となる。

和泉荘を領有している和泉氏は当時の島津氏と反目しており，南北朝期になると島津氏が北朝側に着くが，和泉荘の領主たちは南朝側に着いて島津氏と戦っている。正平９年（1354年）の戦いを境に和泉一族らの在地土豪の組織だった抵抗はなくなってくる。

島津氏に敵対する強力な勢力がなくなると，島津氏一族の中で争いがおこってくる。その争いを平定したのが島津忠国・用久であり，この用久が1425年に薩州家を興し，以後約130年間出水を領有することになる。このころより荘園は崩壊していき，荘園制の村落から郡郷制の村落へと移行していく。豊臣秀吉の九州出兵の後，文禄２年（1593年）に薩州家は改易され，出水は一時秀吉の直轄領となった。しかし，慶長４年（1599年）に「泗川の戦い」の戦勝を賞し，再び島津氏に返還された。この時期の遺跡としては，主に中世城郭があげられる。出水市内でも松尾城などが調査されており，成果があがっている。

近世

江戸時代の藩政期に入ると，島津家の外城制度の下に藩境地としての政治的要所の性格を強め，藩内

最大の外城とし，藩の直轄地とした。そのため，藩内各地から派遣された屈強な郷士が，国境及び海岸線に居を構える，県内でも最大規模の武家屋敷等の衆中地である「麓」を形成するに至った。武士は麓に集められ，農民は「門割制度」によって，新しい村に編成されていく。この頃になり，大規模な開田工事も実施され，平野部も水田化されていくことになる。藩境である出水は交通の要所にもなり，肥後国水俣に至る「出水筋」は参勤交代に使われ，また野間の番所（野間ノ関）で人や物資の出入りを厳重に監視していた。

大坪遺跡からも，近世時代に使用されたと思われる「煙管」「古銭（寛永通宝）」等の遺物が出土しており，この時代にも人々が生活していたことを窺うことができる。

近・現代

明治時代に入り，明治10年（1877年）に西南戦争が勃発する。この時出水麓の郷士たち（出水衆中）は，薩軍（西郷軍）の３番４番大隊に編入され，戦闘に参加する。このとき，矢筈岳山頂付近で激しい戦闘が展開されたという記録がある。また，官軍側は米ノ津から広瀬橋を渡り，竹之山（向江町）方面・広瀬橋付近・鍋野付近のそれぞれから，総攻撃を開始する。海軍は米ノ津港へ接岸し，艦砲射撃や上陸作戦を行っている。この時出水の郷士たちは才願寺墓地を主陣地として防戦するが，壊滅する。大坪遺跡からは，鉛の弾が出土している。この鉛の弾は，球形を成している。当時使用された官軍の銃弾は，流線型の形状を成していることから，これらの出土した弾は，薩軍が使用した弾であるのではないかと思われ，西南戦争と深い関わりがあるのではないかと思われる。明治時代の学制発布により，全国的に教育が盛んになってくる。出水地方でも教育が普及していき，それに伴い経済が発展してくる。

太平洋戦争時は，昭和18年（1943年）に出水海軍航空隊が発足し，昭和20年（1945年）には特攻隊基地となる。本土空襲によりこの基地も空襲を受ける。大坪遺跡からも，この当時使用されていたと思われる薬莢や弾が出土している。戦後は，出水市となり，従来からの産業をもとに工業都市として発展してきている。昭和40年代には高度成長と共に農地の圃場整備が実施され現在の様な田園風景に変わったが，それ以前の区画及び地形は第３図及び第４図の様であった。ほぼ磁北を基調とする110m四方の区画が整然としており，条里型地割が存在していることがわかる。条里型地割がどれぐらいさかのぼるのかについては，文献資料もなく，今回の調査の大きな課題であった。

出水の交通

出水は県境に位置しているため，交通の要所として発展してきた。先述したように江戸期の出水筋は参勤交代に使われ，大正12年（1923年）には鹿児島から米ノ津まで鉄道が敷かれた。また，昭和２年（1927年）には米ノ津から八代までの鉄道が開通し，これが鹿児島本線となった。元来鹿児島本線は明治42年（1909年）に，鹿児島→国分・吉松→人吉・八代というルート（現在の肥薩線）を通っていたが，米ノ津⇔八代間の鉄道が開通したことにより，こちらの方を鹿児島本線とした。この結果，出水には中央からの文化が随時流入し，これに伴って経済も発展することになった。平成16年（2004年）３月13日には九州新幹線が開通し，その停車地となった出水は中央との時間的な距離が縮まり，今後とも文化的，経済的な発展をしていくことが予想される。

このように出水地方は旧石器時代～古墳時代はもとより，古代から南北朝・鎌倉・中世・近世・近代・現代にかけて歴史の変換点の中で，豊富な歴史をもち，衆目の注目する場所である。

（註１）736年の「薩摩正税帳」によれば，「大領外正六位下勲七等肥君・少領外従ハ位勲七等五百木部・主政外初位上勲十等大伴部足・主帳无位大伴部福足」と記載されている。

（註２）建永２年（1207年）に書かれた肝付文書では，「蓋當兼貞時　族人成房亦墾於薩州和泉　以隷　御荘成辦済使及下司職」とあり，また建永２年(1207年)の肝付兼保譲状には，「散位伴朝臣兼保謹辞　譲与内舎人伴保忠嶋津御庄和泉庄弁財使并下司職・田畠山野狩倉事，在四至東限神河西限石坂　南紫尾山高尾　北限海　副渡代々　證文等，　當御庄者，是兼保之重代相傳之領地也，随高祖父伴成房・曽祖父時房・親父守房・嫡子兼保四代相傳成」と記載されている。

「出水郷土誌」出水郷土誌編集委員会
「肝属文書」『鹿児島県史料』旧記雑録拾遺家わけ二
『出水麓遺跡』　出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)
1995　出水市教育委員会
西山賢一　2001　「出水周辺の地形・地質について」『鹿児島県考古学会平成13年度秋季大会研究発表資料』

出水地区周辺遺跡図

旧石器

縄文

弥生

第5図　周辺遺跡図（1）

第６図　周辺遺跡図（２）

表１　周辺遺跡地名表１

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
1	出水貝塚	08-001-0	出水市中央町尾崎	台地	縄文(早･中･後)、中世	押型文・阿高式・南福寺式・出水式･貝輪・玉製品・人骨･集石･石錘集積	京大報告6、県埋文報(5)、大正9･昭和28･29･平成8～10年学術調査、市埋文報(11)
2	尾崎城跡	08-027-0	出水市中央町尾崎	台地	中世	水の手･掘立柱建物跡	知色氏･島津氏居城、別称「知識城」
3	尾崎Ａ	08-067-0	出水市中央町表郷西	台地	縄文(後･晩)、奈良、平安、中世、近世	縄文晩期土器･土師器･須恵器･陶磁器	平成５年確認調査、平成６年本調査、市埋文報(6)
4	新村Ｂ	08-061-0	出水市文化町横尾	台地	奈良、平安	土師器	平成５年分布調査、平成７年確認調査
5	新村Ａ	08-060-0	出水市文化町横尾	台地	奈良、平安	土師器	平成５年度市町村、遺物採集地、市埋文報(6)
6	慶頭原	08-059-0	出水市文化町横尾	台地	奈良、平安	土師器	平成５年度市町村、遺物採集地
7	尾崎Ｂ	08-068-0	出水市文化町横尾	台地	縄文(後･晩)、奈良、平安、中世、近世	縄文晩期土器･土師器･須恵器･陶磁器	平成５年確認調査、平成６年本調査、市埋文報(6)
8	野中田	08-058-0	出水市文化町山下	台地	奈良、平安	成川式･土師器･近代墓	平成５年度市町村、平成７年緊急調査
9	山下	08-057-0	出水市文化町山下	台地	奈良、平安～中世	土師器、青磁	平成５年度市町村、遺物採集地
10	再願	08-056-0	出水市文化町山下	台地	奈良、平安	土師器	平成５年度市町村、遺物採集地
11	正八幡	08-055-0	出水市文化町山下	台地	縄文～奈良、平安	成川式・土師器･近代墓	平成５年度市町村、平成７年緊急調査
12	上松	08-094-0	出水市文化町上松	台地	縄文	土器	平成９年度北薩･伊佐分布調査
13	下郡山	08-095-0	出水市文化町溝下	台地	縄文・古墳	縄文土器・土師器	H9北薩分布調査
14	溝下古墳群	08-011-0	出水市文化町399	台地	古墳	地下式板石積石室･短甲･鉄鏃･土師器甕･成川式	旧名「溝下」、昭和８年記録なし、昭和３２･４５･平成１２年学術調査
15	川除	08-069-0	出水市文化町上村東	台地	古墳～奈良、平安	土師器	
16	谷城跡	08-028-0	出水市下知識町上村西	台地	中世	水の手	
17	庵木園	08-093-0	出水市知識町上村東	台地	縄文・古墳	土器・土師器	H9北薩分布調査
18	御堂	08-092-0	出水市下知識町上村西	台地	古墳、中世	土師器･青磁	平成９年度北薩･伊佐分布調査
19	西宮ノ脇	08-090-0	出水市下知識町津山	河岸段丘	古墳	土器	平成９年度北薩･伊佐分布調査
20	八幡	08-102-0	出水市上知識町八幡	台地	古墳、中世	土器	平成９年度北薩･伊佐分布調査
21	表郷東	08-123-0	出水市中央町表郷東	台地	中世	鉄滓･鞴口	遺物採集地
22	一町樋	08-103-0	出水市中央町八坊	河岸段丘	古墳	土器	平成９年度北薩･伊佐分布調査
23	天神原	08-104-0	出水市中央町表郷東	台地	古墳	土器	平成９年度北薩･伊佐分布調査
24	成願寺	08-009-0	出水市中央町八坊	河岸段丘	弥生～古墳、中世(安土桃山)	箱式石棺・土師器･須恵器･弥生土器	発掘記録なし
25	田中	08-010-0	出水市中央町八坊	河岸段丘	弥生	弥生土器・須恵器･土師器	
26	内城跡	08-032-0	出水市中央町八坊	河岸段丘	中世	切岸?･土塁?	平城氏居城
27	専修寺跡	08-034-0	平良馬場(中村医院)	河岸段丘	中世(室町)～近代(明治3年)	寺跡	薩州島津家第５代実久設立、「出水風土記」
28	成願寺跡	08-033-0	出水市中央町八坊	台地	中世(安土桃山)～近世	寺跡	1633年焼失、「出水風土記」
29	並松	08-105-0	出水市中央町表郷東	台地	古墳、奈良、平安	土器	平成９年度北薩･伊佐分布調査
30	塚込	08-106-0	出水市中央町西町	台地	古墳	土器	平成９年度北薩･伊佐分布調査
31	山王西	08-107-0	出水市五万石町石坂	台地	古墳	土器･土師器	平成９年詳細分布調査、北薩･伊佐分布調査
32	新蔵	08-091-0	出水市福ノ江町新蔵上	台地	縄文	土器･黒曜石	平成９年度北薩･伊佐分布調査
33	東福ノ江	08-121-0	出水市福ノ江町福ノ江	海岸平野	縄文	土器	遺物採集地
34	西福ノ江	08-120-0	出水市福ノ江町福ノ江	海岸平野	縄文	土器	遺物採集地
35	長松寺	08-089-0	出水市福ノ江町福ノ江	低地	縄文	土器	平成９年度北薩･伊佐分布調査
36	六反ヶ丸	08-073-0	出水市六月田町六月田下	低地	奈良、平安	土師器	市埋文報(13) 遺物採集地
37	平松	08-083-0	出水市下鯖町平松東	丘陵	縄文、古墳、奈良、平安	土器･青磁･染付･黒曜石	平成９年度北薩･伊佐分布調査
38	野間の関跡	08-117-0	堀之内2577･2578	台地	中世(安土桃山)～近世	古井戸	(市) 昭和41.12.20

表２　周辺遺跡地名表２

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
39	上針原	08-119-0	出水市境町針原	山麓緩斜面	縄文	土器	遺物採集地
40	井手山	08-118-0	出水市境町前田	海岸段丘	縄文	土器	遺物採集地
41	鳥越平	08-128-0	出水市境町切通	山麓緩斜面	縄文	土器	遺物採集地
42	茶屋ノ元	08-050-0	出水市境町切通	段丘	弥生	土器	平成１０年確認調査
43	切通	08-012-0	出水市境町切通	丘陵	古墳	箱式石棺	昭和４６年非公式調査
44	安原城跡	08-031-0	出水市美原町上ノ原	台地	中世	腰郭・空堀	安原氏居城
45	安原鐙	08-039-0	出水市美原町安原	河岸段丘	縄文、弥生、古墳	土器・黒曜石	遺物採集地
46	朝隈城跡	08-023-0	出水市美原町朝熊	丘陵	中世	主郭・曲輪・空堀・土塁・虎口	朝隈氏居城
47	諏訪後	08-084-0	出水市美原町朝隈	台地	縄文、奈良、平安	土器・青磁・土師器	平成９年度北薩・伊佐分布調査
48	沖田岩戸	08-008-0	出水市黄金町・美原町	低地	縄文晩期・古代	縄文土器・石鏃・石斧・磨石　弥生式土器等	鹿県埋セ埋文報(26) 48･49発掘・県文化財報告26
49	牛ヶ迫東平	08-122-0	出水市東光山山頂	山頂緩斜面	中世	土師器・青磁	遺物採集地
50	大坪	08-051-0	出水市黄金町・美原町	低地	縄文(晩)、奈良、平安	埋設土器・玉類・土師器・条里型地割	**平成１０年確認調査、平成１１～１２年本調査**
51	宮ノ脇	08-047-0	出水市上鯖淵松尾	低地	弥生	石器	遺物採集地
52	松尾城跡	08-030-0	出水市上鯖淵松尾	丘陵	中世	曲輪・掘立柱建物・腰郭・大手・空堀・土師器・青磁	市埋文報(10) 上村氏居城
53	太田城跡	08-026-0	出水市上鯖淵太田	丘陵	中世	主郭・曲輪・枡形虎口・水の手	
54	乙五郎	08-078-0	出水市上鯖淵大田	山麓緩斜面	旧石器		遺物採集地
55	通山口	08-079-0	出水市上鯖淵番月	山麓緩斜面	旧石器		遺物採集地
56	井出ノ原	08-085-0	出水市上鯖淵渡瀬口	河岸段丘	縄文・古墳	土器	H9北薩分布調査
57	御所園原	08-086-0	出水市上鯖淵井之上	台地	縄文	土器・黒曜石	平成９年度北薩・伊佐分布調査
58	井ノ上城跡	08-025-0	出水市上鯖淵井上	丘陵	中世	主郭・曲輪・空堀・切岸・腰郭・水の手	和泉氏・井田氏、別称「井口城」「小城」
59	鯖淵	08-087-0	出水市上鯖淵井之上	河岸段丘	縄文・中世	押型文土器	H9北薩分布調査
60	水天上	08-088-0	出水市麓町山崎	台地	縄文、奈良、平安、近世	土器・黒曜石・土師器	平成９年度北薩・伊佐分布調査
61	出水麓	08-054-0	出水市麓町竪馬場	台地	中世～近世	地頭館跡・ピット・陶磁器	平成５年確認調査、平成６年本調査、平成８年確認調査、平成９年本調 、市埋文報(5･8)
62	下ヶ原	08-040-0	出水市武本水之頭	河岸段丘	縄文、奈良	土器・黒曜石	遺物採集地
63	大曲	08-041-0	出水市武本折尾野	河岸段丘	奈良、平安	土師器	遺物採集地
64	上ノ原	08-125-0	出水市武本鍋野	丘陵	縄文、奈良、平安	土器・黒曜石・土師器	遺物採集地
65	松ヶ迫	08-048-0	出水市武本鍋野	丘陵	旧石器～縄文	石器	平成１０年確認調査
66	小松	08-049-0	出水市武本小松	丘陵	縄文	黒曜石	平成１０年確認調査
67	出水城跡	08-024-0	出水市麓町7325	丘陵	中世	主郭・曲輪・空堀・腰郭・大手・搦め手	肝付和泉氏・島津和泉氏・薩州家、別称「亀ヶ城」「花見ヶ城」
68	見性庵跡	08-037-0	出水市麓町上竪馬場	丘陵	中世（室町）	薩州島津家の墓・位牌	「出水風土記」
69	大通寺跡	08-035-0	出水市武本西ノ口	丘陵	中世（室町）	寺跡	薩州島津家第６代義虎菩提寺、「出水風土記」
70	山田昌巌の墓	08-224	武本2893	墓地	江戸	墓石	江戸初期の出水地頭
71	龍光寺跡	08-036-0	出水市武本西ノ口	丘陵	中世(室町)～近代(明治3年)	寺跡	1459年建立、「出水風土記」
72	五万石溝底水道	08-227	武本小原下	平地	江戸	用水路	
73	平山城跡	08-029-0	出水市武本小原下	山麓緩斜面	中世		伴系和泉氏一族居城
74	武本大坪	08-101-0	出水市武本下中	河岸段丘	古墳	土器	旧名「大坪」、平成９年度北薩・伊佐分布調査
75	老神	08-053-0	出水市武本上中	河岸段丘	縄文～平安	竪穴住居跡・鉢・甕形土器	昭和６２年分布調査、平成４年確認・本調査、文埋文報(4)
76	市来	08-052-0	出水市武本上中	扇状地	縄文～平安	弥生土器・土師器・須恵器	昭和６２年分布調査、平成４年確認・本調査、文埋文報(4)

表３　周辺遺跡地名表３

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
77	休甚町高橋	08-070-0	出水市武本清水	扇状地	縄文、奈良、平安		平成９年詳細分布調査
78	上桜ノ西	08-108-0	出水市武本上中・清水	扇状地	縄文・古墳	土器	H9北薩分布調査
79	曲尺角東	08-019-0	出水市武本江川野	扇状地			旧名「楠元西」「花園(監)」を併合、遺物採集地
80	砂取	08-109-0	出水市武本清水	扇状地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北薩・伊佐分布調査、平成12年度詳細分布調査、旧名「楠元(特)」「上宮上」を併合
81	曲尺西	08-020-0	出水市武本清水	扇状地			旧名「楠元(監)」「花園(特)」を併合、遺物採集地
82	牟田尻	08-021-0	出水市武本清水	扇状地	縄文(早・中)、弥生		旧名「出水池下(特)」「出水池下(監)」を併合、昭和51年発掘調査、県埋文報(3)
83	楠元上	08-018-0	出水市武本清水	扇状地			遺物採集地
84	出水ヶ池	08-110-0	出水市武本清水	扇状地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北薩・伊佐分布調査、平成12年度詳細分布調査、旧名「出水ヶ池南」を併合
85	池ノ尾下	08-017-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文(晩)		遺物採集地
86	江川野口	08-111-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文	土器・黒曜石	平成９年度北薩・伊佐分布調査、旧名「上池ノ尾」「池ノ東」を併合、遺物採集地
87	牟田原	08-022-0	出水市武本清水	扇状地	縄文		遺物採集地、旧名「池ノ尾」を併合
88	中尾Ⅱ	08-016-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文(早)		平成１０年確認調査、平成１１年本調査、市埋文報(12)
89	中尾Ⅰ	08-015-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文(早)	押型文・石鏃・石斧	市埋文報(12)、平成１０年確認調査
90	下小野	08-014-0	出水市武本栗毛野	扇状地			遺物採集地
91	小野口	08-112-0	出水市武本小野	扇状地	縄文	土器	平成９年度北薩・伊佐分布調査
92	西小野	08-013-0	出水市武本栗毛野	扇状地	縄文	土器	平成９年度北薩・伊佐分布調査
93	太鼓橋	08-099-0	出水市大野原町太鼓橋	台地	古墳、中世	土器・青磁	平成９年度北薩・伊佐分布調査
94	並木下	08-098-0	出水市大野原町上大野原	台地	古墳、古代	土器・土師器	平成９年度北薩・伊佐分布調査
95	丸岡	08-096-0	出水市大野原町下大野原	台地	縄文	土器・黒曜石	平成９年度北薩・伊佐分布調査
96	西牟田	08-097-0	出水市西出水町政所	台地	古墳	土器	平成９年度北薩・伊佐分布調査
97	政所	08-100-0	出水市西出水町政所	台地	縄文	土器	遺物採集地
98	高見下	08-124-0	出水市平和町ゴルフ場内	台地	縄文	土器	平成９年度北薩・伊佐分布調査
99	金松	08-115-0	出水市平和町ゴルフ場北	台地	縄文(前)、奈良、平安、中世、近世	石斧・石鏃・石匙・杭列・轟式・双角状石器・玦状耳飾・骨角器	遺物採集地
100	荘貝塚	08-007-0	出水市荘下	台地	縄文、奈良、平安、中世	黒曜石・土師器・陶磁器	昭和４８・５３・６１・６３年緊急調査、市埋文報(1・3)
101	荘下	08-071-0	出水市荘下	台地	奈良、平安	土師器・須恵器	遺物採集地
102	荘上Ⅱ	08-072-0	出水市荘上	台地	中世(鎌倉)	土師器・青磁	遺物採集地、昭和４９年発掘調査
103	荘上Ⅰ	08-044-0	出水市荘上	台地	中世(鎌倉)	土師器・青磁	遺物採集地、昭和４９年発掘調査
104	田淵	08-116-0	出水市荘上	台地	縄文・古墳	土器・貝殻・土師器・須恵器	H9北薩分布調査
105	下高尾野	47-007-0	高尾野町下高尾野	台地	弥生(後)	弥生土器散布	
106	松ヶ野	47-008-0	高尾野町下高尾野	台地	縄文(早・晩)、古墳、中世	土器片・青磁(多量)・石鏃	平成７年度分布調査、県埋文報(71)
107	出し道	47-009-0	高尾野町唐笠木	台地	縄文、中世	黒曜石剥片・土器片・土師器	平成７年度分布調査、県埋文報(71)
108	諏訪下	47-010-0	高尾野町唐笠木	台地	縄文(早・前)、中世	土器片・土師器	平成７年度分布調査、県埋文報(71)
109	八幡ノ前	47-011-0	高尾野町唐笠木	台地	古墳	土器片・須恵器	平成７年度分布調査、県埋文報(71)
110	宮園	47-012-0	高尾野町大久保・柴引	台地	縄文、古墳	黒曜石剥片・土器片(大量)	平成７年度分布調査、県埋文報(71)
111	寺園	47-013-0	高尾野町柴引	台地	縄文(晩)、古墳	黒曜石剥片・土器片	平成７年度分布調査、県埋文報(71)
112	中里	47-014-0	高尾野町柴引中里	河岸段丘	縄文、弥生、古墳、近世	押型文・三万田式・御領式・陶器	鹿埋文セ埋文報(1)、昭和49年発掘調査
113	堂前	47-015-0	高尾野町柴引	台地	縄文、古墳	黒曜石剥片・土器片	平成７年度分布調査、県埋文報(71)
114	堂前古墳	47-016-0	高尾野町柴引	扇状地	弥生(中)～古墳	地下式板石積石室古墳群・山ノ口式・須玖式・免田式・成川式・鉄鏃・勾玉・ガラス製小玉	昭和４５年4月7日発掘調査(池水寛治氏)、昭和４６・４７年発掘調査

表４　周辺遺跡地名表４

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
115	原畑	47-017-0	高尾野町大久保	台地	古墳	土器片	平成７年度分布調査、県埋文報(71)
116	道下段	47-037-0	高尾野町大久保	台地	縄文～古墳	市来式･磨消縄文土器･黒川式･打製石斧･石鏃･磨石	平成１０年発掘調査
117	下柊迫	47-038-0	高尾野町大久保	台地	縄文～平安、近世	黒川式･組織痕土器･夜臼式･打製石斧･磨製石斧･磨石･石皿･砥石･石鏃･スクレーパー･黒髪式･須玖式･山ノ口式･松木園式	平成７・９年発掘調査
118	御岳	47-035-0	高尾野町大久保	河岸段丘			遺物散布地
119	柿内	47-033-0	高尾野町大久保	扇状地	縄文(中・後)	春日式･並木式･磨消縄文･阿高式･阿高㈮式･南福寺式･出水式･石鏃･石匙･磨製石斧･打製石斧･磨石･石皿･石核･スクレーパー等	鹿県埋セ埋文報(24)、昭和49年発掘調査
120	柿内下	47-034-0	高尾野町大久保	台地	縄文	遺物散布地	平成７年度分布調査
121	大久保遺跡群	47-031-0	高尾野町大久保	台地	縄文	土器片	
122	カラン迫	47-032-0	高尾野町大久保字カラン迫	扇状地	旧石器、縄文	トラッピーズ・エンドスクレーパー・押型文・条痕文・石鏃･石斧･土師器	県埋文報(3)、昭和５０年分布調査
123	迫畠	47-036-0	高尾野町大久保	台地	縄文	土器片･黒曜石剥片	
124	高尾野城跡	47-026-0	高尾野町下高尾野3741（小字城内）	山地	中世		
125	柴引C	47-041-0	高尾野町柴引	台地	縄文、弥生	土器片	
126	迫田	47-029-0	高尾野町柴引	台地	縄文、古墳	黒曜石剥片･土器片	平成７年度分布調査、県埋文報(71)
127	柴引遺跡群Ｂ	47-024-0	高尾野町柴引	台地	縄文、弥生	土器片	
128	東馬場	47-030-0	高尾野町柴引	台地	縄文、古墳	土器片	平成７年度分布調査、県埋文報(71)、旧名「柴引」を併合(平成１３年)
129	洞亀寺跡	47-027-0	高尾野町柴引砂原	丘陵	中世	磨崖仏	「三国名勝図会」
130	柴引遺跡群Ａ	47-023-0	高尾野町柴引・下高尾野	台地	縄文、弥生	土器片	
131	横馬場	47-018-0	高尾野町柴引･唐笠木	台地	縄文、弥生	土器片	
132	諏訪	47-019-0	高尾野町唐笠木	台地	縄文、弥生	土器片	
133	船迫	47-022-0	高尾野町下高尾野字高松他	台地	縄文、弥生		
134	新城跡	47-021-0	高尾野町下高尾野805（小字新城）	河岸段丘	中世	土塁･堀	平成９年測量実測調査
135	放光寺	47-020-0	高尾野町下高尾野字放光寺	扇状地	縄文、弥生、古墳、中世	縄文土器･弥生土器･土師器･須恵器･陶磁器･すり鉢･火舎･瓦器･打製石斧･磨製石斧･石鏃･十字形石器	県埋文報(2)、昭和４９年発掘調査
136	本城跡	47-025-0	高尾野町下高尾野2973(小字高城)	台地	中世	磨崖仏	「三国名勝図会」
137	川骨	47-004-0	高尾野町江内	台地	縄文、古墳	土器片	平成７年度分布調査、県埋文報(71)
138	木牟礼城跡	47-005-0	高尾野町江内165-2(小字尾崎)	台地	中世		「出水風土記」、島津忠久の居城
139	木牟礼	47-006-0	高尾野町木牟礼	台地	弥生(後)	弥生土器散布・石弾	
140	東笠掛	48-010-0	野田町上名屋地	台地	古墳～中世	成川式・土師器	平成７年北薩・伊佐地区分布調査、県埋文報(71)
141	中郡	48-001-0	野田町下名中郡	台地	弥生(後)	弥生土器散布	
142	山内寺跡	48-003-0	野田町下名中郡	台地	中世（鎌倉）		建久7年
143	大園	48-011-0	野田町上名大園	台地	中世	土師器	平成７年北薩・伊佐地区分布調査、県埋文報(71)
144	大畠	48-012-0	野田町上名瀬戸大畠	台地	縄文、中世	縄文土器・土師器・青磁	平成７年北薩・伊佐地区分布調査、県埋文報(71)
145	感応寺跡	48-002-0	野田町下名八幡	台地	中世(鎌倉)建立		「出水風土記」
146	下名遺跡群	48-015-0	野田町下名	低地	縄文～中世	押型文・石鏃・土師器	旧名「平地」
147	野田畠	48-009-0	野田町野田畠	台地	縄文～中世	土器・石器・土師器・須恵器他	
148	春	48-013-0	野田町上名上田多園	台地	古墳～中世	成川式・土師器・染付	平成７年北薩・伊佐地区分布調査、県埋文報(71)
149	木牟礼城屋形跡	48-008-0	野田町上名字屋地ほか	丘陵	中世	土塁	
150	上名遺跡群	48-016-0	野田町上名	台地	中世	土師器	
151	亀井城跡	48-004-0	野田町上名本城	丘陵	保元平治期		
152	新城跡	48-005-0	野田町上名字新城	丘陵	中世	空堀・土塁・帯郭	

第Ⅲ章　発掘調査の概要

第１節　発掘調査の方法

平成４年12月に実施した分布調査で，昭和48年に緊急発掘された沖田岩戸遺跡の隣接地ということと地形の類似性から，第７図で囲まれた一帯が埋蔵文化財包蔵地の可能性がある範囲としてくくられた。小字名が異なるため，北側から榎木田遺跡，見入来遺跡，大坪遺跡としてある。この小字名は昭和40年代に耕地整理されたのに合わせて改変されたものであり，大正年間の小字名とは異なっている。

平成10年に実施された確認調査では，第Ⅰ章第３節で前述した内容でトレンチを設定した。グリッドは10m四方を単位とし，北側から１．２．３‥‥，西側からＡ．Ｂ．Ｃ‥‥とした。表土を重機で剥ぎ，それ以下は手掘りの調査を行った。遺物の実測は平板で取り上げ，グリッド名と取り上げ番号を遺物に記してある。レベルについては台帳に記してあるが，基準としていた杭の標高を本調査時に測り直したところ，誤差を生じていることが判明した。確認調査では縄文時代晩期と古代の遺物が出土すると考えられる範囲を明らかにし，工事部分と重なる第８図に図示した範囲を本調査の対象とした。

平成11・12年度の本調査では，発掘範囲が広大な面積に及ぶことから，グリッドを20m四方に変更して調査を行った。グリッドの基準点は確認調査時の点を踏襲し，市道六月田朝熊線の北側路側帯に新幹線本線のセンターと交わる点を起点とした。この点と市道沖田２号線上の新幹線本線センターが交わる点を直線で結んだ線を基準点として，グリッドを設定した。南北方向を算用数字で，東西方向をアルファベットの大文字で呼ぶこととした。南北方向は起点から南側へ１．２．３‥‥区とし，北側へは01．02．03区とした。東西方向へは起点を境に西側をＤ区とし，東側へそれぞれＣ．Ｂ．Ａ区とした。遺跡名としてはそれぞれ異なるのであるが，グリッドの呼び方は統一してある。したがって北側から03～01区が榎木田遺跡，１～７区が見入来遺跡，８～39区が大坪遺跡の範囲となる。グリッド設定は埋文サポートが行い，同時に公共座標を設定した。

発掘調査は20mごとのグリッド境を30cm幅づつ合計60cm幅のセクションベルトとして残し，表土をバックホーで掘削しながらクローラーで廃土した。遺構の有無を確認しながら，セクションベルト沿いに手箕が入る幅で先行トレンチを設定した。これは，土層の観察を先に行うためと排水用を兼ねるためである。土層の写真が逆光にならないように，各グリッドの北側と西側を先行トレンチとして掘り下げた。先行トレンチは，遺物が出てこなくなるまで掘り下げた後，各層の境にラインを入れ，写真撮影した後，20分の1で土層断面を実測した。したがって，土層断面を実測した場所は各グリッド境より30cm内側となる。南九州の火山灰が多様に堆積した台地部分とは異なり，沖積地での層の把握は苦慮し，ラインを入れる際は感覚的な部分も多々あり，台地上の層位ほど厳密でないことをお断りしておきたい。各土層断面図はスペースの関係で縮小しすぎて見にくいものの，各グリッドに合わせて提示してある。

表土下及び各層の上面で精査し，遺構を検出した場合は遺構の調査を優先して行った。それぞれの遺構に合わせて必要なセクションベルトを残しながら掘り下げ，写真撮影後10分の1で実測し，トータルステーションへの取り込みを行った。場合によってはトータルステーションのみでの実測もある。遺構番号はそれぞれの遺跡で発見された順に通し番号を付し，頭に略号をつけてある。発掘現場での遺構番号は検出された時点でつけてあるので，最初に認識した遺構名と完掘して明らかになった遺構名が異なるものもある。また，通し番号であるために同類の遺構数を把握しにくいので，本報告書では遺構名の再整理を行い併記することにした。現場での遺構名と本報告書での遺構名は表5～表9の通りである。発掘現場での日誌・図面等は変更していないので，使用の際は本表を参照していただきたい。

包含層の掘り下げは，手鍬やネジリ鎌あるいは竹ベラ等を用いて全体的に水平になるように行った。本遺跡のような粘土質の土壌を掘り下げる場合，適度な湿り気を保つために，前日に水をまいてシートをかぶせておく方法が有効であった。また，竹製の道具が意外にも偉力を発揮した。出土した遺物は動かさずに現位置に置き，土器の小破片についてはグリッド及び各層位ごとに一括して取り上げた。特徴的な遺物については各遺跡ごとに通し番号を付して，50分の1の縮尺で平板実測した。取り上げた点数は，確認調査612点，榎木田遺跡248点，見入来遺跡1,751点，大坪遺跡17,095点である。なお，当初50分の1の平板実測図にはⅢ層上面での10cmごとのコンターを入れていったが，ほとんど削平された面であることと高低差がないことから途中で断念した。

手掘りによる掘り下げは遺物が出なくなるところまで行い，その後10mピッチで幅2mのトレンチを設定し下層の確認をして各グリッドの調査を終了した。さらに，これに加え途中からは重機による最終確認を実施したところ，埋設土器を検出できた例もあり，その後はすべて行った。なお，平成11年度末に行ったC-17区の調査は重機による最終確認まで実施する余裕がなく，下層ごとB-17区に盛り上げ，年度が変わってから遺物のみ拾い出した。その中には玉類もいくつか含まれており，深く反省する次第である。

6T
5T
4T
3T
2T
1T
榎木田遺跡
見入来遺跡
4地点
榎木田遺跡
見入来遺跡
大坪遺跡
大坪遺跡
分布調査による遺跡推定地
ABCDEFGH
0
200m

第７図　確認調査の範囲

第8図　年度ごとの調査範囲

表５　遺構一覧表（挿図番号順）１

本報告書での遺構名		遺跡名	発掘調査時の遺構名		区	層	時代	略称	文章ページ	挿図番号	写真図版番号
埋設土器	1	大坪	SJ	124	B-15	Ⅲ	縄文	埋設 1	125	103	25
埋設土器	2	大坪	SJ	119	B-15	Ⅲ	縄文	埋設 2	125	103	25
埋設土器	3	大坪	SJ	79	B-14	Ⅲ	縄文	埋設 3	126	104	25,26
埋設土器	4	大坪	SJ	38	C-15	Ⅲ	縄文	埋設 4	126	105	26
埋設土器	5	大坪	SJ	115	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 5	126	106	26,27
埋設土器	6	大坪	SJ	8	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 6	127	106	27
埋設土器	7	大坪	SJ	33	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 7	127	107	27
埋設土器	8	大坪	SJ	6	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 8	128	108	27
埋設土器	9	大坪	SJ	80	B-14	Ⅲ	縄文	埋設 9	128	109	6,28
埋設土器	10	大坪	SJ	39	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 10	129	109	28
埋設土器	11	大坪	SJ	40	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 11	129	110	29
埋設土器	12	大坪	SJ	4	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 12	129	110	29
埋設土器	13	大坪	SJ	5	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 13	130	111	29
埋設土器	14	大坪	SJ	31	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 14	130	111	30
埋設土器	15	大坪	SJ	12	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 15	130	112	30
埋設土器	16	大坪	SJ	9	B-18	Ⅲ	縄文	埋設 16	131	112	30
埋設土器	17	大坪	SJ	3	B-16	Ⅲ	縄文	埋設 17	131	113	30
埋設土器	18	大坪	SJ	7	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 18	133	113	31
埋設土器	19	大坪	SJ	78	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 19	133	114	
埋設土器	20	大坪	SJ	41	D-22	Ⅲ	縄文	埋設 20	133	115	31
埋設土器	21	大坪	SJ	130	B-21	Ⅲ	縄文	埋設 21	133	115	31
埋設土器	22	大坪	SJ	30	B-18	Ⅲ	縄文	埋設 22	133	116	32
埋設土器	23	大坪	SJ	49	C-22	Ⅲ	縄文	埋設 23	133	116	32
埋設土器	24	大坪	SJ	42	D-23	Ⅲ	縄文	埋設 24	133	116	32
埋設土器	25	大坪	SJ	50	C-22	Ⅲ	縄文	埋設 25	133	116	32
埋設土器	26	大坪	SJ	10	C-20	Ⅲ	縄文	埋設 26	134	116	32
埋設土器	27	大坪	SJ	175	B-25	Ⅲ	縄文	埋設 27	134	117	32,33
埋設土器	28	大坪	SJ	46	D-21	Ⅲ	縄文	埋設 28	135	117	33
埋設土器	29	見入来	SJ	5	B-4	Ⅲ	縄文	埋設 29	135	118	33
埋設土器	30	見入来	SJ	84	D-2・3	Ⅲ	縄文	埋設 30	137	118	34
埋設土器	31	大坪	SJ	131	B-21	Ⅲ	縄文	埋設 31	138	119	34
埋設土器	32	大坪	SJ	11	D-20	Ⅲ	縄文晩期	埋設 32	140	119	35
埋設土器	33	大坪	SJ	47	C-20	Ⅲ	縄文晩期	埋設 33	140	120	35
埋設土器	34	大坪	SJ	51	C-22	Ⅲ	縄文晩期	埋設 34	140	120	36
埋設土器	35	大坪	SJ	128	B-21	Ⅲ	縄文晩期	埋設 35	140	121	
埋設土器	36	大坪	SJ	126	B-21	Ⅲ	縄文晩期	埋設 36	140	121	36
埋設土器	37	大坪	SJ	125	B-21	Ⅲ	縄文晩期	埋設 37	140	121	36
供献土器	1	大坪	SJ	48	C-20	Ⅲ	縄文晩期	供献 1	144	120	35
供献土器	2	大坪	SJP	129	B-21	Ⅲ	縄文晩期	供献 2	144	121	36
土坑	1	大坪	SK	71	C-23	Ⅳ	縄文晩期	土坑 1	146	122	7
土坑	2	大坪	SK	118	B-14	Ⅲ	縄文	土坑 2	147	122	
土坑	3	大坪	SK	169	B-23	Ⅲ	縄文	土坑 3	147	123	7
土坑	4	見入来	SK	1	C-2	Ⅲ	縄文晩期	土坑 4	147	123	6
土坑	5	大坪	SK	138	B-21	Ⅲ	縄文	土坑 5	147	123	
大型凹地		大坪	SX	60	C・D-24	Ⅲ	縄文	大型凹地	149	69	7
凹地		大坪	SF	193	A-35	Ⅲ	縄文	凹地	149	124	
不明遺構	1	大坪	SX	67	C-23	Ⅲ	縄文	不明 1	149	125	6
不明遺構	2	大坪	SF	117	B-15	Ⅲ	縄文	不明 2	149	126	6
焼土	1	大坪	SF	32	C-17	Ⅲ	縄文	焼土 1	152	127	
焼土	2	大坪	SF	173	B-24	Ⅲ	縄文	焼土 2	152	128	
焼土	3	大坪	SF	127	B-21	Ⅲ	縄文	焼土 3	152	128	
焼土	4	大坪	SF	120	B-15	Ⅲ	縄文	焼土 4	152	128	
焼土	5	見入来	SF	4	B-4	Ⅲ	縄文	焼土 5	152	128	
石溜り	1	見入来	SS	2	C-2	Ⅲ	縄文	石溜り 1	153	129	6
石溜り	2	見入来	SS	3	C-3	Ⅲ	縄文	石溜り 2	153	50	6
ピット	1	大坪	SX	28	D-15	Ⅲ	縄文	ピット 1	153	129	20
ピット	2	大坪	SP	121	B-15	Ⅲ	縄文	ピット 2	153	129	
竪穴住居		大坪	SH	29	C-15	Ⅱa	古代	竪穴住居	362	305,306	8
焼成土坑	1	大坪	SFK	82	C-15	Ⅱb	古代	焼成土坑 1	363	307	10
焼成土坑	2	大坪	SFK	133	B-23	Ⅲ	奈良～平安	焼成土坑 2	363	308	11
焼成土坑	3	大坪	SK	45	D-24	Ⅲ	古代	焼成土坑 3	364	308	9
不明遺構	3	大坪	SX	75	C-15	Ⅱb	古代	不明 3	364	309,310	11
不明遺構	4	大坪	SX	81	B-14	Ⅱb	古代	不明 4	364	311	
不明遺構	5	大坪	SX	85	B-16	Ⅱb	古代	不明 5	364	312	
土坑	6	大坪	SK	84	B-16	Ⅱb	古代	土坑 6	367	312	
土坑	7	大坪	SK	83	B-16	Ⅱb	古代	土坑 7	368	312	
土坑	8	大坪	SK	134	B-23	Ⅲ	奈良～平安	土坑 8	368	313	20
土坑	9	大坪	SK	135	B-23	Ⅲ	奈良～平安	土坑 9	370	313	
土坑	10	大坪	SK	76	B-15	Ⅱb	古代	土坑 10	370	314	
土坑	11	大坪	SK	113	B-15	Ⅱb	古代	土坑 11	370	315	
土坑	12	大坪	SK	112	B-15	Ⅱb	古代	土坑 12	371	315	
土坑	13	大坪	SK	111	B-15	Ⅱb	古代	土坑 13	371	315	
土坑	14	大坪	SK	110	B-15	Ⅱb	古代	土坑 14	371	315	
土坑	15	大坪	SK	106	B-15	Ⅱb	古代	土坑 15	371	316	
土坑	16	大坪	SK	105	B-15	Ⅱb	古代	土坑 16	371	316	
土坑	17	大坪	SK	104	B-15	Ⅱb	古代	土坑 17	371	316	
土坑	18	大坪	SK	77	B-15	Ⅱb	古代	土坑 18	371	317,318	
土坑	19	大坪	SK	102	B-15	Ⅱb	古代	土坑 19	371	317	
土坑	20	大坪	SK	101	B-15	Ⅱb	古代	土坑 20	371	317	

表６　遺構一覧表（挿図番号順）２

本報告書での遺構名		遺跡名	発掘調査時の遺構名		区	層	時代	略称	文章ページ	挿図番号	写真図版番号
土坑	21	大坪	SK	100	B-15	Ⅱb	古代	土坑 21	371	317	
土坑	22	大坪	SK	99	B-15	Ⅱb	古代	土坑 22	371	317	
土坑	23	大坪	SK	98	B-15	Ⅱb	古代	土坑 23	373	317	
土坑	24	大坪	SK	103	B-15	Ⅱb	古代	土坑 24	373	318,319	
土坑	25	大坪	SK	97	B-15	Ⅱb	古代	土坑 25	376	319	
土坑	26	大坪	SK	96	B-16	Ⅱb	古代	土坑 26	376	320	
土坑	27	大坪	SK	87	B-16	Ⅱb	古代	土坑 27	376	320	
土坑	28	大坪	SK	92	B-16	Ⅱb	古代	土坑 28	376	320	
土坑	29	大坪	SK	93	B-16	Ⅱb	古代	土坑 29	376	320	
土坑	30	大坪	SK	90	B-16	Ⅱb	古代	土坑 30	376	320	
土坑	31	大坪	SK	89	B-16	Ⅱb	古代	土坑 31	376	320	
土坑	32	大坪	SK	114	C-15・16	Ⅱb	古代	土坑 32	376	321	
土坑	33	大坪	SK	88	B-16	Ⅱb	古代	土坑 33		54	
ピット	3	大坪	SP	86	B-16	Ⅱb	古代	ピット 3	368	312	
ピット	4	大坪	SP	116	B-15	Ⅱb	古代	ピット 4		13,51	
ピット	5	大坪	SP	123	B-15	Ⅲ	奈良～平安	ピット 5	373	316	
ピット	6	大坪	SP	122	B-15	Ⅲ	奈良～平安	ピット 6	373	316	
ピット	7	大坪	SP	95	B-16	Ⅱb	古代	ピット 7	376	320	
ピット	8	大坪	SP	94	B-16	Ⅱb	古代	ピット 8	376	320	
ピット	9	大坪	SP	91	B-16	Ⅱb	古代	ピット 9	376	320	
ピット	10	大坪	SP	109	B-15	Ⅱb	古代	ピット 10	376	321	
ピット	11	大坪	SP	108	B-15	Ⅱb	古代	ピット 11	376	321	
ピット	12	大坪	SP	107	B-15	Ⅱb	古代	ピット 12	376	321	
焼土	6	大坪	SF	19	B-15		古代	焼土 6	378	322	
焼土	7	大坪	SF	18	B-15		古代	焼土 7	378	322	
焼土	8	大坪	SF	171	A-25	Ⅲ	平安？	焼土 8	378	322	
焼土	9	大坪	SF	170	A-25	Ⅲ	平安？	焼土 9	378	322	
焼土	10	大坪	SF	66	C-24	Ⅱb	古代	焼土 10	378	322	
溝状遺構	1	大坪	SD	43	A-21～D-22	Ⅱ		溝 1	383	326	11,12
溝状遺構	2	見入来	SD	81	B-6・C-5	Ⅱ下部	古代～中世？	溝 2	386	327	
溝状遺構	3	見入来	SD	6	B-4	Ⅲ	古代～中世？	溝 3	386	328	50
溝状遺構	4	大坪	SD	70	C-22	Ⅱb		溝 4	386	326	
土坑	34	榎木田	SK	4	D-03		古代	土坑 34	380	323	
土坑	35	榎木田	SP	7	D-03		古代	土坑 35	380	323	
土坑	36	榎木田	SK	8	D-03		古代	土坑 36	380	323	
土坑	37	榎木田	SK	5	D-03		古代	土坑 37	380	323	
土坑	38	榎木田	SK	6	D-03		古代	土坑 38	380	323	
土坑	39	榎木田	SK	16	D-03		古代	土坑 39	380	324	
土坑	40	榎木田	SK	17	D-03		古代	土坑 40	380	324	
土坑	41	榎木田	SK	18	C-03		古代	土坑 41	380	324	
土坑	42	榎木田	SK	15	C-03		古代	土坑 42	383	324	
土坑	43	榎木田	SK	9	D-03		古代	土坑 43	383	324	
土坑	44	榎木田	SK	19	D-03		古代	土坑 44	383	324	
土坑	45	榎木田	SK	3	D-03		古代	土坑 45	383	324	
土坑	46	榎木田	SK	2	D-03		古代	土坑 46	383	324	
土坑	47	榎木田	SK	10	D-03		古代	土坑 47	383	324	12
土坑	48	榎木田	SK	11	D-03		古代	土坑 48	383	324	
土坑	49	榎木田	SK	12	D-03		古代	土坑 49	383	324	
土坑	50	榎木田	SK	20	D-02		古代	土坑 50	383	325	
土坑	51	榎木田	SK	22	D-01		古代	土坑 51	383	325	
土坑	52	榎木田	SK	1	C-01		古代	土坑 52	383	325	
土坑	53	榎木田	SK	26	D-02			土坑 53	383	20	
土坑	54	榎木田	SK	24	D-02			土坑 54	383	20	
土坑	55	榎木田	SK	25	D-02			土坑 55	383	20	
土坑	56	榎木田	SK	23	D-02		古代	土坑 56	383	21	12
ピット	13	榎木田	SK	13	C-02		古代	ピット 13	383	20	
ピット	14	榎木田	SK	14	D-02		古代	ピット 14	383		
ピット	15	榎木田	SP	21	D-02		古代	ピット 15	383	325	
焼土	11	榎木田	SF	27	D-02		古代	焼土 11	383	325	
掘立柱建物跡	1	大坪	SB	166	A-33	Ⅱ	中世	掘立 1	387	329	19
掘立柱建物跡	2	大坪	SB	187	B-34	Ⅱ	中世？	掘立 2	387	330	19
掘立柱建物跡	3	大坪	SB	137	B-26	Ⅱb	平安～鎌倉	掘立 3	388	331	19
掘立柱建物跡	4	大坪	SB	190	B-36	Ⅱ	中世？	掘立 4	389	332	53
掘立柱建物跡	5	大坪	SB	199	B-32	Ⅱ	中世？	掘立 5	391	333	19
掘立柱建物跡	6	大坪	SB	189	A・B-35	Ⅱ	中世？	掘立 6	391	334	19
掘立柱建物跡	7	大坪	SB	188	B-35	Ⅱ	中世？	掘立 7	393	335	19
掘立柱建物跡	8	大坪	SB	198	B-32	Ⅱ	中世？	掘立 8	393	336	19
掘立柱建物跡	9	大坪	SB	200	B-32	Ⅱ	中世？	掘立 9	393	339	19
土坑	57	大坪	SK	34	D-13		古代～中世	土坑 57	398	338	
土坑	58	大坪	SK	35	D-13		古代～中世	土坑 58	398	338	
土坑	59	大坪	SK	36	D-13		古代～中世	土坑 59	398	338	
土坑	60	大坪	SK	37	D-13		古代～中世	土坑 60	398	338	
土坑	61	大坪	SK	148	A-33	Ⅱ	平安～鎌倉	土坑 61	398	339	18
土坑	62	大坪	SK	151	B-30	Ⅱ	平安～鎌倉	土坑 62	399	339	18
土坑	63	大坪	SK	139	B-33	Ⅱ	平安～鎌倉？	土坑 63	399	340	
土坑	64	大坪	SK	140	B-33	Ⅱ	平安～鎌倉？	土坑 64	399	340	
土坑	65	大坪	SK	167	A-33	Ⅱ	中世	土坑 65	399	340	
土坑	66	大坪	SK	152	B-30	Ⅱ	平安～鎌倉	土坑 66	401	340	
土坑	67	大坪	SK	147	A-33	Ⅱ	平安～鎌倉	土坑 67	401	340	
土坑	68	大坪	SK	155	A-34	Ⅱ	平安～鎌倉	土坑 68	401	341	

表7　遺構一覧表（挿図番号順）3

本報告書での遺構名		遺跡名	発掘調査時の遺構名		区	層	時代	略称	文章ページ	挿図番号	写真図版番号
土坑	69	大坪	SK	154	A-34	Ⅱ	平安～鎌倉	土坑 69	401	341	
土坑	70	大坪	SK	153	A-34	Ⅱ	平安～鎌倉	土坑 70	401	341	
土坑	71	大坪	SK	192	B-34	Ⅲ	中世？	土坑 71	401	341	
土坑	72	大坪	SK	183	B-35	Ⅱ	中世？	土坑 72	402	342	
土坑	73	大坪	SK	184	B-35	Ⅱ	中世？	土坑 73	402	342	
土坑	74	大坪	SK	185	B-35	Ⅲ	中世？	土坑 74	402	342	
土坑	75	大坪	SK	186	B-35	Ⅲ	中世？	土坑 75	402	342	
焼土	12	大坪	SF	58	D-25	？	古代～中世？	焼土 12	402	343	
焼土	13	大坪	SF	174	B-24	Ⅲ	古代～中世	焼土 13	402	343	
焼土	14	大坪	SF	74	B-25	Ⅱb	古代～中世	焼土 14	402	83	
焼土	15	大坪	SF	73	B-26	Ⅱb	古代～中世	焼土 15	403	343	
焼土	16	大坪	SF	172	B-24	Ⅲ	平安？	焼土 16	403	343	
焼土	17	大坪	SF	204	A-31	Ⅲ	中世？	焼土 17	403	344	
焼土	18	大坪	SF	194	B-35	Ⅲ	中世？	焼土 18	404	344	
不明遺構	6	大坪	SK	69	C-22	Ⅱb	中世	不明 6	404	345	
不明遺構	7	大坪	SX	149	B-33	Ⅱ	平安～鎌倉	不明 7	405	346	
不明遺構	8	大坪	SX	150	B-33	Ⅱ	平安～鎌倉	不明 8	405	346	
溝状遺構	5	大坪	SD	132	B-22	Ⅲ	奈良～平安	溝 5	407	73,362	12
溝状遺構	6	大坪	SD	68	C-23	Ⅱb	平安～中世？	溝 6	407	347	
溝状遺構	7	大坪	SD	136	B-23	Ⅱb	平安～？	溝 7	407	347	
溝状遺構	8	大坪	SD	65	B-24			溝 8	407	348	
溝状遺構	9	大坪	SD	62	B-25		古代～中世？	溝 9	408	348	
溝状遺構	10	大坪	SD	61	C-26		古代～中世？	溝 10	408	348	
溝状遺構	11	大坪	SD	22	B-33～36	Ⅱc下	中世後半	溝 11	408	349	18,53
溝状遺構	12	大坪	SD	23	B-35・36	Ⅱc上	中世	溝 12	408	350	16
溝状遺構	13	大坪	SD	181	B-34	Ⅱb	中世？	溝 13	408	361	19
溝状遺構	14	大坪	SD	1	B-11		古代～中世	溝 14	413	351	52
溝状遺構	15	大坪	SD	64	B-25		古代～中世	溝 15	413	352	
溝状遺構	16	大坪	SD	63	B-25・27	Ⅱb	古代～中世	溝 16	413	352	
溝状遺構	17	大坪	SD	55	D-24・B-29	Ⅱ	中世？	溝 17	413	353	
溝状遺構	18	大坪	SD	53	D-24	Ⅱ	古代～中世？	溝 18	414	78	52
溝状遺構	19	大坪	SD	56	D-24	Ⅱ	中世？	溝 19	414	78	
溝状遺構	20	大坪	SD	52	D-24	Ⅱ	古代～中世	溝 20	414	354	52
溝状遺構	21	大坪	SD	57	D-24・C-23	Ⅱ	中世？	溝 21	416	75	18
溝状遺構	22	大坪	SD	146	A-33～38	Ⅱ	平安～鎌倉	溝 22	416	355	17,18
溝状遺構	23	大坪	SD	168	A-36・37	Ⅱ	中世	溝 23	416	357	18
溝状遺構	24	大坪	SD	145	A-33～37	Ⅱ	平安～鎌倉	溝 24	416	355	
溝状遺構	25	大坪	SD	203	A-32	Ⅲ	中世？	溝 25	418	356	
溝状遺構	26	大坪	SD	202	A-31・32	Ⅲ	中世？	溝 26	418	356	18
溝状遺構	27	大坪	SD	205	A-31・32	Ⅲ	中世？	溝 27	418	356	18
溝状遺構	28	大坪	SD	201	A-31・32	Ⅲ	中世？	溝 28	418	356	18
溝状遺構	29	大坪	SD	143	A-33・34	Ⅱ	平安～鎌倉	溝 29	418	357	
溝状遺構	30	大坪	SD	144	A-33	Ⅱ	平安～鎌倉	溝 30	418	357	
溝状遺構	31	大坪	SD	142	A-33	Ⅱ	平安～鎌倉	溝 31	418	357	
溝状遺構	32	大坪	SD	24	C-35	Ⅱc上	中世	溝 32	418	357	18
溝状遺構	33	大坪	SD	141	A-33	Ⅱ	平安～鎌倉	溝 33	418	358	17
溝状遺構	34	大坪	SD	180	A-26	Ⅱ	中世	溝 34	418	84	
波板状凹凸面	1	大坪	SR	26	C・D-17	Ⅲ	中世？	波板 1	418	359	17,51
波板状凹凸面	2	大坪	SR	25	B-34	Ⅱa	中世	波板 2	421	360	16
波板状凹凸面	3	大坪	SR	182	B-34	Ⅱb	中世？	波板 3	423	361	19
波板状凹凸面	4	大坪	SR	72	B-26～29	Ⅱb	古代～中世	波板 4	423	362	1,14,15
波板状凹凸面	5	大坪	SR	176	A-26	Ⅱ	中世～近世	波板 5	424	363	
波板状凹凸面	6	大坪	SR	191	B-26	Ⅱ	中世～近世	波板 6	424	363	
波板状凹凸面	7	大坪	SR	27	B-20	Ⅲ	中世？	波板 7	424	363	17,52
波板状凹凸面	8	大坪	SR	54	D-25	Ⅱ	中世？	波板 8	427	363	16
波板状凹凸面	9	大坪	SR	197	B-38	Ⅱ	中世？	波板 9	427	364	17
波板状凹凸面	10	大坪	SR	196	B-38	Ⅱ	中世？	波板 10	427	364	
波板状凹凸面	11	大坪	SR	195	A-38	Ⅱ	中世？	波板 11	427	364	
ピット	16	大坪	SP	59	D-25	？	？	ピット 16	405	346	20
土坑	76	見入来	SK	9	B-3	Ⅱ①	中世？	土坑 76	472	402	
土坑	77	見入来	SK	10	B-3	Ⅱ①	中世？	土坑 77	472	402	
土坑	78	見入来	SK	11	B-3	Ⅱ①	中世？	土坑 78	472	402	
土坑	79	見入来	SK	16	B-4	Ⅱ①	中世？	土坑 79	472	402	
土坑	80	見入来	SK	82	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 80	472	403	
土坑	81	見入来	SK	50	B-5	Ⅱ③	中世？	土坑 81	472	403	
土坑	82	見入来	SK	57	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 82	472	404	20
土坑	83	見入来	SK	63	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 83	472	404	
土坑	84	見入来	SK	64	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 84	472	404	
土坑	85	見入来	SK	66	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 85	472	404	
土坑	86	見入来	SK	65	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 86	472	404	
土坑	87	見入来	SK	67	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 87	472	404	
土坑	88	見入来	SK	83	D-2	Ⅱ①②	中世？	土坑 88	476	405	
土坑	89	見入来	SK	12	B-3	Ⅱ①	中世？	土坑 89	476	405	
土坑	90	見入来	SK	14	B-3	Ⅱ①	中世？	土坑 90	476	406	
土坑	91	見入来	SK	13	B-3	Ⅱ①	中世？	土坑 91	476	406	
土坑	92	見入来	SK	15	B-4	Ⅱ①	中世？	土坑 92	476	407	
土坑	93	見入来	SK	17	B-4	Ⅱ①	中世？	土坑 93	476	407	
土坑	94	見入来	SK	18	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 94	476	407	
土坑	95	見入来	SK	19	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 95	476	407	
土坑	96	見入来	SK	20	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 96	476	407	

表８　遺構一覧表（挿図番号順）４

本報告書での遺構名		遺跡名	発掘調査時の遺構名		区	層	時代	略称	文章ページ	挿図番号	写真図版番号
土坑	97	見入来	SK	21	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 97	476	408	
土坑	98	見入来	SK	22	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 98	476	408	
土坑	99	見入来	SK	23	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 99	477	408	
土坑	100	見入来	SK	24	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 100	477	408	
土坑	101	見入来	SK	25	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 101	477	408	
土坑	102	見入来	SK	26	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 102	477	408	
土坑	103	見入来	SK	28	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 103	477	409	
土坑	104	見入来	SK	27	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 104	477	409	
土坑	105	見入来	SK	29	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 105	481	409	
土坑	106	見入来	SK	30	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 106	481	409	
土坑	107	見入来	SK	31	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 107	481	409	
土坑	108	見入来	SK	32	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 108	481	409	
土坑	109	見入来	SK	33	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 109	481	410	
土坑	110	見入来	SK	34	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 110	481	410	
土坑	111	見入来	SK	35	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 111	481	410	
土坑	112	見入来	SK	36	B-5	Ⅱ③	中世？	土坑 112	481	410	
土坑	113	見入来	SK	37	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 113	481	410	
土坑	114	見入来	SK	40	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 114	481	411	
土坑	115	見入来	SK	41	B-6	Ⅱ①	中世？	土坑 115	485	411	
土坑	116	見入来	SK	42	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 116	485	411	
土坑	117	見入来	SK	38	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 117	485	411	
土坑	118	見入来	SK	39	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 118	485	411	
土坑	119	見入来	SK	51	B-5	Ⅱ③	中世？	土坑 119	485	412	
土坑	120	見入来	SK	52	B-5	Ⅱ③	中世？	土坑 120	485	412	
土坑	121	見入来	SK	53	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 121	485	412	
土坑	122	見入来	SK	48	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 122	485	412	
土坑	123	見入来	SK	49	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 123	486	412	
土坑	124	見入来	SK	46	B-5	Ⅱ③	中世？	土坑 124	486	412	
土坑	125	見入来	SK	47	B-5	Ⅱ③	中世？	土坑 125	486	412	
土坑	126	見入来	SK	54	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 126	486	413	
土坑	127	見入来	SK	55	B-5	Ⅱ①	中世？	土坑 127	486	413	
土坑	128	見入来	SK	56	B-5	Ⅱ③	中世？	土坑 128	486	413	
土坑	129	見入来	SK	43	B-5	Ⅱ②	中世？	土坑 129	486	414	
土坑	130	見入来	SK	44	B-5	Ⅱ②	中世？	土坑 130	486	414	
土坑	131	見入来	SK	45	B-5	Ⅱ②	中世？	土坑 131	487	414	
土坑	132	見入来	SK	59	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 132	487	415	
土坑	133	見入来	SK	60	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 133	487	415	
土坑	134	見入来	SK	61	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 134	487	415	
土坑	135	見入来	SK	62	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 135	488	415	
土坑	136	見入来	SK	58	B-6	Ⅱ①	中世？	土坑 136	488	415	
土坑	137	見入来	SK	68	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 137	488	415	
土坑	138	見入来	SK	69	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 138	488	416	
土坑	139	見入来	SK	70	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 139	488	416	
土坑	140	見入来	SK	71	B-6	Ⅱ③	中世？	土坑 140	488	418	
土坑	141	見入来	SK	72	B-6	Ⅱ③	中世？	土坑 141	488	418	
土坑	142	見入来	SK	73	B-6	Ⅱ③	中世？	土坑 142	488	418	
土坑	143	見入来	SK	74	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 143	488	417	
土坑	144	見入来	SK	75	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 144	488	417	
土坑	145	見入来	SK	76	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 145	488	417	
土坑	146	見入来	SK	77	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 146	488	417	
土坑	147	見入来	SK	79	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 147	488	419	
土坑	148	見入来	SK	80	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 148	488	419	
土坑	149	見入来	SK	78	B-6	Ⅱ②	中世？	土坑 149	488	419	
土坑	150	大坪	SK	21	B-35	Ⅱa上	中世後半	土坑 150	488	419	20
波板状凹凸面	12	大坪	SR	177	A-25	Ⅱ	中世～近世	波板 12	492	420	
波板状凹凸面	13	大坪	SR	156	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 13	493	421	
波板状凹凸面	14	大坪	SR	157	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 14	493	421	
波板状凹凸面	15	大坪	SR	158	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 15	493	421	
波板状凹凸面	16	大坪	SR	159	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 16	493	421	
波板状凹凸面	17	大坪	SR	160	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 17	493	422	
波板状凹凸面	18	大坪	SR	165	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 18	493	422	
波板状凹凸面	19	大坪	SR	161	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 19	493	422	
波板状凹凸面	20	大坪	SR	162	A-35	Ⅱ	中世～近世	波板 20	493	422	
波板状凹凸面	21	大坪	SR	163	A-35	Ⅱ	中世～近世	波板 21	493	422	
波板状凹凸面	22	大坪	SR	164	A-35	Ⅱ	中世～近世	波板 22	493	422	16
溝状遺構	35	大坪	SD	178	A-26	Ⅱ	中世～近世	溝 35	492	420	
溝状遺構	36	大坪	SD	179	A-26	Ⅱ	中世～近世	溝 36	492	420	
溝状遺構	37	大坪	SD	16	B-19		～近代	溝 37	85	63	
溝状遺構	38	大坪	SD	17	B-16		～近代	溝 38	76	54	
溝状遺構	39	大坪	SD	44	D-23B-20	Ⅰa	近代以降	溝 39	494	423	
溝状遺構	40	大坪	SD	13	B-20		近世？	溝 40	494	423	52
溝状遺構	41	見入来	SX	8	B-2～D-6	Ⅰ～Ⅱ	中世～江戸	溝 41	495	10,11	
溝状遺構	42	大坪	SR	2	D-8		近代	溝 42	64	42	20
溝状遺構	43	大坪	SD	14	C-19・B-20		近代以降	溝 43	497	424	52
溝状遺構	44	大坪	SD	15	C-19		近代以降	溝 44	497	424	
石列		見入来	SX	7	C-4～D-6	Ⅰ	江戸～明治	石列	53	11	50

表９　遺構一覧表（発掘調査時の遺構名順）

遺跡名	発掘調査時の遺構名	本報告書での遺構名
榎木田	ＳＫ １	土坑 52
榎木田	ＳＫ ２	土坑 46
榎木田	ＳＫ ３	土坑 45
榎木田	ＳＫ ４	土坑 34
榎木田	ＳＫ ５	土坑 37
榎木田	ＳＫ ６	土坑 38
榎木田	ＳＰ ７	土坑 35
榎木田	ＳＫ ８	土坑 36
榎木田	ＳＫ ９	土坑 43
榎木田	ＳＫ 10	土坑 47
榎木田	ＳＫ 11	土坑 48
榎木田	ＳＫ 12	土坑 49
榎木田	ＳＫ 13	ピット 13
榎木田	ＳＫ 14	ピット 14
榎木田	ＳＫ 15	土坑 42
榎木田	ＳＫ 16	土坑 39
榎木田	ＳＫ 17	土坑 40
榎木田	ＳＫ 18	土坑 41
榎木田	ＳＫ 19	土坑 44
榎木田	ＳＫ 20	土坑 50
榎木田	ＳＰ 21	ピット 15
榎木田	ＳＫ 22	土坑 51
榎木田	ＳＫ 23	土坑 56
榎木田	ＳＫ 24	土坑 54
榎木田	ＳＫ 25	土坑 55
榎木田	ＳＫ 26	土坑 53
榎木田	ＳＦ 27	焼土 11

見入来	ＳＫ １	土坑 4
見入来	ＳＳ ２	石溜り 1
見入来	ＳＳ ３	石溜り 2
見入来	ＳＦ ４	焼土 5
見入来	ＳＪ ５	埋設土器 29
見入来	ＳＤ ６	溝状遺構 3
見入来	ＳＸ ７	石列
見入来	ＳＸ ８	溝状遺構 41
見入来	ＳＫ ９	土坑 76
見入来	ＳＫ 10	土坑 77
見入来	ＳＫ 11	土坑 78
見入来	ＳＫ 12	土坑 89
見入来	ＳＫ 13	土坑 91
見入来	ＳＫ 14	土坑 90
見入来	ＳＫ 15	土坑 92
見入来	ＳＫ 16	土坑 79
見入来	ＳＫ 17	土坑 93
見入来	ＳＫ 18	土坑 94
見入来	ＳＫ 19	土坑 95
見入来	ＳＫ 20	土坑 96
見入来	ＳＫ 21	土坑 97
見入来	ＳＫ 22	土坑 98
見入来	ＳＫ 23	土坑 99
見入来	ＳＫ 24	土坑 100
見入来	ＳＫ 25	土坑 101
見入来	ＳＫ 26	土坑 102
見入来	ＳＫ 27	土坑 104
見入来	ＳＫ 28	土坑 103
見入来	ＳＫ 29	土坑 105
見入来	ＳＫ 30	土坑 106
見入来	ＳＫ 31	土坑 107
見入来	ＳＫ 32	土坑 108
見入来	ＳＫ 33	土坑 109
見入来	ＳＫ 34	土坑 110
見入来	ＳＫ 35	土坑 111
見入来	ＳＫ 36	土坑 112
見入来	ＳＫ 37	土坑 113
見入来	ＳＫ 38	土坑 117
見入来	ＳＫ 39	土坑 118
見入来	ＳＫ 40	土坑 114
見入来	ＳＫ 41	土坑 115
見入来	ＳＫ 42	土坑 116
見入来	ＳＫ 43	土坑 129
見入来	ＳＫ 44	土坑 130
見入来	ＳＫ 45	土坑 131
見入来	ＳＫ 46	土坑 124
見入来	ＳＫ 47	土坑 125
見入来	ＳＫ 48	土坑 122
見入来	ＳＫ 49	土坑 123
見入来	ＳＫ 50	土坑 81
見入来	ＳＫ 51	土坑 119
見入来	ＳＫ 52	土坑 120
見入来	ＳＫ 53	土坑 121
見入来	ＳＫ 54	土坑 126
見入来	ＳＫ 55	土坑 127
見入来	ＳＫ 56	土坑 128
見入来	ＳＫ 57	土坑 82
見入来	ＳＫ 58	土坑 136
見入来	ＳＫ 59	土坑 132
見入来	ＳＫ 60	土坑 133
見入来	ＳＫ 61	土坑 134
見入来	ＳＫ 62	土坑 135
見入来	ＳＫ 63	土坑 83
見入来	ＳＫ 64	土坑 84
見入来	ＳＫ 65	土坑 86
見入来	ＳＫ 66	土坑 85
見入来	ＳＫ 67	土坑 87
見入来	ＳＫ 68	土坑 137
見入来	ＳＫ 69	土坑 138
見入来	ＳＫ 70	土坑 139
見入来	ＳＫ 71	土坑 140
見入来	ＳＫ 72	土坑 141
見入来	ＳＫ 73	土坑 142
見入来	ＳＫ 74	土坑 143
見入来	ＳＫ 75	土坑 144
見入来	ＳＫ 76	土坑 145
見入来	ＳＫ 77	土坑 146
見入来	ＳＫ 78	土坑 149

遺跡名	発掘調査時の遺構名	本報告書での遺構名
見入来	ＳＫ 79	土坑 147
見入来	ＳＫ 80	土坑 148
見入来	ＳＤ 81	溝状遺構 2
見入来	ＳＫ 82	土坑 80
見入来	ＳＫ 83	土坑 88
見入来	ＳＪ 84	埋設土器 30

大坪	ＳＤ １	溝状遺構 14
大坪	ＳＲ ２	溝状遺構 42
大坪	ＳＪ ３	埋設土器 17
大坪	ＳＪ ４	埋設土器 12
大坪	ＳＪ ５	埋設土器 13
大坪	ＳＪ ６	埋設土器 8
大坪	ＳＪ ７	埋設土器 18
大坪	ＳＪ ８	埋設土器 6
大坪	ＳＪ ９	埋設土器 16
大坪	ＳＪ 10	埋設土器 26
大坪	ＳＪ 11	埋設土器 32
大坪	ＳＪ 12	埋設土器 15
大坪	ＳＤ 13	溝状遺構 40
大坪	ＳＤ 14	溝状遺構 43
大坪	ＳＤ 15	溝状遺構 44
大坪	ＳＤ 16	溝状遺構 37
大坪	ＳＤ 17	溝状遺構 38
大坪	ＳＦ 18	焼土 7
大坪	ＳＦ 19	焼土 6
大坪	ＳＦ 20	ＳＸ81と同一
大坪	ＳＫ 21	土坑 150
大坪	ＳＤ 22	溝状遺構 11
大坪	ＳＤ 23	溝状遺構 12
大坪	ＳＤ 24	溝状遺構 32
大坪	ＳＲ 25	波板状凹凸面 2
大坪	ＳＲ 26	波板状凹凸面 1
大坪	ＳＲ 27	波板状凹凸面 7
大坪	ＳＸ 28	ピット 1
大坪	ＳＨ 29	竪穴住居
大坪	ＳＪ 30	埋設土器 22
大坪	ＳＪ 31	埋設土器 14
大坪	ＳＦ 32	焼土 1
大坪	ＳＪ 33	埋設土器 7
大坪	ＳＫ 34	土坑 57
大坪	ＳＫ 35	土坑 58
大坪	ＳＫ 36	土坑 59
大坪	ＳＫ 37	土坑 60
大坪	ＳＪ 38	埋設土器 4
大坪	ＳＪ 39	埋設土器 10
大坪	ＳＪ 40	埋設土器 11
大坪	ＳＪ 41	埋設土器 20
大坪	ＳＪ 42	埋設土器 24
大坪	ＳＤ 43	溝状遺構 1
大坪	ＳＤ 44	溝状遺構 39
大坪	ＳＫ 45	焼成土坑 3
大坪	ＳＪ 46	埋設土器 28
大坪	ＳＪ 47	埋設土器 33
大坪	ＳＪ 48	供献土器 1
大坪	ＳＪ 49	埋設土器 23
大坪	ＳＪ 50	埋設土器 25
大坪	ＳＪ 51	埋設土器 34
大坪	ＳＤ 52	溝状遺構 20
大坪	ＳＤ 53	溝状遺構 18
大坪	ＳＲ 54	波板状凹凸面 8
大坪	ＳＤ 55	溝状遺構 17
大坪	ＳＤ 56	溝状遺構 19
大坪	ＳＤ 57	溝状遺構 21
大坪	ＳＦ 58	焼土 12
大坪	ＳＰ 59	ピット 16
大坪	ＳＸ 60	大型凹地
大坪	ＳＤ 61	溝状遺構 10
大坪	ＳＤ 62	溝状遺構 9
大坪	ＳＤ 63	溝状遺構 16
大坪	ＳＤ 64	溝状遺構 15
大坪	ＳＤ 65	溝状遺構 8
大坪	ＳＦ 66	焼土 10
大坪	ＳＸ 67	不明遺構 1
大坪	ＳＤ 68	溝状遺構 6
大坪	ＳＫ 69	不明遺構 6
大坪	ＳＤ 70	溝状遺構 4
大坪	ＳＫ 71	土坑 1
大坪	ＳＲ 72	波板状凹凸面 4
大坪	ＳＦ 73	焼土 15
大坪	ＳＦ 74	焼土 14
大坪	ＳＸ 75	不明遺構 3
大坪	ＳＫ 76	土坑 10
大坪	ＳＫ 77	土坑 18
大坪	ＳＪ 78	埋設土器 19
大坪	ＳＪ 79	埋設土器 3
大坪	ＳＪ 80	埋設土器 9
大坪	ＳＸ 81	不明遺構 4
大坪	ＳＦＫ 82	焼成土坑 1
大坪	ＳＫ 83	土坑 7
大坪	ＳＫ 84	土坑 6
大坪	ＳＸ 85	不明遺構 5
大坪	ＳＰ 86	ピット 3
大坪	ＳＫ 87	土坑 27
大坪	ＳＫ 88	土坑 33
大坪	ＳＫ 89	土坑 31
大坪	ＳＫ 90	土坑 30
大坪	ＳＰ 91	ピット 9
大坪	ＳＫ 92	土坑 28
大坪	ＳＫ 93	土坑 29
大坪	ＳＰ 94	ピット 8
大坪	ＳＰ 95	ピット 7
大坪	ＳＫ 96	土坑 26
大坪	ＳＫ 97	土坑 25
大坪	ＳＫ 98	土坑 23
大坪	ＳＫ 99	土坑 22

遺跡名	発掘調査時の遺構名	本報告書での遺構名
大坪	ＳＫ 100	土坑 21
大坪	ＳＫ 101	土坑 20
大坪	ＳＫ 102	土坑 19
大坪	ＳＫ 103	土坑 24
大坪	ＳＫ 104	土坑 17
大坪	ＳＫ 105	土坑 16
大坪	ＳＫ 106	土坑 15
大坪	ＳＰ 107	ピット 12
大坪	ＳＰ 108	ピット 11
大坪	ＳＰ 109	ピット 10
大坪	ＳＫ 110	土坑 14
大坪	ＳＫ 111	土坑 13
大坪	ＳＫ 112	土坑 12
大坪	ＳＫ 113	土坑 11
大坪	ＳＫ 114	土坑 32
大坪	ＳＪ 115	埋設土器 5
大坪	ＳＰ 116	ピット 4
大坪	ＳＦ 117	不明遺構 2
大坪	ＳＫ 118	土坑 2
大坪	ＳＪ 119	埋設土器 2
大坪	ＳＦ 120	焼土 4
大坪	ＳＰ 121	ピット 2
大坪	ＳＰ 122	ピット 6
大坪	ＳＰ 123	ピット 5
大坪	ＳＪ 124	埋設土器 1
大坪	ＳＪ 125	埋設土器 37
大坪	ＳＪ 126	埋設土器 36
大坪	ＳＦ 127	焼土 3
大坪	ＳＪ 128	埋設土器 35
大坪	ＳＪＰ 129	供献土器 2
大坪	ＳＪ 130	埋設土器 21
大坪	ＳＪ 131	埋設土器 31
大坪	ＳＤ 132	溝状遺構 5
大坪	ＳＦＫ 133	焼成土坑 2
大坪	ＳＫ 134	土坑 8
大坪	ＳＫ 135	土坑 9
大坪	ＳＤ 136	溝状遺構 7
大坪	ＳＢ 137	掘立柱建物跡 3
大坪	ＳＫ 138	土坑 5
大坪	ＳＫ 139	土坑 63
大坪	ＳＫ 140	土坑 64
大坪	ＳＤ 141	溝状遺構 33
大坪	ＳＤ 142	溝状遺構 31
大坪	ＳＤ 143	溝状遺構 29
大坪	ＳＤ 144	溝状遺構 30
大坪	ＳＤ 145	溝状遺構 24
大坪	ＳＤ 146	溝状遺構 22
大坪	ＳＫ 147	土坑 67
大坪	ＳＫ 148	土坑 61
大坪	ＳＸ 149	不明遺構 7
大坪	ＳＸ 150	不明遺構 8
大坪	ＳＫ 151	土坑 62
大坪	ＳＫ 152	土坑 66
大坪	ＳＫ 153	土坑 70
大坪	ＳＫ 154	土坑 69
大坪	ＳＫ 155	土坑 68
大坪	ＳＲ 156	波板状凹凸面 13
大坪	ＳＲ 157	波板状凹凸面 14
大坪	ＳＲ 158	波板状凹凸面 15
大坪	ＳＲ 159	波板状凹凸面 16
大坪	ＳＲ 160	波板状凹凸面 17
大坪	ＳＲ 161	波板状凹凸面 19
大坪	ＳＲ 162	波板状凹凸面 20
大坪	ＳＲ 163	波板状凹凸面 21
大坪	ＳＲ 164	波板状凹凸面 22
大坪	ＳＲ 165	波板状凹凸面 18
大坪	ＳＢ 166	掘立柱建物跡 1
大坪	ＳＫ 167	土坑 65
大坪	ＳＤ 168	溝状遺構 23
大坪	ＳＫ 169	土坑 3
大坪	ＳＦ 170	焼土 9
大坪	ＳＦ 171	焼土 8
大坪	ＳＦ 172	焼土 16
大坪	ＳＦ 173	焼土 2
大坪	ＳＦ 174	焼土 13
大坪	ＳＪ 175	埋設土器 27
大坪	ＳＲ 176	波板状凹凸面 5
大坪	ＳＲ 177	波板状凹凸面 12
大坪	ＳＤ 178	溝状遺構 35
大坪	ＳＤ 179	溝状遺構 36
大坪	ＳＤ 180	溝状遺構 34
大坪	ＳＤ 181	溝状遺構 13
大坪	ＳＲ 182	波板状凹凸面 3
大坪	ＳＫ 183	土坑 72
大坪	ＳＫ 184	土坑 73
大坪	ＳＫ 185	土坑 74
大坪	ＳＫ 186	土坑 75
大坪	ＳＢ 187	掘立柱建物跡 2
大坪	ＳＢ 188	掘立柱建物跡 7
大坪	ＳＢ 189	掘立柱建物跡 6
大坪	ＳＢ 190	掘立柱建物跡 4
大坪	ＳＲ 191	波板状凹凸面 6
大坪	ＳＫ 192	土坑 71
大坪	ＳＦ 193	凹地
大坪	ＳＦ 194	焼土 18
大坪	ＳＲ 195	波板状凹凸面 11
大坪	ＳＲ 196	波板状凹凸面 10
大坪	ＳＲ 197	波板状凹凸面 9
大坪	ＳＢ 198	掘立柱建物跡 8
大坪	ＳＢ 199	掘立柱建物跡 5
大坪	ＳＢ 200	掘立柱建物跡 9
大坪	ＳＤ 201	溝状遺構 28
大坪	ＳＤ 202	溝状遺構 26
大坪	ＳＤ 203	溝状遺構 25
大坪	ＳＦ 204	焼土 17
大坪	ＳＤ 205	溝状遺構 27

第２節　遺跡の層位

本遺跡の層序および遺物包含層・年代・文化などの関係は下記のとおりである。なお，注意すべき点として，沖積地の土層は台地上の遺跡とは異なり，当時の表層の状態によって同じ時期の堆積層でも色調・土質が異なることがある。例えば，水が表土にたまっているところとそうでないところでは同じ時期に堆積をしていても色調や性質が異なる場合がある。また植えられた植物によっても土質が変わった可能性がある。そのため以下で説明する層序については，どの地点でも通用するが，地点によっては間が抜けていたり，上がとんでいたりすることがあることを断っておきたい。

Ⅰ層　：耕作土。灰茶褐色土。各時代の遺物が耕作等により撹乱された状態で出土する。

Ⅰb層：黒灰色粘質土。

Ⅱ層　：青灰色または黄色粘土。黄色の土は水田の基盤であり，酸化土である。粒子が細かく，乾燥すると非常に硬い。

Ⅱb層：青灰色砂質土。粒子が粗く，炭化物を含む。古代から中世の包含層。

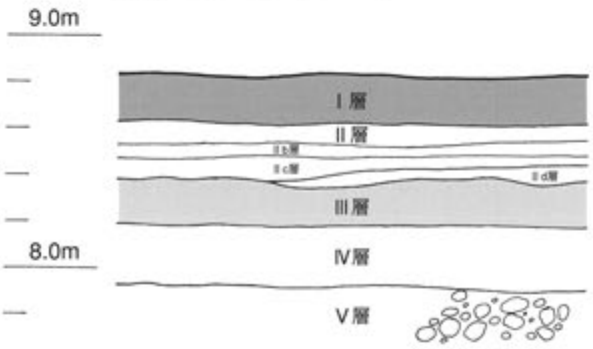
Ⅱc層：炭化物混入青灰色粘質土。砂を多く含み，粒子が粗い暗黄灰色の部分もある。古代～中世の包含層。大坪遺跡32区以南では，鋤痕とみられる層もこの層にある。

Ⅱd層：黄褐色粘土。古代末から中世の水田基盤に伴う酸化土とも考えられる。古代末から中世初頭の遺構には，この層の下面で掘り込まれたものと，上面から掘り込まれたものがあるが，水田基盤とすれば層位的な前後関係には使えないことになる。

Ⅲ層　：灰黄褐色粘質土。マンガン分が少量混入している。古代及び縄文時代後期終末から晩期前半の遺物包含層。Ⅲb・Ⅲ′も同質の層である。

Ⅳ層　：茶褐色砂質土。マンガン分が密集して混入している。上部に縄文時代後期終末から晩期前半の遺物が少量みられる。

Ⅴ層　：青灰色砂質土。場所によっては拳大の円礫が集中する。無遺物層である。



第９図　大坪遺跡土層模式図（B-21区を基に作成）

第３節　各グリッドの状況

榎木田遺跡・見入来遺跡を含めた大坪遺跡全体の調査区域は南北820mに渡っており，しかも縄文時代後期から近代まで長期間営まれた生活痕跡が重複している。これらの点を考慮しながら，過不足なく発掘成果を報告しなければならないことから，時期を色分けすると共に２種類の縮尺の図を提示することとする。一つは400分の一の図で，南北４グリッド分の遺構配置を示し（第10図～第18図），もう一つは150分の一の縮尺で，各グリッドごとに土層断面図及び遺物出土状況も含めて提示してある（第19図～第102図）。色分けやドット種類については，凡例に示したとおりである。

03区～01区：榎木田遺跡

この区域では古代を中心に遺構や遺物が見つかった。建物跡や溝状遺構は見出せず，この区域全体の性格を明らかにすることはできなかった。条里型地割については，昭和40年代以前の地籍図でも方向が磁北よりも11度西側に向いている。

１区～７区：見入来遺跡

中央部分を昭和40年代まであった川跡が南北に貫いていて，これより西側での残存状況は良くなかった。縄文時代の遺構や遺物は北側に残っていた。中世後半から近世初期ぐらいに位置づけられると考えられる土坑が東側に集中して検出された。

11区～18区：大坪遺跡

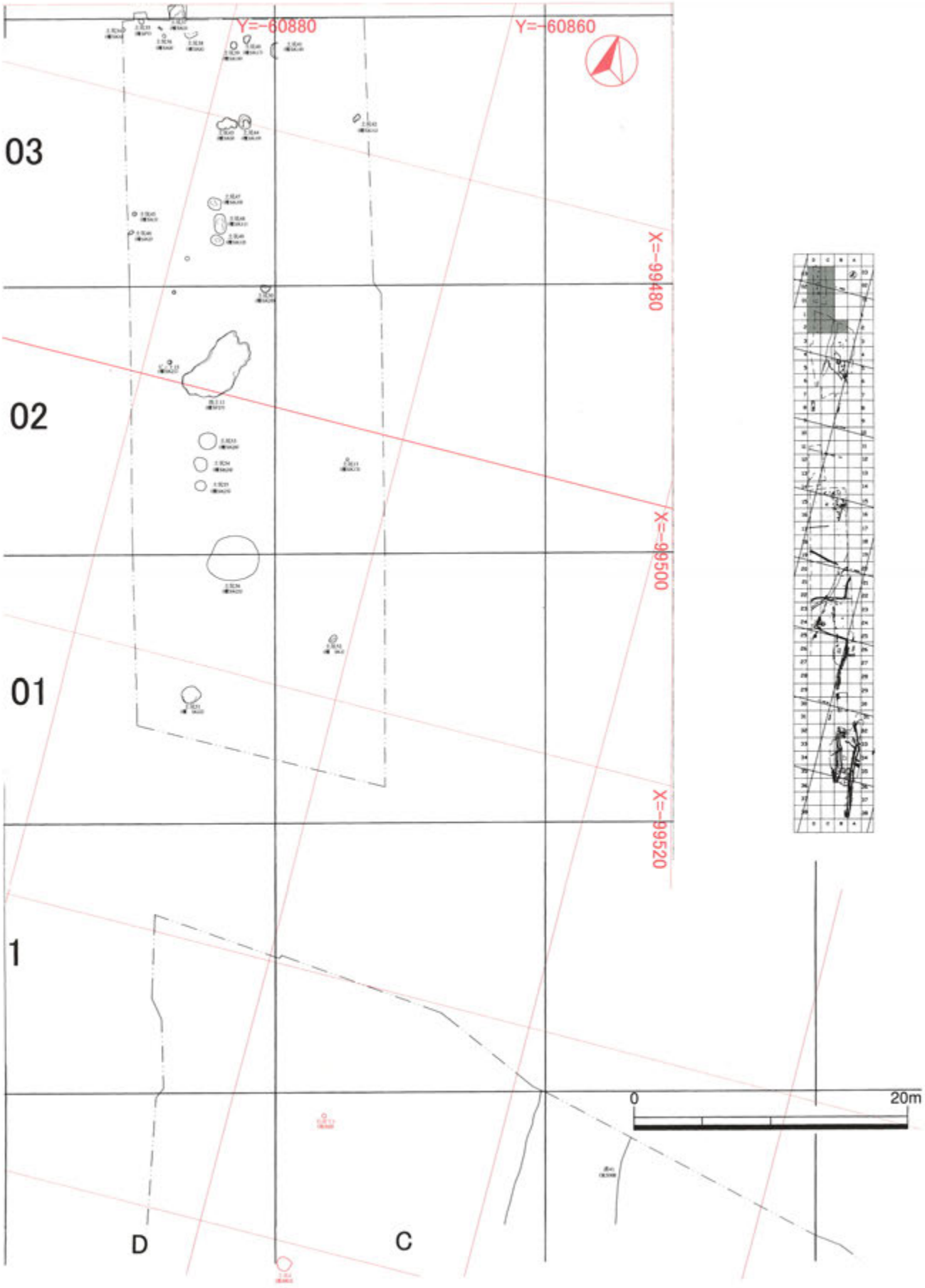
14区～16区にかけての東側は，古代前半の遺構や遺物が集中して出土し，この区域が当時の重要な地域であったことが窺える。縄文時代の遺構及び遺物もこの区域には多く，立地の上で共通した利点があったと考えられる。地形図をみると，この地点には谷が入り込まず，安定した微高地であったことが窺える。縄文時代後期終末の上加世田式土器が主体を占め，大坪遺跡で最古の生活痕跡はここにある。

19区～30区：大坪遺跡

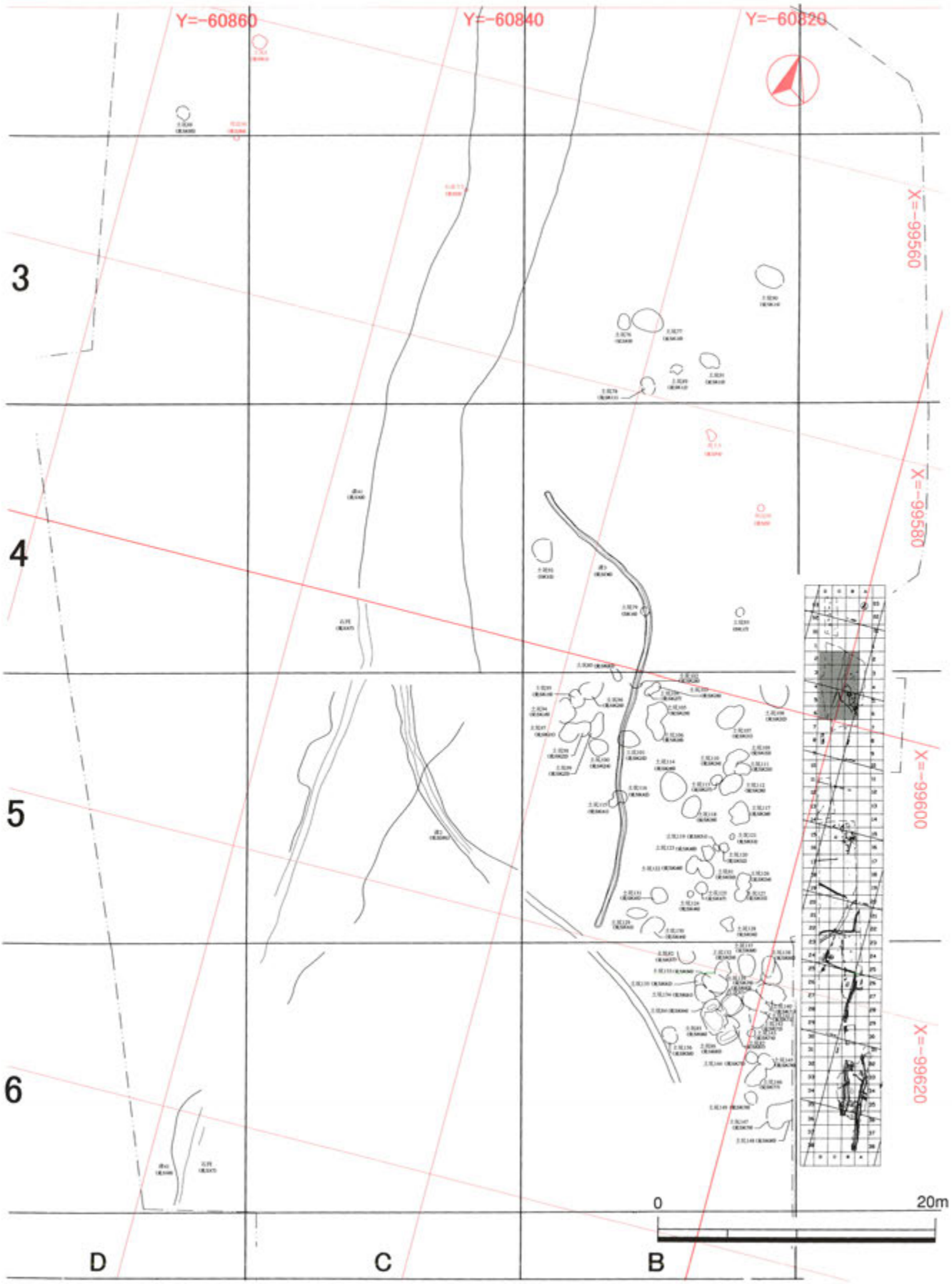
際立った遺構集中及び遺物点数はないものの，縄文時代・古代前半・古代後半～中世にかけて，それぞれの営みがあった区域である。縄文時代晩期前半の入佐式土器は24区周辺に，晩期中半から後半の黒川式土器は21区を中心に出土している。古代前半は22区～24区にかけて，生活痕跡がみられる。また，道跡と考えられる溝状遺構もあり，条里型地割施工前後の様相が窺える。

31区～38区：大坪遺跡

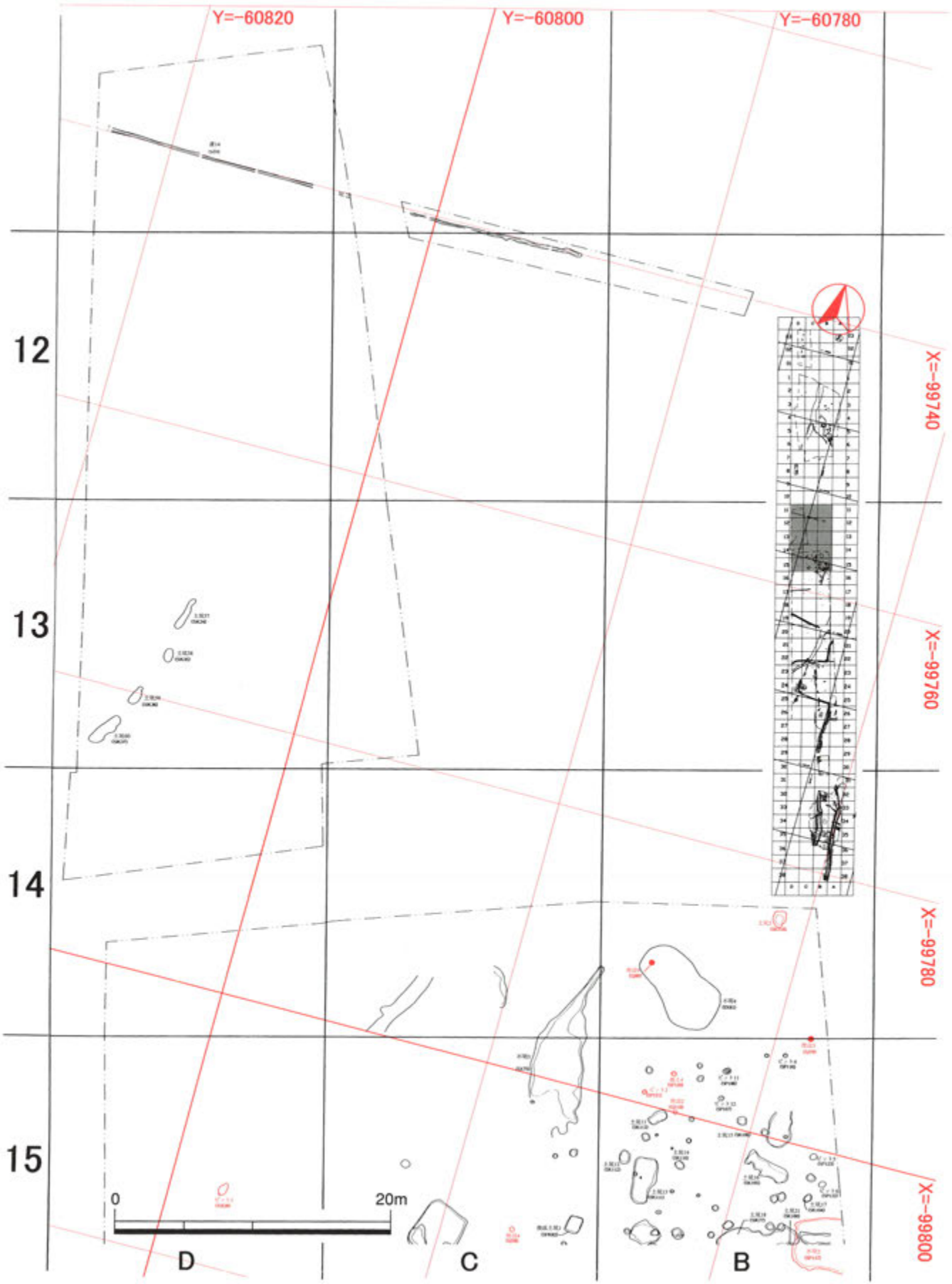
この区域では，古代後半から中世前半の生活痕跡が集中して確認できた。掘立柱建物跡及び道跡と考えられる溝状遺構の方向が２通りみられ，条里型地割の施工前と施工後の様相を窺うことができる。



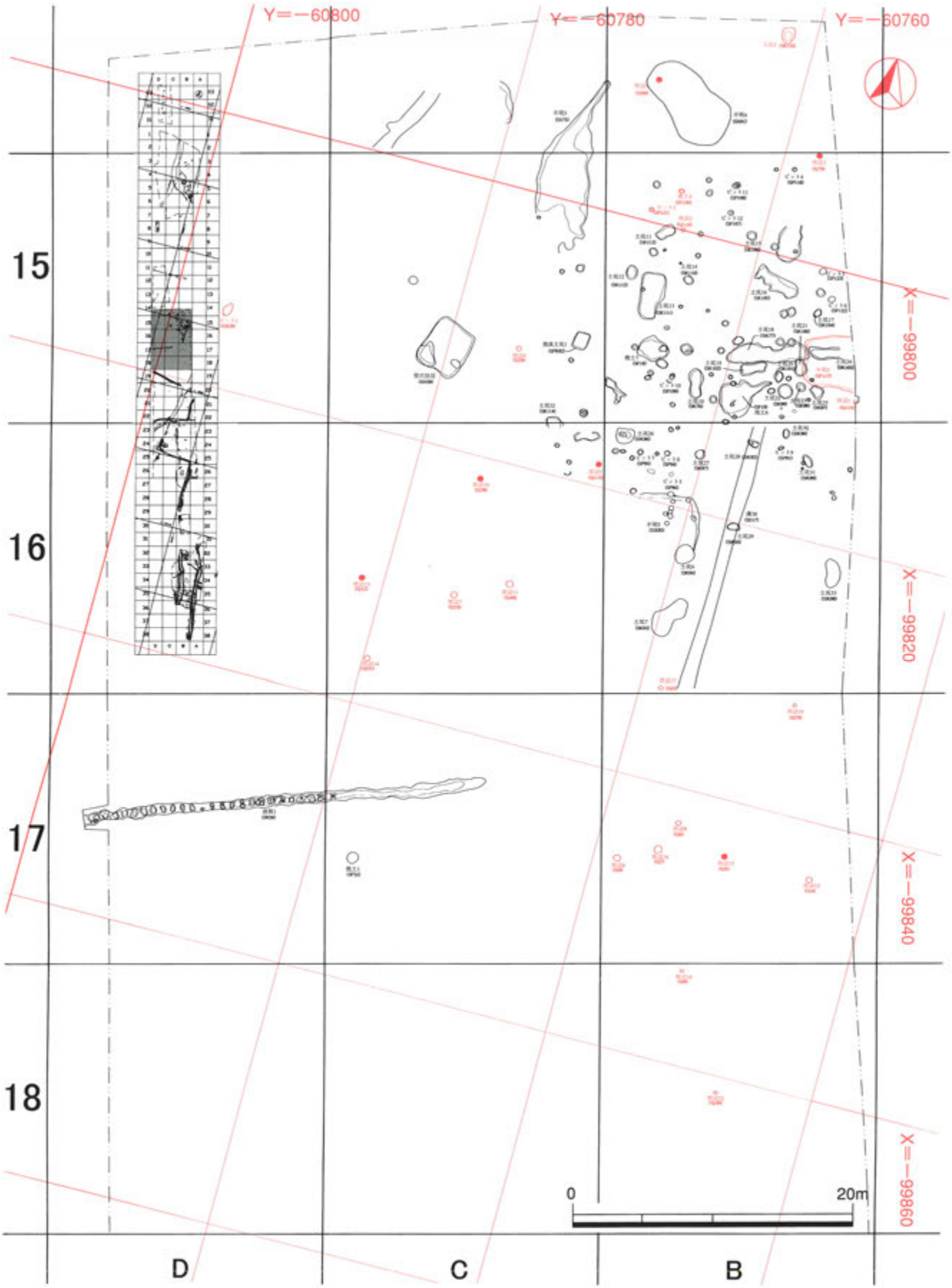
第10図　遺構配置図（１）03区～2区



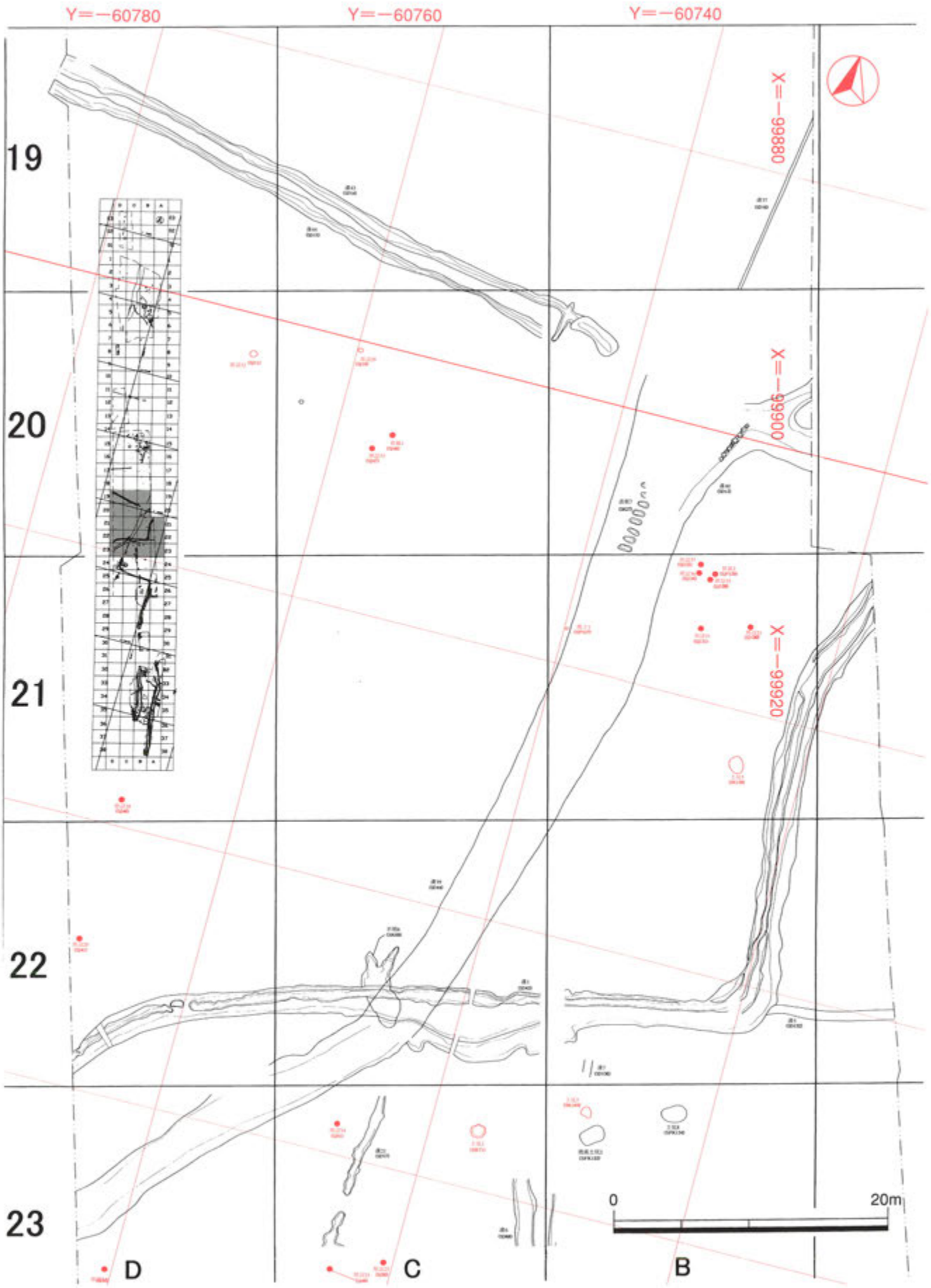
第11図　遺構配置図（2）2区～6区



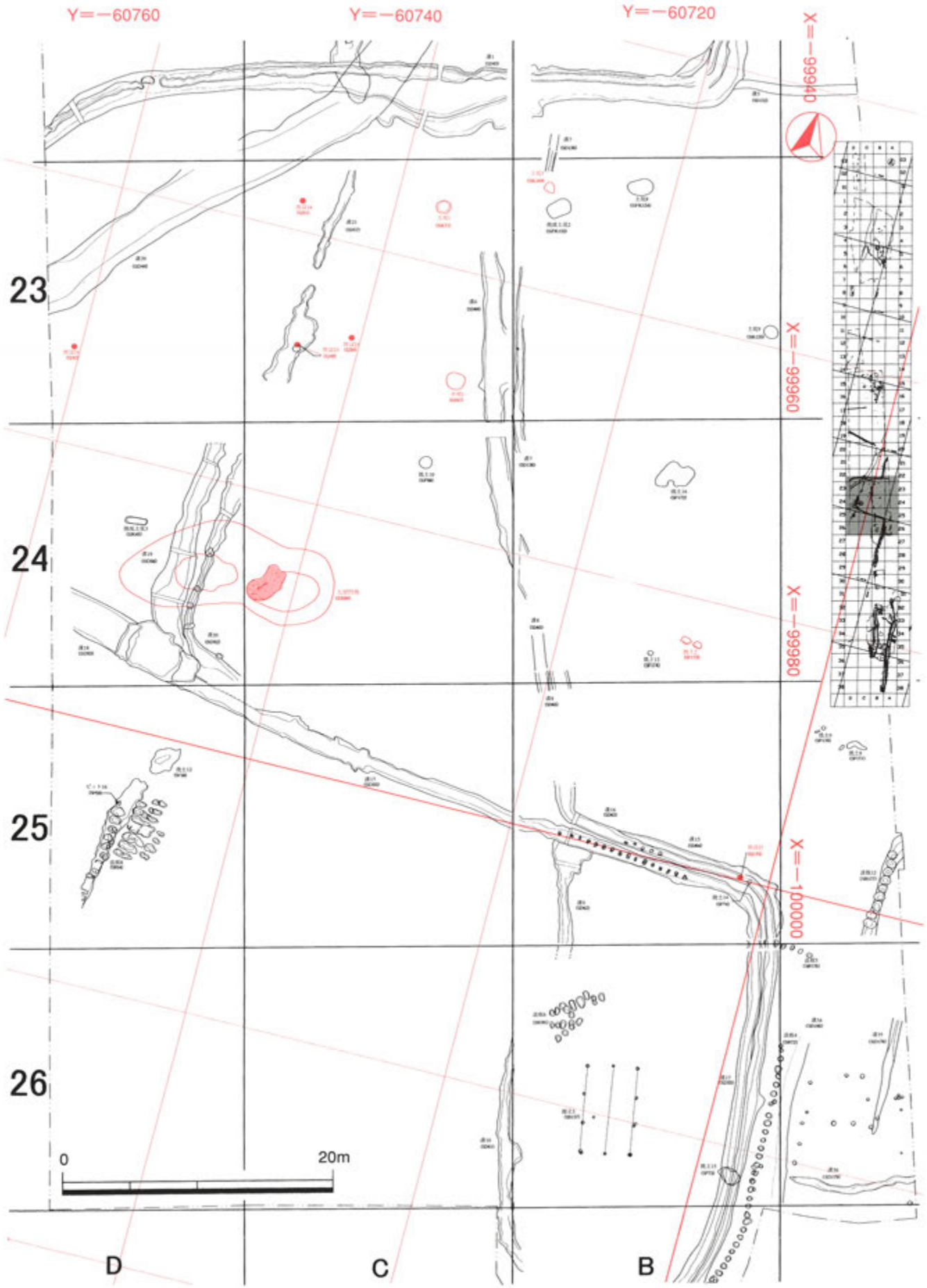
第12図　遺構配置図（3）11区～15区



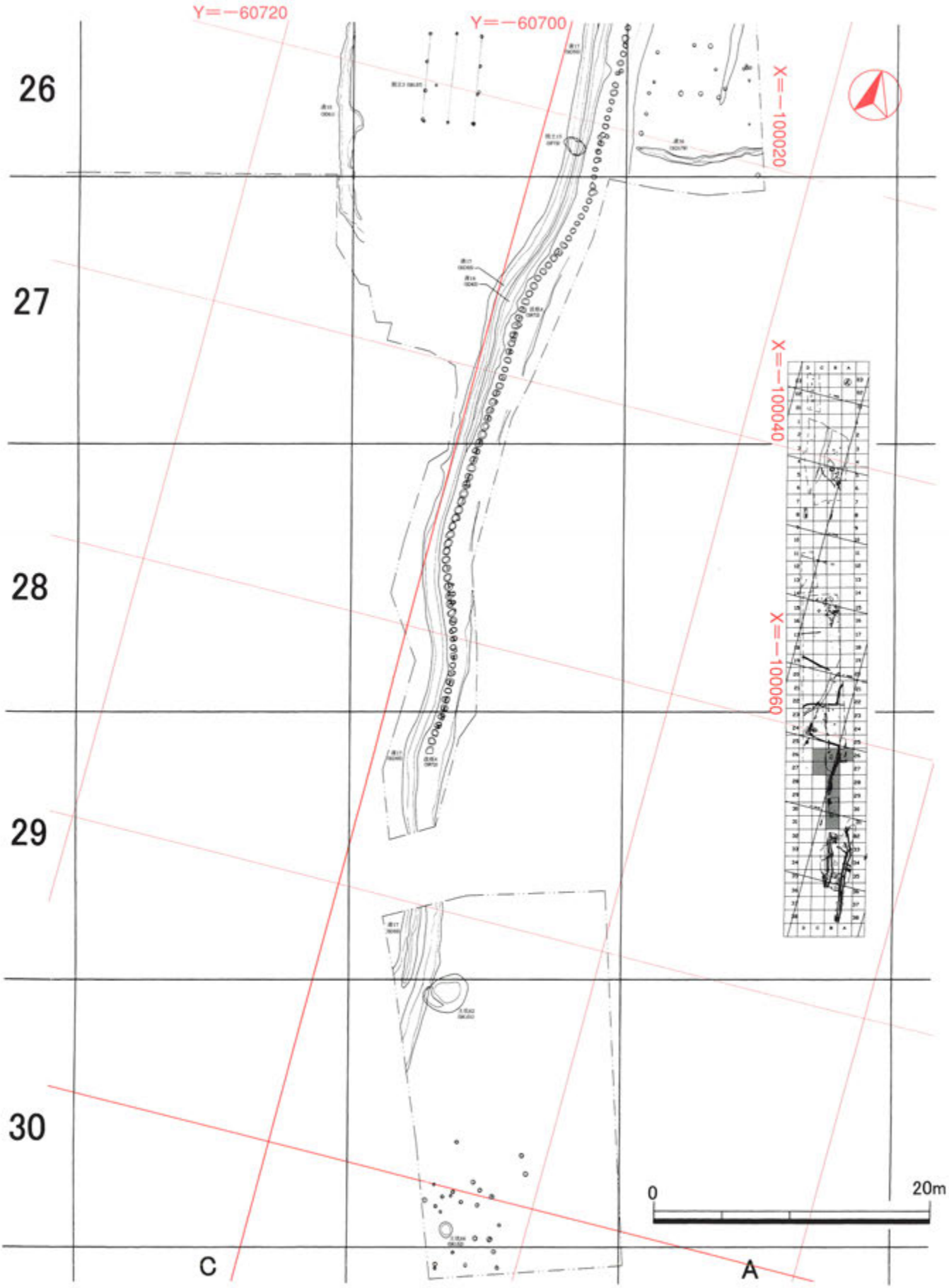
第13図　遺構配置図（4）14区～18区



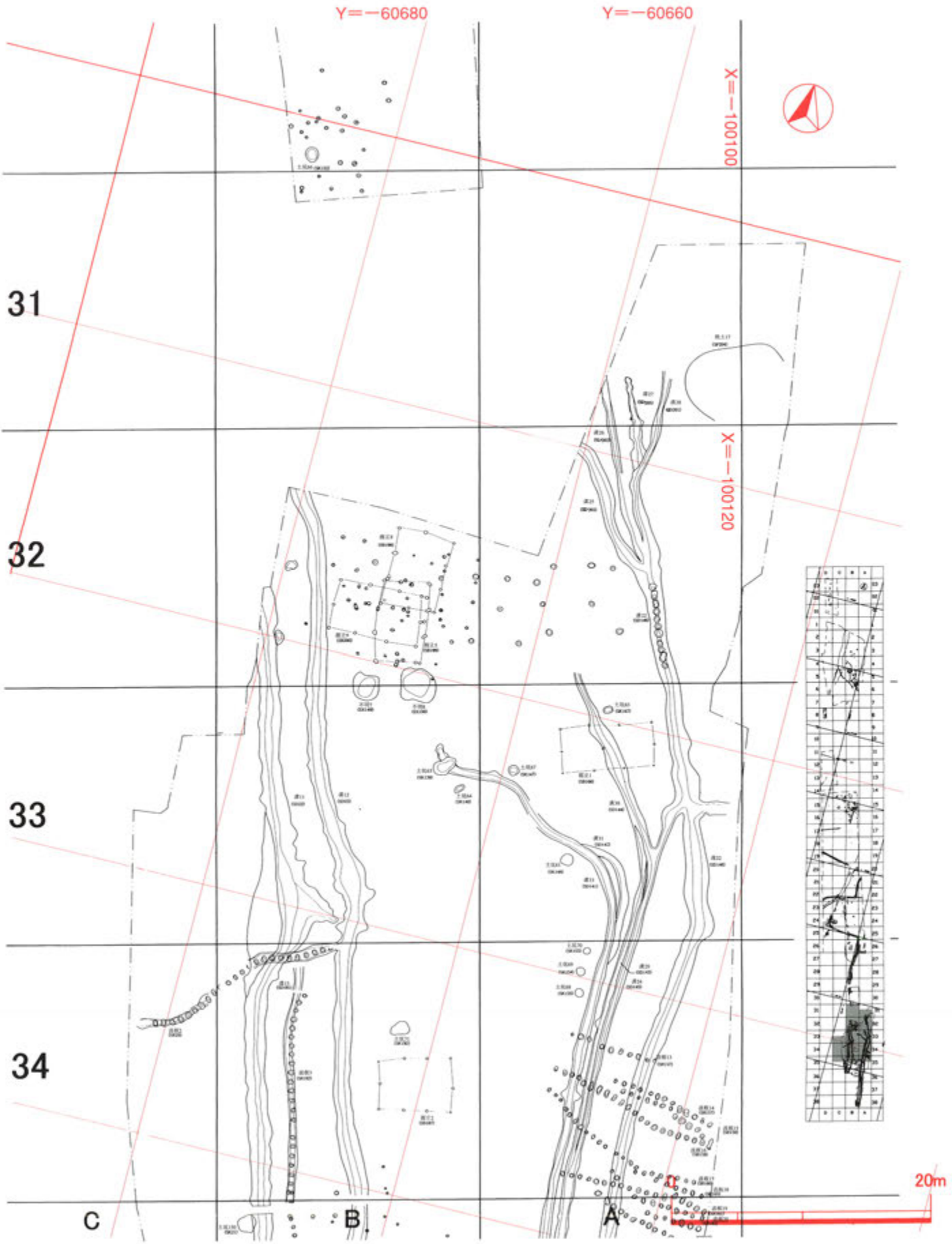
第14図　遺構配置図（5）19区～22区



第15図　遺構配置図（6）23区～26区

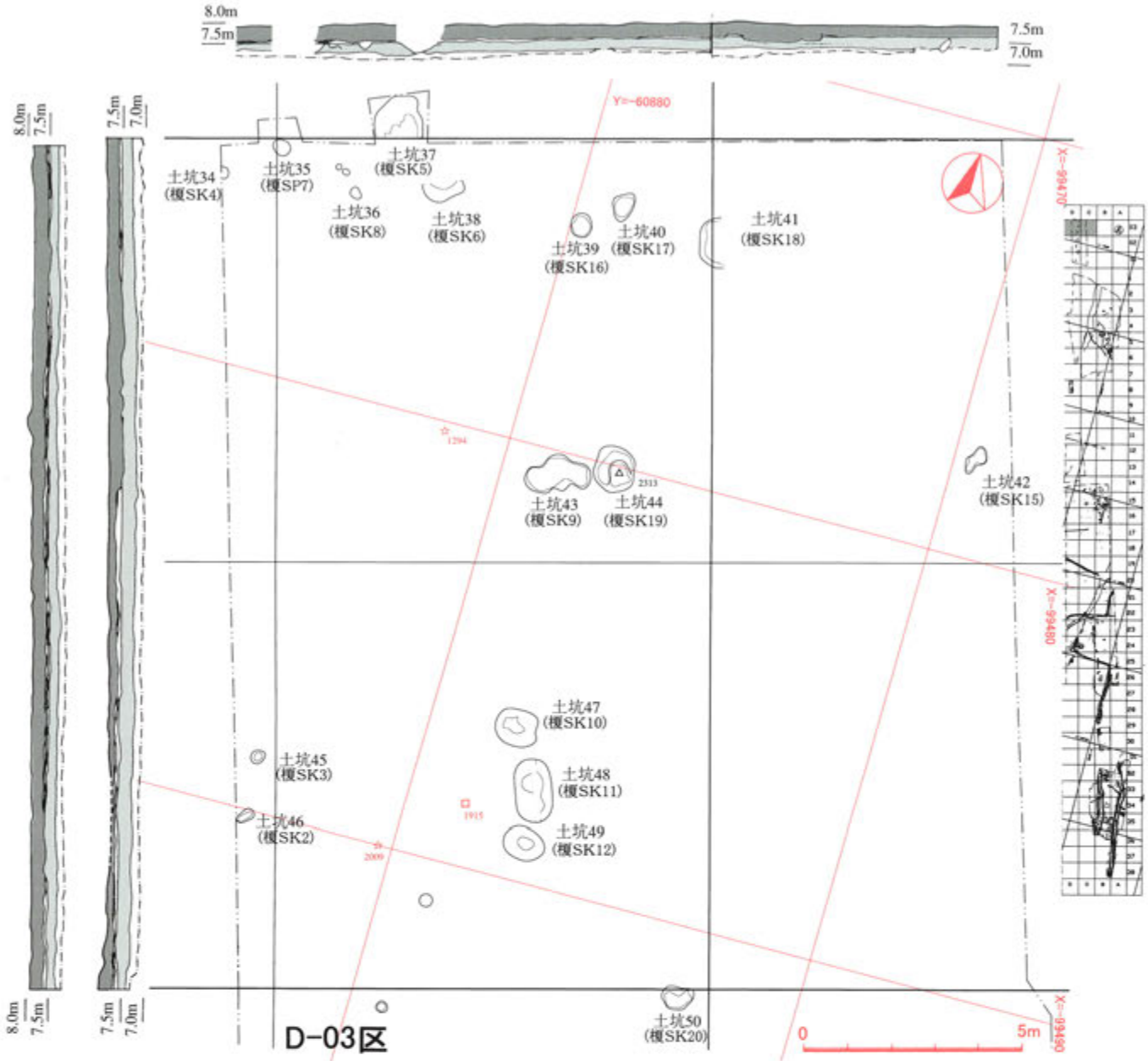


第16図　遺構配置図（7）27区～30区



第17図　遺構配置図（8）31区～34区

第18図　遺構配置図（9）35区～38区



第19図　遺構検出及び遺物出土状況（1）D・C−03区

D−03区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.56m，低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面では，６か所の樹根を確認した。

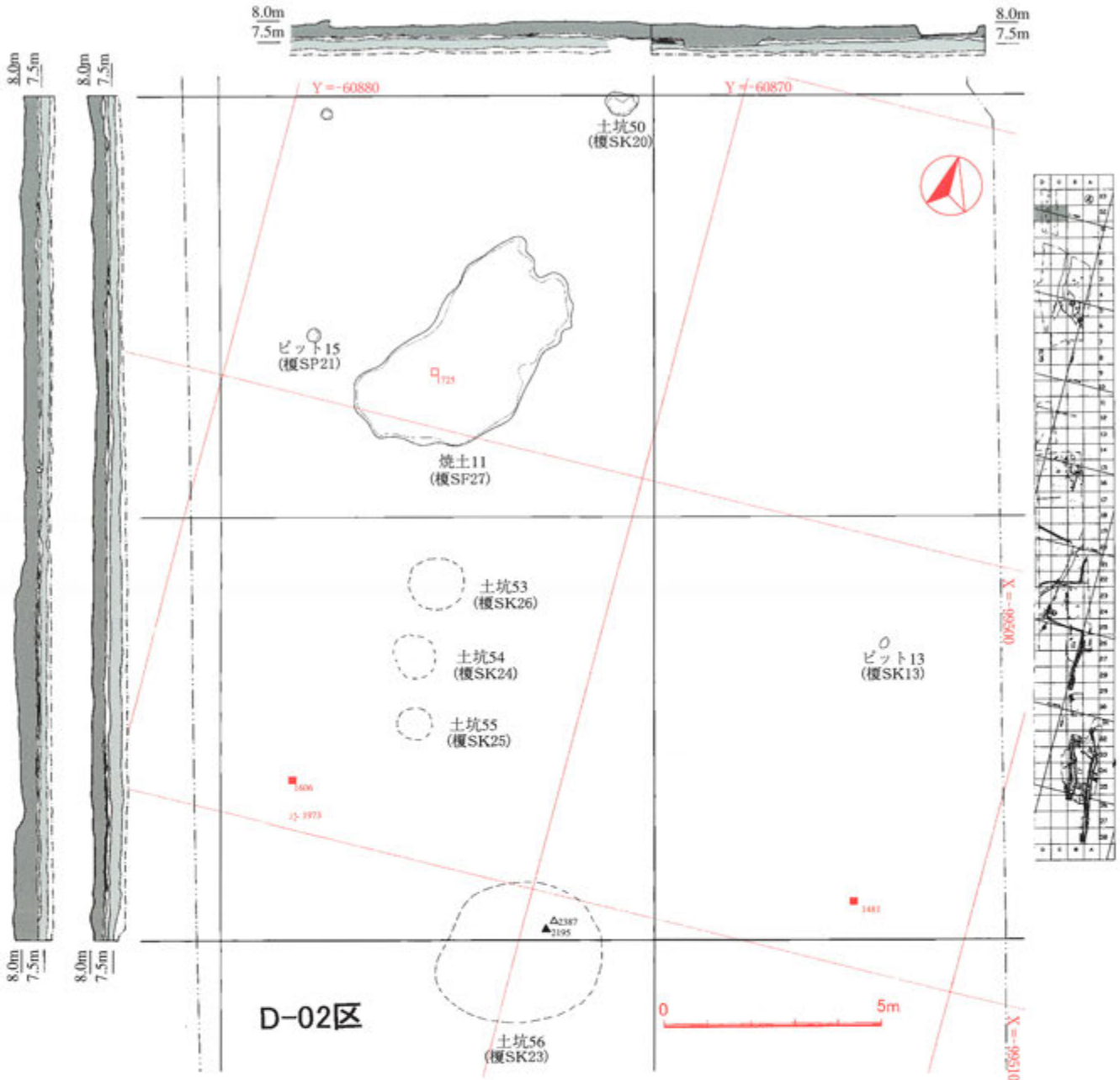
この範囲から，古代の土坑46（榎SK２）・45（榎SK３）・34（榎SK４）・37（榎SK５）・38（榎SK６）・36（榎SK８）・43（榎SK９）・47（榎SK10）・48（榎SK11）・49（榎SK12）・42（榎SK16）・40（榎SK17）・44（榎SK19）・35（榎SP７）を検出した。榎木田遺跡の範囲内では最も遺構が集中した地域であり，北側にも広がることが予想された。しかし，確認調査を踏まえて設定された範囲であり，溝状遺構と違って連続性を強調することが出来ない遺構であるので，各遺構を完掘するにとどまった。

遺物の出土状況は，西寄りに広がっており，縄文時代の石器類が出土している。

C−03区

北側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.64m，低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の0.7m～2.5mの地点は，10年度の確認調査のため削平を受けていた。

この範囲からは，古代のものとも思われる土坑42（榎SK15）・44（榎SK19）を検出した。遺物の出土状況は，散漫で少なかった。



第20図　遺構検出及び遺物出土状況（2）D・C－02区

D-02区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.6m，低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱc層とした。

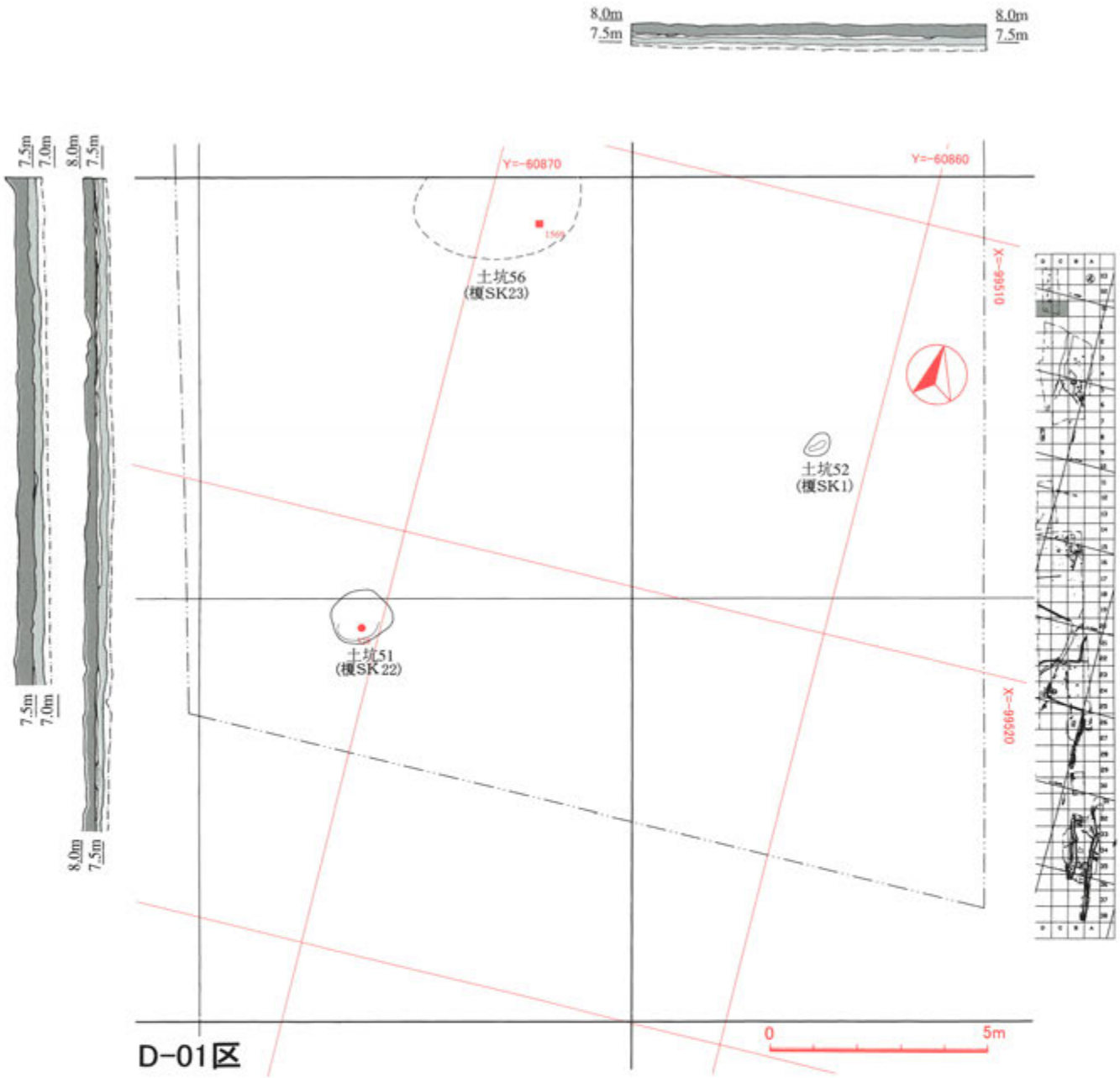
この範囲から，古代のピット14（榎SK14），土坑50（榎SK20）・56（榎SK23）・54（榎SK24）・55（榎SK25），古代のものと思われるピット15（榎SP21），同じく古代のものと思われる焼土を伴う土坑11（榎SF27）を検出した。

遺物の出土状況は，比較的少ないが，南北に広がっており，点在する形で出土している。縄文時代の石器や古代の土師器がある。

C-02区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.68m，低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の0.7m～2.4mの地点は，平成10年度の調査の確認トレンチのため，削平を受けていた。また，6.2m～7.7mの地点も削平を受けていた。

この範囲から，古代のピット13（榎SK13）を検出した。遺物の出土状況は，南北に広がって出土している。



第21図　遺構検出及び遺物出土状況（3）D・C－01区

D-01区

西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.6m，低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況からⅡc層とした。Ⅱ層の堆積は薄く，この壁面でⅡ層は11.6m中1.34mしかなく，厚さ4cm～8cmしか確認できなかった。

この範囲から，古代の土坑51（榎SK22）・53（榎SK26）を検出した。

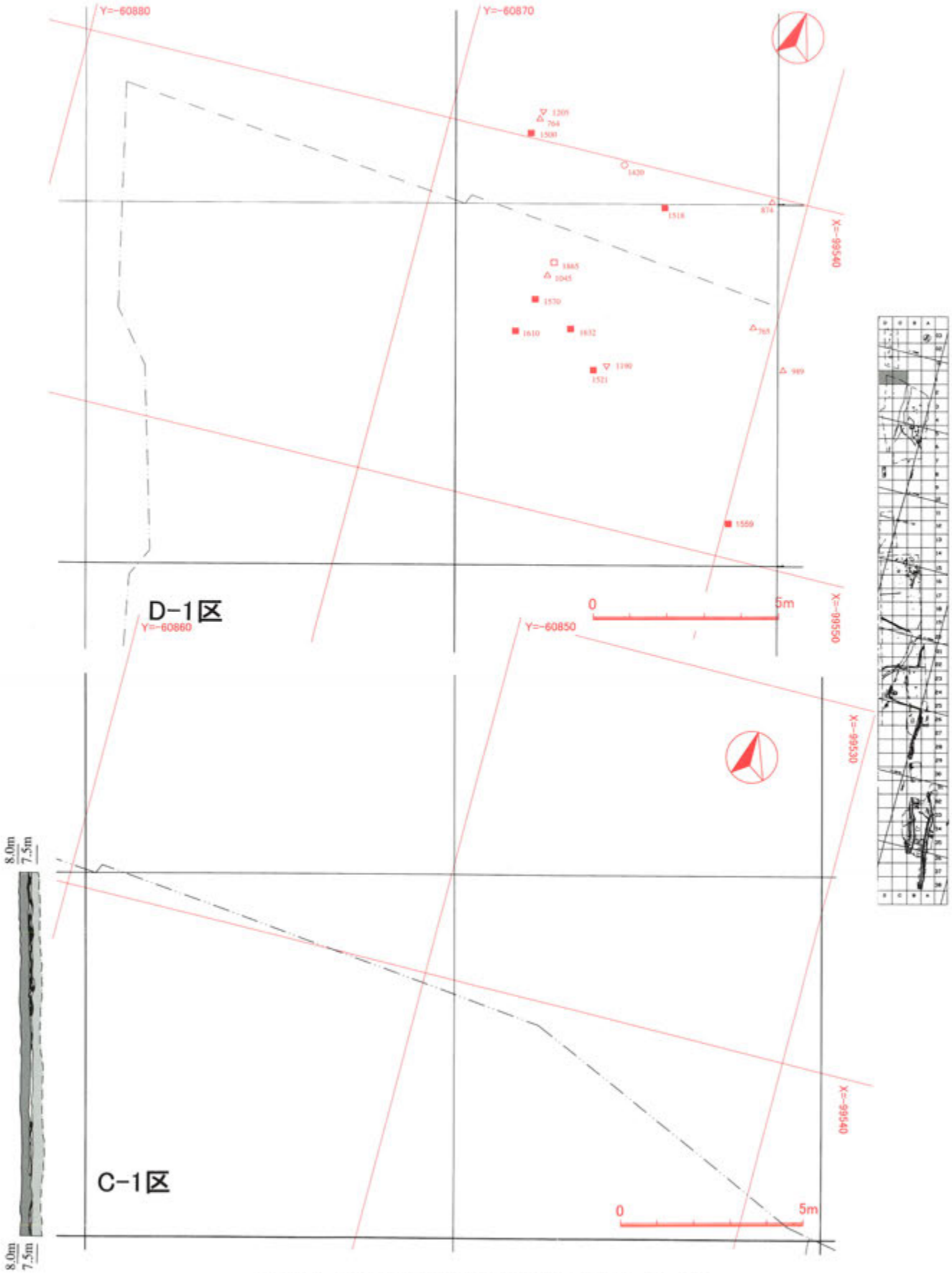
遺物の出土状況は，南側に多く，特に集中して出土している。縄文時代の石器類が出土した。

C-01区

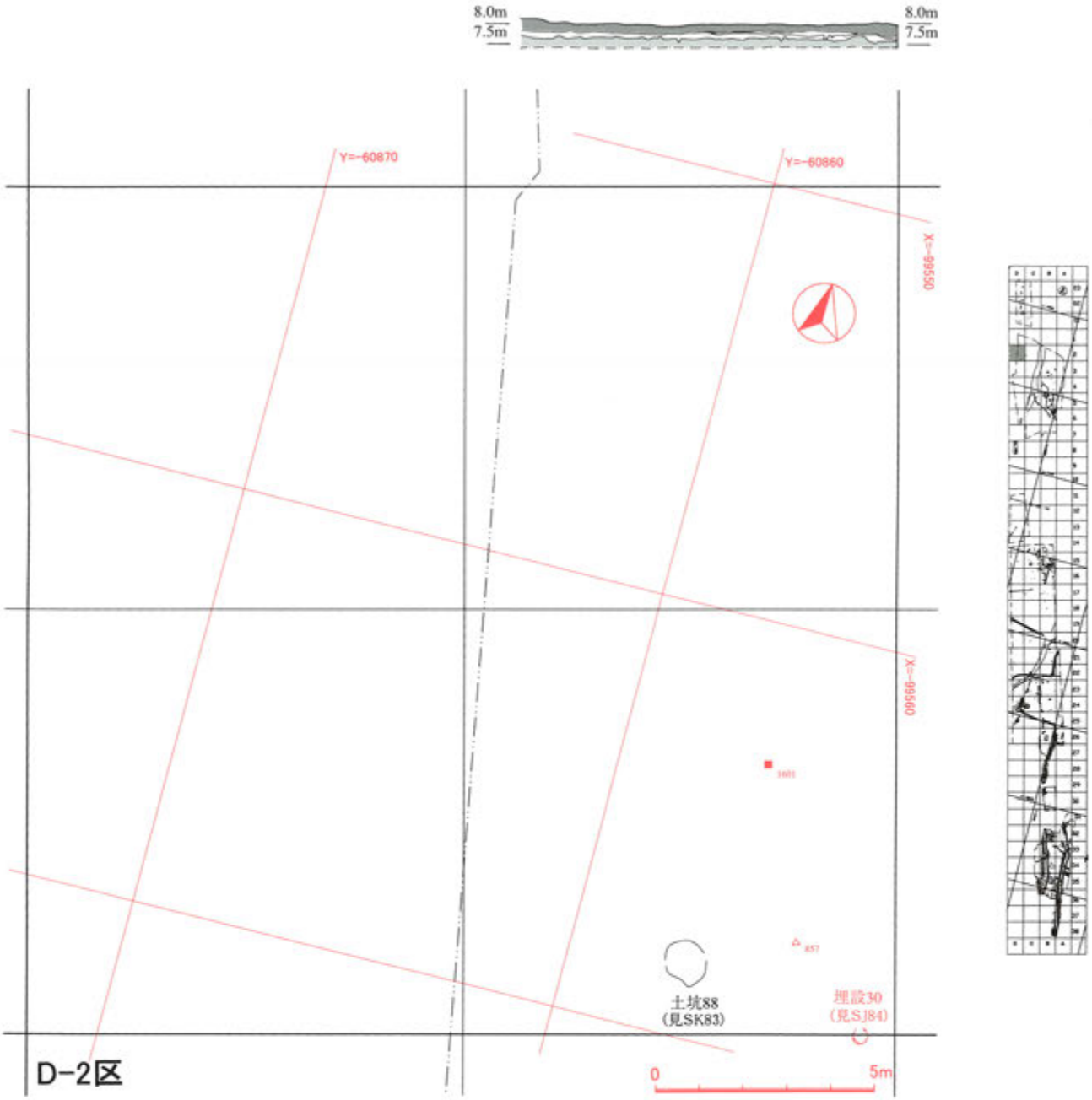
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.6m，低い所で7.52mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱc層とした。西側壁面の0～4.5mの地点には，現在も当地域で使用される排水溝があったため，調査ができなかった。

この範囲から，古代の土坑52（榎SK1）を検出した。

遺物の出土状況は，比較的出土遺物は少なく，南側からの出土が多い。縄文時代の石器類が出土した。



第22図　遺構検出及び遺物出土状況（4）D・C－1区



第23図　遺構検出及び遺物出土状況（5）D－2区

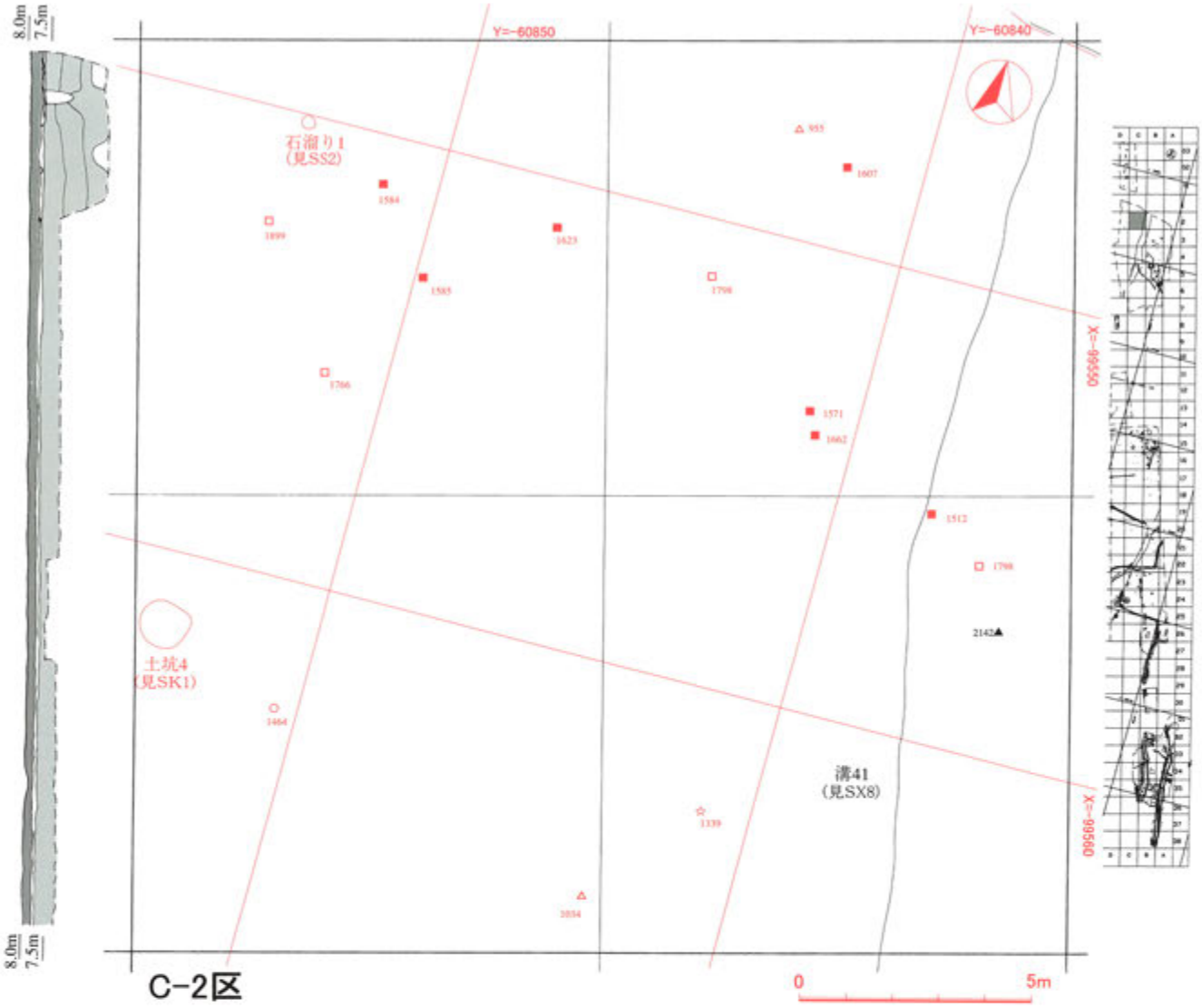
D－1区

市道部分及び西側は調査区域外である。水田耕作の関係でこの区の調査は平成11年11月に実施した。この範囲からは，遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況は濃密で，縄文時代の石製土掘具や石匙，石鏃等の石器が，調査区域全般から多量に出土している。

C－1区

今回の発掘調査で最初に掘り下げを始めた場所である。北側壁面のⅢ層上面の標高は7.6mである。北側は市道であり，調査区域外である。この範囲からは，遺構・遺物とも検出されなかった。元々は丘陵部の裾部であり，次第に東側へ高まっていたのが，水田開発により水平を保つために高い部分が削平されたものと考えられる。



第24図　遺構検出及び遺物出土状況（6）C－2区

D－2区

北側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.8m，低い所で7.7mである。西側は調査区域外であった。北側壁面のⅡ層はその堆積状況から，Ⅱ・Ⅱb層とした。

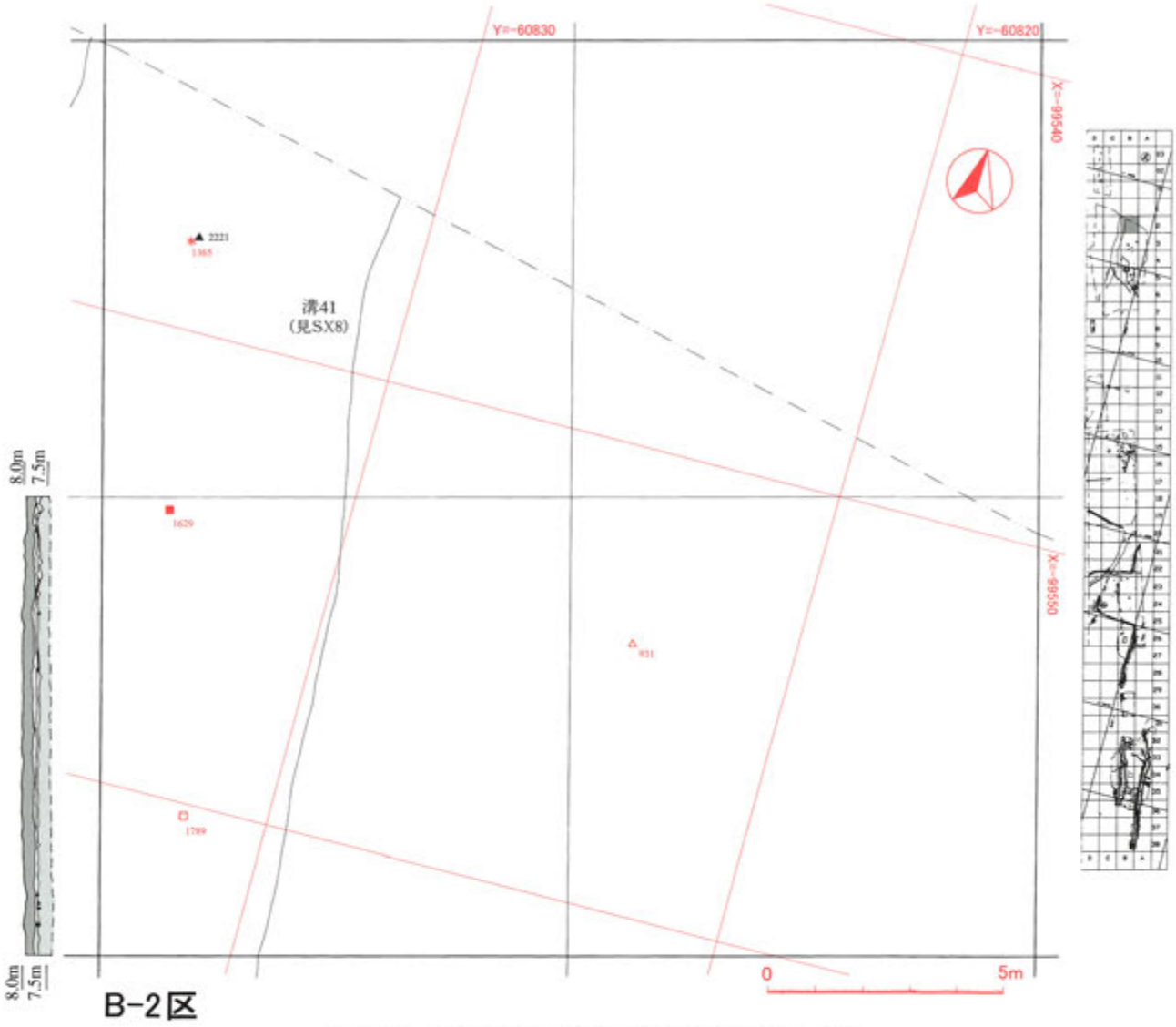
この範囲から，縄文時代後期終末から晩期のものと思われる埋設土器30（見SJ84）を検出した。この遺構は，D-3区にもまたがっていた。また，中世後半のものと思われる土坑88（見SK83）を検出した。この埋土はⅢ層と同質であり，わずかに炭化粒を含んでいる。形状や規模及び埋土の状況とも，見入来遺跡にある他の多くの土坑と一緒であり，中世後半～近世前半頃のものであると考えられる。1基のみ離れている理由は不明であるが，他の土坑の使われ方がわかってくると，この区における当時の利用方法が明らかになってくると考える。

この区からは，縄文土器と石器類，それに土師質と考えられる土器が出土した。遺物の出土状況は，調査区域全般から多く出土している。

水田耕作の関係でこの区の調査は平成11年11月に実施した。

C－2区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.72m，低い所で7.52mである。西側壁面のⅠ層は，その堆積状況から，Ⅰ・Ⅰb層とした。西側壁面18.12m～19.76m地点のⅡ層下部に，特徴のある層を確認したので，Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc層と細分した。それぞれの特徴は，Ⅱa層は汚灰色土でしまりがあって柔らかい。Ⅱb層は灰色弱粘質土でしまりがあってかたく，鉄分マンガン分はみられない。Ⅱc層は灰褐色粘質土であり，基本的にはⅢ層と同じであり他の場所に比べて茶色味が強く，炭化粒子



第25図　遺構検出及び遺物出土状況（7）B－2区

がわずかに含まれている。しまりがあって固い層である。

また，深掘りした西側壁面の16.6mの地点から19.76mの地点のⅢ層下部に，茶灰褐色シルト質土の層が厚さ約50cmで堆積し，粘質が弱く，しまりがあって固い。その下の乳茶色粘土層の中に，厚さ30cmのしまりがあるが柔らかい淡青灰色粘質土の層とシルト質でしまりがなく柔らかい濃灰青色弱粘質土の層を確認した。北側は礫が多くあり，砂も多く，昭和40年代以前は川であった様である。

この範囲から，縄文時代晩期のものと思われる土坑４（見SK１）と石溜り１（見SS２）を検出した。土坑４はちょうど西壁面に接して検出されたので，西側半分についてはD－２区を掘り下げた平成11年11月に調査を行った。

遺物の出土状況としては濃密であり，石製土掘具や磨石，石鏃等石器類を中心に全般的な範囲から多量に出土している。特に石製土掘具の比率が高い。

B－２区

西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.74m，低い所で7.58mである。南から１m～9.26mの地点のⅠ層とⅢ層の間に，多量の石を含む灰色土の層を確認した。西側は昭和40年代以前には川であった様である。川の境は明確な段はなく，漸次砂や礫が多くなっていった。この範囲からは他の遺構は検出されなかった。1.42mの地点の灰色層とⅢ層の間に土器片を，2.4m～2.6mの地点Ⅲ層上面で黒曜石を検出した。

遺物の出土状況は，南側が濃密であり，特に南西側からの出土が多い。この様な状況から，北東よりはかつて標高が高く，後世の水田開発に伴い削平されたものと考えられる。

A－２区

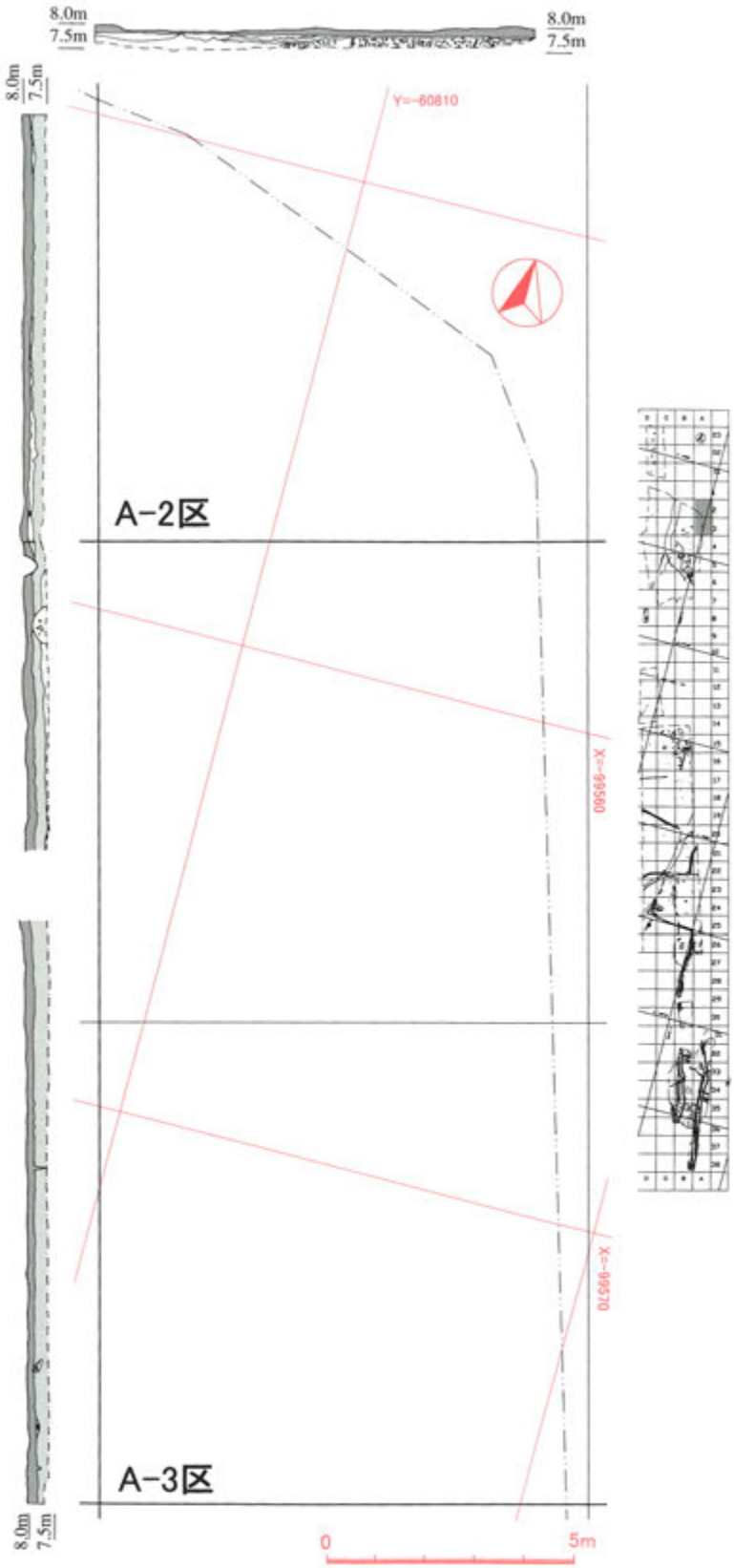
西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.82m，低い所で7.62mである。この範囲の北側及び東側は，調査区域外となるで，北側壁面の断面は調査しなかった。

この範囲からは，遺構は検出されなかった。遺物の出土状況としては，調査区域範囲内の南西側から点在する形で出土している。後世に削平を受けた部分だと考えられる。

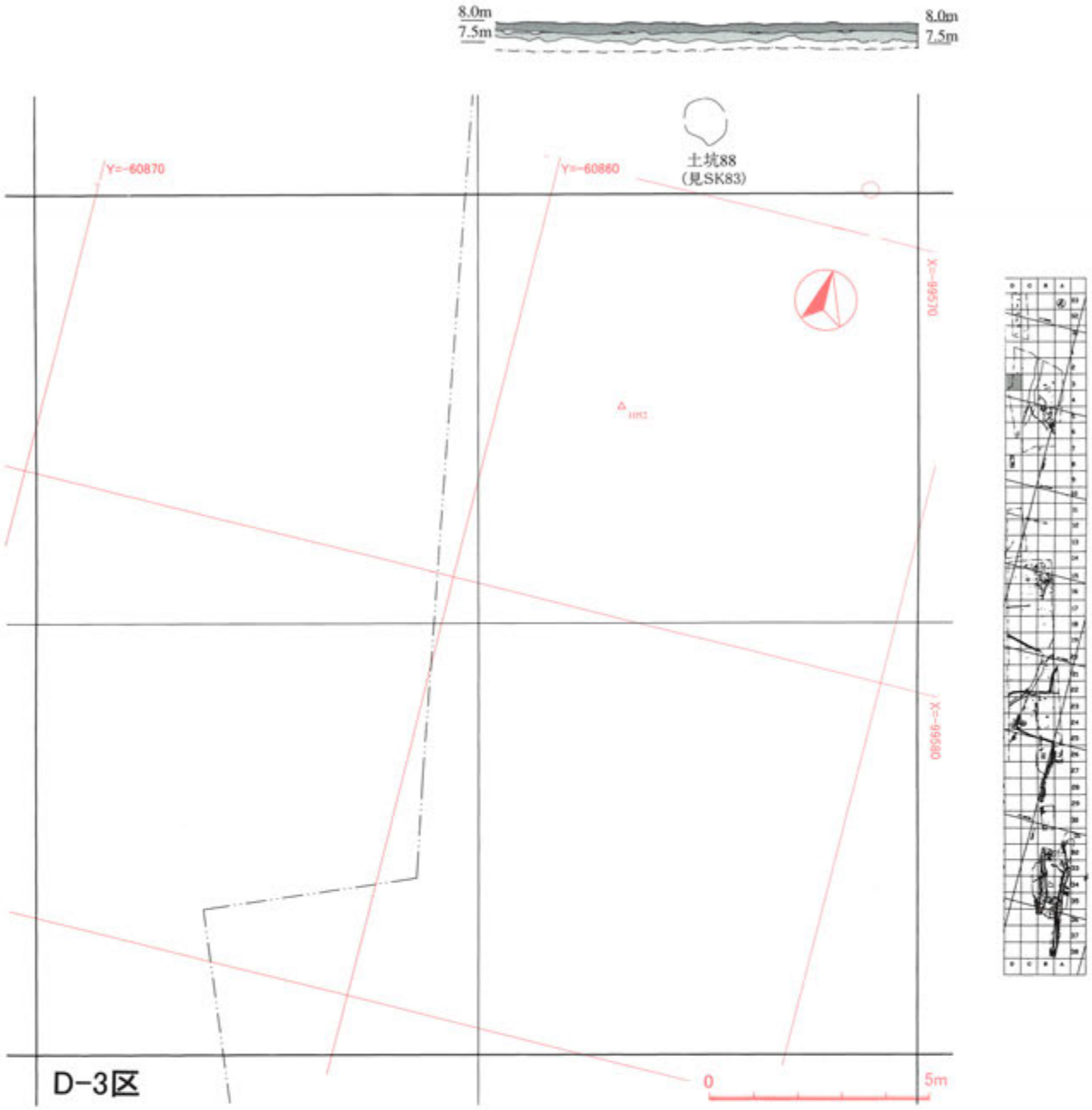
A－３区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.9m，低い所で7.7mである。北側壁面3.66m～9mの地点のⅢ層下部に，幅5.34m，厚さ約24cmの直径５mm～120mmほどの礫がつまっている砂礫層が確認された。この礫の間は，しまった砂土であった。西側壁面1.4m～1.8mの地点のⅢ層上部にかけて，幅40cm，厚さ約８cmの灰色土の埋土が確認され，この中から石斧を検出したことから，何らかの遺構ではないかと考えられるが，具体的に確定することはできなかった。西側壁面18m～18.65mの地点Ⅰ層下部に，幅65cm，厚さ約28cmの範囲で直径５mm～100mmほどの礫が集中するしまった砂質土の層が確認された。同じく西側壁面19.3m～19.7mの地点では，幅40cm，深さ約24cmの範囲で，溝によって撹乱されていた。この範囲からは，遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況は，西側からしか出土しておらず，しかも点在する形である。



第26図　遺構検出及び遺物出土状況（8）Ａ－２・３区

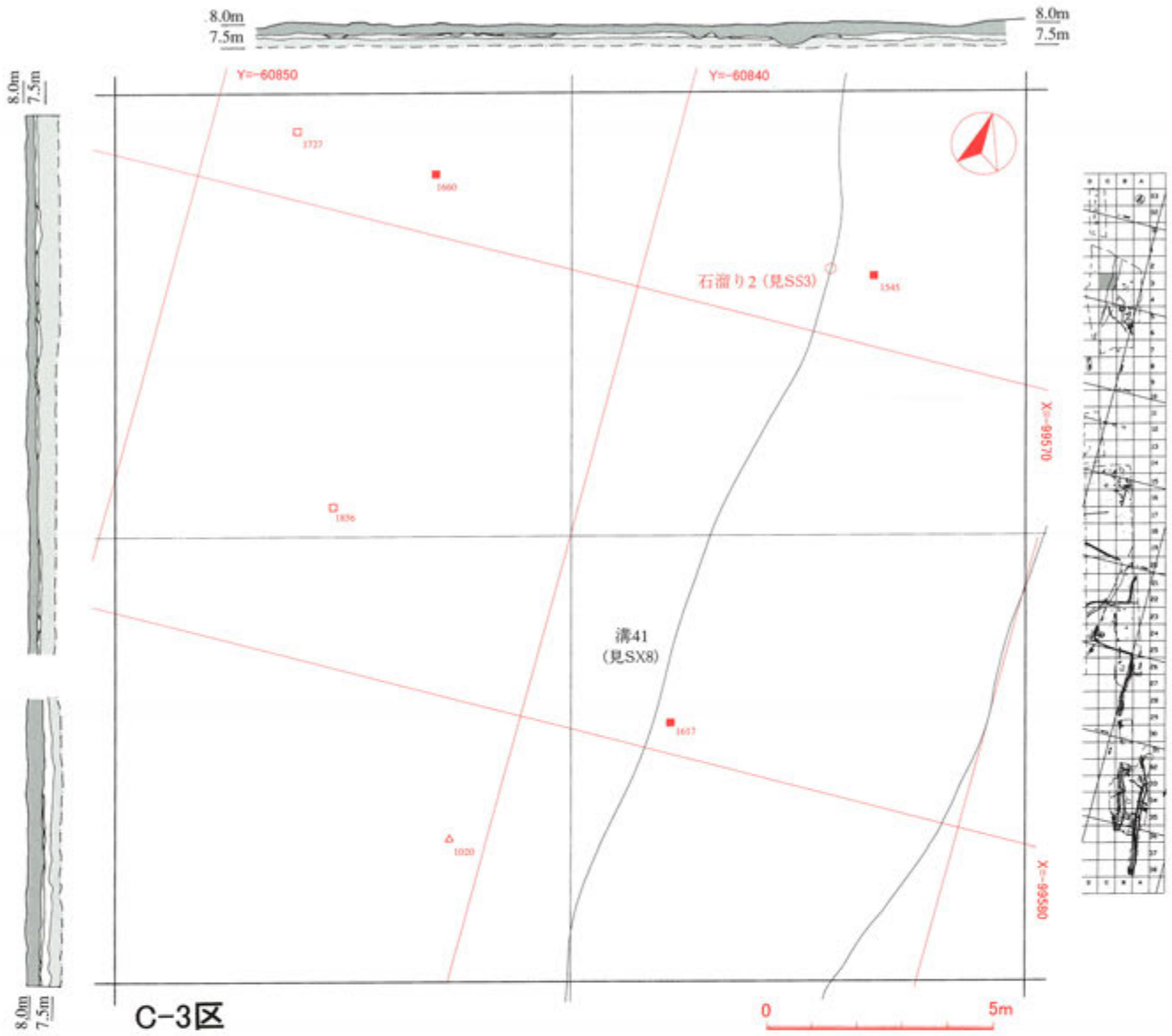


第27図　遺構検出及び遺物出土状況（9）D－3区

D－3区

北側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.76m，低い所で7.7mである。Ⅱ層の堆積状況は薄く，全般的に10.42m～11.6mの地点(幅1.18m,厚さ８cm)，12.9m～13.44mの地点（幅54cm，厚さ8cm），16.1m～16.5mの地点（幅40cm，厚さ4cm）の部分でしか確認できなかった。この区域では，Ⅲ層の途中から拳大の礫が多くなった。

北側壁面を精査中，縄文時代後期終末から晩期の土器の肩部付近が確認できたので，セクションベルトを丁寧に崩しながら掘り下げると，D－２区にまたがる埋設土器30（見SJ84）が検出された。遺物の出土状況は，北東側が濃密で，ここから多く出土している。



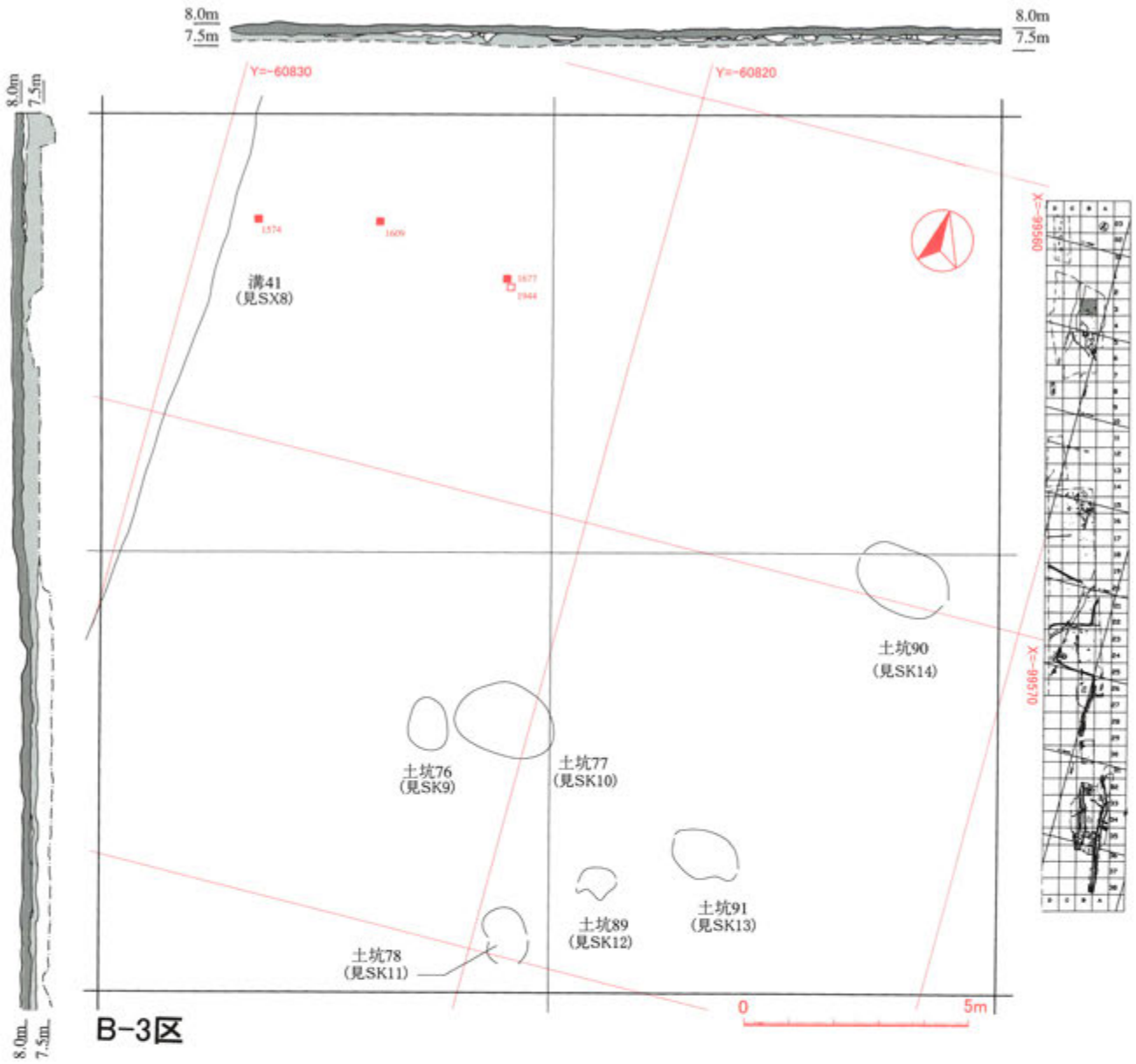
第28図　遺構検出及び遺物出土状況（10）C－3区

C－３区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.7m，低い所で7.4mである。西側壁面のⅡ層はその堆積状況から，Ⅱ・Ⅱb層とした。

東側の大半は昭和40年代の川跡があった場所である。その近くで，縄文時代晩期のものと考えられる石溜り２（見SS３）を検出した。この遺構の礫は砂岩及び安山岩で構成されていた。

この範囲の遺物の出土状況は，石製土掘具や磨石，石鏃等石器類を中心に，全般的に広がっている。特に，東側と西側周辺部から，やや多く出土している。



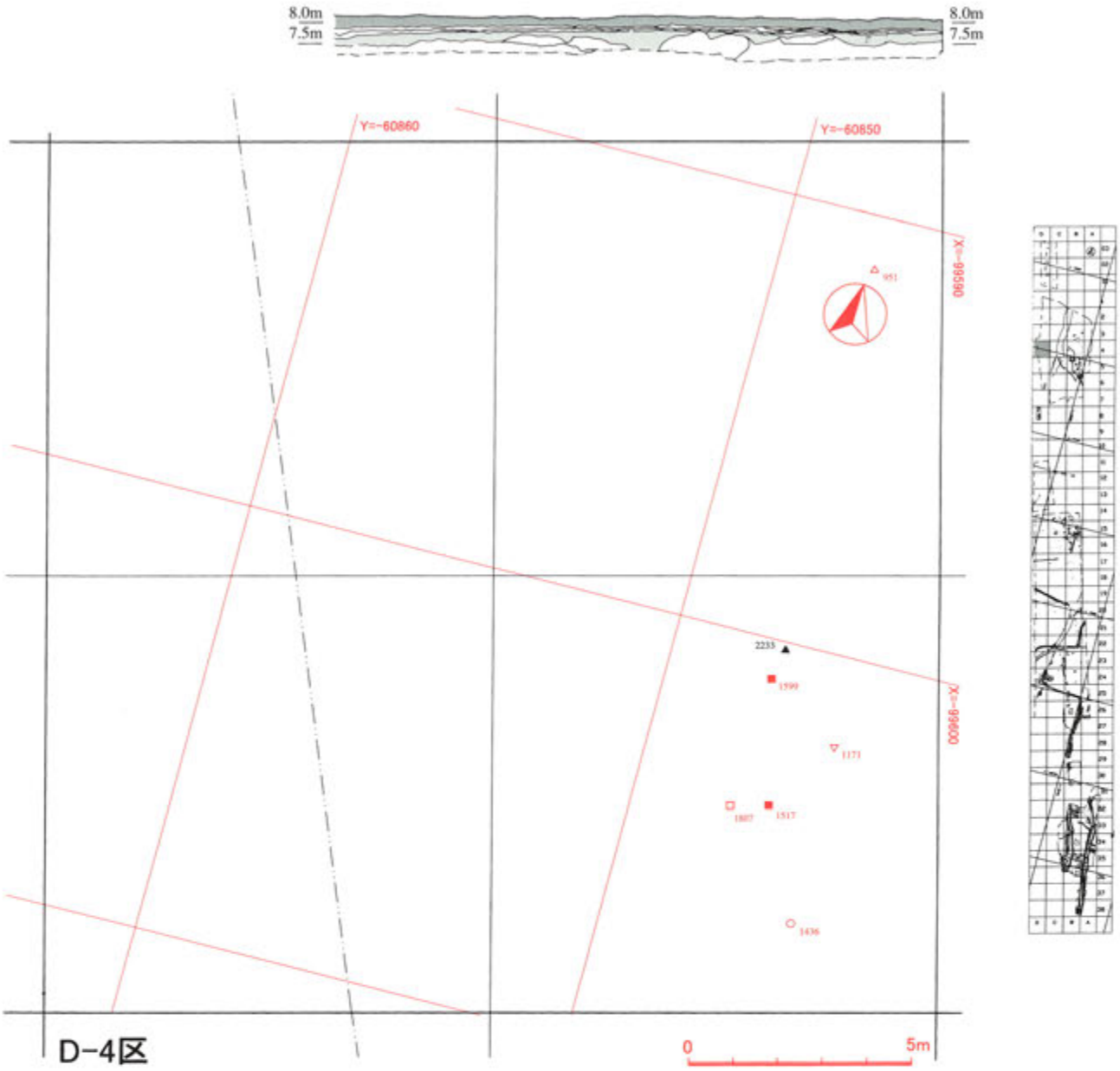
第29図　遺構検出及び遺物出土状況（11）B－3区

B－3区

西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.91m，低い所で7.76mである。Ⅰ層はその堆積状況から，Ⅰb層とした。Ⅱ層は1.7m～1.9mの地点で幅20cm，厚さ約4cm，17.4m～18.4mの地点で幅1m，厚さ約4cmしか存在しないことから，後世に削平を受けていたことが考えられる。17.04m～17.4mの地点で，Ⅰ・Ⅱ層とⅢ層の間に，幅40cmで厚さ約5cmの灰色土の層を確認した。北西側は昭和40年代以前の川跡である。

南側半分から，中世後半のものと考えられる土坑76（見SK9）・77（見SK10）・78（見SK11）・89（見SK12）・91（見SK13）・90（見SK14）を検出した。埋土は，青灰褐色シルト質土であった。土坑77の中からは，多くの礫を検出した。これらの土坑の使途は不明である。

遺物の出土状況は，縄文時代の遺物が北側の方に多く，特に北西側で集中して出土している。石製土掘具が目立つ。



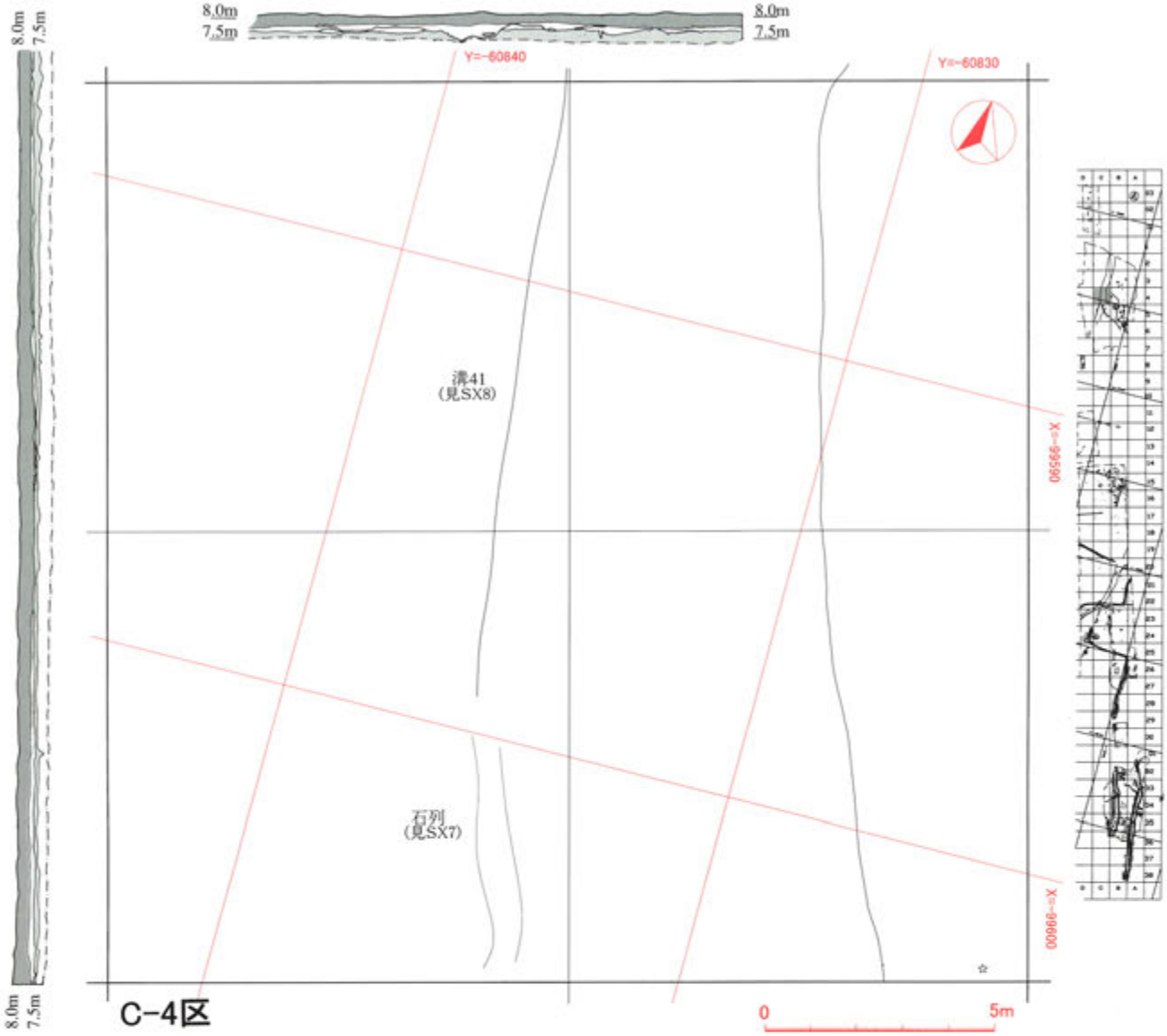
第30図　遺構検出及び遺物出土状況（12）D－4区

D－4区

北側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.8m，低い所で7.64mである。Ⅰ層はその堆積状況から，Ⅰ・Ⅰb層とした。Ⅲ層の下部に砂礫層が堆積している部分を確認した。

この範囲からは，遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は，東側より点在する形で出土している。

Ⅴ層の礫層が上面まで浮いて出てきている場所がみられ，Ⅲ層上面でも一様ではない。遺物は東側に寄って出土した。特に石製土掘具が目立つ。

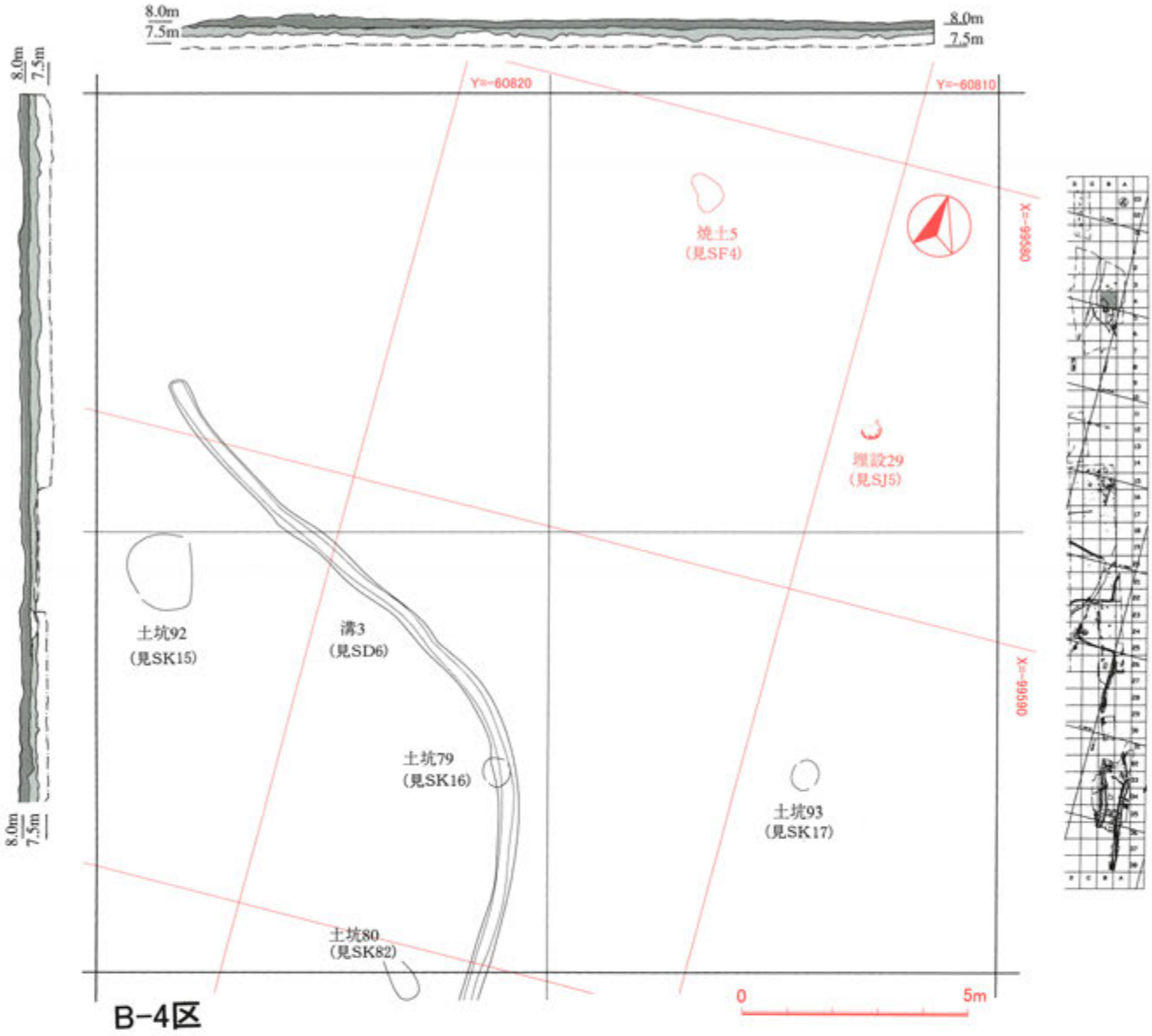


第31図　遺構検出及び遺物出土状況（13）C－4区

C－４区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.76m，低い所で7.44mである。北側壁面のⅢ層は，7.3m～8.8mの地点にかけて，幅1.5mの範囲で，最深部が32cm下方へ落ち込んでいるのを確認した。また，この壁面の8.56m～9.5mの地点，10.12m～11.9mの地点，11.96m～13.7mのⅠ層とⅢ層の間に，灰色砂質土の層が約８cm～16cmの厚さで堆積しているのを認めた。中央部分を昭和40年代以前の川跡が南流しており，礫や砂が多かった。この川跡に流し込むための木製の樋が両側にみられたが，昭和年間のものであると判断し記録しなかった。C－５区から延びてきた石列（見SX７）は北端で西側へ屈曲している。溝状遺構41（見SX８）の西側を掘り込んで，栗石を敷きつめてある。栗石には白い物質がこびりついており，石灰を固めたものではないかと思われる。この部分は昭和40年代の地籍図に描かれており，位置を対応させることができる。

この範囲からは，他の遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は，全般的な範囲から出土しているが，周辺部から点在する形で出土している。



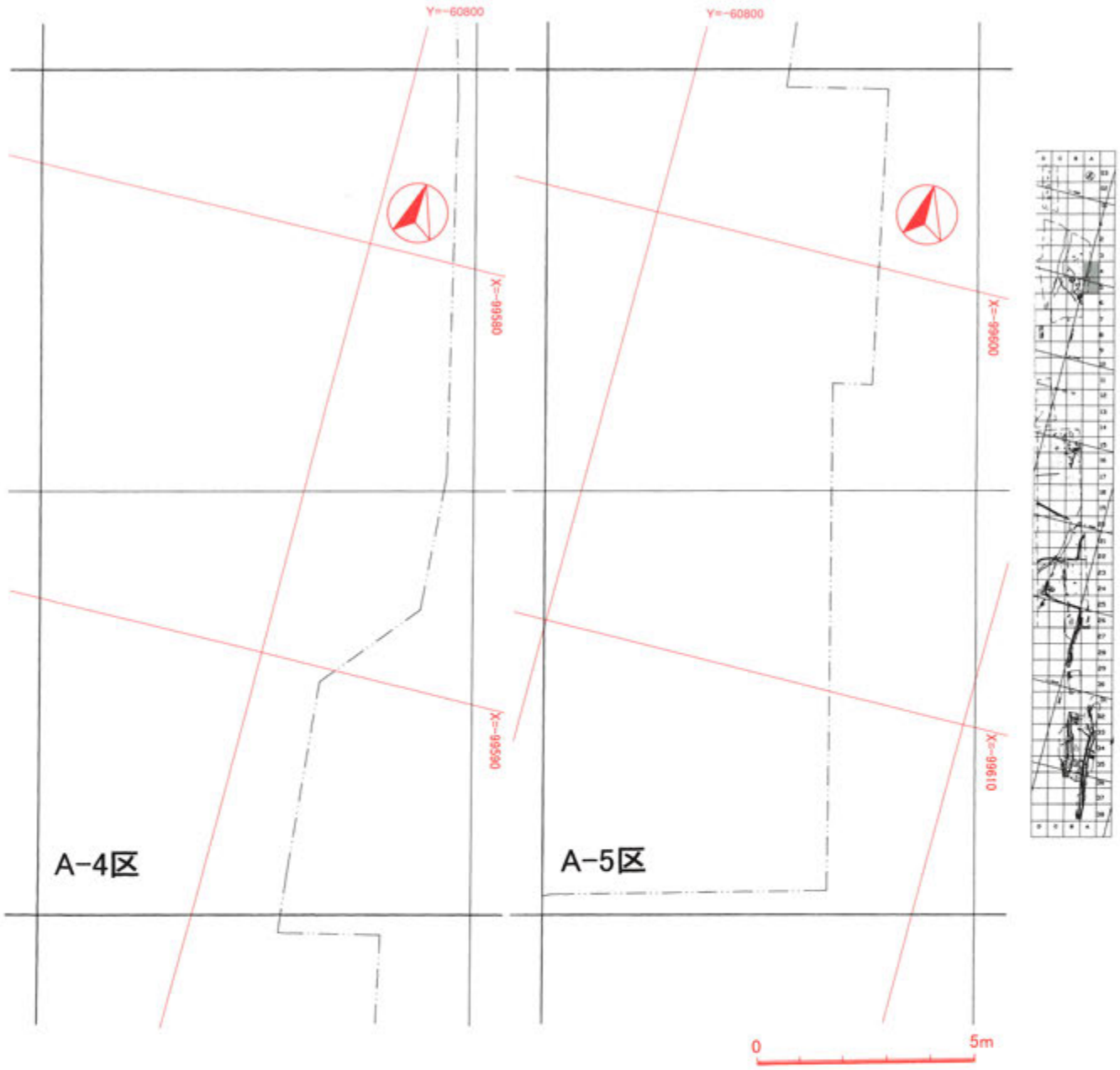
第32図　遺構検出及び遺物出土状況（14）B－4区

B－4区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.91m，低い所で7.8mである。Ⅱ層は北側壁面では6.7m～7.2m間の厚さ約4cm，西側壁面では7.46m～8.3mの84cmしか存在しないことから，削平を受けていたと考えられる。

この範囲から，縄文時代後期終末から晩期のものと思われる焼土5（見SF4）と埋設土器29（見SJ5），古代前半のものと思われる溝状遺構3（見SD6），中世後半のものと思われる土坑92（見SK15）・79（見SK16）・93（見SK17）を検出した。溝状遺構3の埋土は黄灰褐色粘質土であり，土坑よりは明らかに古い。北西方向にカーブして，端部は閉塞している。土坑92・79・93の埋土は共にしまりがなく，柔らかい青灰褐色シルト質土であった。土坑79からは，多くの礫を検出した。この土坑の使途は不明である。

遺物の出土状況は，この範囲全般的に出土しており，南側に比べて北側からの出土がやや多い。



第33図　遺構検出及び遺物出土状況（15）A—4・5区

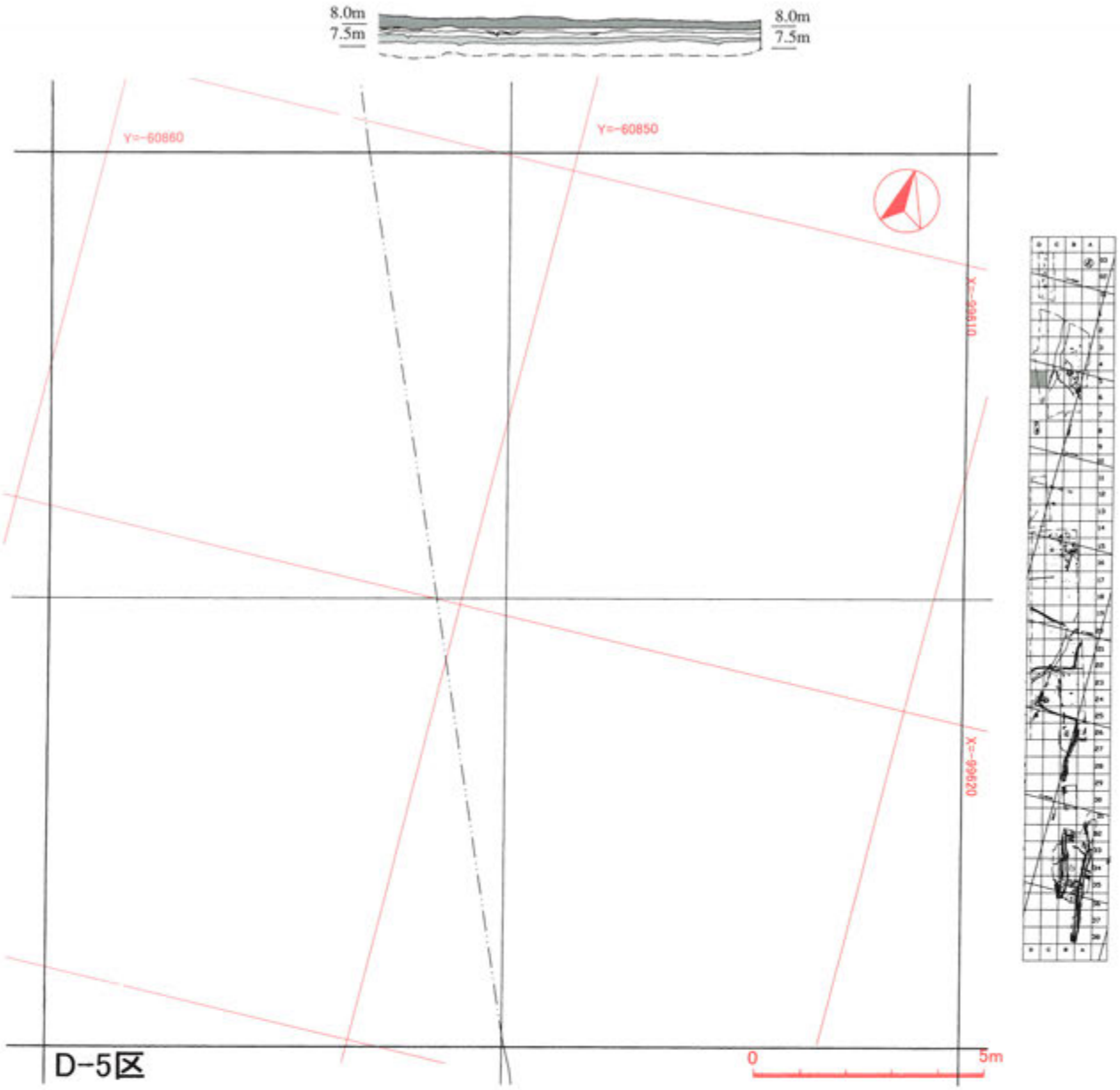
A－4区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.9m，低い所で7.6mである。北側壁面の7.3m～9.4mの地点でⅢ層中に幅2.1m，厚さ約32cmの直径5㎜～100㎜の礫が混入し，しまった砂質土が間に入る砂礫層を確認した。西側壁面の12.2m～13mの地点Ⅲ層中には，礫が集まっている所を確認した。北側壁面の44cm～90cmの地点にかけて，幅46cm，深さ10cmの灰色土の遺構らしき埋土を検出したが，形状を明らかにすることはできなかった。この範囲からは，遺物は出土しなかった。

A－5区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で８m，低い所で7.8mである。北側壁面及び西側壁面のⅠ層は，その堆積状況から共にⅠ・Ⅰb層とした。北側壁面の3.1m～5.2mの地点では，Ⅰ層・Ⅰb層とⅢ層の間に，西側壁面15m～19.5mでは灰黄褐色土の層が幅4.5m，厚さ約12cmにわたって堆積しているのが確認された。Ⅲ層は，17.1m～17.76mの地点の幅65cmで厚さ約16cm，18.5m～19.5mの地点では幅1mで厚さ約12cmの部分のみに堆積していた。

この範囲からは，遺構，遺物とも検出されなかった。



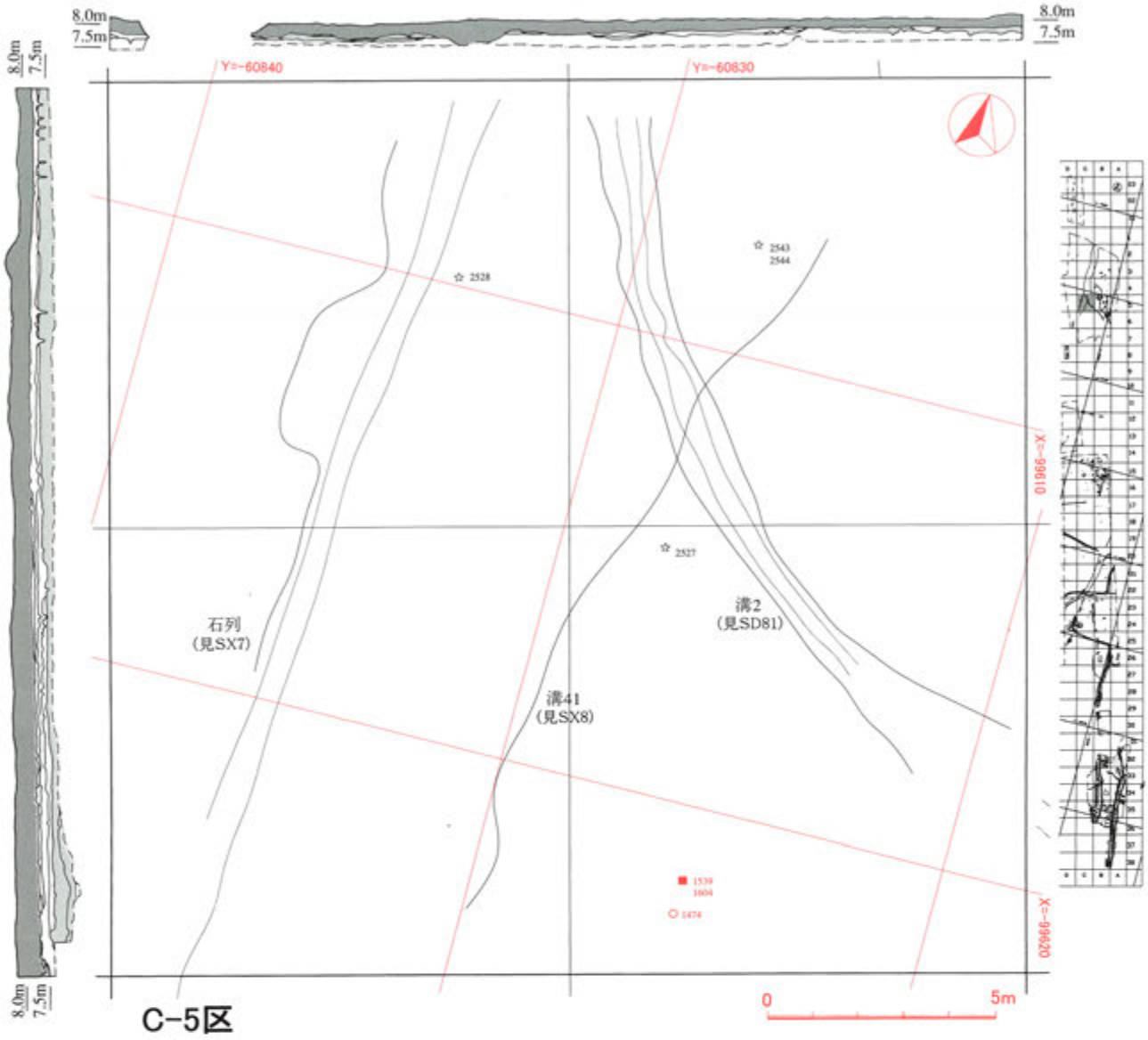
第34図　遺構検出及び遺物出土状況（16）D－5区

D－5区

北側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.96m，低い所で7.9mである。

この範囲からは，遺構及び遺物とも検出されなかった。

層位はしっかりしており，後世に削平された様相はみられなかったが，遺物の出土はほとんど無かった。縄文時代の生活区域の南西端であったことが窺える。



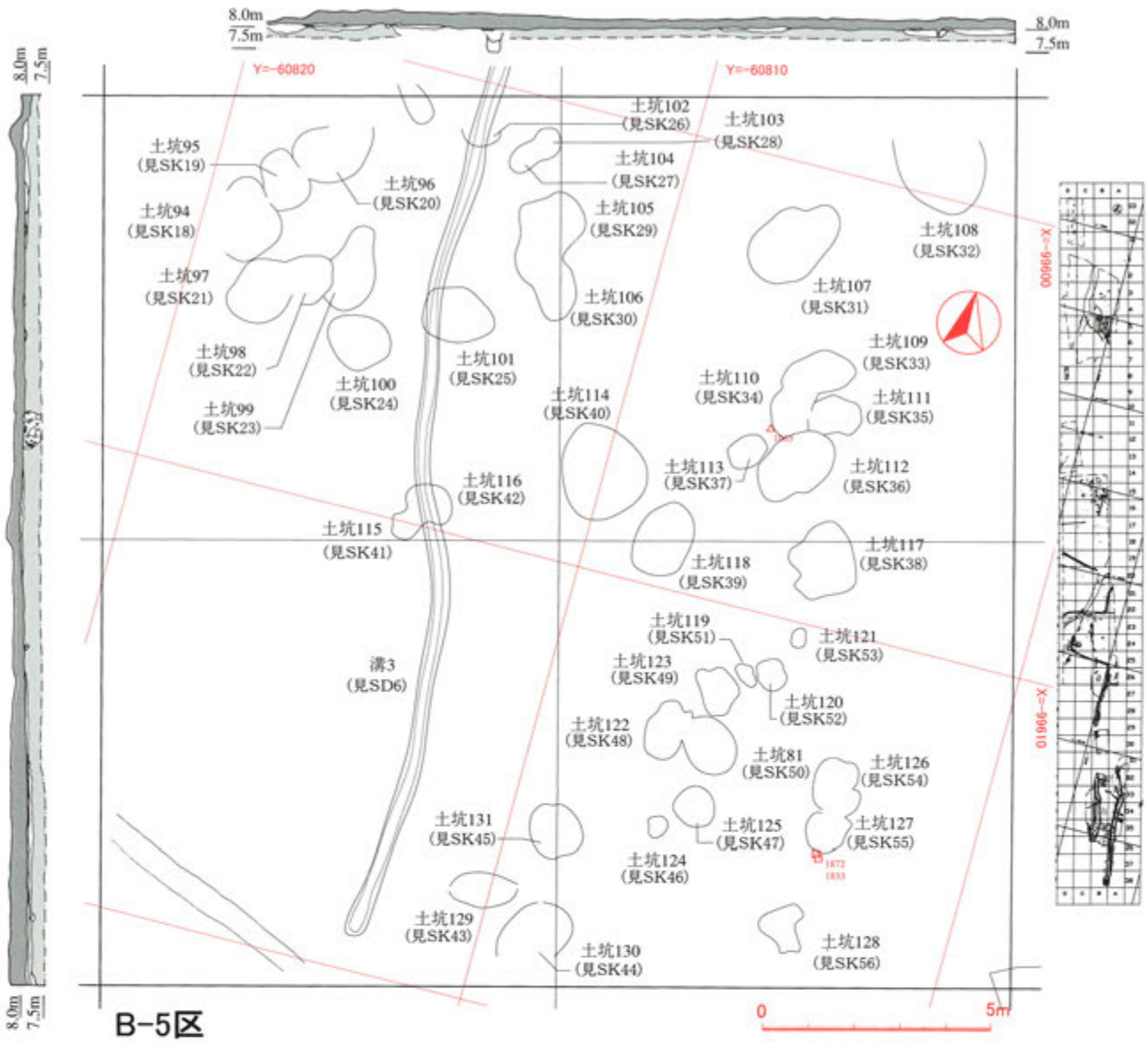
第35図　遺構検出及び遺物出土状況（17）C－5区

C－5区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.84m，低い所で7.5mである。西側壁面Ⅲ層の0.76m～3.7mの地点はその堆積状況から，Ⅲ・Ⅲb層とした。また，この壁面では1.7m～2.1mの地点でⅢb層下部に幅40cm，厚さ約12cmの緑色土を，５m～17.6mのⅡ層とⅢ層の間に灰色砂質土の層を確認した。北側壁面では15m～15.6mの地点にかけての厚さ約28cmほどの粘質土は，Ⅲ層とよく似ており，Ⅲ層に赤味がかった土と青灰色が混ざった感じの土である。

この区の中央部は砂礫が多く，中世から近世にかけて造られた河川跡ではないかと考えられる。この中から，14世紀に使われていたと考えられる青磁が出土した。また，その下にもぐり込む様にして溝状遺構２（見SD81）が検出された。確たる証拠はないが，幅や断面形，それにゆるくカーブする点が他の溝状遺構に類似することから，道跡ではないかと考えられる。

遺物の出土状況は，石器類や陶磁器類が多く出土しており，特に東側からの出土が多い。



第36図　遺構検出及び遺物出土状況（18）B－5区

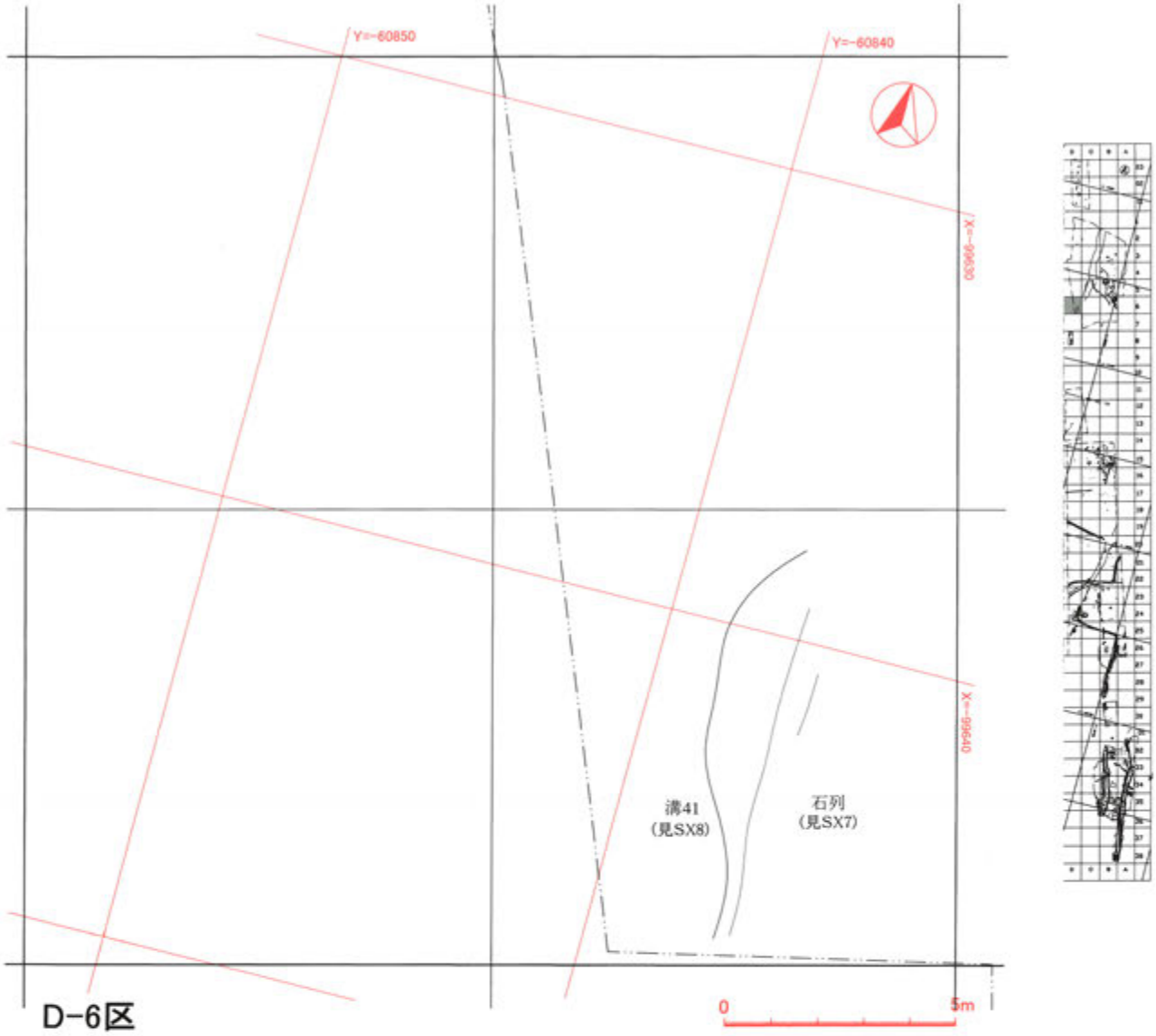
B－5区

北側壁面・西側壁面の標高は，高い所で8.38m，低い所で8.02mである。

この範囲は，中世後半と考えられる土坑が最も集中したところであり，40基（見SK18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・82）を検出した。重複した土坑が多いことから長期に渡って使われたと考えられる。用途が不明であることから一つの土坑がどれぐらいの期間使われたのか解らない。土坑81（見SK50）・80（見SK82）の中からは，礫も検出した。これらの土坑の埋土は，しまりがなく柔らかい青灰褐色シルト質土である。

溝状遺構３（見SD６）の南半分がこの区で検出され，端部は北側と同様閉塞されている。南西側には溝状遺構２（見SD81）がある。床面しかとらえられなかった。

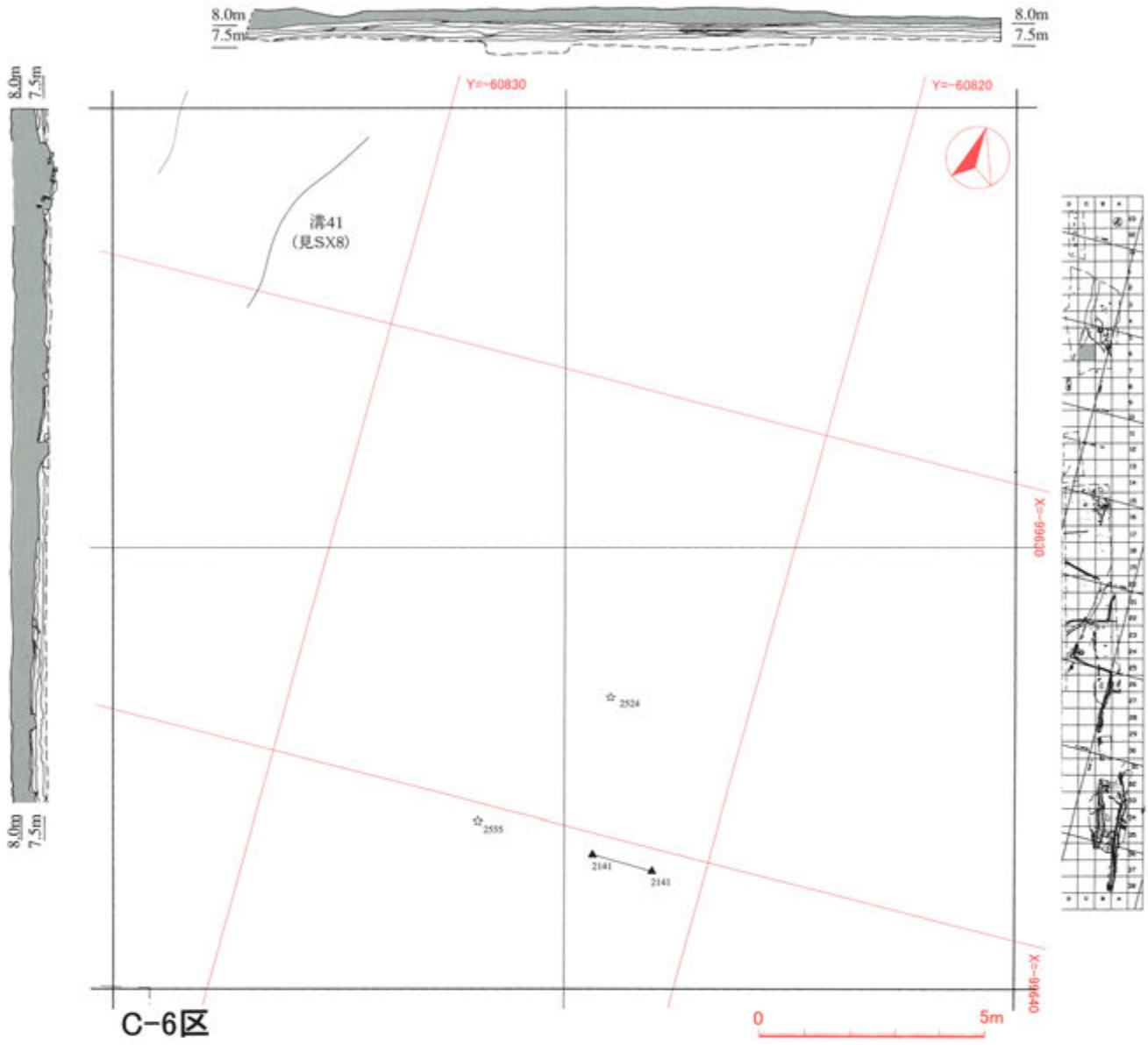
遺物の出土状況は，全般的な範囲で出土しているが，遺物の量は少なく，範囲内から点在する形で出土している。



第37図　遺構検出及び遺物出土状況（19）D－6区

D－６区

北側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.76ｍである。溝状遺構41（見SX８）と石列（見SX７）の西側縁の延長を検出した。C－５区との間は確認トレンチで掘り下げられており，図上での復元となった。この様な事情から掘る部分も限られており，この範囲からは，遺物は検出されなかった。

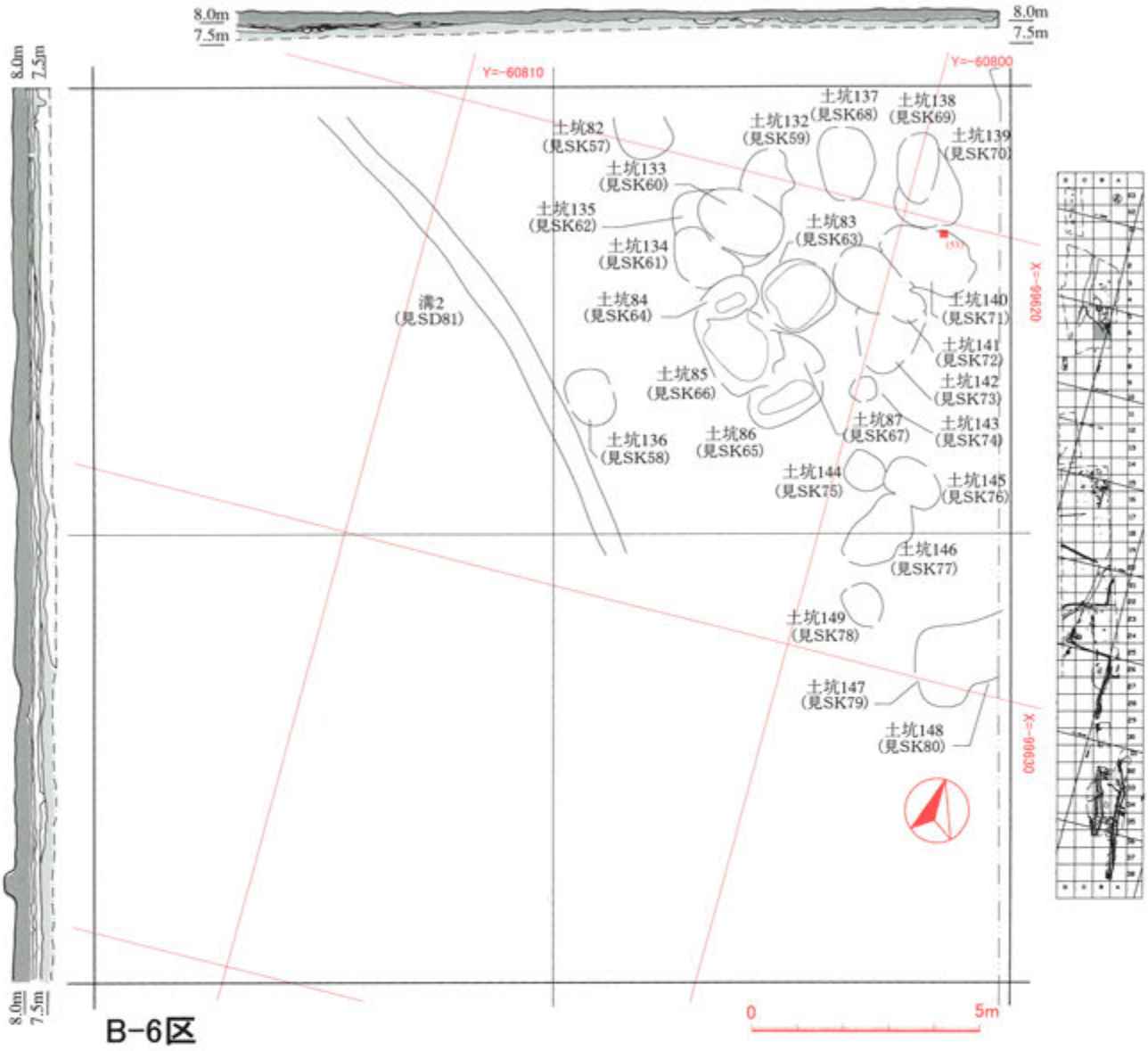


第38図　遺構検出及び遺物出土状況（20）C－6区

C－６区

C－５区から続く場所で，北側壁面のⅡ層下部全般に灰褐色，暗灰色，黒灰色の層が堆積している。西側壁面でも同様に堆積しており，西側壁面の12.38m～12.58mの地点にかけて幅20cm，厚さ約５cmの青色のグライ土と思われる層が確認できた。また，北西側壁面17.5m～19.2mの地点において，江戸時代～近代にかけての水路の石組と思われる石列（見SX７）を検出した。このことから，この範囲は中世～近世にかけて造られたと思われる川の跡ではないかと考えられる。広い範囲で安定した地層であったが，他に遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況としては，中心に向かって南北にかけて出土している。特に南側からの出土が多い。



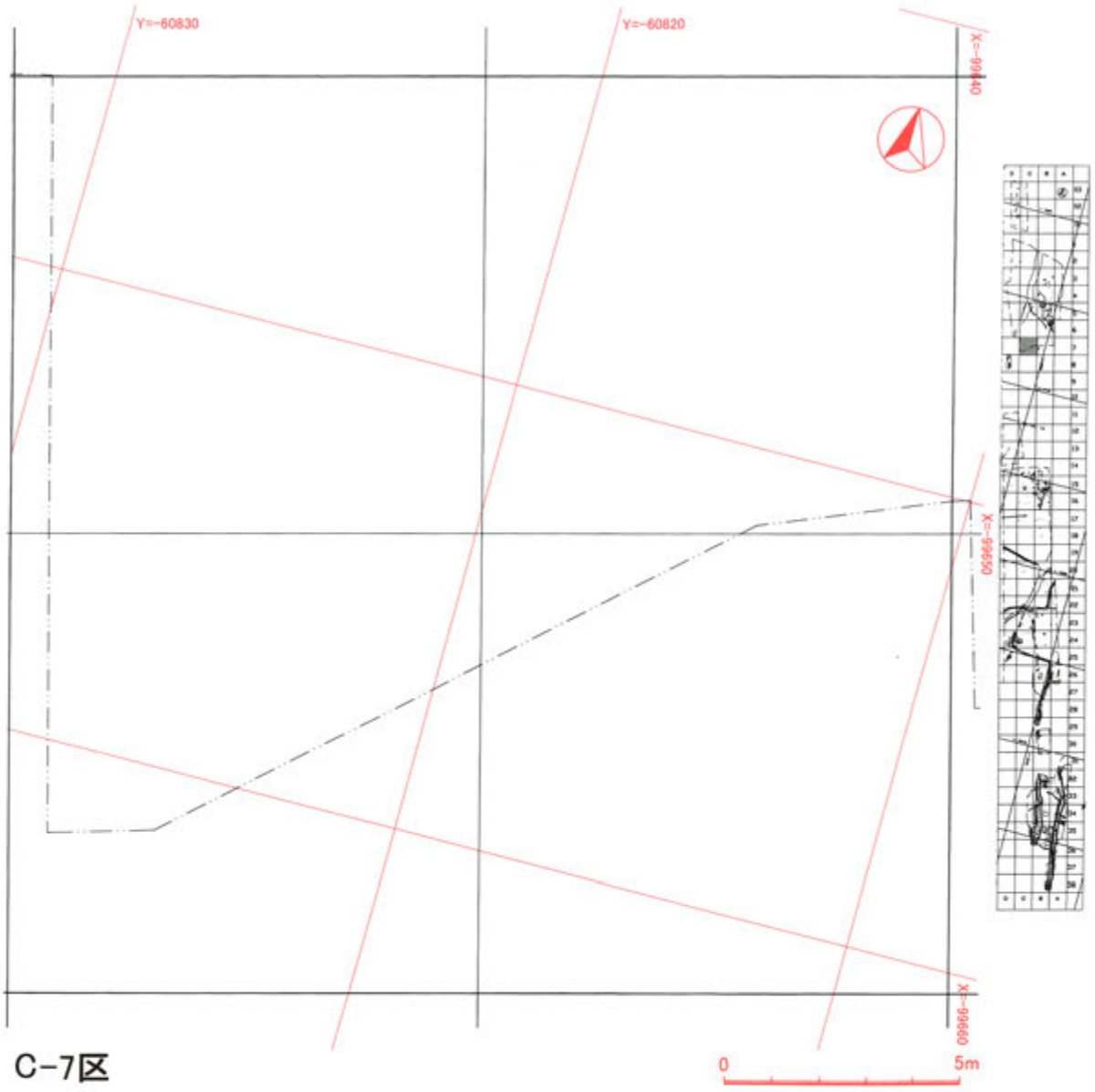
第39図　遺構検出及び遺物出土状況（21）B－6区

B－6区

北側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で８m，低い所で7.82mである。

この範囲では，古代～中世のものと思われる溝状遺構２(見SD81)，中世後半と考えられる土坑25基(見SK41・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80）を検出した。土坑は北東部分に集中している。土坑83（見SK63）・84（見SK64）・86（見SK65）・85（見SK66）・87（見SK67）の中からは，礫も検出した。溝状遺構２の埋土は，黄灰色粗砂である。溝状遺構２の南西側は一段低くなっており，遺構も遺物も少なかった。土坑82（見SK57）・132（見SK59）・133（見SK60）・134（見SK61）・135（見SK62）・83・84・86・85・87・137（見SK68）・138（見SK69）・139（見SK70）・143（見SK74）・149（見SK78）・147（見SK79）・148（見SK80）の埋土はしまりがなく柔らかい黄灰褐色シルト質土であり，土坑136（見SK58）・140（見SK71）・141（見SK72）・142（見SK73）・144（見SK75）・145（見SK76）・146（見SK77）の埋土はしまりがなく柔らかい茶褐色シルト質土で，土坑115（見SK41）の埋土はしまりがなく柔らかい青灰色シルト質土である。これらの土坑の使途は不明である。

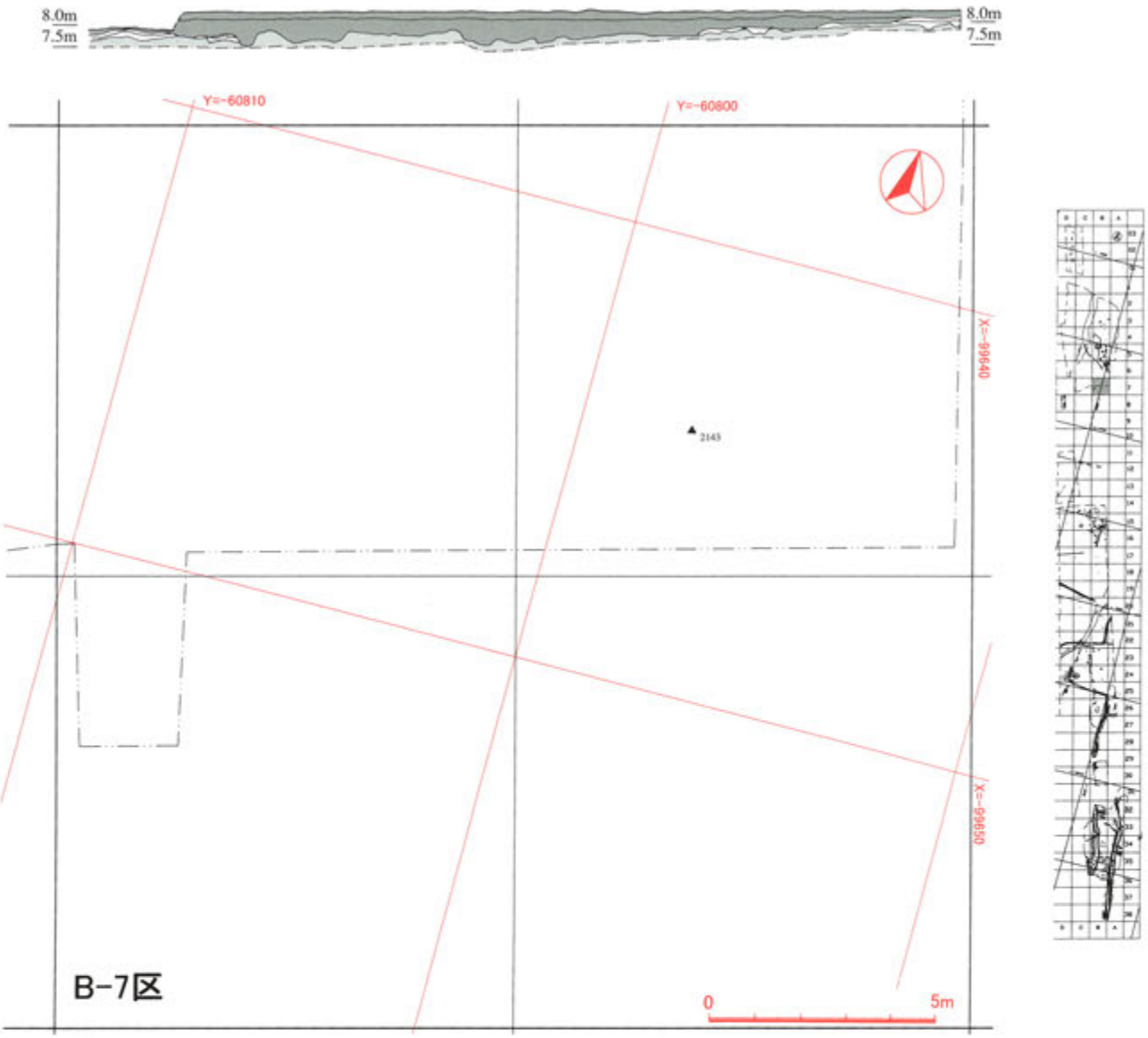
遺物の出土状況は，遺物の量は少なく，西側から点在する形で出土している。図化した縄文時代の遺物は石製土掘具の１点のみである。



第40図　遺構検出及び遺物出土状況（22）C－7区

C－7区

C－6区で土師器片が若干出土したので，追跡した区域である。確認トレンチ部分で確かめながら，層がしっかり堆積していた部分のみを掘り下げた。しかし，遺構はなく，遺物包含層の確認もできなかった。



第41図　遺構検出及び遺物出土状況（23）B－7区

B－7区

北側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で7.93m，低い所で7.66mである。0.6m～2.5mの地点でⅡ層とⅢ層の間，13.9m～15mの地点でⅠ層とⅢ層の間，16.5m～19.5mの地点でⅠ層とⅢ層の間に灰色粗砂土が堆積しているのが確認された。また，3.5m～3.8mの地点でⅡ層とⅢ層の間には灰色粗砂土が堆積しているのが確認された。

この範囲からは，遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は，数点が点在するのみである。

D－8区

本来調査対象の範囲外であったが，昭和40年代の地形図によると条里型地割大区画の交点にあたる部分であり，工事予定地内に入っていたので，協議の上調査した。

調査の結果，出てきたものはビニール等も含まれており，昭和年間まで下ることがわかった。溝状遺構42（SR２）とした道状の湾曲した部分もみられたが，どれぐらい古くまでさかのぼるかはわからなかった。はっきりした区画はわからなかったけれども，昭和40年代の区画とほぼ重なる地点であることは明らかとなり，この周辺では当時の状況が残っていると考えられる。

D－11区

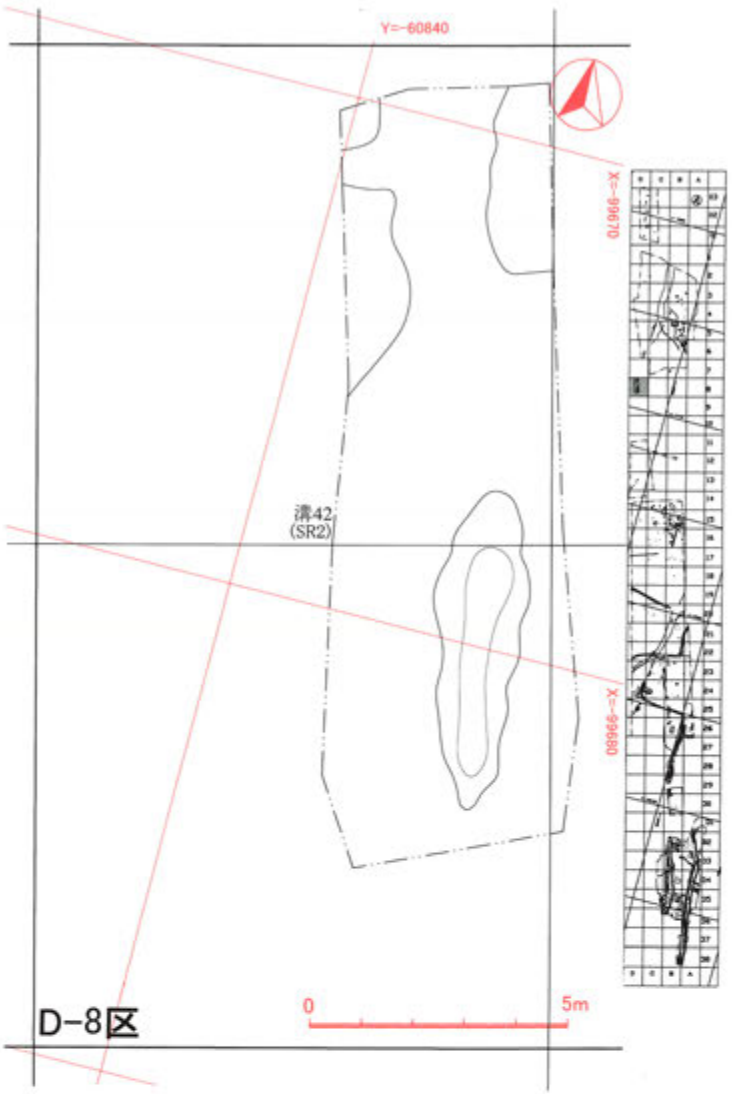
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.16m，低い所で8.1mである。西側壁面の7.9m～8.2mの地点にかけて，幅30cm，厚さ約16cmの明灰褐色土の層が確認できた。この範囲からは，溝状遺構14（SD１）が東西方向に検出された。このことから条里型地割の一部と考え，東側へ追えるだけ追ったが，B－12区に入ったところで消滅してしまった。出土した遺物は須恵器が一片である。途切れた部分からさらに東側へ13mをバックホーのバケット幅で確認したが，すでに削平されている様だった。

遺物の出土状況は，古代以降はほとんどみられなかったが，縄文時代の遺物が中心部分と南西の端側から多く出土している。

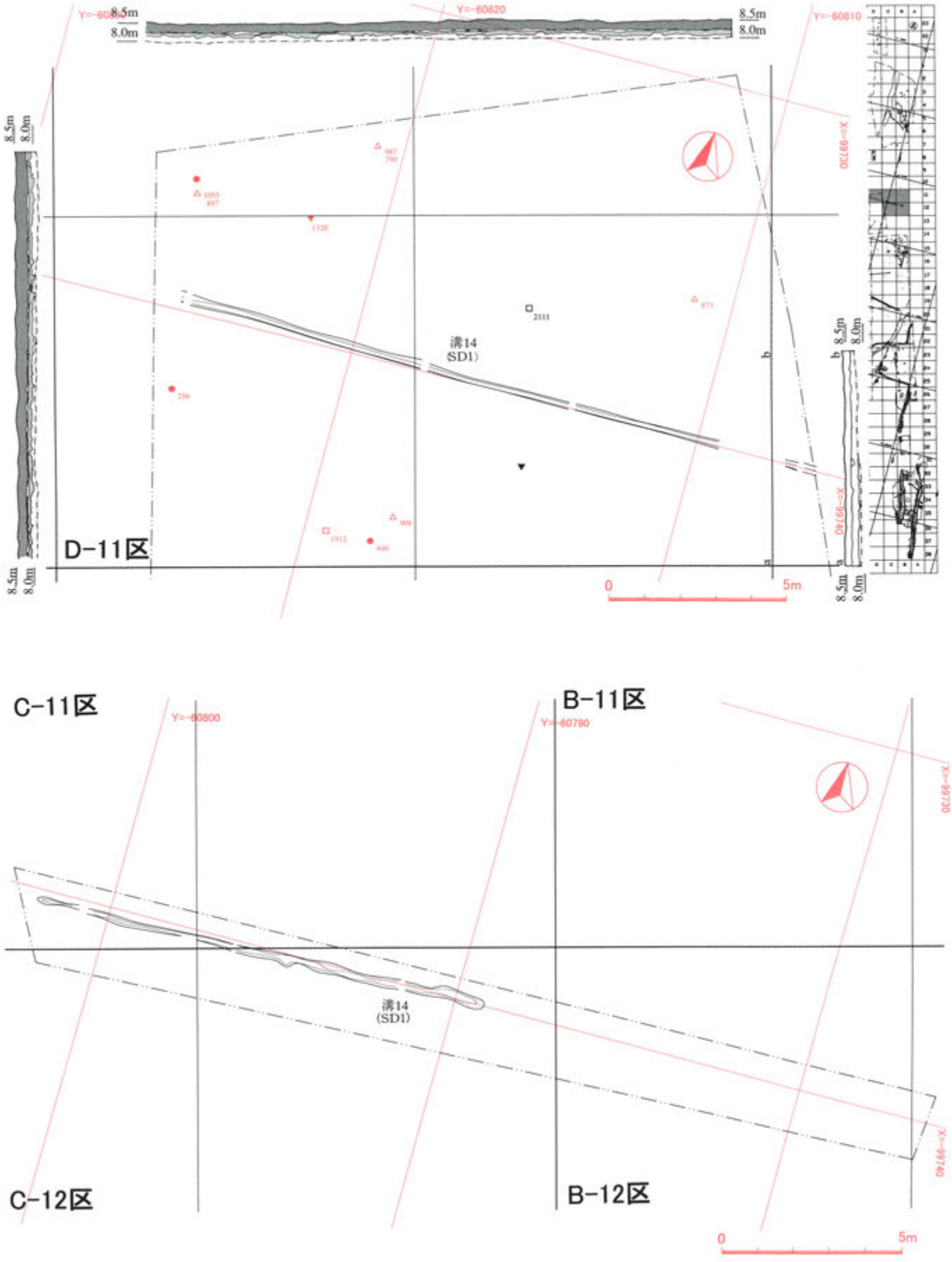
C－11区

西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.36m，低い所で8.3mである。

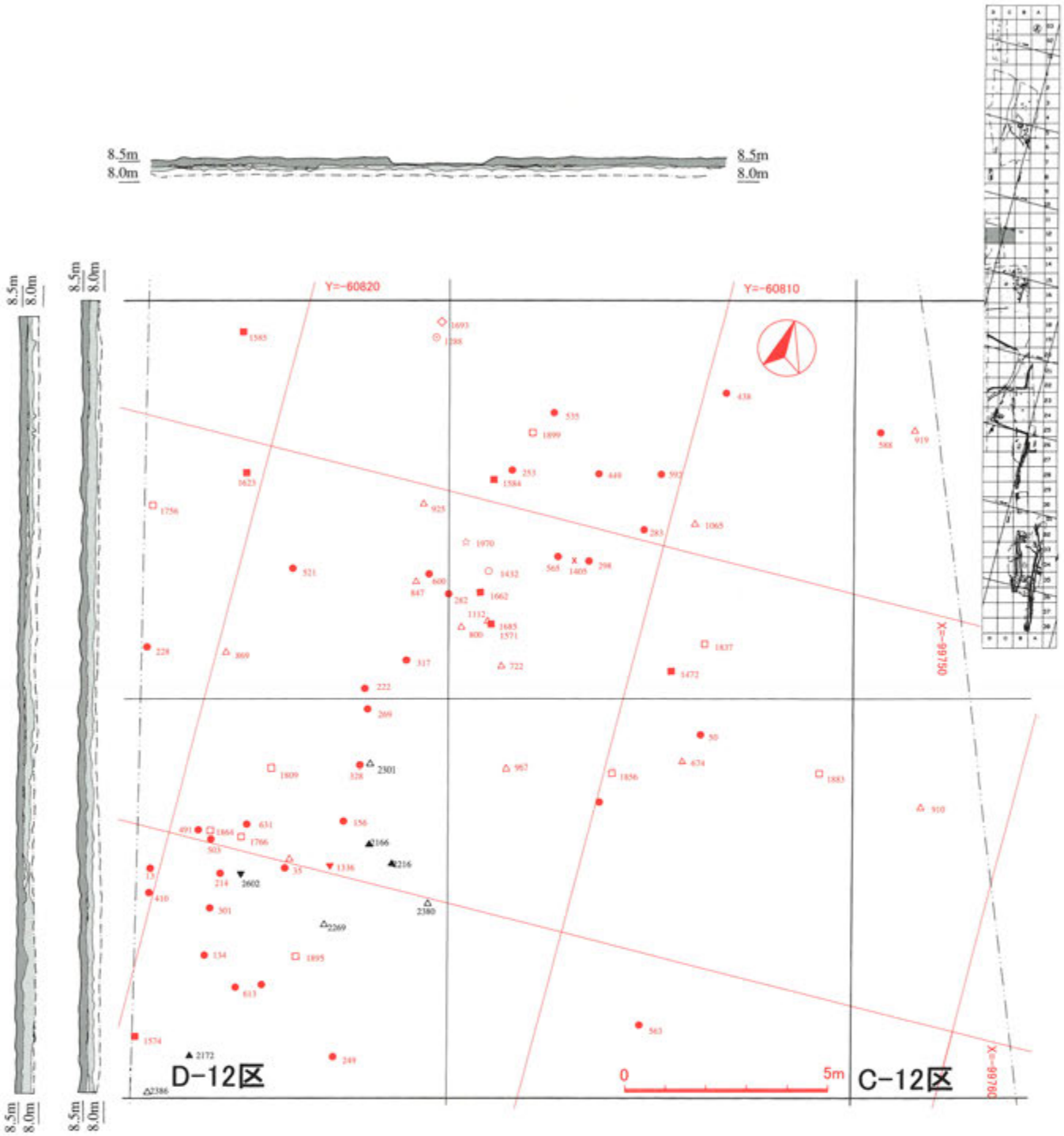
D区から延びてきた溝状遺構14（SD１）がさらに東西方向に延びている。遺物は，縄文時代及び古代のものがわずかながらみられる。



第42図　遺構検出及び遺物出土状況（24）D－8区



第43図　遺構検出及び遺物出土状況（25）D・C・B−11区，C・B−12区

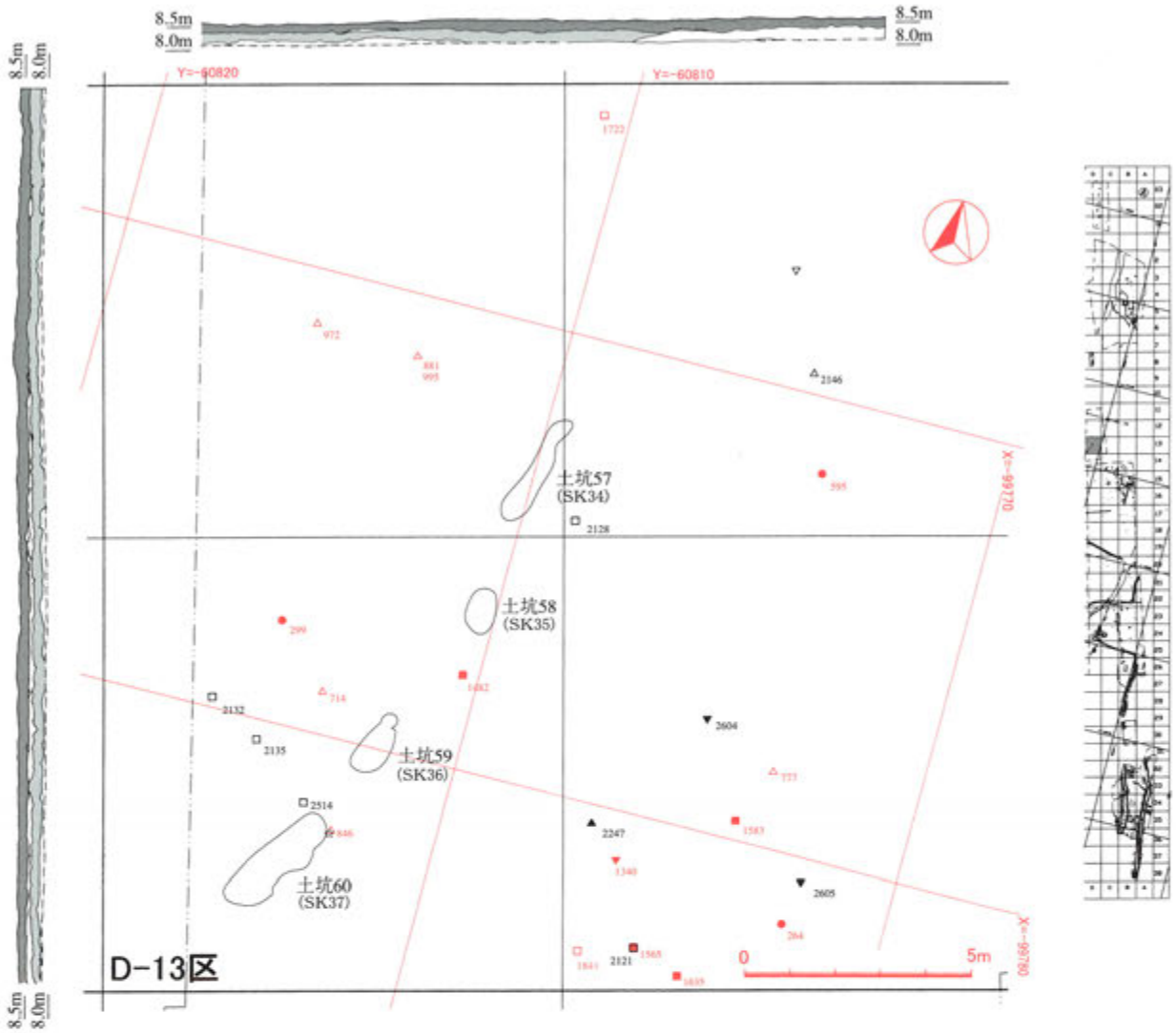


第44図　遺構検出及び遺物出土状況（26）D・C－12区

D-12区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.36m，低い所で8.3mである。西側壁面の５m～5.64mの地点でⅠ層とⅢ層の間に幅64cm，厚さ約８cmのややしまる砂礫層の堆積を確認した。この範囲からは，遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は，全般的に遺物の量は濃密である。縄文時代の遺物は中心部分に多く出土した。縄文時代後期終末から晩期にかけての時期であるが，黒川式土器などのやや新しいものが目立つ。ストレートな口縁部をもつ土器は他のグリッドよりも多い。石器も多彩な種類が出土しており，石製土掘具と磨石類が多くみられる。

古代以降の遺物は南西部分から集中して多く出土している。



第45図　遺構検出及び遺物出土状況（27）D－13区

C-12区

西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.4m，低い所で8.3mである。

Ⅱ層が一部にしか存在しないことから，削平を受けているものと考えられる。

この範囲から遺構は検出することができなかった。

遺物の出土状況は，スクレイパー，石鏃，縄文土器，それに須恵器等が西側の端から点在する形で出土している。

D-13区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.43m，低い所で8.3mである。

この範囲からは，土坑57（SK34）・58（SK35）・59（SK36）・60（SK37）を検出した。一列に並んで検出されているので，この方向に何らかの意味があるのかもしれない。これらの遺構から遺物は出土しなかった。

この範囲の遺物の出土状況は，東西南北と全般的な範囲で出土しており，南にいくほど出土遺物が多い。中でも，南東側からの出土遺物が多い。縄文時代の遺物には石鏃が多く，古代の遺物も増加傾向にある。

C-13区

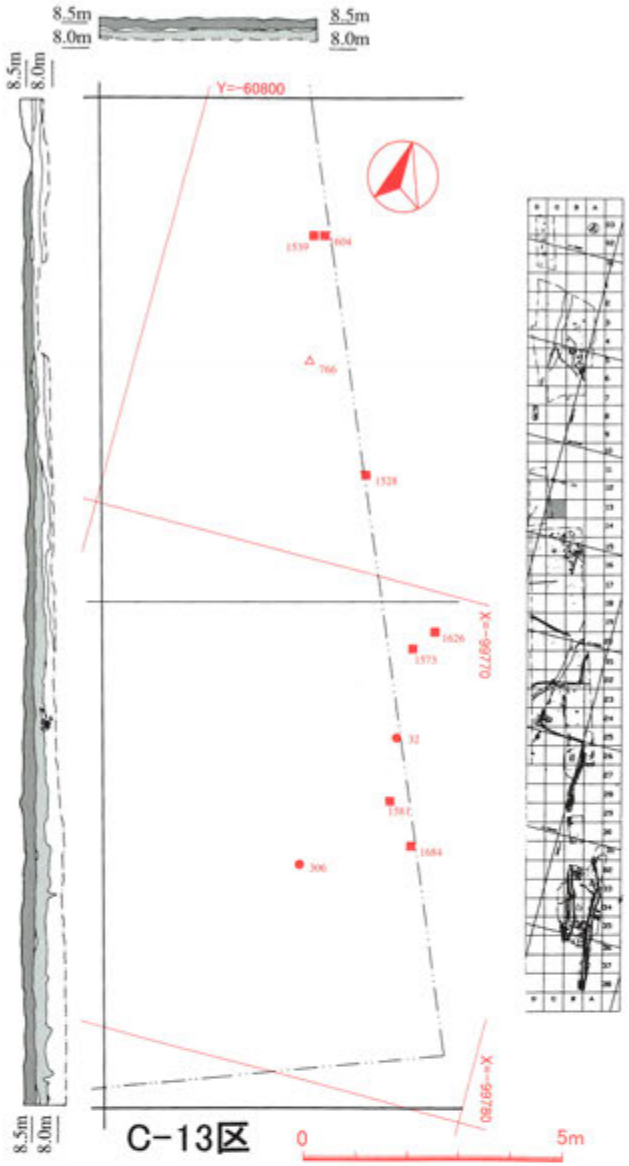
西側壁面でのⅢ層上面の標高は，高い所で8.5m，低い所で8.3mである。

この範囲から，遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は，西側の方からしか出土しておらず，特に，南西方向が濃密であり，集中して出土している。

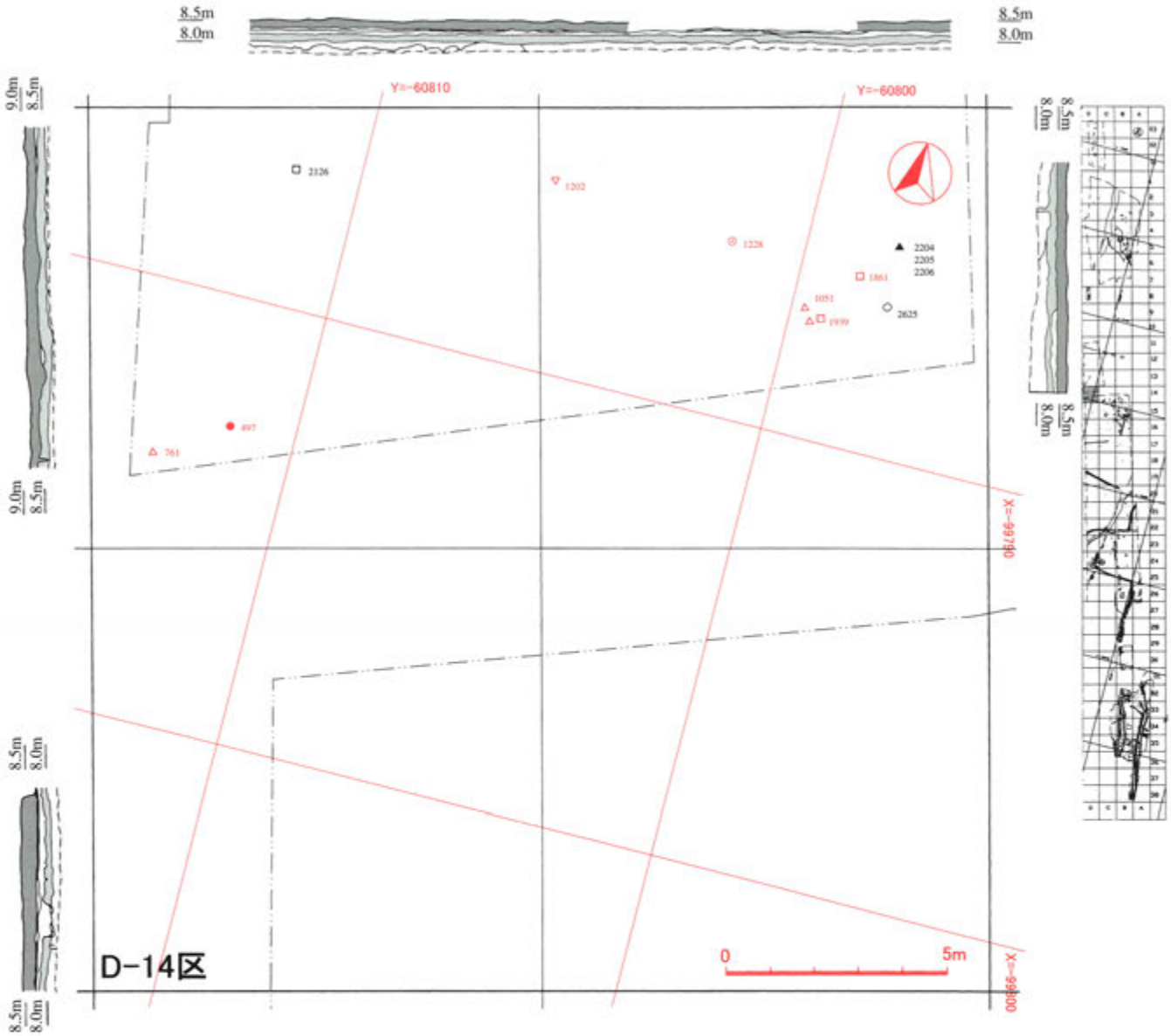
D-14区

この区の中央部分に東西方向で幅５mの農道があり，その両側を調査した。遺構はなかったけれども，北側部分からは縄文時代の遺物が多く出土した。北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.56m，低い所で8.0mである。Ⅱ層は北側壁面，西側壁面ともその堆積状況からⅡ・Ⅱb層とし，また北側壁面のⅢ層はその堆積状況からⅢ・Ⅲb層とした。北側壁面のⅣ層の下に，Ⅲb層に類似しているもののⅢb層よりもしまりがある層を確認することができたので，これをⅣ′層として分類した。西側壁面では，Ⅳ層の下に粘性が強くしまりがある青色土の層が堆積しているのが確認できた。

この範囲からは，遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は，農道より北側からしか出土しておらず，ここからの出土が多い。これは，昭和40年代の圃場整理の際，道路を挟んで南側を深く掘り下げたためではないかと思われる。縄文時代の石器が多い。



第46図　遺構検出及び遺物出土状況（28）C－13区



第47図　遺構検出及び遺物出土状況（29）D－14区

C-14区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.44m，低い所で8.3mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱb層と分類した。Ⅲ層も西側壁面では微妙な違いがみられる。

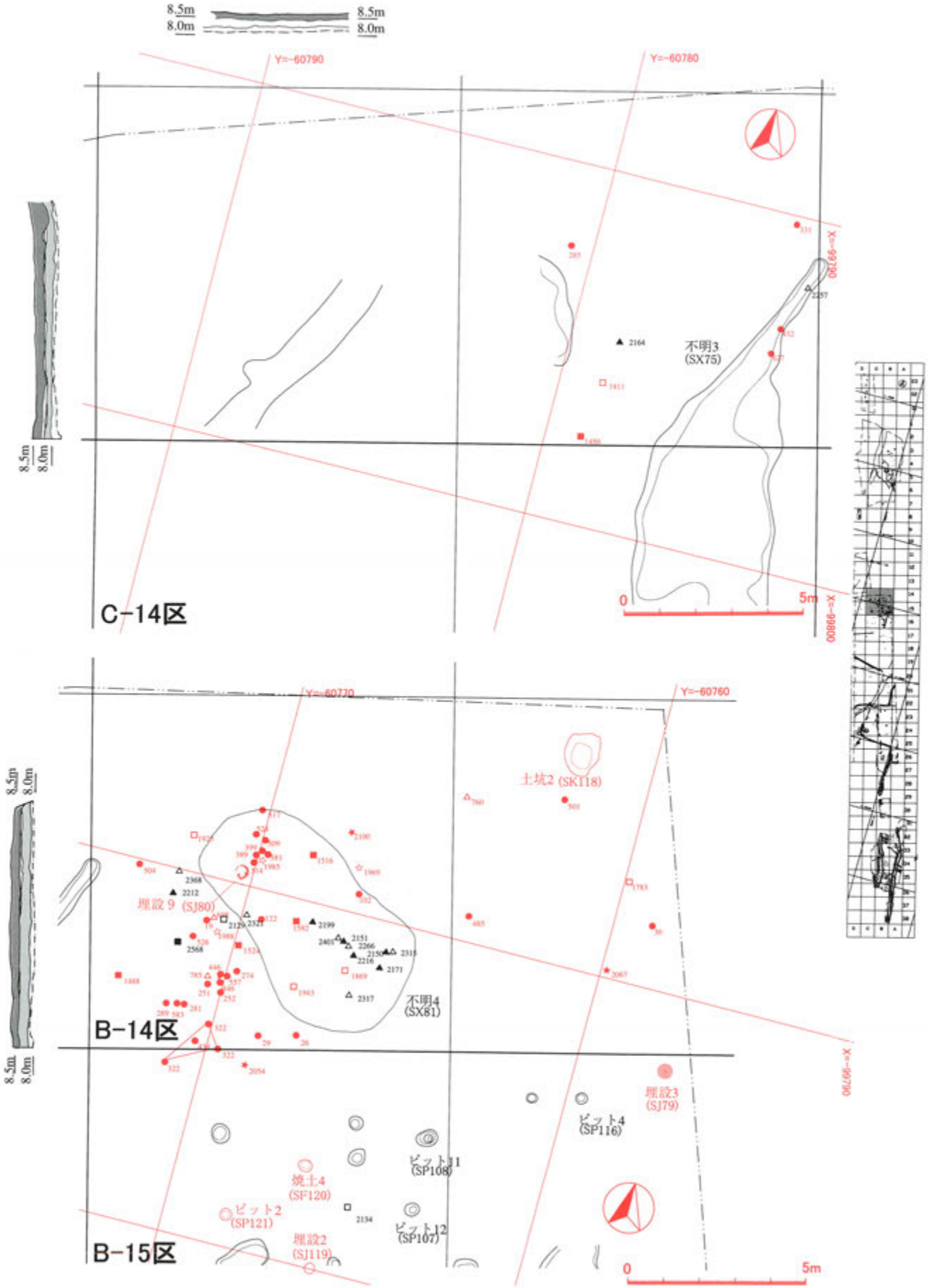
遺構として認定したのは，C-15区から延びてくる不明遺構３（SX75）であり，次第に北へ先細りしていく。北西側にある平行した線は，この部分のみ色調が灰褐色をしていたので記録した。遺構名は付けていない。北側中央部分にある土坑状のものは，埋土との区別が可能であったが，水路で切られていることと，遺物が出土しなかったことから，遺構番号は付さなかった。遺物の検出状況は，石器類や縄文土器等が多く出土している。出土地点は，南東側方向が濃密であり，ここから集中して出土している。

B-14区

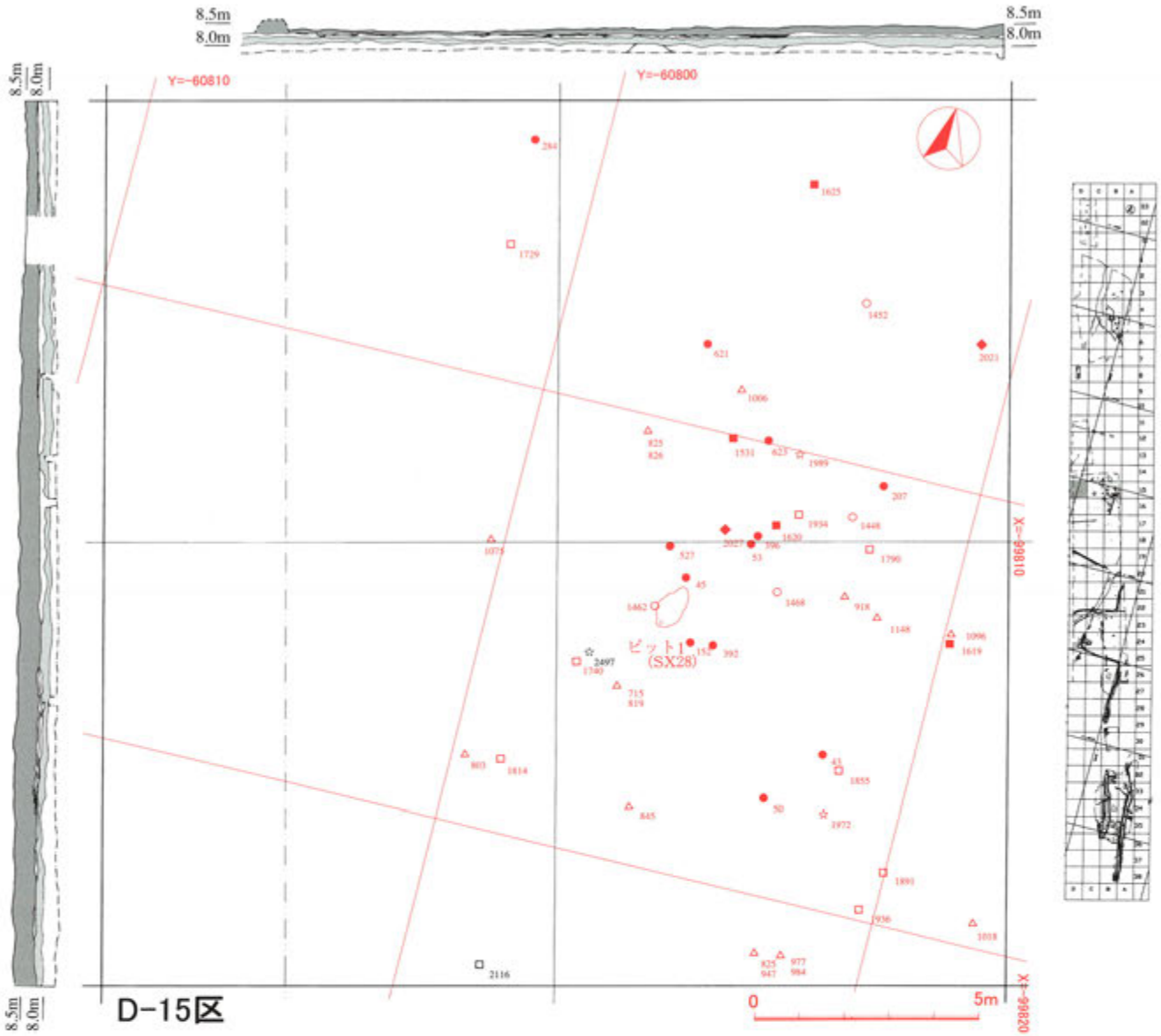
西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.4m，低い所で8.32mである。現在使われている農道を挟むため，７mの地点までしか調査ができなかった。

この範囲から縄文時代の埋設土器３（SJ79）・９（SJ80），同じく縄文時代の土坑２（SK118），古代の焼土遺構（SF20），同じく古代の不明遺構４（SX81）を検出した。焼土遺構については，掘り下げていくと焼土粒が広がって遺物と混在してきたため，結局不明遺構４と同一のものと判断した。

遺物の出土状況は，縄文時代及び古代ともに中心部分から南西方向で多量に出土しており，濃密である。



第48図　遺構検出及び遺物出土状況（30）C・B－14区



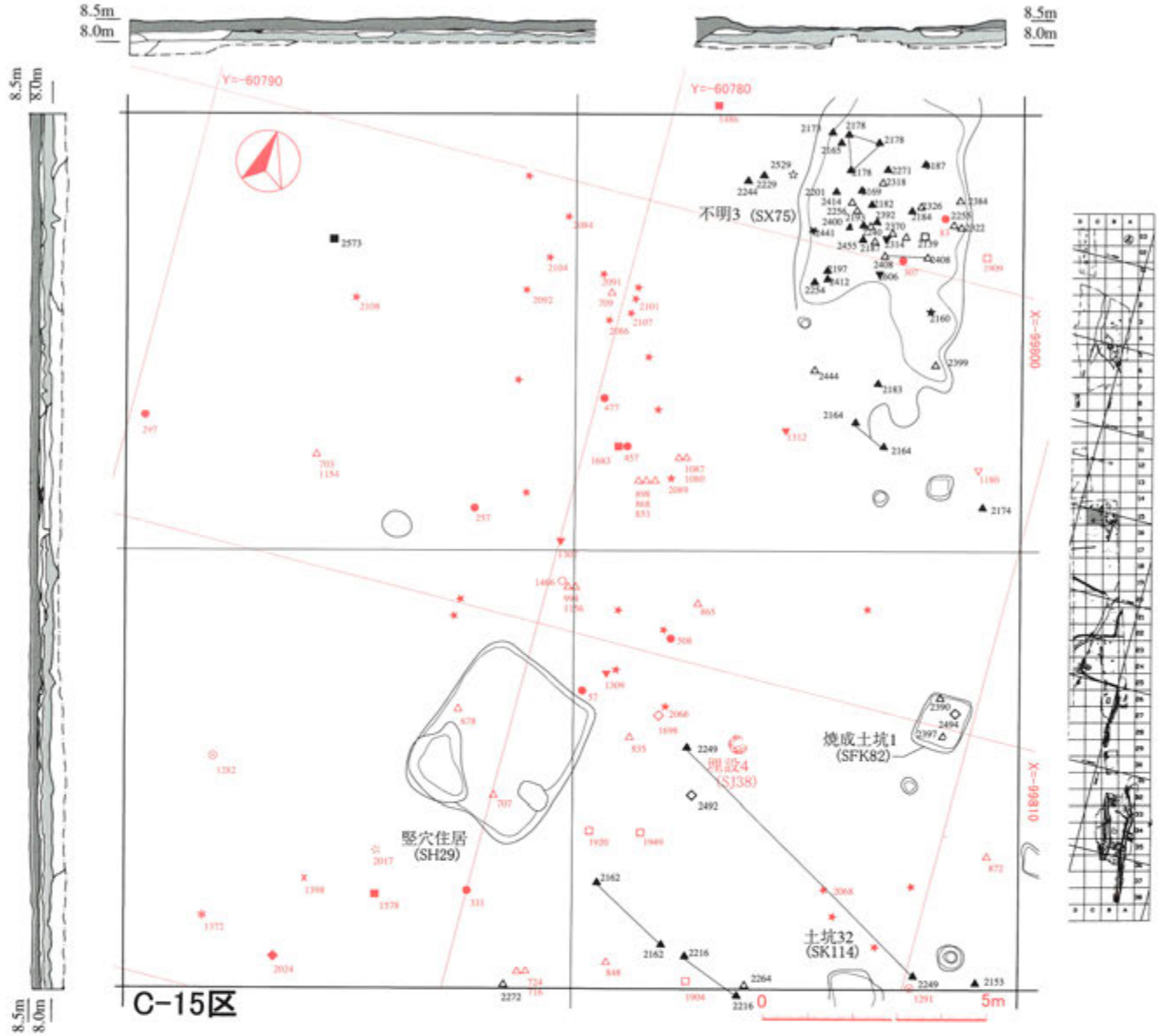
第49図　遺構検出及び遺物出土状況（31）D－15区

D-15区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.24m，低い所で7.88mである。北側壁面のⅢ層は，その堆積状況から，Ⅲ・Ⅲ′層とした。北側壁面，西側壁面のⅡ層をその堆積状況から，北側壁面をⅡb層，西側壁面をⅡb′層と分類した。特に西側壁面のⅡb層，Ⅱb′層の中に炭化物の混入が確認された。

古代の遺構・遺物はほとんどなく，この時期の生活場所はC-15区以東であったと考えられる。一方，縄文時代にはこの区域まで生活場所が広がっていたと考えられる。この範囲から，縄文晩期のものと思われるピット1（SX28）を検出した。この遺構の埋土は，炭化粒を多く含み粘質が強い。この遺構からは，縄文土器の土器片が出土した。

遺物の出土状況は，石斧・石製土掘具・磨石・石鏃・異形石器・石皿・勾玉・管玉・縄文土器，それに陶磁器等が出土しており，非常に濃密である。遺物の出土は，全体的な範囲から出土しているが，西側にいくにつれて，やや量を減じている。縄文時代は後期後半の上加世田式土器が他のグリッドよりも多く出土している。



第50図　遺構検出及び遺物出土状況（32）C－15区

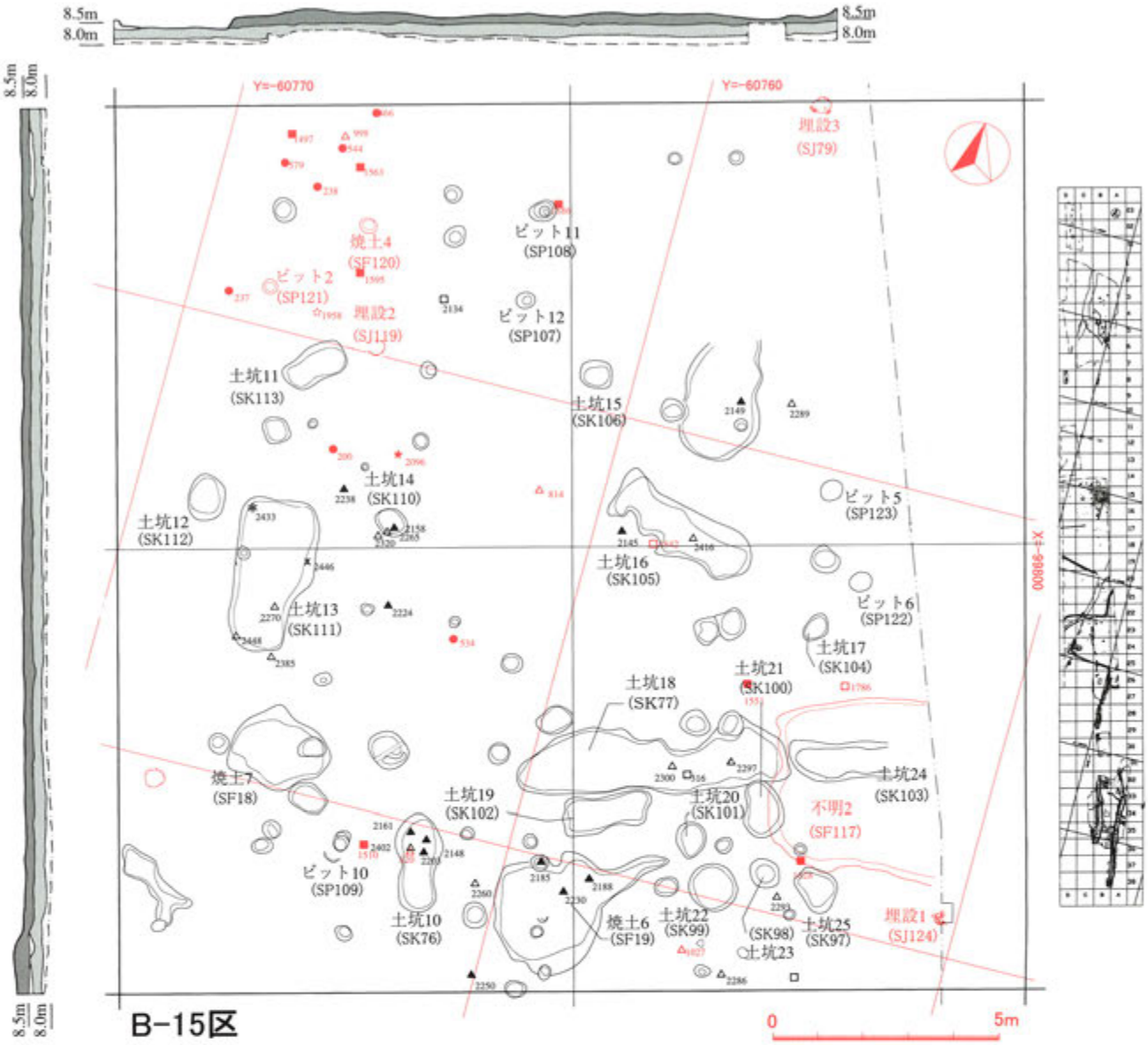
C-15区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.36m，低い所で8.13mである。Ⅱ層をその堆積状況から，Ⅱb・Ⅱb′層として分類した。北側壁面18m～19.04mの地点にかけて，Ⅰ層下部とⅢ層上部の間に，幅1.04m，厚さ約12cmの灰黄色粘質土の層が堆積していた。また，北側壁面の22.7m～23.7mの地点にかけて，Ⅱa層下部とⅢ層上部の間に，幅１m，厚さ約12cmのマンガンが混入している青灰色粘質土の層が堆積していた。中央より東側には排水路がつくられており，寸断されていた。

この範囲からは，縄文時代後期後半のものと思われる埋設土器４（SJ38），古代前半のものと思われる竪穴住居跡（SH29），古代のものと思われる焼土を伴う土坑１（SFK82），同じく古代のものと思われる土坑32（SK114）を検出した。

これらの遺構からの出土遺物としては，竪穴住居跡からは底部が丸平底となる土師甕，焼成土坑１からは須恵器・土師器・土錘，不明遺構３（SX75）からは須恵器・土師器・鉄製品・獣骨等が出土した。

この範囲からの遺物の出土状況としては，石器類・勾玉・管玉・縄文土器・須恵器・土師器等が出土している。その中でも特に縄文時代後期終末の玉類が多く，この区全般的に出土しており濃密である。中心部と北東方向から多く出土している。



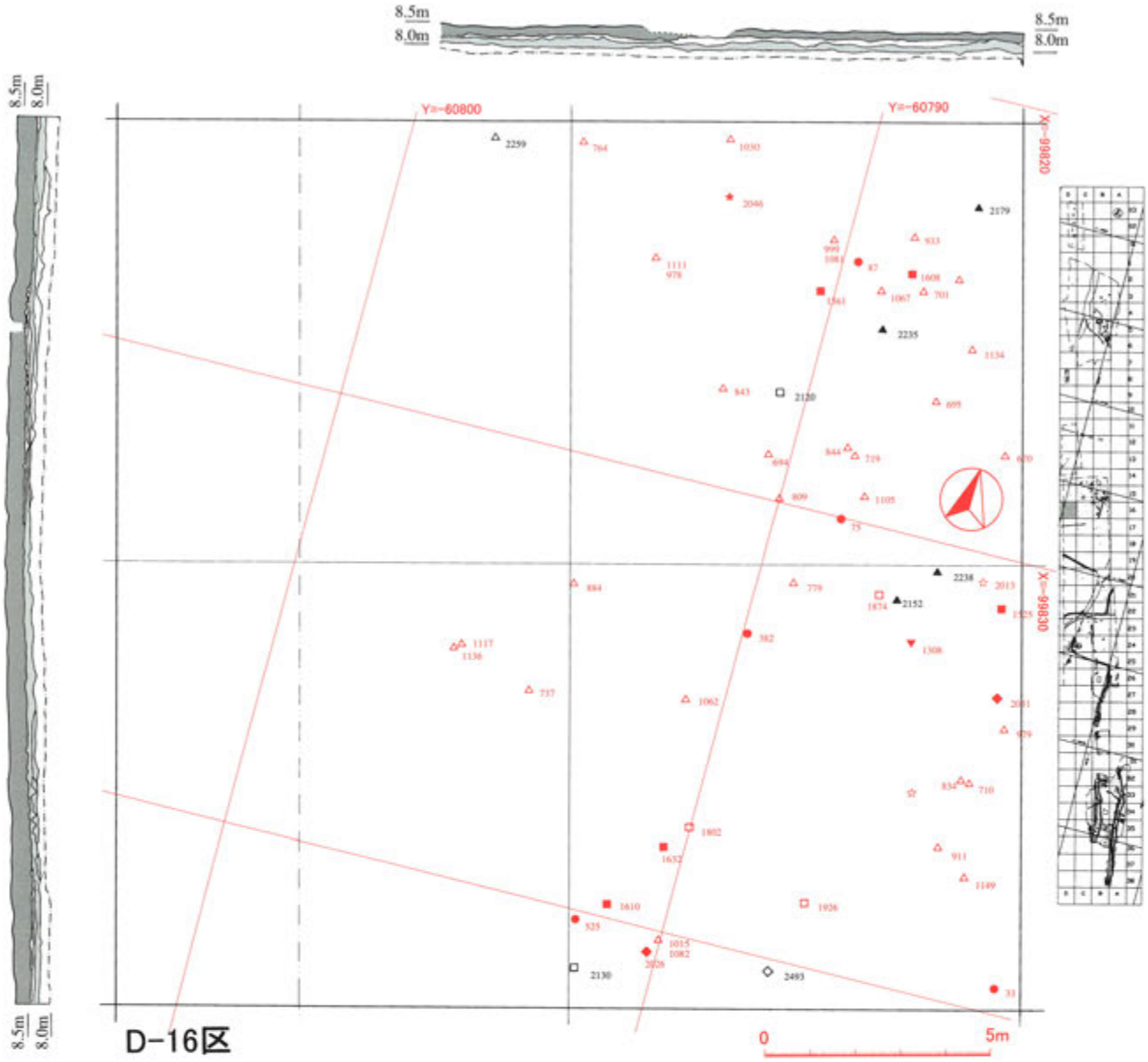
第51図　遺構検出及び遺物出土状況（33）B－15区

B-15区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.4m，低い所で8.3mである。この範囲はⅠ層→Ⅲ層→Ⅳ層となっており，Ⅱ層がないことから，昭和40年代の耕地整理で，削平されたものと考えられる。

この範囲から，縄文時代のものと考えられる埋設土器２（SJ119）・埋設土器１（SJ124），古代前半と考えられる焼土遺構2基(SF6・7)，古代の土坑16基（SK76・77・97・98・99・100・101・102・103・104・105・106・110・111・112・113），古代のピット４（SP116）・６（SP122）・５（SP123）を検出した。土坑やピットの埋土には，焼土粒や炭化粒が含まれている遺構もあった。すべてのピットに名称をつけたわけではなく，遺物が出土したものや，特徴的な形状及び埋土堆積状況を示すものだけに遺構名をつけた。ピットもいくつか検出したが，並ばせられなかった。この範囲の遺物は，縄文時代の埋設土器の他に，土坑・ピット内部より，土師器・須恵器・鞴の羽口等が出土した。

遺物の出土状況としては，石製土掘具・磨石・玉等の石器類や縄文土器，土師器・須恵器等が中心部に向かって弧を描くような形で大量に出土した。特に中心から周辺部にいくほど，遺物の量が多く濃密である。

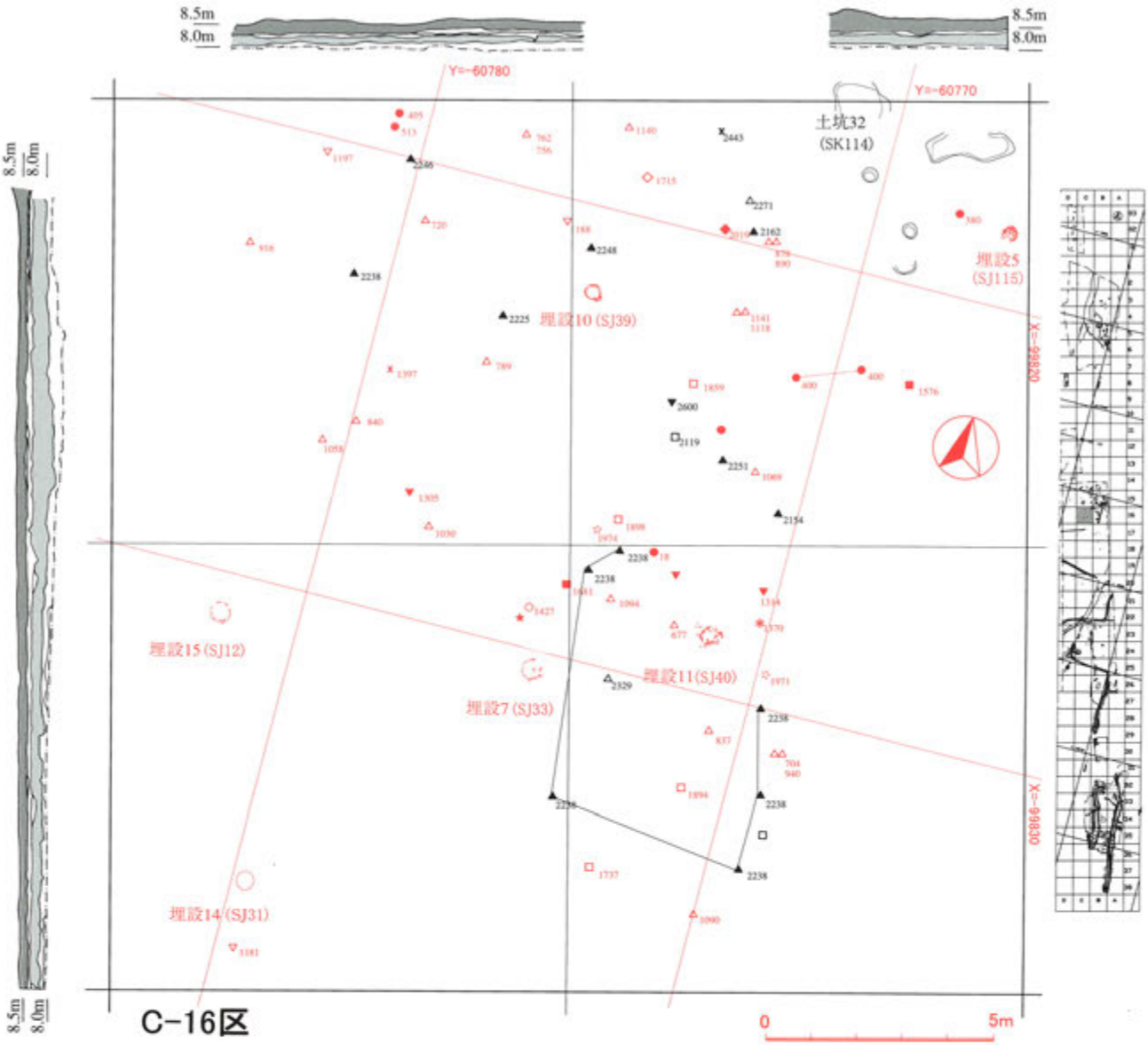


第52図　遺構検出及び遺物出土状況（34）D－16区

D-16区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.4m，低い所で8.04mである。北側壁面のⅡ層は，その堆積状況からⅡ・Ⅱb層とした。また，西側壁面では，Ⅱb層に炭化物が入ったものを確認したのでⅡb′層とし，Ⅲ層に暗灰褐色土でマンガン分が少量入ったややしまっている層を確認したので，これをⅢb層として分類した。

遺物の出土状況は，非常に濃密であり，特に石鏃が多く出土しており，またこの範囲の西側寄りに，縄文土器や須恵器等の多量の遺物が出土している。縄文土器は古手のものが多い。



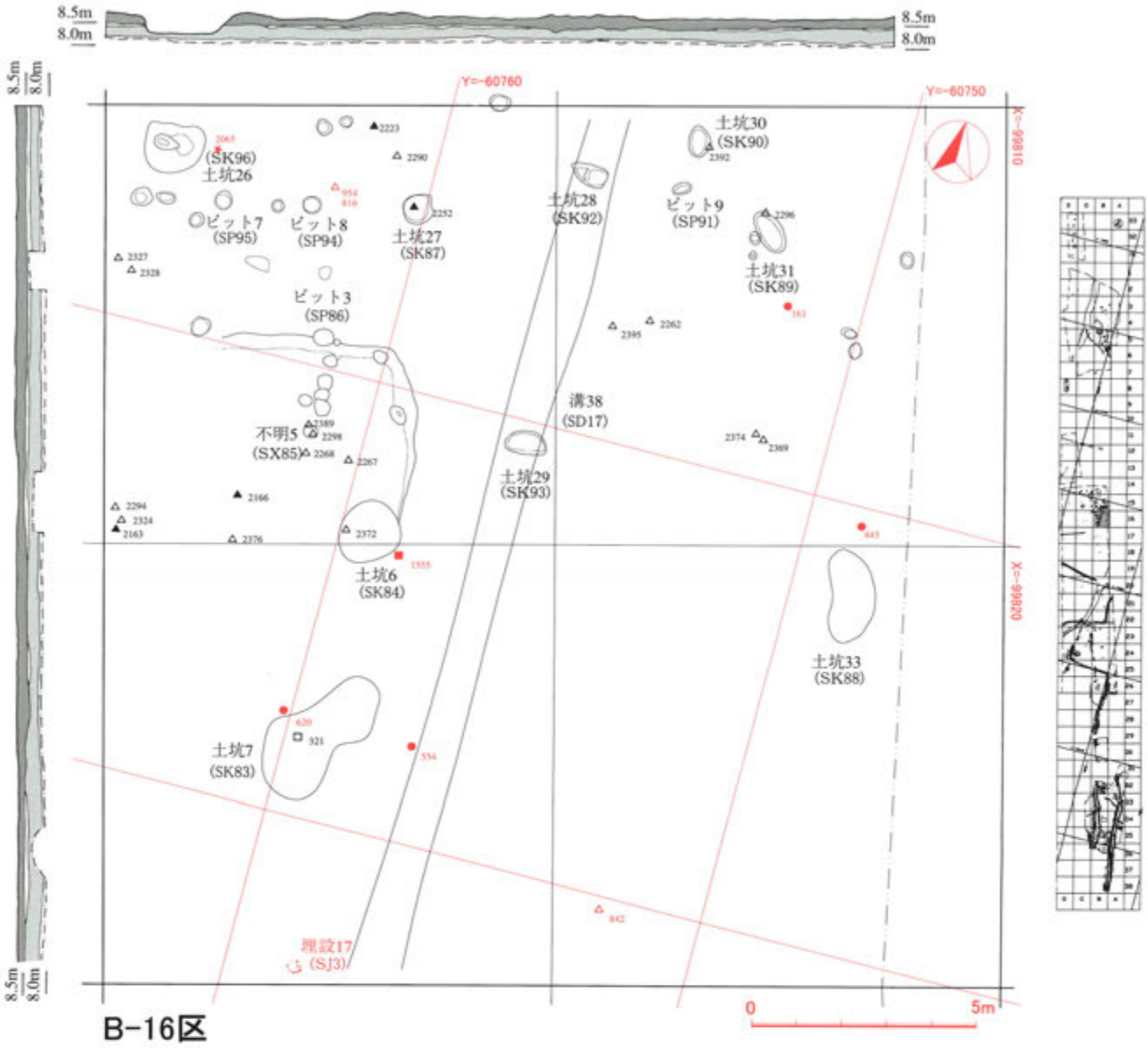
第53図　遺構検出及び遺物出土状況（35）C－16区

C-16区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.4m，低い所で8.16mである。西側壁面のⅡ層及びⅣ層は，その堆積状況からⅡ・Ⅱb・Ⅱb′・Ⅱc，Ⅳ・Ⅳ′層とした。

この範囲からは，縄文時代後期のものと思われる埋設土器15（SJ12）・14（SJ31）・7（SJ33）・10（SJ39）・11（SJ40）・5（SJ115）を検出した。ある程度の間隔をおくことから並ぶかとも考えたが，確実な関係はつかめなかった。古代の遺構は北東隅に限られており，当時の主体的な生活空間の南西端にあたる様である。

遺物の出土状況は，凹石・磨石・石鏃等の石器類や，縄文土器・土師器・須恵器・土錘等この範囲で全般的に出土しており，濃密である。特に中心部に弧を描くような形で多く出土している。D-16区に続いて石鏃の点数が目立っている。



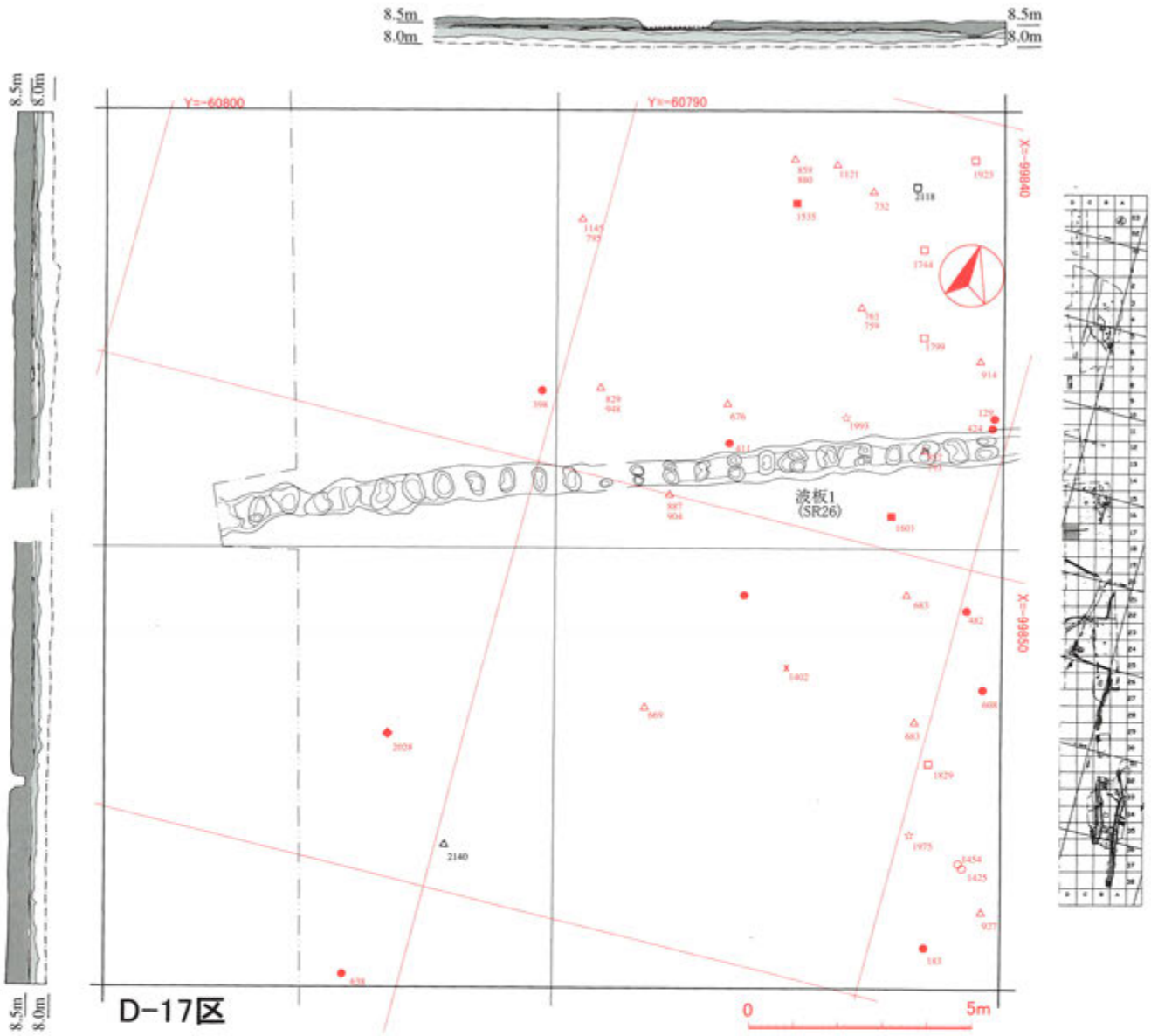
第54図　遺構検出及び遺物出土状況（36）B－16区

B-16区

北側壁面と西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.5m，低い所で8.3mである。北側壁面の0.8m～2.8mの地点にかけて削平されていた。

この範囲からは，縄文時代後期のものと思われる埋設土器17（SJ３），古代のものと思われる土坑９基（SK83・84・87・88・89・90・92・93・96），古代のものと思われるピット３（SP86）・９（SP91）・８（SP94）・７（SP95），古代のものと思われる不明遺構５（SX85），近世以降のものと思われる溝状遺構38（SD17）を検出した。土坑やピットの埋土には，焼土粒や炭化粒が含まれているのもあった。この範囲の遺物は，縄文時代の埋設土器の他に，土坑・ピット内部から，土師質の土器，土師甕の口縁部と甑の底部と考えられるもの，安山岩の礫，須恵器片等が出土した。溝状遺構38は表土除去後に精査したところ，この部分だけ筋状にサビ色をしていた。通常の遺構のつもりで掘り下げてみても，底面及び壁面ははっきり出てこなかった。おそらく上部に存在していたと考えられる溝状遺構の痕跡と判断した。ちょうど南北方向にあることから，条里型地割に関するものと考えられる。

遺物の出土状況としては，中心部からはあまり出土せず，北東・北西・南西より中心部に向かって弧を描くような形で，縄文土器や土師器・須恵器等が出土していた。南側では縄文時代及び古代以降ともに遺物の出土量が減ってきている。



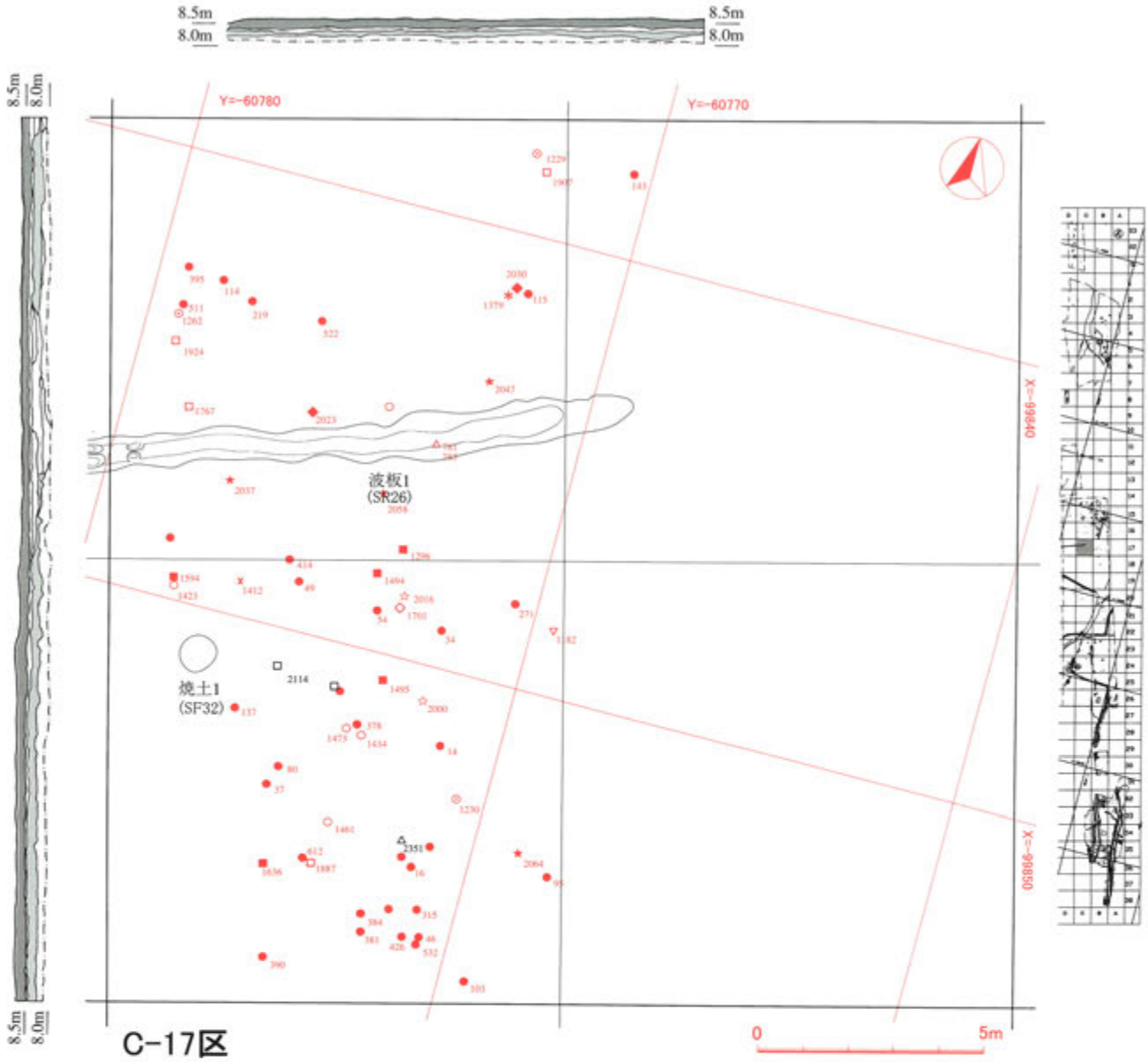
第55図　遺構検出及び遺物出土状況（37）D－17区

D-17区

北側壁面・西側壁面の標高は，高い所で8.43m，低い所で8.2mである。北側壁面のⅡ層は，下部に白灰色の層を確認したのでⅡb層とした。また，西側壁面では，Ⅰ層の下部にⅠ層よりもややしまりがあり赤味がかっている層を確認したので，これをⅠb層とした。さらにⅡ層の中に炭混じりの層を確認し，これをⅡb層とした。そしてⅡb層に似ているがⅡb層よりは粘性が強くしまりのある土の層を確認したので，これをⅡd層として分類した。

この範囲から，古代のものと思われる波板状凹凸面1（SR26）を検出した。当初は遺構とはわからず，雨あがりにいつもここだけが筋状に早く乾くことから掘り下げたところ，底面が波板状となった。この遺構から遺物は検出されなかった。

遺物の出土状況は非常に濃密であり，この範囲のより東側から石器類や縄文土器等の多量の遺物が出土している。また，D-16区の延長で石鏃の出土点数が目立つ。



第56図　遺構検出及び遺物出土状況（38）C－17区

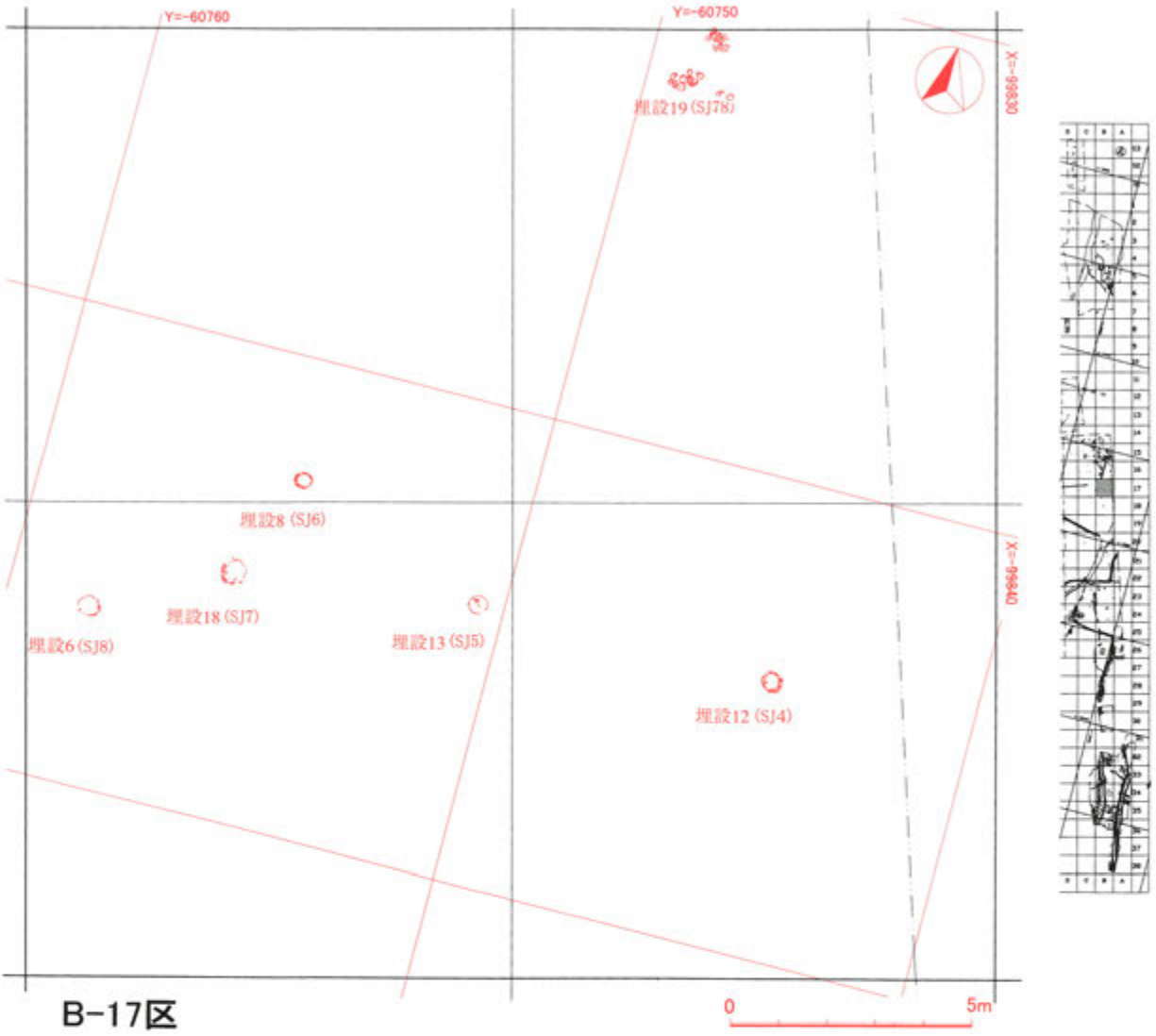
C-17区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.4m，低い所で8.24mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱ・Ⅱb・Ⅱe・Ⅱf層とした。西側壁面の14.3m～15mの地点と19.6m～20m地点のⅡf層に，溝らしきものを認めたが，遺構としては判断しなかった。

この範囲では，西側壁面の12.2m～12.8mの地点のⅢ層上面で，幅60cm，厚さ約12cmの古代と考えられる波板状凹凸面１（SR26）を検出した。波板状の凹凸がはっきりするのは西端のみであり，この区では単なる溝状遺構となって中央付近で消滅している。また，縄文時代の後期から晩期のものと思われる焼土１（SF32）を検出した。

遺物の出土状況は，石器類や縄文土器・玉等が西側の方から多量に出土しており，特に南西方向が濃密である。

東側は水路で寸断されているものの，縄文時代の遺物も見られず，波板状凹凸面１もこの付近で消滅していることから，後世に削平されたものと思われる。



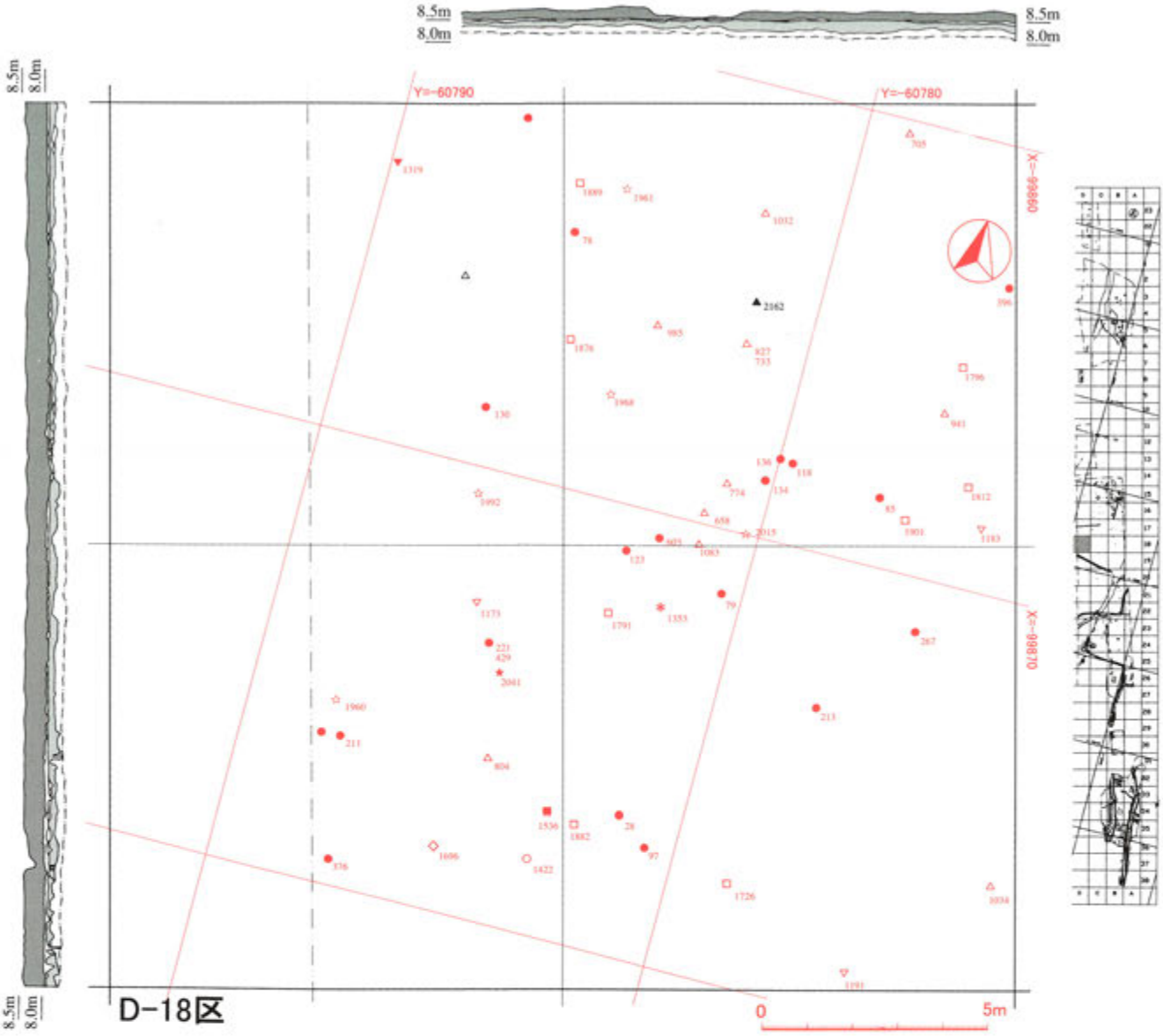
第57図　遺構検出及び遺物出土状況（39）B－17区

B-17区

北側壁面については表土層直下がⅢ層の途中であり，西側壁面については水路によって削平されていたため，図化しなかった。

この範囲から，縄文時代後期後半から晩期のものと思われる埋設土器12（SJ４）・13（SJ５）・８（SJ６）・18（SJ７）・６（SJ８）・19（SJ78）を検出した。

埋設土器以外の遺構は検出されなかった。古代の遺構・遺物が全くなく，縄文時代の遺物の出土もなかった。さらに，埋設土器自体も半分より下部が辛うじて残っている状態であったことから，この範囲は後世に削平されたものと考えられる。

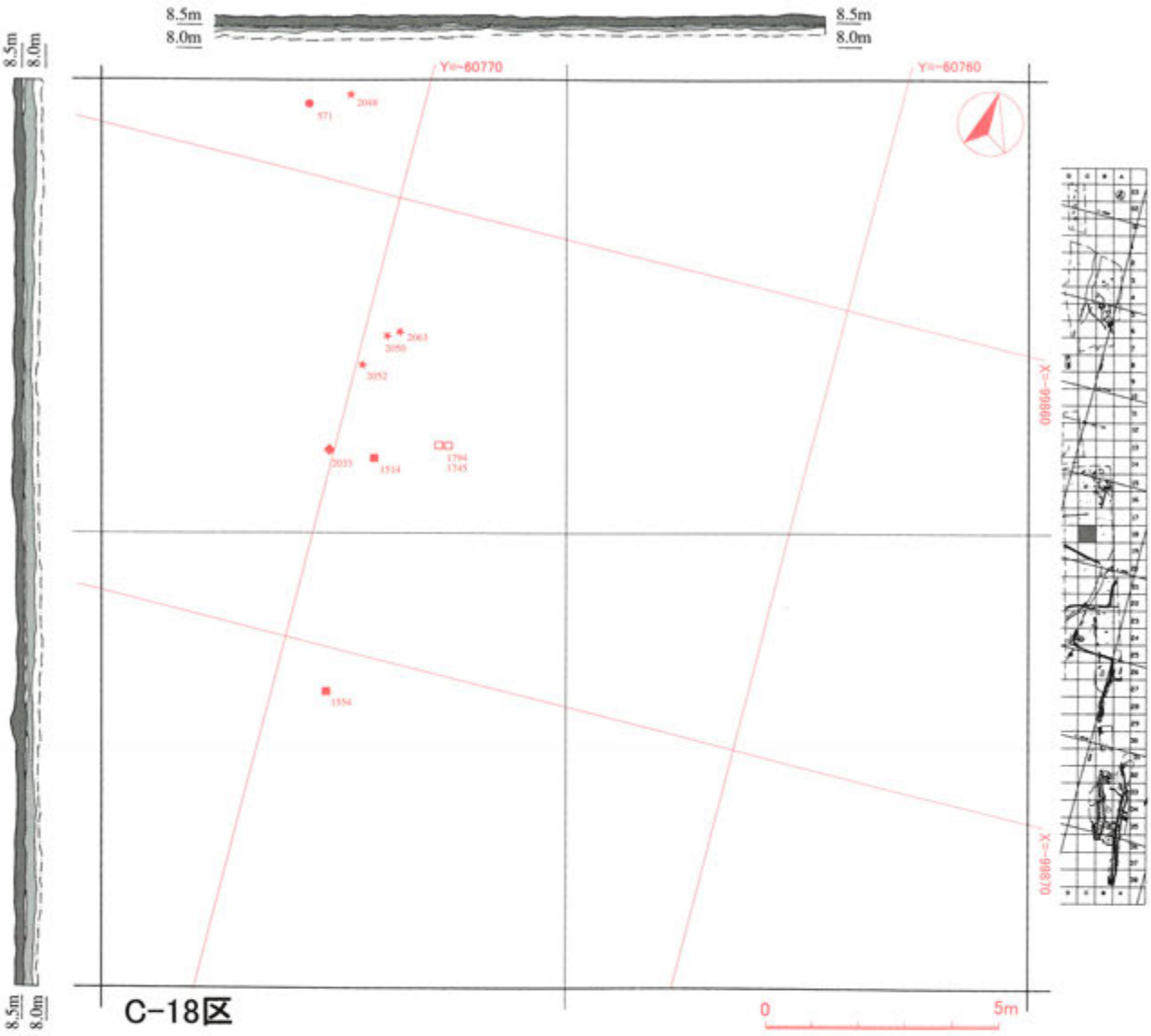


第58図　遺構検出及び遺物出土状況（40）D－18区

D-18区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.5m，低い所で8.42mである。北側壁面の11.8m～13.9mの地点にかけてⅠ層が極端に薄くなるので，この部分は削平を受けていたことが考えられる。

この範囲から古代及び縄文時代の遺構は検出されなかった。古代の遺物はまばらであるが，縄文時代の遺物の出土状況は非常に濃密であり，この範囲の東西南北いたるところから石器類や縄文土器等の多量の遺物が出土している。特に，中心に向かって弧を描くように出土している。西側にも広がる様相がみられ，調査範囲外にも包含層が広がるとみられる。

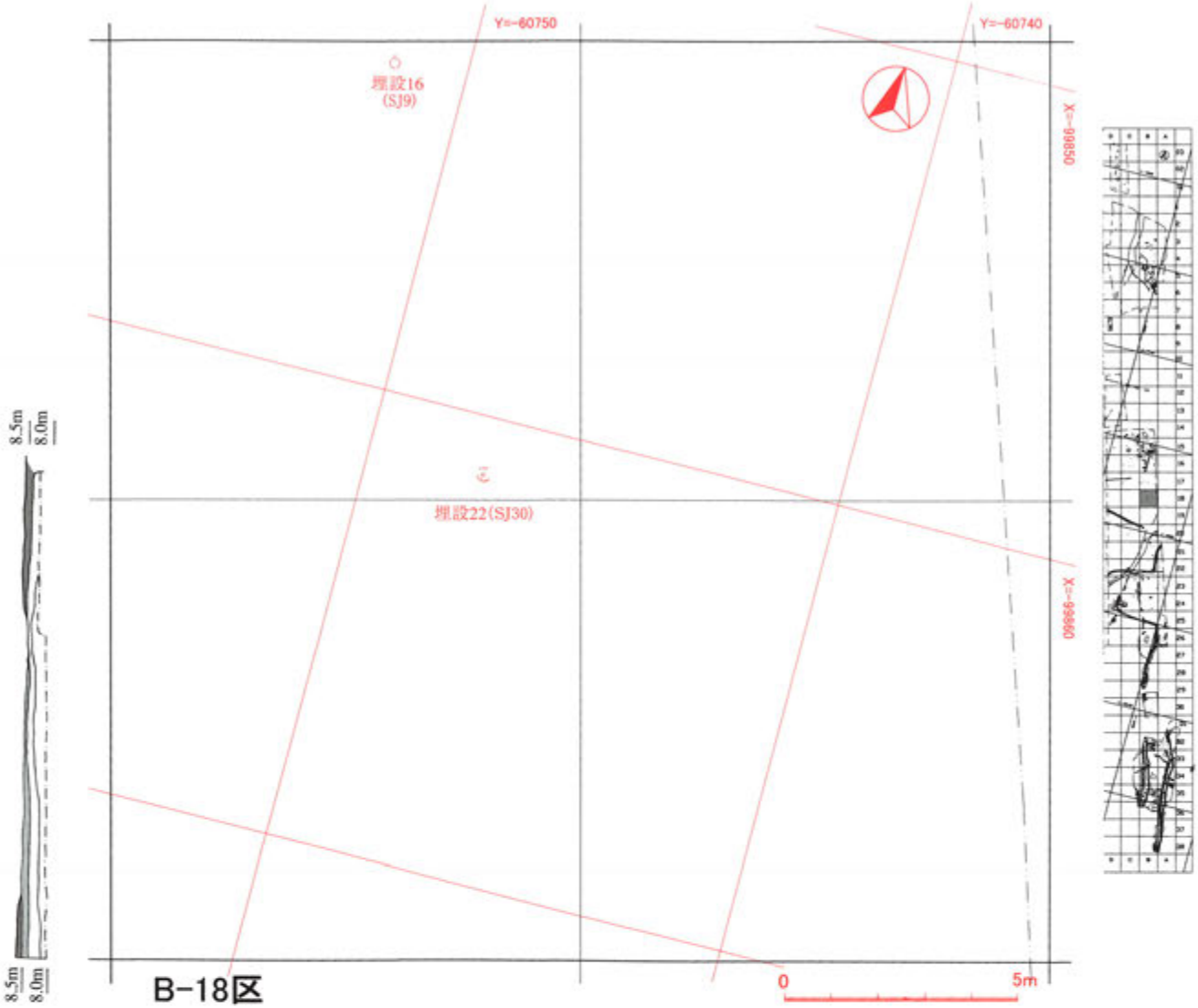


第59図　遺構検出及び遺物出土状況（41）C－18区

C-18区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.5m，低い所で8.4mである。北側壁面・西側壁面ともにⅡ層が薄い。

遺物の出土状況は，石器類や縄文土器等の遺物がやや西側に点在して出土している。玉類もこの区の北側までは出土しており，分布範囲が明らかである。東側は後世に削平されたものと考えられる。



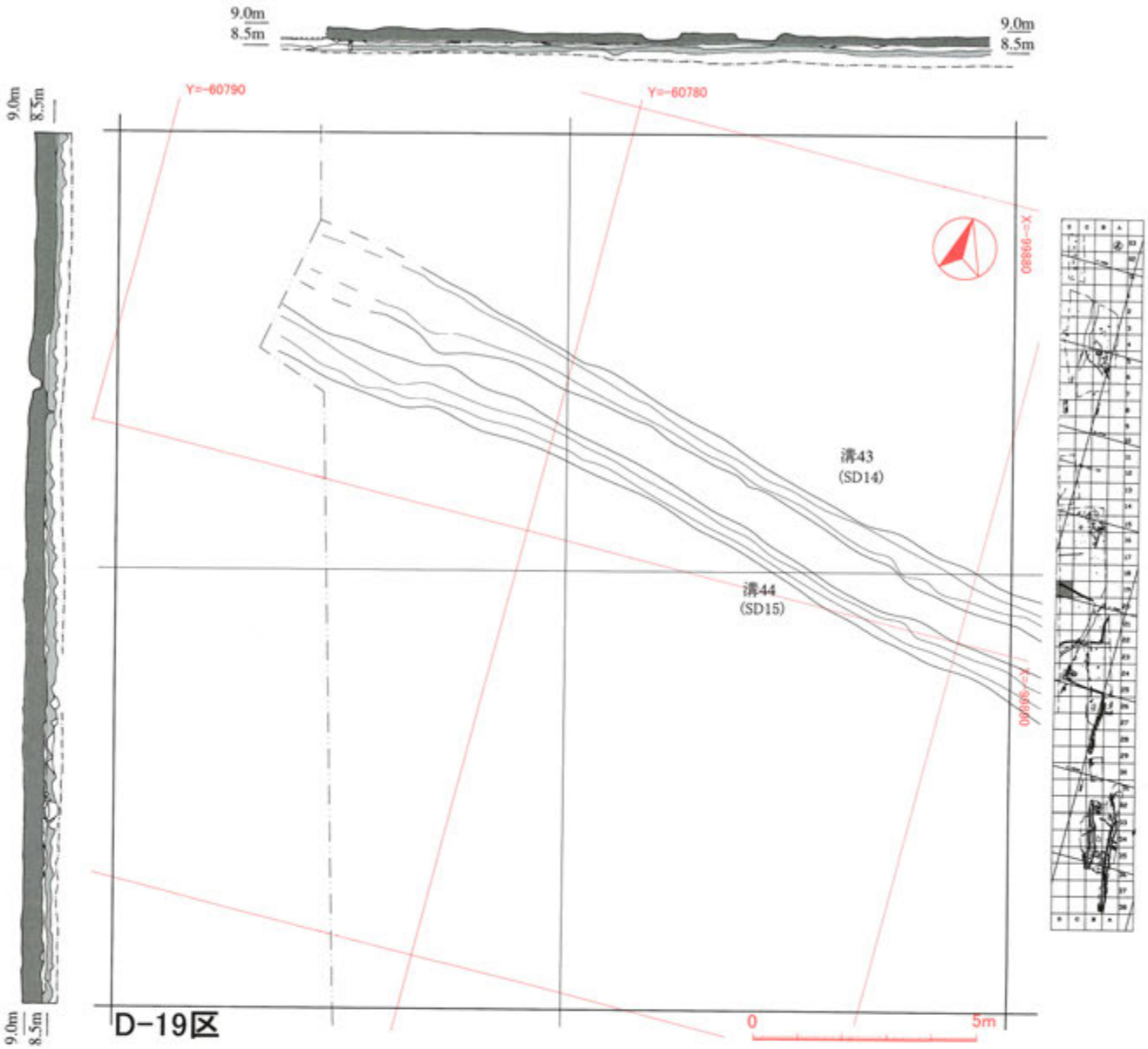
第60図　遺構検出及び遺物出土状況（42）B－18区

B-18区

西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.5m，低い所で8.4mである。この範囲の層位はⅠ層部分が，1.36mの地点～7.3mの地点まで無く，Ⅲ層上面が地表に現れていることから，調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。また，12mの地点から側溝工事のために深く掘られていた。

この範囲からは，縄文時代晩期のものと思われる埋設土器16（SJ９）・22（SJ30）を検出した。

埋設土器以外の遺物は検出されなかった。埋設土器も下半部しか出土しなかったことから，後世に削平を受けて辛うじて残ったものと考えられる。

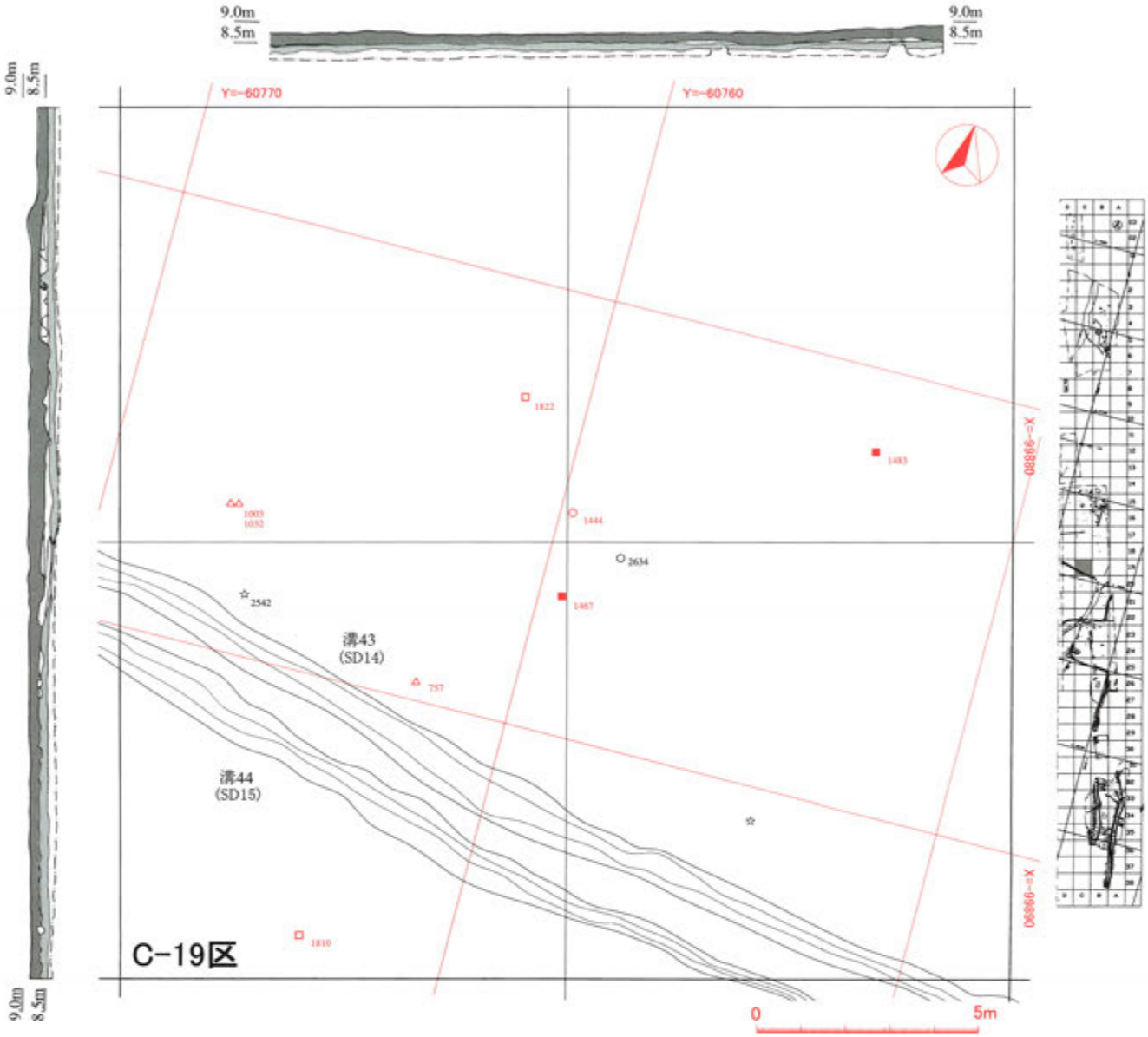


第61図　遺構検出及び遺物出土状況（43）D－19区

D-19区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.6m，低い所で8.3mである。北側壁面のⅠ層は，3.46m～4.5mの地点で削平を受けていたことが考えられる。Ⅱ層は，その堆積状況からⅡ・Ⅱb層とした。また，西側壁面のⅢ層はその堆積状況からⅢ・Ⅲ′層とした。西側壁面の0m～7.3mの地点では，Ⅱ層・Ⅱb層・Ⅱb′層・Ⅲ層・Ⅲ′層と細かく点在していることが確認された。

溝状遺構43（SD14）と溝状遺構44（SD15）が並行して東西方向に延びており，昭和40年代の地籍図に描かれた道跡と一致した。その他の遺物や遺構がないことから，後世に削平された部分ではないかと考えられる。条里型地割大区画の南東隅に位置することから，条里型地割の施工時期に旧地形の中では最も深く削平されたのではないかと考えられる。



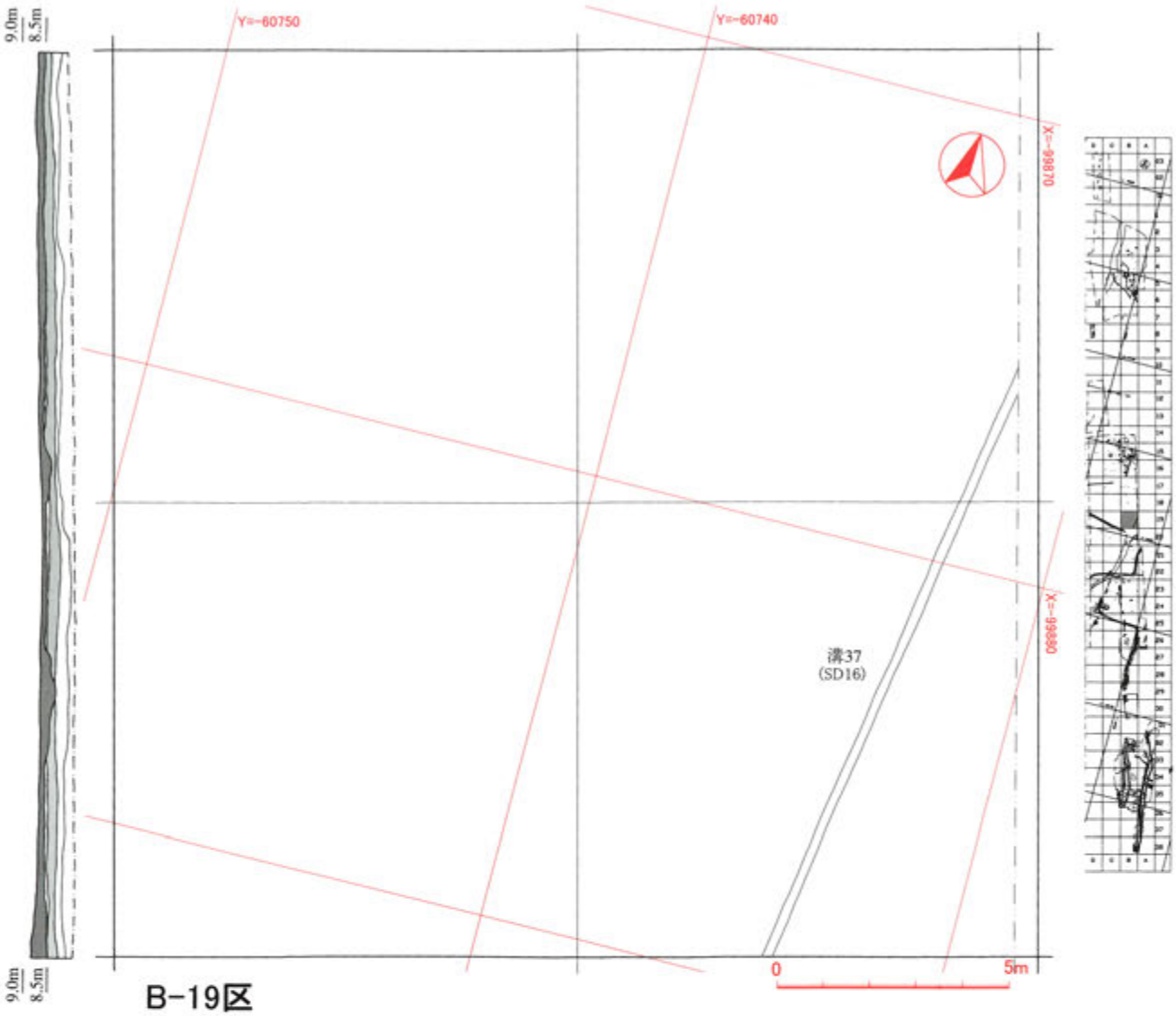
第62図　遺構検出及び遺物出土状況（44）C－19区

C-19区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.66m，低い所で8.46mである。北側壁面の3.24m～５mの地点にかけて，Ⅰ層とⅢ層の間に厚さ４cm程度の赤橙化した層が認められた。その堆積状況からⅠ層をⅠ・Ⅰb層（灰褐色土層：見入来遺跡で見られた溝の埋土に類似しており，乾燥すると灰白色になる），Ⅱ層をⅡb・Ⅱe層（Ⅱb層よりマンガン分が多く，しまりが弱い暗灰褐色土）・Ⅱf層（Ⅱe層より粗く，マンガン分を含む黒灰褐色砂質土）とした。

南側には，近世～近代のものと考えられる，東西方向の溝状遺構43（SD14）・44（SD15）を検出した。これらの遺構の中から，近代陶磁器片や波瓦片，薩摩焼の擂鉢等が出土した。また，溝内には使用済みの石炭が埋められており，駅周辺の利用状況が窺える。昭和40年代の地籍図に道路として表示されており，ちょうどこの部分であることがわかった。

遺物の出土状況は，石器類や縄文土器・陶磁器類等が全般的な範囲から出土している。特に，南東方向から多く出土している。

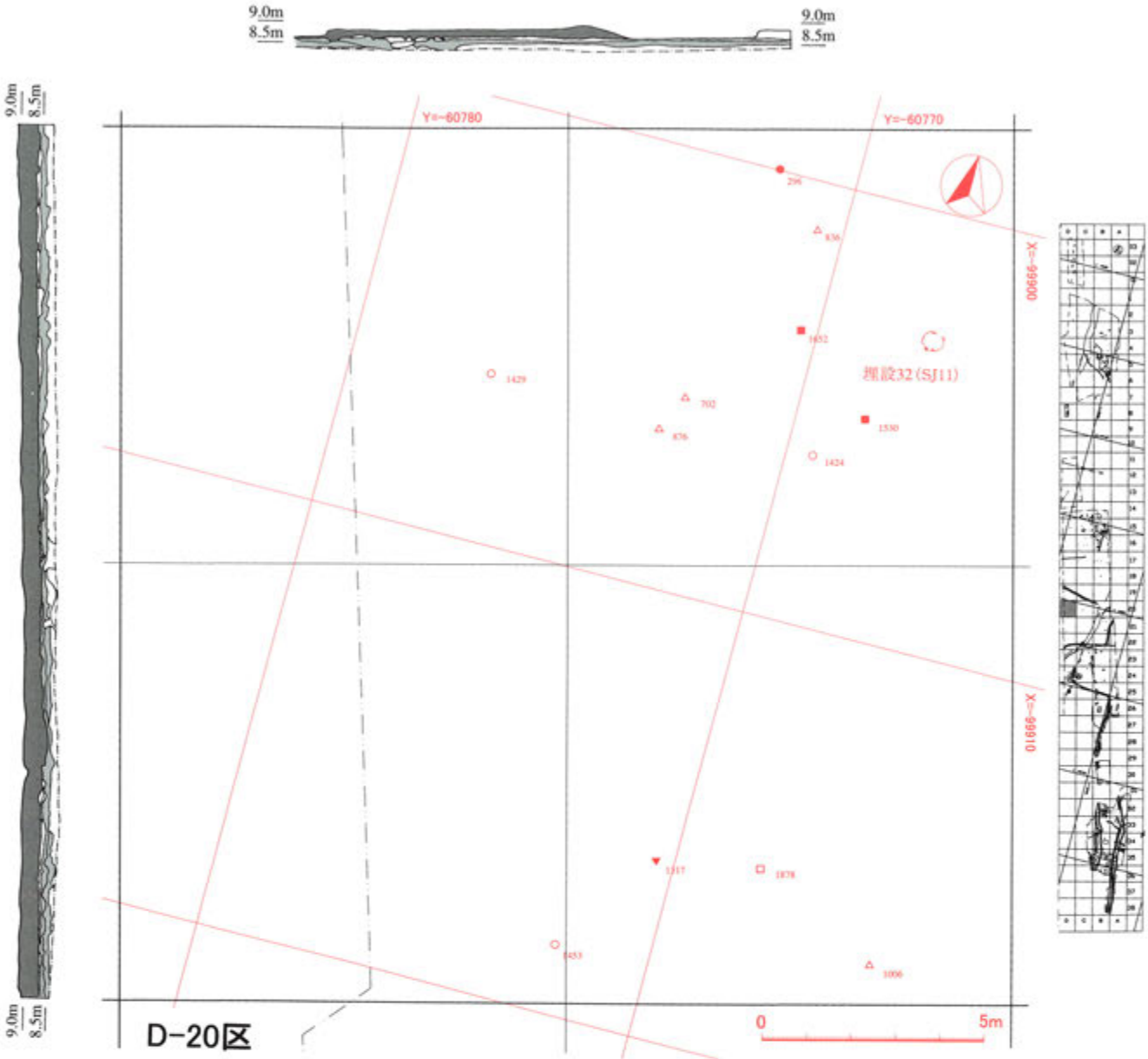


第63図　遺構検出及び遺物出土状況（45）B－19区

B-19区

西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.5m，低い所で8.44mである。Ⅲ層内部の特色から，これをⅢa・Ⅲb層と分けた。

この範囲からは，近世以降のものと思われる溝状遺構37（SD16）が検出された。これは表土を剥がして精査した時点で，この部分だけが筋状にサビ色を呈していたので遺構名を付した。通常の遺構のつもりで掘ってみたものの，壁面も床面もつかむことができず，漸次層が変わっていった。したがって，この上部に何らかの施設があり，その痕跡として溝状に土質が変化した部分が検出されたのではないかと考えられる。条里型区画の延長上にあることと，磁北に合っていることから，関係があるものと想定される。昭和40年代の地籍図では，畦道と水路の様なものが描かれており，この水路の部分なのではなかろうか。他の遺構や遺物は検出されなかった。後世に削平されたものと考えられる。



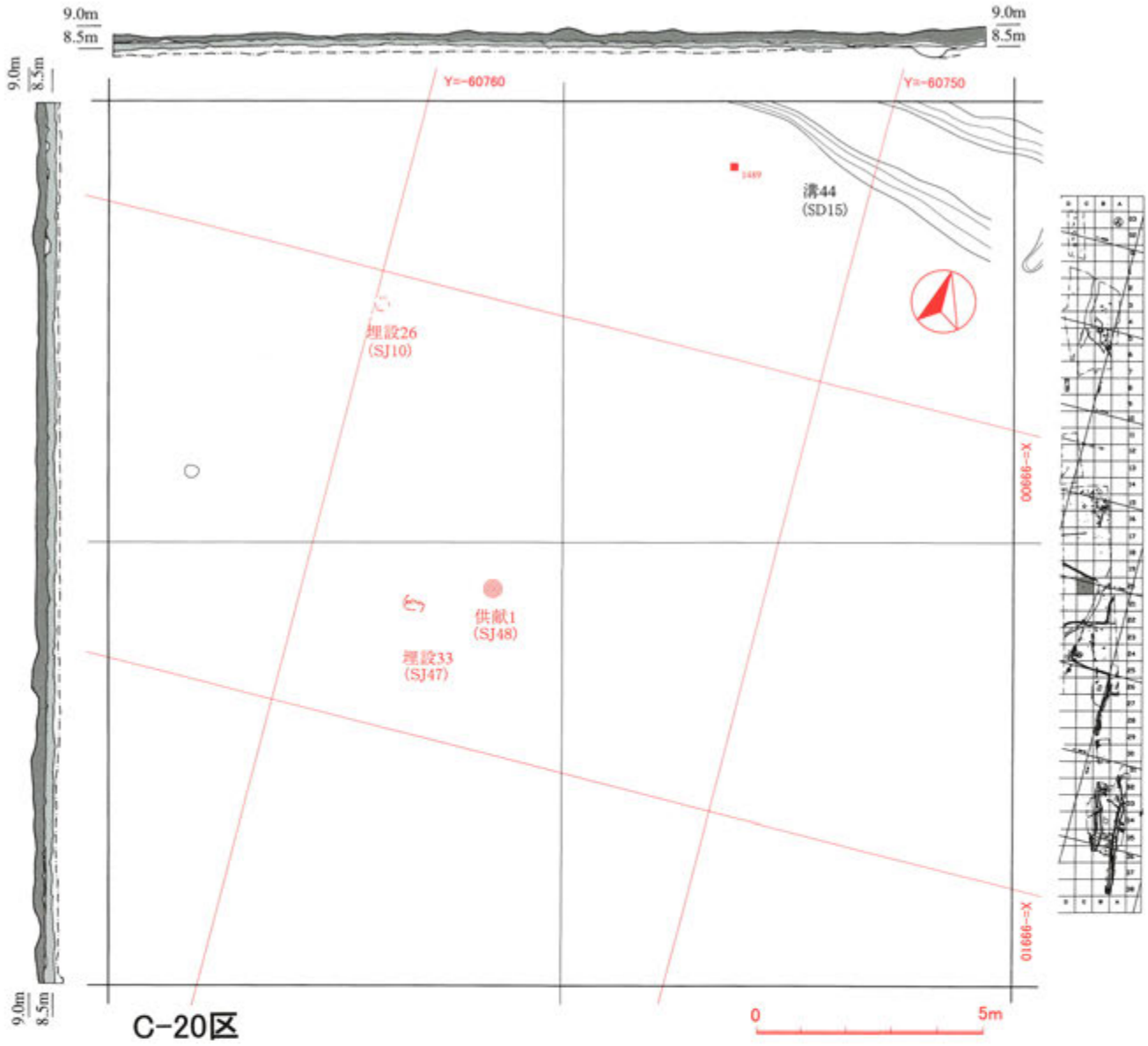
第64図　遺構検出及び遺物出土状況（46）D－20区

D-20区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.64m，低い所で8.5mである。北側壁面のⅡ層は，その堆積状況から，Ⅱ・Ⅱb・Ⅱb′層とした。また，西側壁面でもⅡ層の堆積状況からⅡ・Ⅱb層とし，Ⅲ層下部の層をⅢ′層とした。西側壁面の15.6mの地点～16.3mの地点にかけて，Ⅰ層下部の層をⅠb層として分類した。

この範囲からは，縄文時代晩期のものと考えられる埋設土器32（SJ11）を検出した。この区で出土する土器は黒川式土器が優位を占めている。

遺物の出土状況は，石器類や縄文土器等の遺物が東側から多量に出土している。



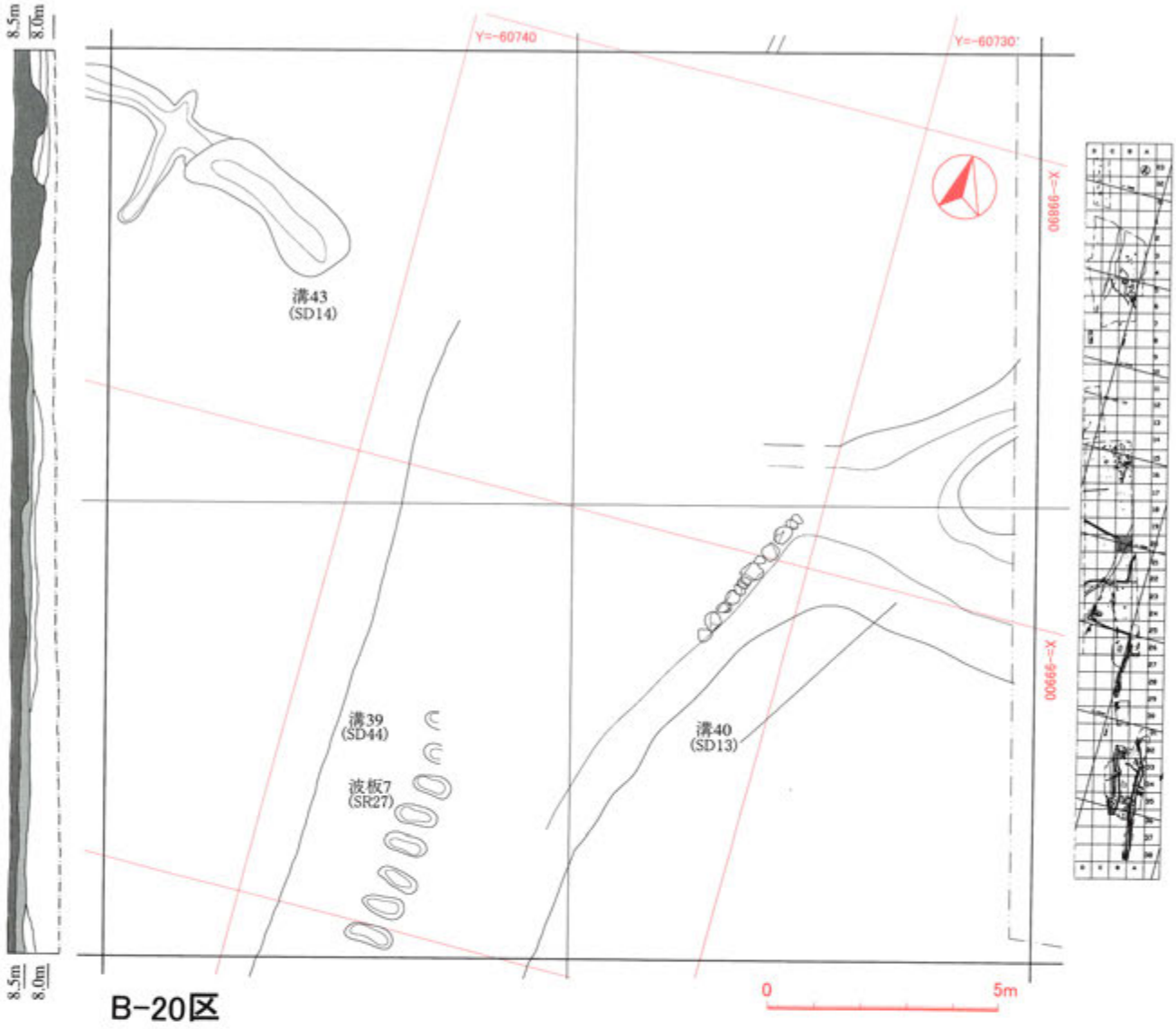
第65図　遺構検出及び遺物出土状況（47）C－20区

C-20区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.7m，低い所で8.53mである。Ⅰ層をその堆積状況からⅠ・Ⅰb層とした。北側壁面・西側壁面ともⅡ層は認められなかった。

この範囲からは，縄文時代晩期のものと思われる埋設土器26（SJ10）・33（SJ47），供献土器１（SJ48）を検出した。埋設土器26は表土を下げた時点で検出できたのであるが，埋設土器33及び供献土器１については，最終的な重機による掘り下げの際見つかったものである。この区での包含層はすでに削平されていたと考えられ，埋設された土器だけが確認できたといえる。近現代の道跡（溝状遺構43・44）は北東隅で確認された。

遺物の出土状況は，北側に点在する形で出土している。

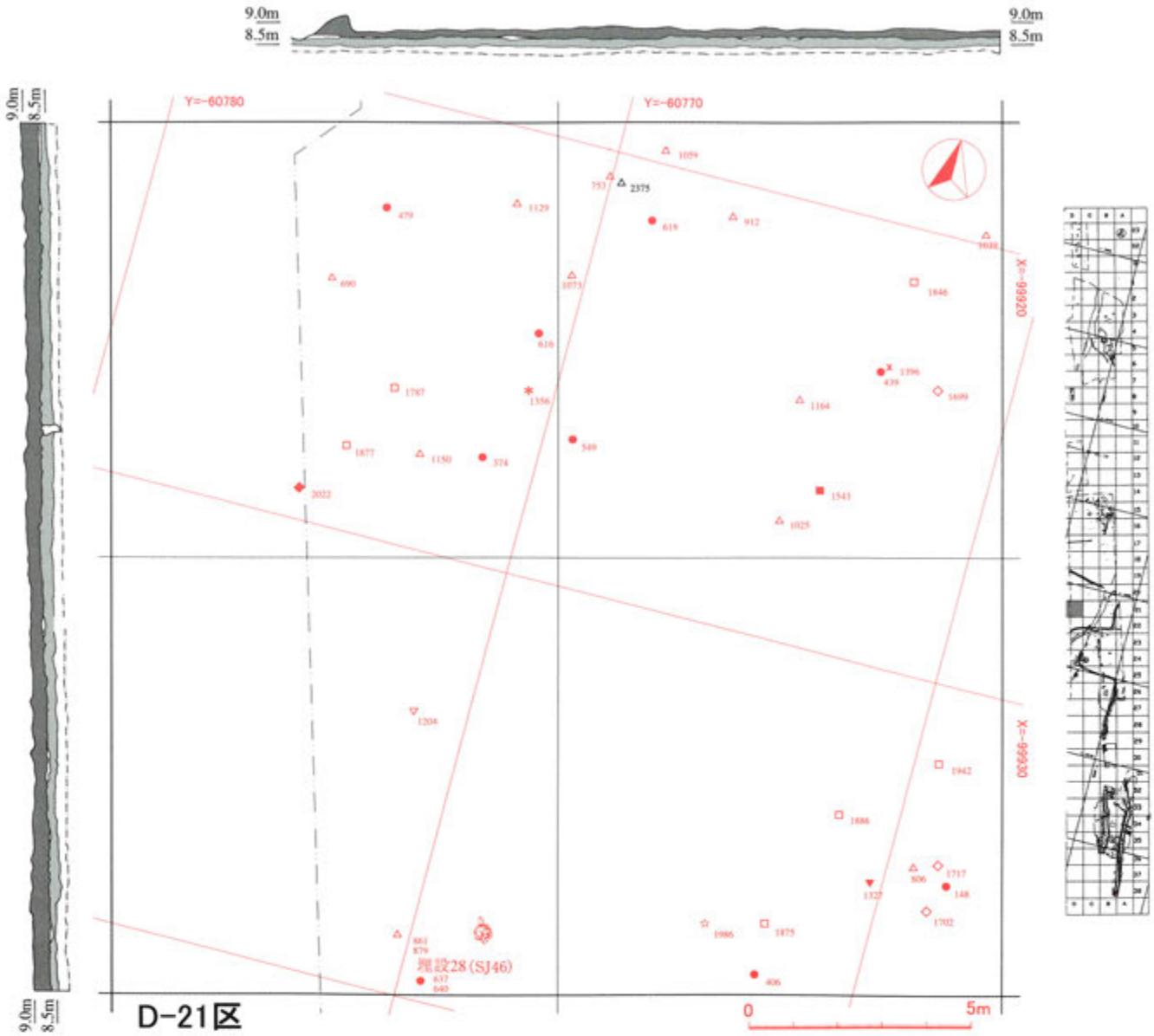


第66図　遺構検出及び遺物出土状況（48）B－20区

B-20区

西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.6m，低い所で8.5mである。この範囲の層位はⅠ層→Ⅲ層→Ⅳ層→Ⅴ層となっていることから，昭和40年代の耕地整理の段階で削平を受けていることが考えられる。特にⅤ層が厚い。また，15m～20mの地点にかけてはⅠ層とⅤ層が厚く堆積している。

この範囲からは，中世のものと思われる波板状凹凸面７（SR27），近世以降のものと思われる溝状遺構40（SD13）を検出した。遺物はスクレイパーや石製土掘具等の石器類が出土した。条里型地割の大区画の交差点部分と考えられる地点であるが，ちょうど水路によって切られていたり，確認トレンチが入れられたためもあってか，はっきりした交差点を見出すことができなかった。南側へは昭和40年代までは川となっていた様であり，東側の一部を石列で護岸している。東側へは溝状の遺構が２つに分かれて延びていく様だったが，それ以上の追究は範囲外のためできなかった。昭和40年代の地籍図では，この部分で同様な田んぼ境が描かれている。これより北東側は山裾になるため，条里型には区画できなかったのではないかと推察される。

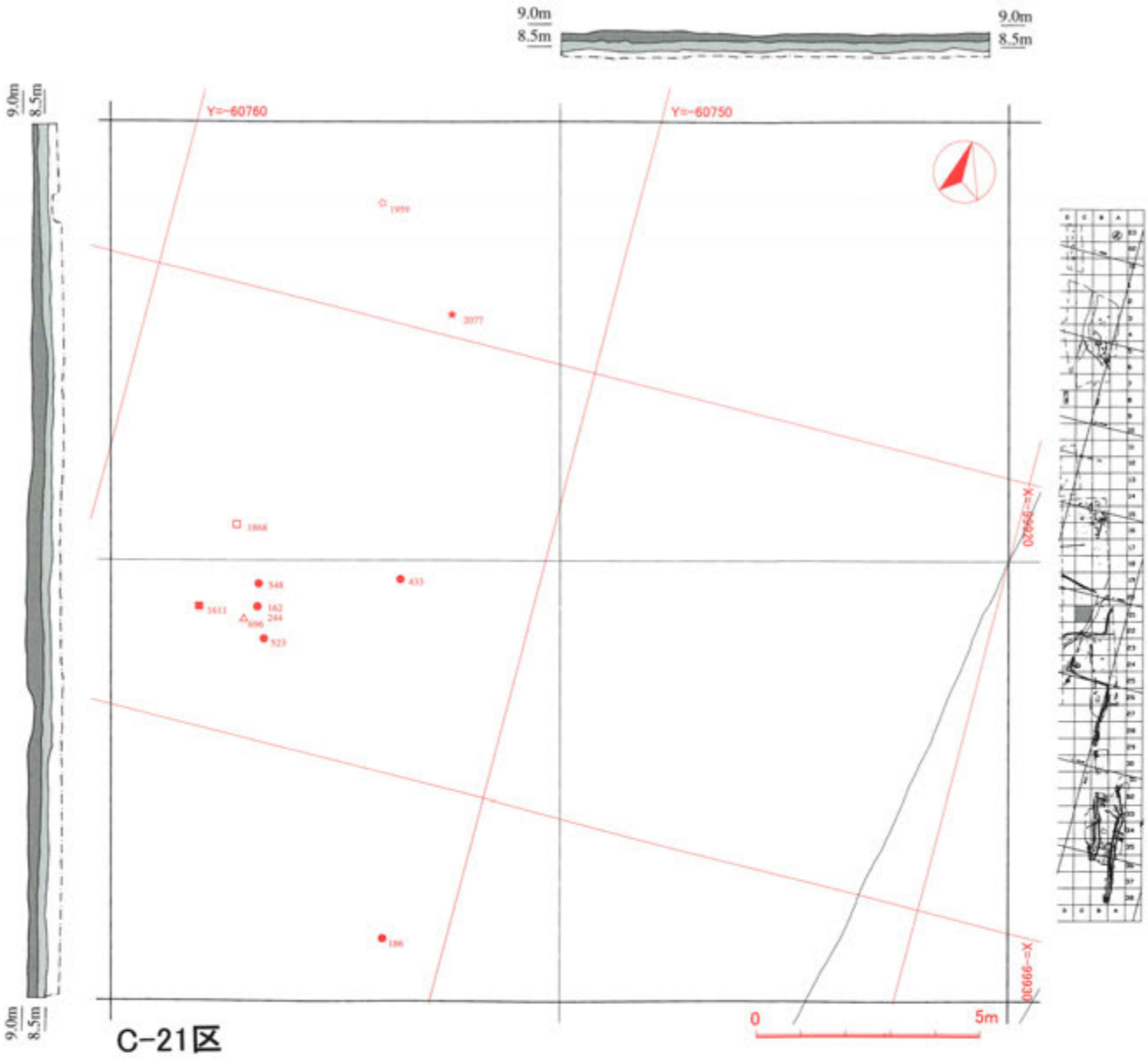


第67図　遺構検出及び遺物出土状況（49）D−21区

D-21区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.66m，低い所で8.55mである。この範囲からは，縄文時代の埋設土器28（SJ46）を検出した。上下の底部形態は異なるが，入佐式土器であると考えられる。この土器の数cm下から人頭大の礫も検出した。遺物の出土状況は濃密であり，大きくみると北側と南側に分かれる様である。縄文時代の遺物が多く出土しているが，円盤形石製品が４点とまとまりがある。

古代以降の遺構は全くみられず，遺物もごく少量であった。後世の削平によるものと考えられる。



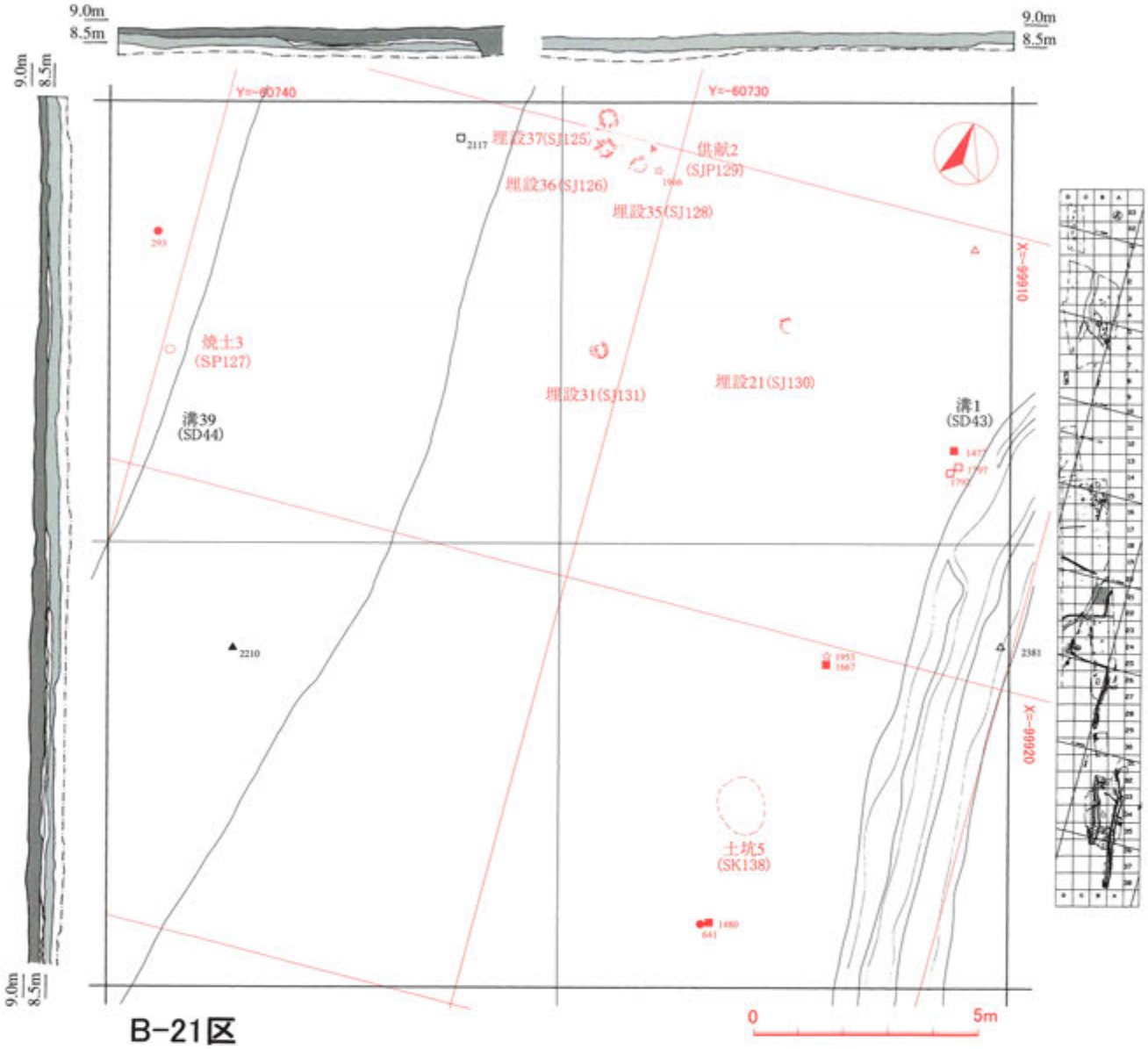
第68図　遺構検出及び遺物出土状況（50）C－21区

C-21区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.7m，低い所で8.5mである。南東隅に昭和40年代まで利用されていた溝状遺構39（SD44）があるだけで，他の遺構は全くなかった。Ⅱ層がないことから，昭和40年代の耕地整理の際に削平を受けていたことが考えられる。

この範囲からは遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は，西側から石製土掘具・石鏃等の石器類や縄文土器が出土している。

古代以降の遺物がほとんどなかったのは，後世の削平のためだと思われる。

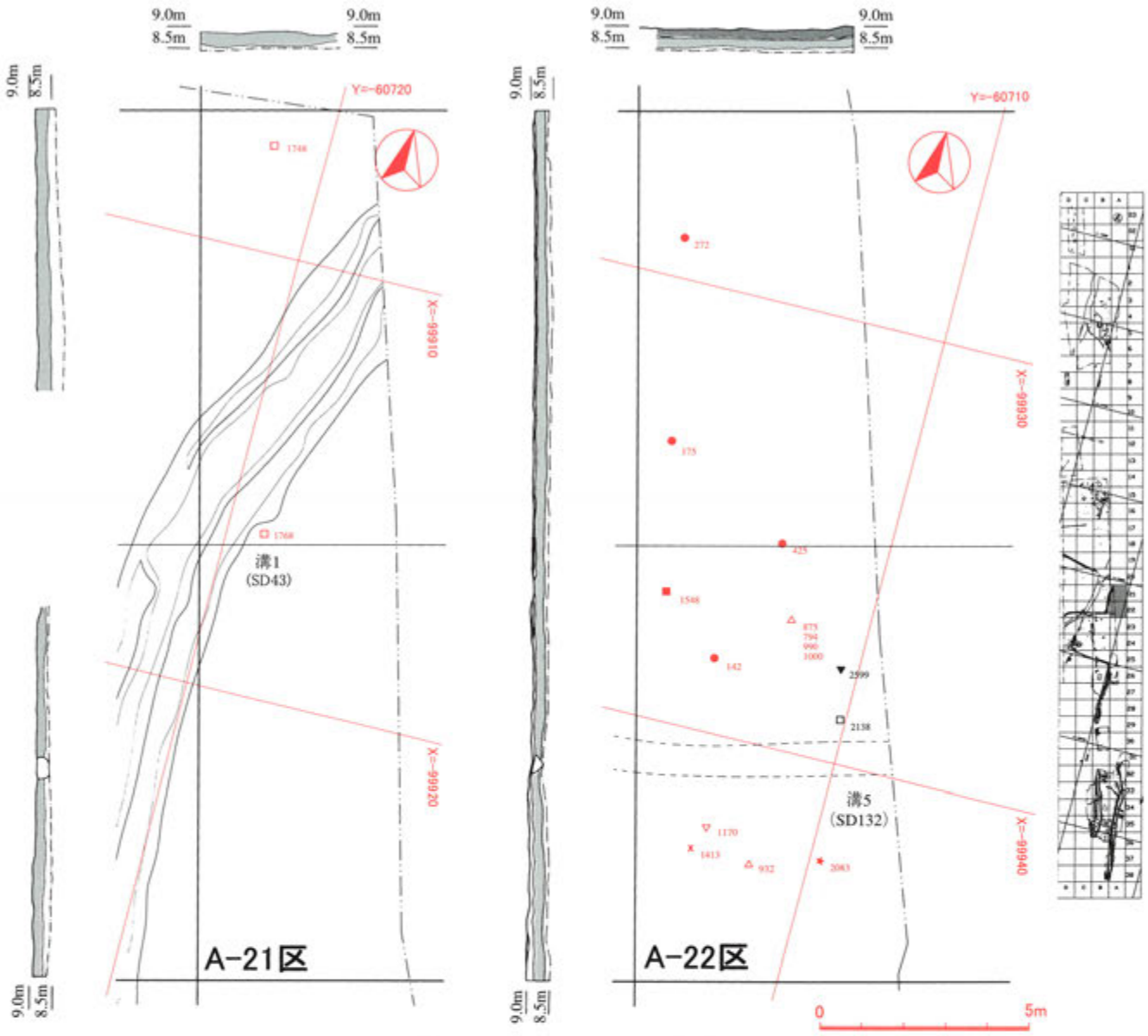


第69図　遺構検出及び遺物出土状況（51）B−21区

B-21区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.8m，低い所で8.5mである。北側壁面の８m～9.4mの地点の層で撹乱があった。溝状遺構39(SD44)が西側を占めていて，東側には溝状遺構１（SD43）が南北に走る。B-20区で検出した波板状凹凸面７（SR27）は，この区では検出できなかった。この範囲からは，縄文時代晩期の埋設土器37（SJ125）・36（SJ126）・35（SJ128）・21（SJ130）・31（SJ131），供献土器２（SJP129），縄文時代のピット１基，縄文時代の土坑５（SK138）を検出した。土坑からは小さな破片の土器が出土した。埋設土器は北東寄りに集中して検出されたが，若干の時期差がみられる。

遺物の出土状況は，石製土掘具・石錘等の石器類や縄文土器，須恵器・土師器等の遺物が中心より南東側の方から多く出土している。



第70図　遺構検出及び遺物出土状況（52）A－21・22区

A-21区

北側壁面・西側壁面の標高は，高い所で8.9m，低い所で8.8mである。北側壁面・西側壁面とも，表土除去後Ⅲ層上面から現れていることから，確認調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。B-21区から延びてきた溝状遺構１（SD43）は，向きを東北に変えながら調査対象範囲外へ延びる。

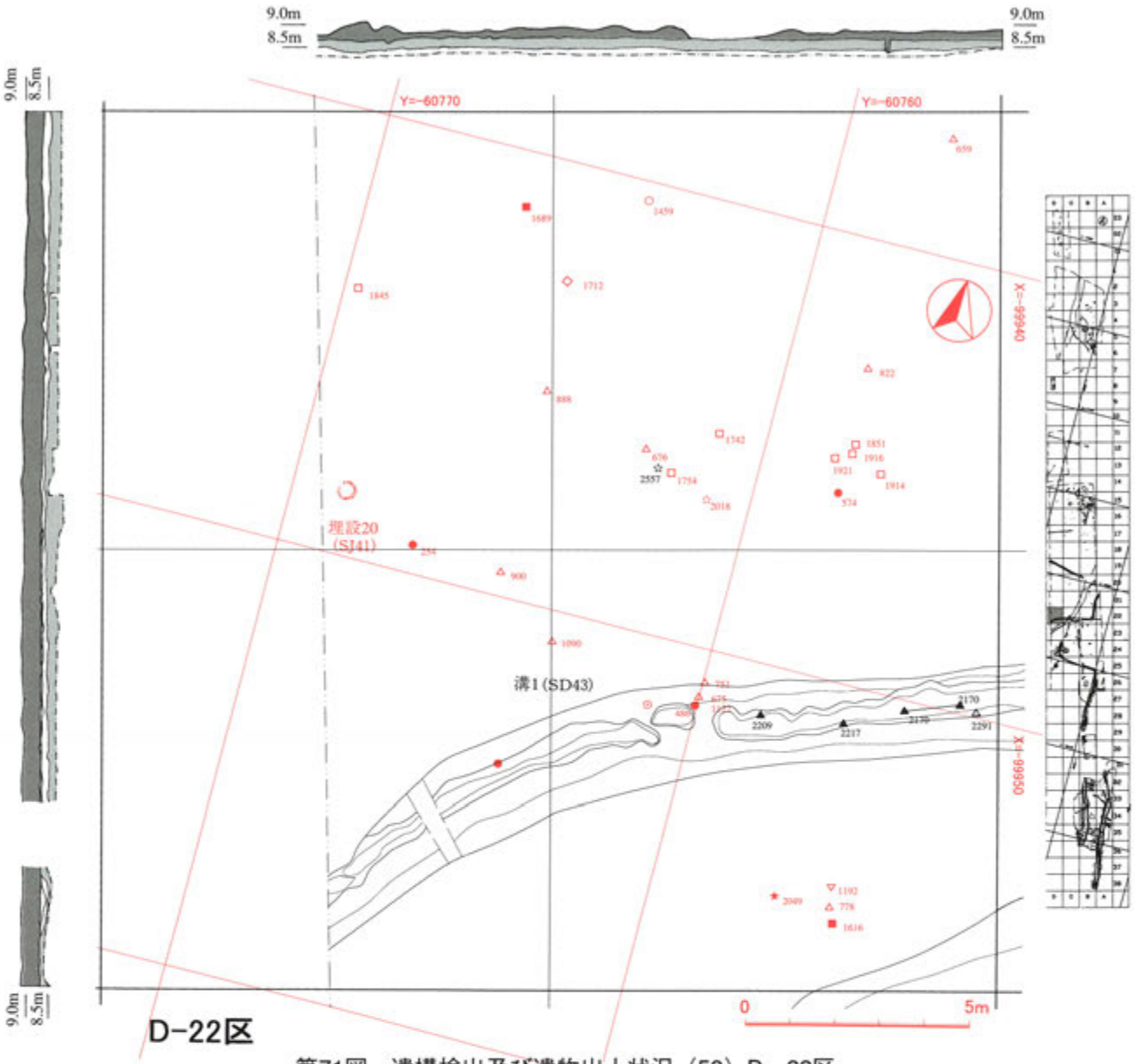
遺物はこの範囲の中にまばらに点在する形で出土している。

A-22区

北側壁面・西側壁面の標高は，高い所で９m，低い所で8.7mである。北側壁面・西側壁面とも，Ⅱ層上面から現れていることから，確認調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面のⅢ層とⅣ層の間に，明灰色弱粘質土の土坑のような所が検出されたが，遺物は出土しなかった。

溝状遺構１（SD43）から延びてきた溝状遺構５（SD132）があったが，平面図は不手際により作成しなかった。写真及び土層断面と略図が頼りとなった。

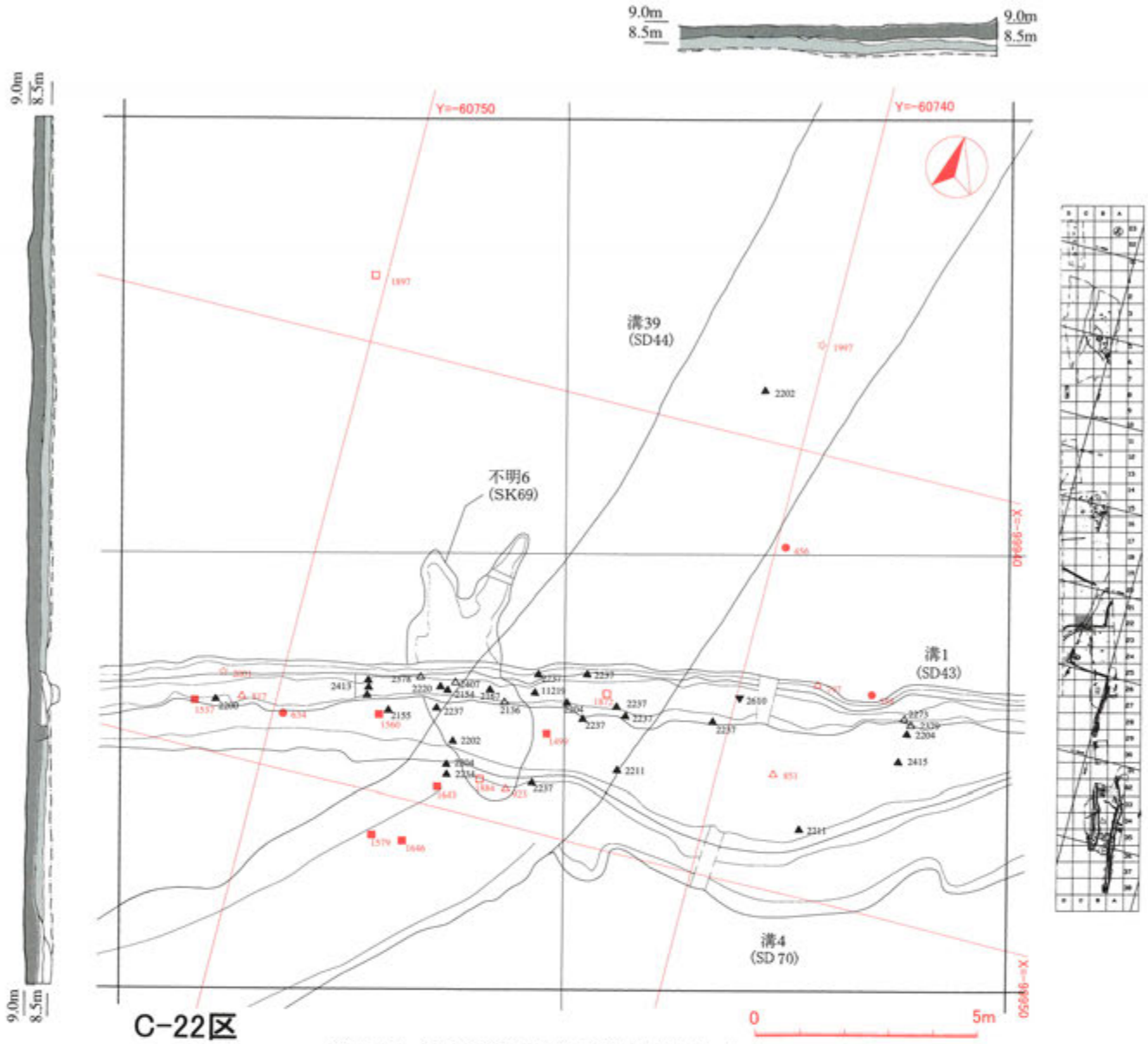
遺物の出土状況は，石鏃・石核等の石器類や縄文土器等，この範囲全般から多く出土しており，遺物の量は比較的濃密である。



第71図　遺構検出及び遺物出土状況（53）D－22区

D-22区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.66m，低い所で8.55mである。この範囲の西側壁面の2.7m～4.16mにかけて削平を受けていたことが考えられる。西側壁面のⅡ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱb層とした。この範囲からは，縄文時代の埋設土器20（SJ41），古代の溝状遺構1（SD43）を検出した。溝状遺構1からは，須恵器や土師器が出土した。南西側からややカーブしながら，山裾に向かって東へ走る。この範囲の遺物の出土状況は，石鏃・磨石・玉等の石器類や縄文土器，土師器・須恵器等の遺物が全般的な範囲で出土している。



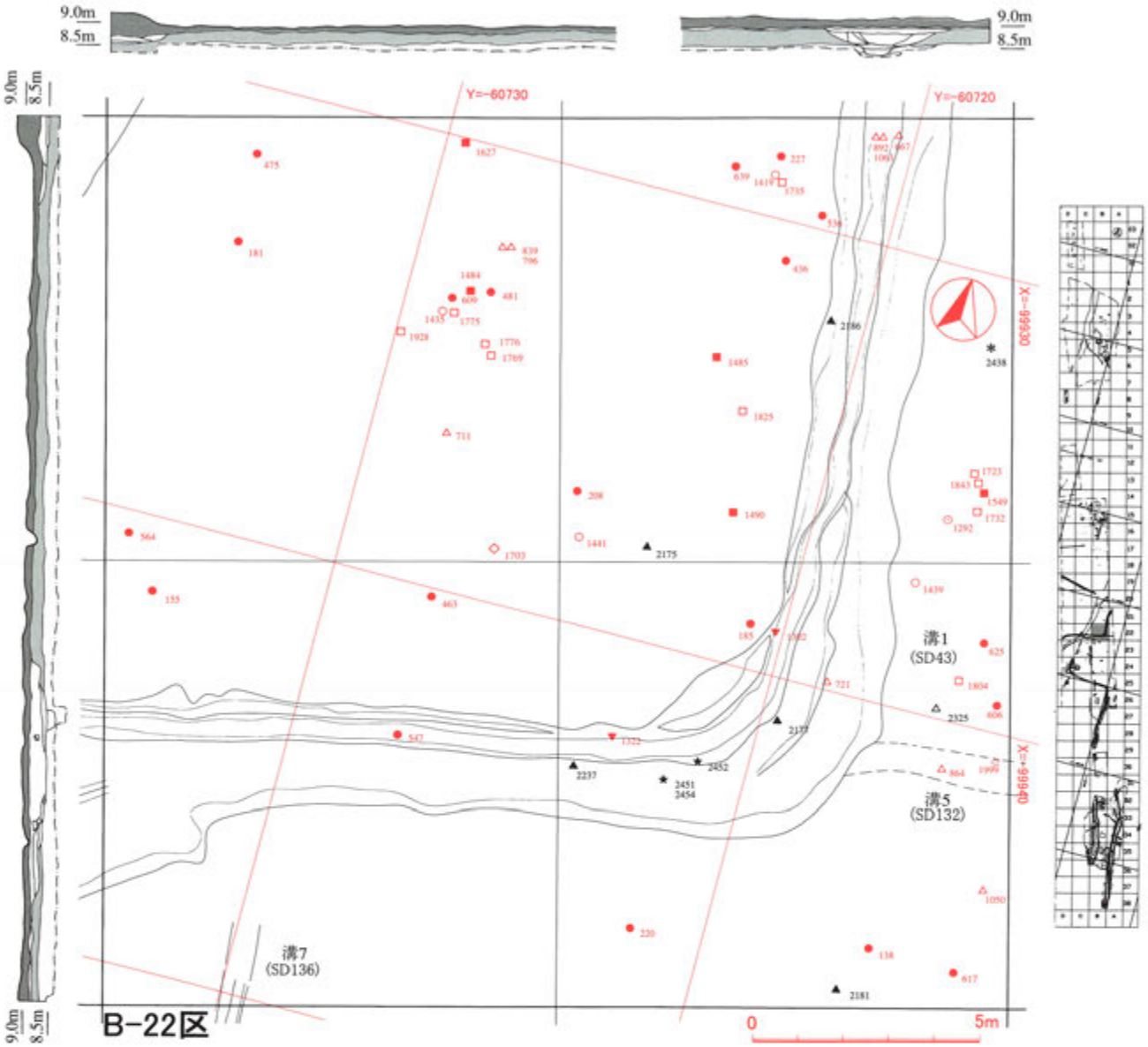
第72図　遺構検出及び遺物出土状況（54）C－22区

C-22区

北側壁面・西側壁面の標高は，高い所で8.8m，低い所で8.5mである。西側壁面のⅡ層下部の0m～1.2mの地点にかけて，厚さ約20cm程度の青灰褐色砂質土の層が堆積している。また，5.64m～6mの地点にかけて撹乱が認められた。北側壁面では15.1m～15.4mにかけて，厚さ約8cmの青灰色粘質土の層が認められた。北側壁面の16.1m～16.2mの地点に，幅10cm，深さ16cmの樹根が認められた。

溝状遺構1（SD43）はこの区では，グリッドに沿った方向で東西に延びている。古代前半のものと思われる溝状遺構4（SD70），古代末～中世のものと思われる不明遺構6（SK69）を検出した。溝状遺構4の埋土は，暗灰褐色粘質土である。不明遺構6からは，須恵器片と土師器片の小破片が敷き詰められる形で出土した。古代前半の遺物は溝状遺構1の埋土及びその南側に集中しており，この周辺に当時の生活場所があったのではないかと考えられる。

遺物の出土状況は，石鏃・磨石等の石器類や縄文土器，土師器・須恵器等の遺物が全体的な範囲で多量に出土している。特に，南西側の方が濃密である。



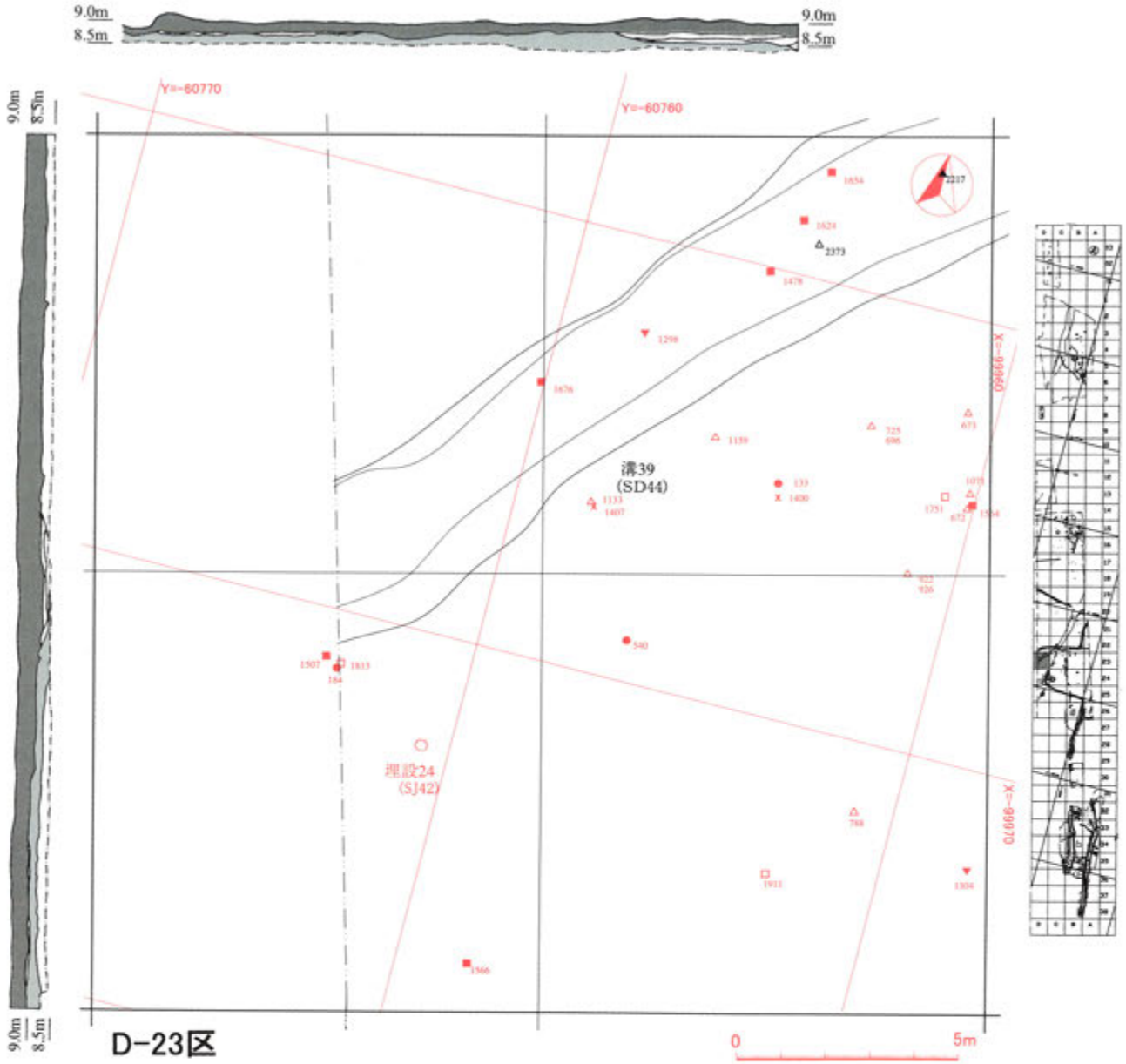
第73図　遺構検出及び遺物出土状況（55）B－22区

B-22区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.9m，低い所で8.56mである。北側壁面の11.2mの地点～12.64mの地点にかけて，削平されていた。北側壁面の15.84mの地点～18.4mの地点にかけて，Ⅱ層とⅢ層の間に黄灰褐色粘質土・暗灰色粘質土・褐色砂質土がレンズ状に堆積していた。溝状遺構1（SD43）の埋土である。この遺構はこの区の南東側で，カーブを切りながらも直角に折れて北側へ向かう。

この範囲から，奈良時代～平安時代ものと思われる溝状遺構5（SD132）を検出した。また，ここから須恵器片等が出土した。

遺物の出土状況は，凹石・石斧・石製土掘具・磨石等の石器類や縄文土器，土師器・須恵器等の遺物が多量に出土している。特に中心部と，北西・東側から集中して出土している。



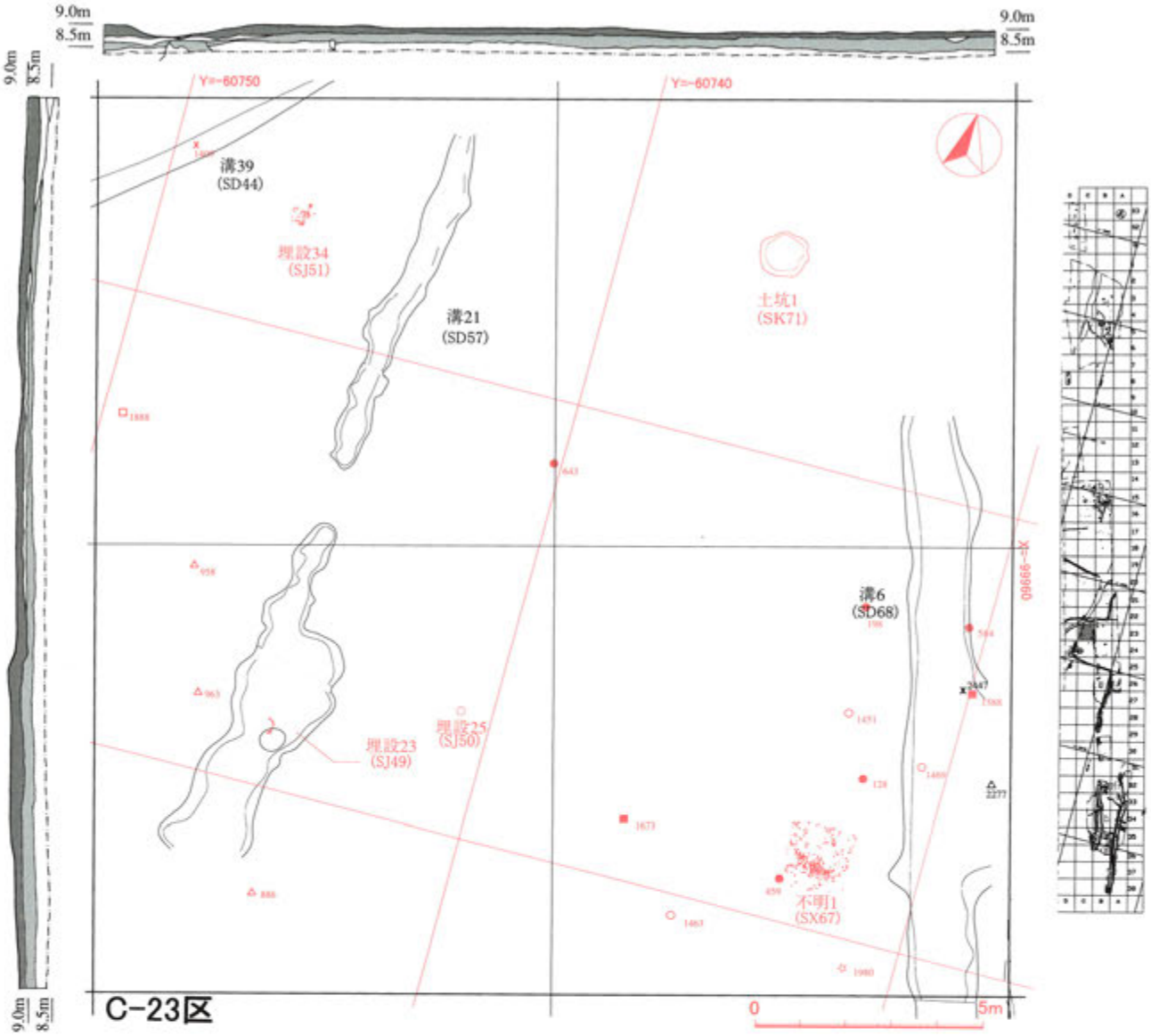
第74図　遺構検出及び遺物出土状況（56）D－23区

D-23区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.71m，低い所で8.22mである。北側壁面のⅡ層はその堆積状況からⅡ・Ⅱa層とした。

この範囲から，縄文時代晩期のものと思われる埋設土器24（SJ42），近代のものと思われる溝状遺構39（SD44）を検出した。

遺物の出土状況は，石製土掘具・磨石・石鏃等の石器類や縄文土器，須恵器・土師器等の遺物がこの範囲全般的な部分で多く出土している。



第75図　遺構検出及び遺物出土状況（57）C－23区

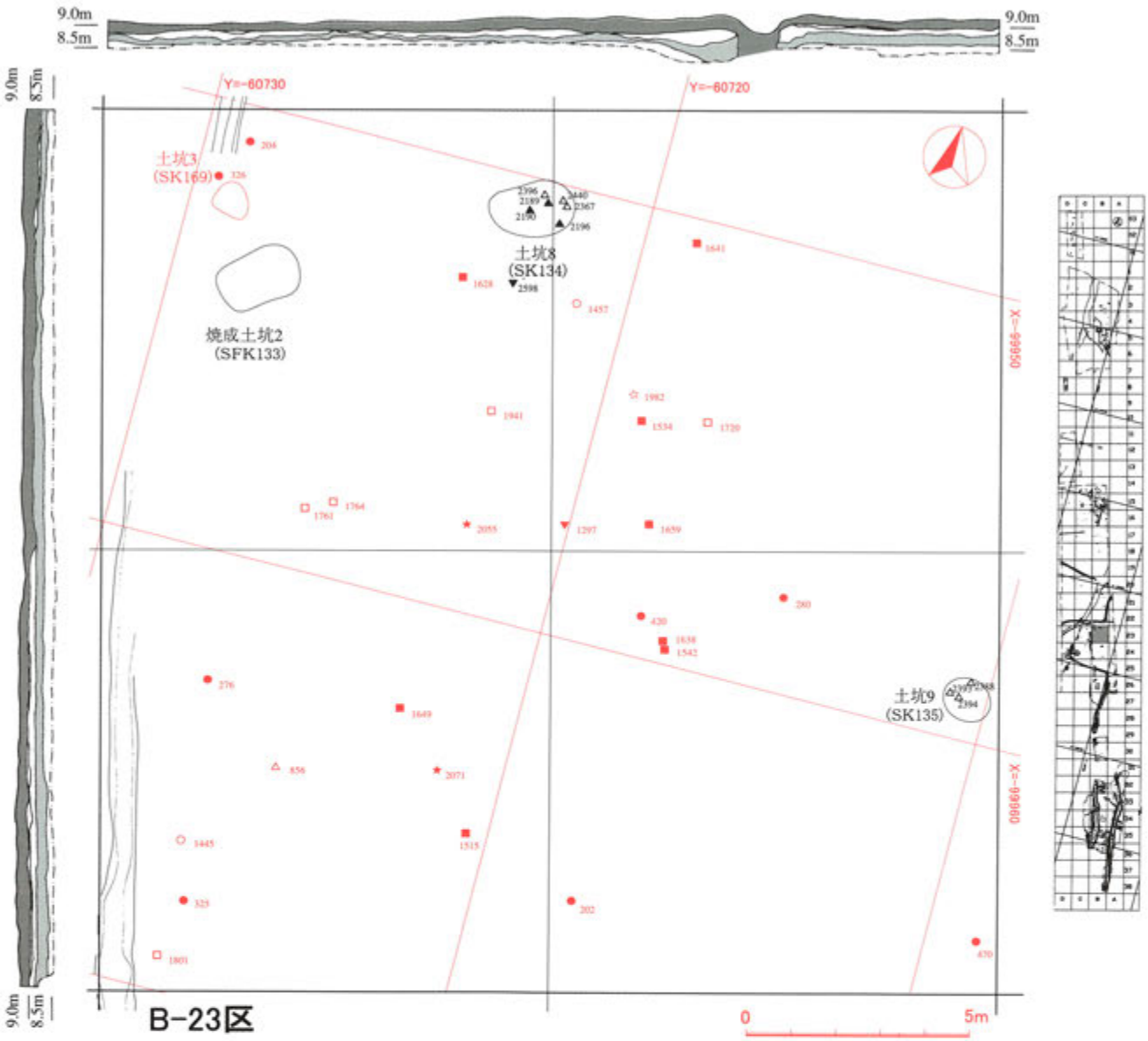
C-23区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.03m，低い所で8.56mである。Ⅱ層は西側壁面には存在せず，北側壁面の0.6m～3.9mの地点と，4.9m～５mの地点にしか存在しないことから，削平を受けていると考えられる。北側壁面のⅢ層の土質は灰褐色酸化鉄層で，Ⅳ層は灰褐色粘質土（酸化鉄変質）であることが確認された。北側壁面の西から18.48m～18.96mにⅢ層に落ち込んだ灰黄色粘質土があり，溝状遺構６（SD68）の延長とも考えられる。

この範囲からは，縄文時代晩期のものと思われる埋設土器23（SJ49）・25（SJ50）・34（SJ51），不明遺構１（SX67），縄文時代の土坑１（SK71），古代末期～中世のものと思われる溝状遺構６を検出した。

これらの遺構から出土した遺物は，不明遺構１から縄文時代晩期の土器や人頭大の円礫，土坑１から縄文時代晩期の土器片，黒川式土器期に該当する浅鉢や深鉢が出土した。

遺物の出土状況は，石鏃・凹石等の石器類や縄文土器，土師器・須恵器等が南側から多く出土している。



第76図　遺構検出及び遺物出土状況（58）B－23区

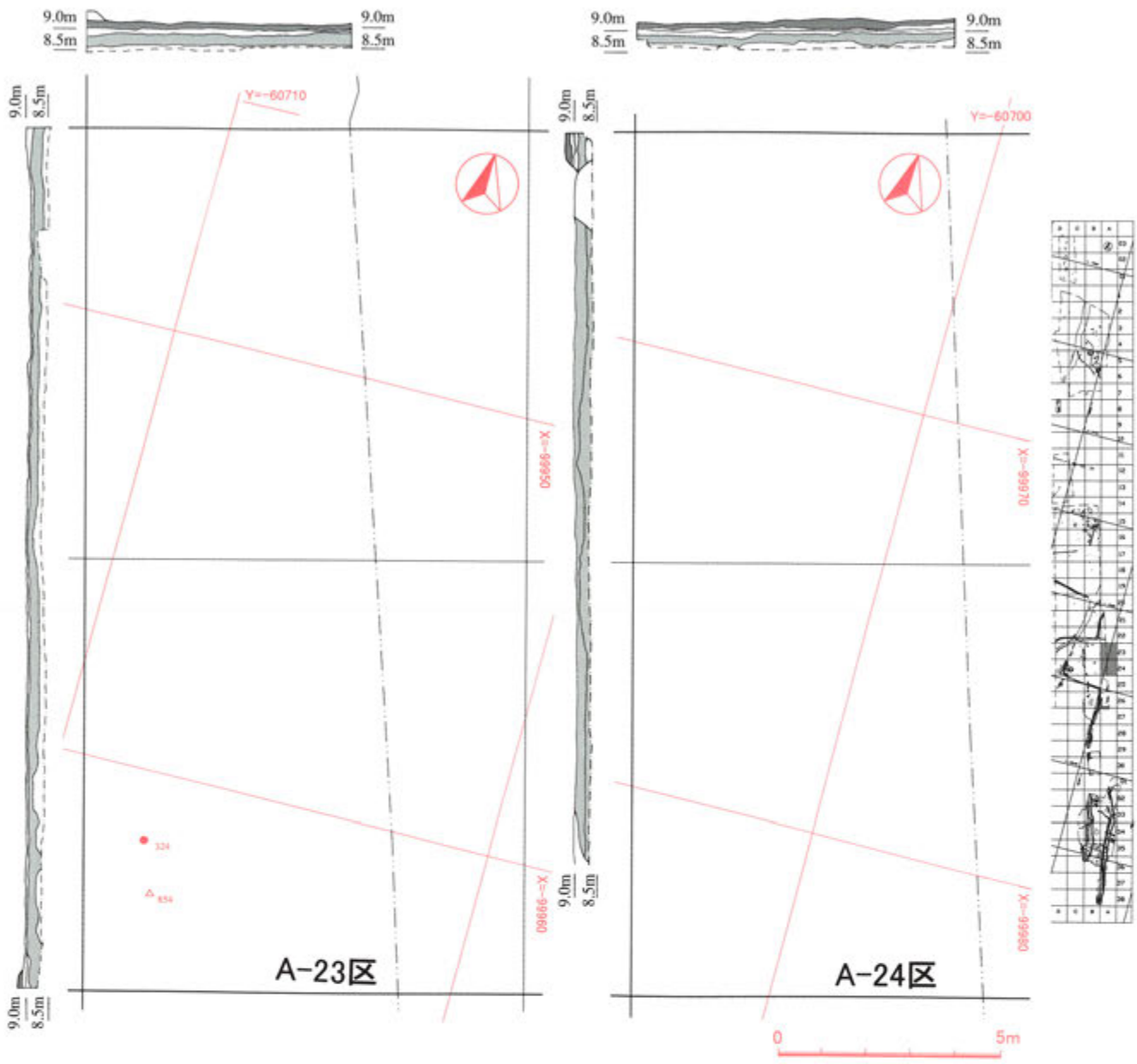
B-23区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.2m，低い所で8.5mである。北側壁面のⅡ層は，その堆積状況から，Ⅱa・Ⅱc層とした。西側壁面はⅢ層から現れてきていることから，確認調査の時点で削平を受けていたことが考えられる。

この範囲から，縄文時代晩期と思われる土坑３（SK169），奈良時代～平安時代と思われる焼成土坑２（SFK133），奈良時代～平安時代と思われる土坑８（SK134）・土坑９（SK135），平安時代以降のものと思われる溝状遺構７（SD136）が検出された。溝状遺構７はグリッドに沿っており，確認トレンチ部分では削平されていた。これらの遺構の中からは，縄文土器の土器片や土師器等の遺物が出土した。

遺物の出土状況は，石製土掘具・磨石・玉等の石器類や縄文土器等が，この範囲の中のいたる箇所で出土している。

古代の遺物は遺構内以外からはほとんど出土せず，包含層自体が削平されたものと考えられるが，この区から南側に当時の生活空間があったものと考えられる。



第77図　遺構検出及び遺物出土状況（59）A－23・24区

A-23区

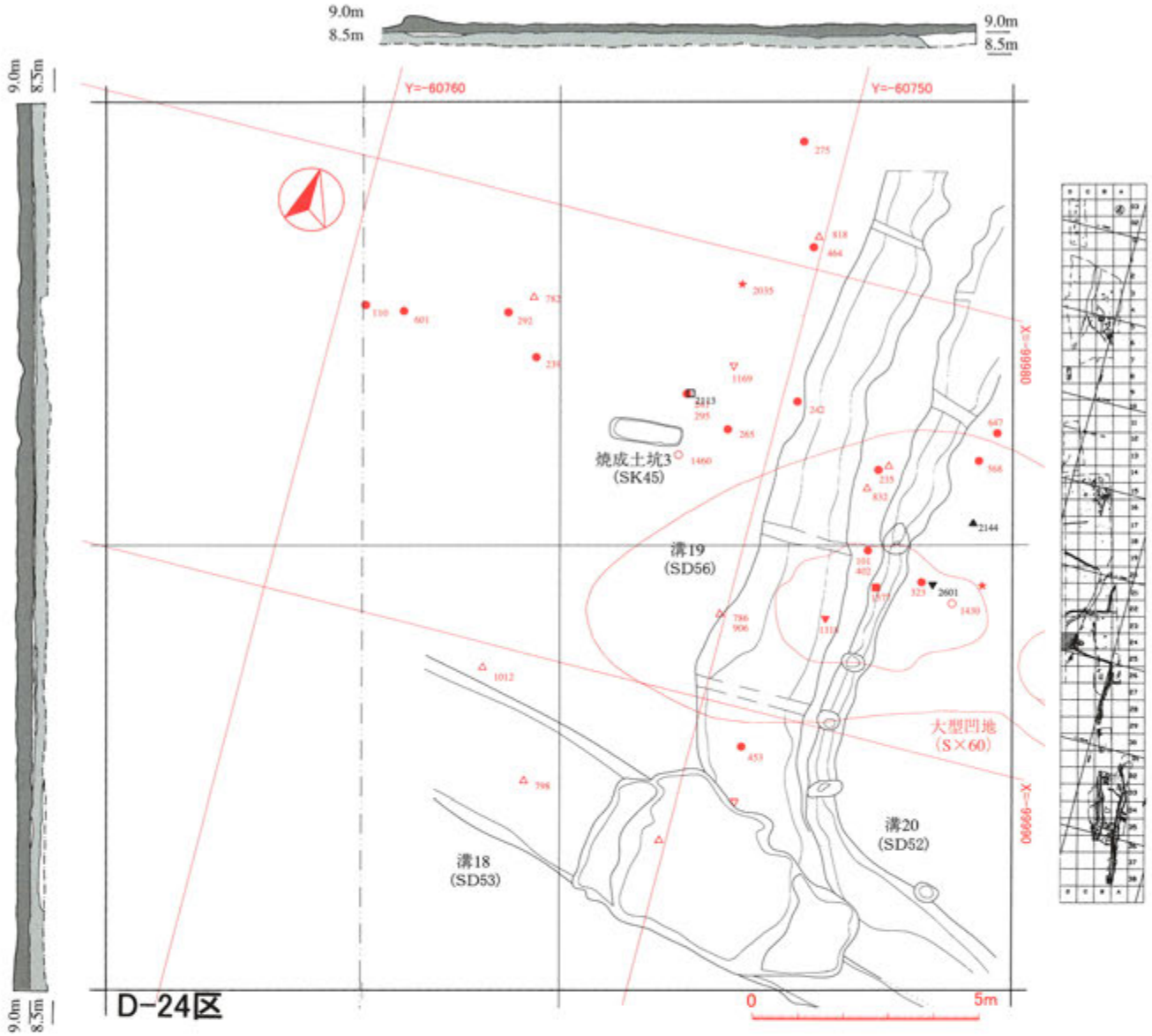
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.96m，低い所で8.8mである。西側壁面はⅡ層上面から現れていることから，調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況は，この範囲では縄文土器等が南側の方から多く出土している。

A-24区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.0m，低い所で8.8mである。西側壁面はⅢ層上面から現れていることから，調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面のⅢ層とⅣ層の間にオレンジが強い層があり，Ⅲ′層とした。西側壁面の18mの地点から，砂礫層が堆積している。

この範囲からは，遺構は検出されず，遺物は縄文土器が数点出土した。



第78図　遺構検出及び遺物出土状況（60）D－24区

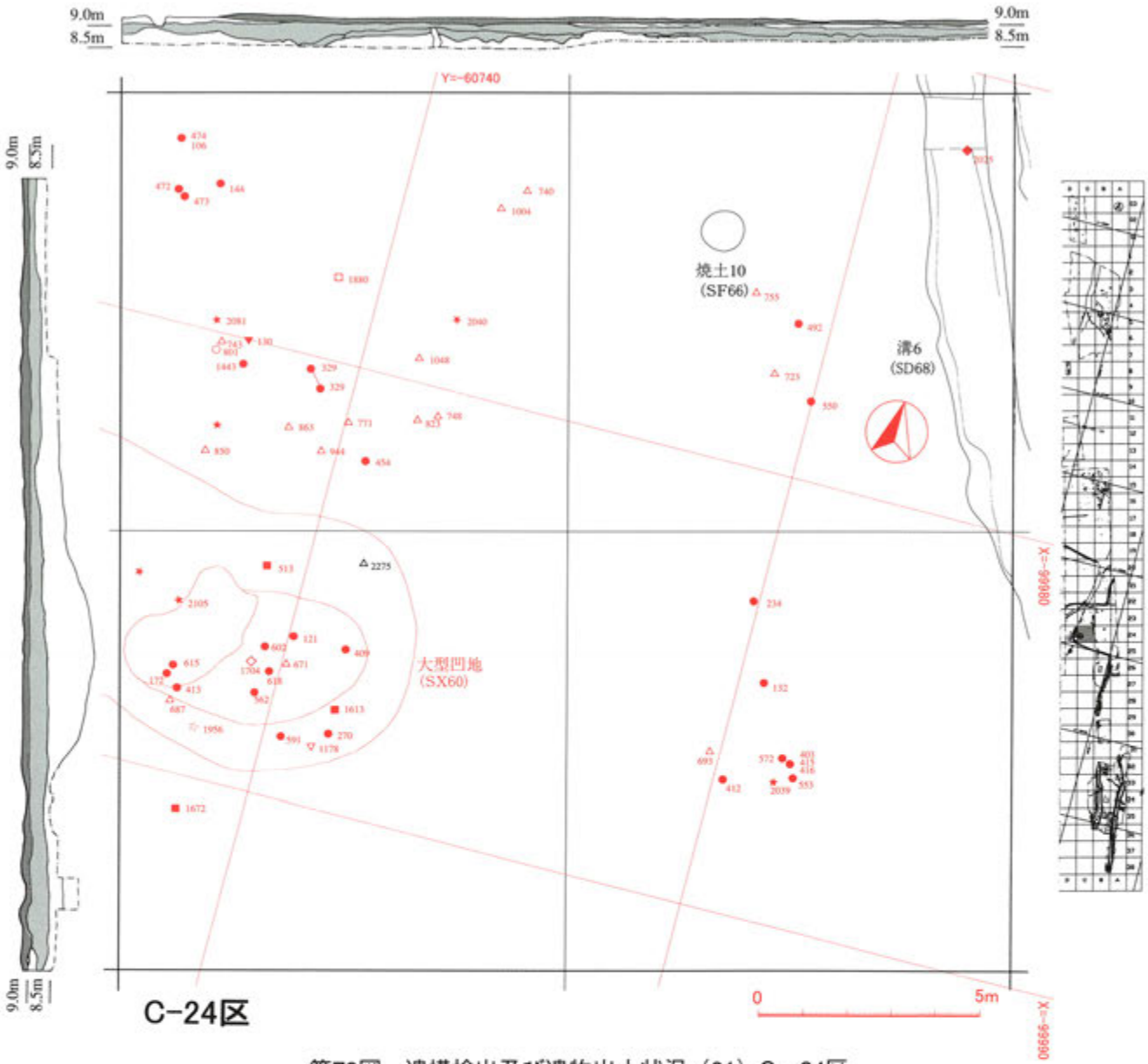
D-24区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.02m，低い所で8.64mである。北側壁面の17.9m～19.2mの地点Ⅲ層中に，幅1.3m，厚さ約12cmのⅢ層よりも柔らかく砂っぽい層を確認した。

この範囲から，縄文時代のものと思われる大型凹地（SX60），古代～中世のものと思われる焼成土坑３（SK45），中世のものと思われる溝状遺構20（SD52）・18（SD53）・19（SD56）を検出した。溝状遺構については埋土は存在せず，痕跡のみの検出であった。大型凹地の西側半分からは，土器や焼土塊，玉類等が出土したものの，東半分の量には及ばなかった。

この範囲の遺物の出土状況は，石製土掘具・石鏃・磨石等の石器類や縄文土器等が全般的な範囲で出土しており，中でも南側から多量に出土している。

この区の南側に南北に延びる溝状遺構と東西に延びる溝状遺構との交点があることから，条里型地割の大区画の交差点であったと考えられる。



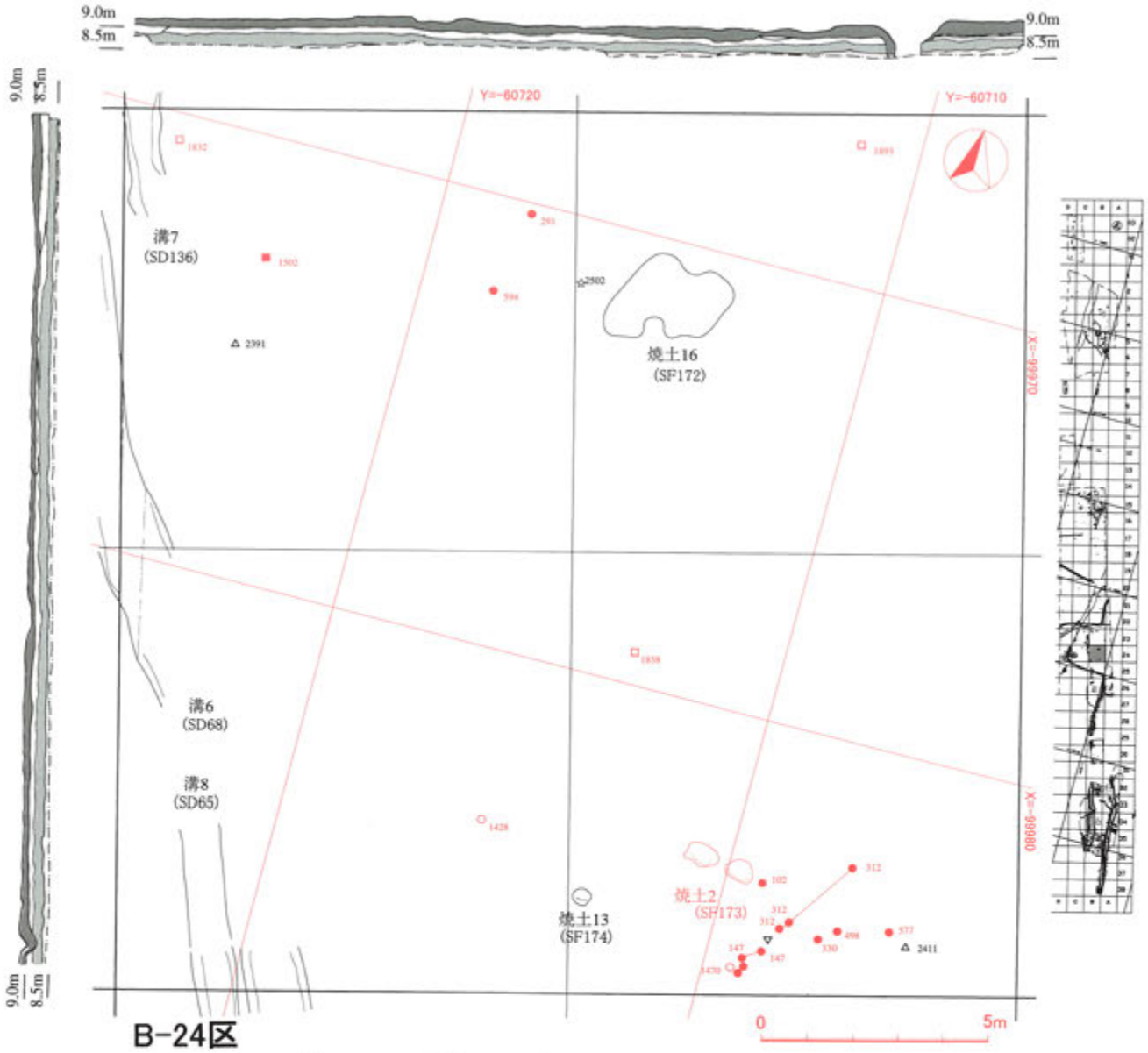
第79図　遺構検出及び遺物出土状況（61）C－24区

C-24区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.7m，低い所で8.73mである。北側壁面のⅡ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の0.56m～0.96mにかけて，深さ24cmの排水溝があった。西側壁面のⅣ層下部の標高は8.48mであり，長さ2.9m～3.1mと11.1mの地点で炭化粒が混入している層を確認した。また，2.1mと11.9m～12.1mの地点では，どちらも直径約12.2cmの焼土の塊の層を確認した。土質はⅡ層が灰褐色粘土混じり，Ⅲ層が酸化鉄混層，Ⅳ層が粘質で酸化鉄変質の層であった。

この範囲から，古代前半のものと思われるほぼ全面に赤く焼けている焼土遺構10(SF66)を検出した。この遺構では，焼土・炭及び灰白色の粒子が目立ち，土師甕と考えられる破片が３点ほど出土した。溝状遺構６（SD68）は北側から東側へゆるくカーブしている。

遺物の出土状況は，磨石・石鏃等の石器類や縄文土器がこの範囲で全般的に出土している。中でも大型凹地（SX60）が位置する西側から多く出土しており，特に南西方向からの出土が濃密である。



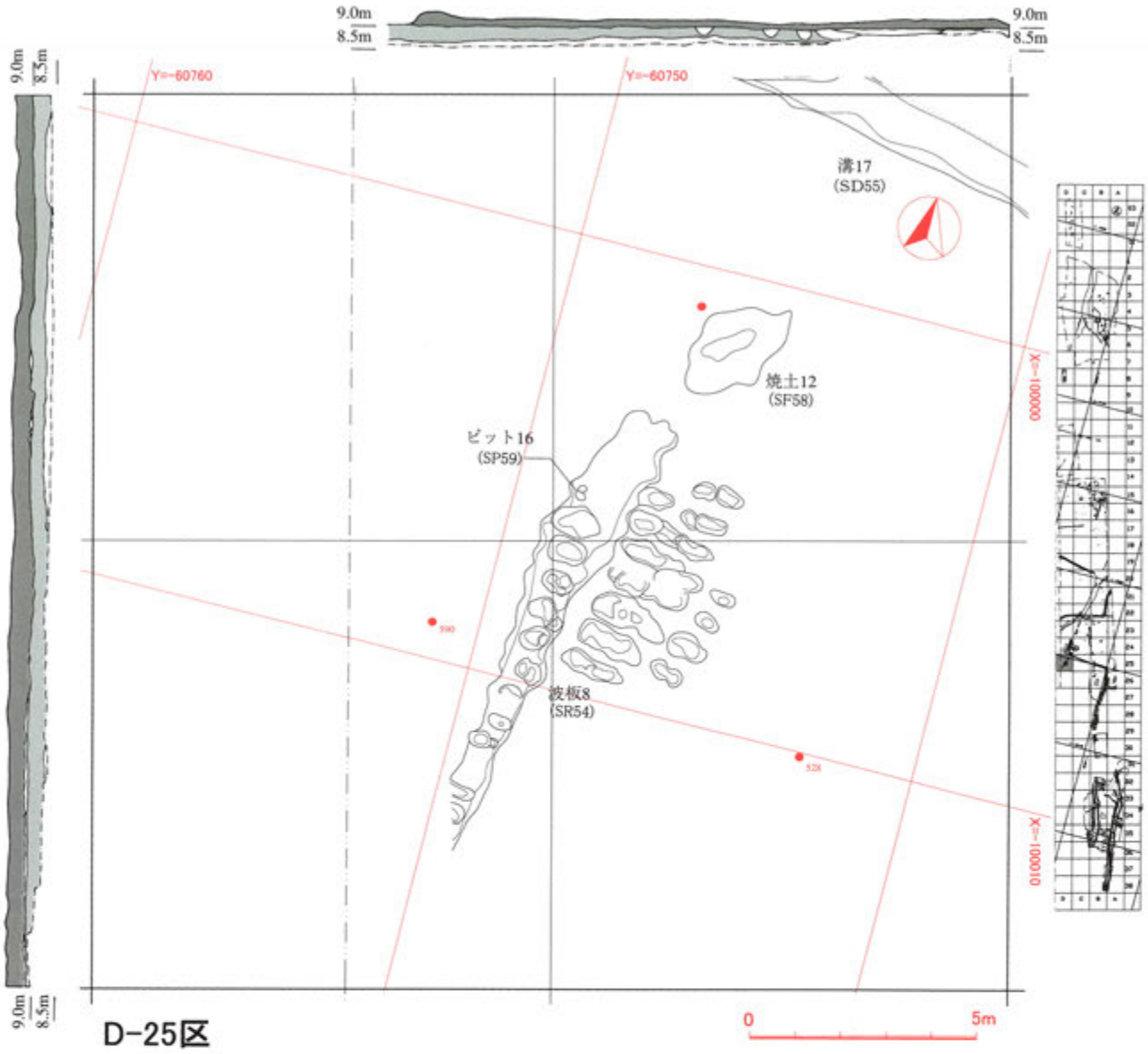
第80図　遺構検出及び遺物出土状況（62）B－24区

B-24区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.9m，低い所で8.7mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の17mの地点～18mの地点にかけて，排水溝が通っていたため調査が実施できなかった。

この範囲からは，縄文時代のものと思われる焼土遺構２（SF173），平安時代のものと思われる焼土遺構16（SF172）・13（SF174），古代末期～中世のものと思われる溝状遺構８（SD65）を検出した。これらの遺構からの出土遺物は，焼土遺構13周辺からは縄文時代晩期の土器が出土した。その他の土坑からは，遺物は出土しなかった。

遺物の出土状況は，石器類や縄文土器等が中心の南北を結ぶ線上に点在している。また，焼土遺構２近くの北東の端から集中して出土している。



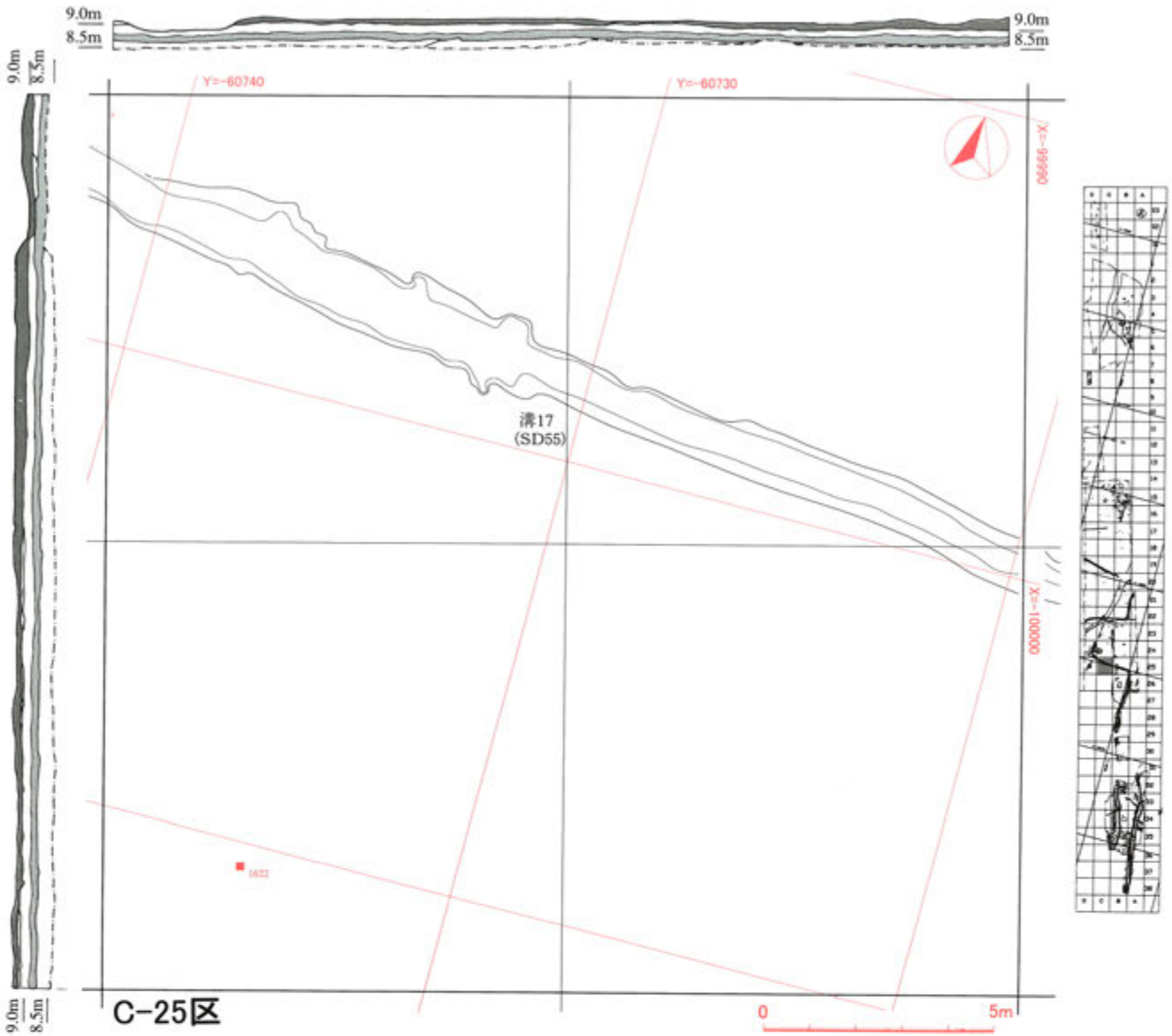
第81図　遺構検出及び遺物出土状況（63）D－25区

D-25区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.04m，低い所で8.62mである。北側壁面のⅢ層中13.1m～13.5m及び14.5m～14.9mの地点で，それぞれ厚さ約20cmの暗灰色粘質土を確認した。

この範囲から，古代のものと思われる焼土を伴う遺構12（SF58），同じく古代のものと思われるピット16（SP59），中世のものと思われる波板状凹凸面８（SR54）を検出した。波板状凹凸面８は北側で次第に消えてゆき，南側は調査範囲外へ延びている。公共座標に沿っていることと，条里型地割の起点に向かっていることから，条里型地割施行後の道跡であると考えられる。

遺物の出土状況は，縄文土器がこの範囲から点在する形で出土している。また，この区から組織痕をもつ縄文土器も出土した。

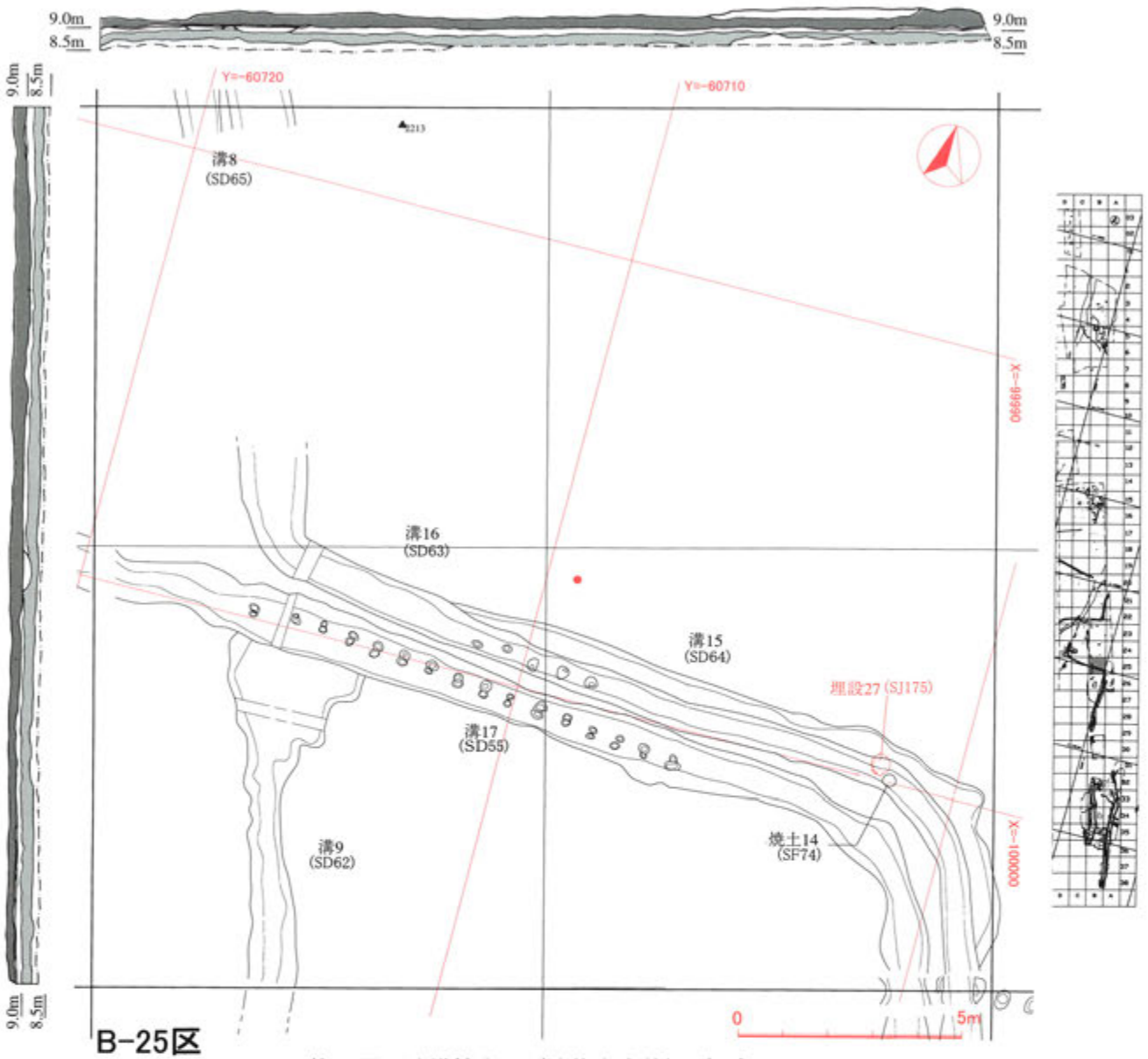


第82図　遺構検出及び遺物出土状況（64）C－25区

C-25区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で8.9m，低い所で8.7mである。北側壁面・西側壁面のⅡ層はその堆積状況からⅡ・Ⅱc層とした。北側壁面のⅣ層は，Ⅲ層よりも砂っぽくオレンジの酸化鉄が混じっているのが認められた。西側壁面の17.6m～18.7mの地点では，Ⅰ層とⅡc層の間に幅1.1m，厚さ約12cmの暗灰色粘質土が堆積しているのが認められた。

溝状遺構17（SD55）はこの区の北側で公共座標に沿って東西に延びている。これ以外に縄文時代・古代ともに遺構はなく，遺物の出土量も少なかった。したがって，この区から南西は生活域の外側であったことが考えられる。



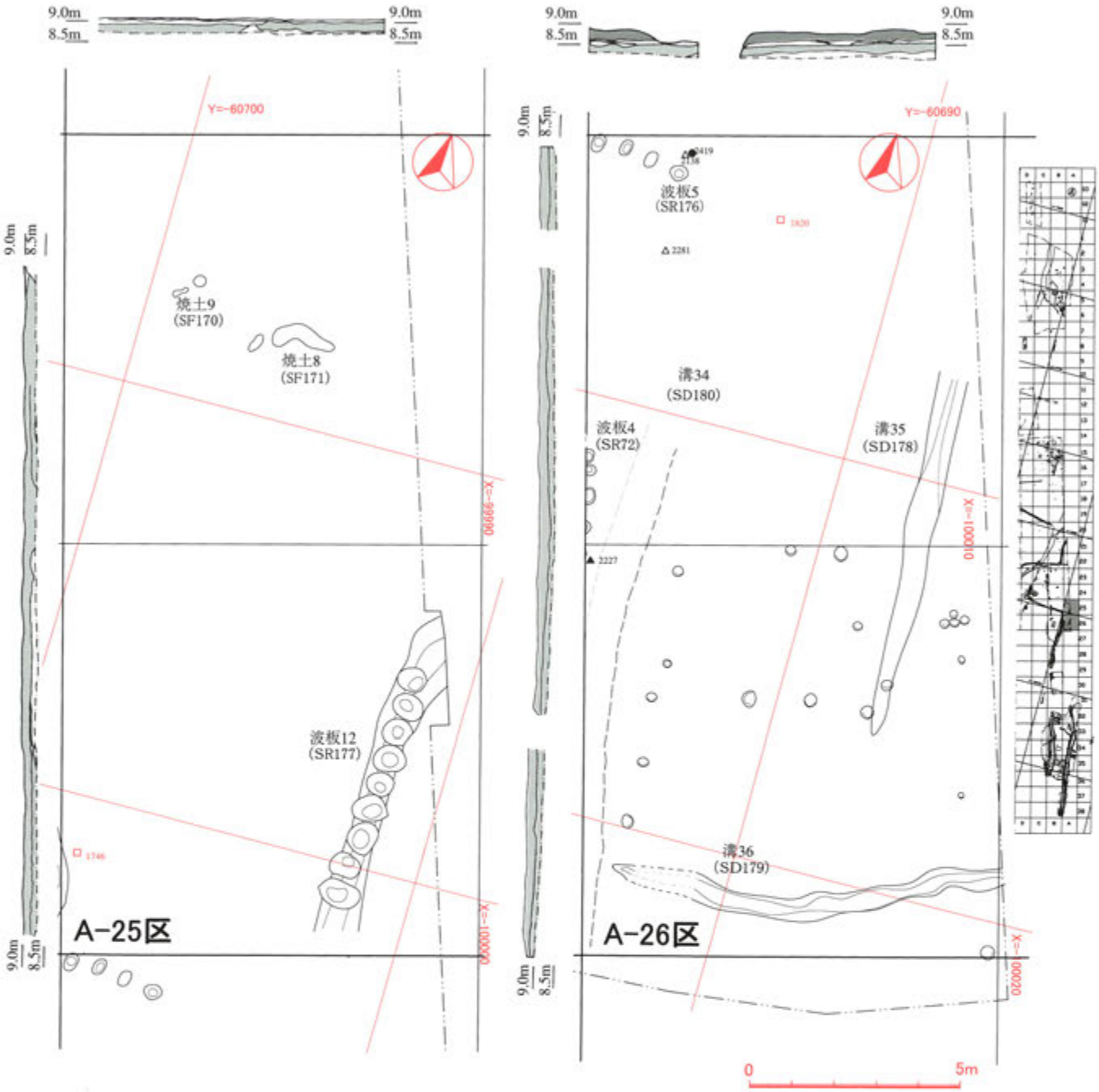
第83図　遺構検出及び遺物出土状況（65）B－25区

B-25区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.0m，低い所で8.8mである。Ⅱ層では，その堆積状況からⅡa・Ⅱc層とした。北側壁面の13.5mの地点～18.3mの地点にかけて，客土がなされていた。

この範囲から，縄文時代晩期初頭の入佐式土器新段階と考えられる埋設土器27（SJ175），平安時代末から中世のものと思われる溝状遺構９（SD62）・溝状遺構16（SD63）・溝状遺構15（SD64）を検出した。この区で３条の溝状遺構が交差しながら残存しているのは，条里型地割の変遷を考える上で重要である。すなわち，条里型地割施行前の溝状遺構９，施行途中の溝状遺構16，そして施行後使用された溝状遺構17（SD55）が重なるのである。

遺物の出土状況は，まばらな形で点在している。



第84図　遺構検出及び遺物出土状況（66）A－25・26区

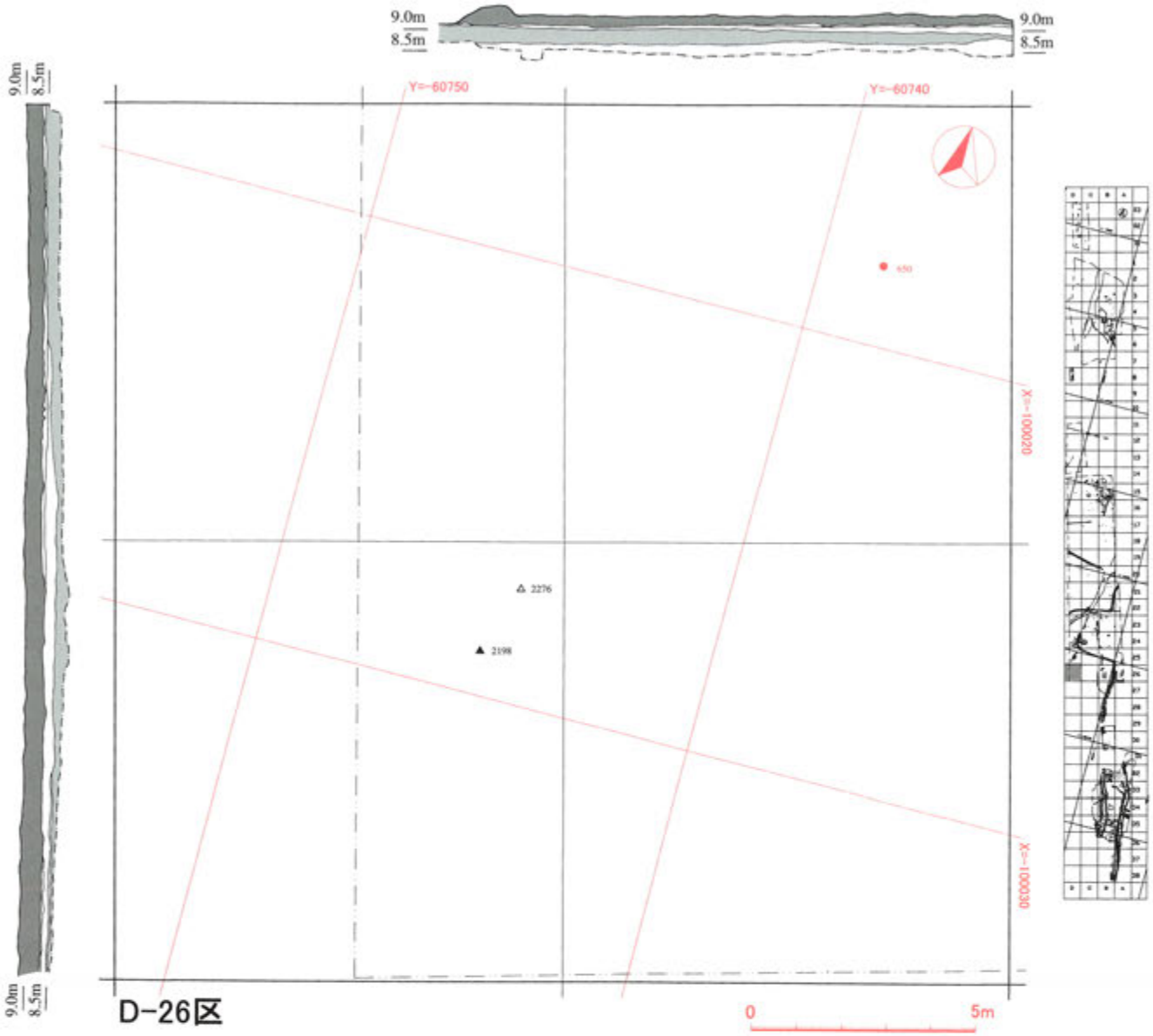
A-25区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.0m，低い所で8.9mである。北側壁面はⅡ層上面から,西側壁面はⅢ層上面から現れていることから，調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面の北西隅16mの地点で，排水溝があったため調査はできなかった。

この範囲から，平安時代のものと考えられる焼土遺構９（SF170）・８（SF171）を，Ⅲ層から数cm掘り下げた時点で検出した。また，中世のものと考えられる波板状凹凸面12（SR177）を検出した。埋土は灰白色細砂である。26区になると削平のため確認できなかった。

A-26区

北側壁面・西側壁面の標高は，高い所で9.2m，低い所で8.9mである。北側壁面の2.6m～3.6mの地点は排水溝があったため調査はできなかった。西側壁面はⅢ層上面から現れていることから，調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面



第85図　遺構検出及び遺物出土状況（67）D－26区

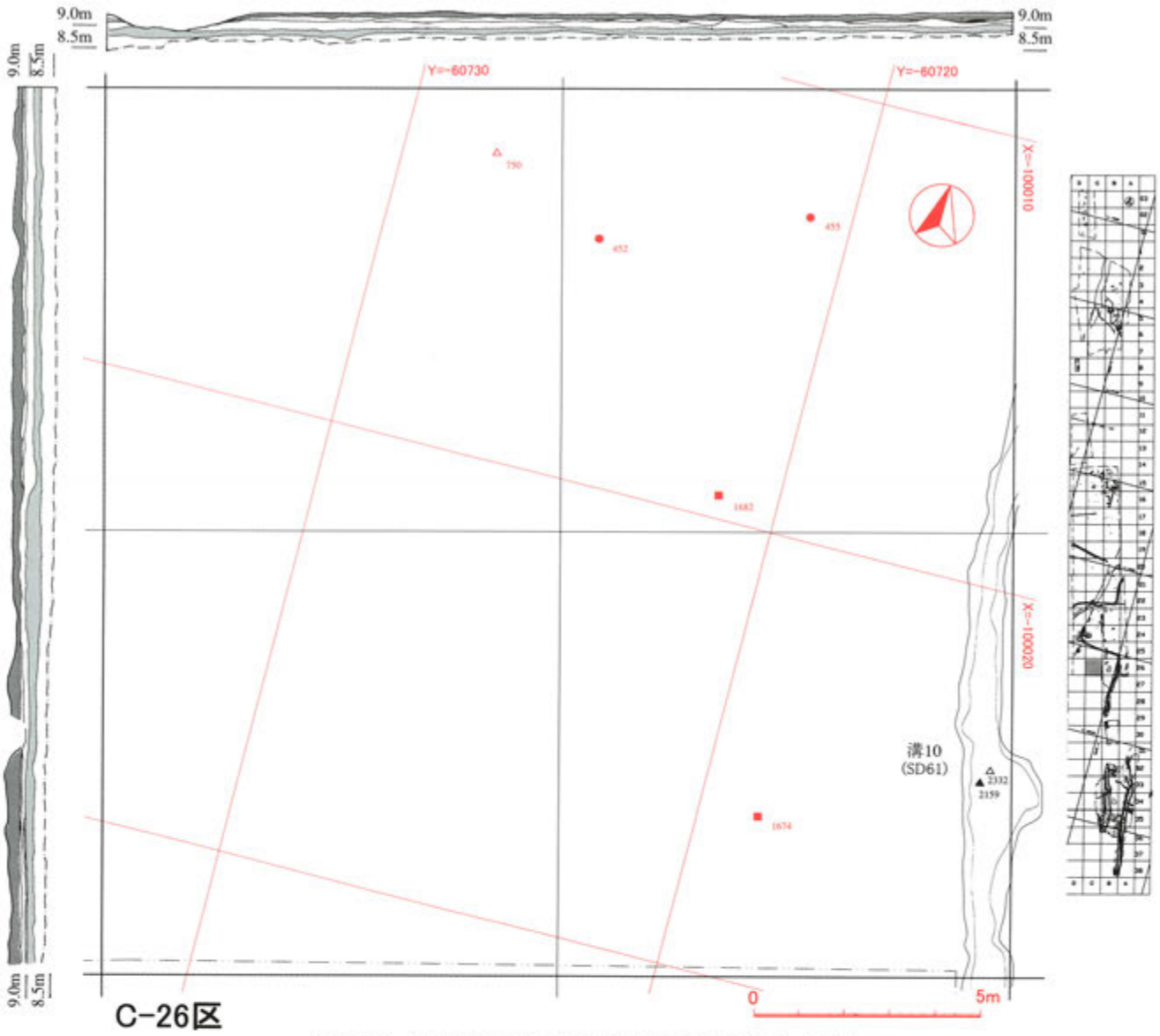
のⅢ層とⅣ層の間に，オレンジ色の酸化鉄のような層が８cm～16cm堆積していることから，これをⅢ′層とした。北側壁面には，波板状凹凸面がⅡ層下位のⅡb層から落ち込んでいる。埋土は，暗灰色砂質土である。

この範囲からは，中世のものと考えられる波板状凹凸面５（SR176）・溝状遺構35（SD178）・36（SD179）・34（SD180）を検出した。ピットも十数基検出されたが並べられなかった。

遺物の出土状況は北側と南側に集中して出土しており，中央部分からは，あまり出土しなかった。

D-26区

D区で最も南側に位置するグリッドである。遺構は全く確認されなかった。遺物もほとんど希薄となり，縄文土器・土師器ともに少なかった。



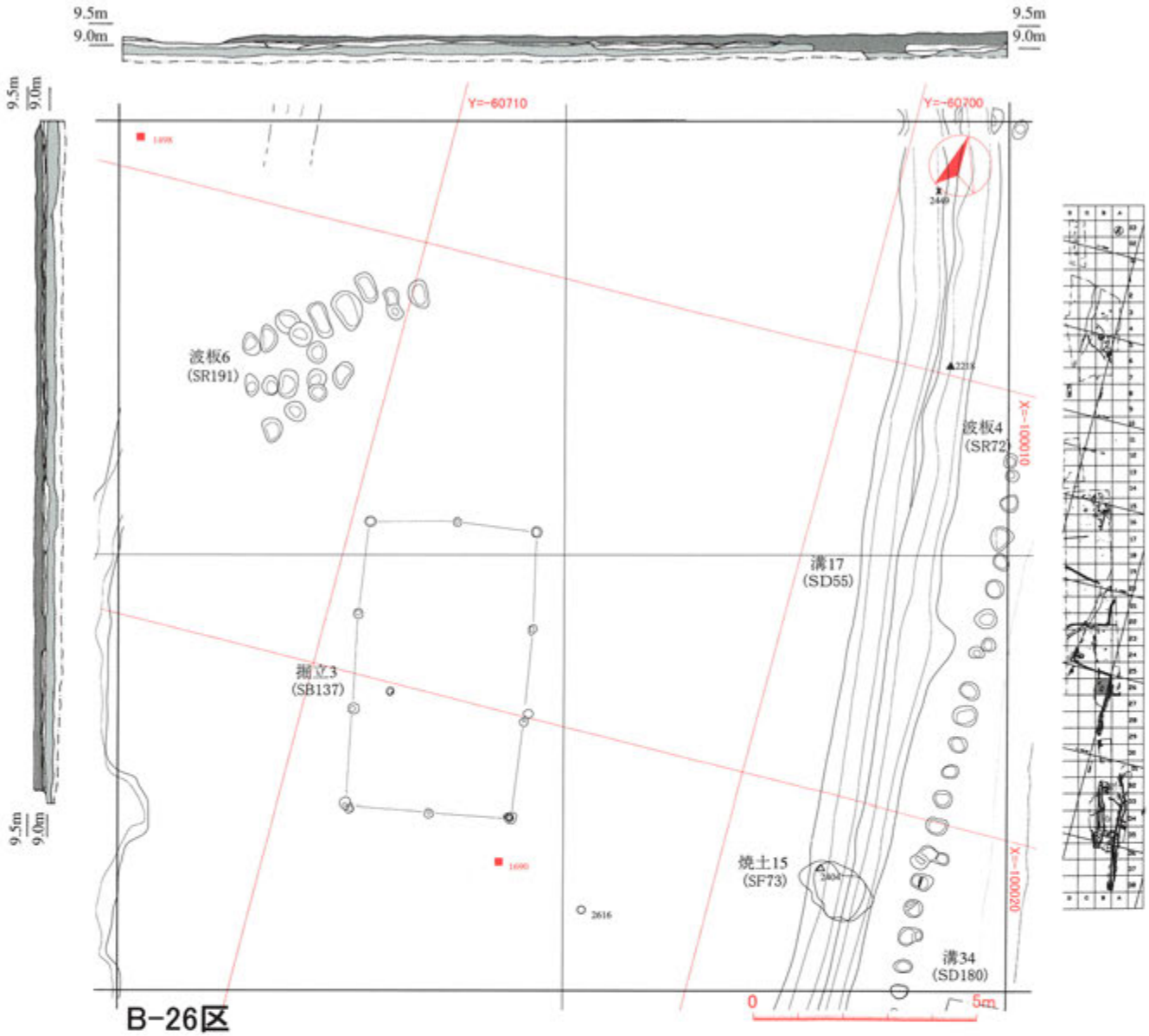
第86図　遺構検出及び遺物出土状況（68）C－26区

C-26区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.96m，低い所で8.8mである。北側壁面・西側壁面のⅡ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱc層とした。また，西側壁面0.5m～3.56mの地点でⅡa層とⅢ層の間に，幅3.6m，厚さ約４cmの，Ⅲ層に比べて赤味の強い粘質土の堆積が認められたので，これをⅡd層とした。北側壁面では，11.7m～12.64m及び12.7m～13.5mの地点にかけて，厚さ約５cm～12cmの青灰色粘質土が堆積しているのが認められた。

この範囲からは，古代～中世のものと思われる溝状遺構10（SD61）を検出した。埋土は灰白色の砂質土である。これらの遺構からは，須恵器や土師器片及び焼塩壺の破片が出土した。

遺物の出土状況は，この範囲にわずかに点在している形で出土しており，特に遺構の周囲にあたる東側からの出土が多い傾向にある。縄文時代の遺物も中央より東側に寄っており，次第に分布が限られている。



第87図　遺構検出及び遺物出土状況（69）B－26区

B-26区

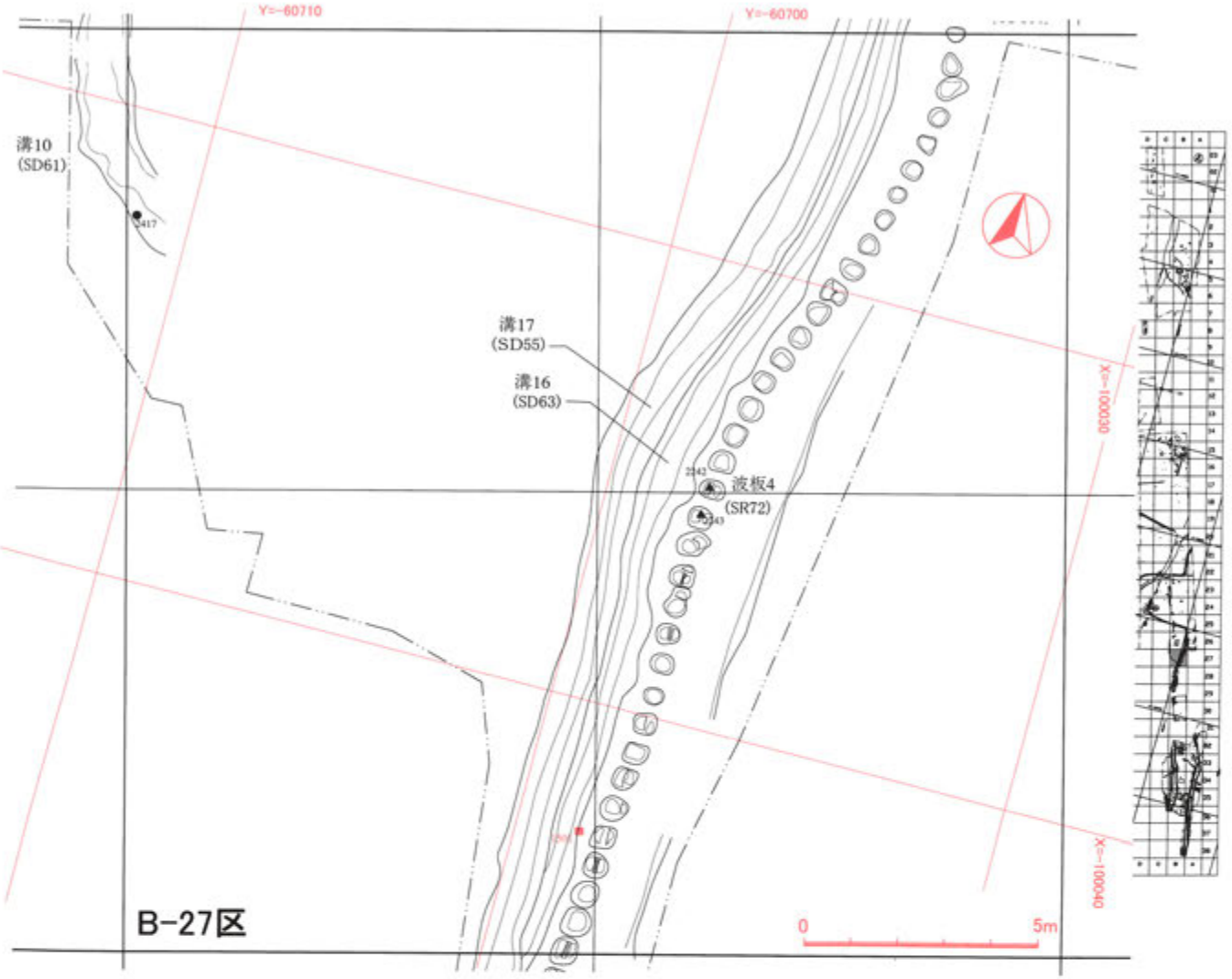
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.1m，低い所で8.9mである。Ⅱ層中に灰黄色粘質土及び青灰色粘質土の層が堆積していたので，Ⅱa・Ⅱc層とした。

この範囲から，平安時代から鎌倉時代のものと思われる掘立柱建物跡３（SB137）を中央付近で検出した。その北側には古代から中世のものと思われる波板状凹凸面６（SR191）を検出した。ちょうど確認トレンチによって切られているので，波板状凹凸面6と溝状遺構10（SD61）との関係を明らかにすることはできなかった。溝状遺構の埋土は白色の砂質土である。ここからは，須恵器片と考えられる土器片が出土した。東側には溝状遺構16（SD63）・17（SD55）及び波板状凹凸面４（SR72）が並行しながら，ほぼ南北に延びる。

遺物の出土状況は，この範囲の東側端から多く出土している。縄文時代の遺物は少なく，図示したのは石製土掘具の２点のみである。

B-27区

確認調査を基に予定された本調査対象区は26区以北であったが，溝状遺構10（SD61）・16（SD63）・17（SD55）及び波板状凹凸面４（SR72）が延びることから，協議の上最小限の範囲で調査を行った。溝状遺構10は確認トレンチで切られており，調査範囲内でそれ以上の追跡はできなかった。確認調査時点で認識できていないことから，確認トレンチに重な



第88図　遺構検出及び遺物出土状況（70）B－27区

る方向に延びていた可能性もある。

溝状遺構16・17，それに波板状凹凸面４は並行しながら公共座標に沿って延びている。溝状遺構16と17は南端で合流して一つになる。当初予定していない発掘区域であったので，北側及び西側の断面図はとっていなかった。

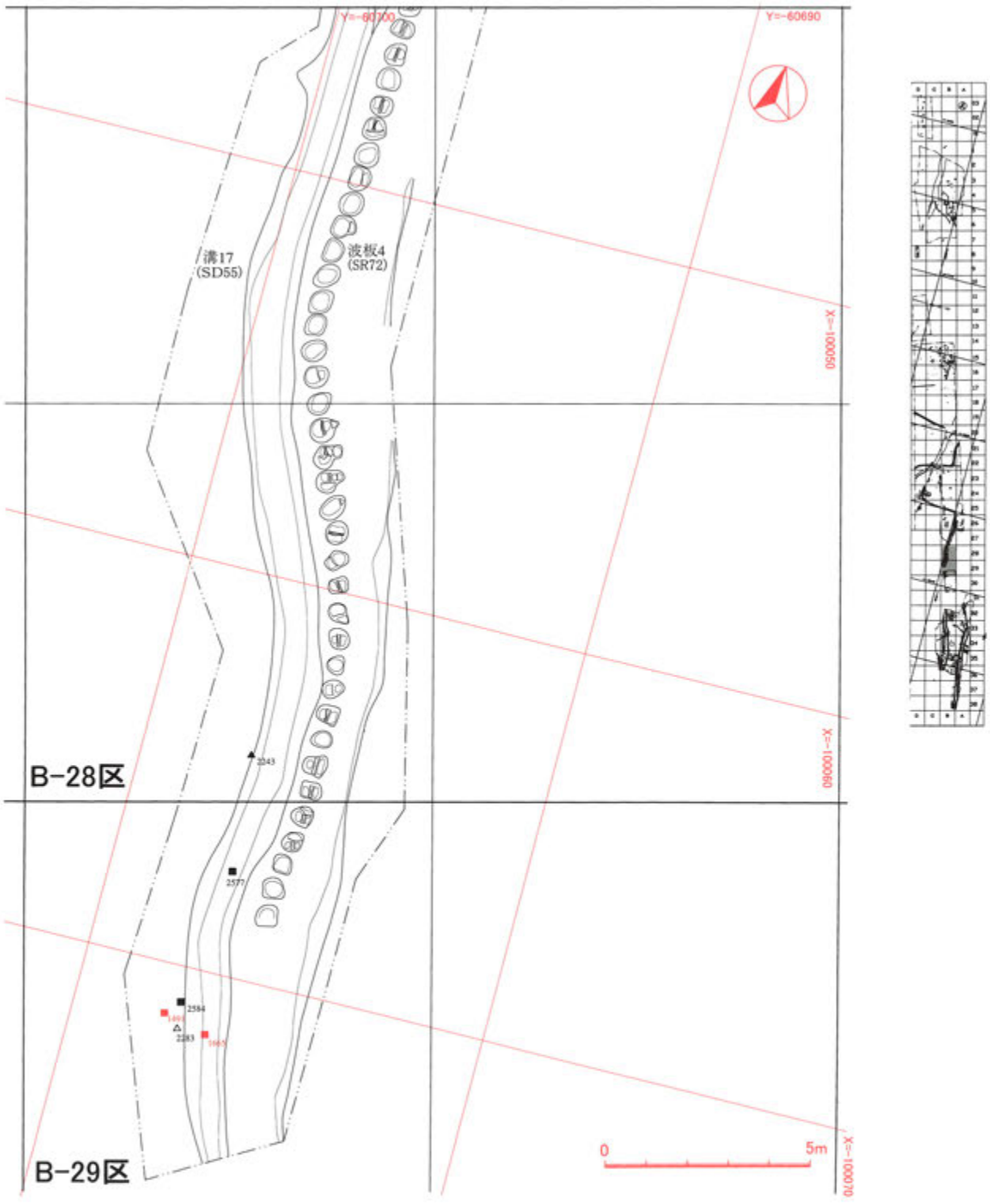
B-28区

B-27区から続く古代末期から中世にかけての波板状凹凸面４（SR72）と溝状遺構17（SD55）を追跡して最小の範囲で調査した。

遺物の出土状況は，この遺構に沿うような形で南北に点在して出土している。当初予定していなかった発掘区のため断面図はとっていない。

B-29区

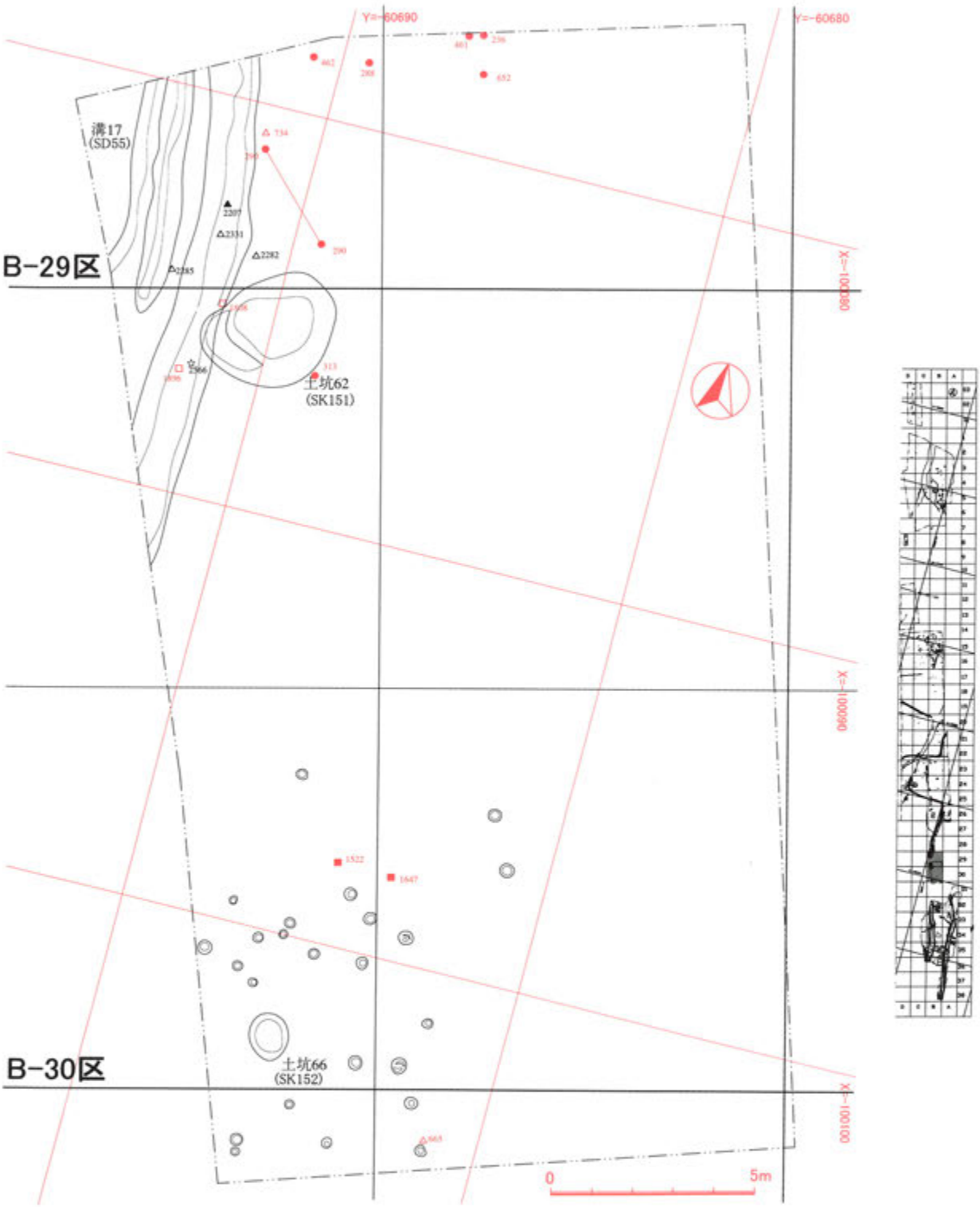
本調査の対象区ではなかったけれども，溝状遺構16（SD63）・17（SD55）及び波板状凹凸面４（SR72）が続くと考えられたことから，協議の上最小限の範囲を調査することとなった。溝状遺構16と17は重複して１本となり，波板状凹凸面はそれに並行していたが，29区北側で次第に浅くなり消滅した。29区の中ほどには約２m幅の三面側溝があり，この部分まで調査したが，それより南側へも延びることがわかった。当初予定していなかった発掘区であるため，断面図はとっていない。



第89図　遺構検出及び遺物出土状況（71）B－28・29区

B-30区

本調査対象区には入っていなかったけれども，溝状遺構17（SD55）の延長が想定されたことから，再協議の上調査した地点である。アスファルトを剥がして客土を除去した後，手掘りによる発掘を行った。東側の大半は深く撹乱を受けており，遺物包含層は残存しなかった。当初予定していない発掘区域であったことと，客土が厚かったことから，北側壁面及

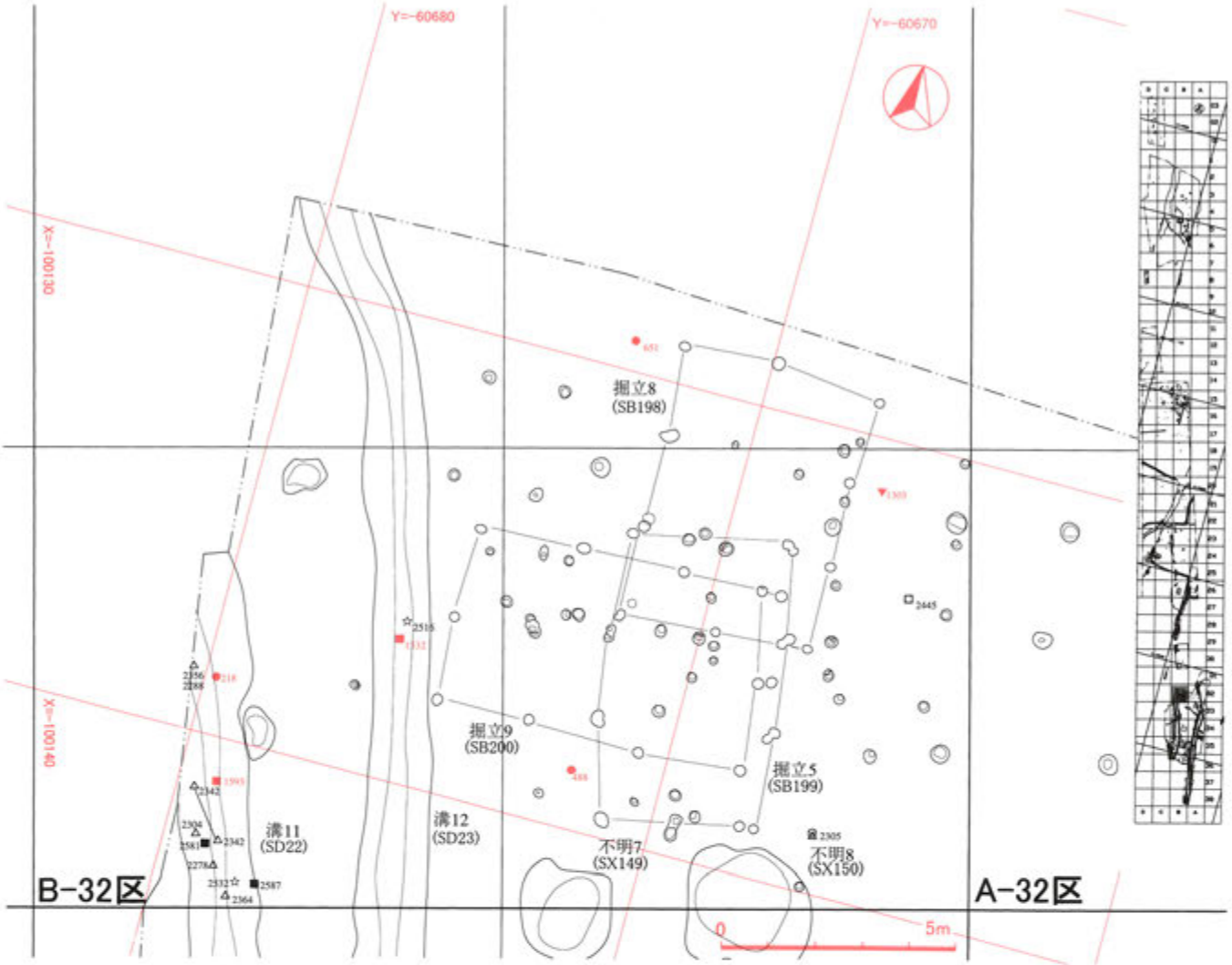


第90図　遺構検出及び遺物出土状況（72）B－30区

び西側壁面の断面図はとっていない。

この範囲から，平安時代～鎌倉時代のものと思われる土坑62(SK151)・66(SK152)を検出した。この遺構から土師器片や須恵器片が出土した。土坑66の周辺には柱穴が多数検出されたが，並べることはできなかった。最も南側にある柱穴は掘立柱建物跡の北面とも想定されたが，これ以上の追究は不可能であった。

遺物の出土状況は，この範囲のやや中心よりの南



第91図　遺構検出及び遺物出土状況（73）B－32区

側に集中して出土している。溝状遺構17はさらに西側へ延びていくが，工事が進行していたためこれ以上の追跡は不可能であった。

A-31区

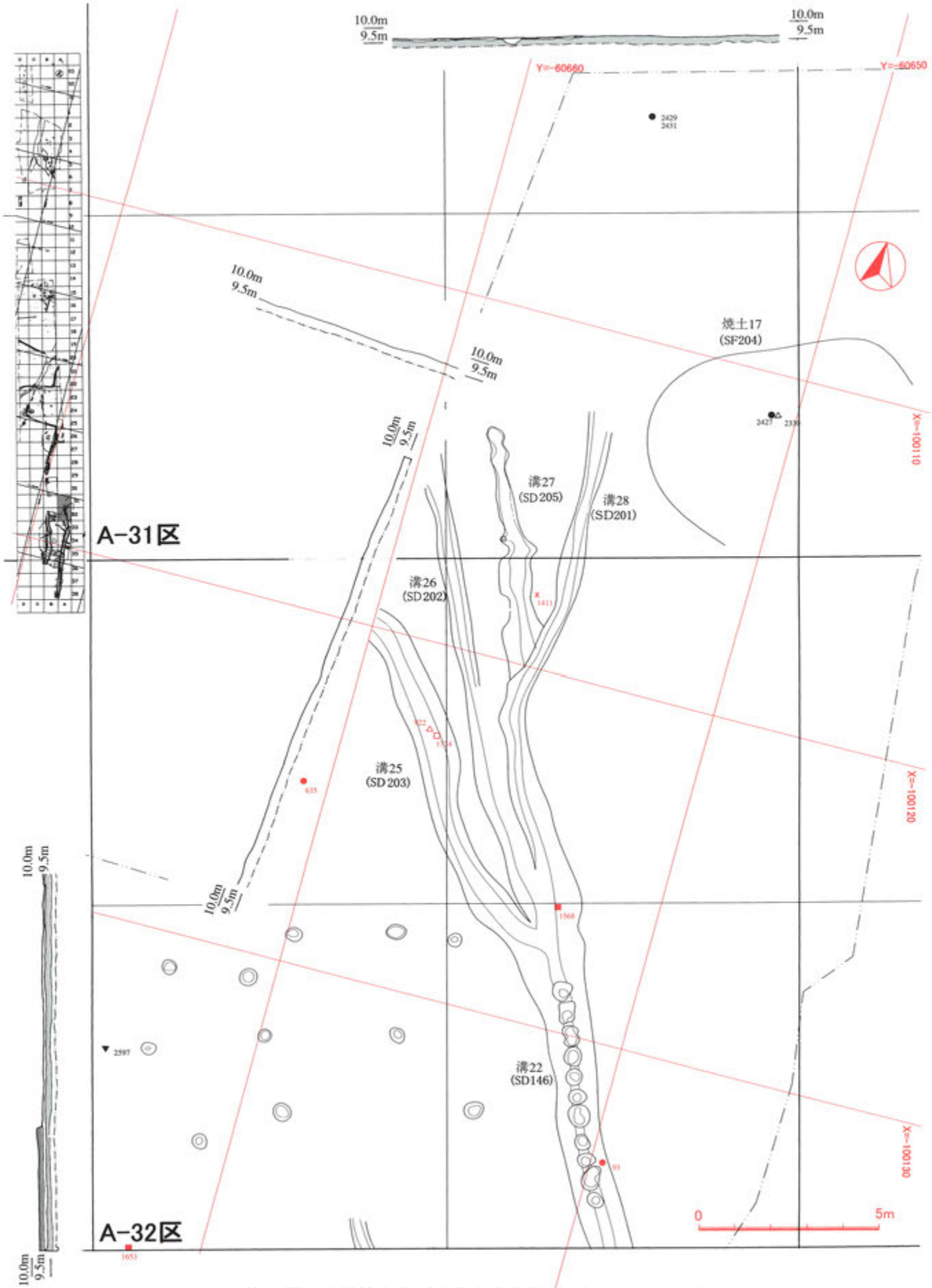
工場敷地だった場所であり，アスファルトを剥がしてからの掘り下げとなった。アスファルトの基礎や客土を除去すると，サビ色をしたⅢ層であり，特に東側は礫がゴロゴロしていた。西壁・北壁とも断面は実測していない。焼土17（SF204）は明確な境はなく，深さも広がりも漸移的であった。溝状遺構22（SD146）から枝分かれした溝状遺構26（SD202）・27（SD205）・28（SD201）は次第にはっきりしなくなり消滅してしまった。

B-32区

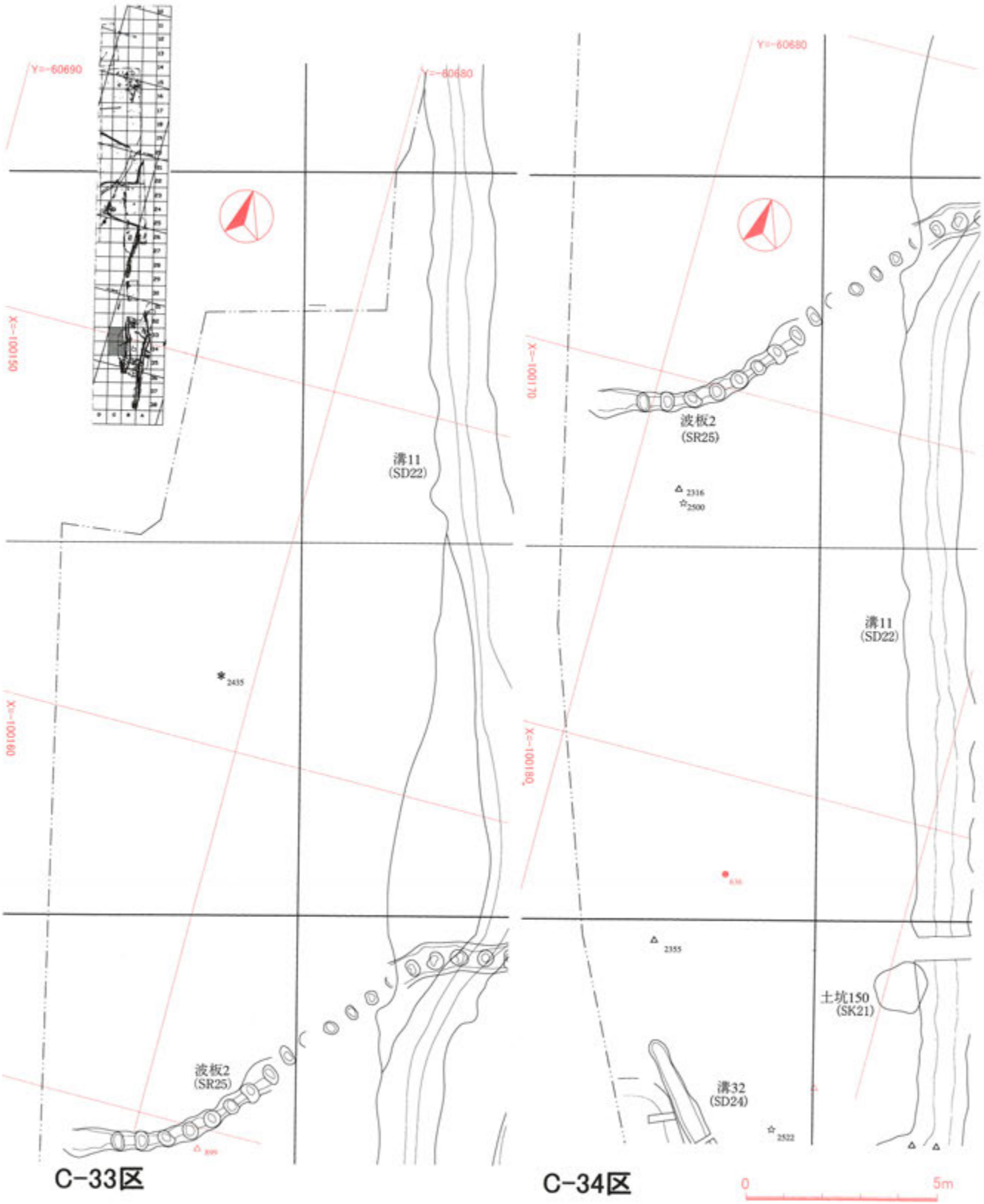
市道沖田２号線が通っていた場所であり，最後の調査区となった。市道のこの部分だけが，位置的にも方向的にも条里型地割の痕跡が存在することを予想して掘り下げたが，期待に反して全く予想外の結果となった。多数の柱穴が集中して検出され，３棟分の掘立柱建物跡を把握することができた。同じ場所で建て替えられており，この地点が条里型地割の大区画に相当する場所でなかったことが明らかとなった。掘立柱建物跡に接して不明遺構７（SX149）・８（SX150）がある。溝状遺構11（SD22）・12（SD23）はわずかに西側へ向きを変えていくが，これ以上の追究はできなかった。西壁・北壁とも断面は実測していない。

A-32区

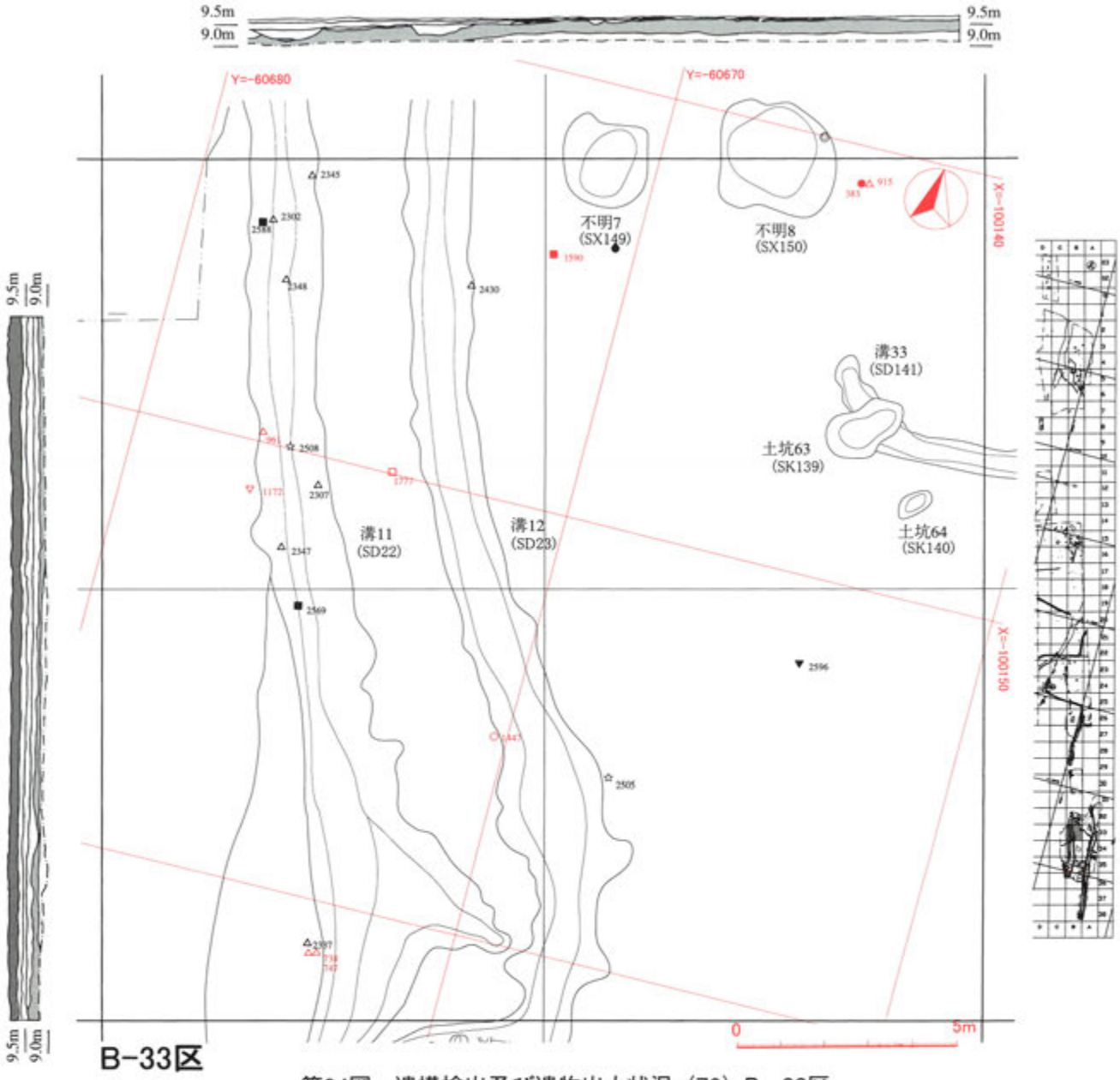
北側壁面・西側壁面・南側壁面の標高は，高い所で9.6m，低い所で9.54mである。北側壁面・西側壁面・南側壁面とも，Ⅱ層上面から現れていることから，調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。南側壁面の6.2m～11.88mの地点にコンクリート壁が位置していたため，調査を実施することができなかった。北側壁面のⅢ層10cm～15cmの間には拳大の礫がつまっていた。市道沖田２号線があった場所であり，発掘調査が最後になった地点である。市道は方向的にも距離



第92図　遺構検出及び遺物出土状況（74）A－31・32区



第93図　遺構検出及び遺物出土状況（75）C－33・34区



第94図　遺構検出及び遺物出土状況（76）B－33区

的にも条里型地割の大区画に相当しそうな地点であったが，それを示す様な遺構はみられなかった。

この範囲の遺構はA-33区から延びてきた溝状遺構22（SD146）があり，その底面に波板状凹凸面が確認できた。さらに北側へは溝状遺構28（SD201）・26（SD202）・25（SD203）が枝分かれしているのが明らかとなった。

直径40～55cm程度の土坑を10数基検出したものの，埋土が新しかったので遺構としては認定しなかった。

遺物の出土状況は，中心部から弧を描くような形で出土している。

C-33区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.5m，低い所で9.2mである。

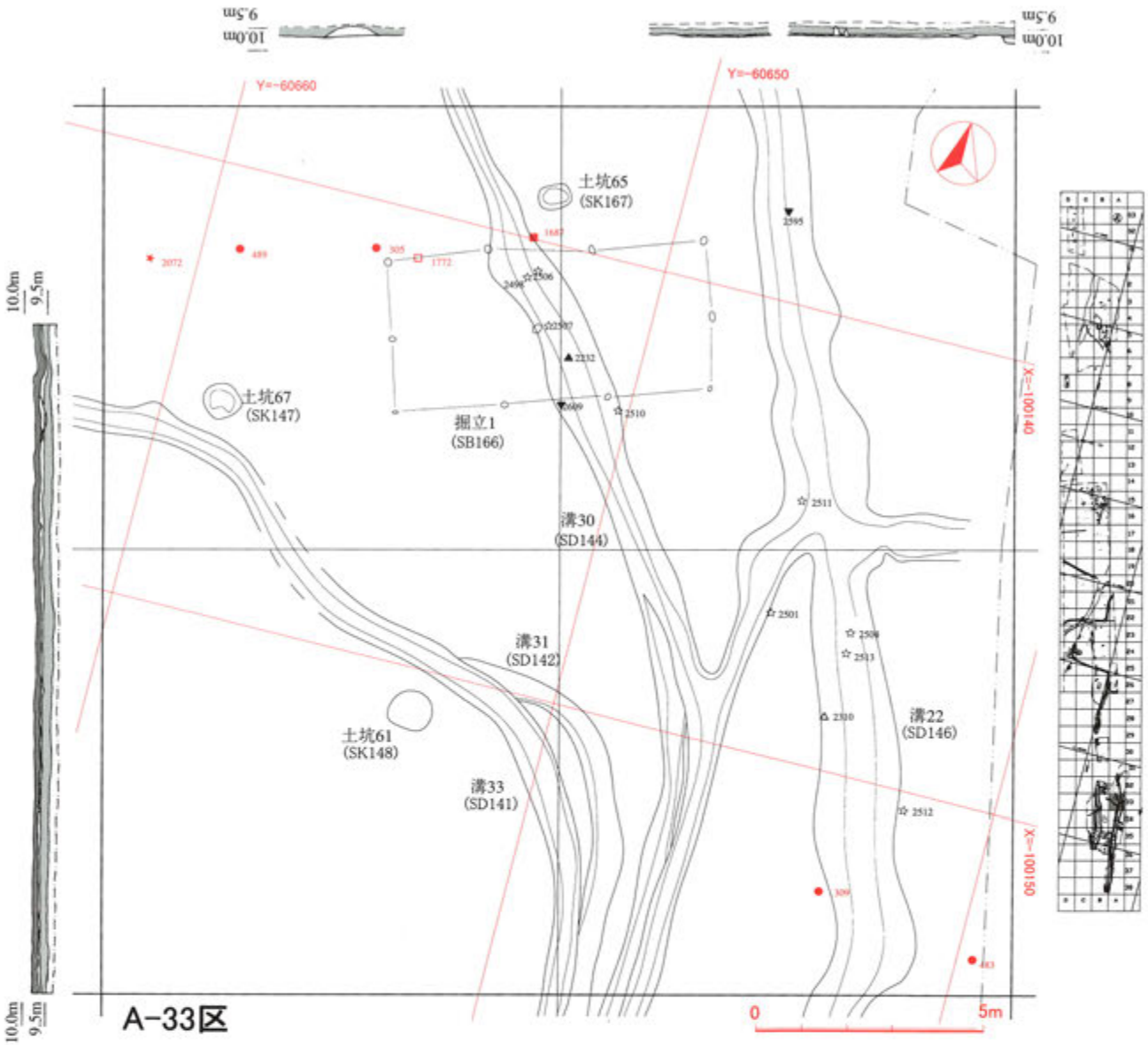
この範囲からは，遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は，南東側から数点しか出土しなかった。

C-34区

北側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.24m，低い所で9.2mである。西側は調査区域外であり，この範囲のⅢ層は北側壁面の17.4m～19.6mの地点だけしか確認できなかった。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱ・Ⅱb・Ⅱc層と分類した。

この範囲では，B-34区から続く古代末期から中世初頭のものと思われる波板状凹凸面２（SR25）を検出した。

遺物の出土状況は，東側全般に広がって出土している。



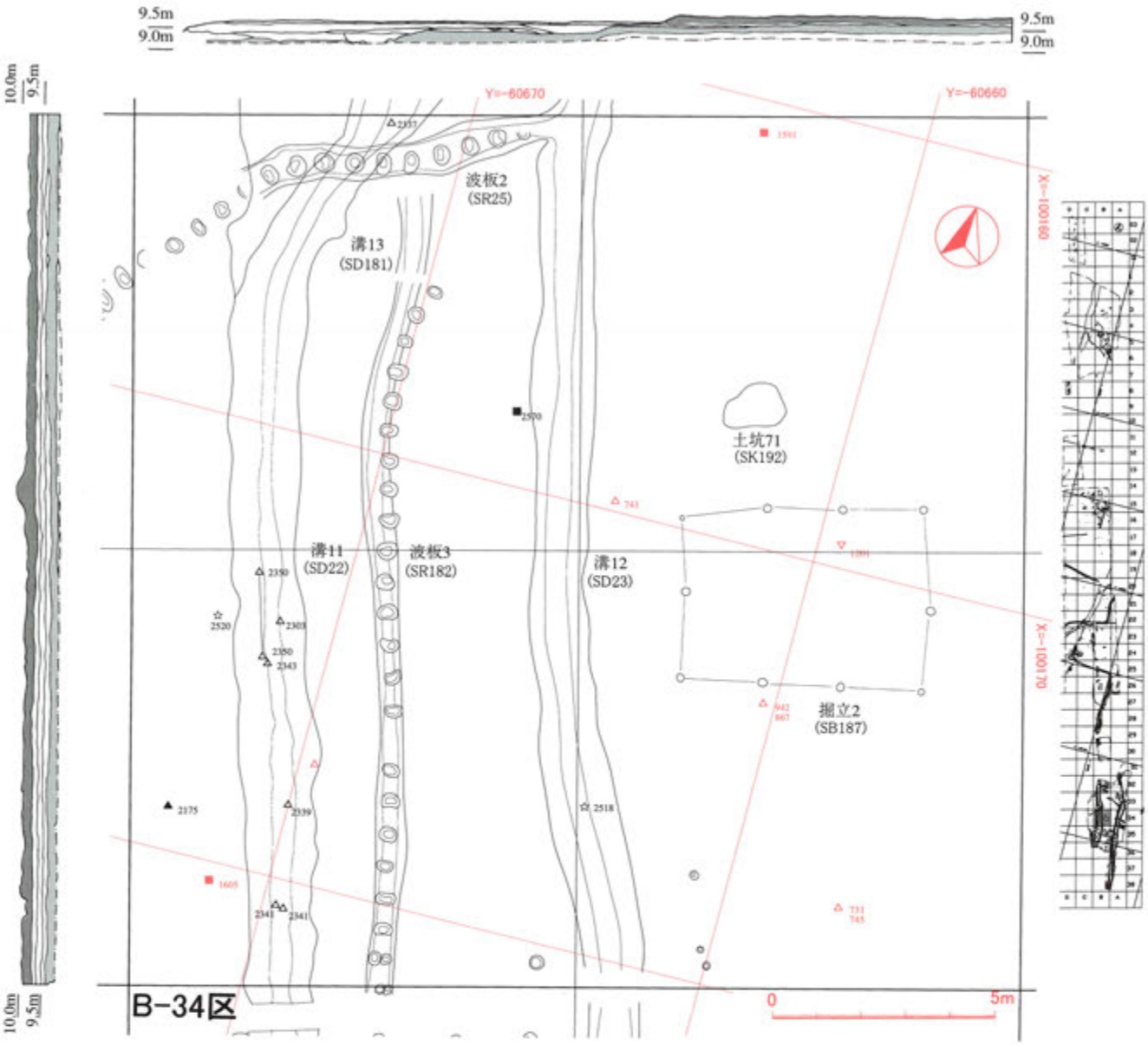
第95図　遺構検出及び遺物出土状況（77）A－33区

B-33区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.6m，低い所で9.0mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc・Ⅱd層として分類した。北側壁面の3.2m～５mの地点のⅡb層とⅡc層の間には，暗灰褐色粘質土が堆積している層があり，また，その下には厚さ８cm，幅42cm程度の暗灰色砂質土で，５mm程度の砂利が混入している層がある。

この範囲からは，平安時代から鎌倉時代のものと思われる溝状遺構11（SD22）・12（SD23）を検出した。この遺構から，土師器・滑石製品・磁器が出土した。溝状遺構11は南側で大きく広がっており，東側へは登り口状のスロープもみられる。この張り出しに影響されたせいか，溝状遺構12もこの地点で東側へ若干張り出している。また，土坑63（SK139）・64（SK140），不明遺構７（SX149）・８（SX150）を検出した。土坑の埋土は灰色を呈する砂質土であり，不明遺構の埋土は黒灰色の粘質土である。不明遺構は，堆肥置き場または生活用水を一時貯めておくような，湿気の多い所（スドボイ）が想定されたので土壌分析を行ったが，特別な物質は出てこなかった。これらの遺構からは遺物は出土しなかった。

遺物の出土状況は，この範囲から全般的に出土しているが，特に西側の方からの出土が多い。



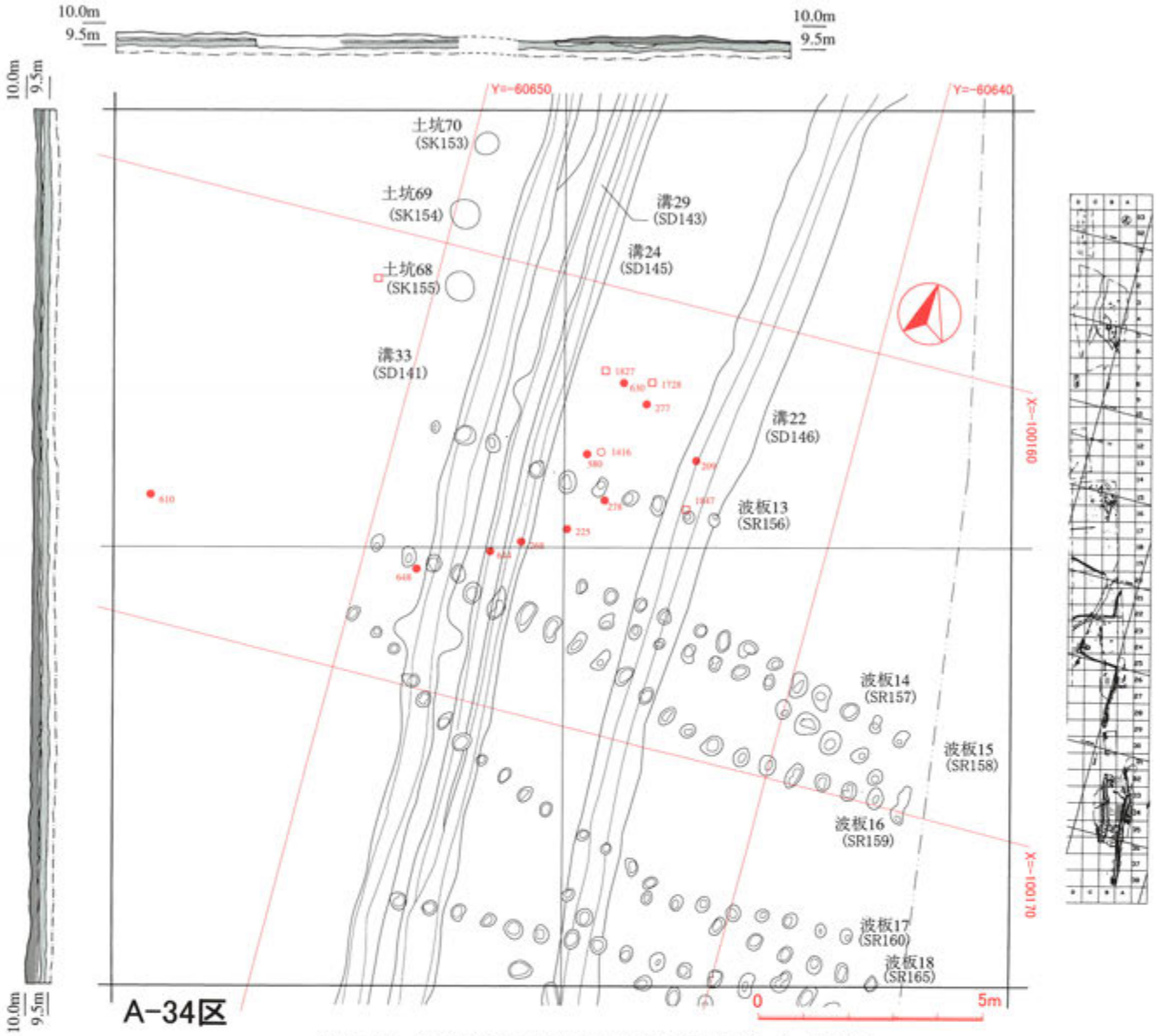
第96図　遺構検出及び遺物出土状況（78）B－34区

A－33区

西側壁面の標高は，高い所で9.64m，低い所で9.56mである。12.28mの地点で，Ⅱa層の中に暗黄褐色粘質土が入っており，Ⅲ層の中には暗灰黄色粘質土が入っている。西側壁面16.66mの地点～17.02mの地点にかけて，暗灰褐色弱粘質土が入り込んでいる。18.6mの地点からコンクリートの壁があったため，北側壁面の調査ができなかった。

この範囲からは，平安時代から鎌倉時代のものと思われる溝状遺構33（SD141）・31（SD142）・29（SD143）・30（SD144）・24（SD145）・22（SD146），土坑67（SK147）・61（SK148），掘立柱建物跡1（SB166）が検出された。溝状遺構29は溝状遺構24と重なりながら延びて，溝状遺構30に吸収される。すべての溝状遺構がこの地点で方向を変えたり分岐したりする様相がみられ，この区が条里型地割の何らかの変換点だったことが窺える。埋土は暗茶褐色粘質土である。36区の方から山裾に沿って，わずかに蛇行しながら延びてきた溝状遺構22は，埋土は黒茶褐色の粘質土であり，溝状遺構24と合流してA－32区に延びている。これらの溝状遺構の中からは，須恵器・土師器・滑石製品・玉縁の白磁等が出土した。土坑67・61は楕円形及び円形の土坑で，埋土はⅢ層と同一の暗黄褐色土である。掘立柱建物跡1の埋土は黒茶褐色の粘質土である。

遺物の出土状況は，中心に向かって周辺部分で出土しており，特に南西方向から多く出土している。



第97図　遺構検出及び遺物出土状況（79）A－34区

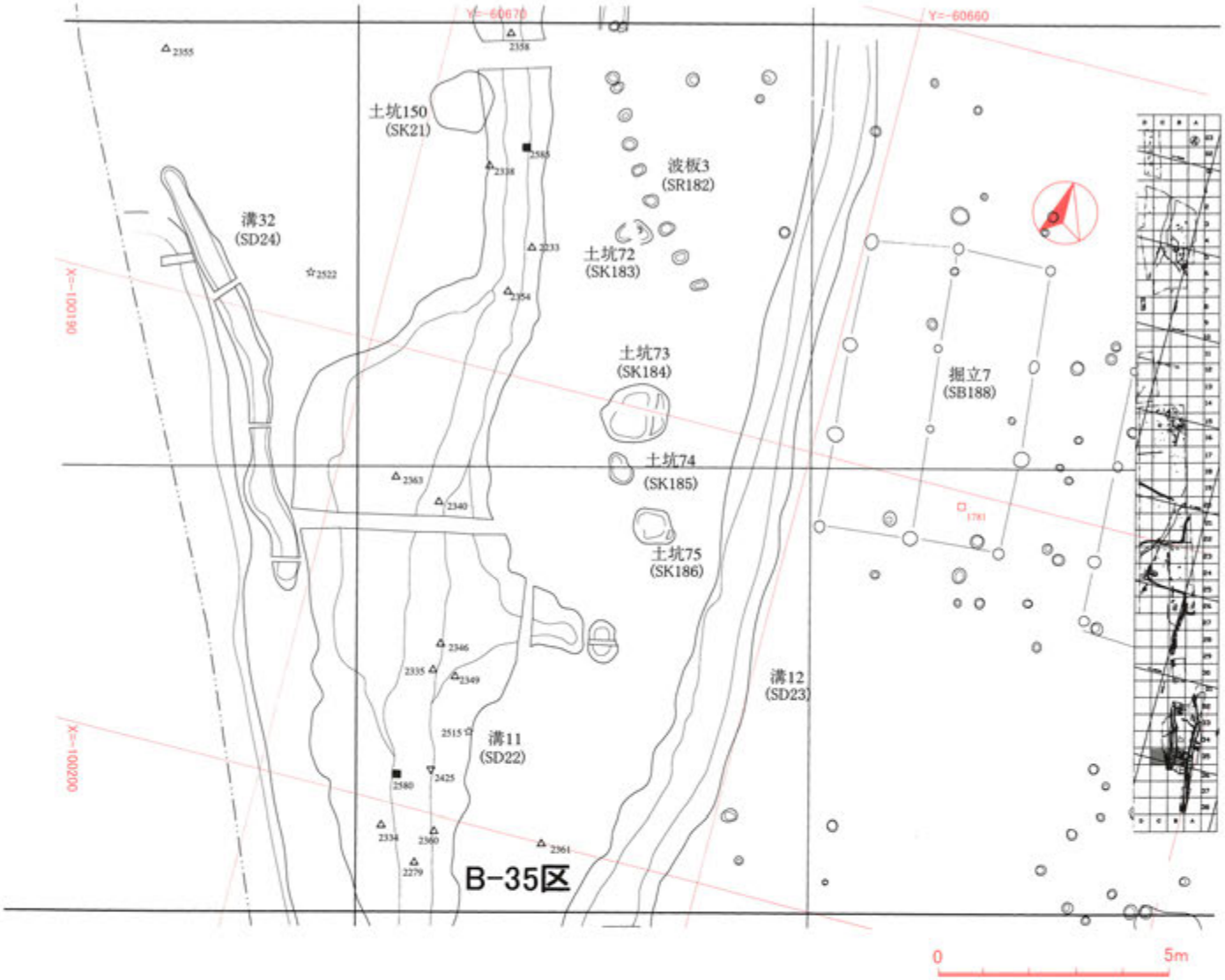
B-34区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.46m，低い所で9.04mである。北側壁面はⅡ層から現れていることから，昭和40年代の耕地整理で削平を受けていることが考えられる。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc層と分類した。北側壁面の6.5m～8.24mの地点のⅡ層とⅢ層の間に厚さ約８cm，幅1.5mの古代の耕作土と考えられる層が堆積していた。また，西側壁面の10m～14.04mの地点のⅡc層には，幅20cm～40cm，厚さ４cm～８cmの砂の塊の層が堆積しており，鋤痕ではないかと考えられる。上面は平坦に近く，下面は凸レンズ状となる。平面で広げてみたが，この層は確認できず，方向もわからなかった。

この範囲からは，古代末期から中世初頭のものと思われる溝状遺構13（SD181），波板状凹凸面２（SR25）・３（SR182），掘立柱建物跡２（SB187），土坑71（SK192）を検出した。溝状遺構と掘立柱建物跡は同じ向きをしている。

波板状凹凸面２の溝の中の埋土は灰褐色砂質土であり，床面の埋土は白色の細砂である。掘立柱建物跡２の埋土は暗茶褐色の粘質土，土坑71の埋土は炭化物の細粒を含んでいる黒茶褐色の粘質土である。

遺物の出土状況は，全般的に出土している。特に西側からの出土が多い。また，北から南に向かって，線状に出土している。



第98図　遺構検出及び遺物出土状況（80）C・B－35区

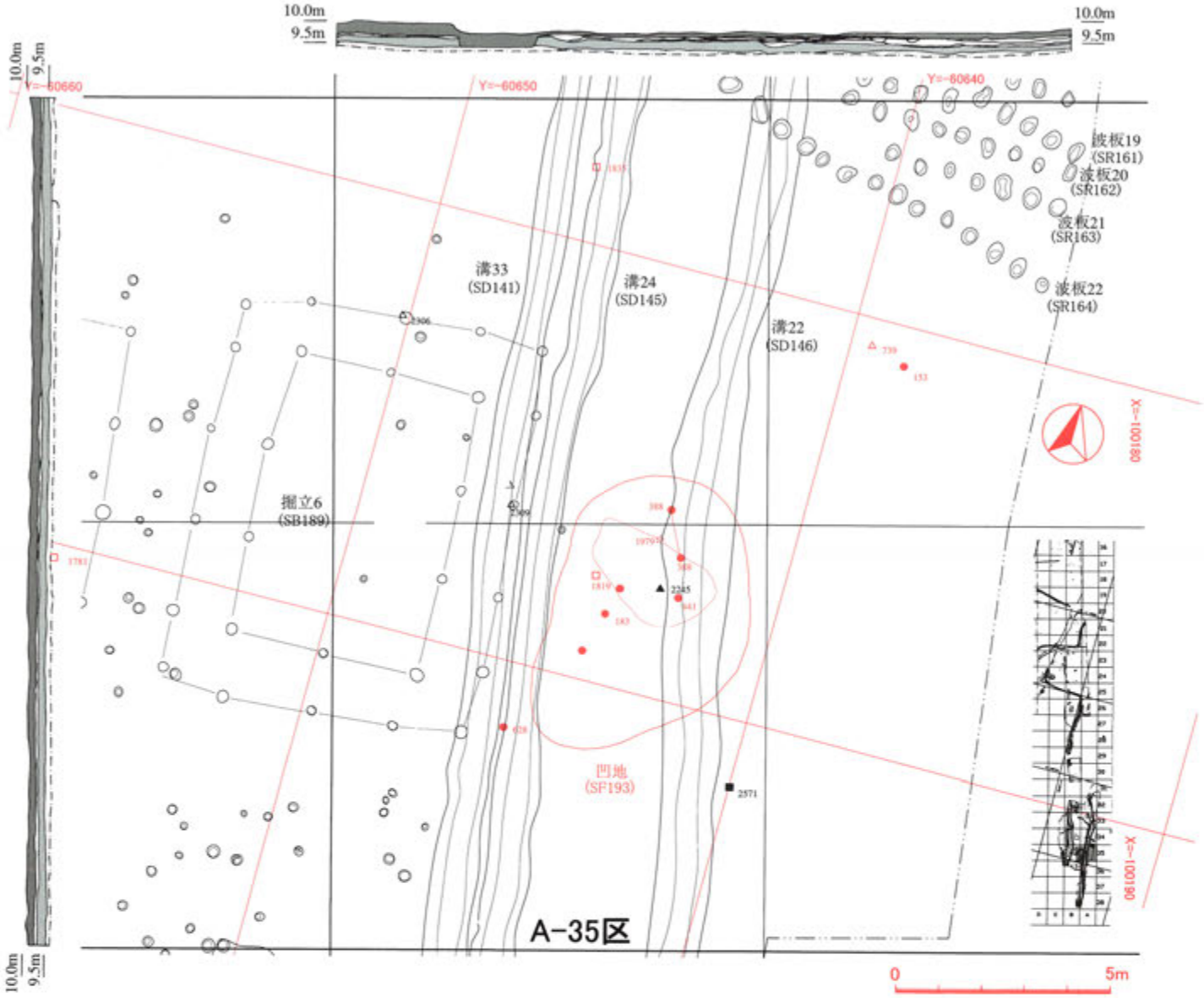
A-34区

溝状遺構22（SD146）・24（SD145）・33（SD141）が公共座標に沿って並行している。溝状遺構24から分岐した溝状遺構29（SD143）は，半分重なりながら並行する。土坑68（SK155）・69(SK154)・70（SK153）も溝状遺構の方向で並んでおり，関連性が窺える。溝状遺構が完全に埋まった後，波板状凹凸面13（SR156）・14（SR157）・15（SR158）・16(SR159)・17（SR160）・18（SR165）・19（SR161)が形成されている。東側の谷方向へ続いており，最も北にある波板状凹凸面13は東西の公共座標に沿っている。

C・B-35区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.62m，低い所で9.24mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc・Ⅱd層と分類した。北側壁面では古代の耕作土と考えられる層があり，Ⅱd層とした。北側壁面のⅡ層とⅢ層の間の7.84mの地点～9.04mの地点にかけて，厚さ約30cm，幅1.2mにわたって砂礫層が堆積していた。西側壁面ではⅡc層の下に溝状遺構11(SD22)の埋土が堆積している状況が認められた。

この範囲から，古代末期のものと思われる土坑72(SK183)・73(SK184)・74(SK185)・75(SK186)，中世のものと思われる土坑150(SK21)，同じく中世のものと思われる掘立柱建物跡7(SB188)，B-35区と36区の境で古



第99図　遺構検出及び遺物出土状況（81）B・A－35区

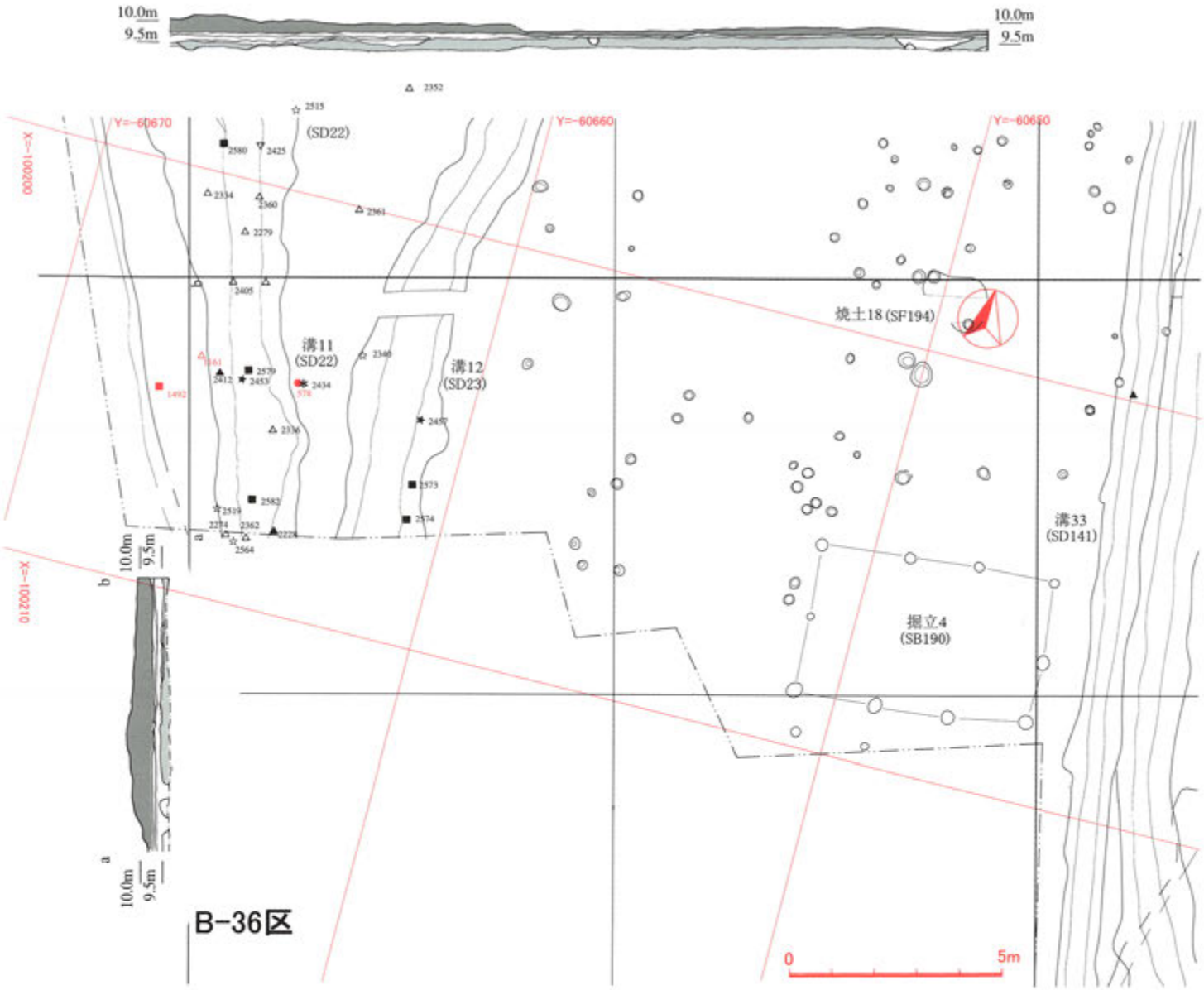
代前半のものと思われる焼土遺構18（SF194），古代末期～中世初頭のものと思われる溝状遺構11及び溝状遺構12（SD23）を検出した。土坑の埋土はⅢ層と同じで，掘立柱建物跡の埋土は暗茶褐色の粘質土であり，焼土遺構の埋土はⅢ層とほとんど同じでわずかに炭化物を含むものである。西側には段落ちがあり，これより西側は高柳川の流域となっていたのではないかと考えられる。

遺物の出土状況は，西側の方が非常に濃密であり，ここから集中して出土している。

A－35区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.7m，低い所で9.5mである。北側壁面の2.8m～4.56mの地点に確認トレンチが入っていたため，この部分の調査はできなかった。この範囲の北側壁面のⅡ層には，古代の耕作土と思われる層が確認され，Ⅱd層とした。

この範囲からは，縄文時代の凹地（SF193），古代末から中世初頭のものと思われる四面庇の掘立柱建物跡6（SB189）を1棟検出した。凹地は，Ⅲ層を掘り下げている段階で検出され，8cm程度の焼土塊が検出された。入佐式土器に該当するものであり，この区よりも南側では縄文時代の遺構はみられなくなる。また，掘立柱建物跡6はⅢ層上面で検出された。この周辺には他にもピットが検出されたが，並べることができなかった。溝状遺構は3条並行しながら，公共座標の南北に沿って延びて



第100図　遺構検出及び遺物出土状況（82）B－36区

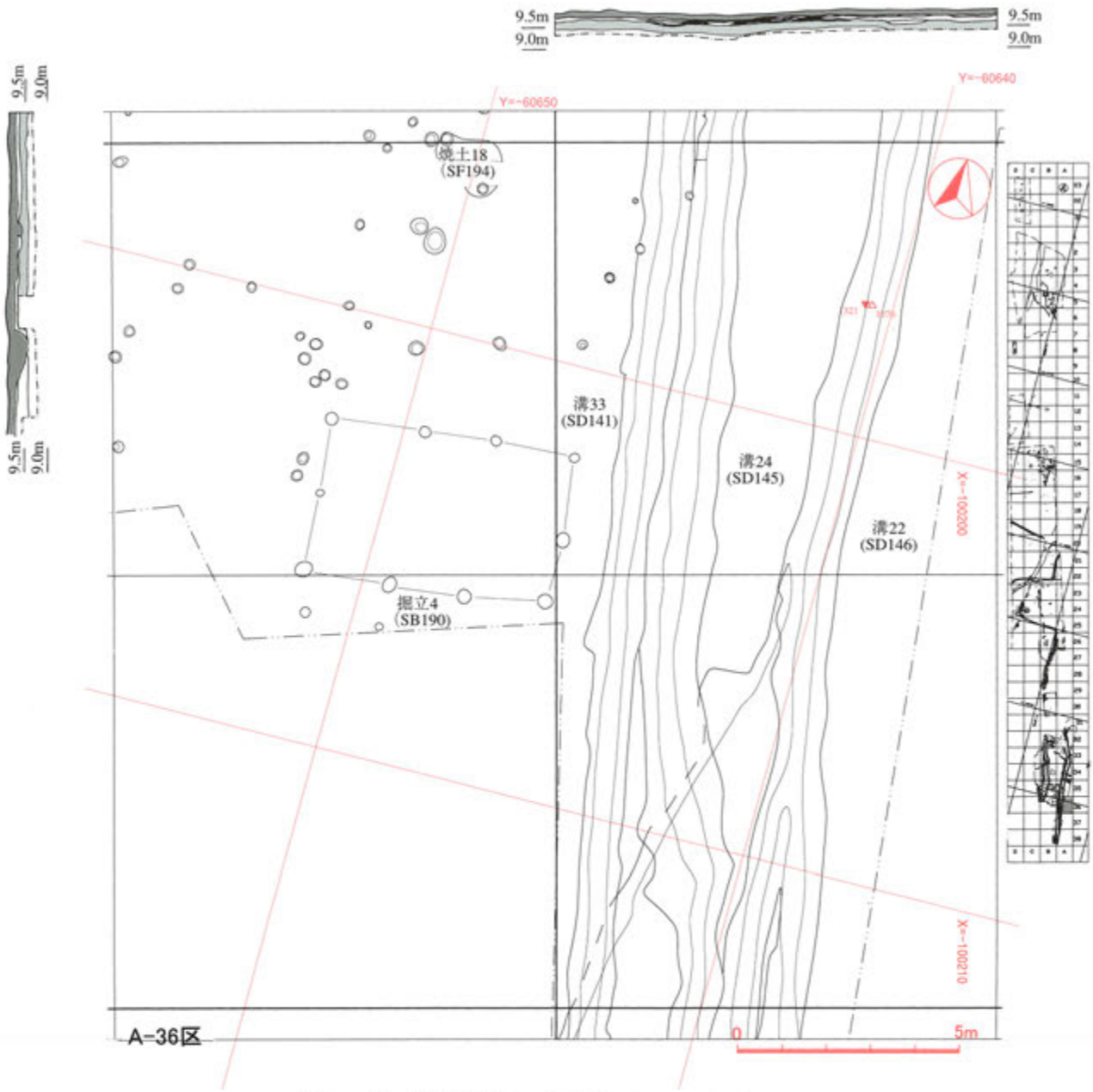
いる。波板状凹凸面20（SR162）・21（SR163）・22（SR164）は北東隅にあり，東側の谷に向いている。

遺物の出土状況はこの範囲の中心部より，南西の方向にかけて出土している。

B-36区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.68m，低い所で9.27mである。Ⅱ層はその堆積状況から，Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc層と分類した。北側壁面の10.1m～10.4mの地点でⅢ層上面の中に幅30cm，深さ約18cm程度のピットが認められた。北側壁面の17.7m～17.9mの地点の中に幅20cm，厚さ約10cm程度の炭化物を含む焼土の層が認められた。

西側には溝状遺構11（SD22）・12（SD23）があり，中央から東寄りにはピット群がある。建物として認定できたのは，中世初頭のものと思われる掘立柱建物跡4（SB190）のみである。西側は礫が多くなってきて，溝状遺構も次第にはっきりしなくなる。これより南側へも追跡調査したかったのであるが，工事用の資材置場になっていたこともあり，断念せざるを得なかった。この区域から土師器や白磁類の出土も多かったので，南側に条里型地割が施行される以前の建物等があったと想定される。しかし，その有無の確認も今となってはかなわず，反省する次第である。なお，縄文時代の



第101図　遺構検出及び遺物出土状況（83）A－36区

遺物もわずかながら出土している。

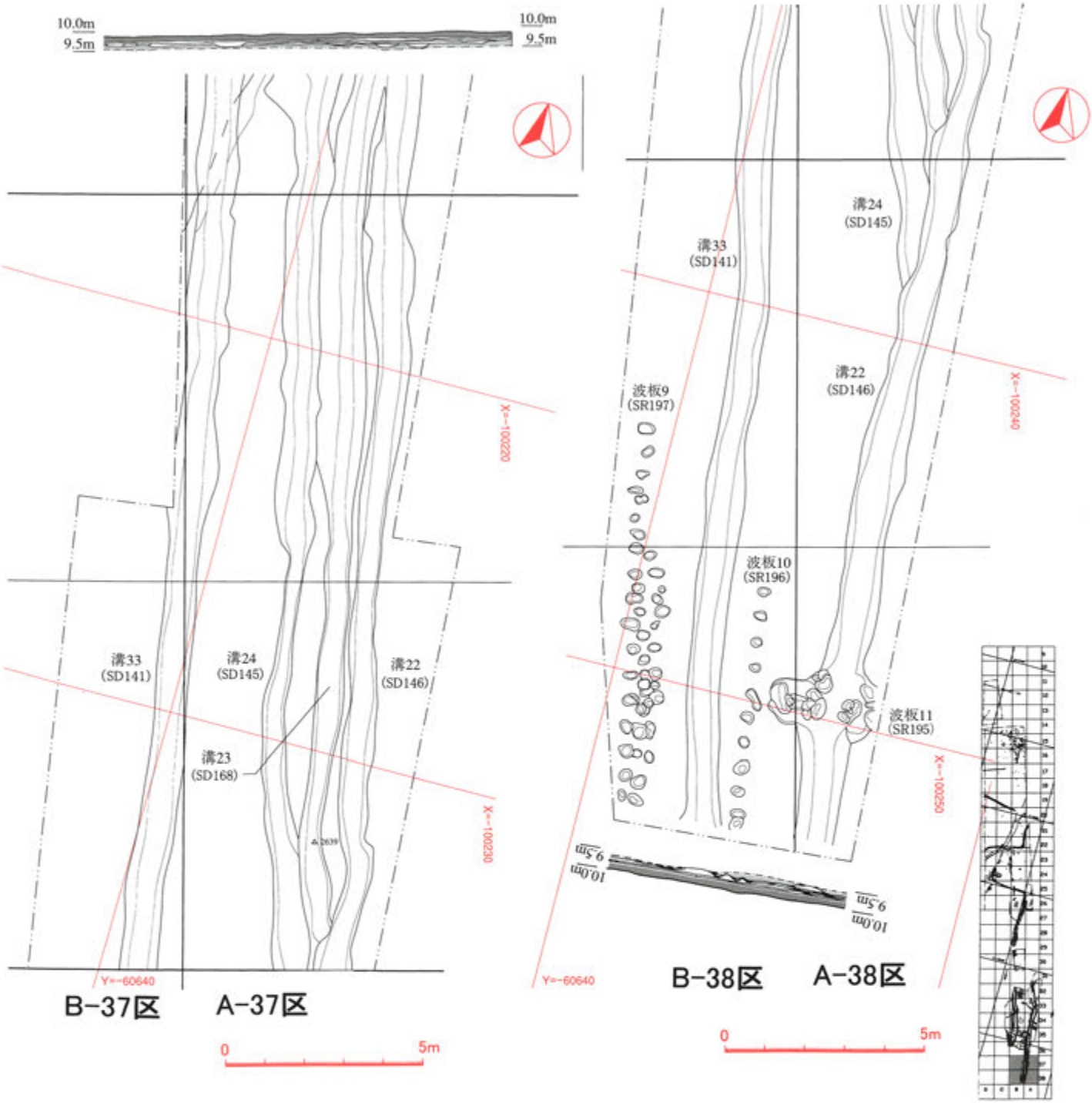
遺物の出土状況は，北東の方が濃密であり，ここから集中して出土している。

A-36区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は，高い所で9.7m，低い所で9.56mである。確認調査の結果，示された調査範囲の南限はこの区の中ほどまでであった。調査時点で人家が残っていた場所で区切ってあったが，溝状遺構が南側へ延びていくので，協議の上人家が立ちのいた後調査した。南側で溝状遺構22(SD146)と溝状遺構24（SD145）は複雑に分岐しているので，もし当初の範囲で調査を打ち切っていたら溝状遺構同士の関係はつかめないところだった。この部分で東側へ下がった段落ちが認められたが，溝状遺構との関係や性格は把握できなかった。Ⅱ層の中に古代の耕作土と思われる層があり，Ⅱd層とした。中世のものと思われる溝状遺構23（SD168）を検出した。遺物の出土状況は，中心より西側から出土しており，東側からは出土していない。

A・B-37区

4条の溝状遺構が同一方向に延びている。公共座標に沿った方向であり，ＪＲ鹿児島本線（肥薩おれんじ鉄道）にも沿っている。溝状遺構22（SD146）はこの区域で溝状遺構23（SD168）・24（SD145）に分岐している。北側断面図で確認すると，溝状遺構22が最も深く，溝状遺構23，溝状遺構24がこれに次ぐ。同じ条件での溝状遺構の深さは使用頻度を示していると考えられ，深いほど永く使われたと想定される。



第102図　遺構検出及び遺物出土状況（84）A・B−37・38区

溝状遺構33（SD141）は溝状遺構24よりも新しいという点については層位から明らかであるが，深さは溝状遺構33の方が深い。この点については，溝状遺構24は使用途中で廃絶され，溝状遺構33に取って代わられたと考えられる。

A・B−38区

今回の調査範囲で最も南側に位置するグリッドである。南側壁面の標高は，高い所で9.68m，低い所で9.64mである。溝状遺構33（SD141）・22（SD146）及び波板状凹凸面９（SR197）・10（SR196）はさらに南側へ延びていくのであるが，それ以上の追究はかなわなかった。波板状凹凸面が南側へ続きそうなことから，こちら側の方が低くなってジメジメしていたのではないかと考えられる。溝状遺構22はこの区の北側で溝状遺構24へ分岐している。

この範囲からは，中世のものと思われる波板状凹凸面11（SR195）を検出した。遺物は数点出土した。縄文時代の遺構・遺物は全く確認されなかった。

第Ⅳ章　発掘調査の成果

第１節　縄文時代の成果

１．縄文時代の検出遺構

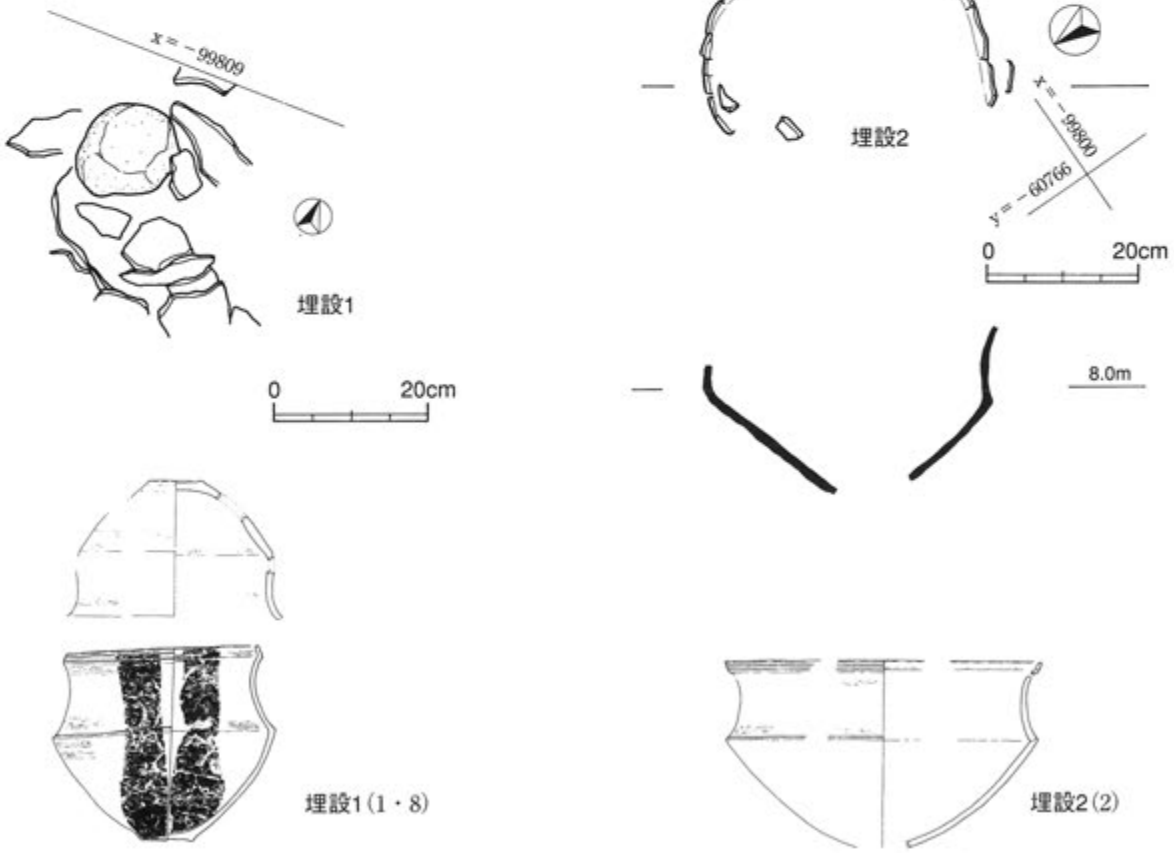
（１）埋設土器

埋設土器１（SJ124．１・８）：B−15区の東側壁面で検出した。検出した時点では，全体の形状がわからず，平面形だけ図化して断面図は作成しなかった。上蓋が存在することも室内整理において初めてわかった。埋設土器はほぼ正位に埋設されていた。ちょうど中位に拳大の礫がみられるが，内部に崩れた頸部付近よりも上にのっているので，蓋を被せた後置かれた礫であると考えられる。

下部の土器（１）は，頸部以上が削平されていたものの，内側に落ち込んでいた口縁部他の接合から，全形を復元することができた。口径24.5cm，器高25.8cm，底径6.6cmを測る。最大径は胴部にあり29cmである。胴部最大径で「く」の字状に強く屈曲し，この部分に１条の凹線を巡らす。頸部は大きく外反しながら立ち上がり，口縁部で再び「く」の字状に屈曲する。口縁部文様帯には２条の凹線を巡らす。口唇部は平に面取りしてある。胴部下半は丸く内湾しながら，すぼまる底部へ至る。底部は上げ底であり，穿孔等はみられなかった。胴部に凹線を巡らすことから，本遺跡出土土器の上加世田式土器の中でも，最も古い部類に位置付けられる。

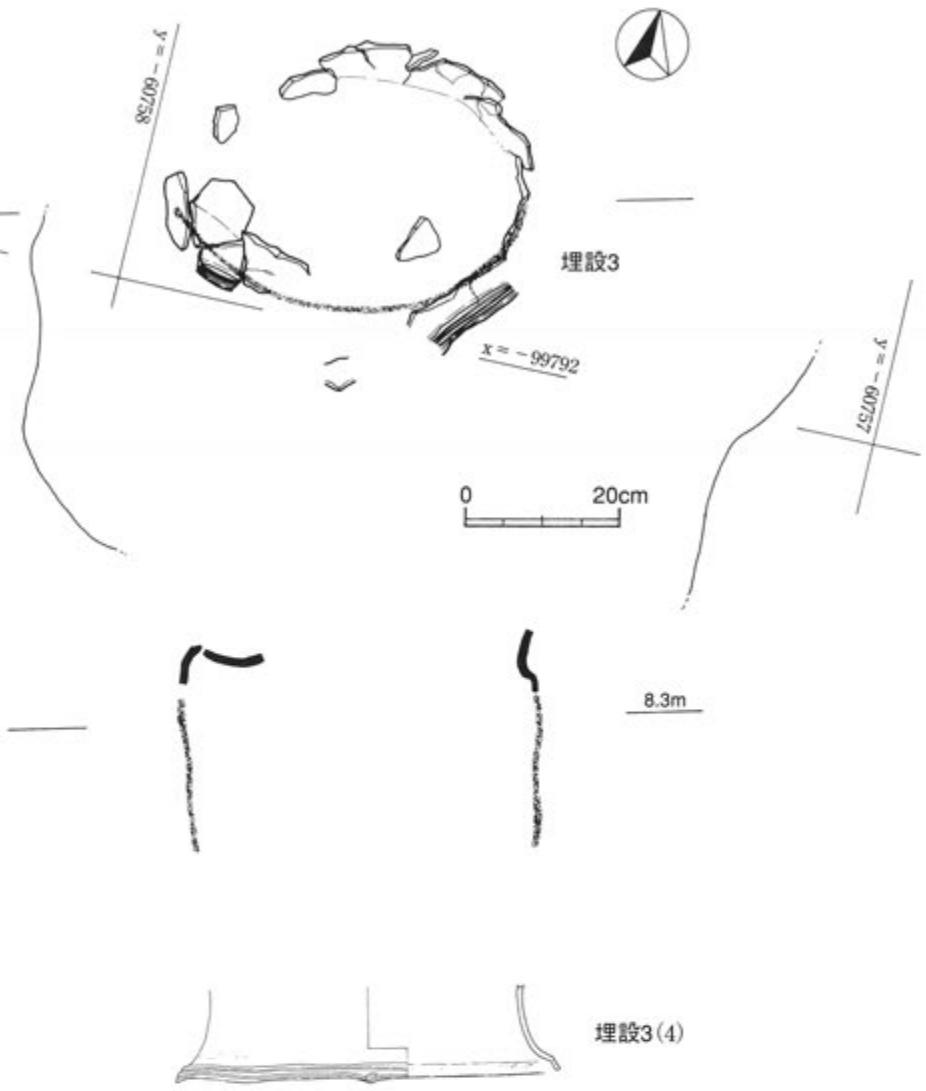
上蓋となる土器（８）は，復元を試みたのであるが，直に接合できる部分が少なく，図上での復元であるため多少無理があるかもしれない。底径は6.8cmを測り，上げ底である。胴部下半は大きく開き，中央付近で弱く屈曲する。胴部上半は内傾気味に立ち上がり，口縁部付近で大きく外反している。器面調整はミガキによるものである。上加世田式土器に該当する。

埋設土器２（SJ119．２）：B−15区のⅢ層で検出された。底部は欠損していたものの，ほぼ正位に埋設されていた。検出時点では肩部以上はすでに削平された状態であったが，接合した結果，口縁部付近まで復元することができた。口縁部は確実に接合できる部分はなかったので，図上復元によるものである。底部は故意に欠いており，底部付近から胴部最大径までは内湾しながら開く。胴部最大径で強く屈曲し，１条の凹線を巡らす。頸部は大きく外反しながら立ち上がり，口縁部は屈曲して外側に広がる。外側に２条の凹線を巡らす。低い頂部もみられ，中央に切れ目を入れてある。器面調整はミガキによるものであり，器壁は比較的薄い。



第103図　埋設土器検出状況(1)　埋設土器1(SJ124)・2(SJ119)

深鉢形土器と浅鉢形土器の中間的な器形であり，上加世田式土器の古い段階に位置付けられると考えられる。



第104図　埋設土器検出状況(2)　埋設土器3(SJ79)

埋設土器３（SJ79．４）：B−14区のⅢ層上面で検出された。口縁部を下向きにしているが，ほぼ水平に埋設されている。頸部の途中で削平されているため，当初から完形の鉢形土器を被せてあったかどうかは不明である。下部から土器は検出されなかったが，半截した時点で水平方向にスライス状に掘り下げていくと，平面形が円形の痕跡が見えてきた。何らかの有機質の容器があったものと考えられる。輪郭がはっきりしたのはこの部分のみであり，断面等で底の部分までは明らかにできなかった。内部の埋土は外側のⅤ層よりもわずかに暗く，辛うじて灰色の筋で確認することができた。深く掘り下げた時点で土器よりも外側に土質の変わった部分もみられたが，断面では土質の違いはわからなかった。掘り方のラインとは考えられず，どの様な影響によるものかはわからない。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

上部の土器は復元口径49．5cmの大型の鉢形土器である。頸部から下しか検出されず，器高は不明であり，深鉢になるのか中鉢になるのかもわからない。頸部は大きく外反し，屈曲して外開き気味に立ち上がり，口縁部へ至る。口縁部文様帯には２条の凹線を巡らす。おそらく頂部が４か所あったと考えられ，この部分には，短い弧状の凹線を加えている。器面調整は内外面ともミガキである。以上のような特徴から，上加世田式土器の範疇に含まれるものと考えられる。

埋設土器４（SJ38．６）：C−15区から検出されたもので，Ⅲ層の途中で口縁部を確認することができた。口縁部は全体的に南側へずれており，土器内部にも落ち込んでいたことから，当時は土が充填されていたものではないことがわかる。掘り込み面および断面のラインは確認できなかった。口径30cm，器高33cmで，胴部屈曲部はほぼ中位に位置する。頸部は緩く外反しながら立ち上がり，屈曲してやや内傾気味の口縁部をもつ。ほぼ正位に置かれている。口縁部は幅が狭く，２条の凹線が巡るタイプのものである。凹線の幅は0．1cmである。胴下半部はストレート気味に平底の底部へ至る。器面調整は胴部最大径の上下でしか確認することができなかったが，ミガキによるものである。以上のような特徴から，上加世田式土器に該当する。

埋設土器５（SJ115．７・386）：C−16区Ⅲ層で頸部付近を検出した。ほぼ正位に埋設されていた。検出した時点で，ほとんどは後世の攪乱のため削平されていたが，接合してみると全形がわかるほど復元することができた。上蓋となった浅鉢形土器(386)は，口径30.8cm，器高10.2cmを測る。底部の断面形は半径18.2cm程度の円周になるような丸底であり，肩部で稜が残るほど強く内側に屈曲する。頸部は大きく外反しながら口縁部に至る。その上に端部を丸くおさめる口唇部をもう一段外開きにのせることによって，内外面に1条ずつの凹線が入って

いるようにみえる。口唇部の1か所を内側に押し出すことによってアクセントをつけている。

下部の土器は浅鉢形土器と深鉢形土器の中間的な形態である。口径35cm，底径8.8cm，器高は18.2cmを測る。薄手で上げ底の底部は3mmほどの立ち上がりをもち，内側へ湾曲しながら開く胴下半部に至る。胴部中央付近で「く」の字に屈曲し，外反気味に立ち上がって頸部は大きく開く。さらに1.5cmほどの口縁部を外傾させ，口唇部を丸くおさめる。口縁部の接合点の内外面は，凹線が巡っているようにみえる。器面調整は内外面ともミガキによるものである。上加世田式土器に該当する。

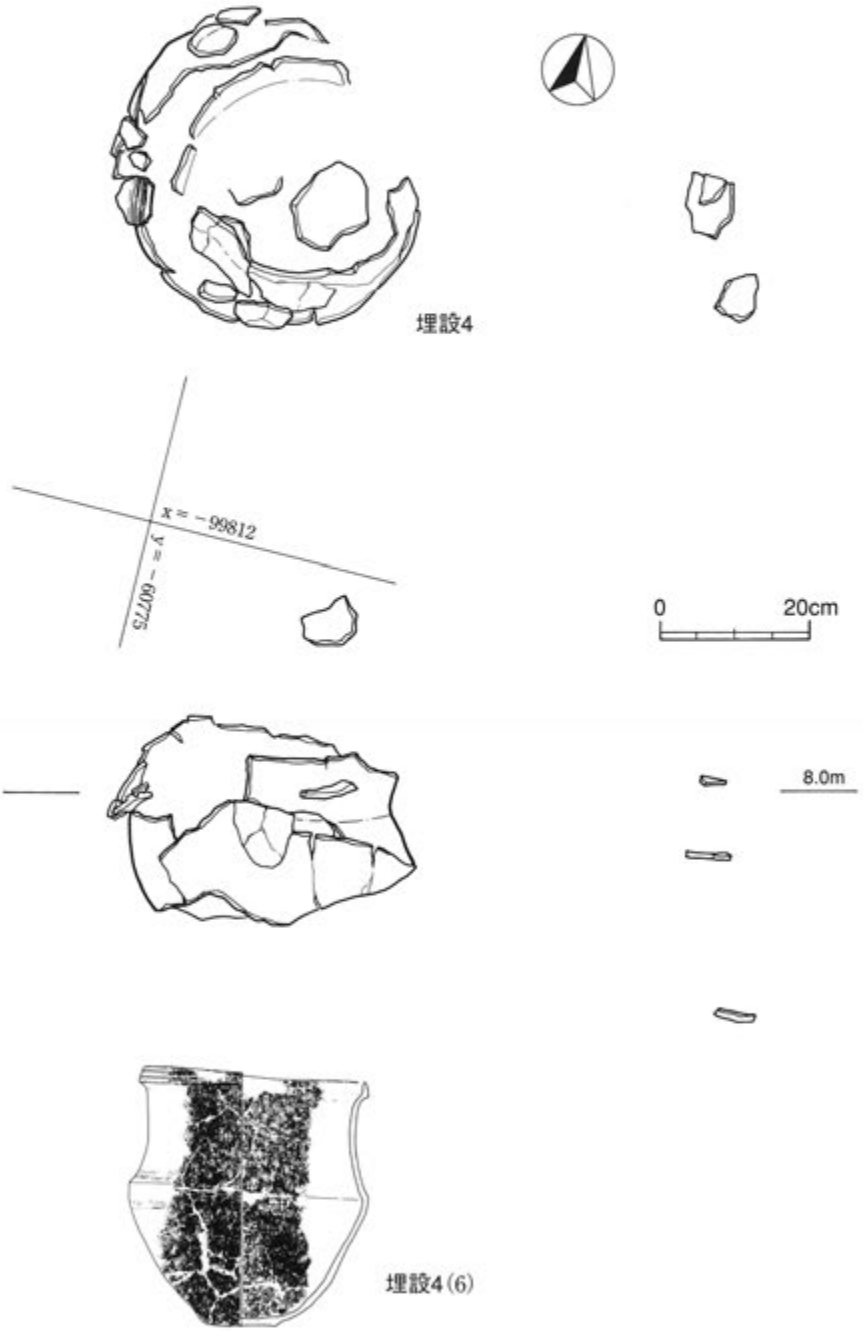
上下の土器とも胎土がきわめて類似しており，色調及び器面調整も一緒である。被せた時のおさまりも良い。他の埋設土器は日常的に使われた土器を転用したと考えられるが，この土器については最初からセットになることを考えて作られた可能性もある。

埋設土器6（SJ8．5）：B-17区の表土を剥いだ時点で，深鉢形土器の胴部下半部が検出された。掘り込みラインを確認することはできなかった。深鉢形土器がほぼ正位に置かれている。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

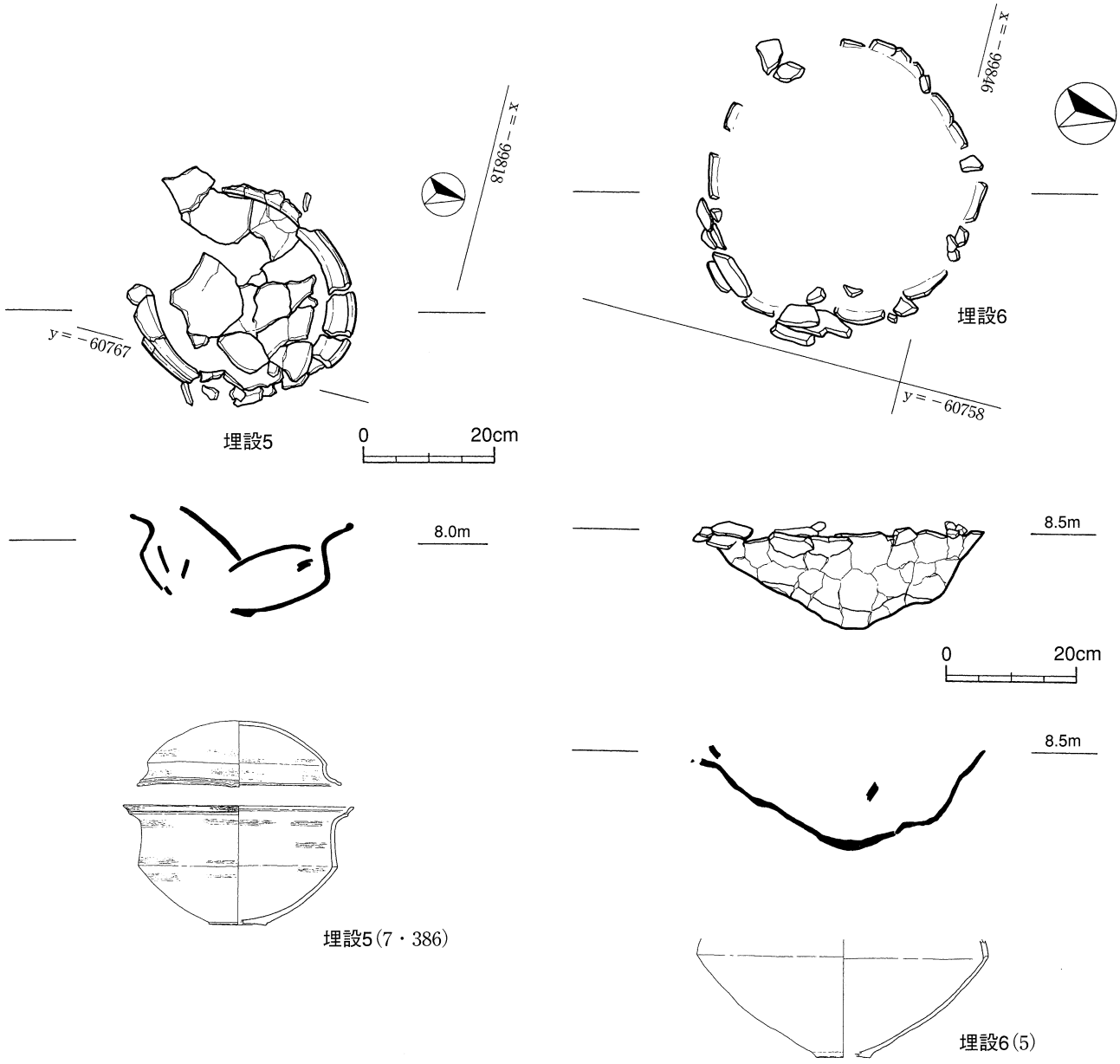
復元底径は8.2cmを測り，わずかに外開きしながら立ち上がってから大きく開く胴部下半へ至る。胴下半部は他の深鉢形土器よりも低く，「く」の字状に屈曲して肩部へ至る。この部分で欠損しており，口縁部の形状は不明である。底面は浅い上げ底となる。接合に困難を極め，底面の故意による穿孔の有無は確認できなかった。大きさの割に器壁は薄い。この様な特徴から，上加世田式土器の範疇に含まれると考えられる。

埋設土器7（SJ33．9）：胴部上半と口縁部は直に接合しなかったので図上で復元してある。胴下半部はやや内湾しながら外開きし，胴部のほぼ中央で「く」の字状に強く屈曲する。胴部上半は外反気味に内傾し，口縁部付近で大きく外反する。

口縁部は屈曲してまっすぐ立ち上がり，口唇部は平に面取りした後，窪ませてある。口縁部文様帯には2条の凹線が巡る。器面調整は内外面ともミガキによるものである。上加世田式土器に該当する。



第105図　埋設土器検出状況(3)　埋設土器4(SJ38)



第106図　埋設土器検出状況(4)　埋設土器5(SJ115)・6(SJ8)

埋設土器８（SJ６．10）：B-17区の表土を剥いだ時点で，深鉢形土器の頸部立ち上がり部分が検出された。深鉢の内部には土器片が落ち込んでおり，当時中に入っていたものが腐ってしまい，空洞に近い状態であったことが窺える。掘り込みラインを確認することはできなかった。深鉢形土器はほぼ正位に置かれており，底部の半分が打ち欠かれている。リン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

胴部最大径で「く」の字状に屈曲して，頸部はそのまま内傾する。胴下半部はわずかに内湾気味ではあるものの，ほぼストレートに底部へ至る。底部はわずかな立ち上がりがあり，底面外縁は盛り上がっており，上げ底状をなす。なお，深鉢形土器外から出土した土器で，３条の沈線が巡る口縁部分がある。直接接合する部分はなかったが，胎土共に似ており，図上で復元した。頸部上部で大きく外反し，ほぼ直立する口縁部をもつタイプである。器面調整に貝殻条痕はみられない。以上のような特徴から，上加世田式土器に含まれると考えられる。

埋設土器９（SJ80．58）：B-14区のⅢ層上面で検出された。口縁部まで残る良好な検出状況であり，ほぼ正位に埋設されている。蓋は確認できなかった。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

口縁部は段をもって外開きしながら立ち上がる。３条の沈線がみられるが，一部4条になっている部分もある。沈線の幅は0.1cmである。最大径は胴部中央にあり，強く屈曲しているものの，やや丸みをもつ。頸部はストレートに内傾し，胴下半部もほぼストレートに底部へ至る。底

部はわずかな立ち上がりをもつ平底である。底部中央は故意に孔が開けられている。上加世田式土器の新しい段階から入佐式土器の古い段階に該当する。

埋設土器10（SJ39．59・387）：C-16区から検出されたもので，Ⅲ層の途中で肩部付近を確認することができた。口縁部は土器中の中位に落ち込んでおり，落ち込んだ当時は埋設土器の下部に埋納物が残っていた状態だったのかもしれない。あるいは，土器内の下部に土が堆積していたと考えられる。内部の土器には，蓋として使用された浅鉢形土器（387）もみられる。

蓋となった浅鉢形土器（387）は，復元口径30cmを測る。底部はほぼ半円を描くような形状となる。体部上部で内側に屈曲し，大きく外反する口縁部をもつ。口縁部端部には粘土紐を一段重ねることによって丸くおさめる口唇部をつくり，内外面に１条の凹線が巡る様に見える。下部の深鉢形土器（59）は，胴部最大径は33.5cmであり，「く」の字状に屈曲している。頸部はわずかに外反しながら内傾する。胴下部はやや丸みをもち，底部へ至る。底部はわずかな立ち上がりをもち，底面は浅い上げ底となる。底部は故意に打ち欠かれている。器面調整はミガキによる。以上の特徴から，上加世田式の新しい段階から入佐式土器の古い段階に該当すると考えられる。

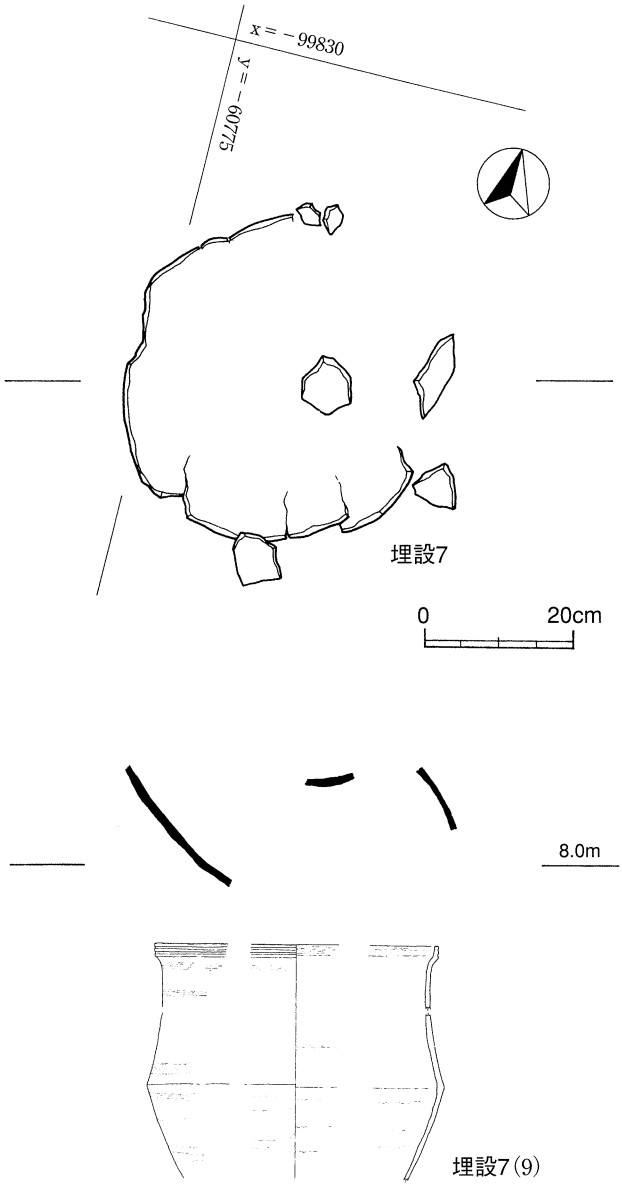
埋設土器11（SJ40．61）：C-16区から検出されたものであり，Ⅲ層の途中で肩部付近を確認することができた。肩部付近はかなりバラバラになっていたが，胴部下位はしっかりしていた。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

肩部と思われる破片もあったのであるが，接合は胴下半部までしかできなかった。復元底径は7.6cmを測り，上げ底をなす。そのまま大きく開く胴下半部となる。底部穿孔が行われていたかどうかは接合がうまくいかなかったので不明である。上加世田式土器の新しい段階から入佐式土器の古い段階に含まれると考えられる。

埋設土器12（SJ４．63・372）：B-17区の表土を剥いだ時点で，深鉢形土器の頸部立ち上がり部分が検出された。深鉢内には浅鉢が口縁部を下にして出土したことから，これを蓋として利用していたことが窺える。掘り込みラインを確認することはできなかった。深鉢はほぼ正位に置かれている。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

下部の土器（63）は，胴部最大径で緩く「く」の字状に屈曲して，内傾する頸部へ至る。胴下半部は丸みを帯びながらすぼまる底部へ至る。底部は上げ底状をなす。器面調整に貝殻条痕はみられない。このような特徴から，上加世田式土器の新しい段階から入佐式土器の古い段階に含まれると考えられる。なお底部には故意による打ち欠きはみられない。深鉢外の検出面下10cmのところに落ちていた口縁部は接合するかどうか確認していないが，この口縁部は少なくとも４条の沈線が施されるものである。

蓋として使われた浅鉢形土器（372）は復元口径39cmを測るものであり，底部付近は欠損している。ややストレートに外開きする体部から肩部で内側に屈曲する。外側には明確な稜が入るのであるが，内側は緩く湾曲させてある。１cmにも満たない短い肩部から「く」の字状に屈曲させて口縁部をつくる。口縁端部にはもう一段粘土紐をやや内側に重ねることによって，口唇部をつくり出している。したがって，内側のみ凹線状になっている。肩部径と口径はほぼ等しい。



第107図　埋設土器検出状況(5)
埋設土器7(SJ33)

埋設土器13（SJ５．64・373）：B－17区の表土を剥いだ時点で，深鉢の胴部最大径付近が検出された。底から10cmほど上位の深鉢内にも土器片が落ち込んでいる。掘り込みラインを確認することはできなかった。深鉢はほぼ正位に置かれている。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

下部の深鉢形土器（64）の底径は8.8cmを測り，ストレートに外開きしながら胴部下半へ至る。胴部最大径の部分がわずかに残っており，「く」の字状に屈曲するものと考えられる。器面調整はミガキ様のナデであり，貝殻条痕はみられない。底部の穿孔や打ち欠きもなかった。上加世田式土器の新しい段階から入佐式土器の古い段階の範疇に含まれると考えられる。

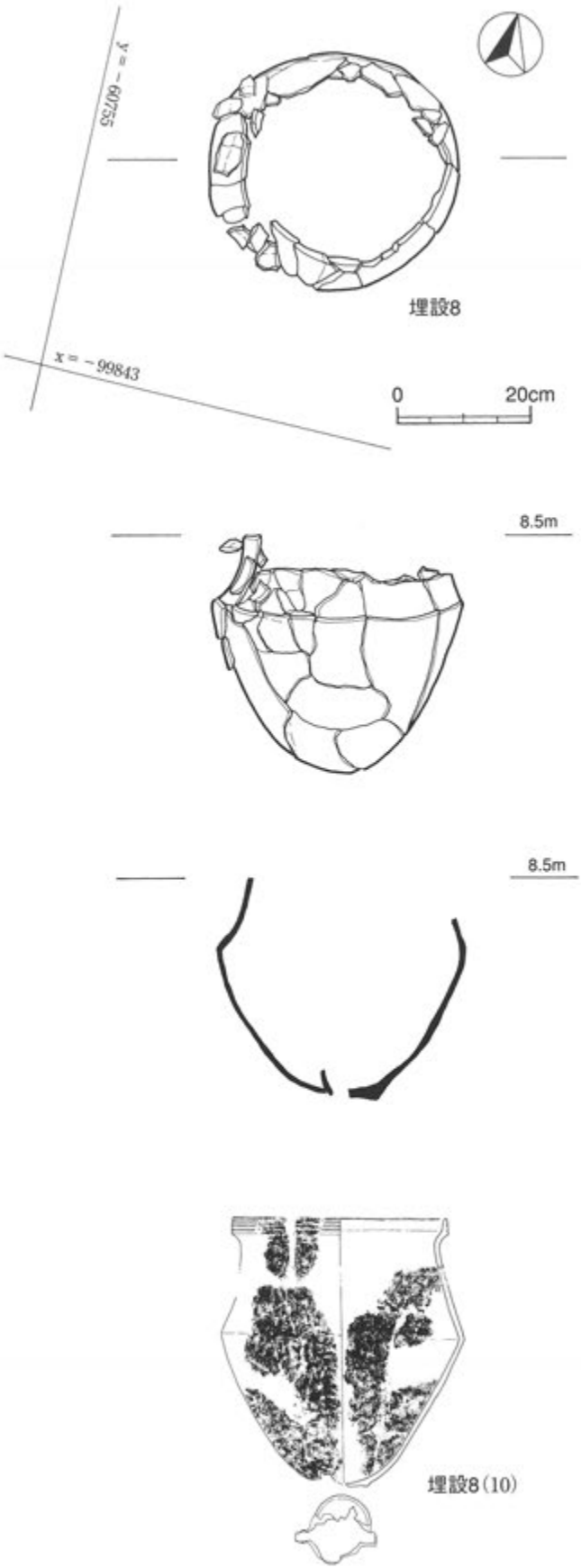
上蓋の浅鉢形土器（373）は，わずかに内湾して開く体部から「く」の字状に屈曲し，外反しながら立ち上がる15mmほどの肩部をもつ。口縁部付近では，大きく外反させて，直立する口唇部へ至る。口唇部は欠けているため形状は不明である。器面調整は内外面ともミガキによるものである。深鉢形土器とセットになることから，上加世田式土器の新しい段階から入佐式土器の古い段階の範疇に含まれると考えられる。

埋設土器14（SJ31．65）：C－16区の表土を剥いだ時点で，口縁部は既に削平され，頸部以下が検出された。底部中央には円形の孔が故意に開けられている。土器は非常に良好な状態で出土したが，掘り込み面は確認できなかった。ほぼ正位に埋められていた。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

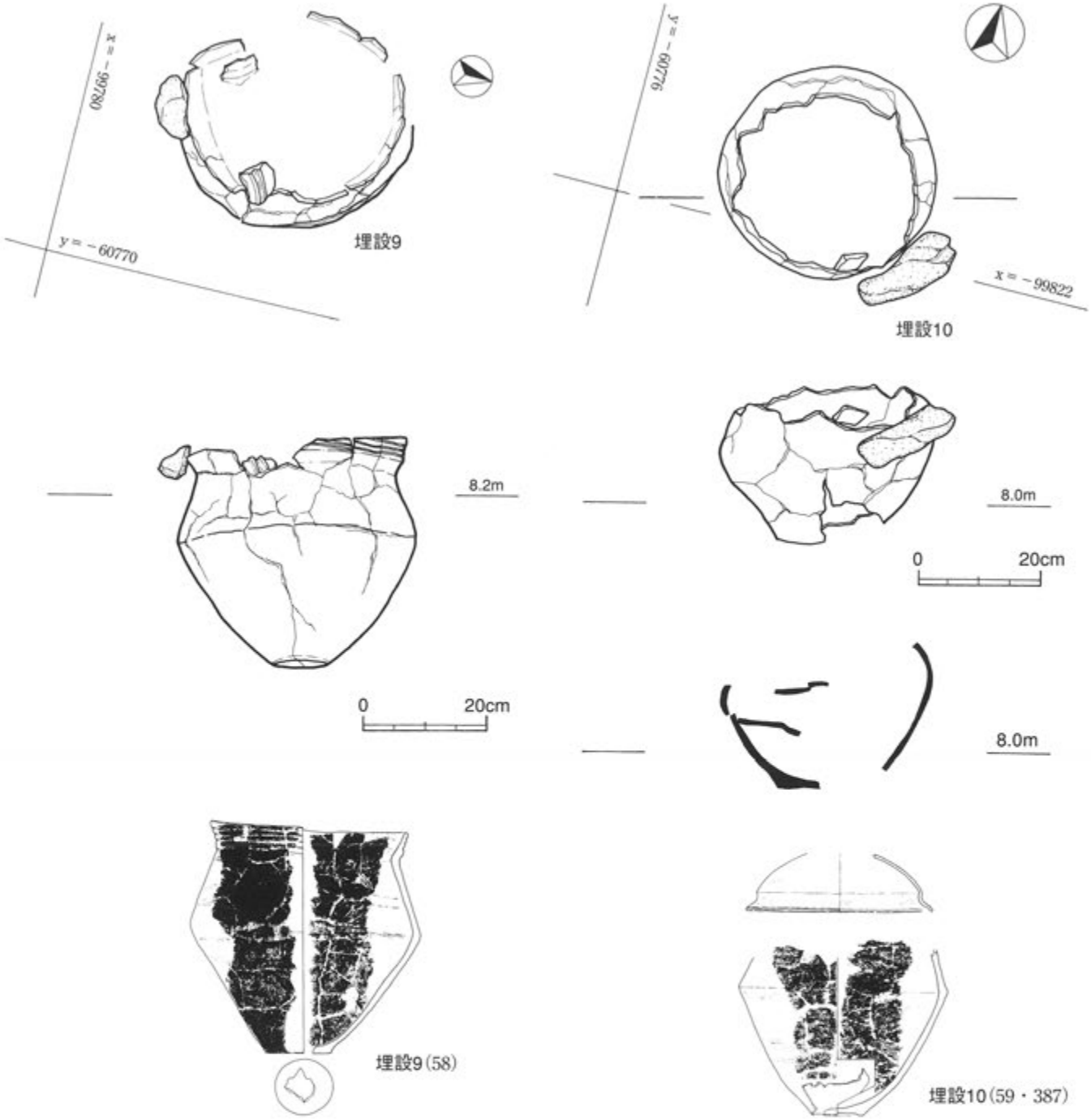
大型の深鉢形土器であり，頸部は外側にやや反りながら内傾して立ち上がる。胴部最大径で「く」の字状に屈曲し，それ以下は丸みを帯びて底部へ至る。底部の直径は10cmで，底面はやや盛り上がっており，安定が悪い。底部の形はすぼまっており，厚さは胴部と同様である。器面調整は条痕によるものである。以上の特徴から入佐式土器の古い段階の範疇に該当すると考えられる。

埋設土器15（SJ12．62）：C－16区の表土を剥いだ時点で，底部付近が検出された。深鉢はほぼ正位に置かれている。掘り込みラインは確認することができなかった。内部のリン分析を行ったが外部との差は明瞭でなかった。

胴下半部と底部の接合する箇所がなく，図上での復元によるものである。底径は8cmで，浅い上げ底となる。接地面からわずか3mmほど立ち上がって，大きく内湾しながら開く胴下半部となる。器壁は比較的薄く，外面の器面調整は貝殻条痕によるものである。底部の形態は古い様相を残していながら，器面調整に新しい要素が加わる。入佐式土器の古い段階であると考えられる。



第108図　埋設土器検出状況（6）
埋設土器8（SJ6）



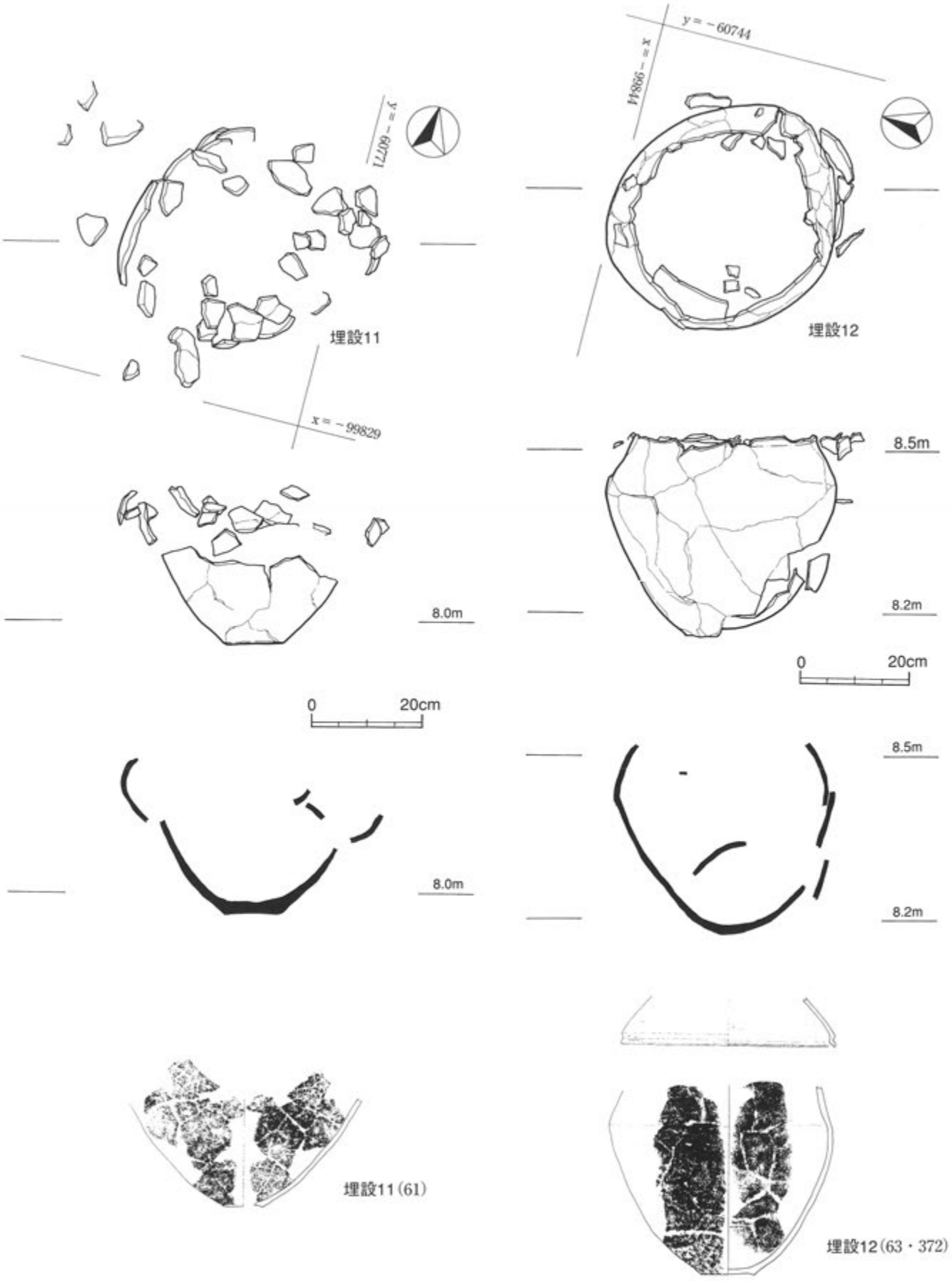
第109図　埋設土器検出状況(7)　埋設土器9(SJ80)・10(SJ39)

埋設土器16（SJ９．66）：B−18区の表土を剥いだ時点で，底部付近が検出された。掘り込みラインは確認できなかった。ほぼ正位に置かれている。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

底径10cmの平底で，外開き気味に立ち上がる。胴下半部は内湾するものである。入佐式土器の古い段階のものであると考えられる。

埋設土器17（SJ３．67）：B−16区の表土を剥いだ時点で，深鉢の胴部下半が検出された。掘り込みラインは確認することはできなかった。ほぼ正位に置かれている。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

底径11.6cmを測り，1.3cmほど垂直に立ち上がる底部から，内湾する胴下半部へ至る。底面はほぼ平である。底面中央に直径3.5cmほどの孔を故意に開け



第110図　埋設土器検出状況(8)　埋設土器11(SJ40)・12(SJ4)

てある。上加世田式土器の新しい段階から入佐式土器の古い段階に位置付けられると考える。

埋設土器18（SJ７．68）：B-17区の表土を剥いだ時点で，深鉢の胴下半部が検出された。底部から大きく開く器形であり，胴部上半部で一端屈曲する深鉢である可能性が高い。掘り込み面を確認することはできなかった。底部付近外側に円礫が一個置かれており，深鉢を正位に保つためだった可能性もある。リン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

内湾しながら大きく開く胴部下半である。底部は直径8.5cmを測り，そのまま外開きする。底面はわずかに上げ底となる。底面の中央部は故意に孔が開けられている。器壁は比較的薄く，器面調整も粗い。色調もやや赤っぽい土器であることから，上加世田式土器の中でも新しい段階から入佐式土器の古い段階であると考えられる。

埋設土器19（SJ78）：検出した時点で，全体の形はわからず，判断に迷ったが，土器が集中する地点が通常の所ではみられないことから埋設土器として扱った。復元を試みたのであるが，つながる部分が少なく，特徴を見出せなかったので図化できなかった。埋設土器として設定できるかどうかわからないけれども，調査時点での所感を伝えるために取り上げた。時期についても不明であるが，出土地点を考えて想定した。礫が集中している地点と隣接し，何らかの関係が窺えるが，明らかでない。

埋設土器20（SJ41．69）：D-22区から検出されたものであり，Ⅱ層下面で口縁部が削平された状態で見つかった。内部には他の土器片などは入っていなかった。ほぼ正位に置かれている。掘り込みラインなどは確認できなかった。底部の一部を打ち欠いている。

胴部最大径で緩く屈曲しながら内湾し，わずかに反る頸部へ至る。胴下半部はやや丸みを帯びながらもストレートに底部へ至る。底部はわずかに立ち上がっており，底面は平である。以上のような形状から，入佐式土器の古い段階であると考えられる。

埋設土器21（SJ130．113）：B-21区のⅢ層を数cm掘り下げた地点で検出された。埋設土器36（SJ126）・35（SJ128）よりは２ｍほど南側にある。ほぼ正位置に埋設されている。底部付近は確認することができなかった。また，掘り方は確認することができなかった。

胴部最大径と口径はほぼ同じであり，32.2cmを測る。胴部と肩部との境は不明瞭であり，緩く内湾していくだけである。頸部と口縁部の境は「く」の字状に屈曲し，外開きの口縁部が段をもって付く。口縁部文様帯には，凹線が少なくとも6条巡るが，凹線間の間隔に規則性はみられない。内面の器面調整は貝殻条痕であり，外面はミガキによるものである。入佐式土器の古い様相と新しい様相を兼ねている土器である。

埋設土器22（SJ30．70）：B-18区の表土を剥いだ時点で，底部付近が検出された。残りの状態は悪い。上部は後世の削平によるものであるが，下部については当初から欠けて無かったものと考えられる。胴下半部が内湾しながら開くタイプであり，器壁も厚い。器面調整はミガキによるものである点から，上加世田式土器の新しい段階から入佐式土器の古い段階の範囲におさまると考えられる。

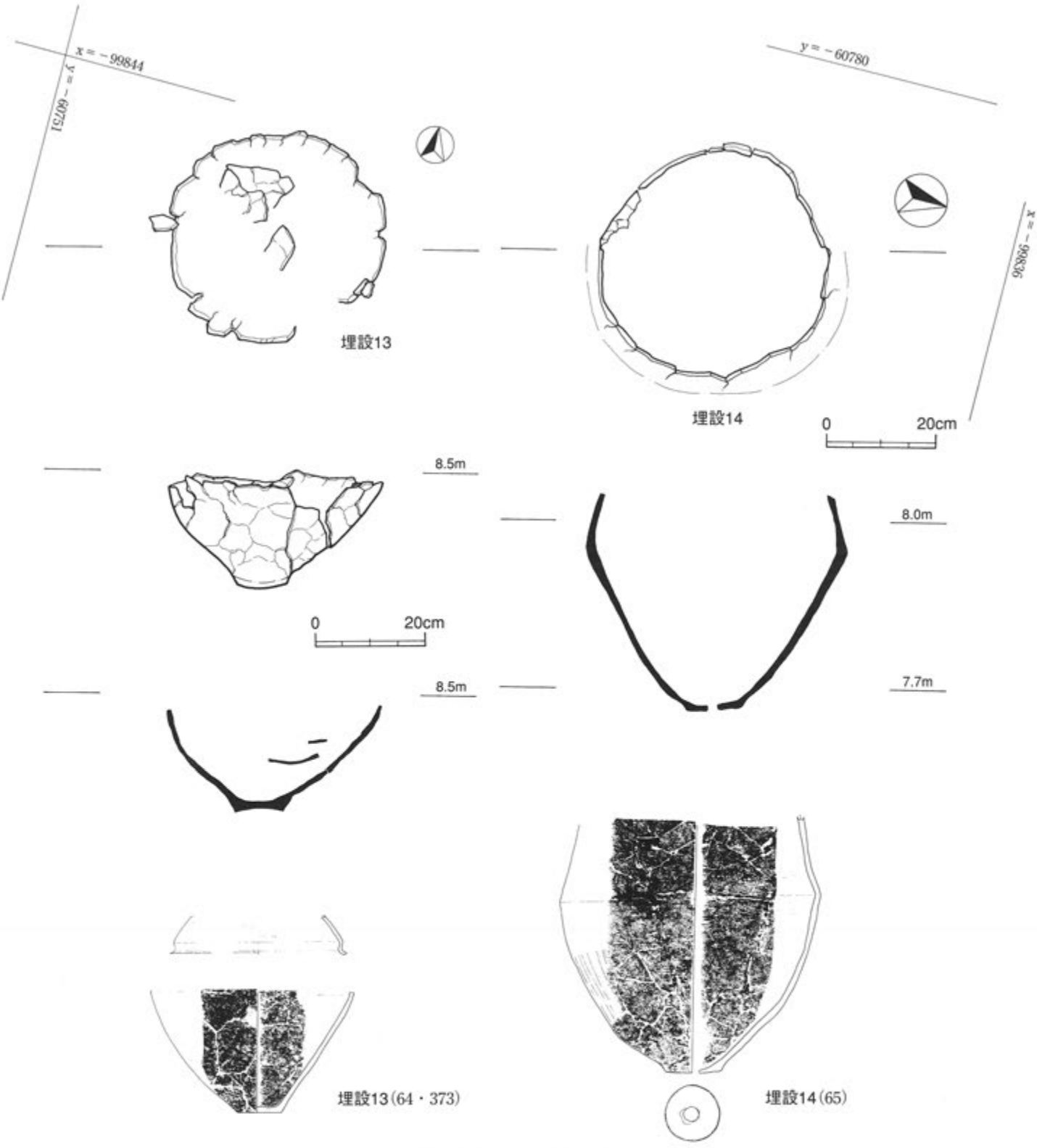
埋設土器23（SJ49．401）：C-23区のⅢ層上面で検出した。検出した時点で南側半分は無く，半截しても以下には何も存在しなかった。平安時代以降の南北方向に延びる溝状遺構の痕跡と重なる部分にあり，その時点で壊された可能性もある。浅鉢形土器が口縁部を下にして出土したものであり，下部施設を確認することができなかったことから，厳密にいえば埋設土器に含まれないのかもしれない。しかし，検出時にほぼ水平な状態で出土した点と，埋設土器３（SJ79）のように下部施設が土器以外の有機質素材を利用した例もあることから，埋設土器の可能性があるものとして挙げたことを断っておきたい。

底部は削平されて欠損しており，全形を知ることはできないが，丸みをもって大きく開く体部から内側に屈曲し，直ちに大きく外反して口縁部に至る。口縁端部に粘土紐を１段重ねることによって外傾する口唇部をもつ。内面は接合部をナデ消しているが，外面は凹線を巡らしている。

埋設土器24（SJ42）：D-23区のⅢ層中で底部付近が検出された。土器は４cm程度を残すのみで，底部付近は存在しなかった。おそらく底部全体を抜いてから，埋設したものと考えられる。上部の方は，後世の削平のためどれくらいまで存在したか不明である。土器の復元を試みたが，接合しなかったので図示していない。土器はほぼ正位に置かれていた。掘り込みライン等は確認することができなかった。

埋設土器25（SJ50）：C-23区のⅢ層上面で，底部付近を検出した。半截したところ底部自体はみられなかった。底部内面には，炭化物状の物質があった。ほぼ正位に埋設されている。掘り込みラインは確認できなかった。

実物については，整理作業の段階で行方不明となり，図・写真とも提示することができず，深く反省している。

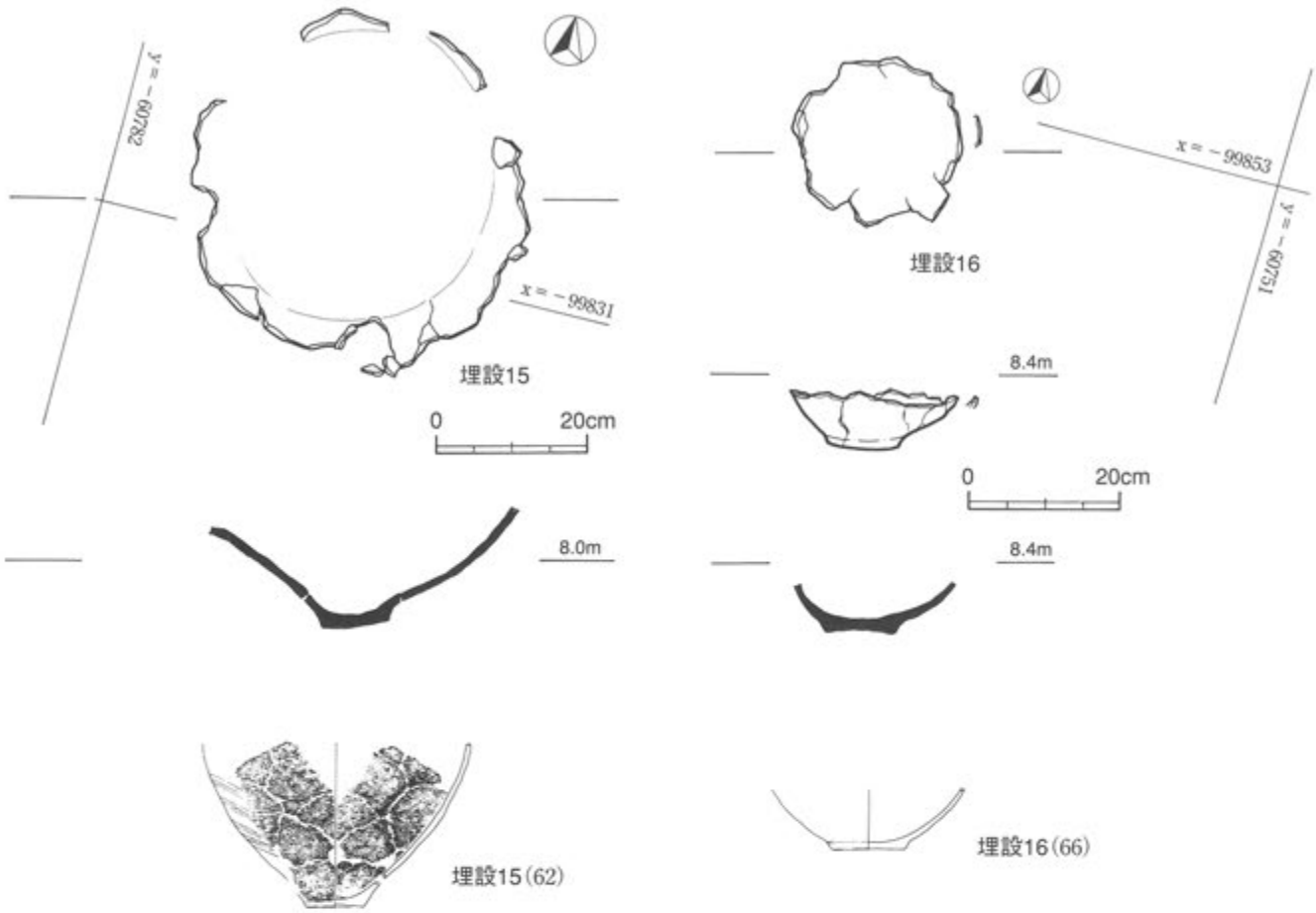


第111図　埋設土器検出状況(9)　埋設土器13(SJ5)・14(SJ31)

埋設土器26（SJ10）：C-20区の表土を剥いだ時点で胴部下半部が検出された。掘り込みラインは確認できなかった。ほぼ正位に置かれている。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。接合・復元を試みたが，残りの状態が非常に悪く，図化できなかった。

埋設土器27（SJ175．163）：B-25区を重機によって最終確認している時点で検出した埋設土器である。気づいたときには既に胴部下半まで重機で削平されていた。掘り込みラインは確認できなかった。ほぼ正位に据えられている。

口径43.9cm，器高52.3cmを測る大型の深鉢形土器である。胴部最大径は口径よりはわずかに大きく，浅い「く」の字状に内側へ屈曲する。頸部はほぼストレートに内傾し，口縁部との境で外側へ屈曲する。口縁部は低い段で区別し，緩く内湾しながら外開き



第112図　埋設土器検出状況(10)　埋設土器15(SJ12)・16(SJ9)

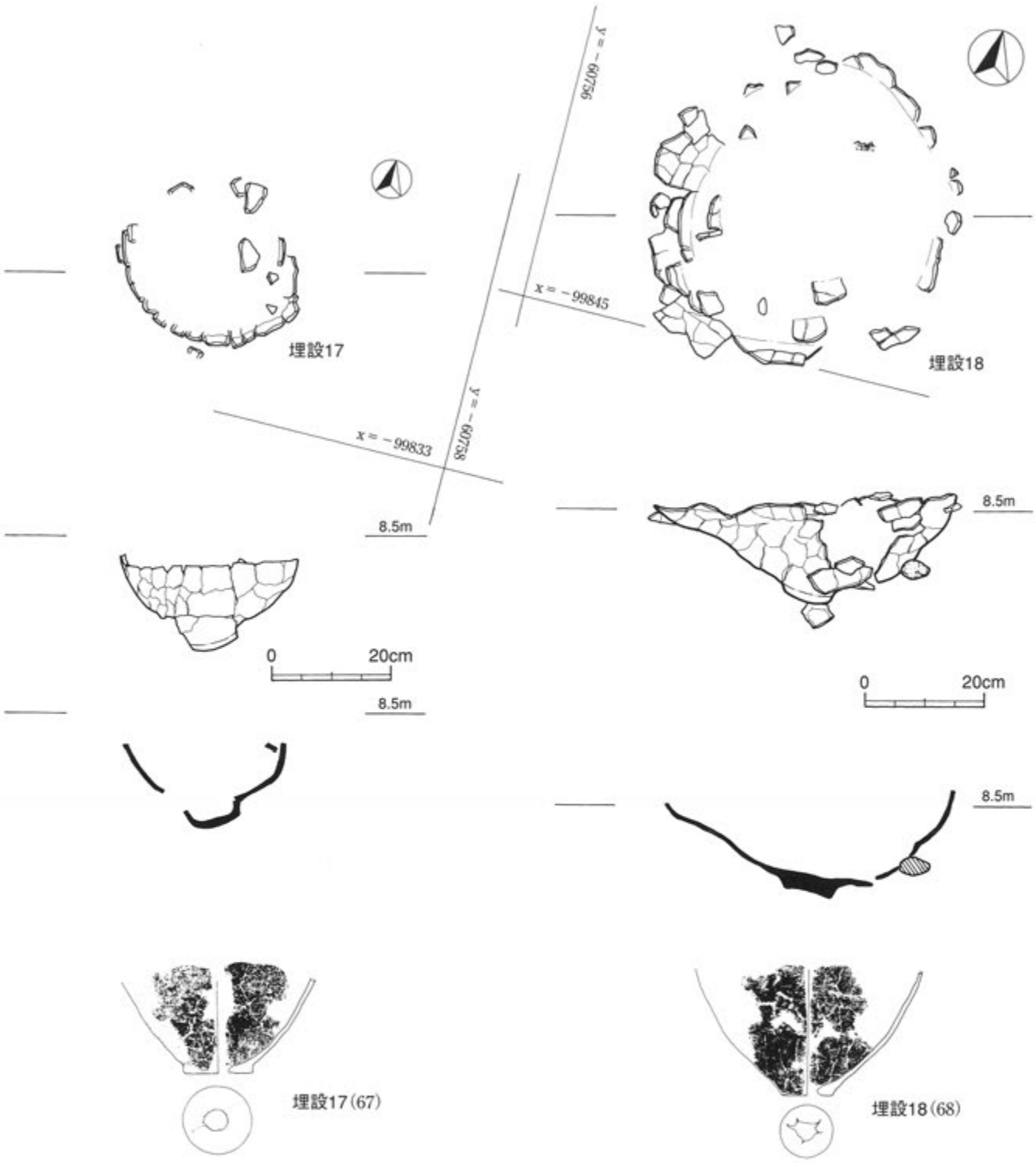
となる。口唇端部はやや先細りさせながら丸くおさめる。胴部下半はやや内湾気味に底部へ至る。底部径は12cmで円盤状を呈する。外面の器面調整は貝殻条痕によるものであり，特に口縁部は沈線を意識したように横方向に密に施している。以上のような特徴から，入佐式土器でも新しい段階に位置付けられると考える。底部の打ち欠きはみられなかった。底部内面付近には炭化した物質が付着していた。リン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

埋設土器28（SJ46．164・188）：D-21区のⅢ層を10cmほど掘り下げた位置で検出した。底部が上を向いているのが特徴である。発掘調査時点では，「覆甕」と呼ばれているものと同一であると思っていた。ちょうど逆位に据えられており，底部が落ち込んでいることから，当時は空洞に近い状態であったと考えられる。土器の数cm下には人頭大の礫があるが，土器と関係があるかどうかは明らかでない。整理作業の時点で下部の土器の存在に気づいた。

底部を上にして被せられていた深鉢形土器（188）は，胴部下半部までしかなく，全体の器形は不明である。胴部下半は緩く内湾しながら底部へ至り，底部は張り出しをもつものである。底径は12cmであり，底部の高さが１cmと低いことから，張り出しは弱く見える。底面は平であり，器面調整に貝殻条痕はみられない。以上の特徴から，口縁部の状況ははっきりしないが，入佐式土器であると考えられる。

下部の土器（164）は，底径10cmを測る。上げ底をなしており，そのまま大きく内湾する胴下半部へ至る。器形としては古い様相を残しているけれども，外面の器面調整は粗い貝殻条痕によるものである。上部の土器と同じ入佐式土器と考えられる。

埋設土器29（見入来SJ５．174）：B-４区のⅢ層で検出された。北側３分の１及び口縁部は，後世の削平により残っていなかった。ほぼ正位に埋設されており，底部は残っていなかったので故意に打ち欠いたものと考えられる。蓋はみられず，内部の頸部付近には円礫が落ち込んでいることから，木蓋の上に円礫が置かれ，土器内部に土が流入した時点で礫が落ち込んだと考え



第113図　埋設土器検出状況(11)　埋設土器17(SJ3)・18(SJ7)

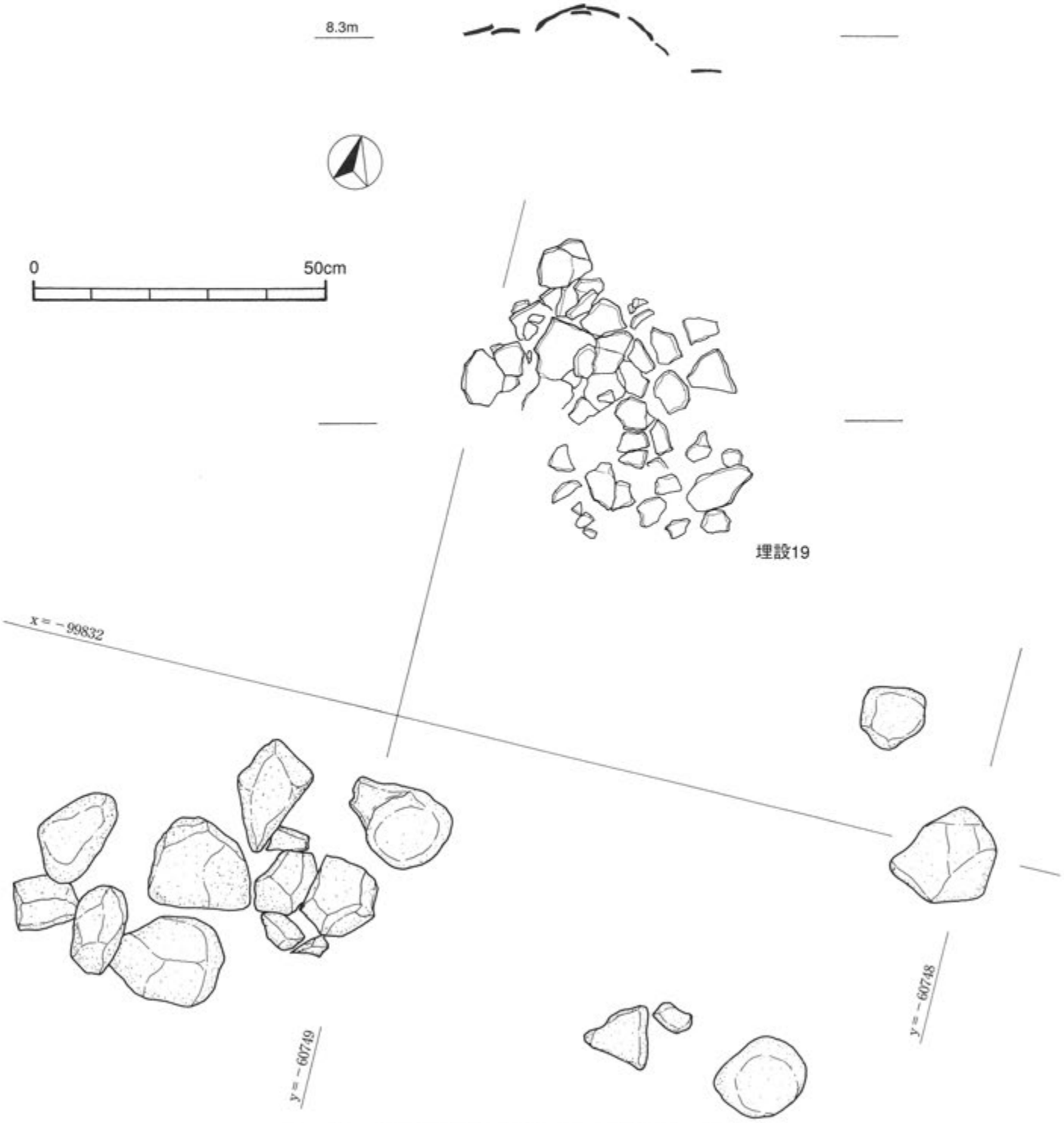
られる。口縁部及び底部付近が欠けているので，全形を知ることはできないが，やや高い位置に胴部最大径がくる器形であると考えられる。胴部下半はほぼストレートに外開きするもので，最大径部分で内側に「く」の字状に屈曲し，その上は外反しながら内傾する。器壁はやや厚く，胎土に金色の雲母を含む。器面調整はミガキによるものである。胴部最大径部分から上がどれくらいの長さになるのか不明であるが，屈曲の度合いと器面調整から入佐式土器に入ると考えられる。

本資料は今回の発掘調査で最初に検出された埋設土器であり，処理の仕方に不備な点があったので記しておく。一つは，器面がもろかったのでバインダー処理を行ったが，現地で検出された状態のままバインダーを筆で塗り込んでいくと，表面が乾いてしまい，それ

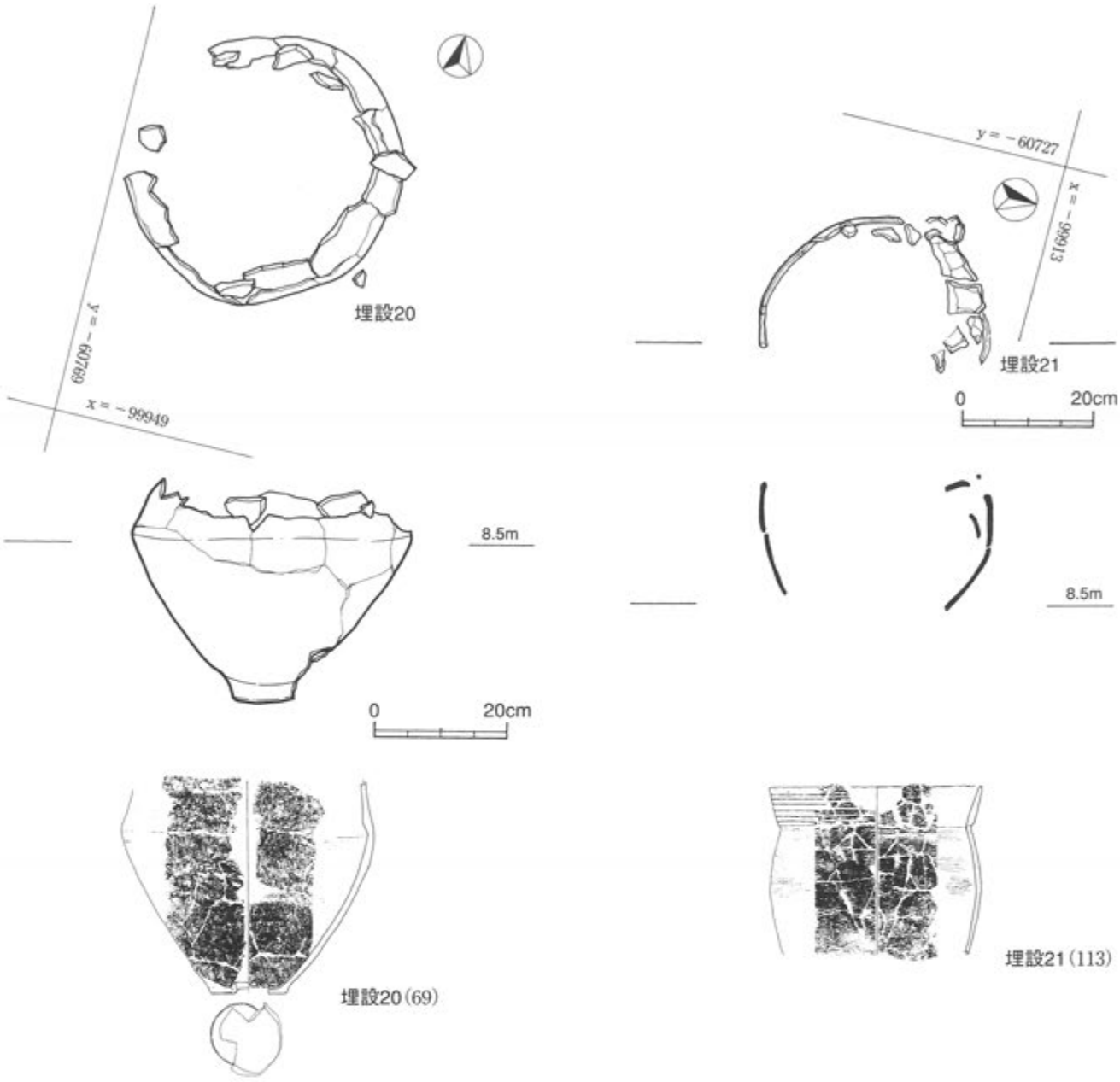
以上バインダーが内部にしみ込んでいかなくなった。この失敗を教訓に，次からは取り上げた後，水洗いして充分乾燥させた上で，２倍に薄めたバインダー17溶液に一昼夜浸すことによってうまくいった。もう一つは，半截したままの状態でシート等を被せておいたのであるが，雨水が半截したトレンチの中に溜ってしまい，埋設土器が崩れてしまった。これを教訓に次からは，土器の状態を確かめた上で，胴部を支える土の柱を２，３本残して半截した。したがって，半截した状況の写真は使えるものが少ない。

埋設土器30（見入来SJ84．173）：D－２・３区のⅢ層で検出された。頸部から上は後世の削平により残存していなかった。ほぼ正位に埋められている。掘り込みラインは確認できなかった。底部は残っていなかったことから，故意に打ち欠いたものと考えられる。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

口縁部及び底部は欠損しており，全形を復元することはできなかった。おそらく底部付近は当初から故意に抜かれていたと考えられるが，接合作業が困難であったので，確実にどの部分まで打ち欠いていたのか不



第114図　埋設土器検出状況(12)　埋設土器19(SJ78)

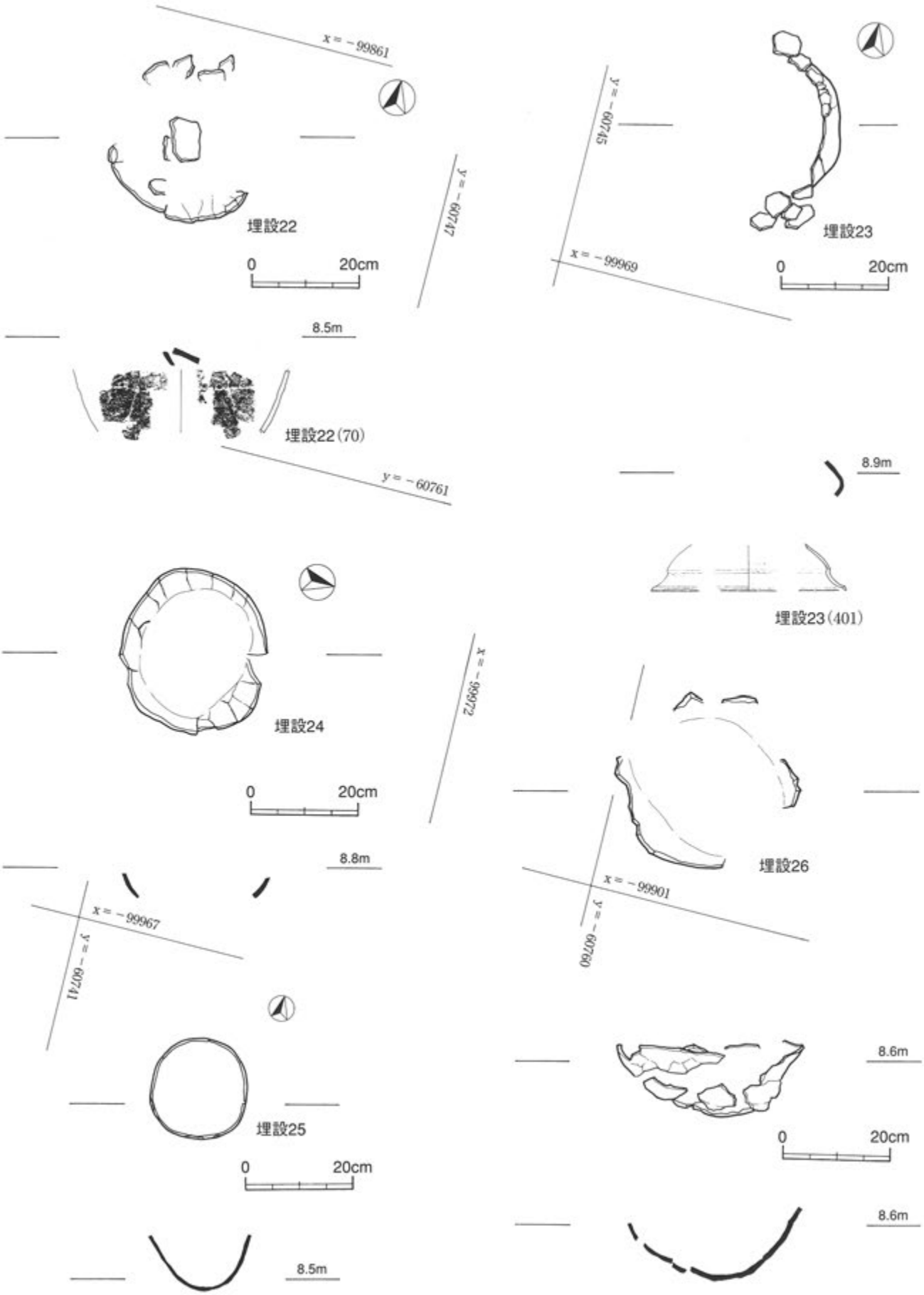


第115図　埋設土器検出状況(13)　埋設土器20(SJ41)・21(SJ130)

明である。胴部下半はストレートに外傾し，かなり高い位置で内側に屈曲して胴部最大径に至る。胴部最大径から口縁下部にかけてはやや外反気味となり，長さは短い。器面は摩耗しているため，調整は不明である。残存している部分が限られていて確実なことは言えないが，胴部最大径より上半の端部がさらに強く外反する様相をみせることから，これが口縁部との境となれば，この部分は短いことになり，黒川式土器に近いこととなる。しかし屈曲の度合い等から，入佐式土器の範疇に含まれると考えられる。

埋設土器31（SJ131．189・190）：B−21区のⅢ層を精査した時点で検出された。埋設土器が集中して出てきた埋設土器37（SJ125）・36（SJ126）・35（SJ128）から3mほど南に位置する。内部に土器が入り込んでおり，一回り小さな深鉢形土器（189）が倒立していた。胴部下半部以下は存在せず，埋設された当初から無かったのか後世の削平によるものかは不明である。もし底部が存在した状態で蓋として使用していたら，当時は表面上にはみ出していたのではないかとも思われる。掘り方は確認できなかった。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

上蓋となる土器（189）は口径26.6cmを測り，丸く内湾する肩部をもつ。肩部から口縁部境までは短く，明瞭な段をもって口縁部へ至る。口縁部は長めに外反しながら開き，口唇部を丸くおさめる。口縁端部の3か所



第116図　埋設土器検出状況(14)　埋設土器22(SJ30)・23(SJ49)・24(SJ42)・25(SJ50)・26(SJ10)

を内側に押し出している。その下の頸部にはリボン状の突起を貼り付けてある。以上のような特徴から，黒川式土器であると考えられる。

下部の深鉢形土器（190）はほぼ正位置に埋設されており，口縁部から底部まで残っている。口径30.5cm，底径8.4cm，器高34.3cmを測る。底部は脚台状に開き，口縁部も幅広く外開きするタイプである。肩部は丸いナデ肩で，頸部までが短い。頸部と口縁部には段の痕跡が全く無く，器面調整は貝殻条痕である。それらの特徴から，上甕となったリボン付きの土器と同じく黒川式土器と考えられる。

埋設土器32（SJ11．194）：D-20区の表土を剥いだ時点で，口縁部上端が検出された。口縁部は大きく開き，文様はみられない。底部は脚台状をなし，北側の一部が４分の１ほど欠けている。復元では全部石膏を入れてしまったが，日常の道具から非日常化するために，故意に打ち欠いたものと考えられる。半截した断面をみると，底部と胴部がずれている様子が観察できる。見た目では，胴部のほうが元の状態を保っているようにみえる。深鉢内部の土と外側の土に違いは認められず，掘り込みラインを確認することができなかった。深鉢はほぼ正位に置かれている。今回検出された埋設土器の中で最も残りの良い土器であったが，蓋は認められなかった。木蓋等の腐ってしまう蓋の使用が考えられる。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

口径43.5cm，底径10cm，器高40cmを測る。脚台状の底部からほぼストレートにのびる胴部である。肩部から頸部にかけては短く，口縁部の段もみられないことから，黒川式土器の特徴をもつものである。

埋設土器33（SJ47．187）：C-20区のⅢ層を数cm掘り下げた位置から口縁部を検出した。ほぼ正位に置かれている。掘り込みラインは確認できなかった。

口径46cm，底径12cm，復元器高43cmを測る。肩部は丸く内湾し，頸部までは短い。わずかに段をもって外傾する口縁部に至る。胴下半部はほぼ直線的に底部へ向かう。底部と胴下半部は直接接合しなかったので，図上で復元してある。底部は外に張り出すタイプであるが，器壁は厚くない。器面調整は貝殻条痕によるものである。黒川式土器であるが，口縁部に段を残している点と，底部の厚みが薄い点は，古い様相を示す。

埋設土器34（SJ51．193）：C-23区のⅢ層上面で，底部付近を検出した。残存状況が悪く，北西側の一部は欠けている。内部には浮いた状態で緑色の石材を用いた石斧（1433）が出土した。半截しても底部の残りは良くなかったが，ほぼ正位に埋設されている。

直径11cmの張り出しのある底部から，大きく開く胴部へ至る。底部と胴部が直接つながる場所がなかったので，図上での復元となるが，最大径の部分で内側に「く」の字状に屈曲する。肩部はやや外反気味に内傾している。器面調整は粗い貝殻条痕による。底面には木の実と考えられる圧痕がある。全体の器形からすれば古い様相をもっているけれど，上述の様な内容から黒川式土器に含まれると考えられる。

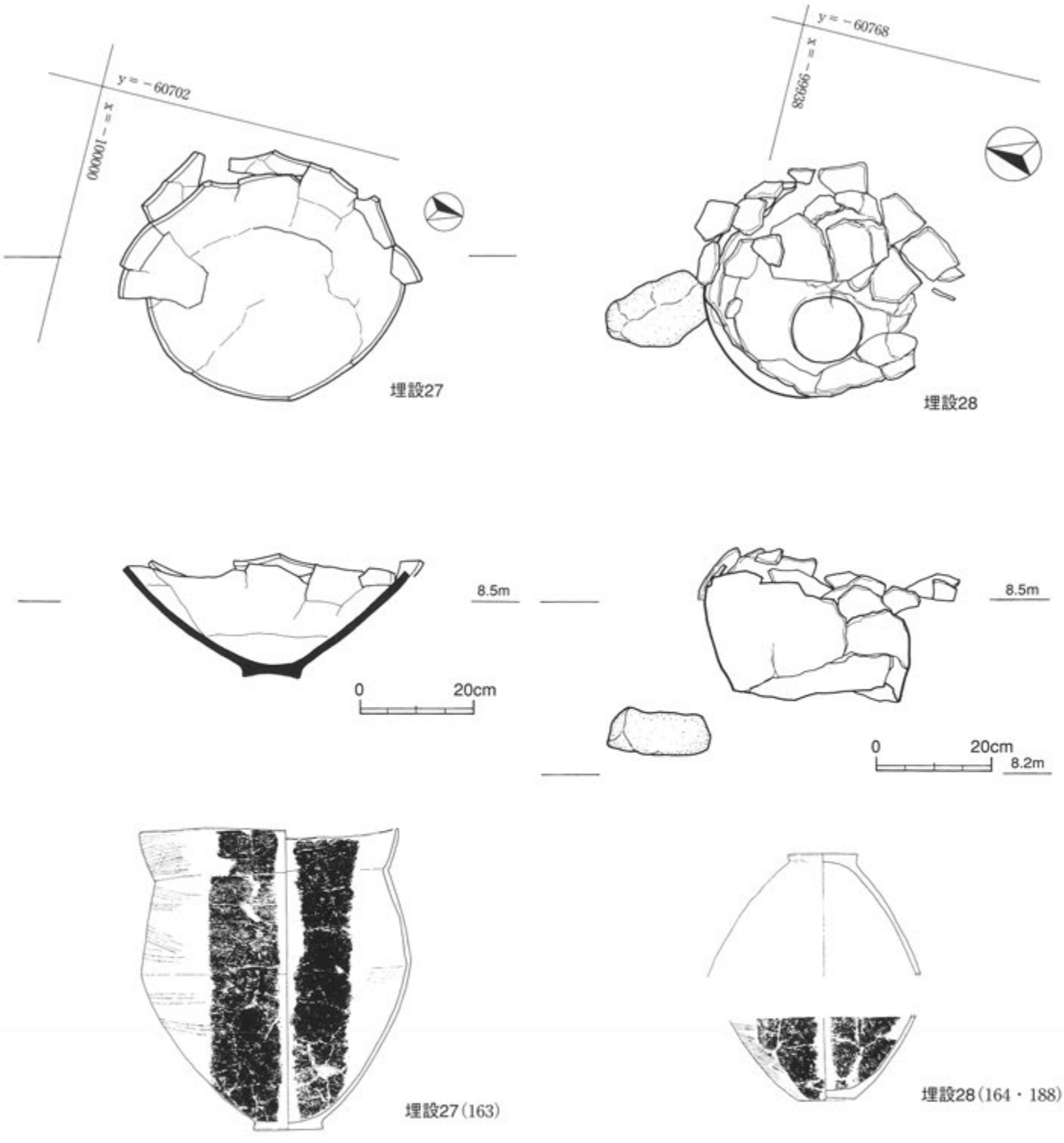
埋設土器35（SJ128．166）：埋設土器36（SJ126）に接して検出された。ほぼ正位置に埋設されている。掘り方は確認できなかった。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。埋設土器36の口縁部よりも数cmほど下位で円形に巡ることがわかった。胴部下半の途中から下は，接合が困難であり，どこまで続いていたか不明であるが，明らかに底部はみられなかったので，故意に抜いたものを使用したと考えられる。

肩部はやや稜を残しながら，丸みを帯びて屈曲する。肩部から口縁部境まではやや内湾しながら長めに内傾する。口縁部との境ははっきりしないが，内側にはわずかな稜を残し，やや内湾しながら口縁部は立ち上がる。器面調整は横方向のナデによるものである。屈曲部分に稜が残る点や口縁部が開かずに内湾気味に立ち上がる点は，入佐式に近い特徴であるが，肩部をもつということから，黒川式土器に該当すると考える。

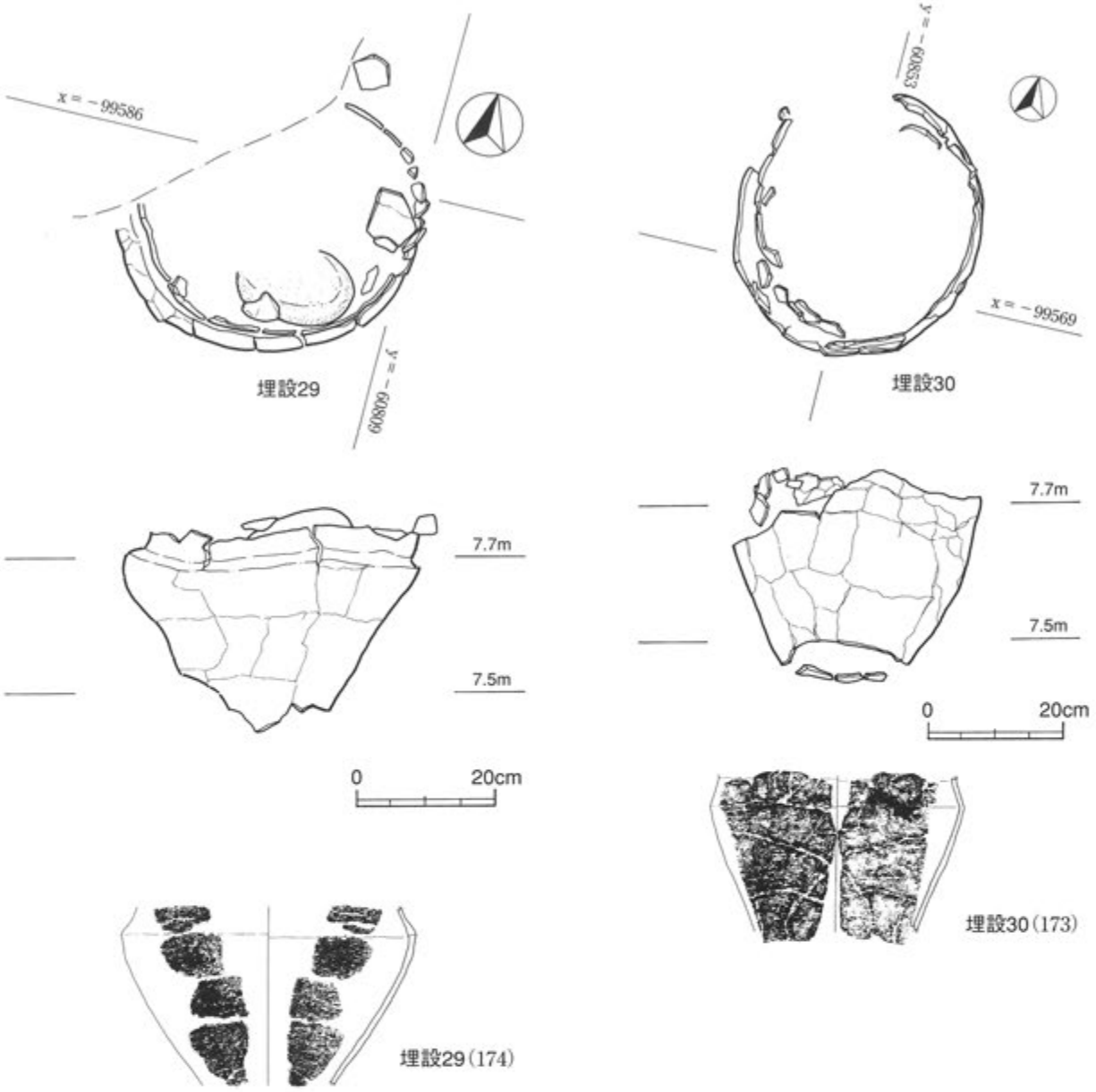
埋設土器36（SJ126．191）：埋設土器37（SJ125）に接して検出された。表土層を剥いだ時点で確認できたので，埋設土器37よりもわずかに高い位置にある。同時に存在したのか，あるいは時期差があるのかは不明である。ほぼ正位置に埋設され，底部まで残っている。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

口径36cm，底径９cm，器高33cmの深鉢形土器である。肩部は少し張りがあり，口縁部境までの長さは短い。口縁部との境は屈曲するものの，内面に稜は残さない。また，段も残さずほぼストレートに立ち上がる長めの口縁部である。胴部はストレートに底部へ向かい，底部は張り出しのある脚台状になるタイプである。器面調整は貝殻条痕によるものである。以上のような特徴から黒川式土器と考えられる。

埋設土器37（SJ125．192）：B-21区のⅢ層を数cm掘り込んだ面で検出された。頸部から上位は残りの状態が悪く，胴部下半以下は存在しない。内部の下部には炭化物がみられる。ほぼ正位置に埋設されてい



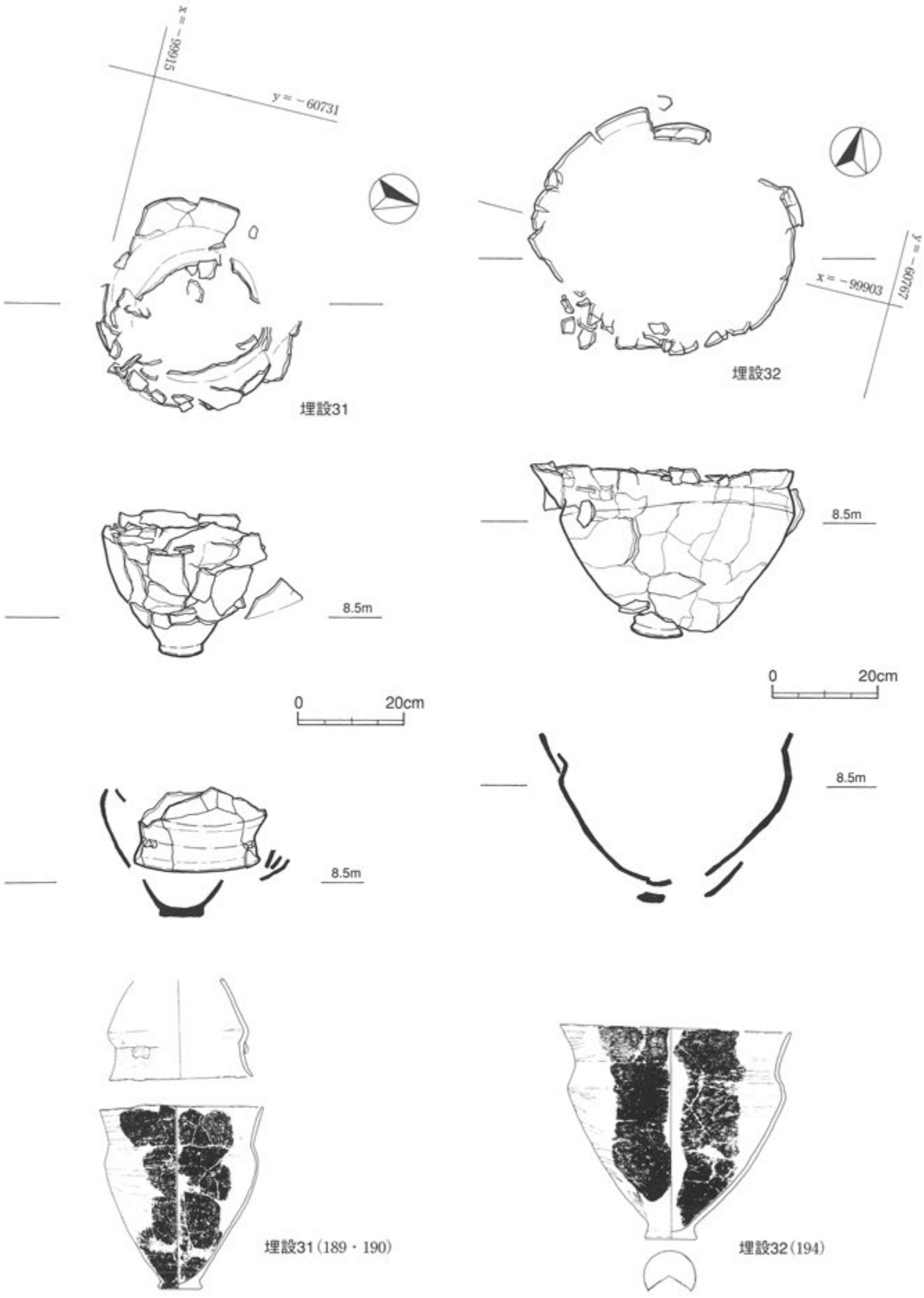
第117図　埋設土器検出状況(15)　埋設土器27(SJ175)・28(SJ46)



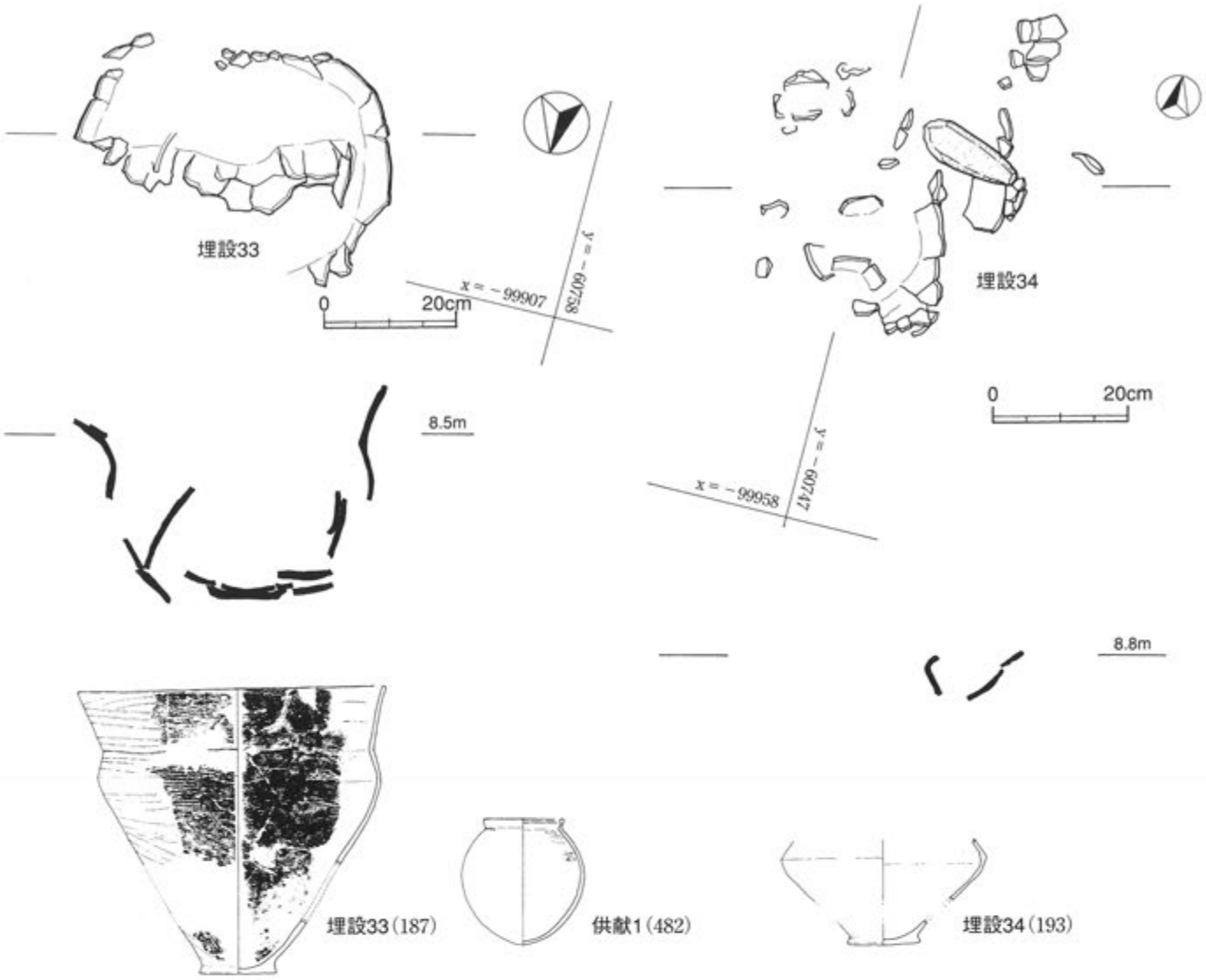
第118図　埋設土器検出状況(16)　埋設土器29(見SJ5)・30(見SJ84)

る。掘り方は確認できなかった。胴下半部から底部にかけては打ち欠かれていた。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

口径は42cmを測り，肩部径よりも広い。緩く内湾する肩部をもち，頸部までは短い。口縁部境は段をもたず，外反気味に開き，口唇部は先細りとなる。器面調整は貝殻条痕によりものであり，口縁部は横方向を意識しており，沈線の名残と考えられる。器壁は薄い。以上の特徴から黒川式土器と判断される。



第119図　埋設土器検出状況(17)　埋設土器31(SJ131)・32(SJ11)



第120図　埋設土器検出状況(18)　埋設土器33(SJ47)・34(SJ51)・供献土器1(SJ48)

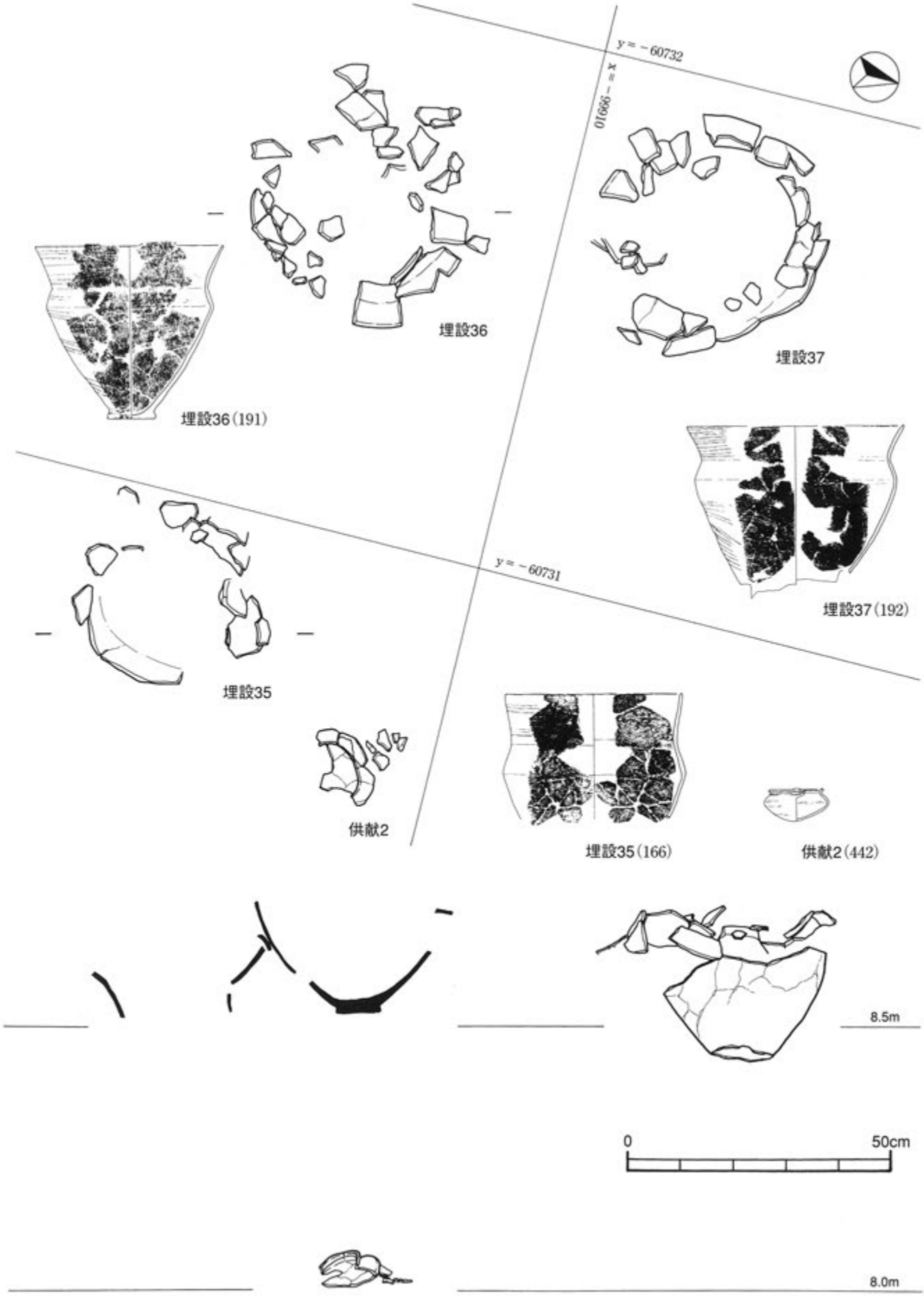
（2）供献土器

供献土器１（SJ48．482）：C-20区のⅢ層を数cm掘り下げた位置から出土した。発掘調査時点では埋設土器と考えていたが，埋設土器33（SJ47）の副葬品とも考えられるので，供献土器とした。重機によって最終確認を行っている際に出土したため，出土状況の実測図はない。

鶏卵を立てたような器形をしており，口縁部のみ外側へ短く屈曲させている。さらに粘土紐を１段重ねることによって丸くおさめた口唇部をつくる。内面には１条の凹線が巡らされた様にみえる。黒川式土器に伴うものと考えられる。

供献土器２（SJP129．442）：埋設土器36（SJ126）・35（SJ128）の東側１mほどの地点から検出された小型の土器である。埋設土器36の底部よりも50cmほど深い所から出土している。斜位の状態で出土したが，本来は正位置にあったのかもしれない。内部のリン分析を行ったが，外部との差は明瞭でなかった。

口径10.4cm，器高6.2cmを測る。最大径は胴部にあり，丸く内湾して口縁部に至る。粘土紐を２段重ねることによって口縁部をつくり，内外面とも１条の凹線を巡らしたようにみえる。口唇部は丸くおさめてあり，少なくとも１か所は口唇全体を肥厚させて，突起をつくり出している。胴部下半は尖り気味の丸底を呈する。器面調整は内外面ともにミガキによるものである。このような特徴から，黒川式土器に該当すると考える。埋設土器36もしくは埋設土器35のどちらに供献されたかは不明である。



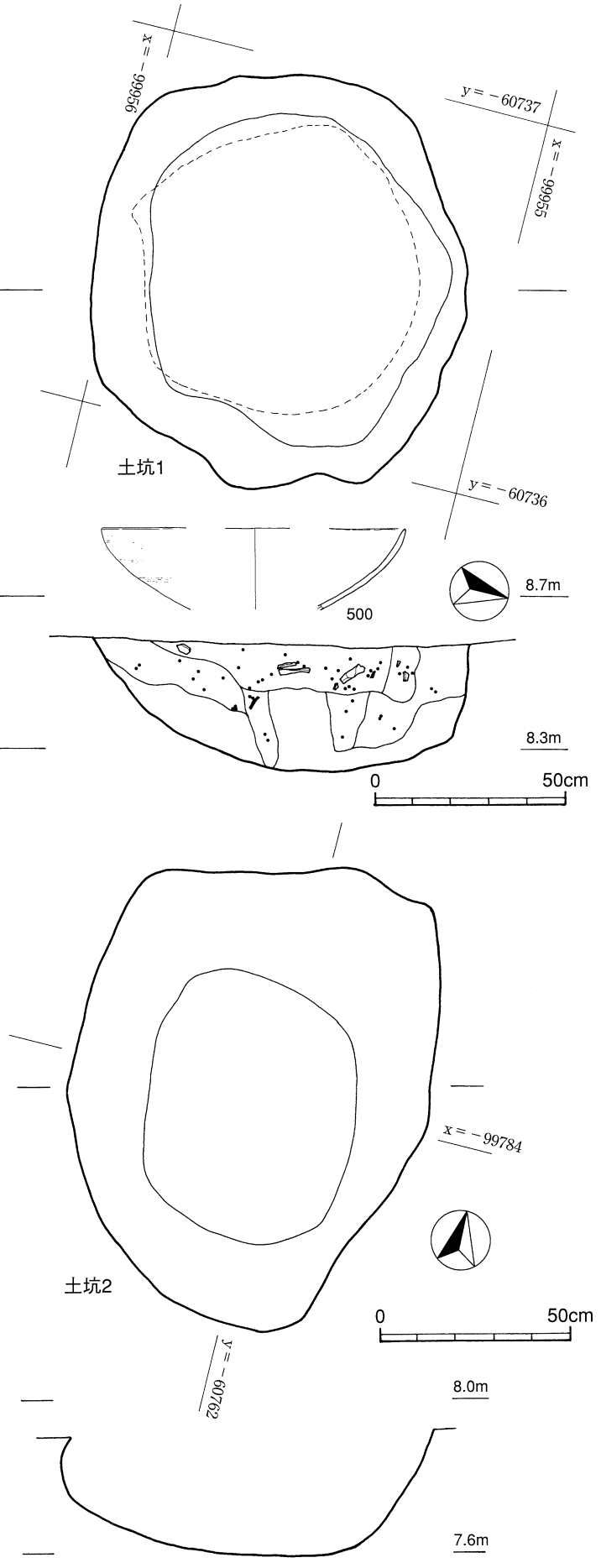
第121図　埋設土器検出状況(19)　埋設土器35(SJ128)・36(SJ126)・37(SJ125)・供献土器2(SJP129)

（３）土坑

土坑１（SK71）：C-23区のⅣ層上面で検出されたものであり，直径98.3cmのほぼ円形をなす。埋土内には，破砕した土器片とドングリの種子と考えられる炭化物が多く混在していた。炭化種子は埋土上位に多く，土器片もこの部分に集中している。土器片は複数の浅鉢，深鉢が存在し，貯蔵穴内を覆っていたというような様相はみられなかった。平面図の破線で描いた部分が炭化物の範囲であり，断面図の黒点が炭化物である。基盤となるⅣ層と埋土との識別は難しく，炭化物が出土する部分までを埋土としてとらえるにとどまった。検出面からの深さは35cmである。炭化種子は粘土質の層に付いてしまって崩れるものが多かったが，サンプル程度には確認することができた。したがって，炭化物の全体量は不明である。土坑内の炭化種子の同定を行った結果，258点のすべてがイチイガシであることがわかった。また，この炭化物による放射性炭素年代測定の結果，2800±60年BP（紀元前930年）という測定値が得られている。最近のAMS法による土器に付着した煤の年代測定結果よりも若干新しい年代値ではあるが，浅鉢形土器（500）や深鉢形土器底部の形状から，黒川式土器期に該当するものと考えられる。

土坑１から出土したドングリは分析の結果，すべてイチイガシであることが判明した。しかも果皮を残すことなく，子葉のままの状態である。肉眼による観察では，子葉の表面には縦方向に細い筋が残っている。名久井文明氏は，この細い筋が乾燥による収縮の皺であるとして，民俗事例をもとにドングリを乾燥させて保存し，食べる時に搗いて調理した「搗栗（かちぐり）」と同様のものであるとしている。全国の縄文時代草創期から平安時代にわたる遺跡出土のクリ及びドングリ類を実見するとともに，民俗事例も精力的に調査し，非常に説得力のある見解である。ただし，名久井氏本人も述べている様に，民俗事例では食べる直前に果皮を剥く点と，果皮を剥いた状態で土中に保存する例がみられない点は，遺跡での検出例と差異がある。これらの点については今後の課題であるが，民俗事例を知っている方々が高齢化しているので，早急な行動が必要となる。縄文時代の生活風景を復元するには，名久井氏が指摘する様に，「縄紋時代の文化とよく共通する民俗例に関しては，それが古くから受け継がれてきた結果として現代に残っていると考えた方がよいということである。ことは物質文化にとどまらないであろう。」(p.21．右ℓ.43～ℓ.46)という点を基にして，民俗資料と考古資料のつき合わせをやっていかなければならないと考える。

名久井文明　「乾燥堅果類備蓄の歴史的展開」『日本考古学』第17号　2004．5　日本考古学協会



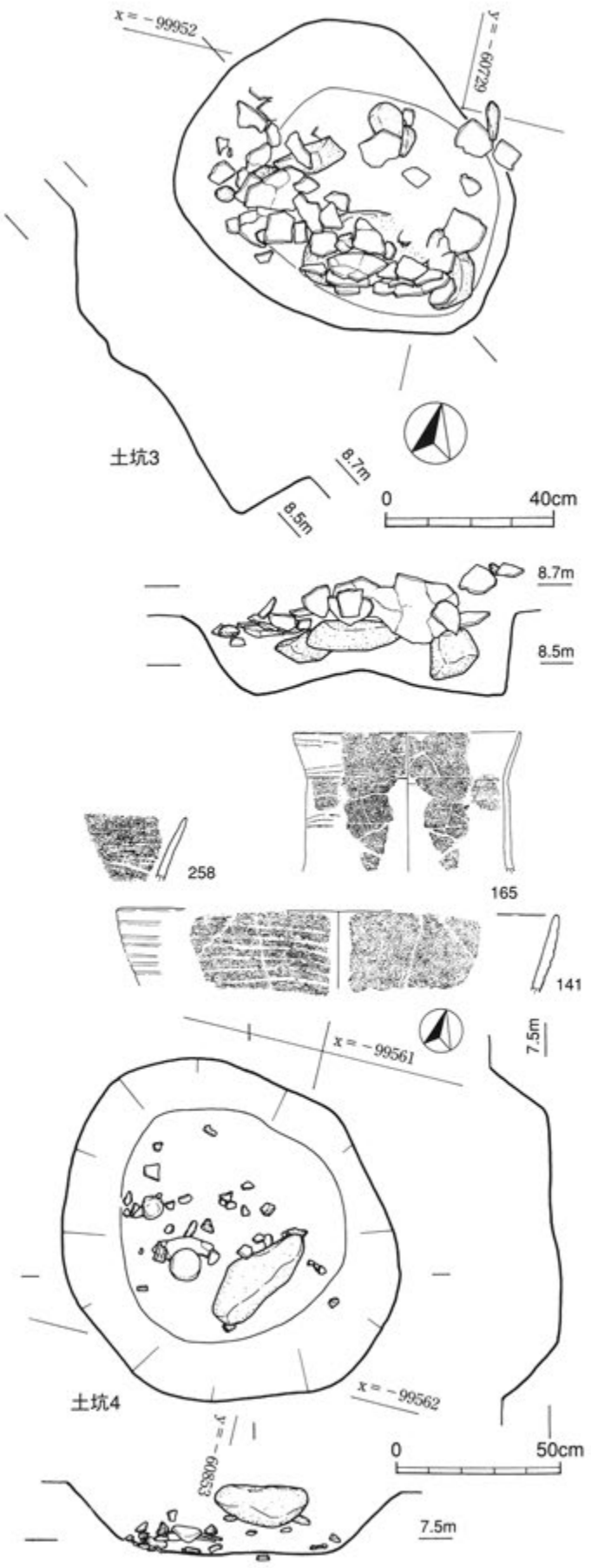
第122図　土坑検出状況(1)　土坑1(SK71)・2(SK118)

土坑２（SK118）：B－14区のⅢ層を念押しのため深く掘り下げた時点で検出された。長径122.5cm×短径95cmの楕円形をなし，検出面からの深さは32.5cmを測る。埋土は淡い茶褐色粘質土であり，炭化粒をわずかに含むことで周辺の土と区別できる。埋土からは縄文時代後期末の土器片が出土した。土坑の性格としては不明である。

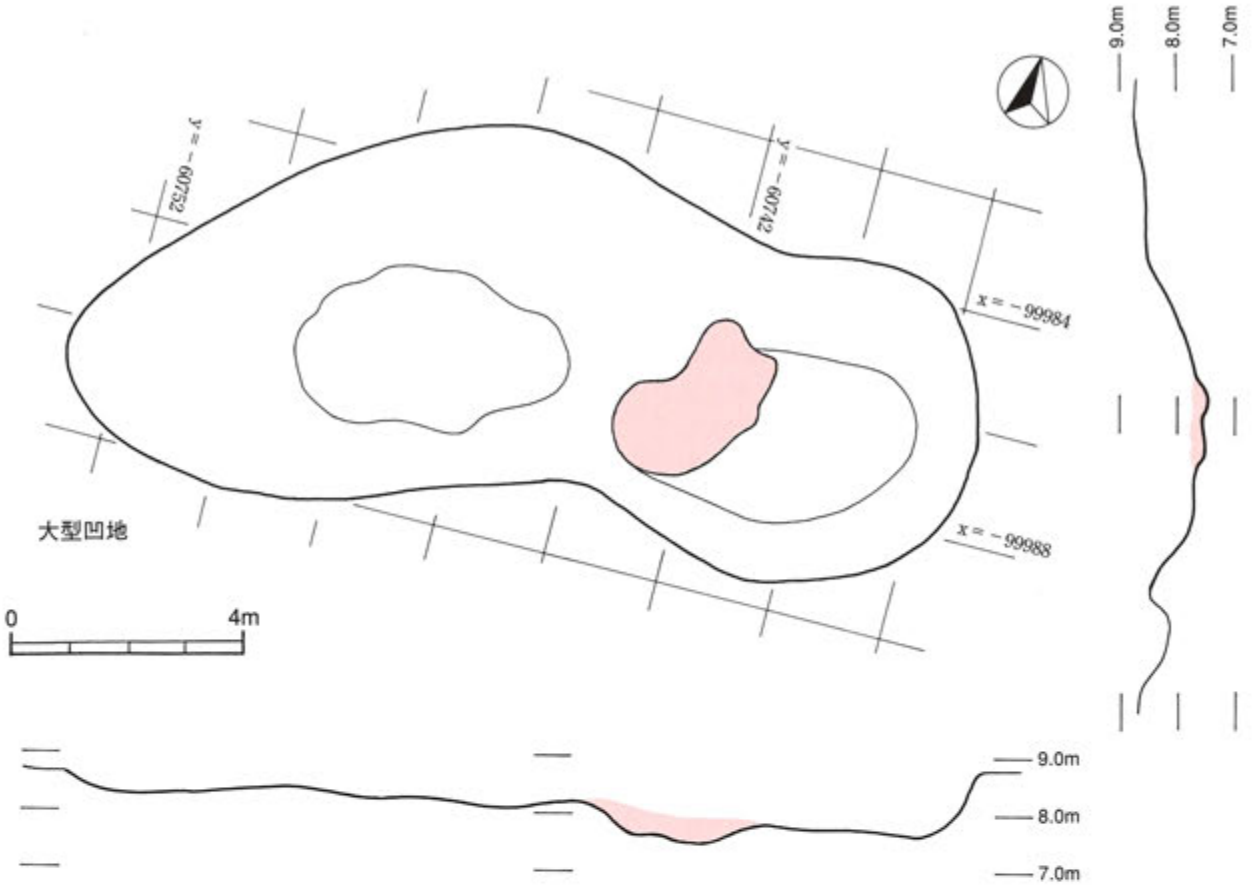
土坑３（SK169）：B－23区のⅢ層を数cm掘り下げた時点で，土器が集中して出土したことから検出された。長径105cm×短径89cm，深さ24cmを測る楕円形の土坑である。埋土はⅢ層とほぼ同様であり，わずかに炭化物を含む。土坑の掘り方は確実なものではなく，土器あるいは炭化物の出るところでとめた。それほど周辺の土層との区別が困難であった。土坑の中位に小児頭大の礫が２個あり，その上に破砕した土器片が多量に出土した。小児頭大の礫の他にも数点の礫が検出されたことから，重しとして使用されたと想定される。土器については，土坑の廃棄後に捨てられたものと考える。出土した土器は，長い肩部からわずかに外傾する口縁部をもつものであり，口縁部の段を辛うじてもっている。ほとんど摩耗しているためはっきりはみえないが，器面調整は貝殻条痕によるものである。入佐式土器の新段階に該当すると考えられ，縄文時代晩期初頭の重しを伴う土坑であると考えられる。

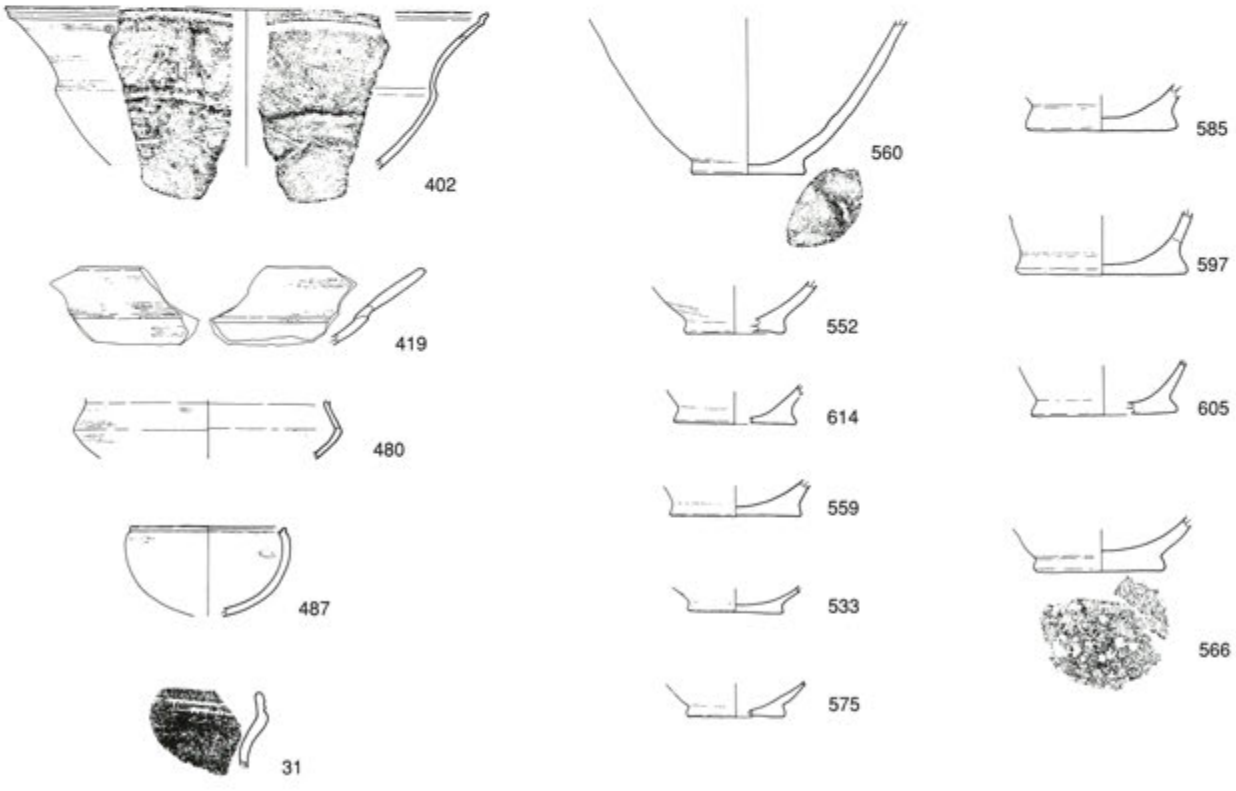
土坑４（見入来SK１）：C－２区のⅢ層で検出された。埋土は黄灰褐色弱粘質土である。ベースとしてはⅢ層と同様の土であり，炭化物を多く含む。焼土粒も含まれる。確実な掘り方ラインはみえないが，炭化物や遺物の有無で判断した。層としての焼土や床面が焼けている様子がみられなかったことから，長期的な火の使用は考えられない。ここでの短期的な火の使用，もしくは他の場所から焼却土を移したのではなかろうか。大きな礫があるものの，この下で土器片等が出土することから，この状態で使用された重しとは考えられない。土器の破片や石材等が雑多に出土することから，一次的な使用は不明であるが，二次的には廃棄穴になったと考えられる。実測できる遺物はなかったものの，土器片の特徴から縄文時代晩期と判断した。

土坑５（SK138）：B－21区のⅢ層を数cm掘り下げた時点で検出された。周辺はやや砂質を帯びてきたが，この部分だけ粘質があり土器片や炭化粒が混じっていた。50cm程度の円形である。縄文土器は小さな破片が多く，接合できるものはほとんどなかった。浅鉢形土器の形式から，黒川式土器の時期に該当すると考えられる。略図しかなく，正確な位置と数値は不明である。



第123図　土坑検出状況(2)　土坑3(SK169)・4(見SK1)





第124図　大型凹地検出状況（SX60）

（４）大型凹地

大型凹地（SX60）：Ｃ・Ｄ-24区で確認された遺構であり，掘り込みラインは全くみえなかったが，多量の土器や焼土塊が出土する範囲を遺構と判断した。注記の際，勘違いして「Ｂ-24　SX」と記入している遺物についても，この遺構内の出土である。埋土はⅢ層と全く同じである。土器は上部に多く，下部には10cm～20cm大の焼土塊が多く出土した（写真図版７）。また，玉類も７点出土した。土器や焼土塊は原位置を保っているとは考えられず，周辺から投棄されたような状態である。遺物の範囲から，長径15.8ｍ×短径5.8m，深さ1.15ｍの楕円形をした凹地に復元できる。埋土内出土の土器の特徴から，入佐式土器の時期に該当すると考えられる。加世田市上加世田遺跡や大分県大石遺構で検出されている大型の円形土坑との類似性が考えられる。

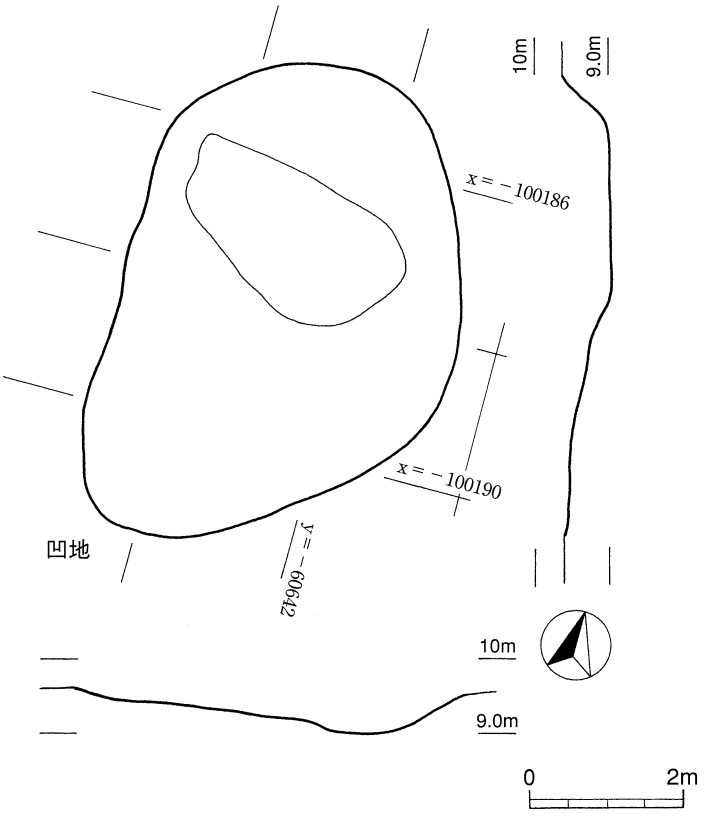
（５）凹地

凹地（SF193）：Ａ-35区のⅢ層を掘り下げている段階で検出された焼土である。焼土自体で形作ることはなく，廃棄されたような状態であると考えられる。焼土塊は８cm程度の大きさである。縄文土器も出土し，その範囲は直径４ｍ程度の擂鉢状になる。Ｂ-24区で検出された大型凹地（SX60）よりも小ぶりで，遺物の出土量も少ないが，同様な様相を示している。埋土はほとんどⅢ層と同じであり，底面も壁面も分離することができず，遺構の形状については，遺物の出土範囲によらなければならなかった。断面図のラインは直接現地で実測したのではなく，遺物の出土状況から推定したラインである。内部から炭化物が出土したので，樹種同定をした結果，コナラ属アカガシ亜属であることがわかった。出土土器で図示したものはないが，縄文時代後期末～晩期にかけての遺構である。遺構の性格については今後の課題としたい。

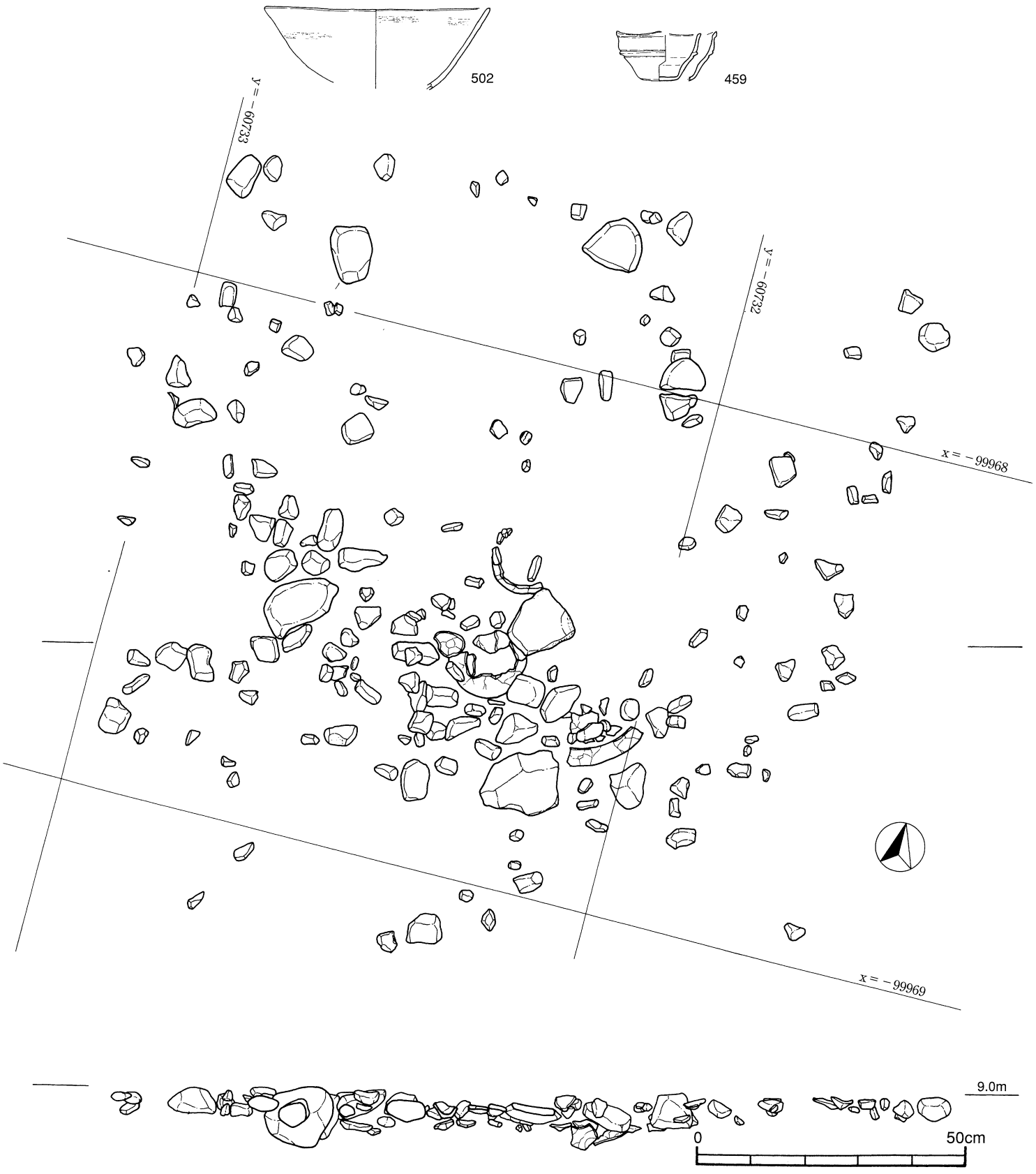
（６）不明遺構

不明遺構１（SX67）：Ｃ-23区のⅢ層面で検出された遺構で，直径150cmの円形状に円礫が配置され，その中央に縄文時代晩期土器が数個体押しつぶされた状態で出土した（写真図版６）。円礫は人頭大から拳大まで様々である。土器は浅鉢や赤く塗られた小型の埦状の土器（459）であり，一般的な場所と異なっている。何らかの呪術的な行為の場であったと考える。時期は小型浅鉢形土器や組織痕土器が多い区域であることから，黒川式土器新段階であると考えられる。

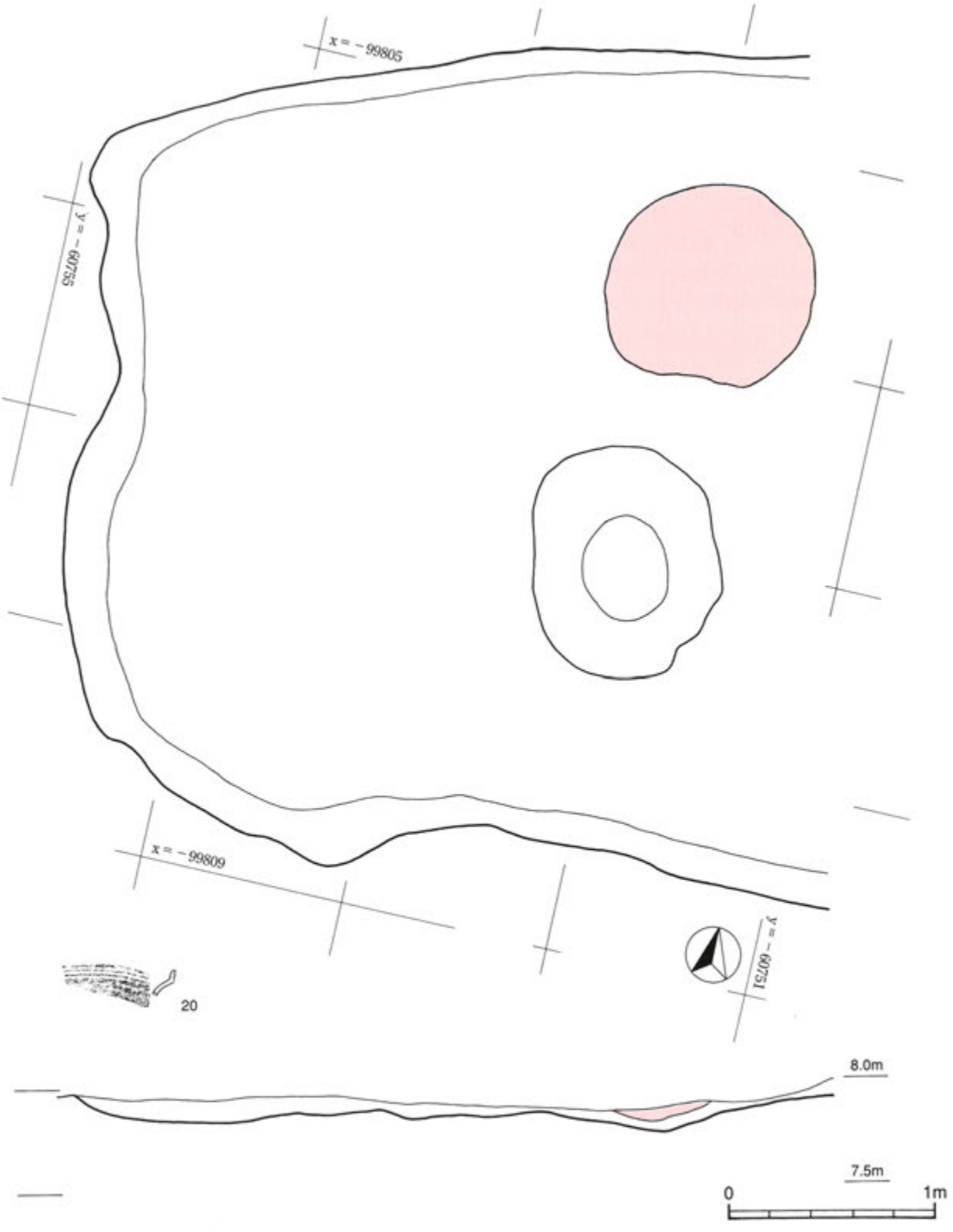
不明遺構２（SF117）：Ｂ-15区のⅣ層を念押しのため深く掘り下げた時点で検出した。南北幅400cmの略方形で，深さは24.2cmを測る。中央南寄りには直径92.8cmの浅い窪みがあり，その北側に焼土がある。焼土部分は直径100cm，深さ７cmの凹レンズ状をなす。その周辺には茶褐色の粘質土が深さ５cm程度で堆積している。炭化粒や土器片などを含んでいる。この土は東側の調査対象範囲外にも続くようである。規模や形状としては住居跡の可能性もあるが，柱穴を確認することができず，住居跡とする積極的な根拠はみられない。深鉢形土器及び浅鉢形土器ともに上加世田式土器が出土したことから，縄文時代後期終末に位置付けられると考える。



第125図　凹地検出状況（SF193）



第126図　不明遺構検出状況(1)　不明遺構1(SX67)



第127図　不明遺構検出状況(2)　不明遺構2(SF117)

（7）焼土

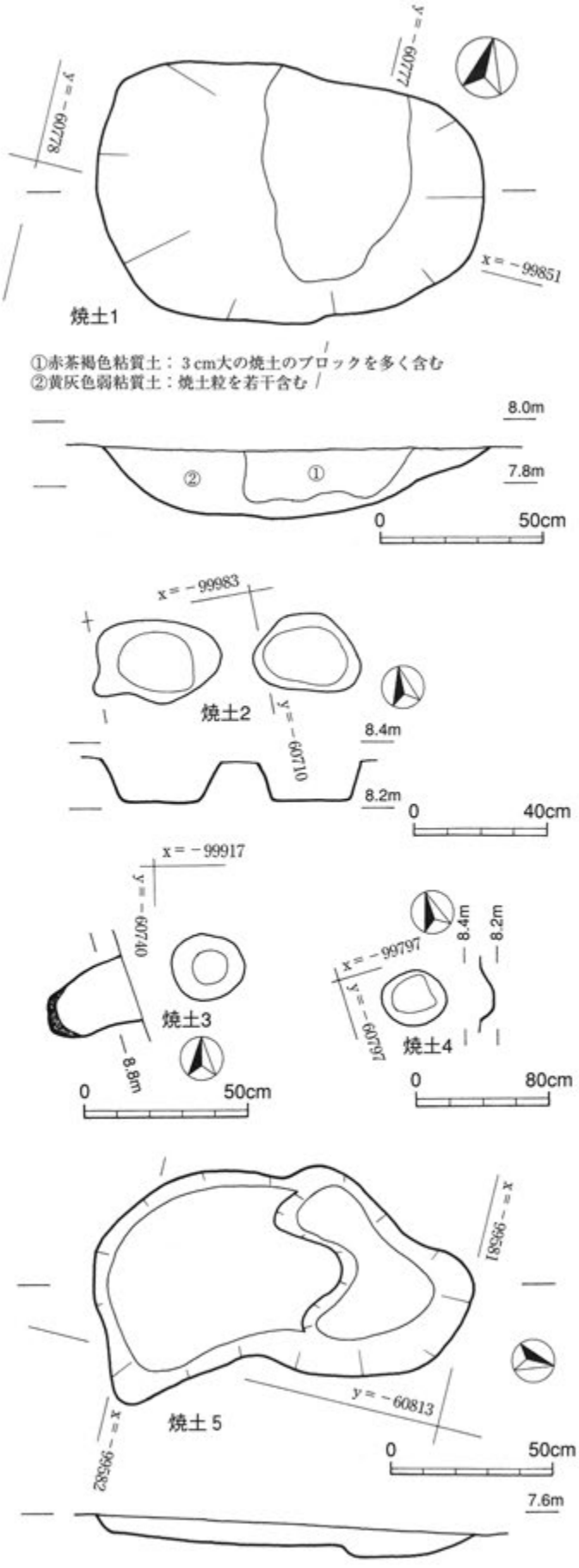
焼土１（SF32）：C−17区で，最後の念押しのための重機による掘り下げの際検出された。遺物包含層部分よりも約45cm低い場所で検出されたため，竪穴住居の屋内炉ともとれるが，住居自体のプランをとらえることはできなかった。埋土については，①は赤茶褐色粘質土であり，３cm大の焼土のブロックを多く含み，②は黄灰色弱粘質土であり，焼土粒を若干含んでいる。見入来遺跡でも縄文時代後期終末〜晩期の焼土が検出されていることと，農業開発総合センター遺跡群の金峰町諏訪牟田遺跡でも焼土が単独に発見された事例があることから，この時期に普遍的なものとしてあるのか今後検討したい。

焼土２（SF173）：B−24区の最終確認を重機で行っている時，Ⅳ層内で確認した炭化物を含む範囲である。焼土をわずかに含んでいる。埋土を掘り下げると，38cm×25cm×深さ12cmと33cm×24cm×深さ12cmの２つの小さな土坑となった。この部分では遺物は出土していないが，この上位では縄文時代後期末〜晩期の土器が出土した。炭化物の樹種同定を行った結果，コナラ属アカガシ亜属と同定された。性格は不明である。

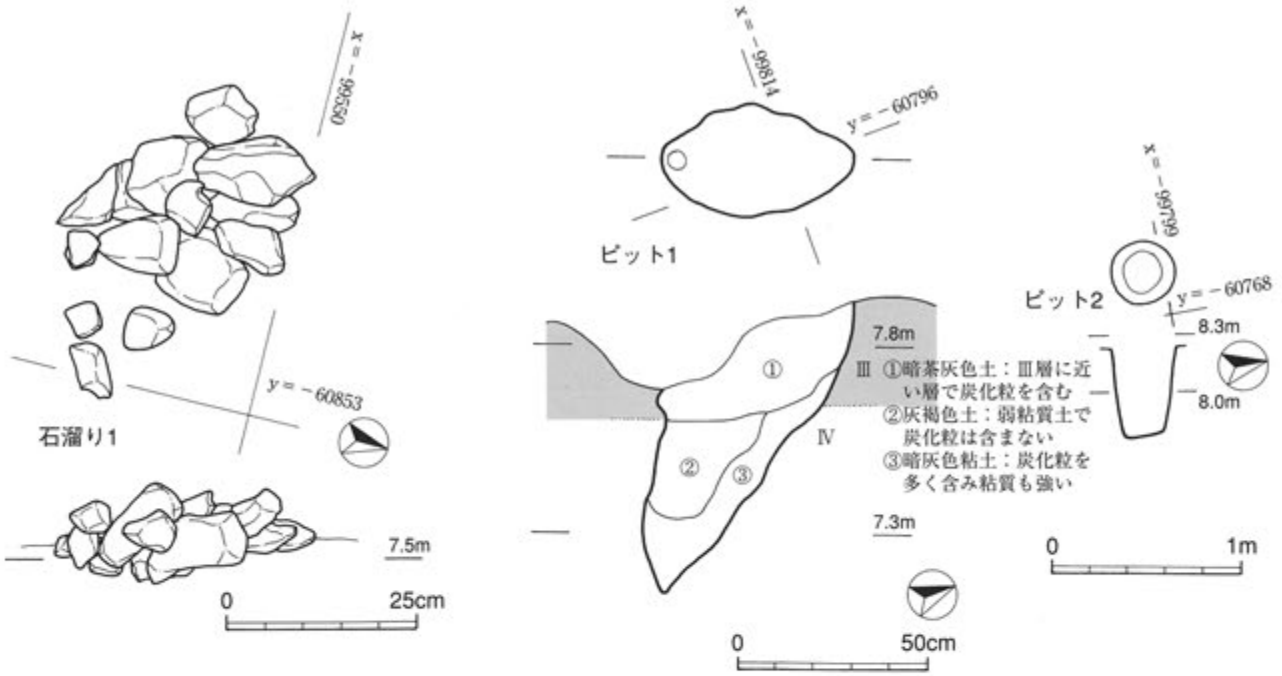
焼土３（SF127）：B−21区のⅢ層を掘り下げる途中で検出された。直径20cm，深さ28cmのピットである。埋土は灰茶褐色の粘土であり，炭化粒を含んでいる。周辺に同様の柱穴は確認できず，単独で存在したものと考えられる。埋土の状況と検出位置から，縄文時代のものと判断した。

焼土４（SF120）：B−15区のⅢ層中半で検出された。淡い赤色に焼けた部分が40cm×30cm，深さ９cmで確認できた。出土遺物はみられないが，土層の状況から縄文時代後期終末〜晩期に該当するものと考えられる。

焼土５（見SF４）：B−４区のⅢ層で検出された。117cm×64cmの略円形に赤橙色に焼けた部分がみられた。床面は２段に分かれており，深さは７cmと９cmを測る。焼土内での遺物の出土はなかったが，検出した層と周辺の遺物の散布状況から，縄文時代後期終末〜晩期のものと判断した。



第128図　焼土検出状況（1）　焼土1（SF32）・2（SF173）・3（SF127）・4（SF120）・5（見SF4）



第129図　石溜り及びピット検出状況　石溜り1(見SS2)・ピット1(SX28)・2(SP21)

（8）石溜り

石溜り1（見SS2）：C−2区のⅢ層で検出された。13点の礫が集中しており，砂岩と安山岩で構成されている。礫が小ぶりで点数が少ないこと，小範囲に集中し掘り込みがみられないこと，礫が赤化してないことなどから，縄文時代早期にみられる集石遺構とは性格が異なると考えられる。しかし，どの様な性格であったのかは類例を待ちたい。土器片が1点伴うことと，検出した層位から，縄文時代後期終末〜晩期に位置付けられると考える。計測した8点については表のとおりである。

石溜り1（見SS2）の礫計測値

	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材
1	15	7	6	750	砂岩
2	12	8	6	−	砂岩
3	12.5	9.5	8	−	安山岩
4	15.5	11.5	10	−	安山岩
5	11	9	5	485	安山岩
6	9	8	5	450	砂岩
7	8	8	6	572	安山岩
8	4	4.5	2.5	50	安山岩

石溜り2（見SS3）の礫計測値

	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材
1	7.5	7.5	5	440	安山岩
2	9	5.5	4	230	砂岩
3	15	8	4.5	600	砂岩
4	7	4.5	2.5	80	砂岩
5	8	6.5	3	185	安山岩
6	11	6	3.5	190	砂岩
7	5.5	4.5	4	100	砂岩
8	4.5	4	2.5	70	砂岩
9	3.2	3	1.6	22	砂岩
10	5	4	3.5	56	安山岩

石溜り2（見SS3）：C−3区のⅢ層で検出された。写真撮影後，水没により崩壊したので，実測図は作れなかった。礫の数は10点で，砂岩及び安山岩で構成されていた。石溜り1（見SS2）と同様な内容をもっていることから，時期・性格とも同じだったと考えられる。計測した10点については表のとおりである。

（9）ピット

ピット1（SX28）：D−15区で検出したピット状の土坑である。検出面での平面形が長径52cm×短径31cmの楕円形を呈する。主軸はほぼ南北である。南側は垂直に，北側は斜位に掘り込んでいるのが特徴である。深さは74cmを測り，底面は先細りとなっている。埋土に炭化粒を多く含み粘質が強い。土器片が混在していることから縄文時代の所産であると考えられるが，用途は不明である。断面を截ち割ると，写真図版20のように掘り込みラインより外側がかなり変色しており，低地の粘質土地帯では，埋土が周辺の土壌に対して大きな影響を及ぼすことがわかった。

ピット2（SP121）：B−15区のⅢ層中半で検出された。直径34cm，深さ49cmのピットであるが，内部から縄文時代後期終末〜晩期の土器片が折り重なるように出土した。問題意識をもたずに掘り上げてしまったために，出土の状況がわかる図はない。故意に埋めたと思われるが性格的には不明である。

２．縄文時代の出土遺物

（１）縄文土器

①深鉢形土器（第130～170図　１～323）

大坪遺跡で出土した深鉢形土器を，器形や文様及び器面調整を基にして，Ⅰ類～Ⅳ類に分類した。さらに分けられるものについては，細分してある。個別の土器の記述については，埋設土器のところで書いてあるので，ここでは全体的な特徴を述べるとともに，埋設土器以外の代表的な遺物の記述のみとする。なお，それぞれの遺物はどれかの類に含めてあるが，厳密な区分ではないことをお断りしておく。

Ⅰ類（１～112）：胴部最大径が器高を二分する位置にあり，口縁部直径よりも大きい。底部は上げ底もしくは平底で，すぼまっている。胴部下半はやや丸みをもちながら胴部最大径に至る。胴部最大径で「く」の字状に屈曲し，この部分の上部に凹線を巡らすものもある。胴上部から頸部にかけては外反しながら内傾し，口縁部へ至る。口縁部で再び屈曲させ，短い口縁部文様帯をつくり，１～３条の凹線を巡らしている。器面調整はミガキによるものである。口縁部の形状からⅠa・Ⅰb類に細分できる。既存の型式名では，上加世田式土器から入佐式土器古段階に該当する。

Ⅰa類（１～57）：口縁部が内側に屈曲するものであり，口縁部幅は狭い。凹線は先端の丸い棒状工具あるいは半截竹管の皮側を使用し，丁寧に引かれている。凹線の条数は少ない。上げ底の底部が多い。

3は，復元口径33㎝，器高14.2㎝，それに確実な底径8.4㎝を測り，深鉢形土器と浅鉢形土器の中間的な形の土器である。胴部最大径部分で「く」の字状に強く屈曲し，頸部はわずかに内傾する。口縁部との接点が見つからなかったので，正確なことは言えないが，大きく外反する口縁部をもつ。口縁端部には，外開きした端部にもう一段粘土紐を重ねることによって，外面は1条の凹線を巡らしているように見える。胴部下半は，120度の角度をもって，大きく開いている。底部はわずかに角度を変えて，高台風に作り出しており，底面は上げ底である。黒褐色を呈し，内外面ともミガキによる器面調整である。上加世田式土器に該当すると考える。

Ⅰb類（58～112）：口縁部が直立もしくは外に開くものであり，口縁部幅は広い。凹線の条数は３～７本である。胴部屈曲はⅠa類ほど強くなく，この部分に凹線を巡らすものはない。胴上部から頸部にかけての反りは弱い。Ⅰa類に比べて器壁が厚い。底部は平底が多い。入佐式土器古段階に該当する。

110については，有明町教育委員会の御厚意により，胎土内の植物珪酸体分析を実施したが，イネ属などの栽培植物は検出されなかった。

Ⅱ類（113～186）：胴部最大径は器高を二分する位置よりやや上にあり，口縁部直径と同じかやや小さい。底部はやや厚く，円盤状をなしている。胴部下半はわずかに内湾しながら胴部最大径に至る。胴部最大径で丸みを帯びながら緩く内側へ屈曲する。胴上部から頸部にかけてもわずかに内湾気味に内傾し，口縁部へ至る。口縁部は肥厚させ，沈線を巡らしている。口縁部幅はやや広く，沈線の条数も多い。器面調整はナデもしくは貝殻条痕による。口縁部の形状からⅡa・Ⅱb類に細分できる。既存の型式名では入佐式土器新段階に該当する。

Ⅱa類（113～162）：外面の口縁部文様帯の段が明瞭で，沈線も1本1本はっきり描かれる。口縁部の屈曲がⅠ類に似たものと，外側に「く」の字状に屈曲させたものがある。Ⅱb類に比べて口縁部文様帯はやや狭く，器壁が厚い。136・137は口縁部文様帯に鋸歯文を描くものである。

Ⅱb類（163～186）：口縁部文様帯の段がやや不明瞭で，沈線の描き方がやや雑であり，貝殻条痕によるものも多い。口縁部の屈曲も弱い。口縁部文様帯はやや広く，器壁は薄い。型式学的にⅡa類に後出するものと考えられる。

Ⅲ類（187～220）：肩部をもつものであり，頸部から外傾する口縁部に至る。底部は厚く，張り出しを持つ。底部から胴部はほぼ直線的に外開きし，肩部で丸く内側へ湾曲する。肩部にリボン状の突起をもつものもあり，また口縁部にも突起を付けるものがある。口縁部はわずかに段をもつものもあるが，段の無いものもある。口縁部の幅は広く，横方向の条痕によって文様効果を出している。器面調整は内外面とも貝殻条痕によるものである。既存の型式名では黒川式土器に該当する。

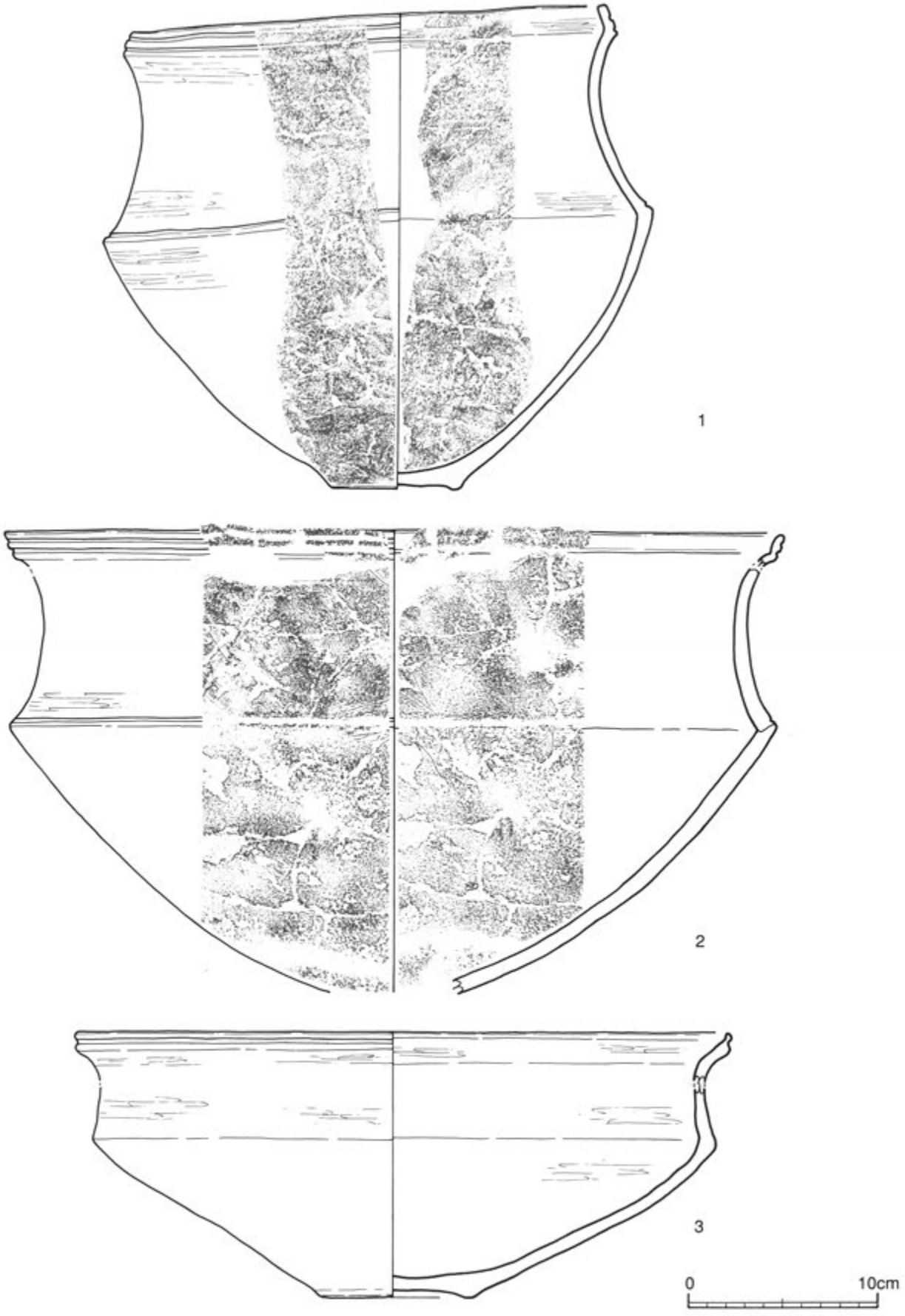
195については，有明町教育委員会の御厚意により，胎土内の植物珪酸体分析を実施したが，イネ属などの栽培植物は検出されなかった。

Ⅳ類（221～308）：器形などの特徴が，上述したⅠ類～Ⅲ類に含まれない土器であり，内外面とも貝殻条痕もしくは条痕による器面調整である。胴上部から口縁部にかけての形状からⅣa～Ⅳd類に細分した。

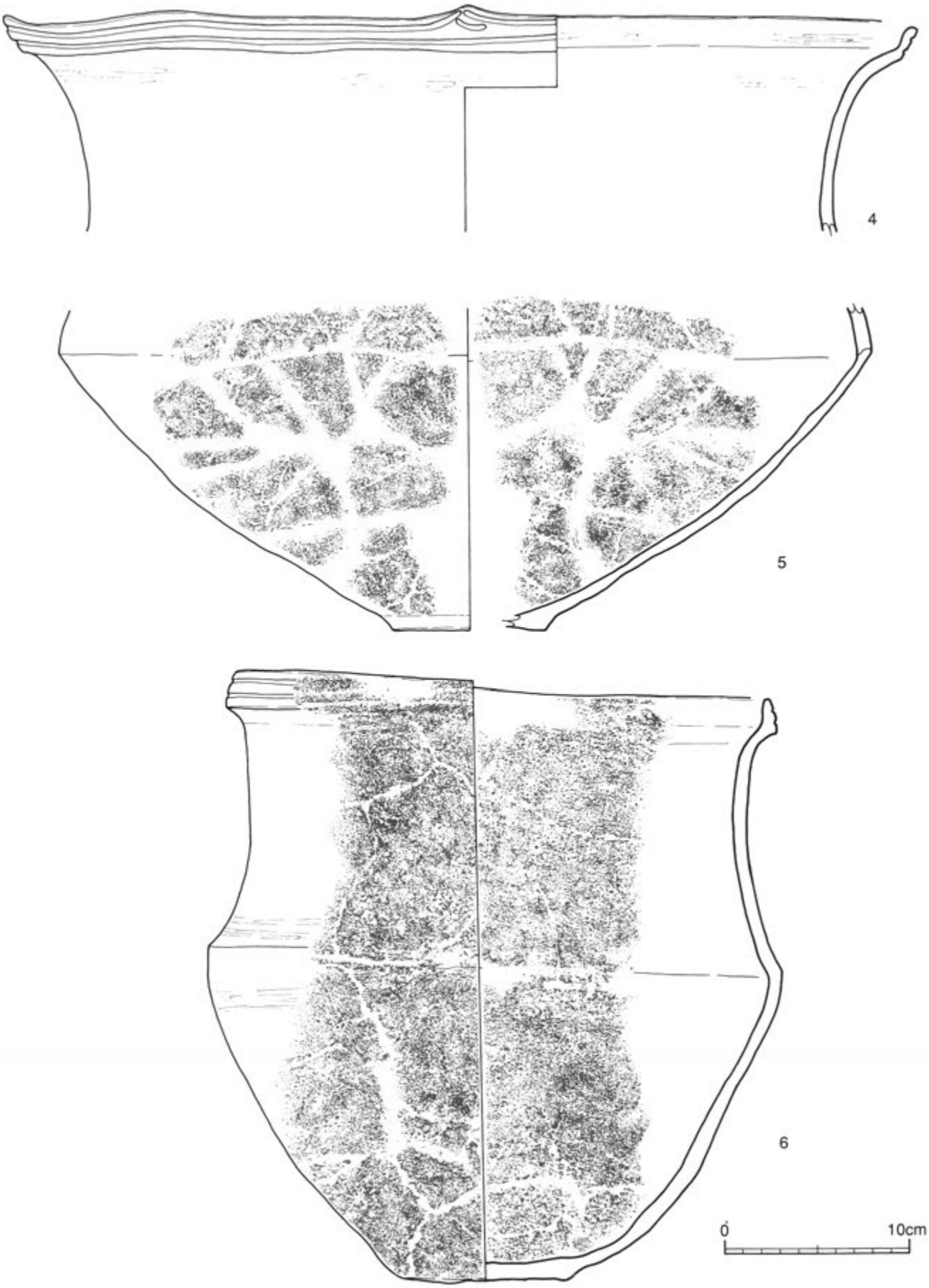
Ⅳa類（221～229）：胴上部で屈曲し，外反しながら口縁部に至るものである。

Ⅳb類（230～253）：胴上部でわずかに屈曲し，直口する口縁部に至るものである。

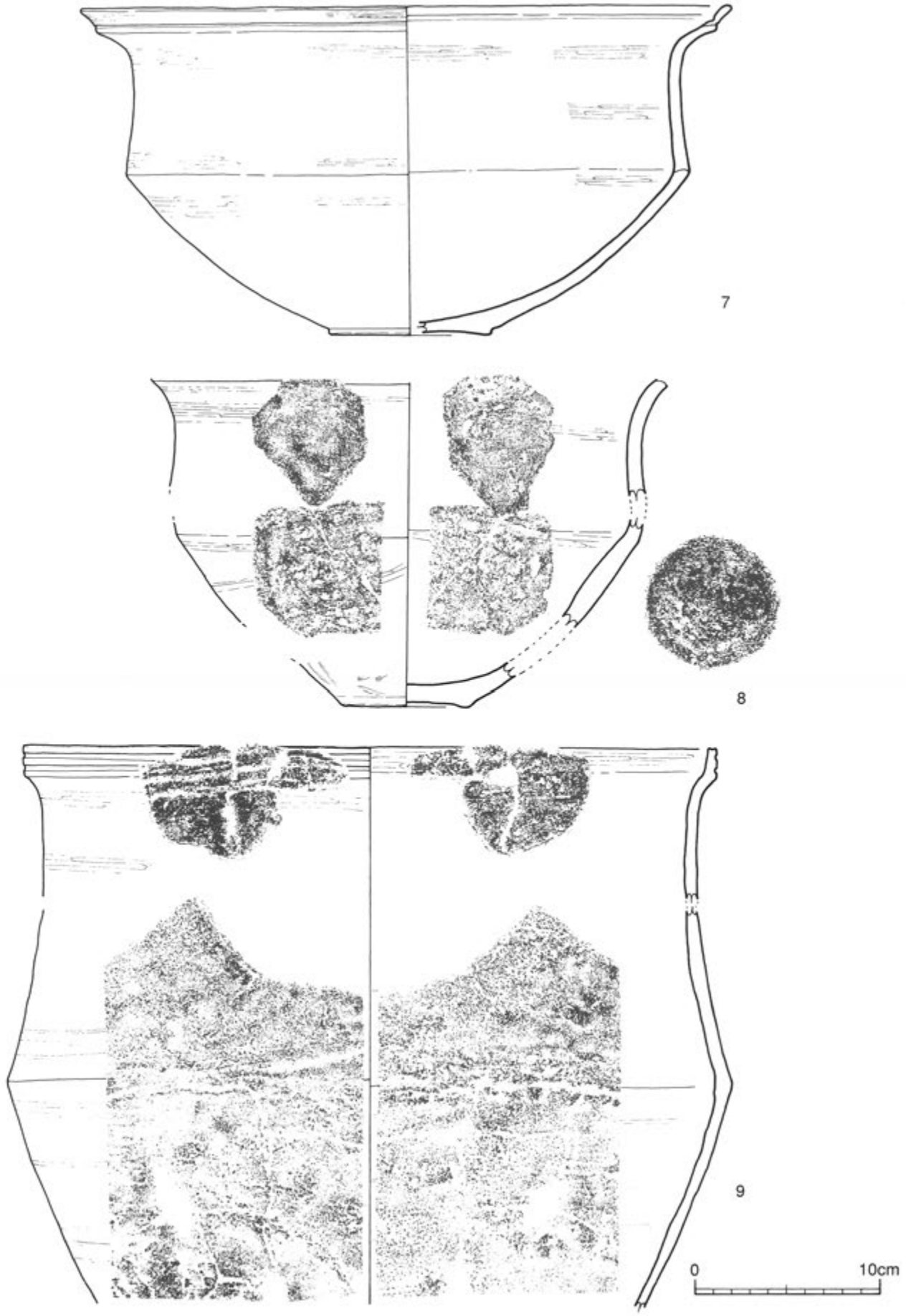
230は確実な接合点はなかったので，図上で復元したものである。底部は張り出しのある脚台状となるものであり，やや直立気味に立ち上がる。胴部でわずかに内傾し，やや外反気味ではあるが，ほとんど直立して口縁



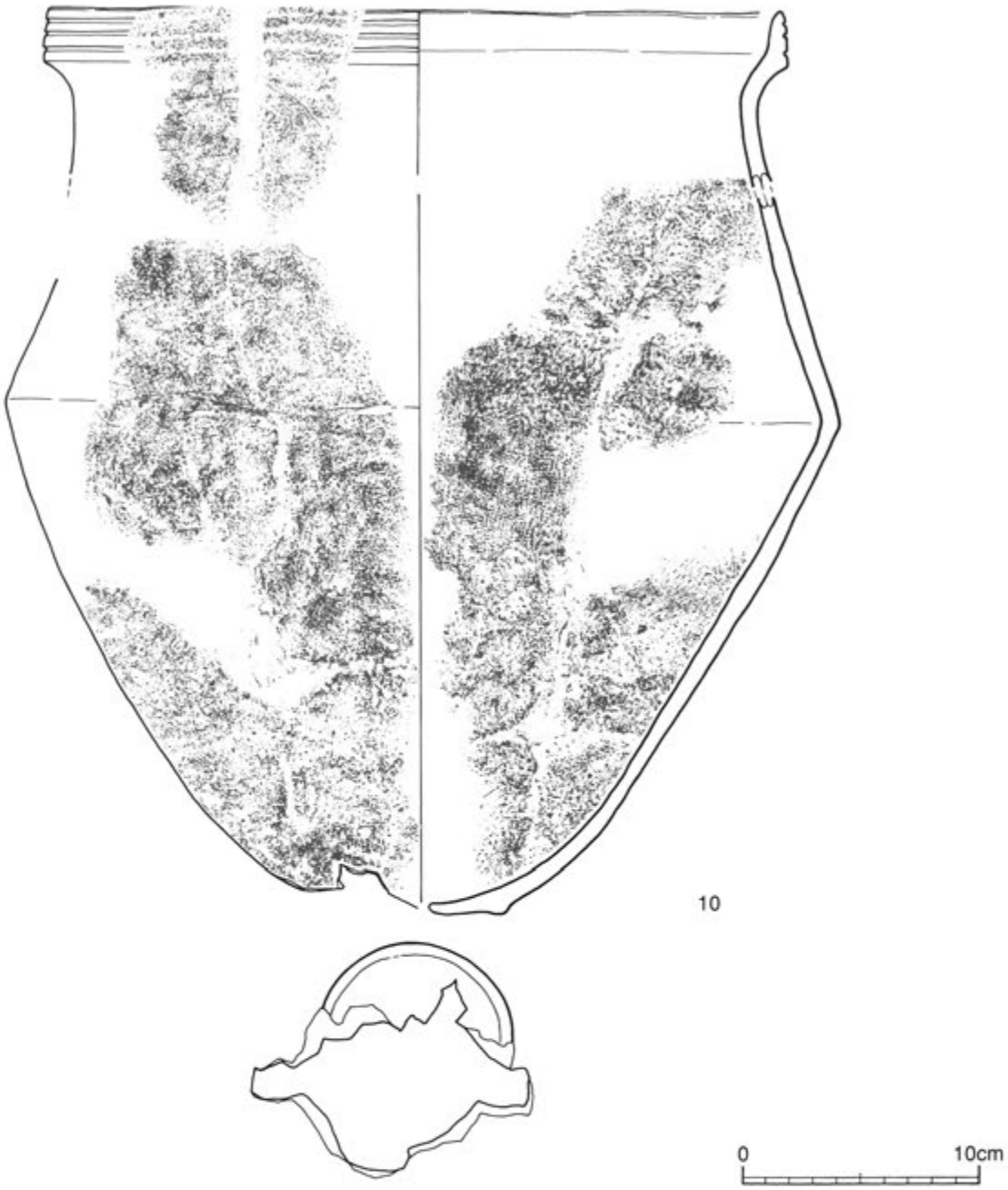
第130図　出土遺物　縄文土器(1)



第131図　出土遺物　縄文土器(2)



第132図　出土遺物　縄文土器(3)



第133図　出土遺物　縄文土器(4)

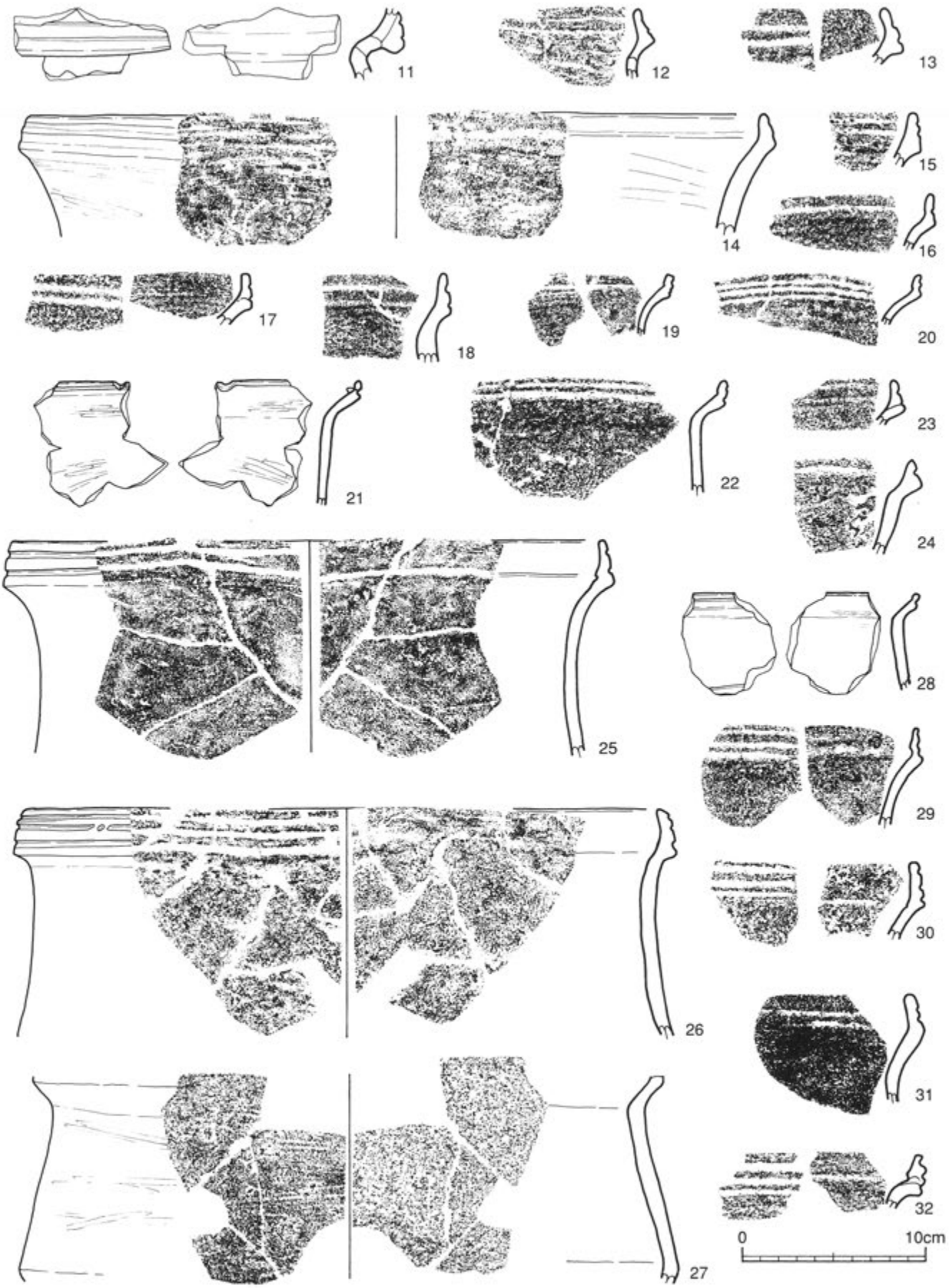
部へ至る。口唇部は生きているかどうか迷ったのであるが，風化の度合いが他の面と変わらない点と，これ以上高くなる例を知らないことから判断した。底面には木の実の圧痕が浅く付いている。胴部から口縁部の変化がほとんど無いのであるが，底部の形態から黒川式土器に該当すると考えられる。

Ⅳc類（254～279）：屈曲せずに，胴部と口縁部の境が無いものである。

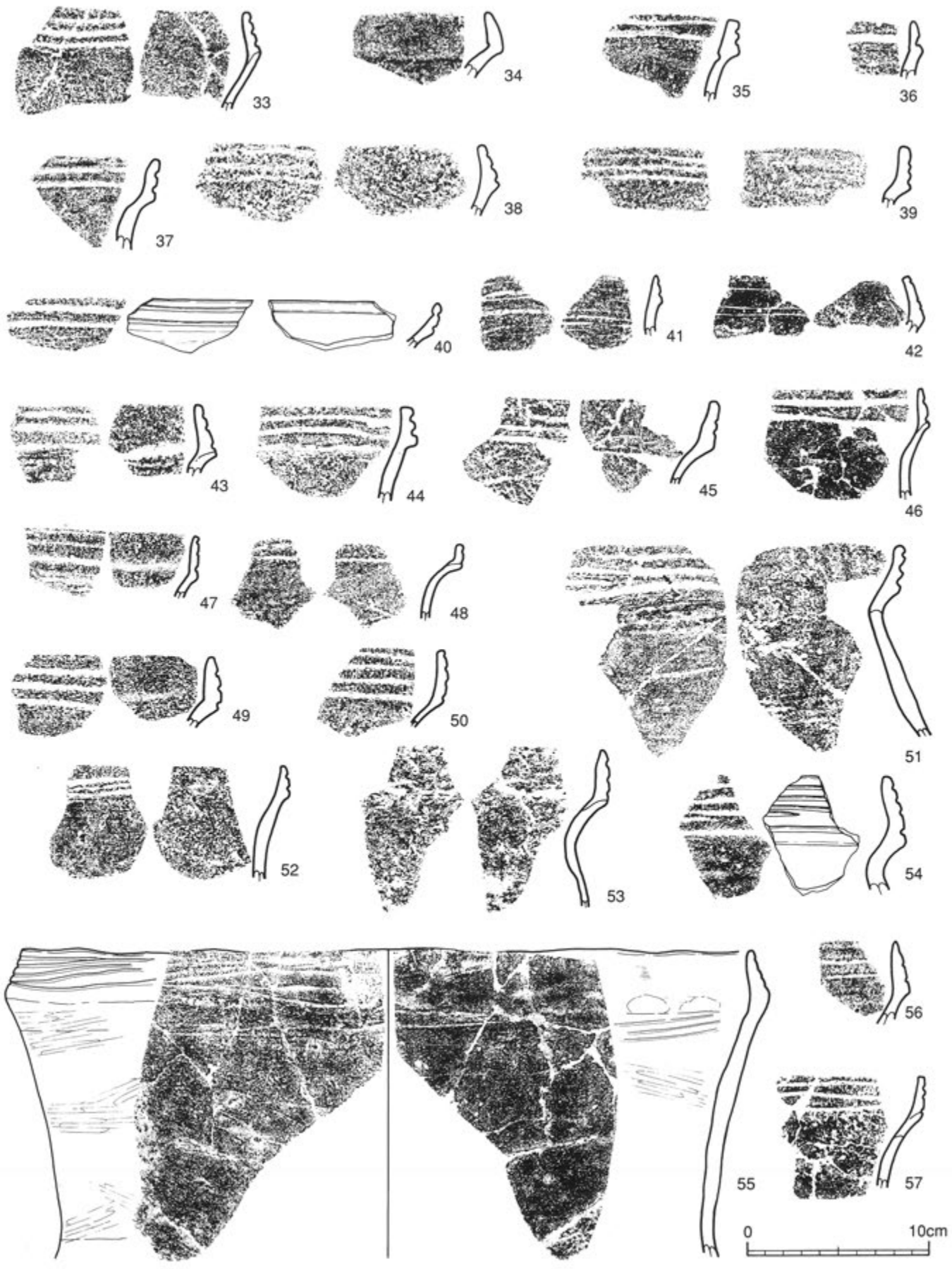
Ⅳd類（280～308）：ある程度口縁部の形状がわかる土器を掲載した。したがって，もう少し残存率が良ければ他の類に含まれる可能性のある土器もある。

294の口縁部には，器面が粗くてはっきりしないが，654に類似した文様が描かれている。303は，製作途中でヒビ割れを生じたのか，焼成前に内外面から粘土を補填してある。しかし，それでも使用中に割れてしまったのか，補修孔を開けて丁寧に使った様子が窺える。

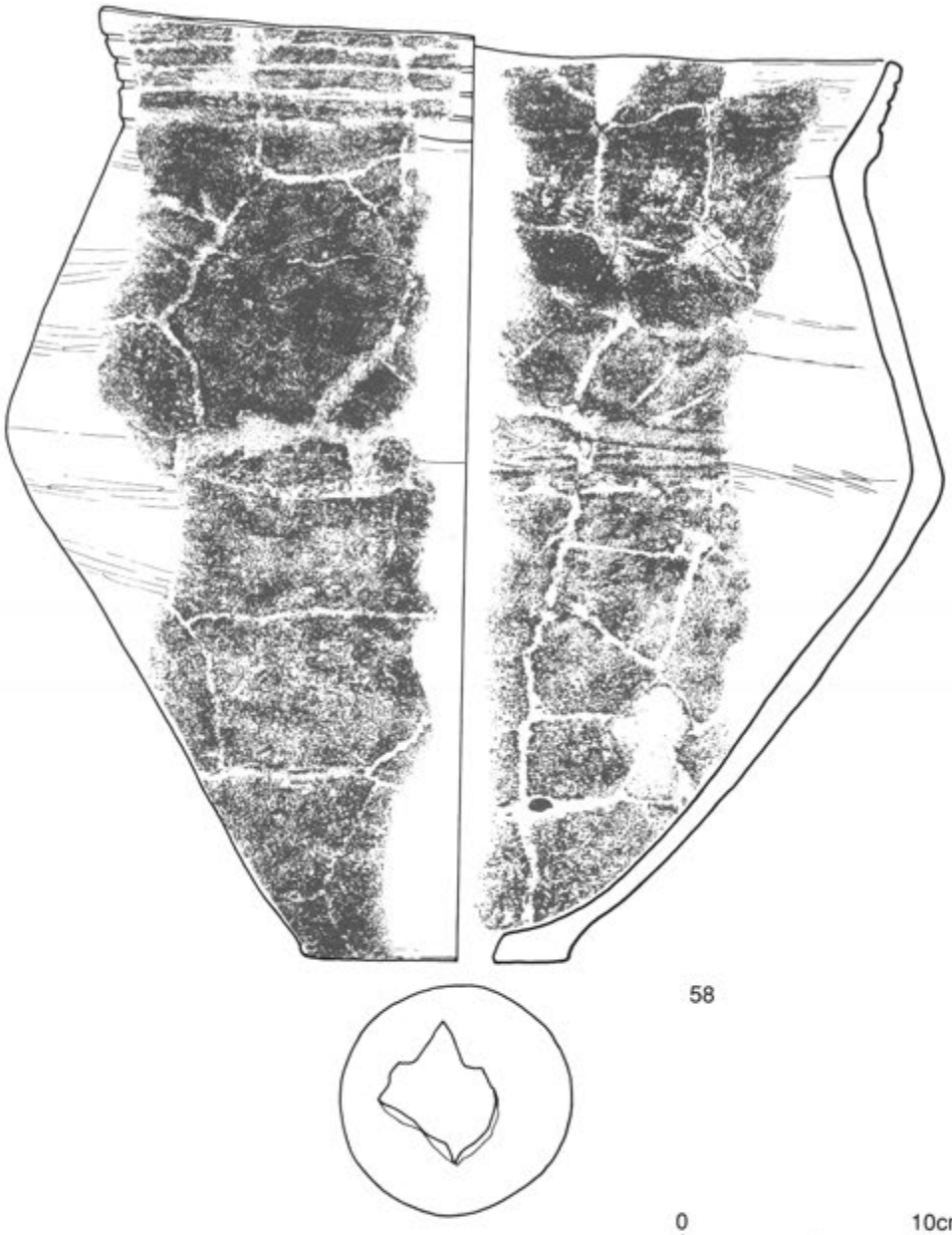
その他の深鉢形土器（309～323）：Ⅰ類～Ⅳ類の中にも含まれない土器と極少量の土器を個別に紹介する。309～314は口縁部を肥厚させるものであり，刻目は施さない。無刻目突帯文の時期に該当すると考える。315～321は刻目突帯文土器である。「く」の字形に大きく屈曲し，大ぶりの刻目を施す。322は口縁部が緩



第134図　出土遺物　縄文土器(5)



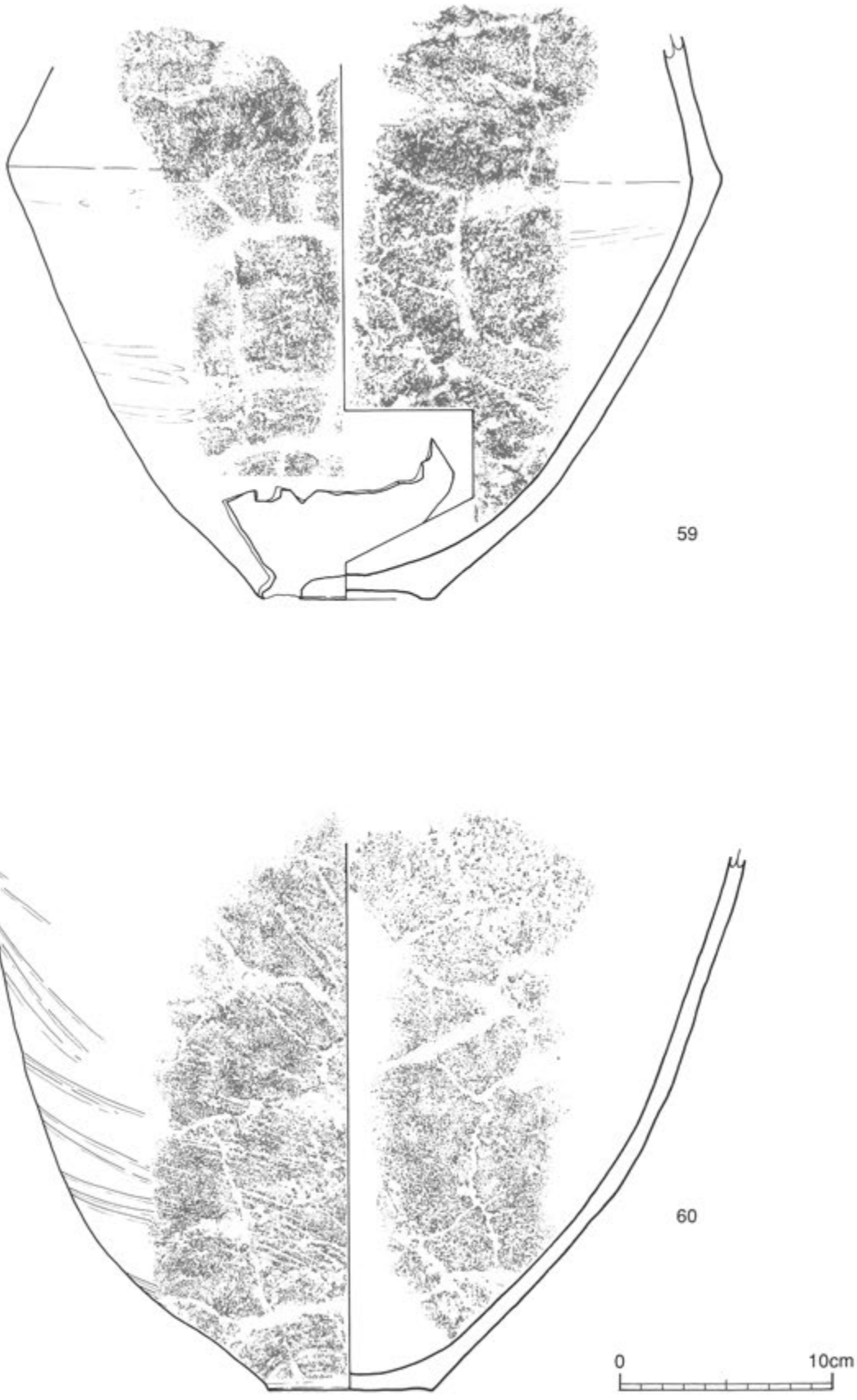
第135図　出土遺物　縄文土器(6)



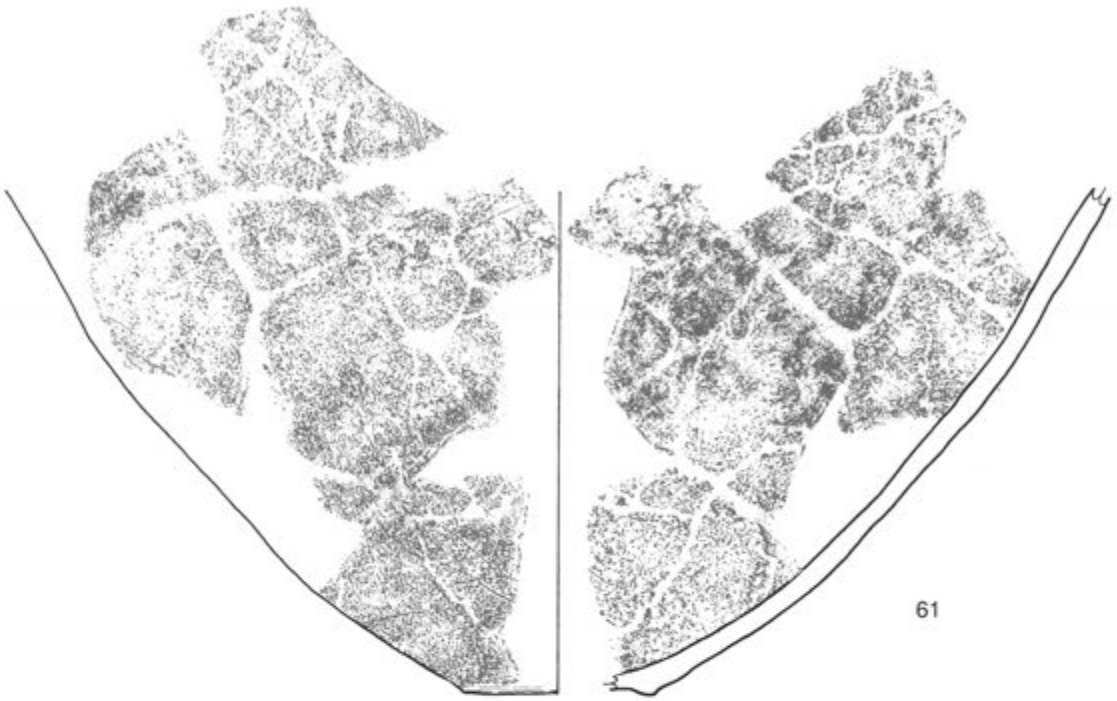
第136図　出土遺物　縄文土器(7)

表10　縄文土器観察表 1

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等 外面	調整・文様・色調等 内面	取上げ番号	レベル (m)	特徴・胎土・焼成・その他 備考	写真図版
第130図	1	B-15	SJ124		深鉢形土器	完形	Ⅰa類				－	－	25
	2	B-5	SJ119		深鉢形土器	完形	Ⅰa類	極暗赤褐・ミガキ	極暗赤褐・ミガキ		－	凝灰岩	25
	3		4584	Ⅱb	深鉢形土器	－	Ⅰa類				－	－	－
第131図	4	B-14	SJ79		深鉢形土器	－	Ⅰa類	赤褐・ミガキ	赤褐・ミガキ		－	軽石	－
	5	B-17	SJ8		深鉢形土器	－	Ⅰa類	にぶい黄橙	褐灰		－	2㎜大の石英	27
	6	C-15	SJ38		深鉢形土器	胴部～底部	Ⅰa類	にぶい黄・凹線・ミガキ	にぶい黄・摩耗		－	金雲母	26
第132図	7	C-16			深鉢形土器	－	Ⅰa類	黄灰・ミガキ	黄灰・ミガキ		－	金雲母	27
	8	B-15			深鉢形土器	－	Ⅰa類				－	－	－
	9	C-16			深鉢形土器	－	Ⅰa類	黒・ミガキ	浅黄橙		－	2㎜大の石英	27
第133図	10	B-17			深鉢形土器	胴部	Ⅰa類	明赤褐	黒		－	金雲母	27
第134図	11	D-19		Ⅲ	深鉢形土器	胴部	Ⅰa類	浅黄橙・凹線	黄灰・磨耗	7428	8.24	金雲母	－
	12				深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	褐・条痕・凹線・ミガキ	褐・ミガキ	大坪	－	－	－
	13	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	にぶい褐・凹線・ミガキ	褐・ミガキ	462	8.03	－	－
	14	D-17			深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒褐・ミガキ	暗褐・ミガキ	7920	8.29	－	－
	15				深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒褐・凹線	黒褐・ミガキ	大坪	－	角閃石	－
	16	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黄橙・凹線・ミガキ	黄橙・ミガキ	8344	8.30	角閃石	－
	17	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒褐・凹線・ミガキ	暗褐・ミガキ	8366	8.25	角閃石・軽石	－
	18	D-16		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒・凹線・ミガキ	黒・ミガキ	7835	8.34	－	－
	19	B-14			深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒褐・凹線・ミガキ	黒褐・ミガキ	14087	8.18	－	－
	20	B-15	SF117		深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	にぶい褐・凹線・ミガキ	にぶい褐・ミガキ	大坪	－	角閃石	－



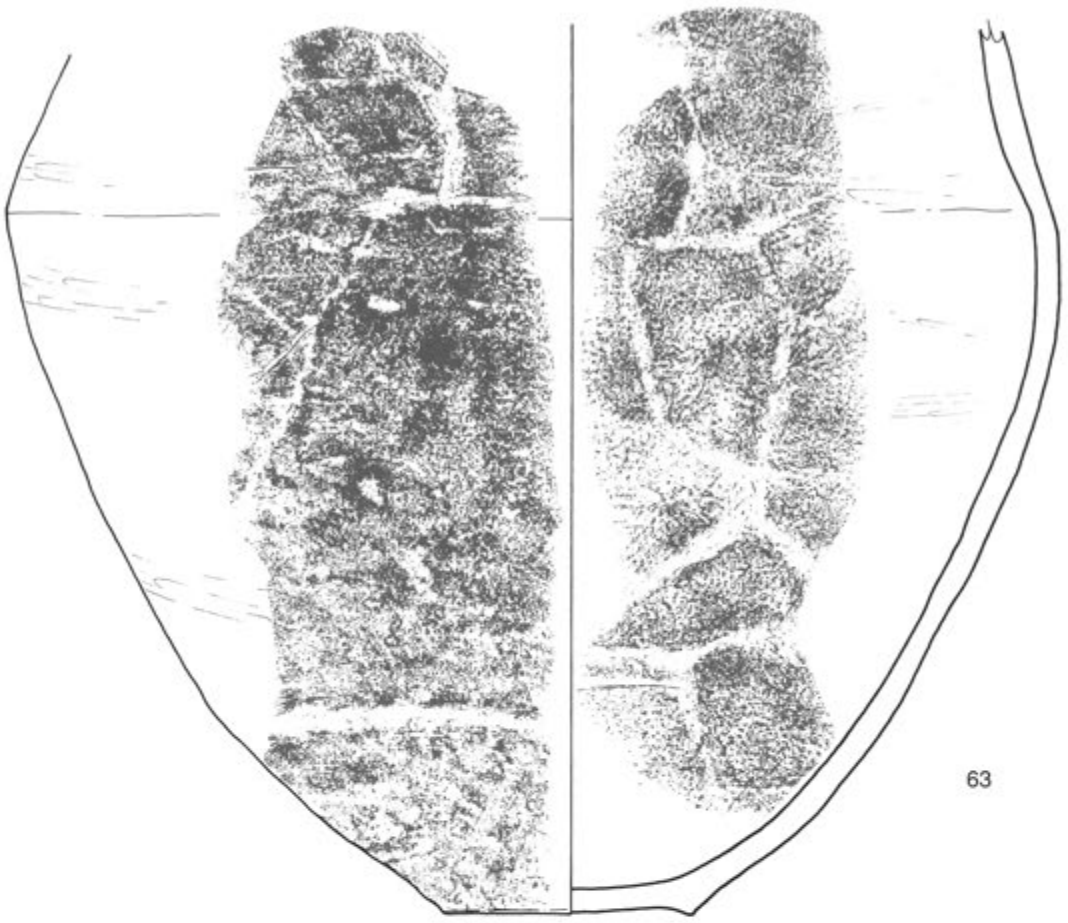
第137図　出土遺物　縄文土器(8)



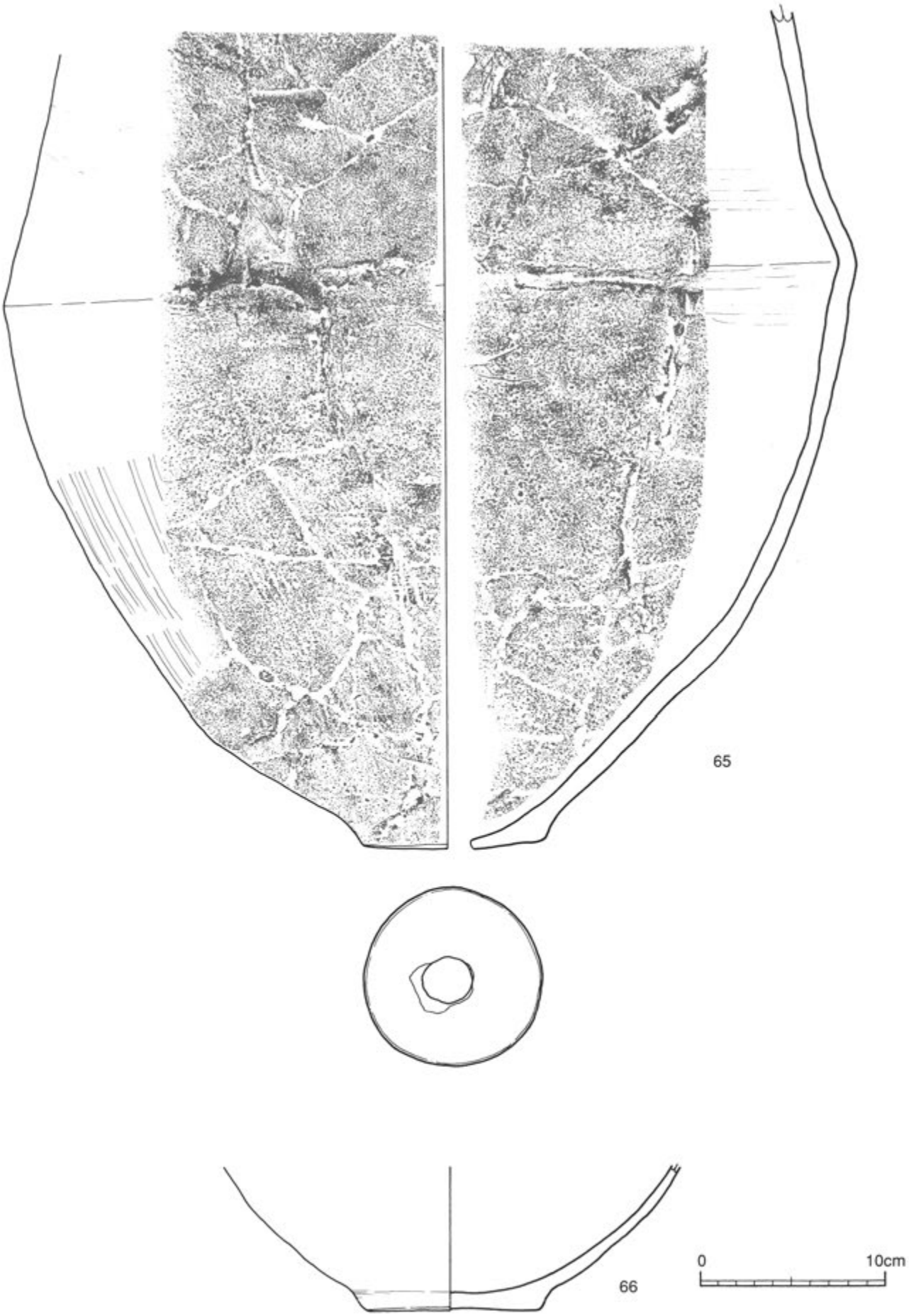
第138図　出土遺物　縄文土器(9)

表11　縄文土器観察表２

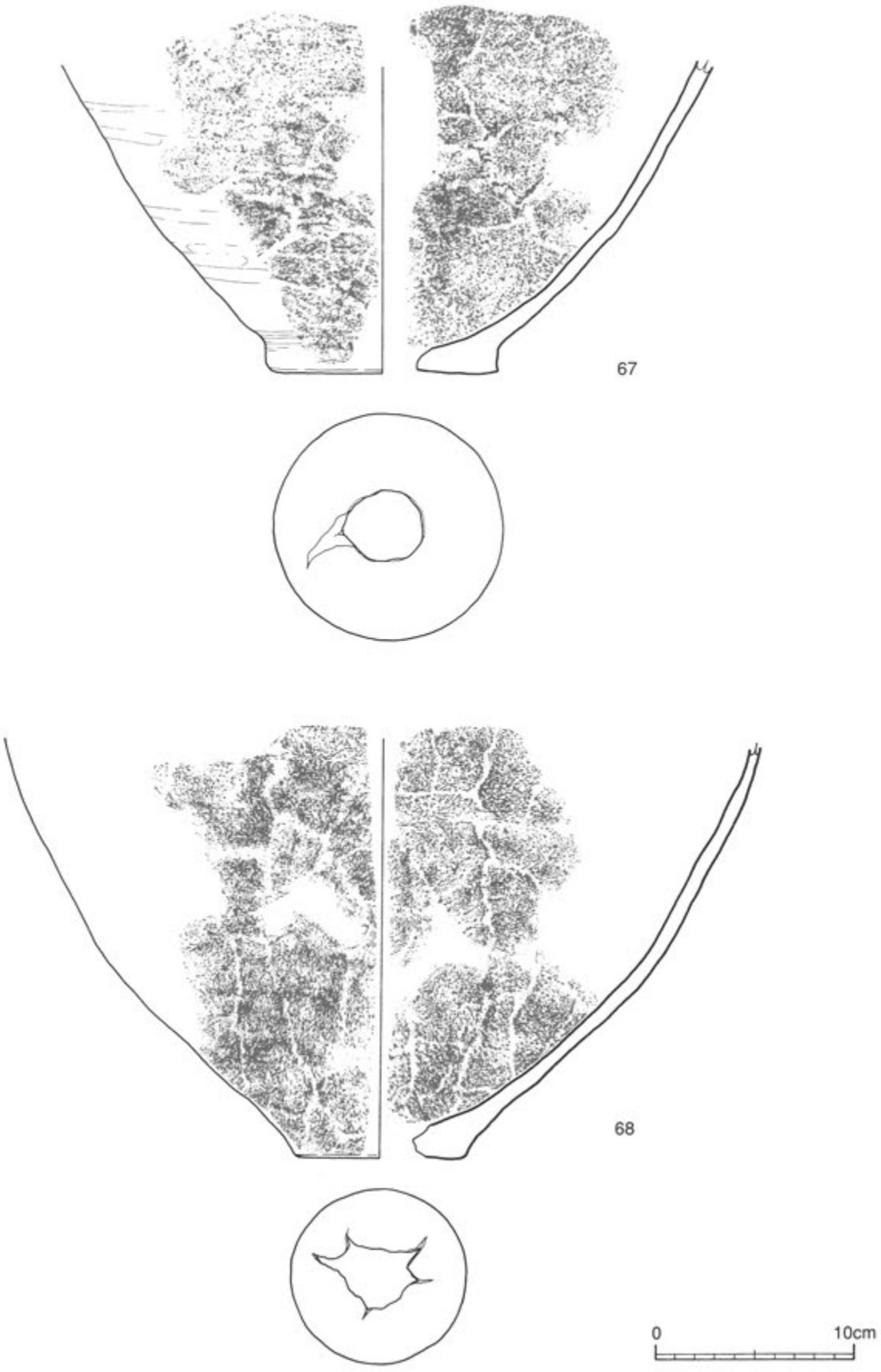
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等		取上げ番号	レベル	特徴・胎土・焼成・その他 備考	写真図版
								外面	内面		(m)		
第134図	21				深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	褐灰・凹線・ミガキ	褐灰・ミガキ	注記ナシ	－	金雲母	－
	22	B-15			深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒・凹線・磨耗	にぶい褐・ナデ横	大坪	－	金雲母	－
	23				深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	灰褐・凹線・ミガキ	灰褐・ミガキ	大坪	－	角閃石	－
	24				深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	明褐・凹線・磨耗	黒褐・磨耗	大坪	－	金雲母	－
	25	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	実測班	Ⅰa類	明褐・凹線・ミガキ	にぶい橙・ミガキ	14539	9.50	金雲母	－
	26	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	褐灰・凹線・ミガキ	褐灰・凹線・ミガキ	14478	8.14	角閃石	－
	27	C-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒褐・ナデ横	黒褐・磨耗	8878	7.28	－	－
	28	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒褐・凹線・ミガキ	灰褐・ミガキ	3683	8.40	角閃石	－
	29	B-14	SX81		深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒褐・凹線・ミガキ	黒褐・ミガキ	13831	8.22	－	－
	30	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒褐・凹線・ミガキ	黒・ミガキ	9782	8.38	金雲母	－



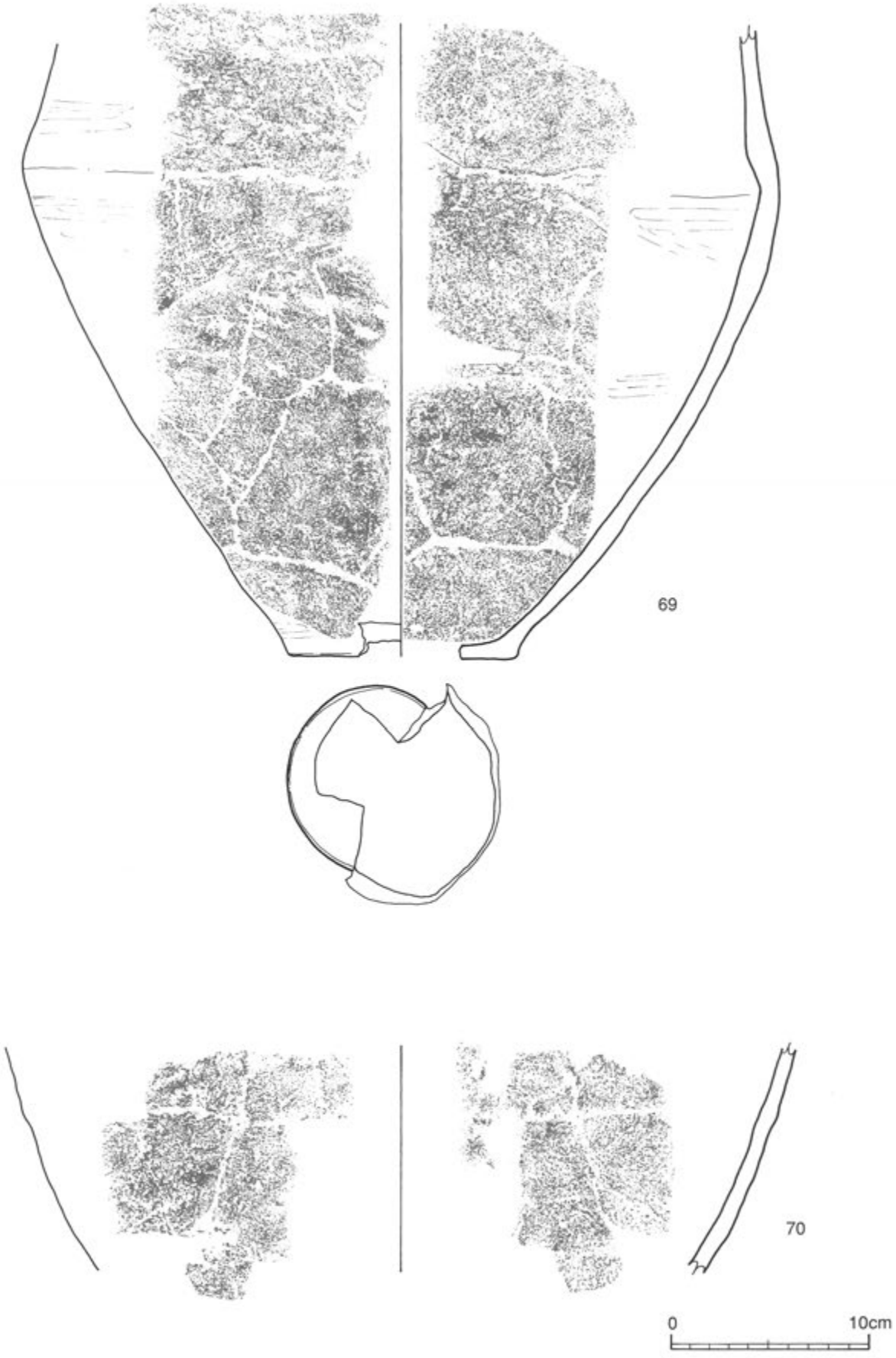
第139図　出土遺物　縄文土器(10)



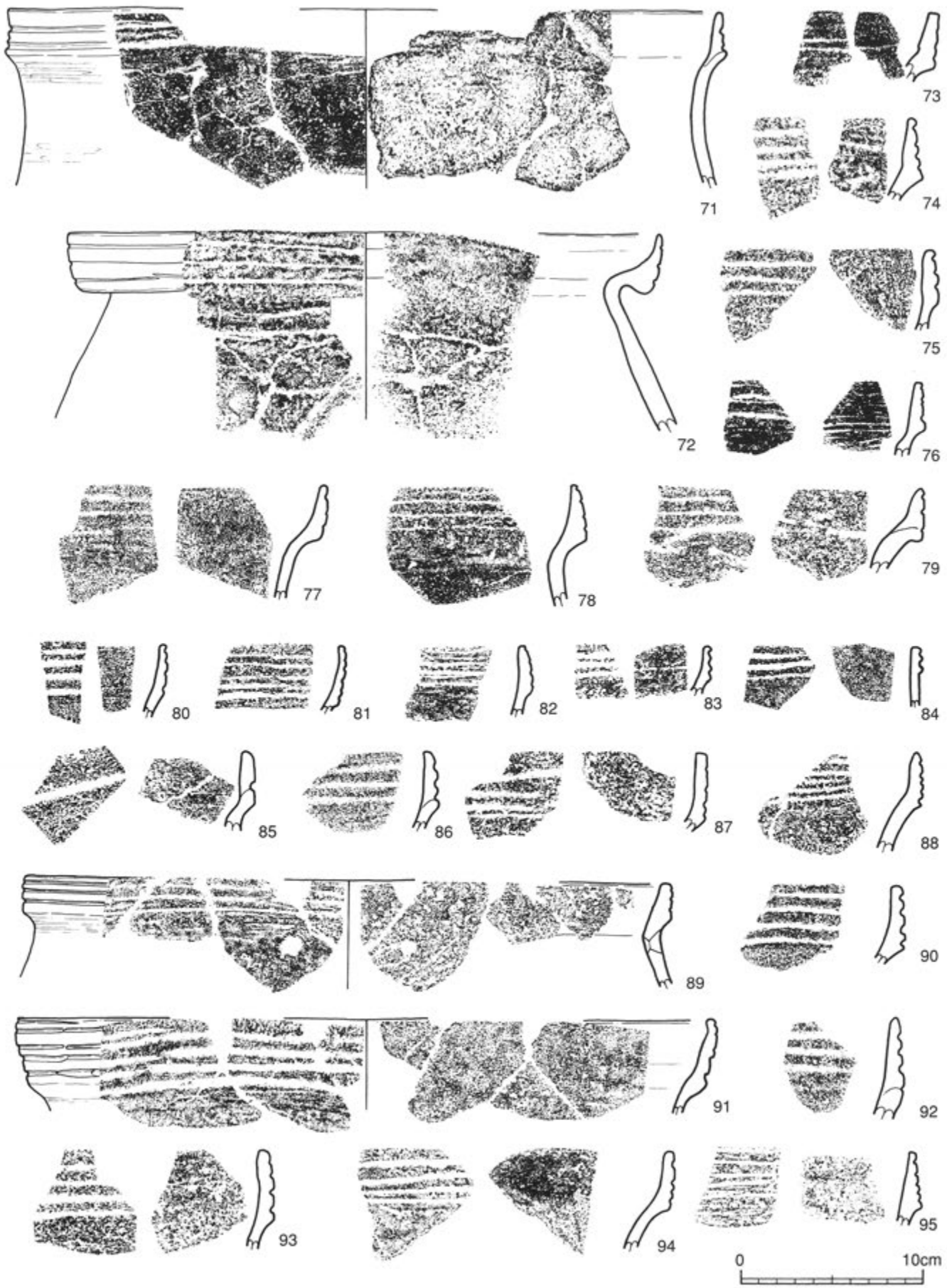
第140図　出土遺物　縄文土器(11)



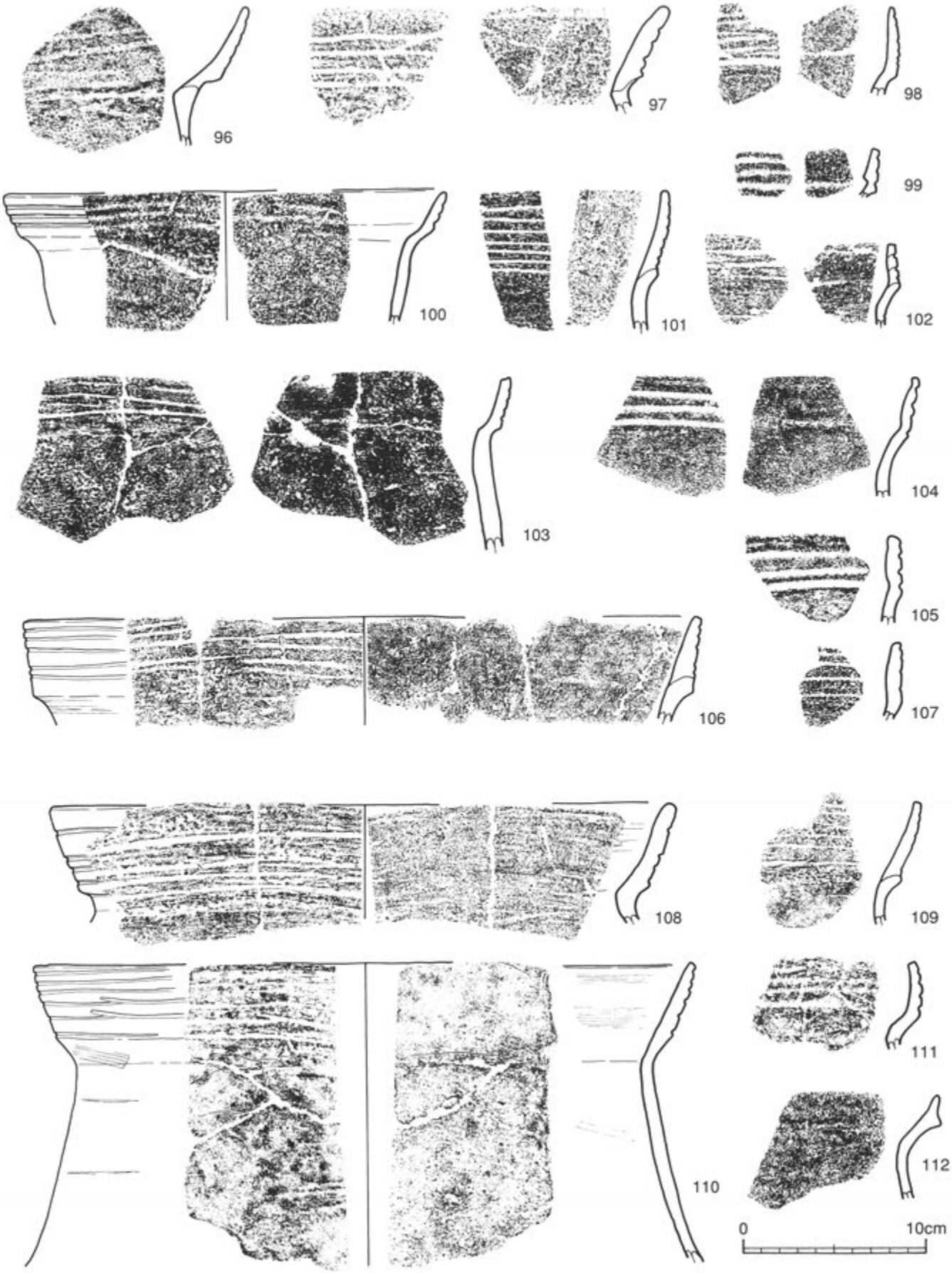
第141図　出土遺物　縄文土器(12)



第142図　出土遺物　縄文土器(13)



第143図　出土遺物　縄文土器(14)



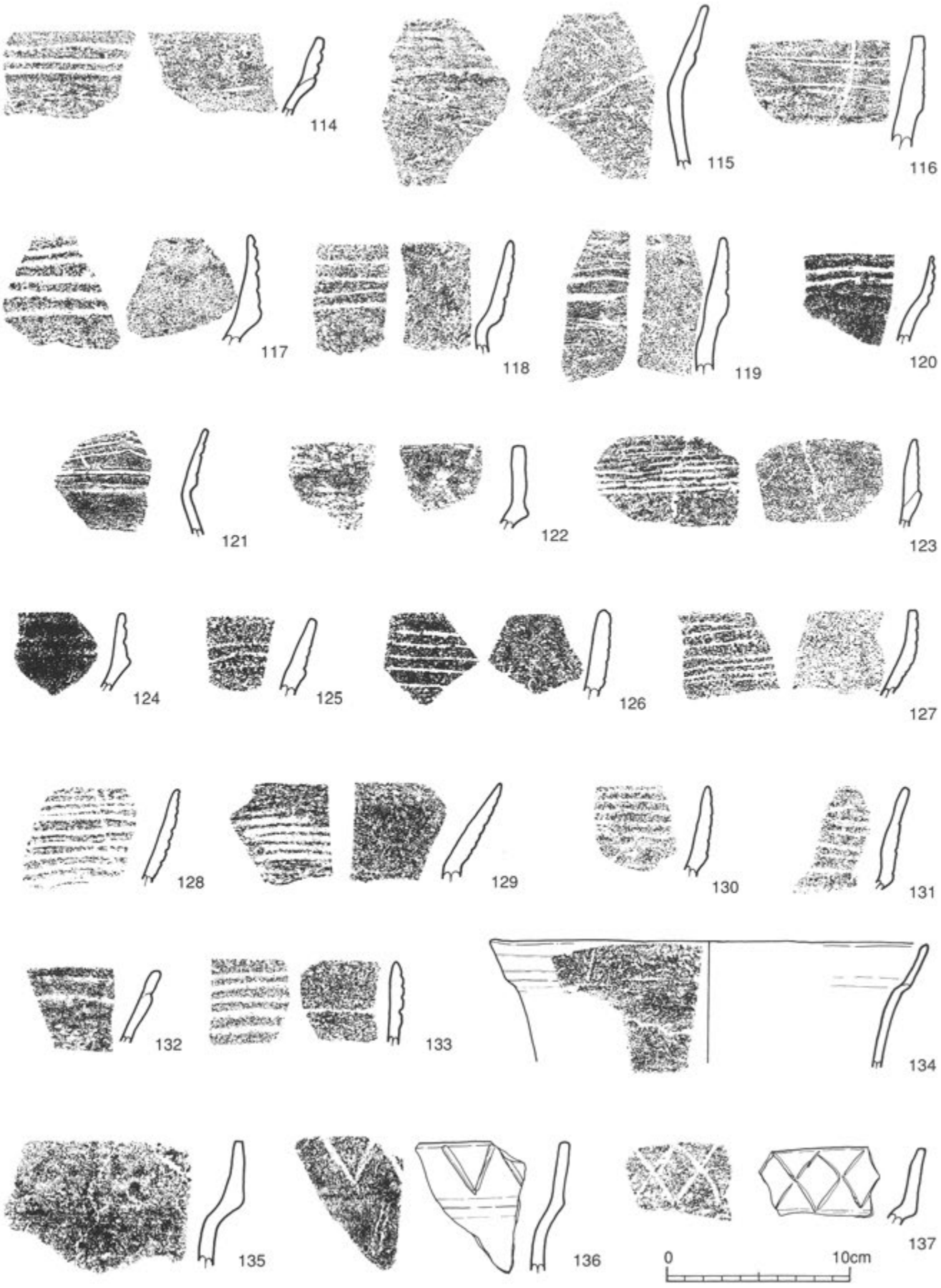
第144図　出土遺物　縄文土器(15)

0 10cm

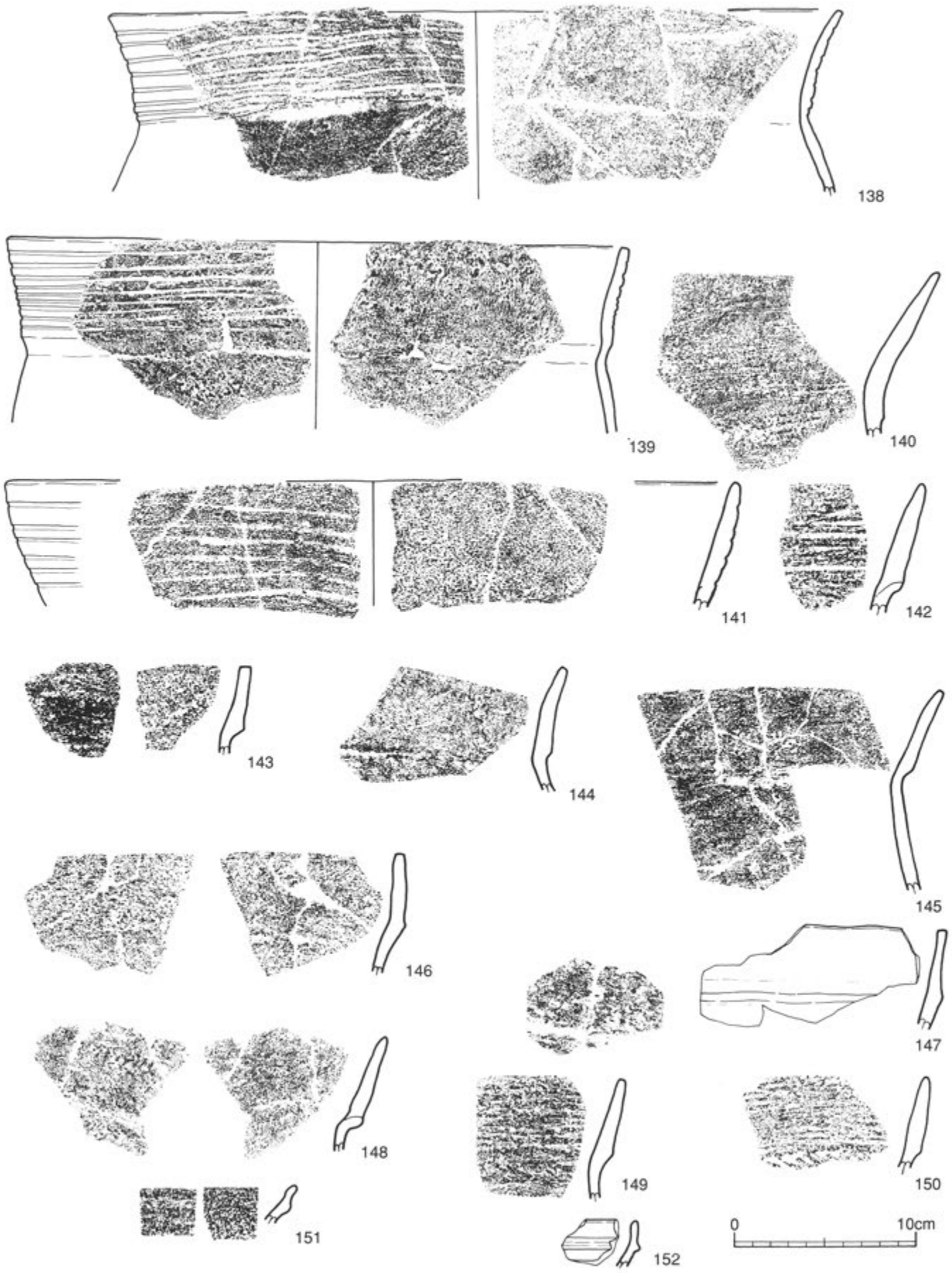
第145図　出土遺物　縄文土器(16)

表12　縄文土器観察表３

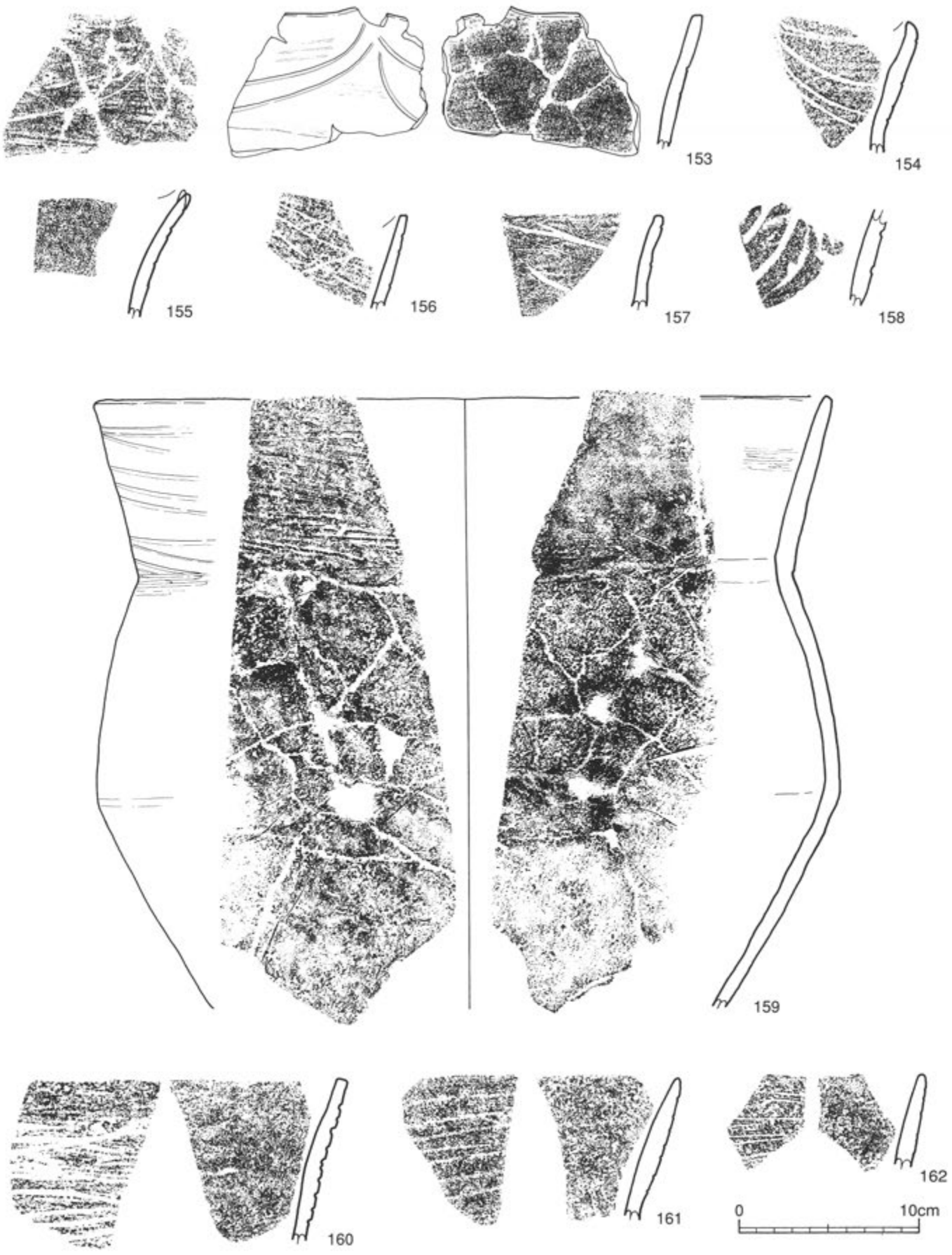
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等 外面	調整・文様・色調等 内面	取上げ番号	レベル (m)	特徴・胎土・焼成・その他 備考	写真図版
第134図	31	C-24	SX		深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	褐・凹線・磨耗	明褐灰・磨耗		－	角閃石・金雲母	－
	32	C-14			深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	にぶい褐・凹線・ミガキ	褐・ミガキ	995	8.08	軽石	－
第135図	33	D-16		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	明赤褐・凹線・ミガキ	明赤褐・ミガキ	5008	8.32	金雲母	－
	34	D-17			深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	にぶい赤褐・ミガキ	明赤褐・ミガキ	8079	8.34	軽石	－
	35	D-11		Ⅱ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	にぶい褐・凹線・ミガキ	黒・ミガキ	268	8.17	角閃石	－
	36	B-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	にぶい黄橙・ミガキ	にぶい黄橙・ミガキ	8534	－	－	－
	37	C-17			深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒・凹線・磨耗	黒・磨耗	8389	8.27	－	－
	38				深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	橙・磨耗	橙・磨耗	見入来	－	－	－
	39	D-15		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒・凹線・磨耗	にぶい褐・ナデ横	5740	7.95	－	－
	40	D-17			深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類			-------	8.14	－	－
	41	C-5		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	明赤褐・凹線・ミガキ	黒・ナデ・条痕		－	－	－
	42	C-18		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	橙・凹線・ミガキ	橙・凹線・ミガキ	8622	－	金雲母	－
	43	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類			4770	8.00	－	－
	44	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	淡赤橙・凹線・ナデ横	橙・ミガキ	5785	7.90	金雲母	－
	45	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類			5255	7.96	－	－
	46	C-17		Ⅱ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	明赤褐・凹線・ミガキ	明赤褐・ミガキ	8341	8.31	金雲母	－
	47	D-19			深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒褐・凹線・ナデ	黒褐・ナデ	大坪	－	金雲母	－
	48				深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	にぶい褐・ミガキ	にぶい褐・ミガキ		－	金雲母	－
	49	C-17			深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	赤褐・凹線・ナデ横	明赤褐・ナデ横	8329	8.29	金雲母	－
	50	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	にぶい橙・凹線・磨耗	にぶい橙・磨耗	4850	8.03	角閃石	－
	51	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	暗褐・凹線・ナデ横	灰黄褐・ナデ横	3681	8.38	－	－
	52	C-17		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	にぶい褐・凹線・ミガキ	にぶい褐・ナデ横	8873	7.23	－	－
	53	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	褐・凹線・ナデ横	褐・ナデ横	5299	7.94	－	－
	54	C-17		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	浅黄橙・凹線・ミガキ	灰黄橙・ミガキ	8313	8.33	角閃石	－
	55			Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	明黄褐・凹線・ミガキ	黄褐・ミガキ		－	金雲母	－
	56	C-15			深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	灰白・磨耗	灰白・磨耗	オオツボ	－	－	－
	57	C-15・D-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒・凹線・磨耗	黒褐・磨耗	9025・10633	7.99	金雲母	－
第136図	58	B-14	SJ80		深鉢形土器	完形	Ⅰb類	明褐・凹線・ミガキ	明褐・ナデ		－	金雲母	28
第137図	59	C-16	SJ39下		深鉢形土器	胴部	Ⅰb類	赤褐	赤褐		－	SJ39上に浅鉢有・金雲母	28
	60	B-17			深鉢形土器	完形	Ⅰb類				－	－	37
第138図	61	C-16			深鉢形土器	－	Ⅰb類				－	－	－
	62	C-16			深鉢形土器	－	Ⅰb類				－	－	－
第139図	63	B-17			深鉢形土器	－	Ⅰb類	明褐・摩耗	明褐・摩耗		－	2㎜大の石英	29
	64	B-17			深鉢形土器	－	Ⅰb類	明赤褐	にぶい橙		－	2㎜大の石英	29
第140図	65	C-16			深鉢形土器	－	Ⅰb類	褐・条痕	褐・ナデ		－	金雲母	30



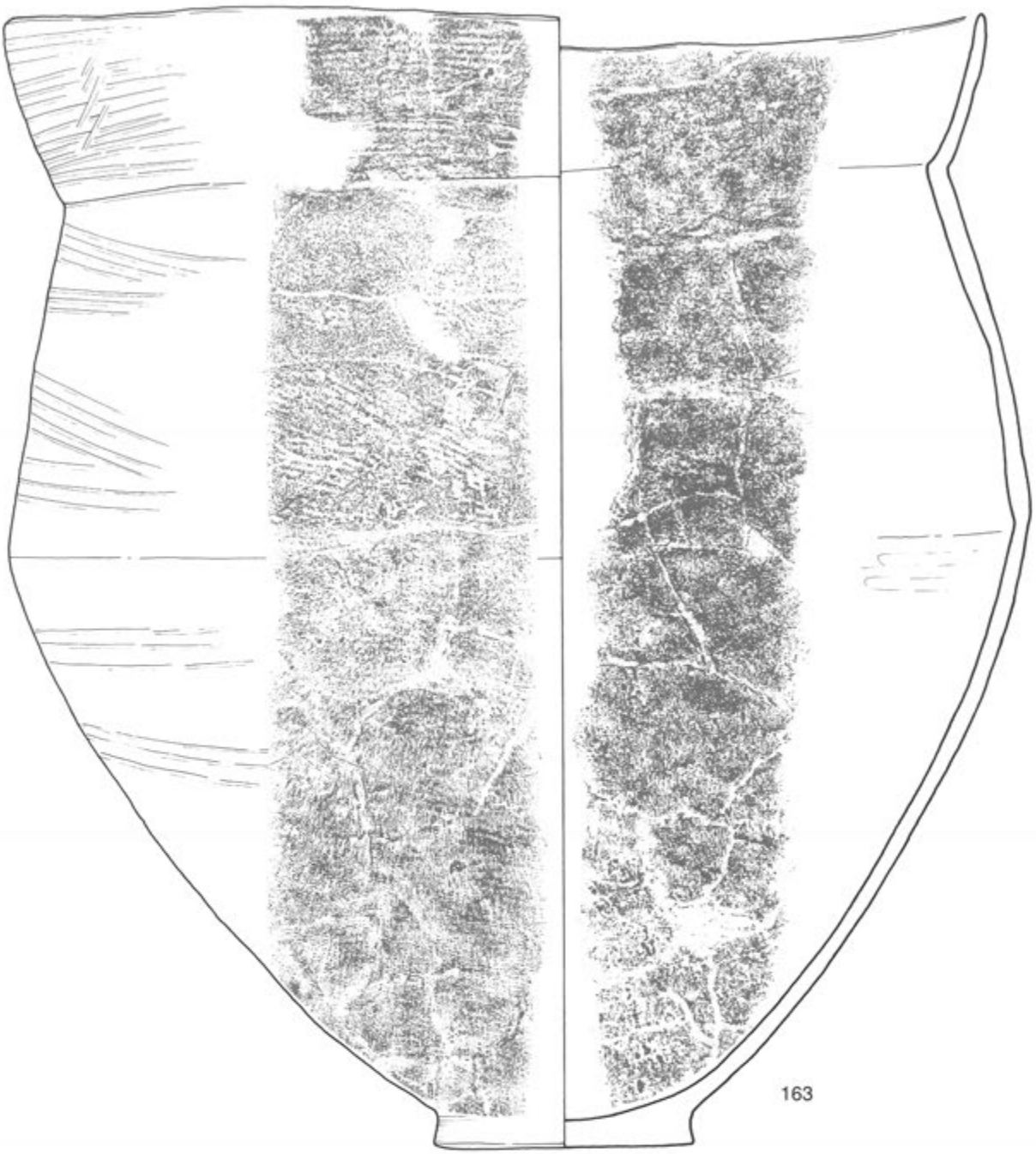
第146図　出土遺物　縄文土器(17)



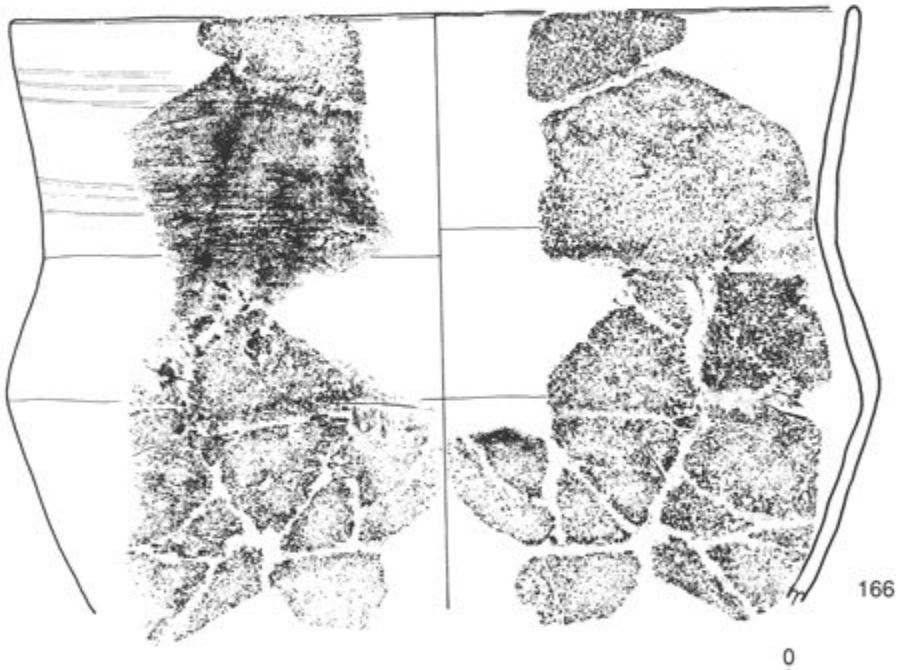
第147図　出土遺物　縄文土器(18)



第148図　出土遺物　縄文土器(19)



第149図　出土遺物　縄文土器(20)



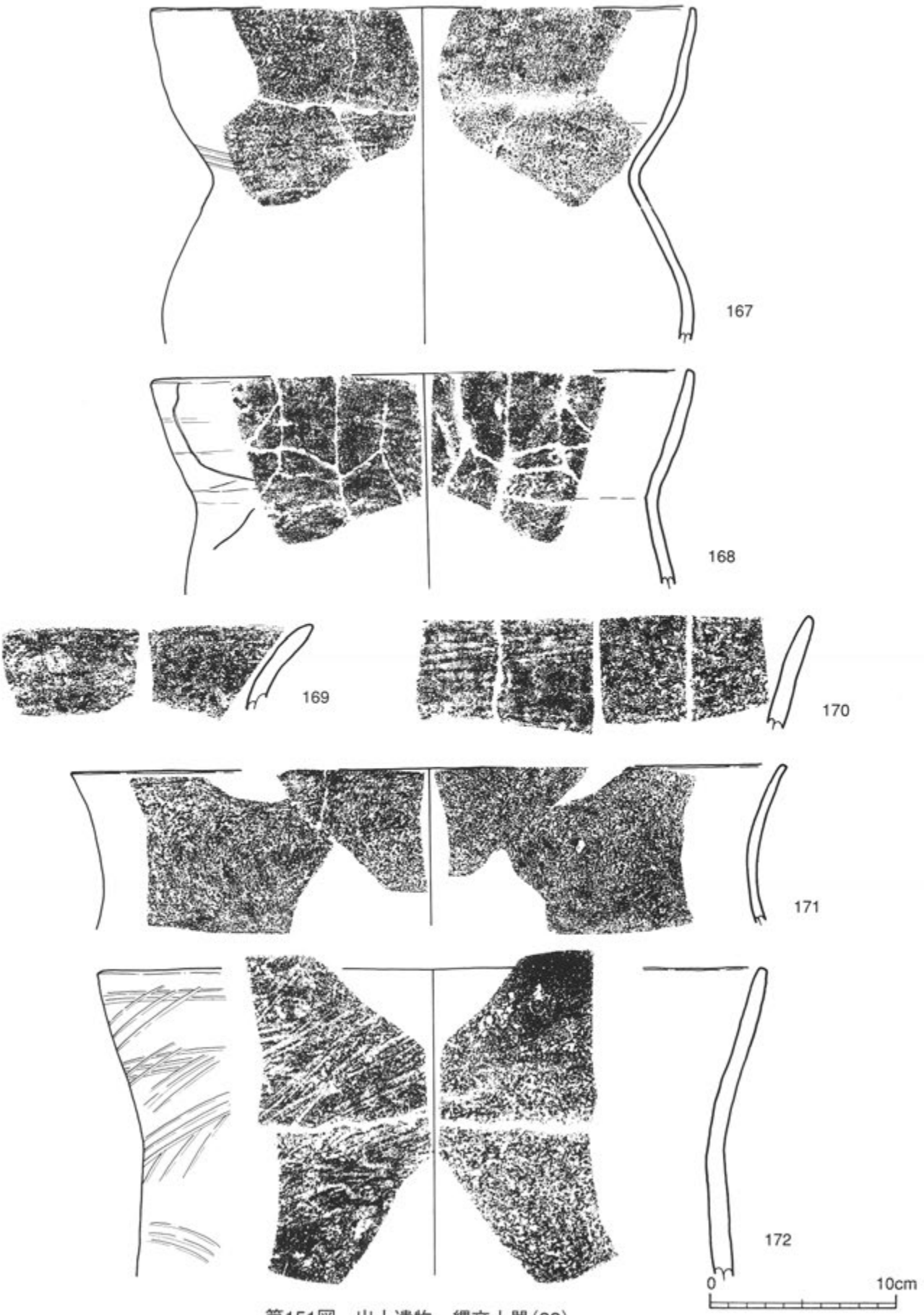
第150図　出土遺物　縄文土器(21)

表13　縄文土器観察表４

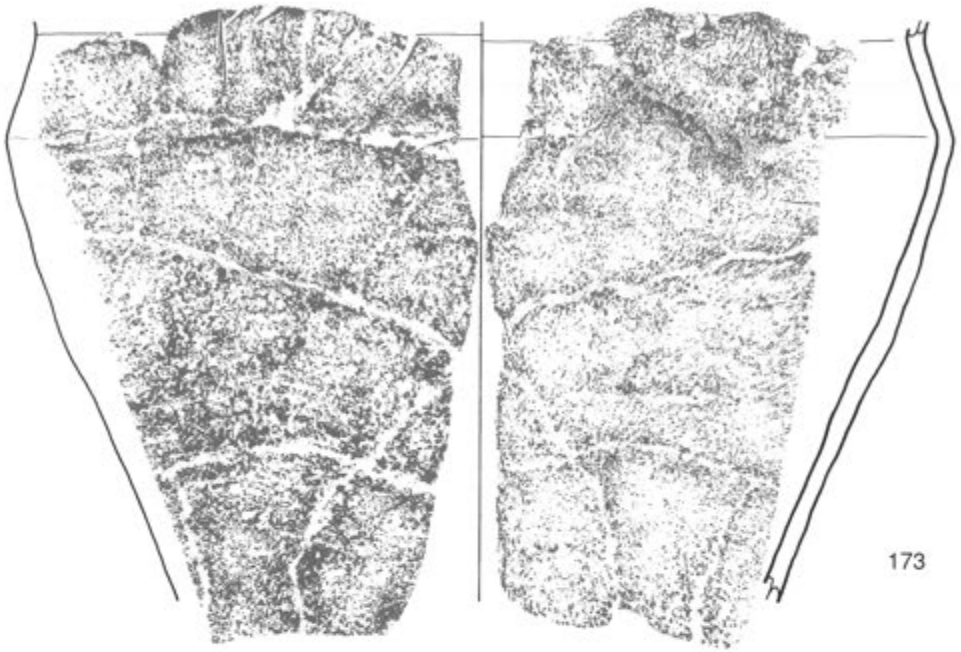
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等 外面	調整・文様・色調等 内面	取上げ番号	レベル (m)	特徴・胎土・焼成・その他 備考	写真図版
第140図	66	B-18			深鉢形土器	-	Ⅰb類				-	-	30
第141図	67	B-16			深鉢形土器	-	Ⅰb類	赤	暗赤褐		-	凝灰岩	30
	68	B-17			深鉢形土器	-	Ⅰb類	橙	にぶい赤褐		-	2㎜大の石英	31
第142図	69	D-22			深鉢形土器	-	Ⅰb類	明赤褐	明赤褐		-	凝灰岩	31
	70	B-18			深鉢形土器	-	Ⅰb類				-	-	-
第143図	71	D-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	赤褐・凹線・ミガキ	赤褐・磨耗	7679・8341	8.46	多量の金雲母・小石	-
	72	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	浅黄橙・凹線・磨耗	褐灰・磨耗	8585	7.17	金雲母・小石	-
	73				深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	浅黄橙・凹線・ナデ	黄橙・ナデ	注記ナシ	-	金雲母	-
	74	C-17	壁溝		深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	灰褐・黒・凹線・条痕・ナデ	黒褐・ナデ	大坪	-	角閃石	-
	75	D-16		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	明赤褐・凹線・ナデ	にぶい赤褐・ナデ	6152	8.07	金雲母	-
	76	C-5			深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類			大坪	-	-	-

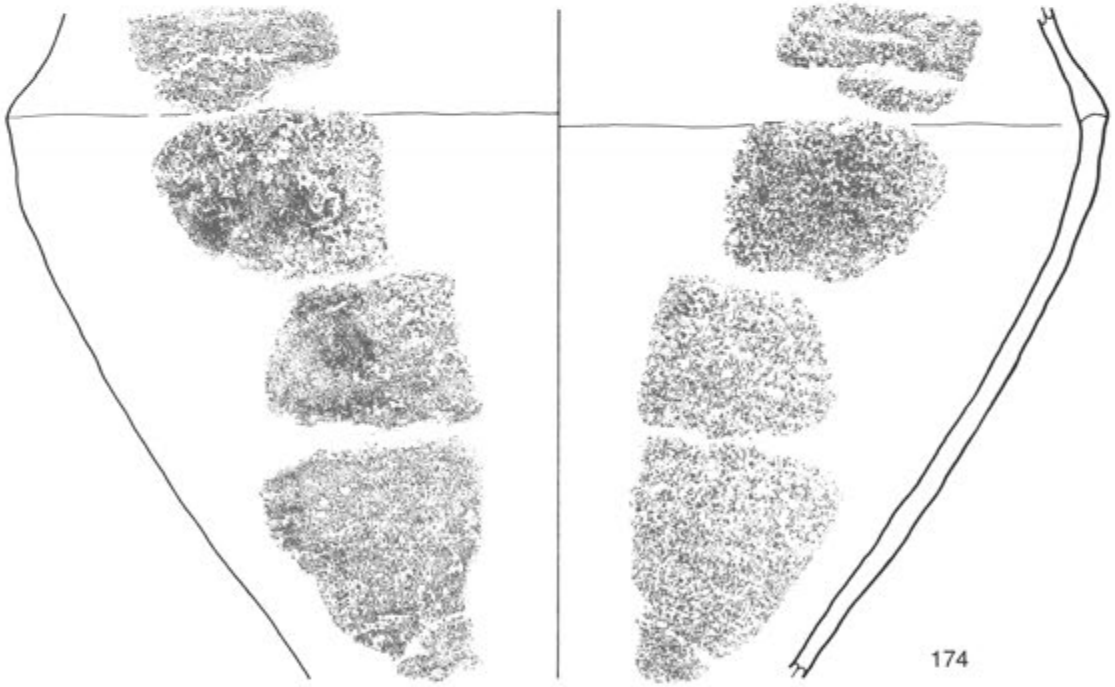
表14　縄文土器観察表５

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等 外面	調整・文様・色調等 内面	取上げ番号	レベル (m)	特徴・胎土・焼成・その他　備考	写真図版
第143図	77	C-16		Ⅱ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	明赤褐・凹線・ミガキ	褐・ミガキ	注記ナシ	－	金雲母	－
	78	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	赤褐・凹線・ミガキ	暗赤褐・ミガキ	4293	8.33	2㎜大の石英・金雲母	－
	79	D-18		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	明赤橙・凹線・ナデ	明赤橙・ナデ	4567	8.38	金雲母	－
	80	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	明赤褐	明赤褐	8386	8.25	2㎜大の石英	－
	81				深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	極暗赤褐	極暗赤褐		－	金雲母	－
	82				深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類				－	－	－
	83	C-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	暗赤褐	赤褐	9242	8.32	茶粒	－
	84				深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	褐灰・凹線・ナデ横	褐灰・磨耗		－	軽石	－
	85	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	赤褐・凹線・ナデ	赤褐・ミガキ	3923	8.41	金雲母	－
	86		ナシ		深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	黄灰・凹線・磨耗	褐灰・磨耗	大坪	－	金雲母	－
	87	D-16		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	にぶい橙・凹線・磨耗	淡橙・磨耗	6013	8.10	2㎜大の石英	－
	88	D-18		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	赤褐・凹線・ミガキ	暗赤褐・ミガキ	5429	8.40	金雲母・小石	－
	89	C-17	壁溝		深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	黒褐・凹線・ミガキ	赤褐・ミガキ	大坪	－	角閃石	－
	90	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	黒褐・凹線・ナデ	褐灰・ナデ	5128	8.39	角閃石	－
	91				深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	明赤橙・凹線・ナデ	黄灰・ナデ	大坪	－	3㎜大の石英	－
	92				深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	黒褐・凹線・ナデ	明褐・ナデ	大坪	－	2㎜大の石英	－
	93	A-32	SD146		深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	赤褐・凹線・ミガキ	褐灰・ナデ	16967	9.37	金雲母・小石	－
	94	D-18		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	灰褐・凹線・ミガキ	赤褐・ミガキ	NO252上同一3873	－	金雲母	－
	95	C-20		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	浅黄橙・凹線・ミガキ	黄橙・ミガキ	7655	8.46	金雲母	－
第144図	96	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	黒・凹線・磨耗	褐灰・ナデ	大坪	－	軽石	－
	97	D-18		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	浅黄・凹線・ミガキ	浅黄橙・ミガキ	3694	8.43	－	－
	98	C-17	壁溝		深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	赤褐・凹線・ナデ	赤褐・ナデ	NO104上同一大坪	－	石英（白）	－
	99	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	明赤褐・凹線・磨耗	赤褐・磨耗	注記ナシ	－	－	－
	100				深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	灰褐・凹線・磨耗	灰褐・ナデ	大坪	－	2㎜大の石英	－
	101	D-24	SX		深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	赤褐・凹線・ミガキ	にぶい橙・磨耗	11610	8.42	金雲母	－
	102	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類			9695・16544	8.34	－	－
	103	D-17		Ⅲ	深鉢形土器	実測班	Ⅰb類	赤褐・沈線・ミガキ	褐灰・ナデ	7676	8.37	凝灰岩	－
	104	C-17		Ⅱ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	赤褐	赤褐	NO251と同一	－	多量の砂粒	－
	105	C-5		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	にぶい赤褐	にぶい赤褐	大坪	－	多量の砂粒	－
	106	C-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	赤褐・沈線・ミガキ	赤褐・ミガキ	12130	8.95	金雲母・小石	－
	107	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	にぶい橙・凹線・磨耗	褐灰・磨耗	8414	8.33	金雲母・小石	－
	108	D-21		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	黒褐・凹線・ミガキ	赤褐・ミガキ	10829	8.44	金雲母	－
	109	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	明赤褐	明赤褐	大坪	－	金雲母	－
	110	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	実測班	Ⅰb類	淡橙・沈線・ナデ	橙・ナデ	10858	8.82	凝灰岩	－
	111	D-13		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	にぶい橙・凹線・ナデ	にぶい赤褐・ミガキ	676	8.30	凝灰岩	－
	112	C-17		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	にぶい 赤褐・磨耗	にぶい 赤褐・磨耗	8793	7.26	金雲母・小石	－
第145図	113	B-21	SJ130		深鉢形土器	－	Ⅱa類	にぶい赤褐	にぶい赤褐		－	角閃石	31
第146図	114	C-17		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐・凹線・磨耗	黒褐・磨耗	8580	7.27	多量の砂粒	－
	115	C-17		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	褐・ミガキ	黒褐・ミガキ	8796	7.31	金雲母・小石	－
	116	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	浅黄橙・沈線・ナデ	灰褐・ミガキ	NO268と同一	－	金雲母・小石	－
	117	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	灰赤・凹線・磨耗	明褐・磨耗	大坪	－	2㎜大の石英	－
	118	D-18		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	赤褐・凹線・ナデ	赤褐・ナデ	3906	8.45	金雲母・小石	－
	119	C-17			深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黄橙・凹線・ミガキ	浅黄橙・ミガキ	大坪	－	金雲母・小石	－
	120	B-15			深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐・凹線・磨耗	黒褐・磨耗	注記ナシ	－	凝灰岩	－
	121	C-24		Ⅳ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐・凹線・ミガキ	黒・ミガキ	12450	8.20	角閃石	－
	122	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	赤褐・ナデ横	赤褐・ナデ横	14516	8.14	軽石	－
	123	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐・凹線・ミガキ	赤褐・ミガキ	6908	8.15	金雲母・小石	－
	124	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	赤褐・凹線・磨耗	暗赤褐・磨耗	4948	8.20	軽石	－
	125	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	にぶい 赤褐・磨耗	黒褐・磨耗	大坪	－	金雲母・小石	－
	126	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	赤褐・凹線・ミガキ	明赤褐・ナデ	1424？1724？	0.00	金雲母・小石	－
	127	D-24			深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	暗褐・凹線・ミガキ	褐・ナデ横		－	金雲母・小石	－
	128	C-23		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐・凹線・ミガキ	褐灰・ナデ	12958	8.94	－	－
	129	D-17		Ⅱ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	にぶい赤褐・凹線・磨耗	にぶい 赤褐・磨耗	1686	8.43	軽石	－
	130	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	灰白・凹線・磨耗	灰白・磨耗	3609	8.41	金雲母・小石	－
	131	大坪			深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	明赤褐・凹線・磨耗	にぶい 赤褐・ナデ		－	金雲母・小石	－
	132	C-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	褐灰・磨耗	黒・磨耗	12973	8.79	小石	－
	133	D-23		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	明褐・凹線・磨耗	明褐・磨耗	10653	8.77	－	－
	134	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐・磨耗	明褐灰・磨耗	3910	8.38	2㎜大の石英	－
	135	B-18		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	にぶい 黄橙・ナデ	にぶい 黄橙・ナデ	8513	－	金雲母・小石	－
	136	D-18		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	明赤橙・磨耗	浅黄橙・磨耗	3908	8.44	金雲母・小石	－
	137	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒・磨耗	明赤橙・磨耗	8374	8.21	金雲母・小石・菱形文	－
第147図	138	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐・沈線・ナデ	褐・ナデ	15386	8.81	凝灰岩	－
	139	D-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	暗赤褐・凹線・磨耗	赤褐・磨耗	10627	8.45	軽石・凝灰岩	－
	140	A-34		Ⅱ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	淡橙・ナデ	黒褐・ナデ		－	2㎜大の石英	－
	141	B-23	SK169		深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐・凹線・ナデ	黒褐・磨耗	大坪	－	小石	－
	142	A-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	赤褐・凹線・ナデ	にぶい 赤褐・ナデ	14709	8.89	金雲母・小石	－
	143	C-17		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	にぶい 橙・ナデ	にぶい 橙・ナデ	5855	8.39	金雲母・小石	－
	144	C-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	明赤褐・ナデ	暗赤褐・ナデ	12354	8.88	茶粒	－
	145	D-21		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	赤褐・ミガキ	暗赤褐・磨耗	10553	8.54	金雲母	－
	146	C-18			深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	淡橙・ナデ	橙・ナデ	注記ナシ	－	金雲母・小石	－
	147	B-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	褐灰・ナデ	褐灰・ナデ	15922・15929	8.90	軽石	－
	148	D-21		Ⅳ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐・ナデ	黒褐・ナデ	16552	9.61	金雲母・小石	－
	149	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	明赤褐・貝殻条痕	明赤褐・ナデ	大坪	－	金雲母・小石	－
	150	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	暗赤褐・貝殻条痕	赤褐・磨耗	10858	8.82	金雲母	－
	151	C-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	灰褐・磨耗	灰褐・磨耗	8120	8.08	－	－
	152	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	灰黄橙・磨耗	黒・磨耗	1347	8.16	－	－
第148図	153	A-35		Ⅳ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	暗赤橙・ナデ	赤褐・ナデ	17074	9.15	金雲母・外面重弧文	－
	154	D-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐・磨耗	黒・磨耗	7419	8.33	外面重弧文	－
	155	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	暗褐・ナデ	褐・ナデ	13098	8.72	角閃石・外面重弧文	－
	156	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	橙・ナデ	褐灰・磨耗	257	8.10	外面重弧文・石英	－
	157	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	赤褐・丁寧なナデ	黒褐・丁寧なナデ	16544	9.22	外面重弧文	－
	158	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部か？	Ⅱa類	灰黄褐・凹線・ナデ横	灰黄褐・ナデ	13370	8.74	凝灰岩	－
	159				深鉢形土器	－	Ⅱa類	赤褐・貝殻条痕	明赤褐・摩耗	大坪	－	金雲母	－

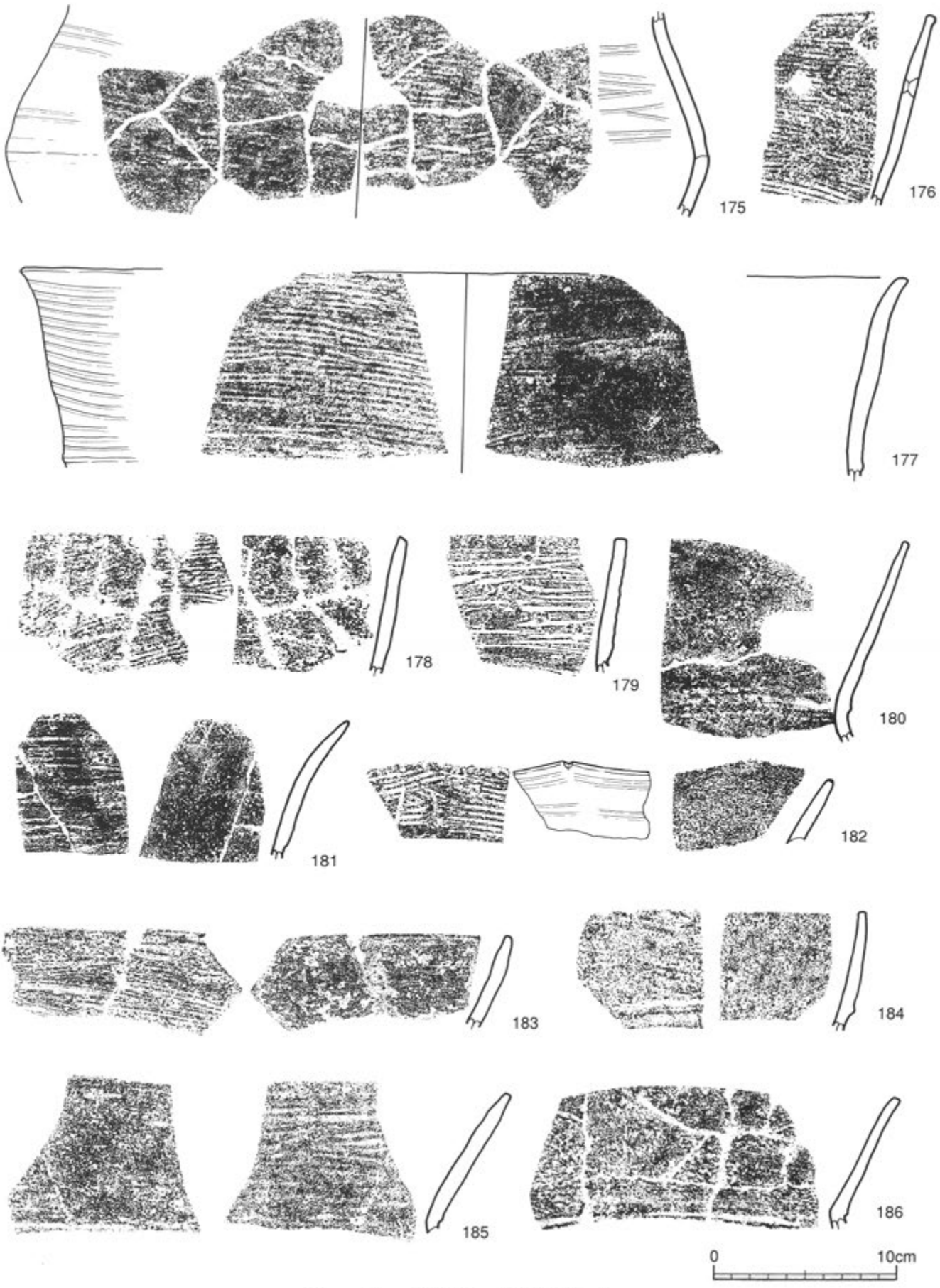


第151図　出土遺物　縄文土器(22)

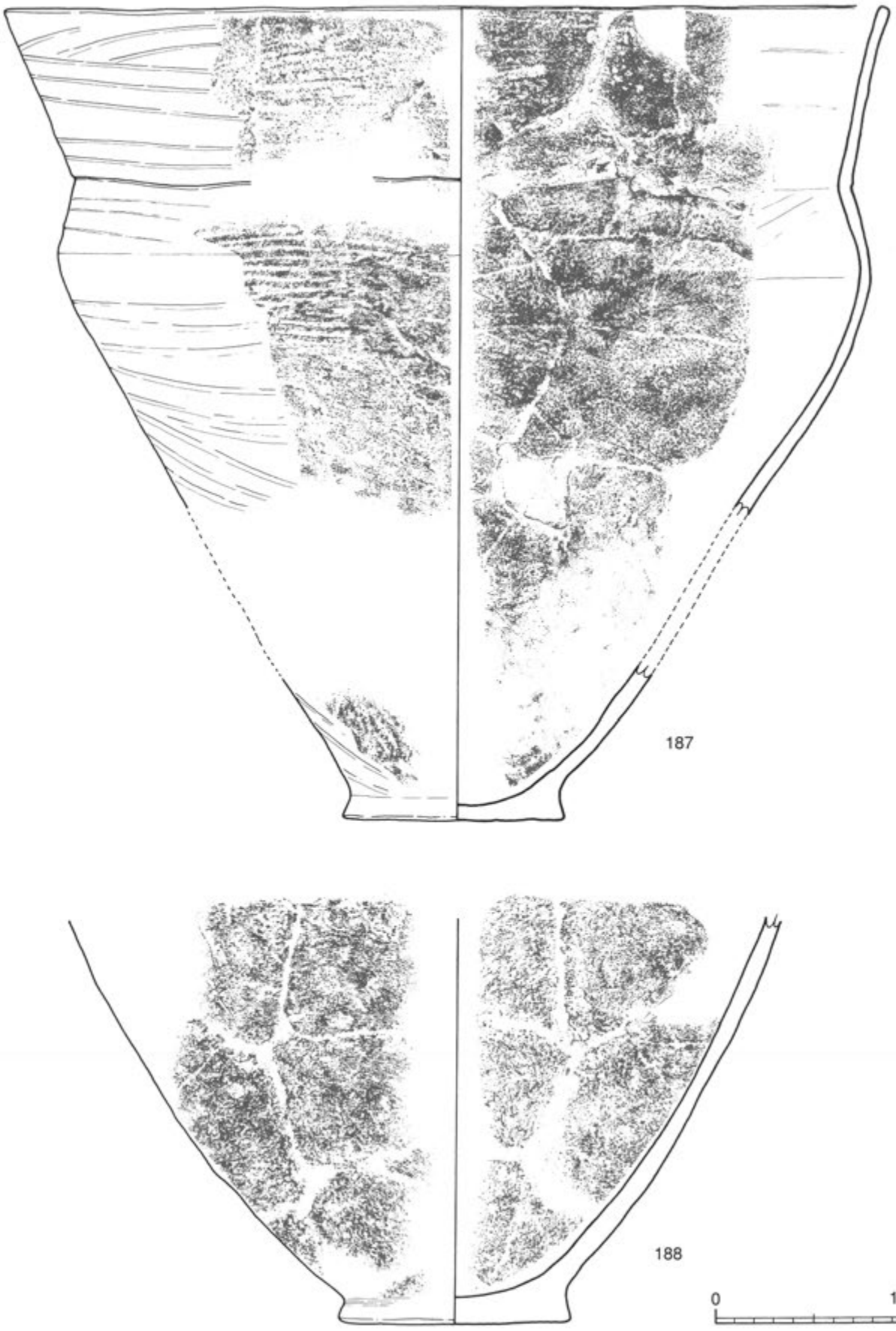




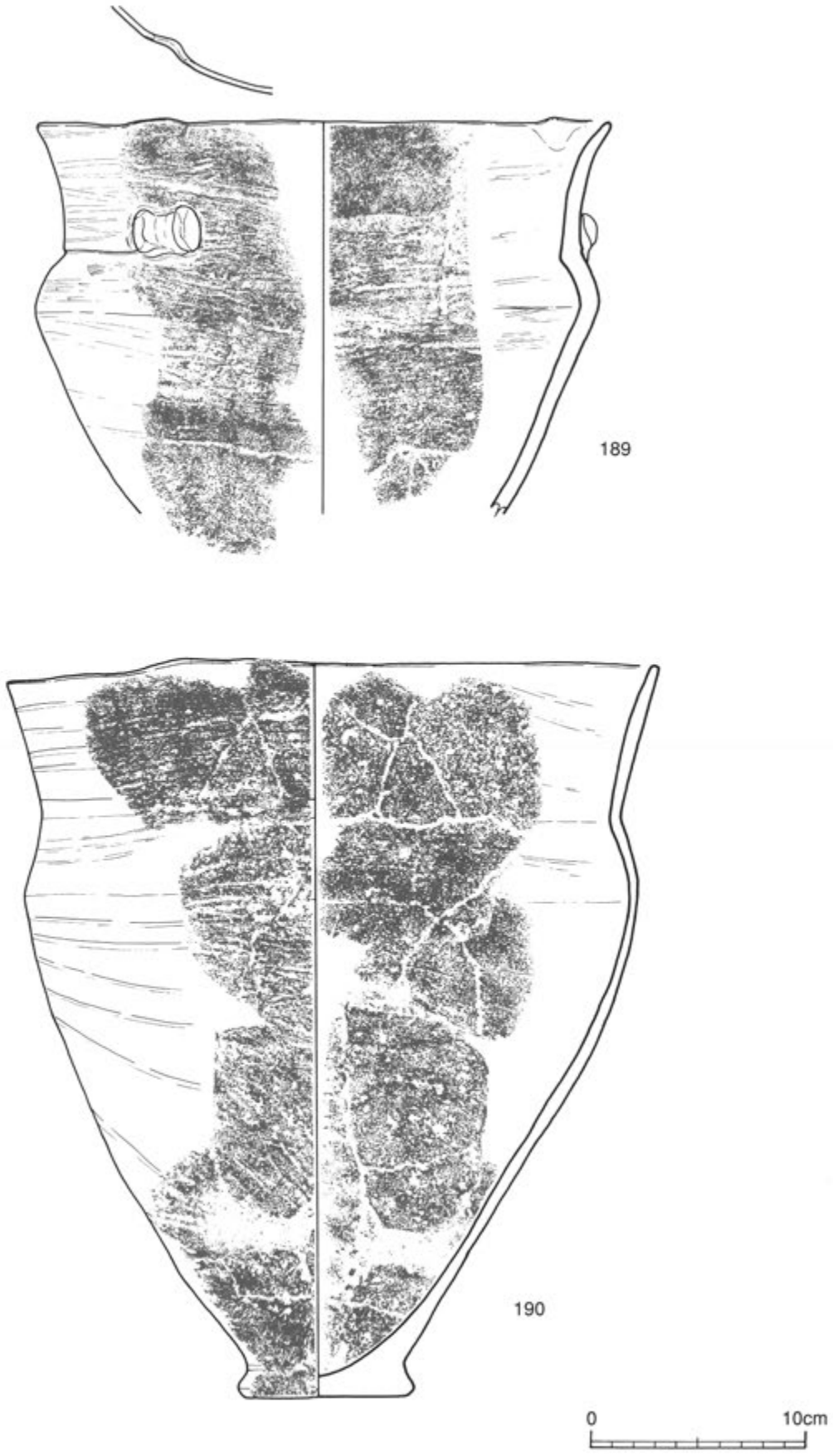
第152図　出土遺物　縄文土器(23)



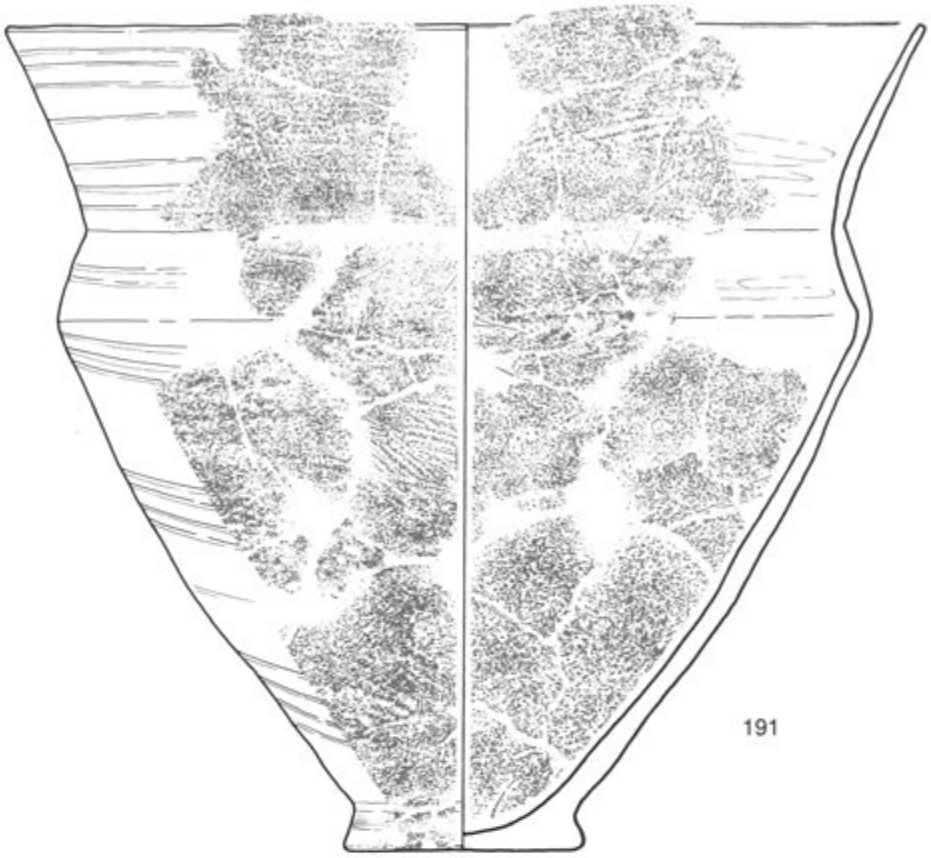
第153図　出土遺物　縄文土器(24)



第154図　出土遺物　縄文土器(25)



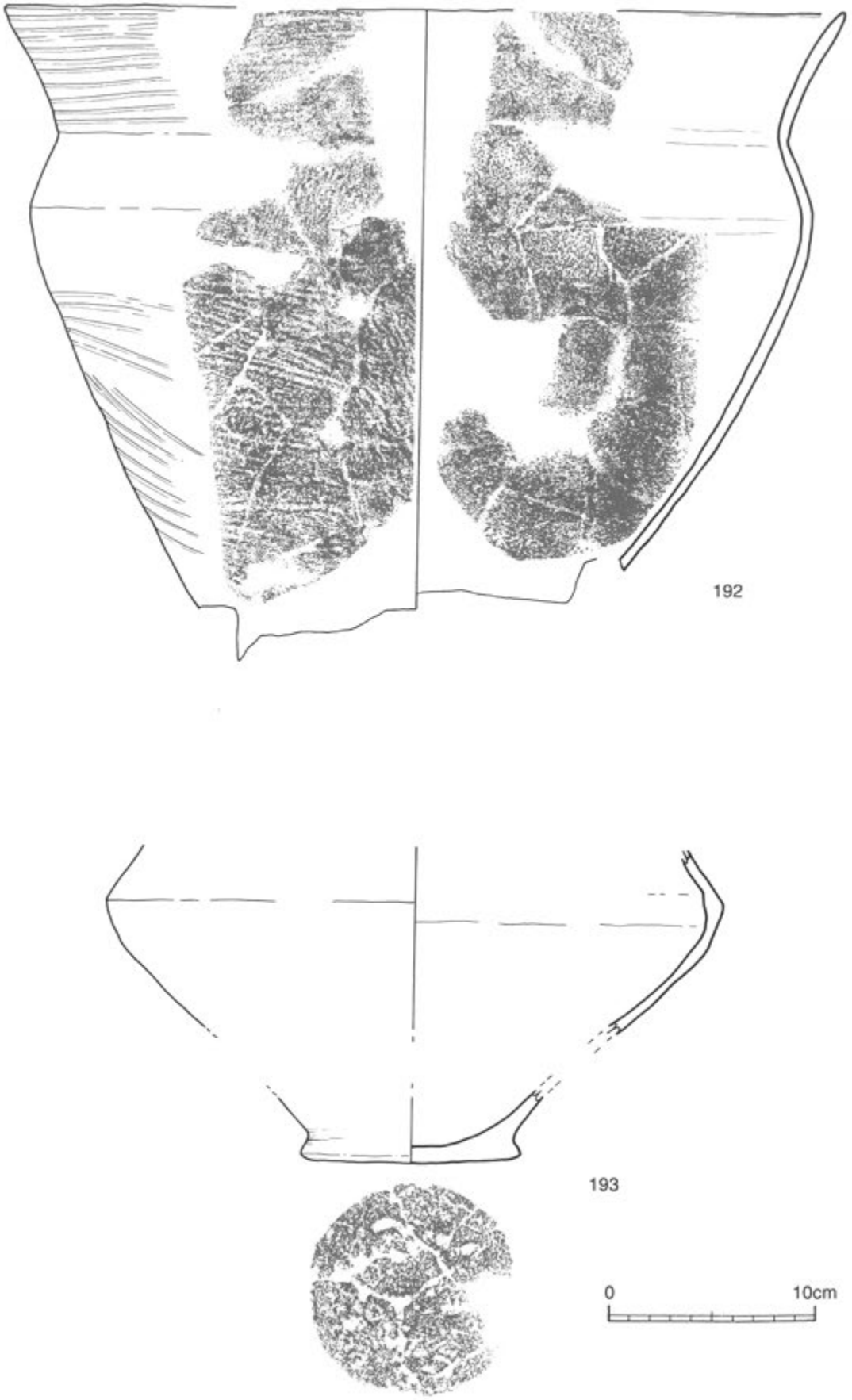
第155図　出土遺物　縄文土器(26)



第156図　出土遺物　縄文土器(27)

表15　縄文土器観察表 6

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等 外面	調整・文様・色調等 内面	取上げ番号	レベル (m)	特徴・胎土・焼成・その他 備考	写真図版
第148図	160				深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	灰褐・条痕・ナデ	にぶい赤褐・ナデ	大坪	—	凝灰岩	—
	161	B-16		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	褐・凹線・磨耗	灰白・磨耗	12663	8.34	半透明の石英・凝灰岩	—
	162	C-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	赤褐・条痕・ナデ	黒・ミガキ	11242	8.58	金雲母	—
第149図	163	B-25			深鉢形土器	完形	Ⅱb類	浅黄・条痕	浅黄・条痕		—	金雲母	33
	164	D-21			深鉢形土器	—	Ⅱb類	にぶい橙・条痕	にぶい橙		—	金雲母	33
第150図	165	B-23			深鉢形土器	—	Ⅱb類				—	—	—
	166	B-21		Ⅲ	深鉢形土器	—	Ⅱb類				—	—	—
第151図	167	C-24	SX		深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類			NO358同一	—	—	—
	168	C-24	SX		深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類				—	—	—
	169				深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類				—	—	—
	170				深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類				—	—	—
	171	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類			552	8.07	—	—
	172	C-24		Ⅳ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類			12423	8.00	—	—
第152図	173	B-4	見SJ 5		深鉢形土器	—	Ⅱb類	赤褐	にぶい赤褐		—	金雲母	34
	174	D-2	見SJ84		深鉢形土器	—	Ⅱb類	にぶい赤褐	にぶい赤褐		—	2㎜大の石英	33
第153図	175	A-22		Ⅲ	深鉢形土器	胴部	Ⅱb類	黒褐・ミガキ	褐灰・条痕	14719	8.76	—	—
	176	A-35			深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	暗赤・貝殻条痕	暗赤・ミガキ		—	側面部に穿孔	—
	177	A-35			深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	赤褐・貝殻条痕	赤褐・条痕		—	—	—
	178				深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	赤褐・条痕	赤褐・条痕	榎木田	—	—	—
	179	B-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	赤褐・沈線	灰白・磨耗	8512	—	金雲母	—
	180	C-17		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	にぶい橙・ナデ	橙・ナデ	8595	7.20	—	—
	181	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	明赤褐・条痕	淡赤橙・ナデ	13318	8.77	—	—
	182				深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	赤黒・貝殻条痕	暗赤褐・ミガキ		—	金雲母	—
	183	D-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	赤褐・条痕	赤褐・ナデ	16817	9.42	—	—
	184	D-23		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	にぶい橙・摩耗	にぶい橙・摩耗	10684	8.68	—	—
	185	B-22	SD43	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	明褐灰・摩耗	褐灰・貝殻条痕	13400	8.86	—	—
	186	C-21		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	灰白・条痕	黒・ミガキ	11269	8.49	—	—
第154図	187	C-20	SJ47		深鉢形土器	完形	Ⅲ類	明褐・条痕	明褐・条痕		—	—	35
	188	D-21	SJ46B		深鉢形土器	—	Ⅲ類	明褐・条痕	明褐・条痕		—	金雲母・底部木ノ葉状圧痕	33
第155図	189	B-21	SJ131A		深鉢形土器	口縁部～胴部	Ⅲ類	浅黄・リボン・条痕	浅黄・ナデ		—	金雲母・角閃石	34
	190	B-21	SJ131B		深鉢形土器	—	Ⅲ類	赤褐・条痕	赤褐・ナデ		—	2㎜大の石英	34
第156図	191	B-21	SJ126		深鉢形土器	—	Ⅲ類	赤褐・条痕	赤褐・ナデ		—	2㎜大の石英	36
第157図	192	B-21	SJ125		深鉢形土器	—	Ⅲ類	赤・条痕	赤・ナデ		—	2㎜大の石英	—

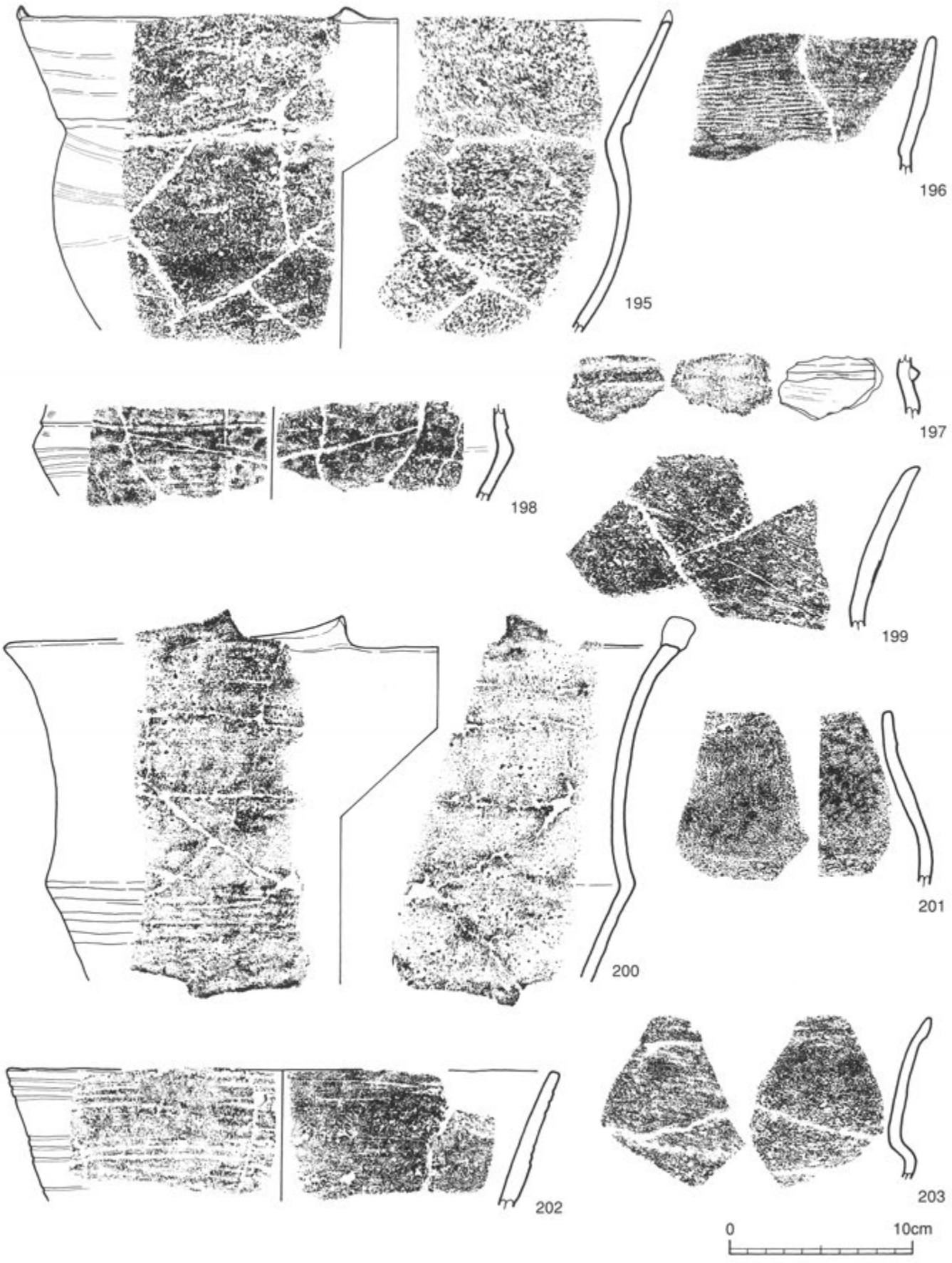


第157図　出土遺物　縄文土器(28)

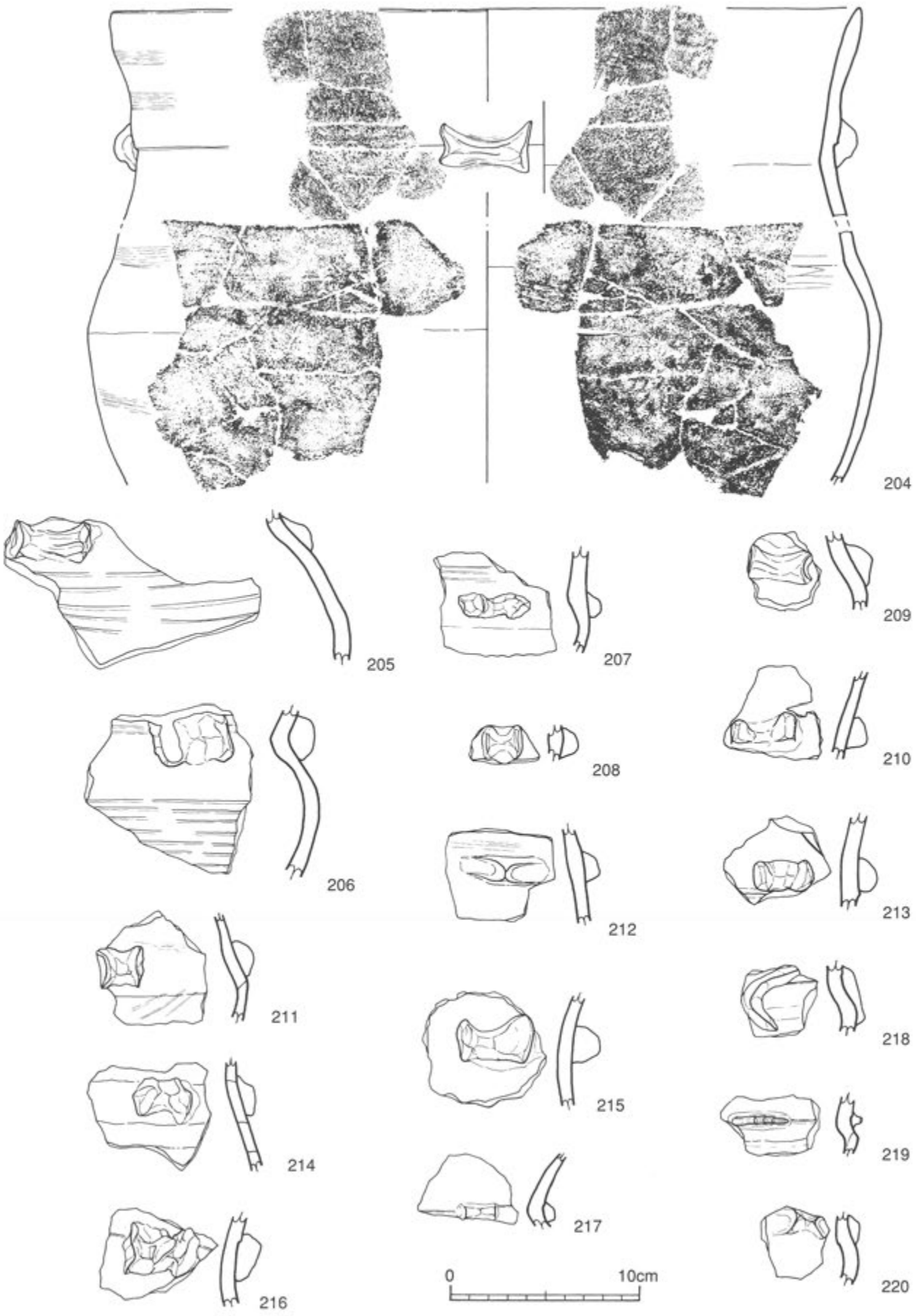
第158図　出土遺物　縄文土器(29)

表16　縄文土器観察表７

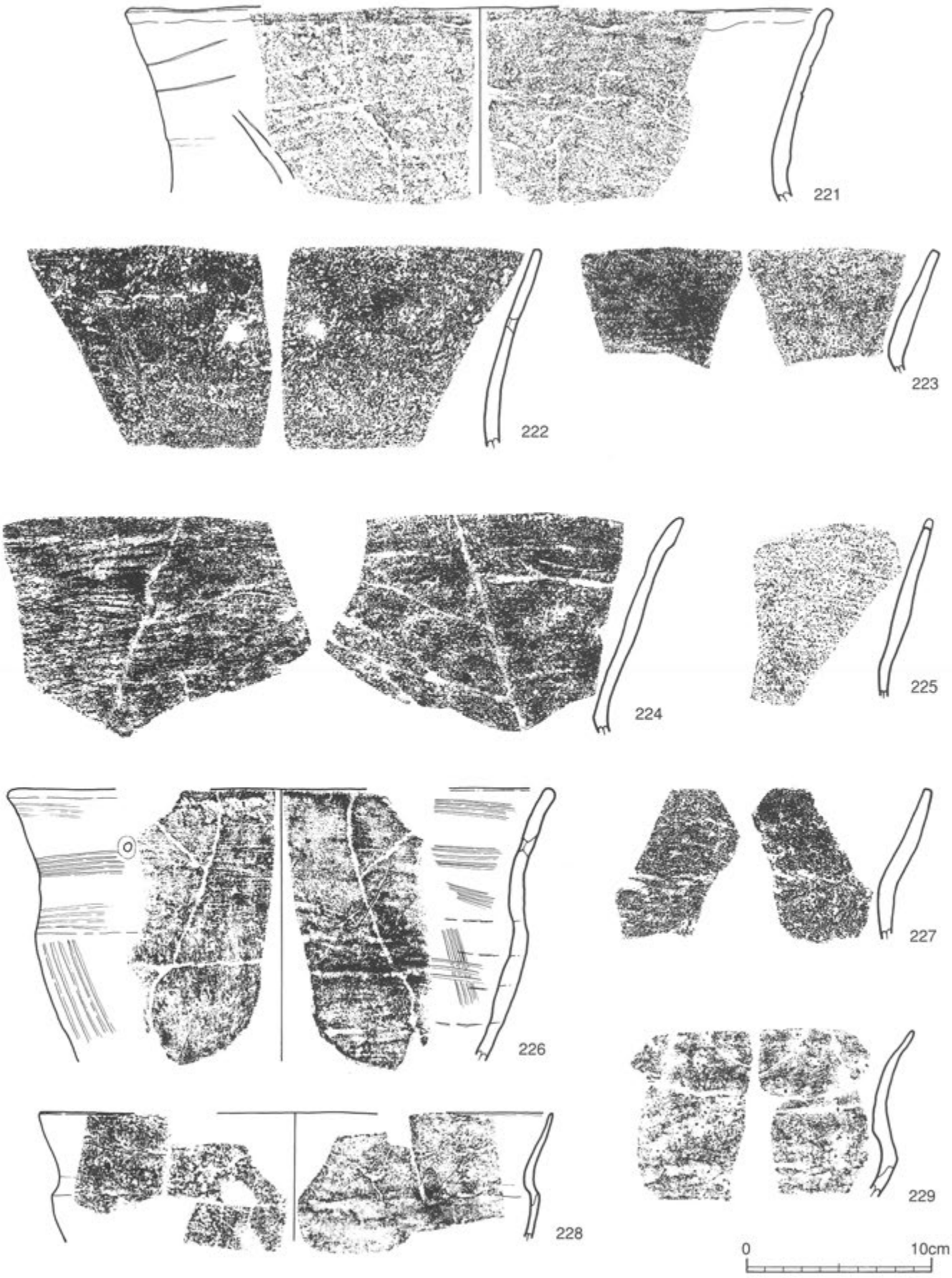
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等 外面	調整・文様・色調等 内面	取上げ番号	レベル (m)	特徴・胎土・焼成・その他　備考	写真図版
第157図	193	C-22	SJ51		深鉢形土器	-	Ⅲ類	橙	橙		―	金雲母・茶粒	36
第158図	194	D-20	SJ11		深鉢形土器	完形	Ⅲ類	にぶい橙・条痕	にぶい橙		―	凝灰岩	35
第159図	195				深鉢形土器	口縁部	Ⅲ類	黒褐・粗いナデ	褐灰・摩耗		―	-	-
	196				深鉢形土器	口縁部	Ⅲ類	にぶい橙・貝殻条痕	黒褐・ナデ	大坪	―	-	-
	197				深鉢形土器	胴部	Ⅲ類	赤褐・ナデ	灰褐・磨耗	大坪	―	-	-
	198	C-23		Ⅲ	深鉢形土器	胴部	Ⅲ類	にぶい赤褐・条痕	にぶい赤褐・丁寧なナデ	12940	8.88	-	-
	199	B-25			深鉢形土器	口縁部	Ⅲ類	赤褐・丁寧なナデ	赤褐・丁寧なナデ	大坪	―	-	-
	200	B-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅲ類	赤褐・貝殻条痕	黒褐・摩耗	14155	8.25	-	-
	201	A-35			深鉢形土器	口縁部	Ⅲ類	褐・摩耗	にぶい褐・ナデ		―	-	-
	202	B-23		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅲ類	赤褐・貝殻条痕	暗赤灰・ナデ	15980	8.62	-	-
	203	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅲ類	明褐灰・条痕	黒・ナデ	7317	8.35	-	-
第160図	204	B-23		Ⅲ	深鉢形土器	その他	Ⅲ類	明赤褐	にぶい赤褐	15113	8.78	金雲母・小石	-
	205	D-18			深鉢形土器	その他	Ⅲ類	浅黄橙・条痕	浅黄橙	大坪	―	3㎜大の石英	-
	206				深鉢形土器	その他	Ⅲ類	赤褐・条痕	暗赤灰	大坪	―	2㎜大の石英	-
	207	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	その他	Ⅲ類	明赤褐	にぶい橙	1330	8.18	角閃石・半透明の石英	-
	208	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	その他	Ⅲ類	暗赤灰	赤褐	14993	8.63	-	-
	209	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	その他	Ⅲ類	にぶい橙	橙	16497	9.55	角閃石・2㎜大の石英	-
	210				深鉢形土器	その他	Ⅲ類	浅黄橙	褐灰		―	半透明の石英	-



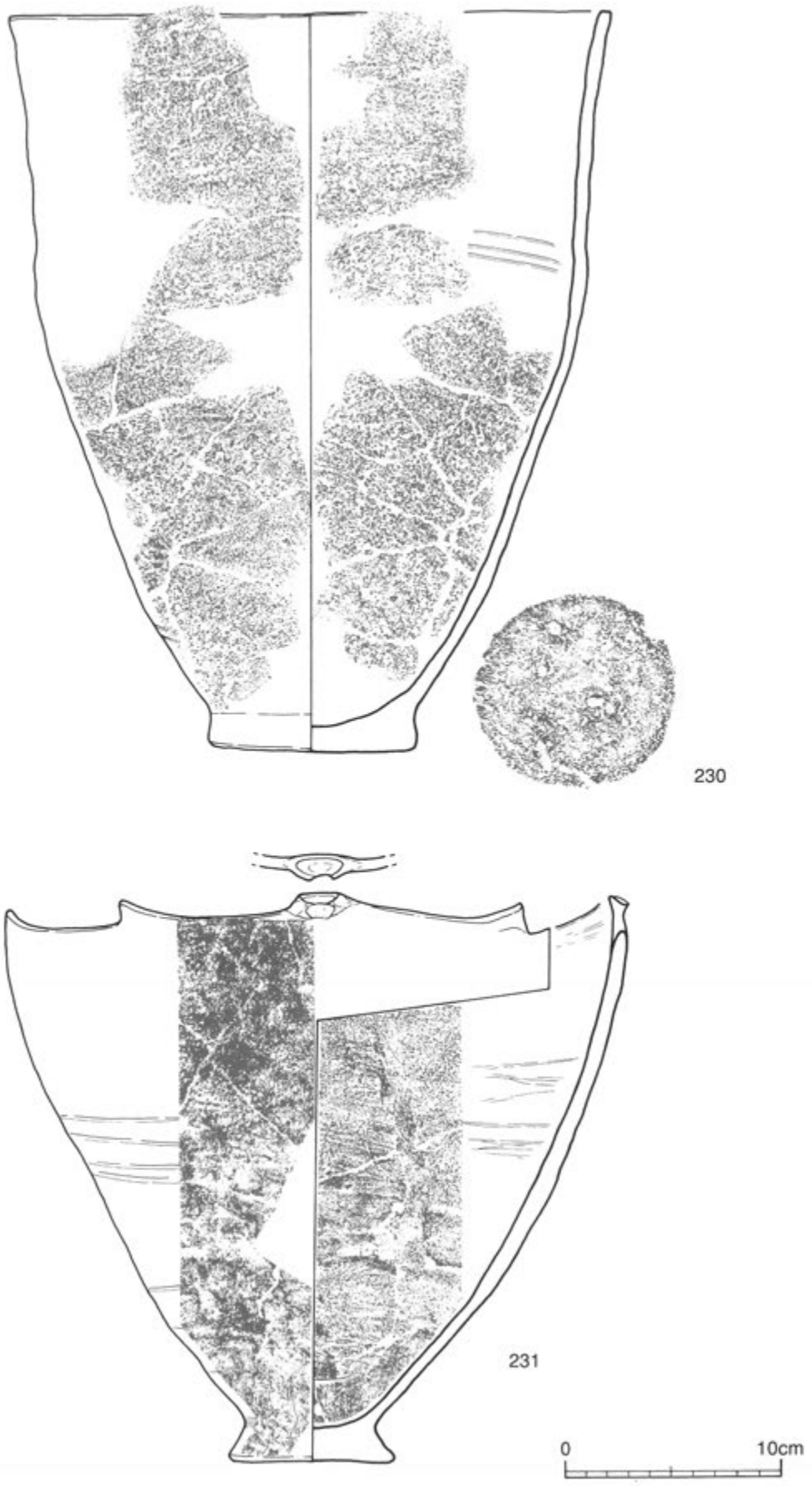
第159図　出土遺物　縄文土器(30)



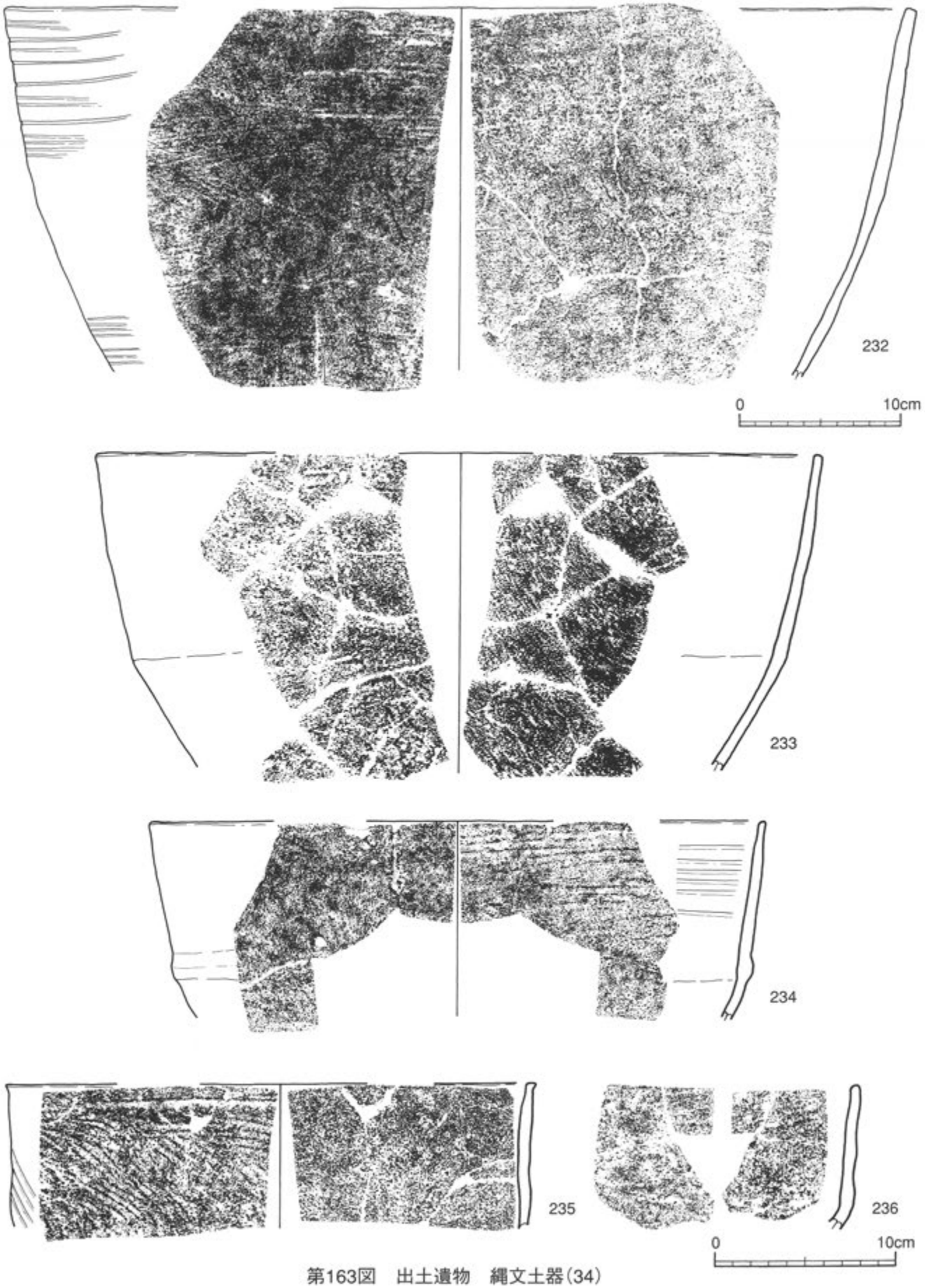
第160図　出土遺物　縄文土器(31)



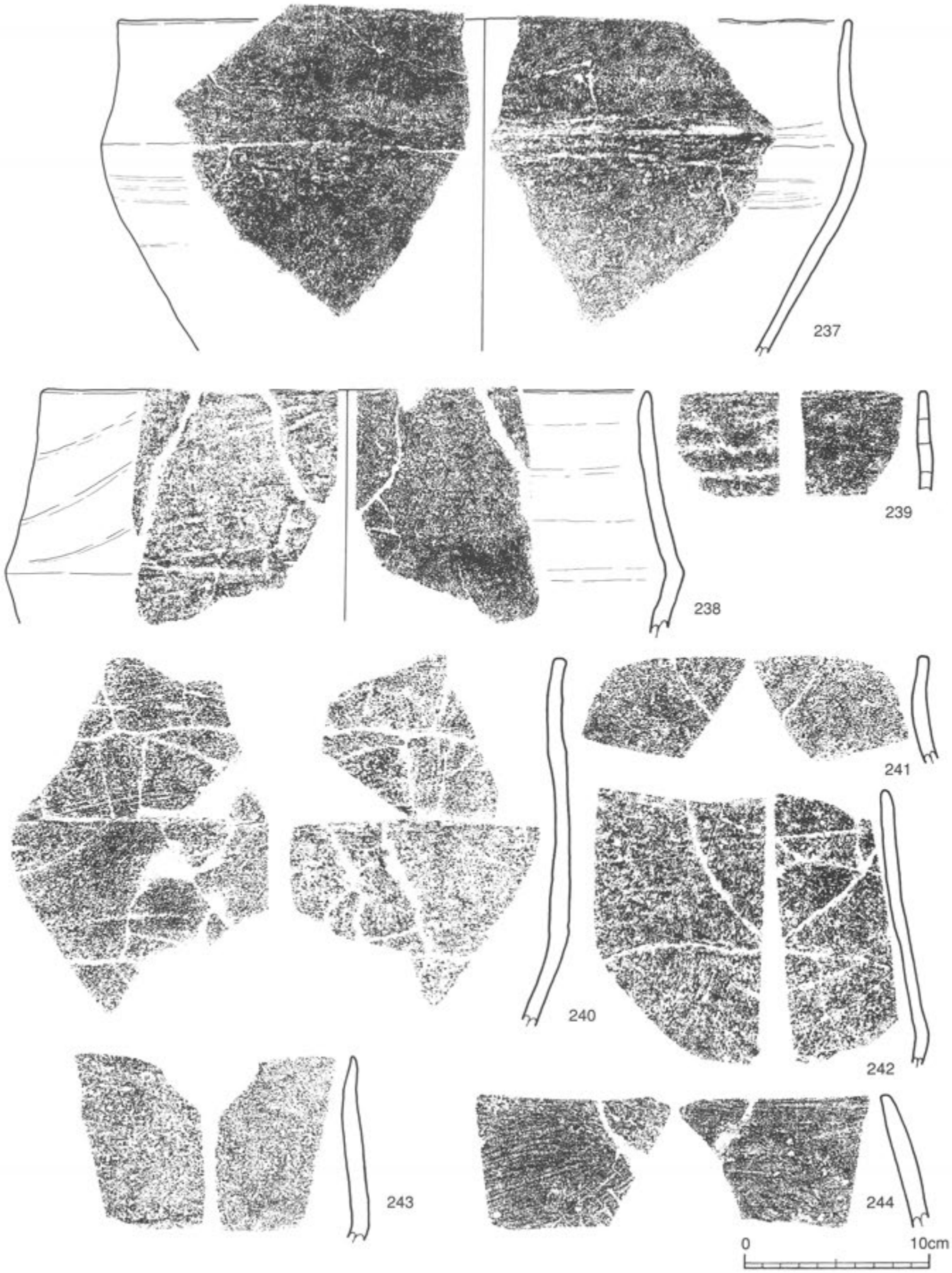
第161図　出土遺物　縄文土器(32)



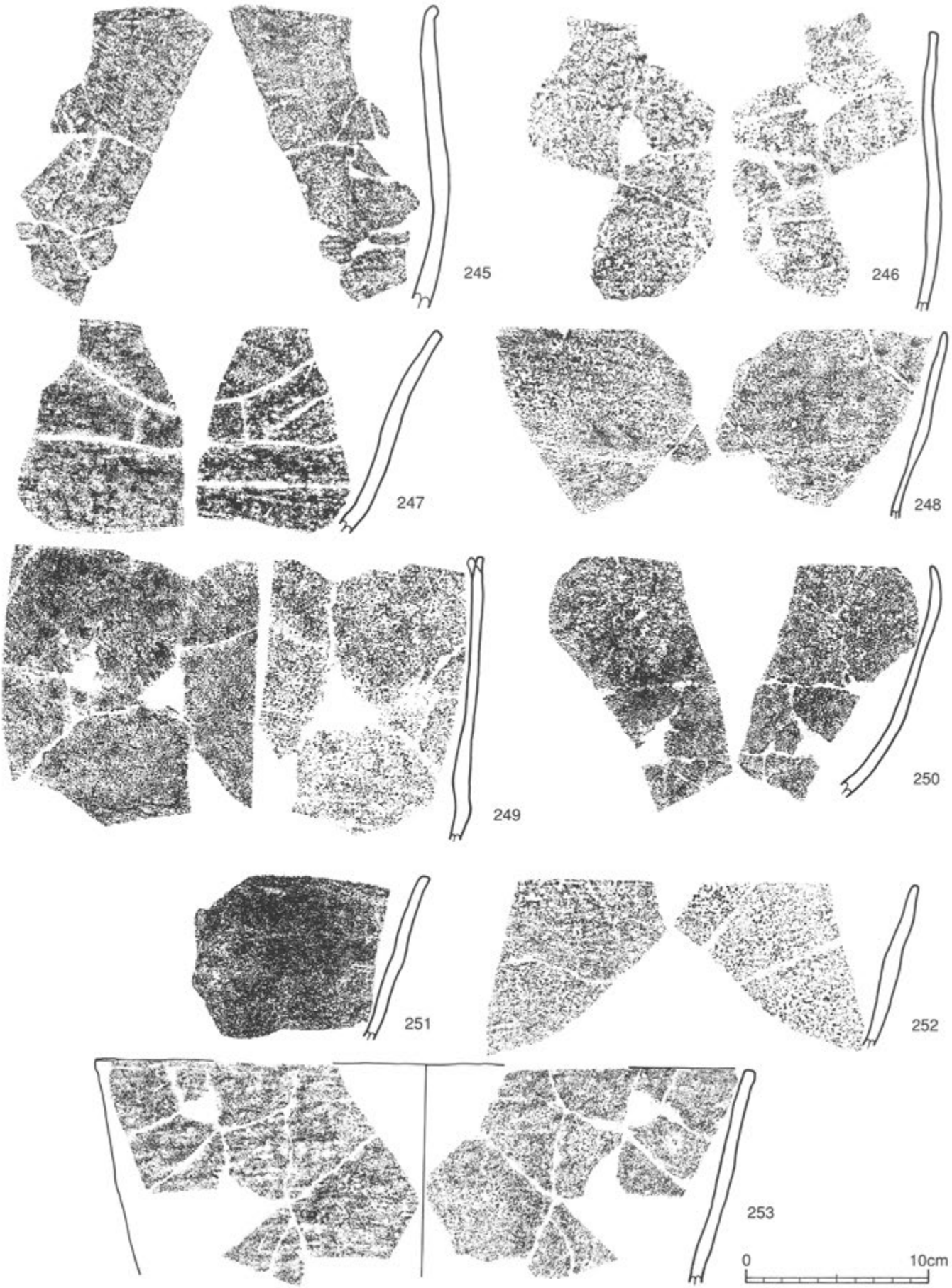
第162図　出土遺物　縄文土器(33)



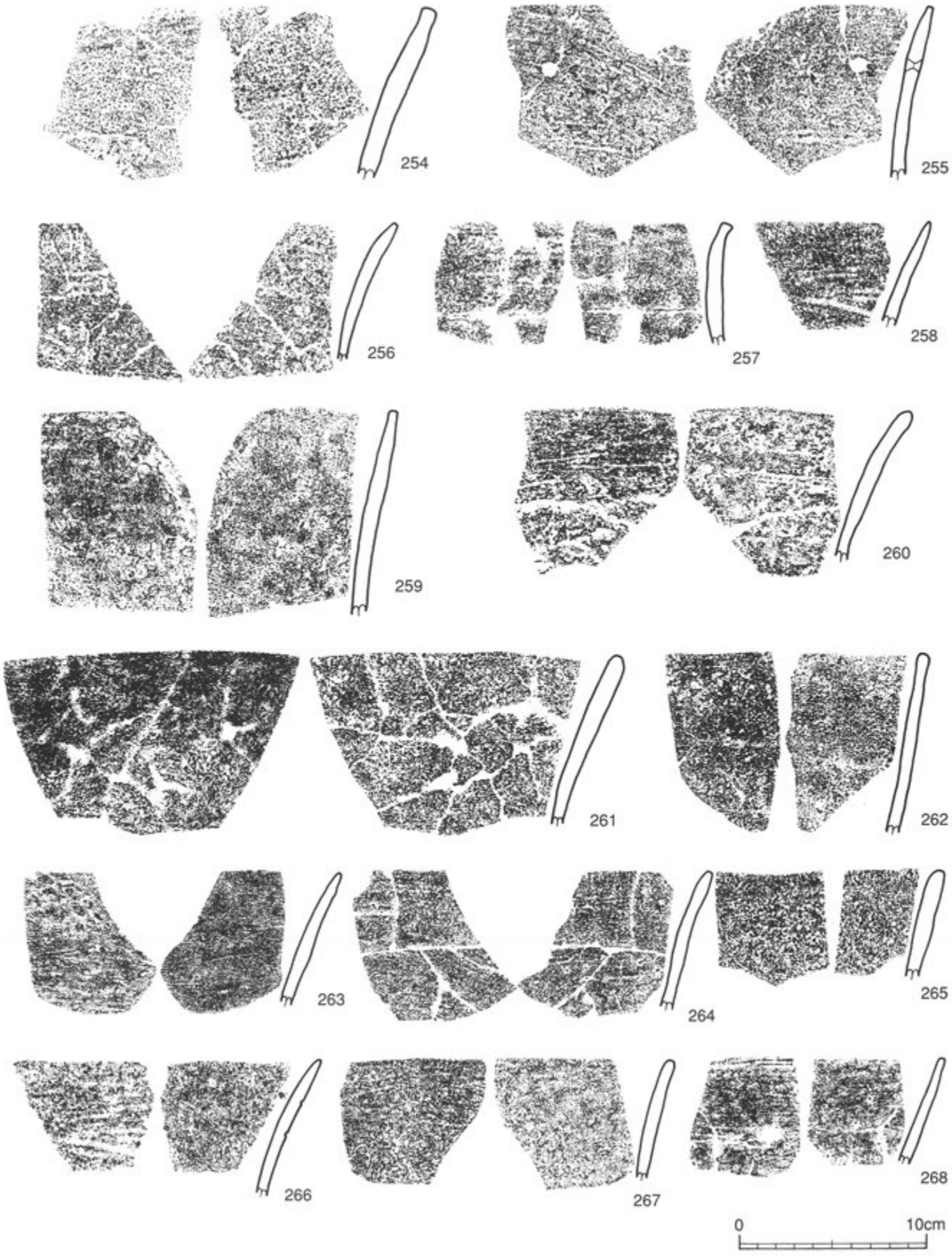
第163図　出土遺物　縄文土器(34)



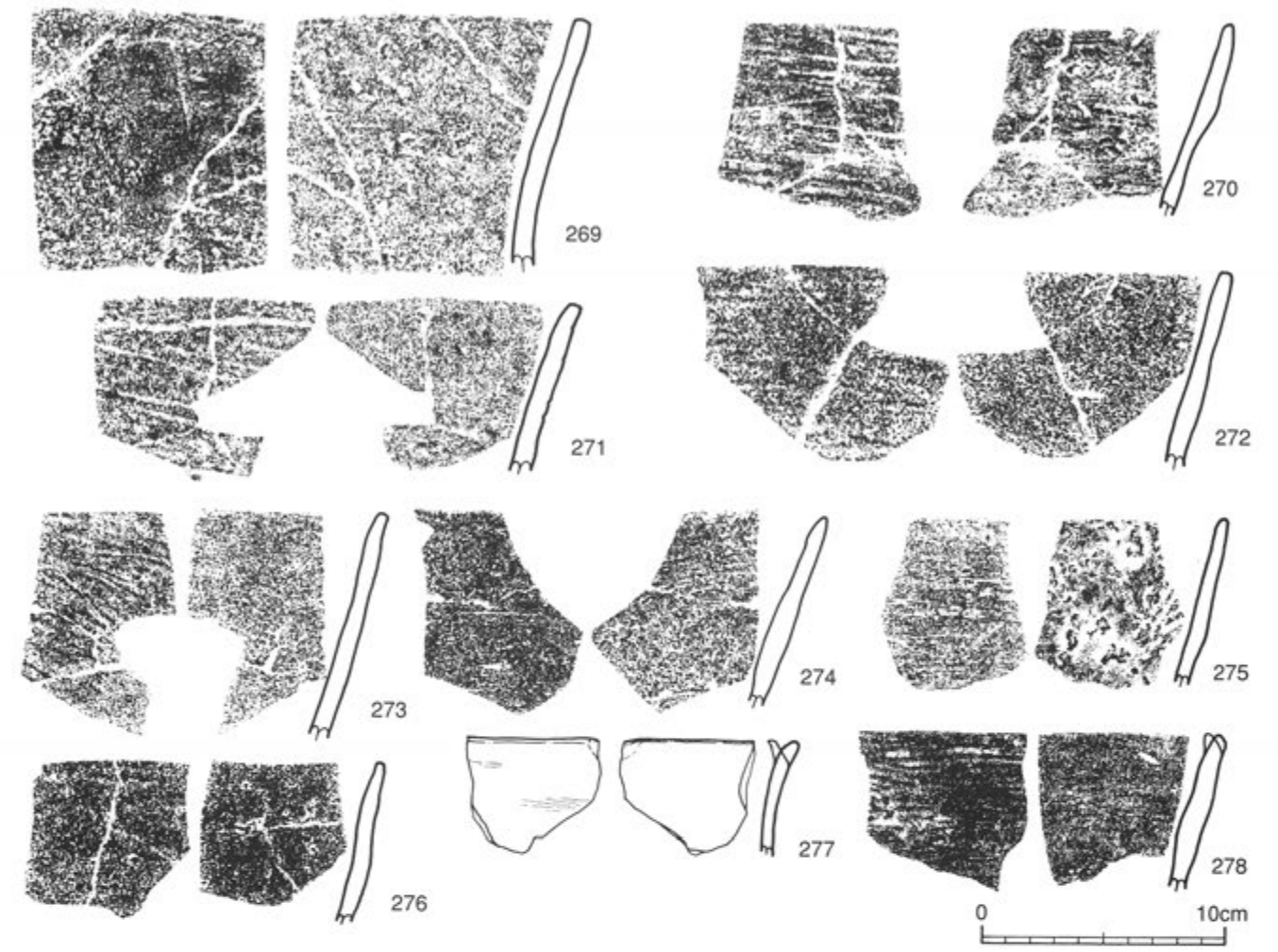
第164図　出土遺物　縄文土器(35)

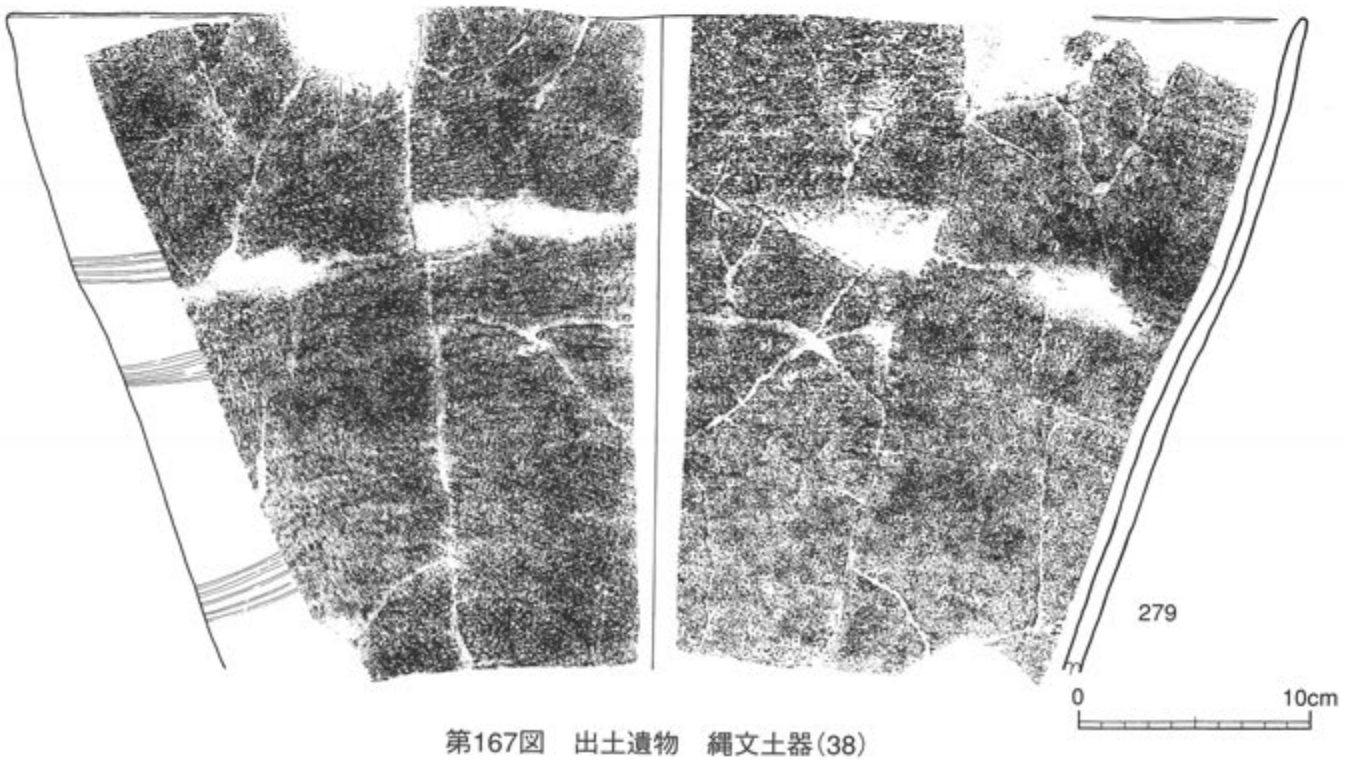


第165図　出土遺物　縄文土器(36)

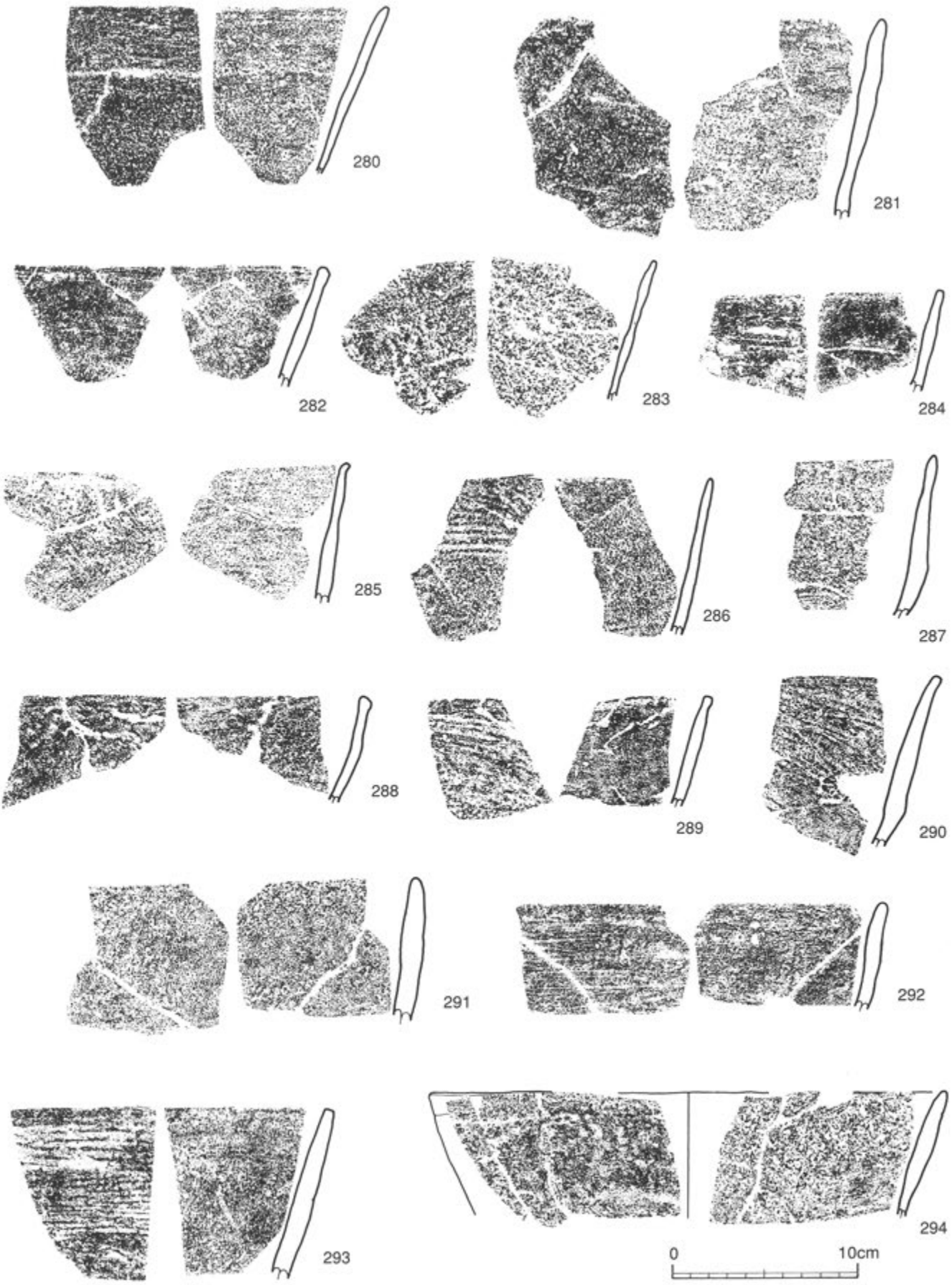


第166図　出土遺物　縄文土器(37)

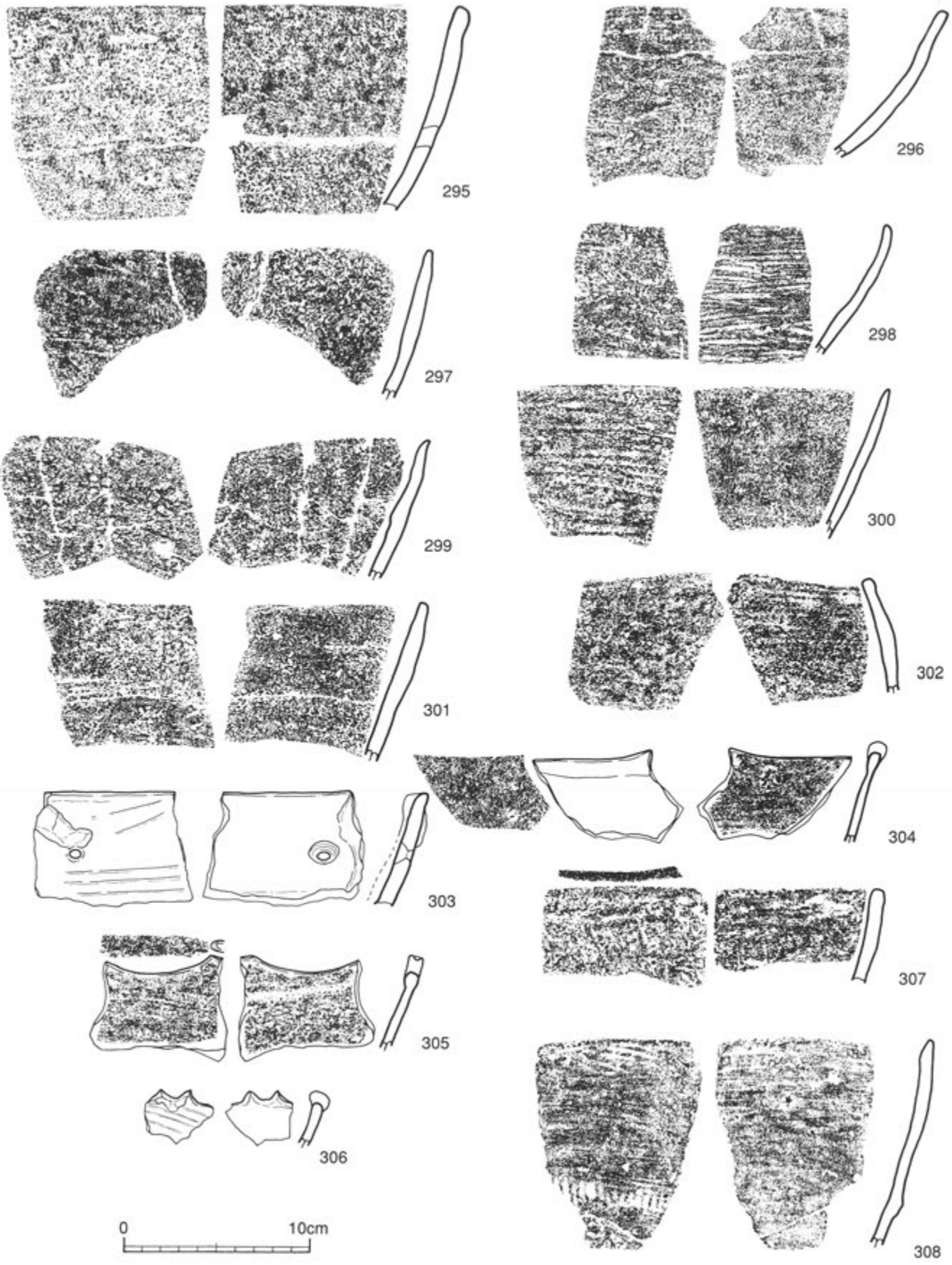




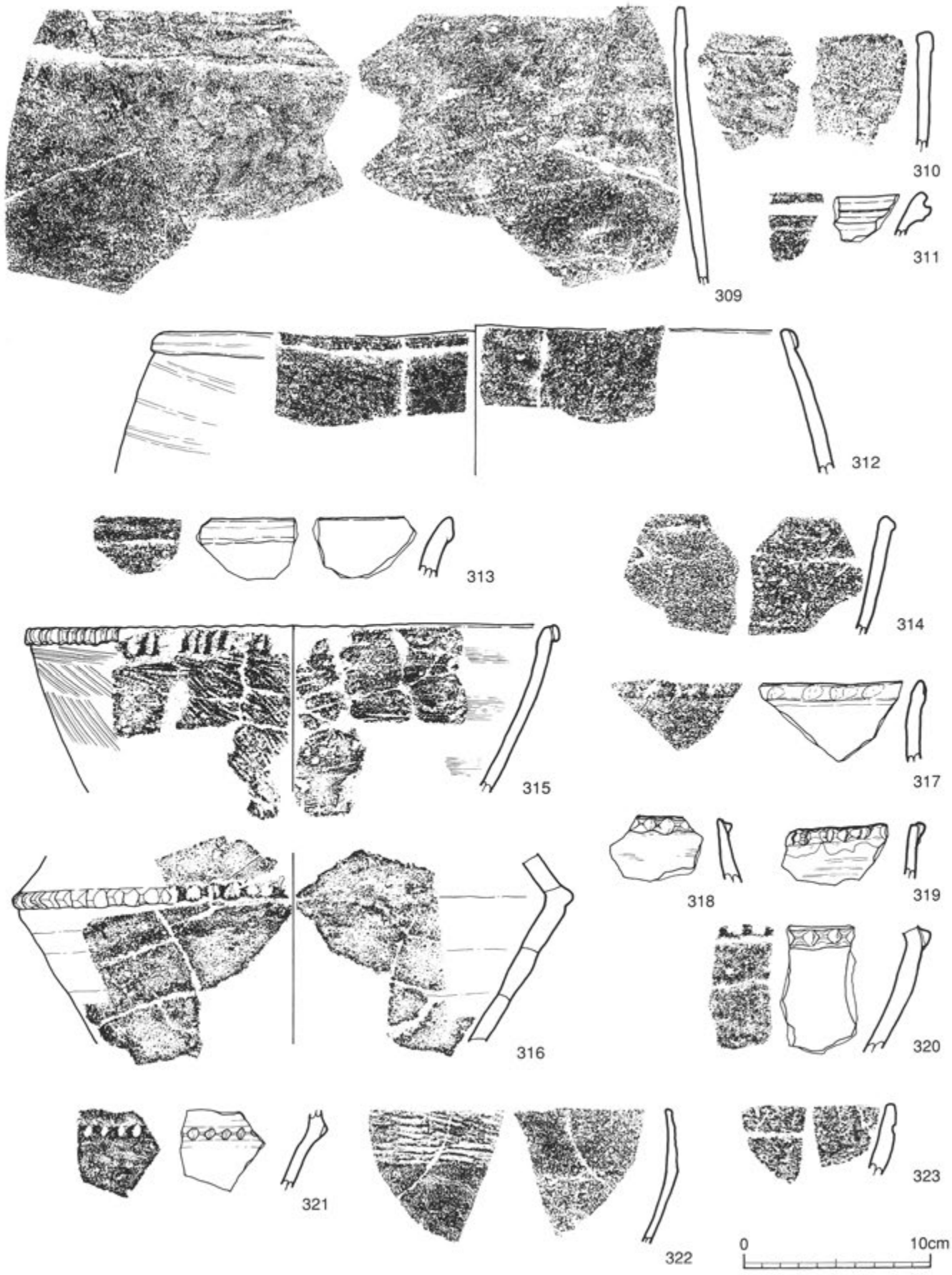
第167図　出土遺物　縄文土器(38)



第168図　出土遺物　縄文土器(39)



第169図　出土遺物　縄文土器(40)



第170図　出土遺物　縄文土器(41)

く屈曲するもので，この外面のみに条痕が観察される。323は口縁部に凹線が巡るものである。322・323とも縄文時代終末～弥生時代初頭のものと考えられる。

②組織痕土器（第171～174図　324～371）

組織痕がはっきりみられるのは全部で62点出土し，小破片まで図化に努めた。中華鍋形の器形を呈し，口縁部下位に組織の圧痕がみられる。組織痕がみられない土器についても，内面がミガキで外面が粗い条痕の場合や器形及び煤の付着具合から，同じ種類であると考えてこの類に含めた。353は口縁部付近まで組織痕が認められるものであり，これまで県内から出土した例の中では特異である。組織痕としては網目・編布・不明のものがあり，特に網目が目立っている。網目の大きさは3～6㎜であり，他の遺跡例よりもかなり目の細かいものがある。編布は2種類あり，経緯幅は6.5㎜と18㎜である。もう一つの不明なものは，モデリングを観察しても明らかにできなかった。分布域は無刻目突帯文土器と刻目突帯文土器が出土した地点であり，同時期のものと考えられる。

369は４㎜幅の単位をもつが，何であるかは判断できない。370は糸をからめてはいるが，網目か編布かの判断はつかない。371は７㎜幅の単位をもち，それに直交する様な繊維が認められる。

③浅鉢形土器（第175～179図　372～449）

浅鉢形土器の形状は多様であり，分類に苦慮するが，便宜上大きく２つに分類する。Ⅰ類は肩部が「く」の字状に内側へ屈曲するものであり，Ⅱ類としたものは肩部が丸く内湾するものである。それぞれ他の部位の特徴によって細分することとする。

Ⅰa類（372～379）：肩部と頸部の間が短く，頸部で「く」の字状に外側へ屈曲し，短い口縁部をもつ。

Ⅰb類（380～382・384）：肩部と頸部の間が短く，頸部で「く」の字状に外側へ屈曲するのはⅠa類と同じであるが，口縁部が長めでストレートに口唇部へ至る。

Ⅰc類（386～403）：肩部で「く」の字状に内側へ屈曲するが，頸部は大きく外反しながら開く。口唇部は粘土紐を１条重ねることによって二重口縁風となる。

Ⅰd類（404～420）：肩部で「く」の字状に内側へ屈曲し，長めの口縁部をもつ点はⅠc類と同じであるが，頸部がわずかに屈曲気味になるものである。頸部が屈曲する点はⅠa・Ⅰb類にも近い。

407は口径19.5㎝・器高７㎝を測る。底面はわずかに平坦になるけれども，大きく内湾する体部をもつ。外面に稜を残しながら内側に屈曲するが，５㎜ほどで再び外側へ緩く外反しながら開く。さらに，粘土紐を１段直立させながら重ねることによって口唇部をつくり，外面に凹線を巡らす。内外面ともミガキによる器面調整である。胎土の金雲母が目立つ。台風時の散逸で，出土地点は不明である。

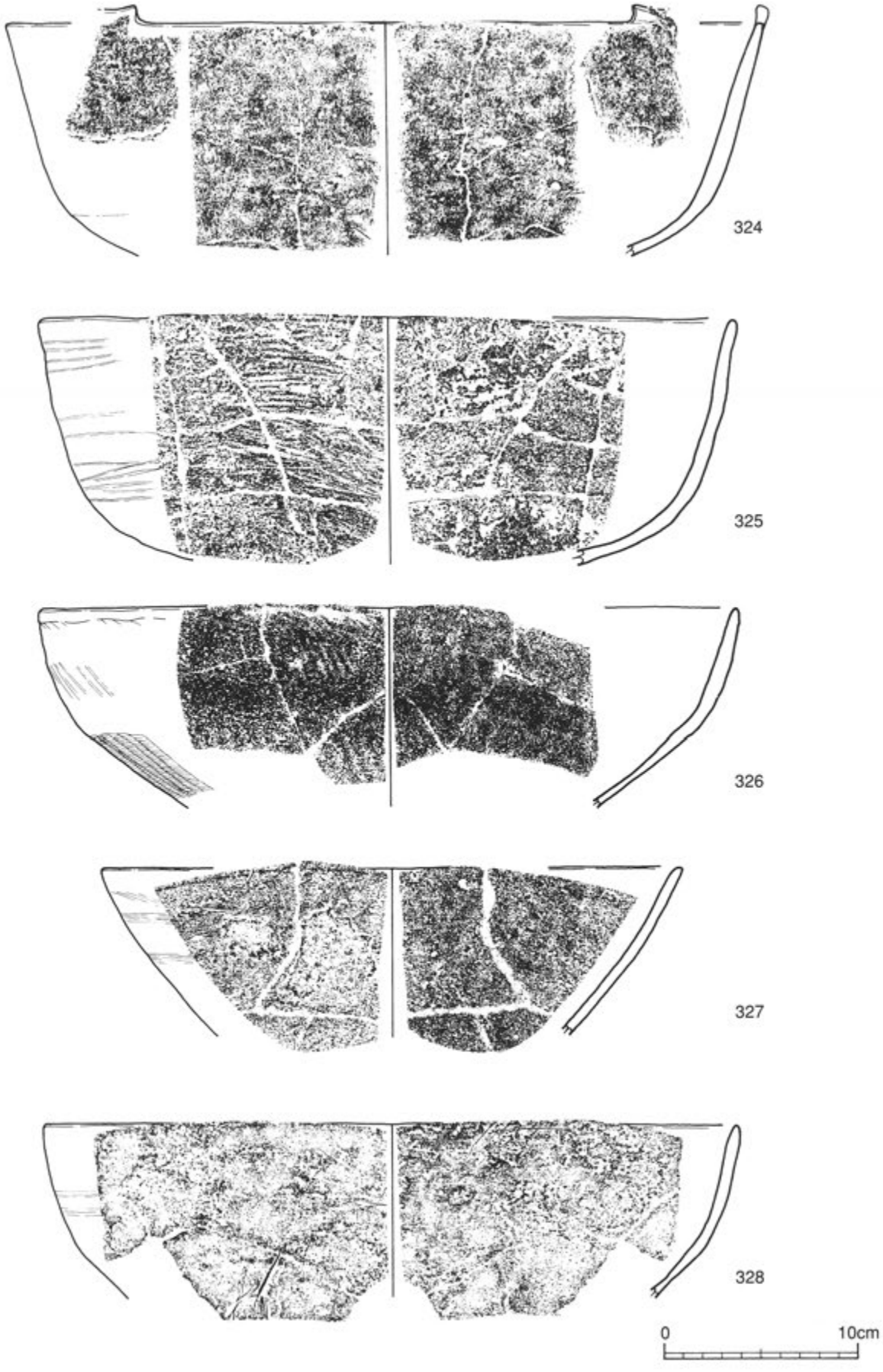
Ⅱa類（421～430・383・385）：肩部で大きく内湾し，頸部で「く」の字状に外側へ屈曲し，短いながらも口縁部をもつものである。

Ⅱb類（431～450）：頸部で「く」の字状に外側へ屈曲する点はⅡa類と同様であるが，頸部がほとんどなく口唇部に至るものである。頸部上位に粘土紐を２段重ねるもの（434～443）と，１段だけのもの（431～433・444～449）がある。

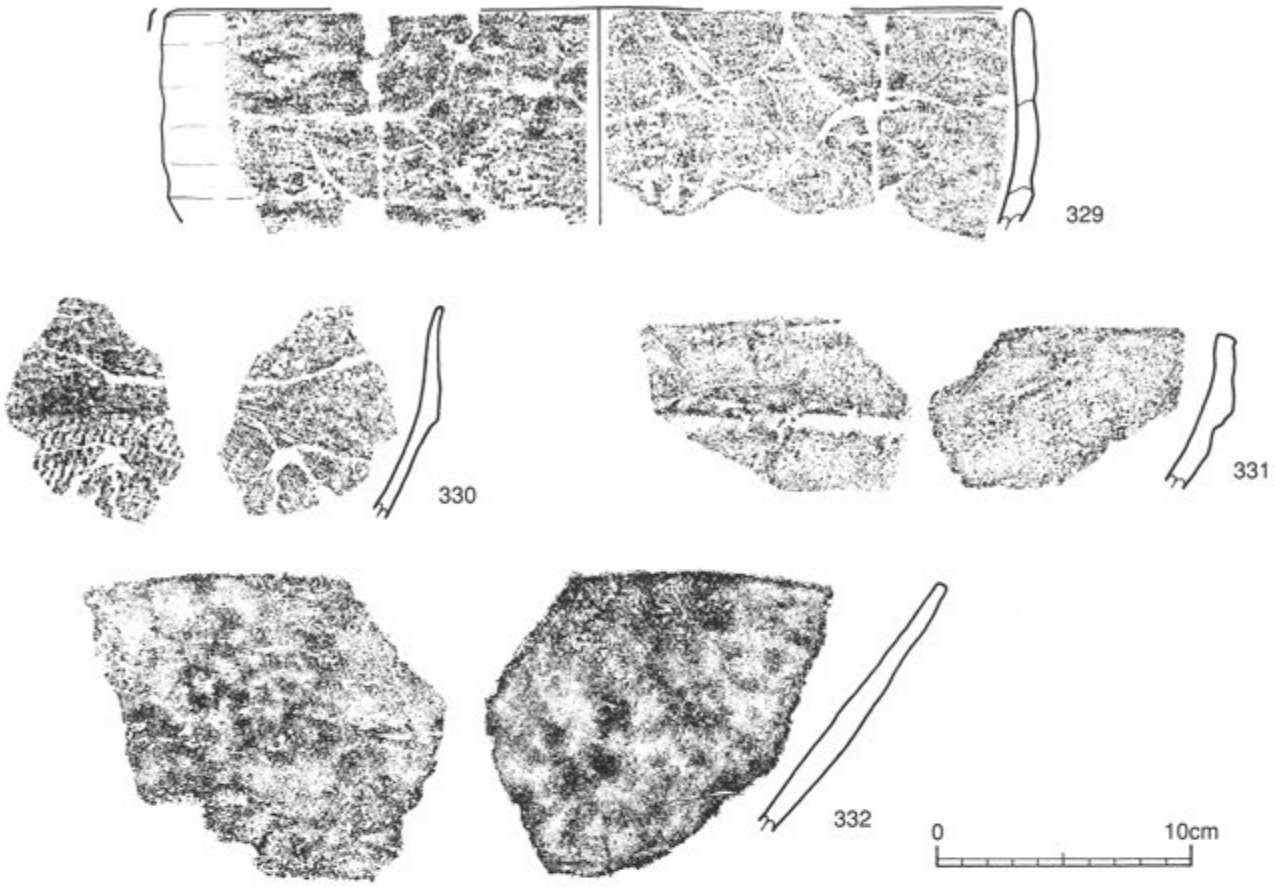
④小型浅鉢形土器（第180図　451～470）

丸平底をした底部で，外面に１条あるいは２条の沈線を巡らすものもある。体部下半は外反気味に外開きして，体部中央に至る。体部中央で１条あるいは２条の沈線を巡らすものもある。体部上半にはバリエーションがあり，内湾気味に外開きするもの（451～456・459），短く内湾してから開くもの（458・461），内湾しながら内側に傾くもの（463・467～470）などがある。体部上半が外開きするものは，波状口縁が多く，口縁部に沿って沈線を引き，その下側をわずかに削り出している。体部上半が内側に傾くものは，浅鉢形土器Ⅱb類と同じように頸部がほとんどなく，粘土紐を１段もしくは２段重ねることによって口唇部としている。

459には外面全体に赤色顔料が塗られており，底面まで続いている。本センター内の蛍光Ｘ線分析装置で分析した結果（213頁），パイプ状の粒子が確認され第二酸化鉄（ベンガラ）であることがわかった。461は口径14㎝・底径5.4㎝・器高6.2㎝を測る小型の浅鉢形土器である。底部は丸平底で，外反しながら外開きする胴部下半へ至る。底部は２条の細い凹線を巡らす。胴部最大径のわずか下に１条の凹線を巡らし，この部分が接合痕となっている。頸部で一度締まり，内湾しながら大きく開く口縁部となる。口唇部は平に面取りし，外側にわずかに張り出しをもたせ，一見凹線が巡るようにみえる。欠損のため確実なことは言えないが，波状口縁になると考えられる。467は小型精製浅鉢形土器である。口径14.6㎝・最大径17.8㎝・底径4.5㎝・器高9.5㎝を測り，底部はほぼ平で，丸みを帯びながら大きく外側に開く。接地面との境に１条の沈線を巡らす。体部上位で丸みをもちながら内側に屈曲し，この部分に２条の沈線を巡らす。肩部は内湾させ，文様帯としている。全周を３分割して窓枠状の区画をつくる。沈線によって区画するのであるが，内側を若干削ることによって，沈線間が浮線状となる。１つの区画の中央には，粘土紐の貼り付けによって「Ｘ」字状の文様が描かれる。この部分がおそらく正面となったであろう。



第171図　出土遺物　縄文土器(42)



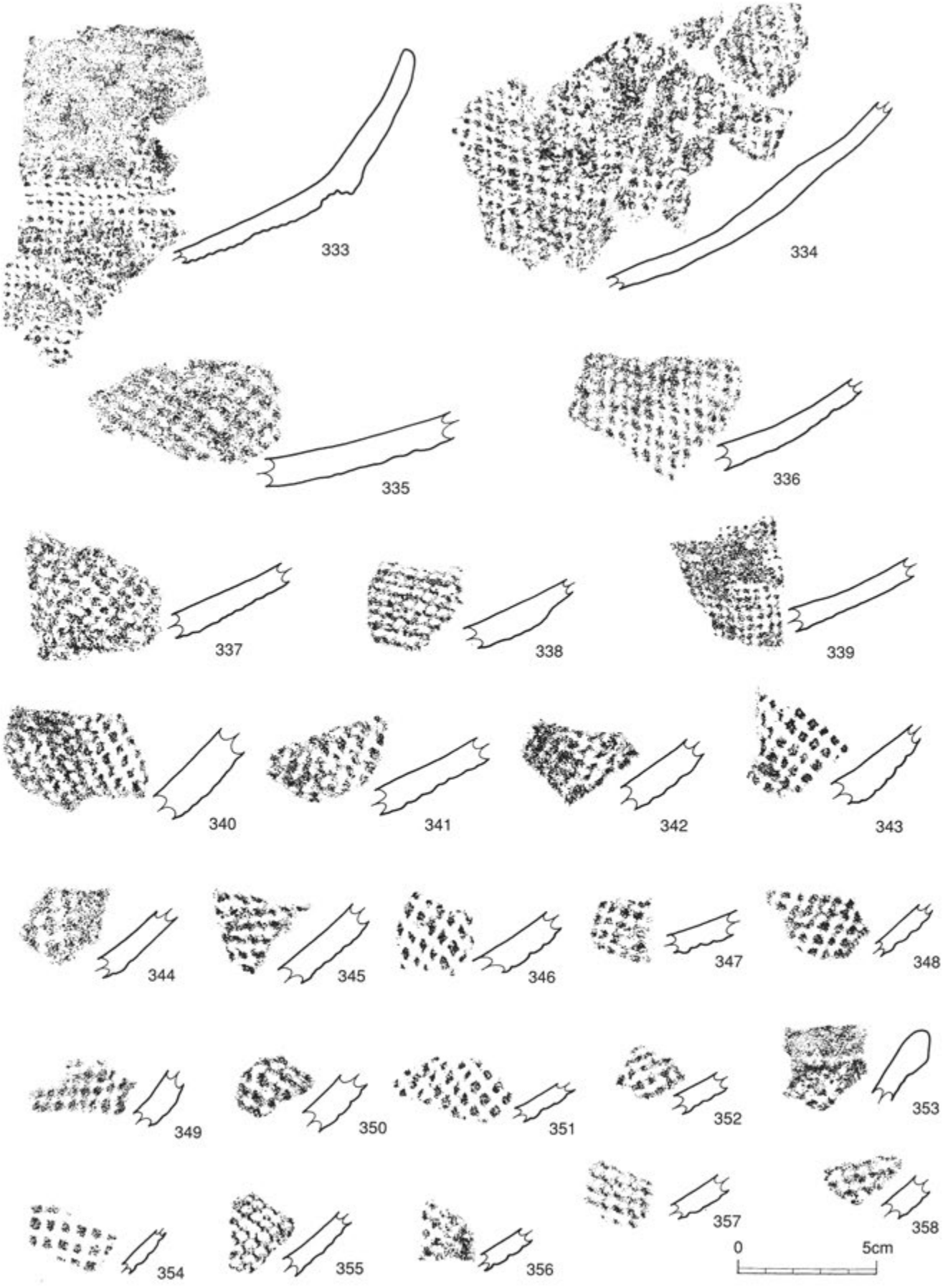
第172図　出土遺物　縄文土器(43)

表17　縄文土器観察表 8

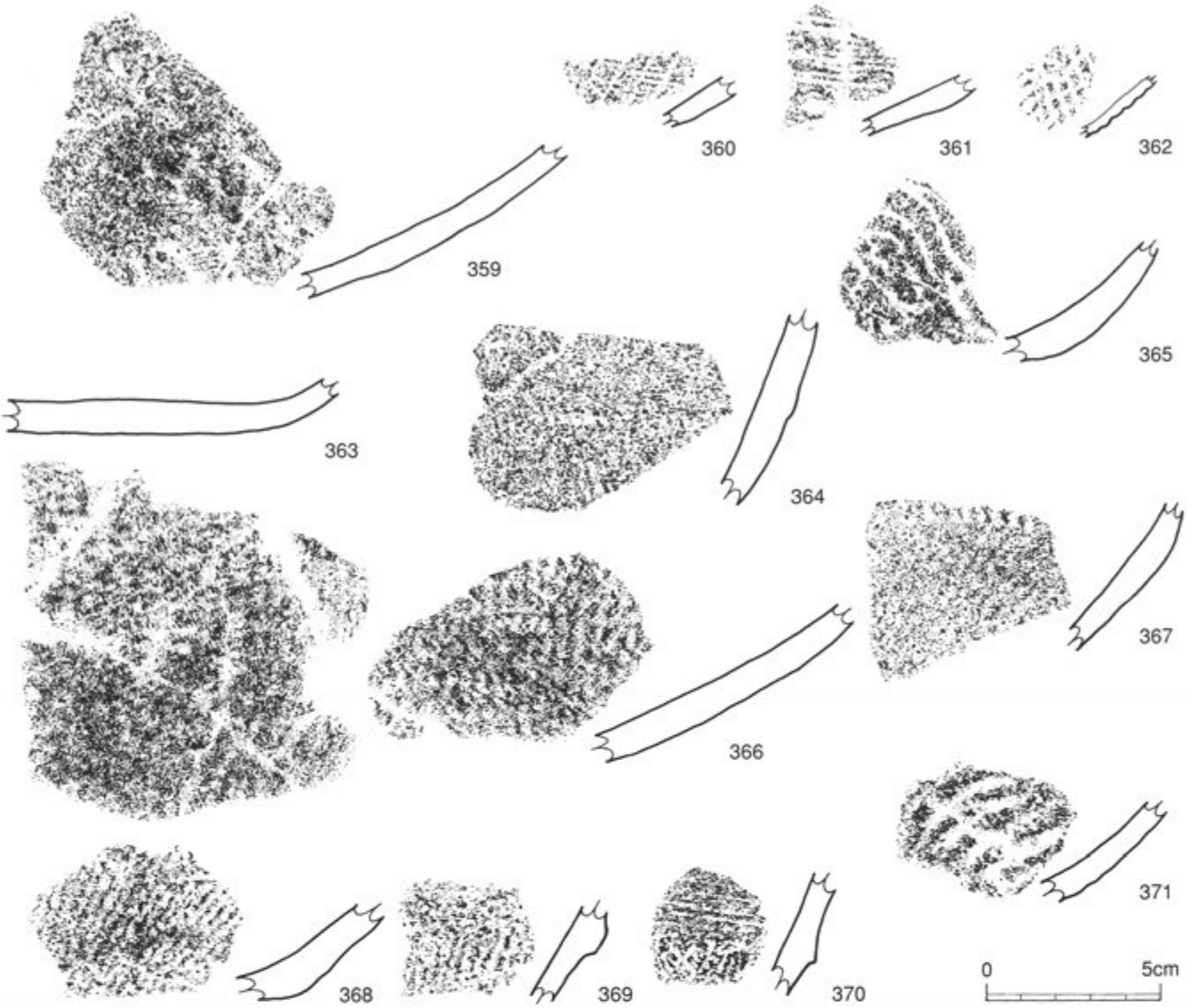
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等		取上げ番号	レベル	特徴・胎土・焼成・その他 備考	写真
								外面	内面		(m)		
第160図	211	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	その他	Ⅲ類			7288	8.30	–	–
	212				深鉢形土器	その他	Ⅲ類			注記ナシ	—	–	–
	213	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	その他	Ⅲ類			7062	8.40	–	–
	214	D-13		Ⅲ	深鉢形土器	その他	Ⅲ類			864	8.05	–	–
	215	B-21	SK138		深鉢形土器	その他	Ⅲ類			大坪	—	–	–
	216	B-35		Ⅳ	深鉢形土器	その他	Ⅲ類			17014	8.20	–	–
	217	D-20		Ⅲ	深鉢形土器	その他	Ⅲ類			7587	8.54	–	–
	218	B-32	SD22		深鉢形土器	その他	Ⅲ類			16944	9.16	–	–
	219	C-17		Ⅱb	深鉢形土器	その他	Ⅲ類			5878	8.34	–	–
	220	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	その他	Ⅲ類			14986	8.83	–	–
第161図	221	D-18		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅳa類			4512	8.30	–	–
	222	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳa類			443	8.08	–	–
	223	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳa類			大坪	—	–	–
	224	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳa類			15087	8.50	–	–
	225	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳa類			16463	9.52	–	–
	226	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	実測班	Ⅳa類			16544	9.22	–	–
	227	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳa類			14735	8.66	–	–
	228	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳa類			103	8.20	–	–
	229	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳa類			1229	8.17	–	–
第162図	230	D-17		Ⅲ	深鉢形土器	–	Ⅳb類			7409	8.36	–	–
	231	C-19		Ⅳ	深鉢形土器	完形	Ⅳb類			7435	8.27	–	37
第163図	232	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	橙・条痕	黒褐色・摩耗	14538	9.50	14020	–
	233	A-32	SD	Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	にぶい赤褐色・粗いナデ	黒褐色・粗いナデ	17045	9.51	–	–
	234	C-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	黒褐色・摩耗	黒褐色・貝殻条痕	12908	8.81	–	–
	235	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	灰白・条痕	黒・摩耗	11496	8.88	–	–
	236	B-29		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	灰白・摩耗	黒褐・摩耗	16079	9.39	角閃石	–
第164図	237	B-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	淡赤橙・ナデ	褐灰・ナデ	13950	8.24	–	–
	238	B-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	にぶい橙・ナデ	黒褐色・ナデ	13671	8.29	–	–
	239	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	黒褐色・ナデ	暗赤褐色・摩耗	10870	8.94	–	–
	240	B-30		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	にぶい橙・条痕	にぶい橙・ナデ	16623	9.38	–	–
	241	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	明赤灰・摩耗	にぶい赤褐・摩耗	11473	8.86	–	–
	242	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	暗赤褐色・ナデ	橙・ナデ	10893	8.94	–	–
	243	D-18			深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	橙・摩耗	橙・摩耗		—	–	–
	244	C-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	赤・条痕	赤黒・粗いナデ	11242	8.58	金雲母	–

表18　縄文土器観察表９

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等		取上げ番号	レベル	特徴・胎土・焼成・その他　備考	写真図版
								外面	内面		(m)		
第165図	245	C-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	黒褐・ナデ	黒褐・ナデ	11751	8.98	角閃石	−
	246				深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	明赤褐・ナデ	褐灰・ナデ	見入来	−	茶粒	−
	247	A-32	SD146		深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	赤橙・ナデ	淡橙・ナデ	16961	9.58	凝灰岩	−
	248	A-23		Ⅳ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	にぶい赤褐・摩耗	褐灰・摩耗	16587	9.87	3㎜大の石英	−
	249	D-12		Ⅱ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	橙・貝殻条痕	褐灰・摩耗	586	8.13	2㎜大の石英・凝灰岩	−
	250				深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	赤褐・丁寧なナデ	にぶい赤橙・丁寧なナデ		−	角閃石	−
	251	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	黒褐・ナデ	褐灰・ナデ	13756	8.23	−	−
	252	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	にぶい橙・ナデ	黒褐・摩耗	13757	8.25	2㎜大の石英	−
	253	D-12		Ⅱ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳb類	黒褐・ナデ	黒褐・ナデ	27	8.17	軽石	−
第166図	254	D-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	褐灰・摩耗	黒褐・摩耗	10407	8.70	2㎜大の石英・角閃石	−
	255				深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	明赤褐・粗いナデ	明赤灰・摩耗	見入来	−	側面に穿孔・金雲母	−
	256	D-11		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	褐灰・摩耗	赤褐・摩耗	398	8.16	石英（白）	−
	257	C-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	明褐灰・ナデ	黒・ナデ	8123	8.11	凝灰岩・半透明の石英	−
	258	B-23	SK169		深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	褐灰・条痕	褐灰・ナデ	大坪	−	金雲母	−
	259	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	にぶい赤褐・丁寧なナデ	にぶい赤褐・ナデ	487	8.06	角閃石	−
	260	A-33		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	にぶい赤褐・摩耗	赤褐・摩耗	16467	9.48	2㎜大の石英・角閃石	−
	261	C-17			深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	橙・摩耗	淡赤橙・摩耗		−	2㎜大の石英・角閃石	−
	262	C-16		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	褐灰・ナデ	黒・ナデ	9450	8.28	凝灰岩	−
	263				深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	橙	橙		−	角閃石	−
	264	D-13		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	黄橙・粗いナデ	褐灰・摩耗	785	8.42	凝灰岩	−
	265	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	明褐灰・摩耗	褐灰・摩耗	11436	8.80	11727　凝灰岩	−
	266				深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	明赤灰・粗いナデ	赤褐・摩耗		−	金雲母	−
	267	D-18		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	赤灰・粗いナデ	にぶい赤褐・ナデ	4582	8.42	2㎜大の石英	−
	268	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	明赤褐・粗いナデ	黒褐・ナデ	16547	9.59	凝灰岩	−
第167図	269	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	赤褐・ナデ	赤灰・摩耗	162	8.18	2㎜大の石英	−
	270	C-24		Ⅳ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	にぶい黄橙・条痕	にぶい黄橙・ナデ	12428	8.32	金雲母	−
	271	D-17		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	褐灰・条痕	にぶい黄橙・ナデ	8053	8.40	2㎜大の石英	−
	272	A-22		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	にぶい赤褐	にぶい橙	14692	8.90	2㎜大の石英・金雲母	−
	273			Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	にぶい赤褐	黒褐	？65	0.00	角閃石	−
	274	B-15	SK77		深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	黒褐・摩耗	黒褐・摩耗	13743	8.22	半透明の石英・凝灰岩	−
	275	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	褐灰・粗いナデ	褐灰・丁寧なナデ	10852	8.90	金雲母	−
	276	B-23		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類			15511	8.85	凝灰岩	−
	277	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	褐灰・丁寧なナデ	橙・丁寧なナデ	16537	9.37	−	−
	278	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	褐灰・粗いナデ	褐灰・丁寧なナデ	16470	9.46	3㎜大の石英	−
	279				深鉢形土器	口縁部	Ⅳc類	にぶい赤褐・粗いナデ	黒・ナデ	注記ナシ	−	角閃石	−
第168図	280	B-23		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	黒褐・ナデ横	褐灰・ナデ	15827	8.83	軽石	−
	281	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	にぶい黄橙・磨耗	褐・ナデ	13575	8.26	半透明の石英	−
	282	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	明褐・ナデ横	褐灰・ナデ	138	8.19	茶粒	−
	283	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	明赤褐・磨耗	灰赤・磨耗	319	8.17	粗い小礫	−
	284	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	黒・ナデ	にぶい橙・ミガキ	1209	8.18	金雲母	−
	285	C-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	暗褐	褐灰	14466	8.24	角閃石	−
	286				深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	灰褐・貝殻条痕	黒褐・ナデ	注記ナシ	−	半透明の石英	−
	287	B-24			深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	にぶい褐・ナデ	灰白・ナデ	大坪	−	−	−
	288	B-29		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	明褐灰・摩耗	褐灰・摩耗	16082	9.33	凝灰岩	−
	289	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	灰褐・貝殻条痕	黒・ナデ	13879	8.20	2㎜大の石英	−
	290	B-29		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	褐灰・摩耗	灰褐・摩耗	16110	9.37	凝灰岩	−
	291	B-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	淡橙・摩耗	明褐灰・摩耗	16562	9.82	金雲母	−
	292	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	黒褐・条痕	にぶい赤褐・粗いナデ	11565	8.78	−	−
	293	B-21		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	明赤褐・貝殻条痕	黒褐・丁寧なナデ	13096	8.77	金雲母	−
	294	A-33			深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	黒褐・摩耗	黒褐・摩耗	大坪	−	半透明の石英	−
第169図	295	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	にぶい赤褐・摩耗	灰褐・摩耗	11473	8.86	2㎜大の石英・凝灰岩	−
	296	D-20		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	灰白・ナデ	黒・ナデ	7176	8.57	微量の角閃石	−
	297	C-15		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	黒褐・ナデ	褐灰・丁寧なナデ	8104	8.18	半透明の石英	−
	298	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	灰褐・ナデ	黒・ナデ貝殻条痕	155	8.12	半透明の石英	−
	299	D-13		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	褐灰・摩耗	にぶい橙・摩耗	814	8.31	微量の金雲母・凝灰岩	−
	300	C-16		Ⅳ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	褐・粗いナデ	褐・丁寧なナデ	2789	8.20	微量の金雲母	−
	301	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	暗赤褐・丁寧なナデ	淡赤橙・丁寧なナデ	490	8.10	半透明の石英	−
	302	A-23		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	灰白・摩耗	黒・摩耗	16584	9.98	微量の金雲母	−
	303			Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	褐・粗いナデ	黒褐・粗いナデ	大坪	−	補修孔・補修粘土	−
	304	C-16		Ⅱb	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	褐灰・ナデ	黒・ナデ	8726	8.32	凝灰岩	−
	305	A-33		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	黒褐・摩耗	黒・摩耗	16448	9.55	−	−
	306	C-14		Ⅲ	深鉢形土器	その他	Ⅳd類	黒褐・摩耗	黒褐・摩耗	1061	8.12	半透明の石英	−
	307	C-15	SX75		深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	にぶい橙・ナデ	褐灰・ナデ	13602	8.20	凝灰岩	−
	308	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	Ⅳd類	赤灰・粗いナデ	にぶい赤褐・ナデ	10896	8.83	−	−
第170図	309	A-33		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	−	褐・ナデ	褐灰・ナデ	16469	9.36	半透明の石英・軽石	−
	310	B-24		Ⅲ	深鉢形土器	（下に組織痕か？）	−	浅黄橙	褐灰	15937	8.92	半透明の石英・軽石	−
	311	C-22			深鉢形土器	口縁部	−	淡橙・摩耗	褐灰・摩耗		−	角閃石	−
	312	B-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	−	にぶい橙・摩耗	褐灰・摩耗	15938・15939・15960	8.94	2㎜大の石英	−
	313	B-30		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	−	褐灰・摩耗	黒・摩耗	16621	9.39	軽石	−
	314	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	−	褐灰・摩耗	明褐灰・摩耗	9632	8.38	半透明の石英	−
	315	D-17		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	−	褐灰・摩耗	褐灰・摩耗	7683	8.33	金雲母	−
	316	B-15		Ⅲ	深鉢形土器	−	−	明褐・摩耗	明褐・摩耗	11815	8.35	刻目突帯文・金雲母・小石	−
	317	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	−	明赤褐・摩耗	灰褐・摩耗	226	8.16	半透明の石英・軽石	−
	318				深鉢形土器	口縁部	−	明褐	明褐		−	金雲母・小石	−
	319	A-24			深鉢形土器	口縁部	−	暗赤褐・摩耗	褐灰・摩耗	大坪	−	突帯部分ヘラ刻み・半透明の石英	−
	320				深鉢形土器	口縁部	−	にぶい赤褐・摩耗	にぶい赤褐・摩耗	大坪	−	突帯部分ヘラ刻み・金雲母・小石	−
	321	B-16		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	−	灰黄褐・ハケメ・ヘラ刻み	にぶい黄橙・ハケメ	12685	8.35	突帯部分ヘラ刻み	−
	322	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	−	褐灰・貝殻条痕	褐灰・摩耗	13848・13861	8.18	−	−
	323	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	口縁部	−	褐灰・摩耗	褐灰・摩耗	11524	8.67	金雲母	−
第171図	324	A-23		Ⅱ	組織痕土器	口縁部	−	黒褐・摩耗	黒褐・摩耗	14876	9.01	凝灰岩	37
	325	B-23		Ⅲ	組織痕土器	口縁部	−	黒褐・粗いナデ	黒褐・ナデ	15460	8.87	−	−
	326	B-23		Ⅲ	組織痕土器	口縁部	−	褐灰・凹線	褐灰・ナデ	15548	8.81	−	−
	327	C-16		Ⅱ	組織痕土器	口縁部	−	黒褐・条痕	褐・摩耗	2779	8.35	金雲母	−



第173図　出土遺物　縄文土器(44)



第174図　出土遺物　縄文土器(45)

ここを正面とすると，口縁部の右側に鰭状の突起がみられるのであるが，左側にも対となる鰭状突起があったとしてもおかしくない。口縁部にはもう1段粘土紐を重ねることによって，口唇部をつくり出しており，内外面に1条づつの沈線を巡らしたようにみえる。

⑤鉢形土器（第181・182図　471～485・500～503）

浅鉢形土器・小型浅鉢形土器そして盌形土器に含まれない形のものである。471～475は体部上位で内側に屈曲し，外反しながら口縁部へ至る。浅鉢形土器Ⅰb類との区別はつきにくいのであるが，若干屈曲にメリハリがない。

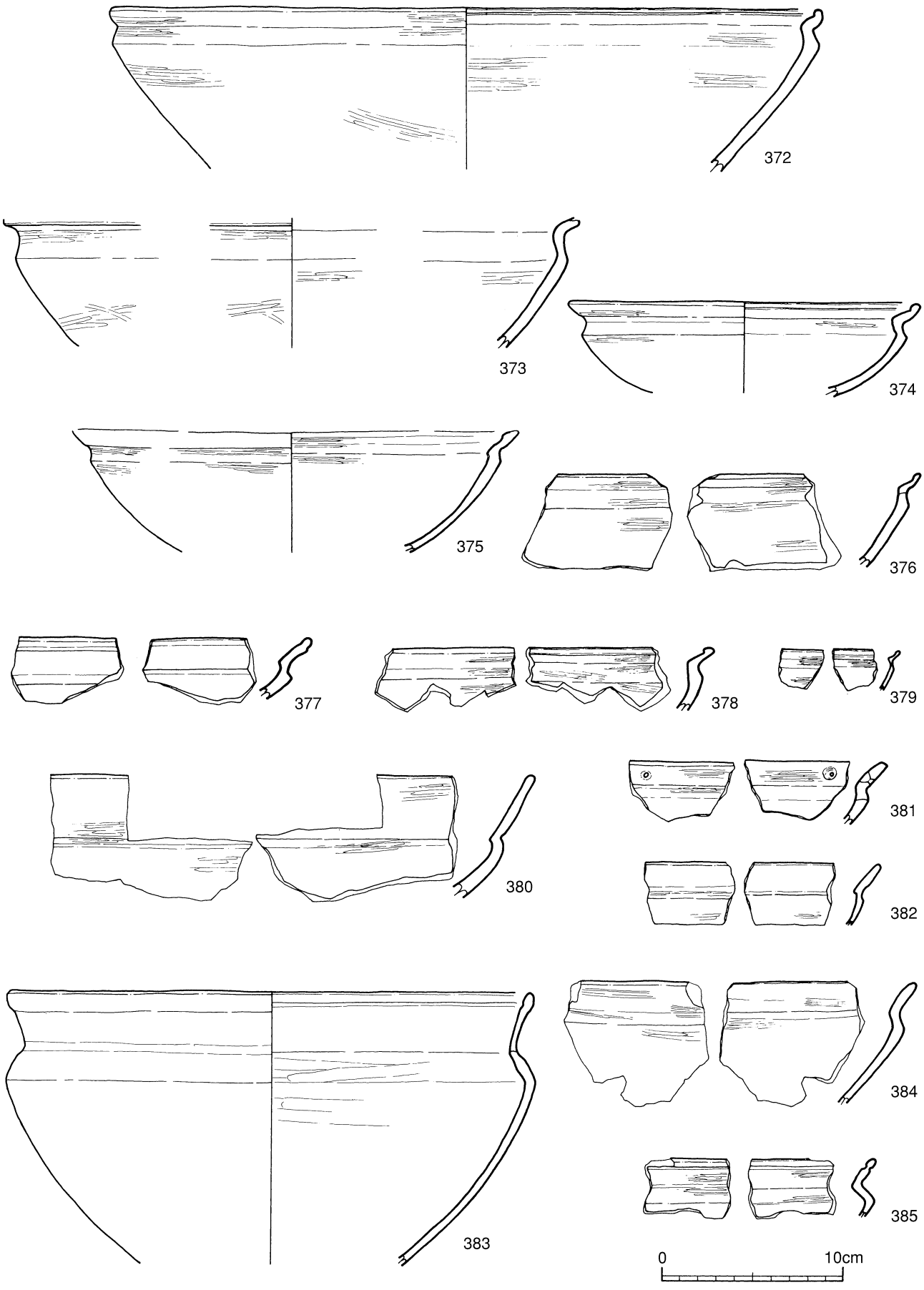
478は胴部屈曲部の上位に1条の沈線を巡らせており，古い様相を示す。482は供献土器1であり，前述した。483・484は刻目突帯文土器に伴う浅鉢形土器の器形に類似するが，確証はない。500～503は口唇部までストレートにのびるタイプである。502は丸く内湾する底部付近からストレートに外開きする器形である。口径は27cmを測り，口唇部は丸くおさめる。底部の形状は不明である。器面調整は内外面ともミガキである。

⑥盌形土器（第182図　486～499）

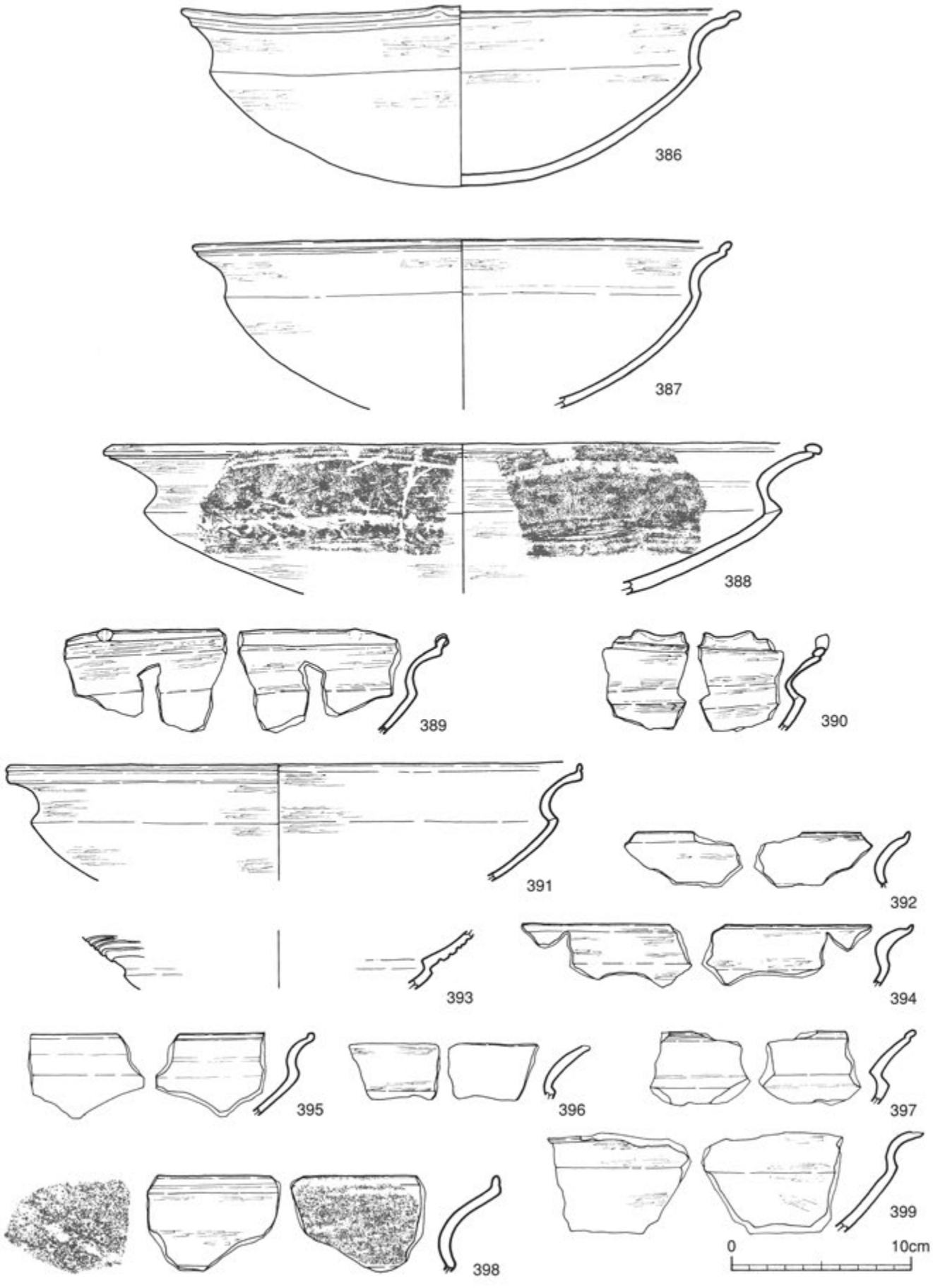
486～499は丸底の塊状のもので，盌(マリ)形土器と呼ばれるものである。口縁部がストレートなタイプと変化をつけたタイプがある。口縁部に変化をもたせたものは内外面を肥厚させるもの(486)，内外面に沈線を巡らすもの(487)，短く屈曲させるもの(490)などがある。

⑦深鉢形土器底部（第183～189図　504～652）

底部の破片とわかるものはかなり多くあったが，紙面の関係上半分以上が残存するものについて149点を図化した。種類ごとに恣意的に選別したものでないので，割



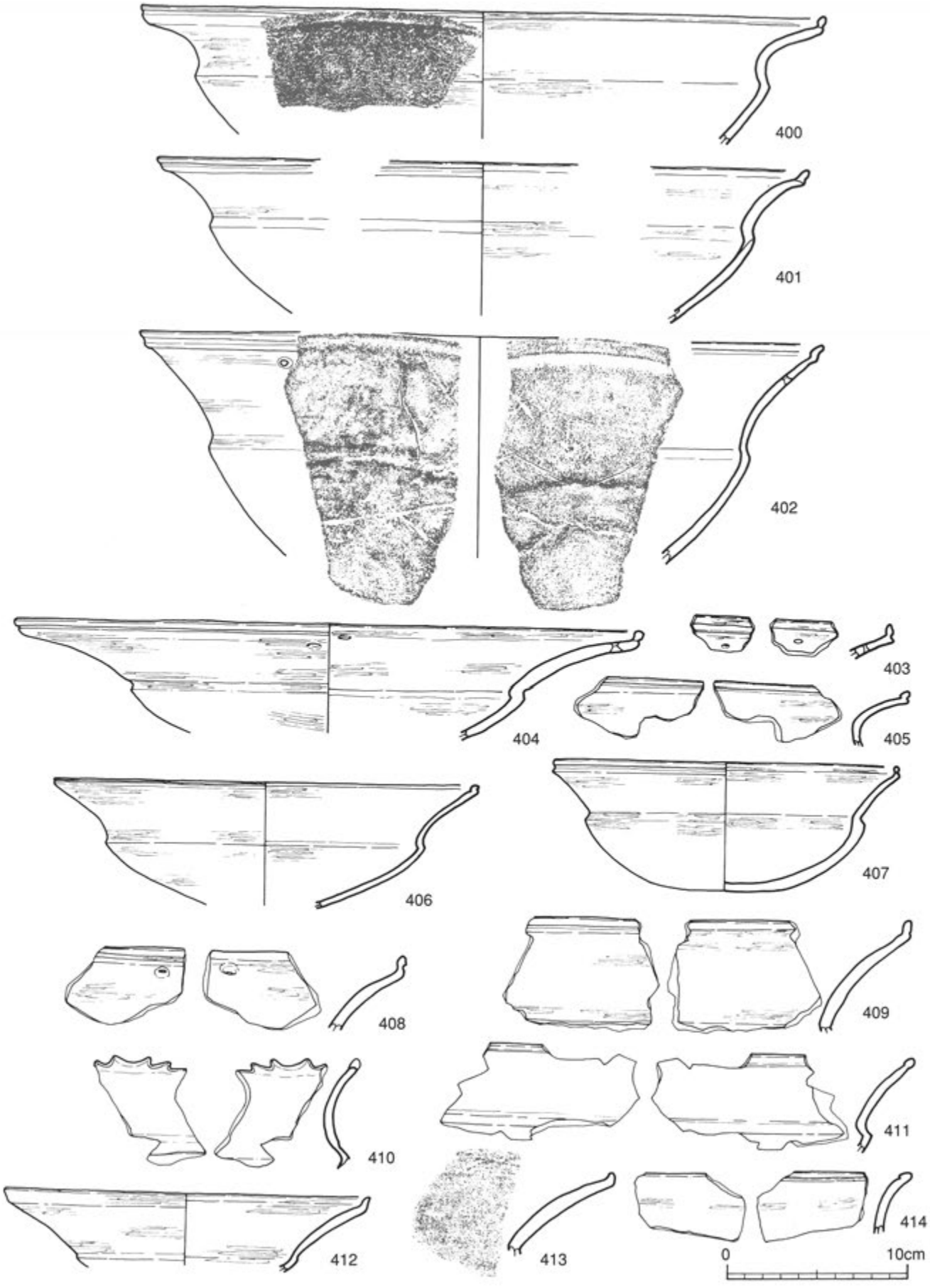
第175図　出土遺物　縄文土器(46)



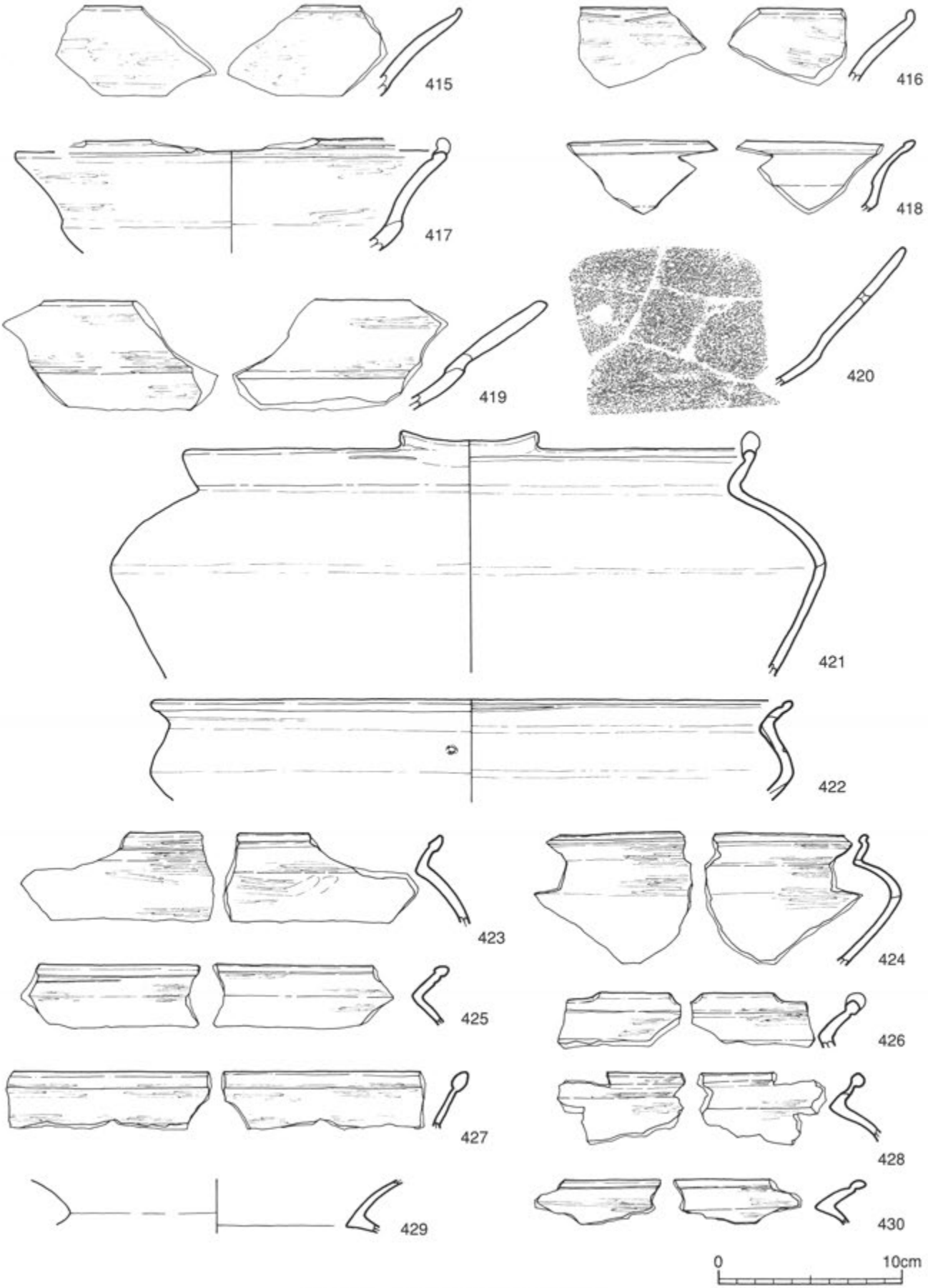
第176図　出土遺物　縄文土器(47)

表19　縄文土器観察表 10

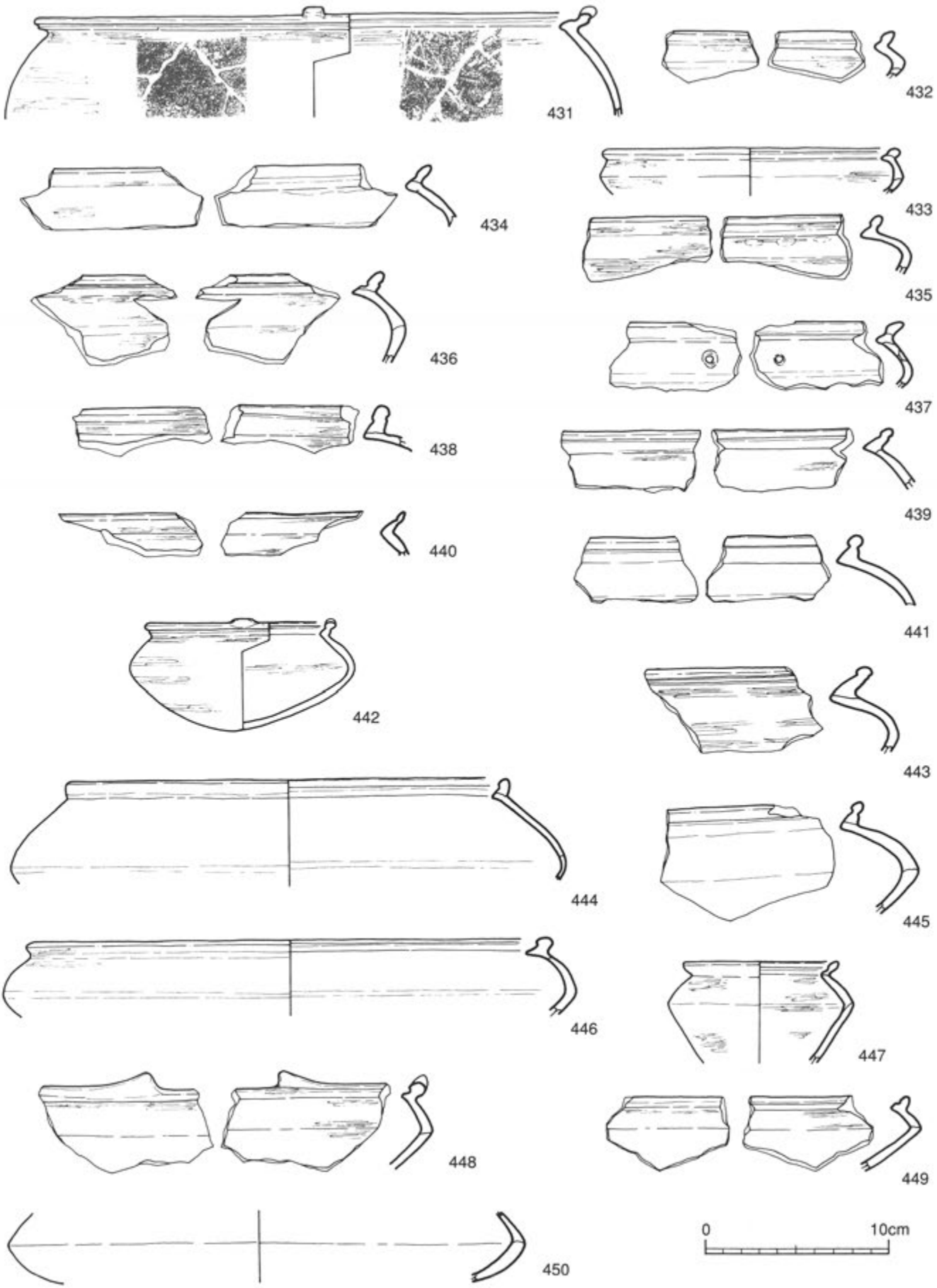
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等		取上げ番号	レベル	特徴・胎土・焼成・その他 備考	写真図版
								外面	内面		(m)		
第171図	328	D-01	SK26	Ⅲ	組織痕土器	口縁部	−	黒褐・ナデ	黒・ナデ	198	8.13	−	−
第172図	329	C-24		Ⅲ	組織痕土器	口縁部	−	黒褐・条痕	にぶい橙・磨耗	11754	8.99	−	−
	330	B-24		Ⅲ	組織痕土器	口縁部	−	明褐灰・磨耗	褐灰・ナデ	15953	8.94	−	−
	331	C-15		Ⅲ	組織痕土器	口縁部	−	明赤褐・磨耗	にぶい赤褐・丁寧なナデ	14236	8.25	角閃石	−
	332	B-15		Ⅱ	組織痕土器	口縁部	−	黒褐・ミガキ	黒・ミガキ	268	8.17	−	−
第173図	333	C-23		Ⅲ	組織痕土器	網目	−			12863	8.96	−	37
	334	D-12		Ⅲ	組織痕土器	網目	−			150	8.14	−	37
	335	C-22	SD43	Ⅱ	組織痕土器	網目	−	橙	にぶい橙	大坪	−	角閃石	−
	336	C-24		Ⅲ	組織痕土器	網目	−			12052	8.98	−	37
	337	C-24		Ⅳ	組織痕土器	網目	−	赤褐	にぶい赤褐	12300	8.52	角閃石	−
	338	B-23			組織痕土器	網目	−	赤	赤	大坪	−	2㎜大の石英	−
	339	B-23			組織痕土器	網目	−			大坪	−	−	37
	340	C-23			組織痕土器	網目	−			大坪	−	−	−
	341	D-13		Ⅱ	組織痕土器	網目	−	黄橙	黄橙	822	8.25	2㎜大の石英	−
	342				組織痕土器	網目	−	赤	赤	大坪	−	2㎜大の石英	−
	343	B-24			組織痕土器	網目	−			大坪	−	−	37
	344				組織痕土器	網目	−	にぶい赤褐	にぶい赤褐	大坪	−	−	−
	345	D-25			組織痕土器	網目	−	赤	赤	大坪	−	2㎜大の石英	−
	346				組織痕土器	網目	−			大坪	−	−	37
	347				組織痕土器	網目	−	黒褐	橙	大坪	−	−	−
	348	B-24			組織痕土器	網目	−	にぶい赤褐	赤灰	大坪	−	−	−
	349	D-25A			組織痕土器	網目	−	赤橙	黒褐	大坪	−	−	−
	350	C-23			組織痕土器	網目	−	赤	赤	大坪	−	2㎜大の石英	−
	351				組織痕土器	網目	−			大坪	−	−	37
	352	C-24			組織痕土器	網目	−	明赤褐	赤灰	大坪	−	−	−
	353	C-17		Ⅲ	組織痕土器	網目	−	赤	赤	大坪	−	−	−
	354				組織痕土器	網目	−			大坪	−	−	37
	355	B-24			組織痕土器	網目	−			大坪	−	−	37
	356				組織痕土器	網目	−	にぶい橙	にぶい橙	大坪	−	茶粒	−
	357				組織痕土器	網目	−	赤	赤	大坪	−	−	−
	358	C-23			組織痕土器	網目	−	赤	赤	大坪	−	−	−
第174図	359	B-15		Ⅲ	組織痕土器	編布	−	橙	褐灰	14157	8.29	凝灰岩・角閃石	−
	360				組織痕土器	編布	−	褐	褐灰	大坪	−	金雲母・小石	−
	361	D-24			組織痕土器	編布	−	黒	にぶい褐	大坪	−	−	−
	362	C-24A			組織痕土器		−	にぶい橙	褐灰	大坪	−	角閃石	−
	363	C-24		Ⅲ	組織痕土器		−	赤褐	黒	12052	8.98	角閃石	−
	364				組織痕土器		−	褐灰	褐灰		−	2㎜大の石英・角閃石	−
	365				組織痕土器		−	明赤褐	褐灰	大坪	−	凝灰岩	−
	366	C-24		Ⅲ	組織痕土器		−	明赤褐	黒	12112	8.99	石英(白)	−
	367	C-14		Ⅱ	組織痕土器		−	明赤褐	にぶい橙	9562	8.29	半透明の石英・角閃石	−
	368	B-24			組織痕土器		−	にぶい橙	褐灰	大坪	−	軽石・2㎜大の石英	−
	369				組織痕土器		−	黒褐	褐灰		−	凝灰岩	−
	370	D-24		Ⅲ	組織痕土器		−	明赤褐	にぶい赤褐	11499	8.80	−	−
	371	A-25		Ⅰb	組織痕土器		−	明赤褐	浅黄橙	大坪	−	軽石・角閃石	−
第175図	372	B-17			浅鉢形土器	−	Ⅰa類	にぶい赤褐・ミガキ	にぶい赤褐・ミガキ		−	軽石	29
	373	B-17			浅鉢形土器	胴部～底部	Ⅰa類				−	他に下	−
	374	D-21		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	赤灰・ミガキ	黒・ミガキ	10055	8.43	金雲母	−
	375	C-16			浅鉢形土器	−	Ⅰa類				−	−	−
	376	D-18		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	明褐灰・摩耗	褐灰・摩耗	7306	8.33	−	−
	377	B-15	SK77	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	にぶい褐・摩耗	褐灰・摩耗	13716	8.28	−	−
	378	D-17		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	黒褐・ミガキ	明褐灰・ミガキ	8060	8.30	−	−
	379	D-20			浅鉢形土器	口縁部	Ⅰa類	明褐灰・摩耗	明褐灰・摩耗	大坪	−	−	−
	380	C-16		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	赤褐・摩耗	赤褐・摩耗	14501	8.19	−	−
	381	D-17		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	明褐灰・ミガキ	褐灰・ミガキ	7940	8.36	−	−
	382	A-22		Ⅱb	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	褐灰・摩耗	灰褐・摩耗	4749	8.32	−	−
	383	B-33		Ⅱ	浅鉢形土器	口縁部	−	にぶい黄橙・黒褐・摩耗	褐灰・摩耗	16192	9.58	−	−
	384	D-17		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰb類	黒褐・摩耗	灰褐・摩耗	7689	8.30	−	−
	385	C-18		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	−	褐灰・摩耗	黒褐・摩耗	8696	7.38	−	−
第176図	386	C-16			浅鉢形土器	−	Ⅰc類	黄灰・ミガキ	黒褐・ミガキ		−	金雲母	26
	387	C-16			浅鉢形土器	口縁部～胴部	Ⅰc類	黄橙・ミガキ	浅黄橙・ミガキ		−	石英(白)	−
	388	A-35			浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	黒・ミガキ	黒・ミガキ	16846・16853	9.32	金雲母	38
	389	B-14		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	褐灰・ミガキ	褐灰・ミガキ	13700	8.25	−	−
	390	D-17		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	黒褐・ミガキ	黒・ミガキ	7986	8.25	凝灰岩	−
	391	C-17壁溝			浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	灰黄褐・ミガキ	黒褐・ナデ		−	角閃石	38
	392	D-15		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	赤褐・ナデ	赤褐・ナデ	1348	8.18	−	−
	393	C-22		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	明褐灰・沈線	明褐灰・ナデ	11109	8.69	角閃石	−
	394	A-23		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	黒褐・ミガキ	黒褐・ミガキ	16599	9.90	−	−
	395	C-17		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	黒褐・摩耗	黄褐・摩耗	8577	7.17	−	−
	396	D-15		Ⅱb	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	褐灰	褐灰	5300	7.99	−	−
	397	D-21		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	褐灰・ナデ	黒褐・ナデ	10595	8.51	角閃石	−
	398	D-17		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	灰褐・ナデ	褐灰・ナデ	6447	8.14	−	−
	399	B-14	SK77	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	褐灰・ナデ	褐灰・ナデ	13706	8.20	−	−
第177図	400	C-16		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	褐灰・ミガキ	褐灰・ミガキ	14020・14392	8.32	−	−
	401	C-22			浅鉢形土器	−	Ⅰc類				−	−	−
	402	D-24	SX		浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	明赤褐・ナデ	にぶい橙・ナデ	11610	8.42	−	−
	403	C-24		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰc類	黒褐・ミガキ	黒褐・ミガキ	12890	8.49	側面部に穿孔あり	−
	404	D-24			浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	褐・ナデ	黒褐・ナデ		−	金雲母・側面部に穿孔あり	−
	405	C-16		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	褐灰・ミガキ	黒褐・ミガキ	1880	7.95	−	−
	406	D-21		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	黒褐・ミガキ	黒・ミガキ	10828	8.35	−	−
	407				浅鉢形土器	完形	Ⅰd類	にぶい橙・ミガキ	にぶい橙・ミガキ		−	金雲母	38
	408	D-24		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	灰褐・ナデ	灰褐・ナデ		−	側面部に穿孔あり	−
	409	C-24		Ⅳ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	褐・ミガキ	黒褐・ミガキ	12537	8.35	−	−
	410	D-12		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	褐灰・摩耗	灰白・摩耗	466−2	7.68	−	−



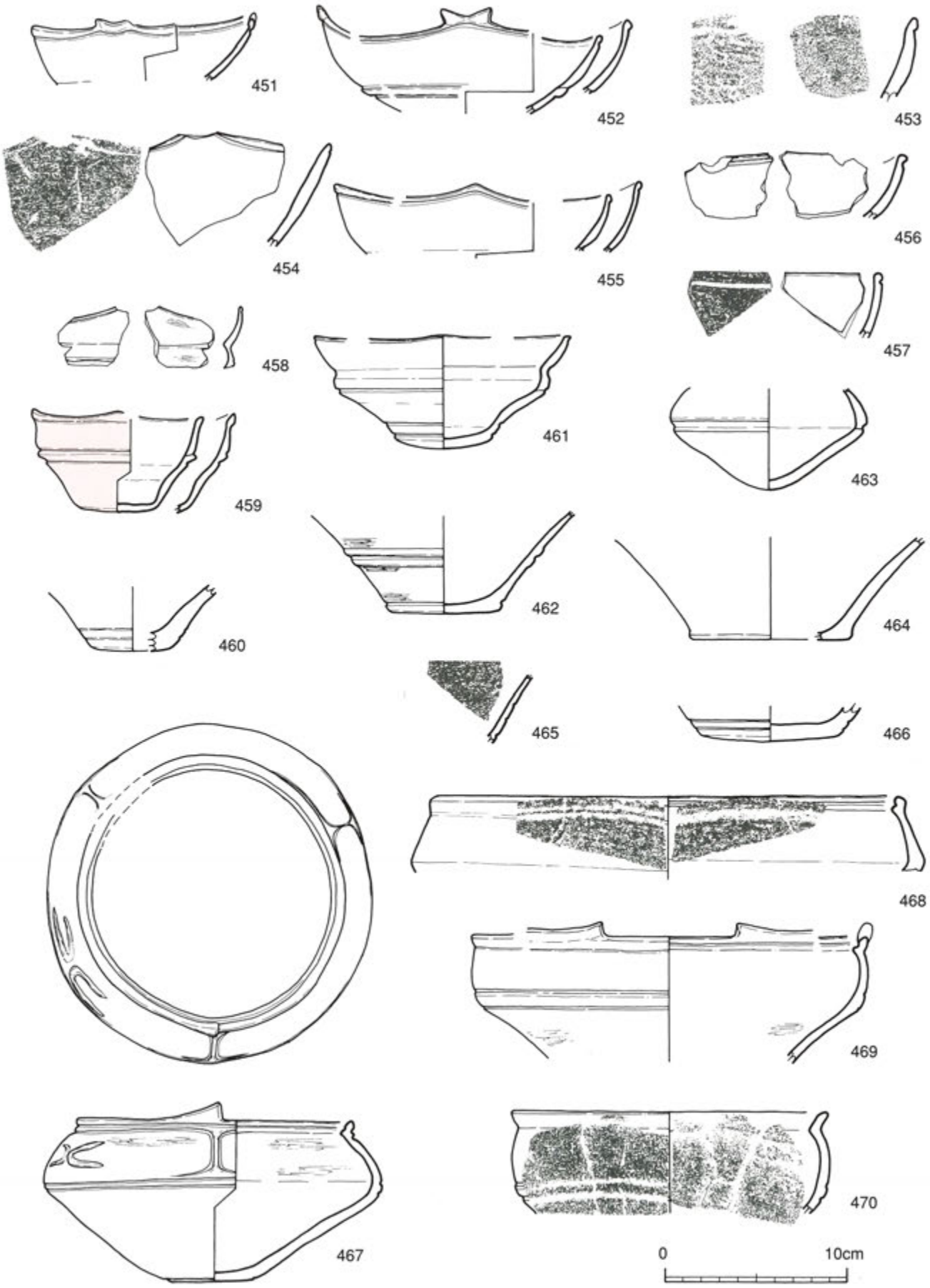
第177図　出土遺物　縄文土器(48)



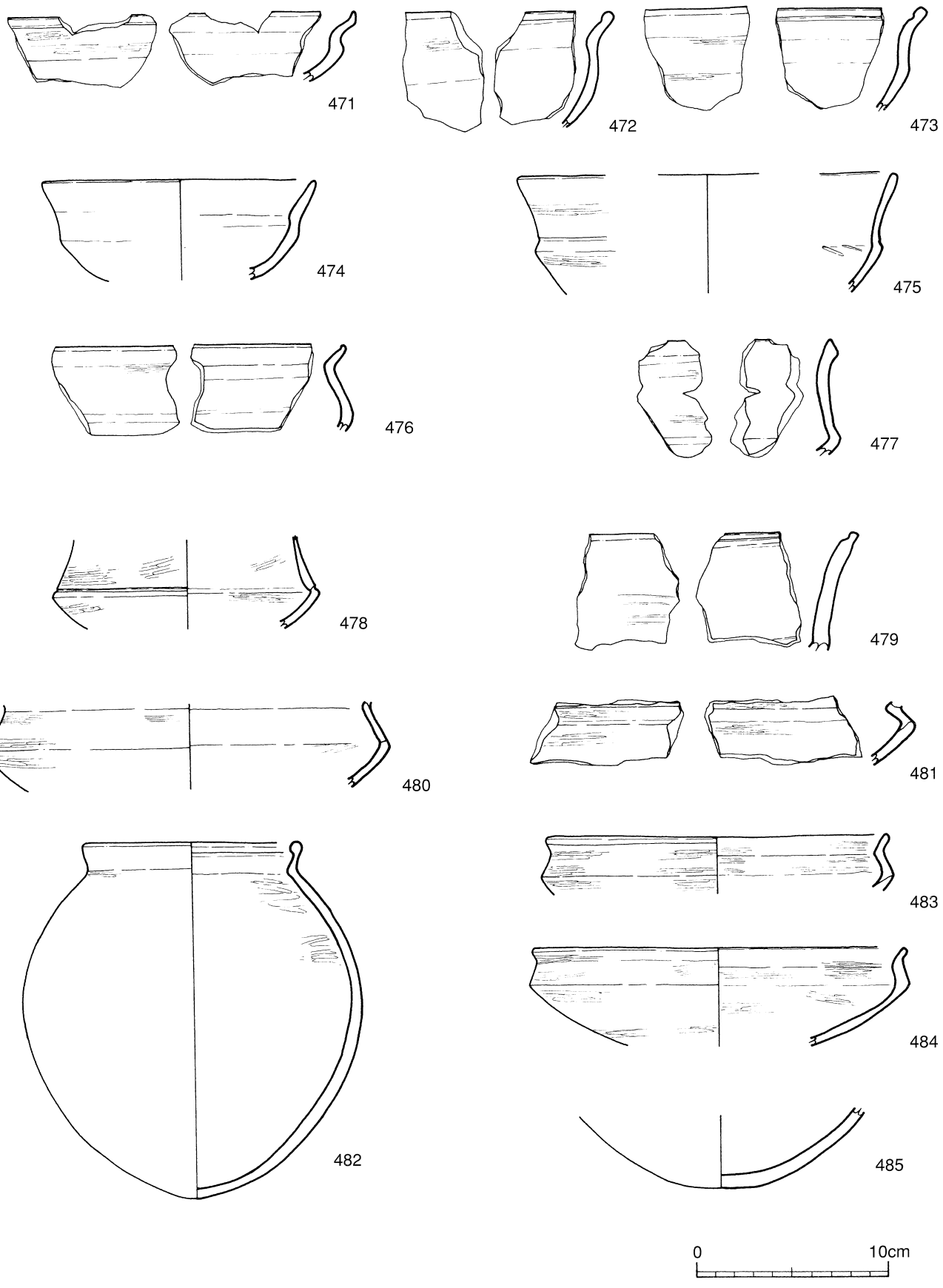
第178図　出土遺物　縄文土器(49)



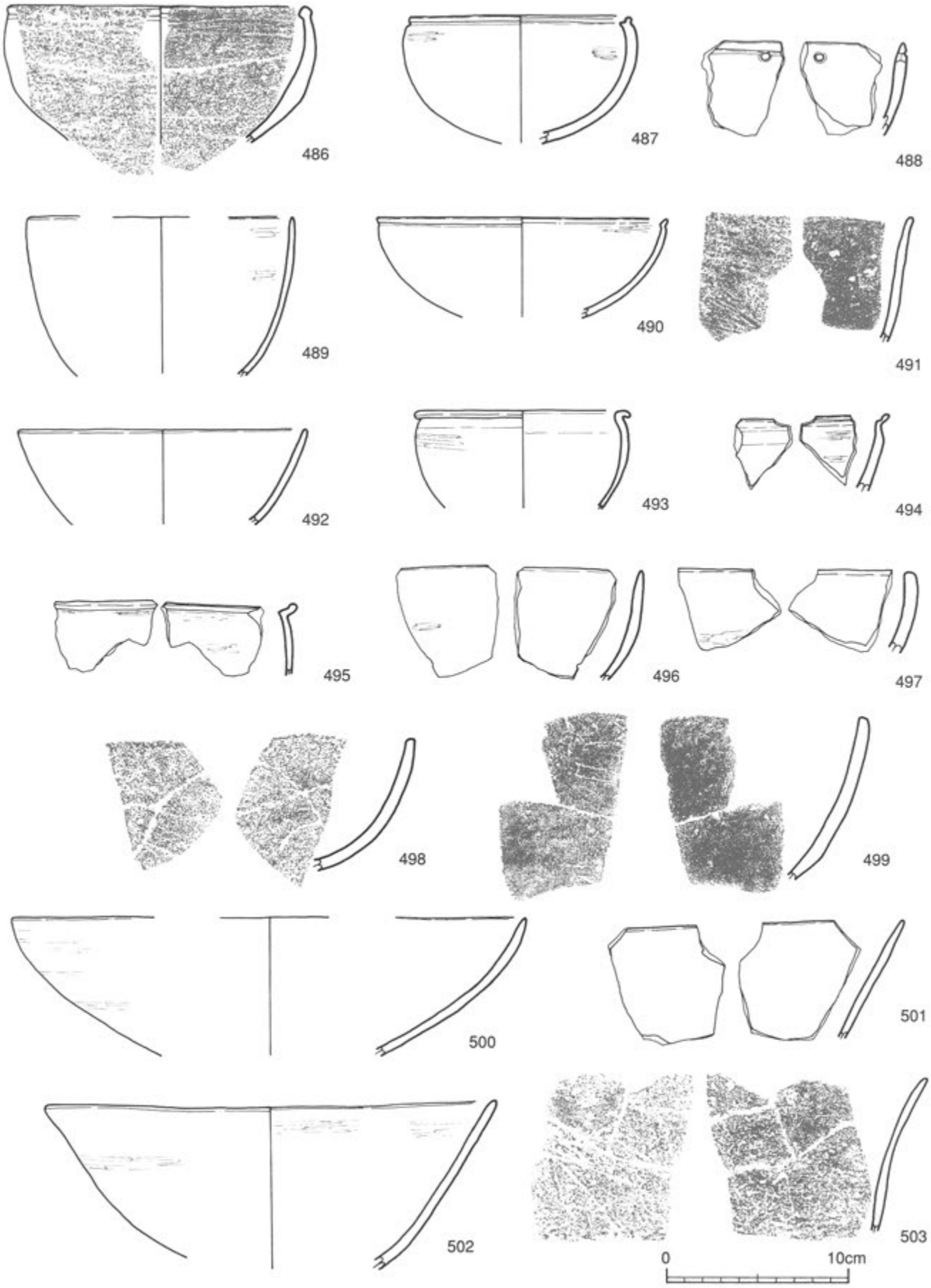
第179図　出土遺物　縄文土器(50)



第180図　出土遺物　縄文土器(51)



第181図　出土遺物　縄文土器(52)



第182図　出土遺物　縄文土器(53)

表20　縄文土器観察表 11

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等		取上げ番号	レベル	特徴・胎土・焼成・その他　備考	写真図版
								外面	内面		(m)		
第177図	411	D-17		Ⅱb	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	褐灰・ナデ	褐灰・ナデ	1731	8.35	−	−
	412	C-24		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	褐灰・ナデ	褐灰・ナデ	12981	8.36	−	−
	413	C-24		Ⅳ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	にぶい橙・ミガキ	褐灰・ミガキ	12242	8.52	−	−
	414	C-17		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	羽褐・ミガキ	明褐灰・ミガキ	8331	8.30	金雲母	−
第178図	415	C-24		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	にぶい赤褐・ミガキ	黒褐	12890	8.49	金雲母	−
	416	C-24		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	暗赤褐・ミガキ	黒褐・ミガキ	12890	8.49	金雲母	−
	417	A-24		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	にぶい赤褐	黒褐	16616	9.95	凝灰岩	−
	418	D-12		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	にぶい橙	褐灰	503	7.98	−	−
	419	C-24	SX		浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	灰褐	灰褐		−	金雲母	−
	420	B-23		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅰd類	暗赤褐	暗赤褐	15822	8.82	多量の砂粒	−
	421				浅鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	明褐灰	黒	見入来	−	−	−
	422	C-18		Ⅱb	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	褐灰	褐灰	8622	−	−	−
	423	A-32		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	橙・ミガキ	にぶい橙	17087	9.36	−	−
	424	D-17		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1687	8.37	−	−
	425	A-22		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	黒褐	黒褐	15328	8.95	金雲母	−
	426	D-17		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	にぶい赤褐	黒	7680	8.37	−	−
	427	B-22		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	暗赤褐	暗赤褐	13482	8.72	5㎜大の石英(白)	−
	428	C-24		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	灰褐	灰褐	12915	8.71	−	−
	429	D-18		Ⅱb	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	褐灰	褐灰	4512	8.30	微小な金雲母	−
	430	C-18		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱa類	褐灰	褐灰	8622	−	小石	−
第179図	431				浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	明赤褐・ミガキ	褐灰	大坪	−	角閃石	−
	432	C-14	SX75	Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	褐灰	褐灰	14329	8.22	−	−
	433	C-22		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	にぶい赤褐	黒褐	11250	8.61	−	−
	434	B-14		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	浅橙	褐灰	13577	8.25	軽石	−
	435	D-18		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	にぶい橙	にぶい橙	7000	8.39	微量の金雲母	−
	436	B-22		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	にぶい橙	にぶい橙	15249	8.79	−	−
	437	D-21		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	にぶい橙	にぶい橙	10161	8.67	2㎜大の石英	−
	438	D-12		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	にぶい赤褐	褐灰	303	8.19	角閃石	−
	439	D-21		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	にぶい橙	にぶい橙	10016	8.54	小石	−
	440	D-18		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	褐・ナデ	黒褐・磨耗	5412	8.36	−	−
	441	A-35		Ⅳ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	黒褐・ナデ	灰褐・ナデ	17086	9.08	−	−
	442	B-21		Ⅲ	浅鉢形土器	完形	Ⅱb類	明褐・ミガキ	褐・丁寧なナデ		−	微量の金雲母	36
	443	B-16			浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	暗褐・ミガキ	褐灰	12670	8.31	−	−
	444				浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	黒褐・ナデ	黒・ナデ		−	−	−
	445			Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	黒褐・ナデ	黒褐・ナデ		−	軽石・2㎜大の石英	−
	446	B-15	SK77		浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	灰白・ナデ	黒・ナデ	13748	8.28	−	−
	447	B-15		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	黒褐・ナデ	黒褐・ミガキ	11701	8.41	−	−
	448	B-24		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	黒褐・磨耗	黄灰・ナデ	9721・9665	8.35	2㎜大の石英	−
	449	D-12		Ⅲ	浅鉢形土器	口縁部	Ⅱb類	黒・磨耗	黒褐・ナデ	14	8.17	−	−
	450	C-18		Ⅲ	浅鉢形土器	胴部	Ⅱb類	黄灰・ナデ	黄灰・ナデ	11701	8.41	半透明の2㎜大の石英	−
第180図	451	C-24		Ⅲ	小型浅鉢形土器	口縁部	−			12566	9.02	−	−
	452	D-25		Ⅲ	小型浅鉢形土器	口縁部	−	褐灰・ナデ	黒・ナデ	11727	8.96	−	−
	453	D-24		Ⅲ	小型浅鉢形土器	口縁部	−	黒褐・磨耗	黒褐・磨耗	11548	8.49	−	−
	454	C-24		Ⅲ	小型浅鉢形土器	口縁部	−	灰白・ナデ	暗赤灰・ミガキ	12280	8.86	軽石	−
	455	C-26		Ⅱ	小型浅鉢形土器	口縁部	−			11726	9.00	−	−
	456	C-22	SD44		小型浅鉢形土器	口縁部	−	黒・磨耗	黒・磨耗	12820	8.67	−	−
	457	C-15		Ⅲ	小型浅鉢形土器	口縁部	−	灰黄褐・ナデ	黒・磨耗	9043	8.08	−	−
	458	C-24			小型浅鉢形土器	口縁部	−				−	−	−
	459	C-23		Ⅲ	小型浅鉢形土器	底部	−			12712	8.94	−	−
	460	B-5	SK45	Ⅱ	小型浅鉢形土器	底部	−				−	−	−
	461	B-29		Ⅲ	小型浅鉢形土器	底部	−	にぶい橙	にぶい橙	16080	9.40	凝灰岩	38
	462	B-29		Ⅲ	小型浅鉢形土器	底部	−	褐灰・ナデ	褐灰・ナデ	16091	9.36	−	−
	463	B-22		Ⅲ	小型浅鉢形土器	底部	−	黒褐・ナデ	黒褐・ナデ	15000	8.61	−	−
	464	D-24		Ⅲ	小型浅鉢形土器	底部	−	褐灰・ナデ	明黄褐・ナデ	11306	8.92	−	−
	465	C-02			小型浅鉢形土器	底部	−				−	−	−
	466	B-15		Ⅲ	小型浅鉢形土器	底部	−	黒褐・ナデ	褐灰・ナデ	13656	8.33	−	−
	467	C-23		Ⅲ	小型浅鉢形土器	−	−	黒・ミガキ	黒・ミガキ		−	金雲母	38
	468	D-22			小型浅鉢形土器	口縁部	−	黒・磨耗	黒・磨耗		−	−	−
	469	D-24		Ⅲ	小型浅鉢形土器	口縁部	−	黒褐・ナデ	褐灰・ナデ	10928	8.68	軽石	38
	470	B-23		Ⅲ	小型浅鉢形土器	口縁部	−	橙・ナデ	褐灰・丁寧なナデ	16613	9.93	−	−
第181図	471	C-14	SX75		鉢形土器	口縁部	−			14460	7.99	−	−
	472	C-24		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	褐・ミガキ	明赤褐・ミガキ	12144	8.93	−	−
	473	C-24		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	赤褐・ミガキ	赤褐・ミガキ	12145	8.92	−	−
	474	C-24		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	明赤褐・ナデ	黒褐・ナデ	12130	8.95	軽石	−
	475	B-22		Ⅲ	鉢形土器	実測班	−	にぶい褐・ミガキ	明赤褐・ミガキ	15020	8.75	−	−
	476	B-35		Ⅱb	鉢形土器	口縁部	−			1966	8.50	−	−
	477	C-15		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	褐灰・ミガキ	にぶい橙・ミガキ	8999	8.12	−	−
	478			Ⅲ	鉢形土器	胴部	−			大坪	−	−	−
	479	D-21		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−			9953	8.58	−	−
	480	C-24	SX		鉢形土器	胴部	−				−	−	−
	481	B-22		Ⅲ	鉢形土器	胴部	−			13482	8.72	−	−
	482	D-17	SJ48	Ⅲ	鉢形土器	底部	−	橙・ミガキ	にぶい橙・ミガキ	6640	8.14	2㎜大の石英	35
	483	A-35		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	褐・ミガキ	暗褐・ミガキ	16817	9.42	−	−
	484				鉢形土器	口縁部	−	明褐・ミガキ	黒褐・ミガキ		−	−	−
	485	B-14		Ⅲ	鉢形土器	底部	−			9721	8.35	−	−
第182図	486	D-22	SD43		盌形土器	口縁部	−			9831	8.50	−	−
	487	C-24	SX		盌形土器	口縁部	−	褐灰・ナデ	灰褐・ミガキ		−	凝灰岩	38
	488	B-33		Ⅲ	盌形土器	口縁部	−	灰褐・磨耗	褐灰・磨耗	16300	9.57	穿孔あり	−
	489	A-33		Ⅲ	盌形土器	口縁部	−	褐灰・磨耗	褐灰・磨耗	16446	9.41	−	−
	490	D-22			盌形土器	−	−				−	−	−
	491	D-12		Ⅲ	盌形土器	口縁部	−	黒・ミガキ	褐灰・丁寧なナデ	286	8.14	−	−
	492	C-24		Ⅲ	盌形土器	口縁部	−	褐灰・磨耗	褐灰・磨耗	12932	8.87	−	−
	493	C-16			盌形土器	−	−				−	−	−

合としての傾向は保っていると考える。形状からⅠ～Ⅲ類に分類した。652はどこにも当てはまらない形状であり，浅鉢形土器や組織痕土器とも異なるので，ここで提示しておきたい。

Ⅰ類（504～532）：胴下半部からやや内湾しながらすぼまる底部である。上げ底になるものや，平底がある。底部の直径は5.5～11cmにおさまる。器壁は比較的薄い。504は碁笥底風になるものである。

Ⅱ類（533～554）：胴下半部と底部の境がやや明瞭で，境部分と接地部分の直径の差が少ないものである。器壁はやや厚い。わずかに上げ底状になるものもあるが，ほとんど平底である。

548はわずかに上げ底状となり，縁に沿って２か所の突起がみられる。553は571や612と同様の渦巻状の圧痕がみられる。

Ⅲ類（555～651）：胴下半部との境がやや明瞭で，台形状に大きく張り出し厚みのある底部である。ほとんど平底であるが，上げ底になるものもわずかながらみられる。底面に木の実と考えられる圧痕がみられるものも多い。

603は蛇ノ目状の高台の様なつくりである。651は脚台状をしている。618の胎土内には１㎜～1.5㎜大の赤色粒子が目立つ。本センターの蛍光Ｘ線分析装置を使用して赤色粒子とそれ以外の胎土部分の分析を試みた。その結果，赤色粒子部分がそれ以外と比較して，鉄分が突出していることがわかった。

⑧縄文土製品（第189図　653～655）

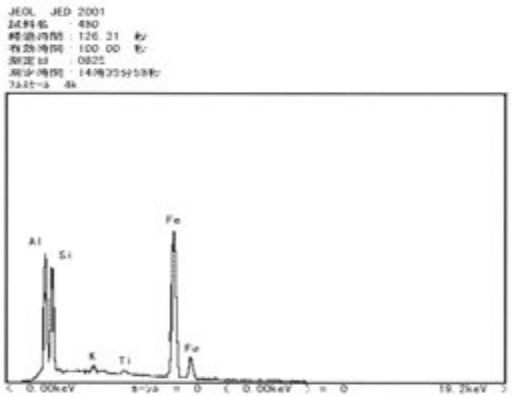
653は一見普通の縄文時代晩期土器の口縁部であるが，一つの土器片の中で色が異なっている。上の方が赤褐色で，下が乳褐色をしている。割れ口を観察すると，粘土紐の接ぎ目のところで色が変わり，明らかに異なった粘土で土器がつくられていることがわかる。このような土器は，古くは縄文時代草創期からあり，新しくは平安時代の高台付坏にもある。本田道輝氏によると，このような土器がつくられた理由として次のようなことが考えられている（本田2000）。①装飾のため　②土器の部位によるつくり分け　③製作途中での粘土不足　④製作途中での意義である。本遺物がどのような意味を持っていたのか知る由もないが，注意を喚起する意味で取り上げた。

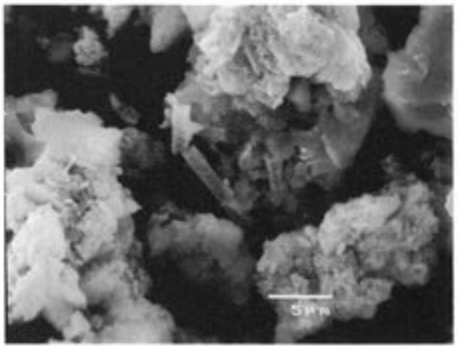
654は土器の文様の一部なのか，土製品の一部なのか判断がつかないまま掲載してある。ヘラ状の工具で描いており，何を描こうとしていたかは不明である。294の口縁部にも類似した文様が描かれている。

655はB-15区のⅢ層から出土した。直径38㎜，厚さ6㎜の円盤形で，中心からややずれたところに直径6㎜の孔が開いている。横から見るとわずかに湾曲していることと，厚さが類似していることから，縄文時代の深鉢形土器の破片を再利用しているものと考えられる。一面が赤茶色をしているのに対し，もう一面が少し黒茶色をしており，焼成時の温度差が窺える。一見円盤状土製加工品のようであるが，異なる部分もあり断定できない。前迫亮一氏によると，円盤状土製加工品は縄文時代中期末～後期中半に最も多くみられ，加治木町干迫遺跡では1,270点出土しているという（前迫2000）。古くは縄文時代早期前半から存在し，新しいものは江戸時代の陶磁器を利用したものもある。使い方については諸説あり，編物等の錘説・竹筒の蓋説・遊具玩具説といろいろ考えられるが，まだ解明されていない。今回本遺跡から出土した土製加工品は，中心からずれて孔を開ける点や加工の仕方が非常に丁寧であることから，垂飾品の可能性も考えられる。しかし，明確な紐ずれの痕跡は認められない。胎土に滑石粒が含まれることから，土器そのものは縄文時代後期終末～晩期にかけてのものではなく，中期末頃のものと考えられる。沖田岩戸遺跡の調査で，胎土に滑石粒を含む並木式土器が１点出土していることからこの時期のものであると考えられるが，加工された時期がいつだったのかは不明である。

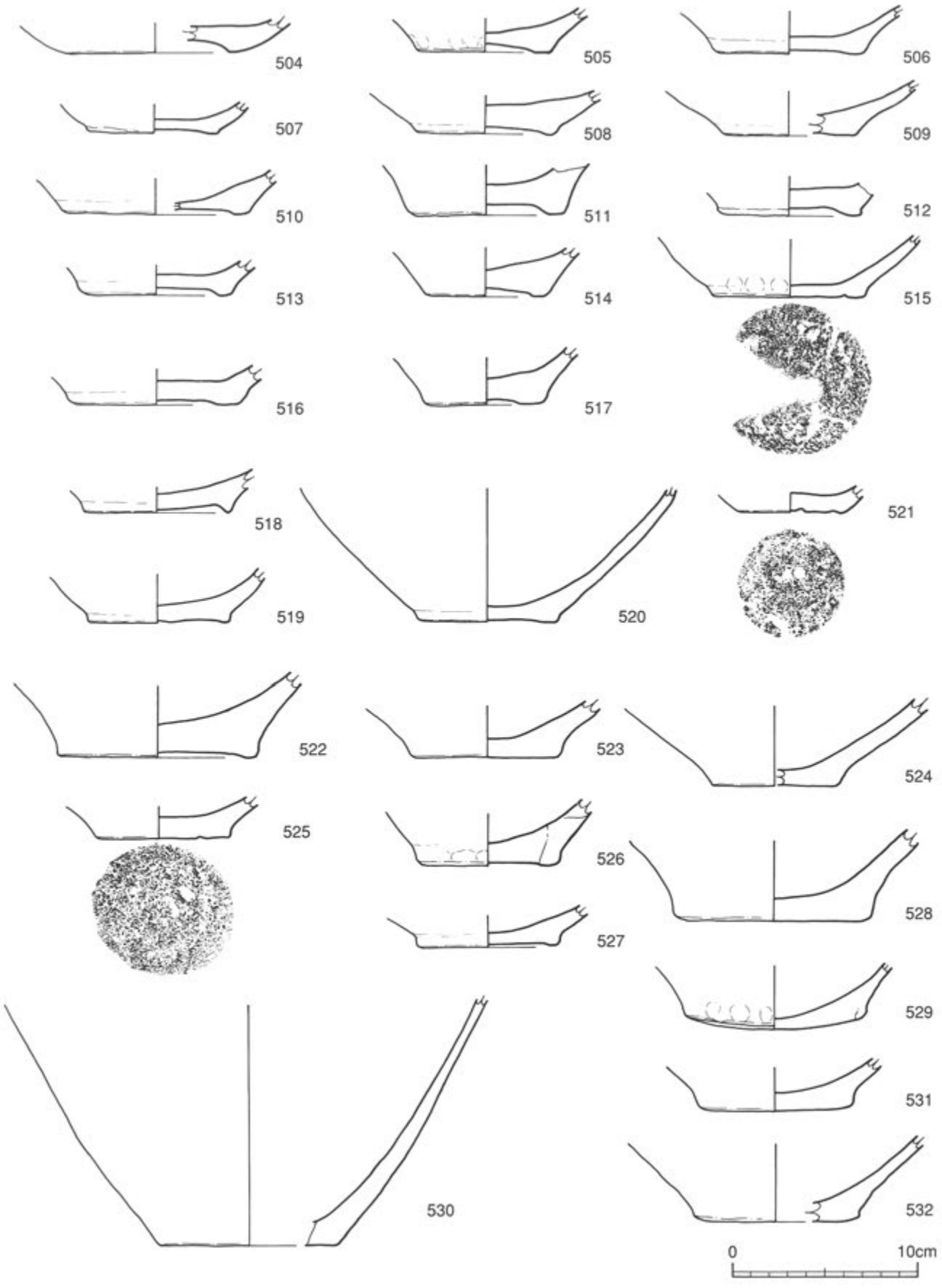
本田道輝　2000　「異なる素地を組み合わせてつくられた土器」『大河』第７号　大河同人

前迫亮一　2000　「かごしま考古なんでもランキング円盤状土製加工品」『大河』第７号　大河同人

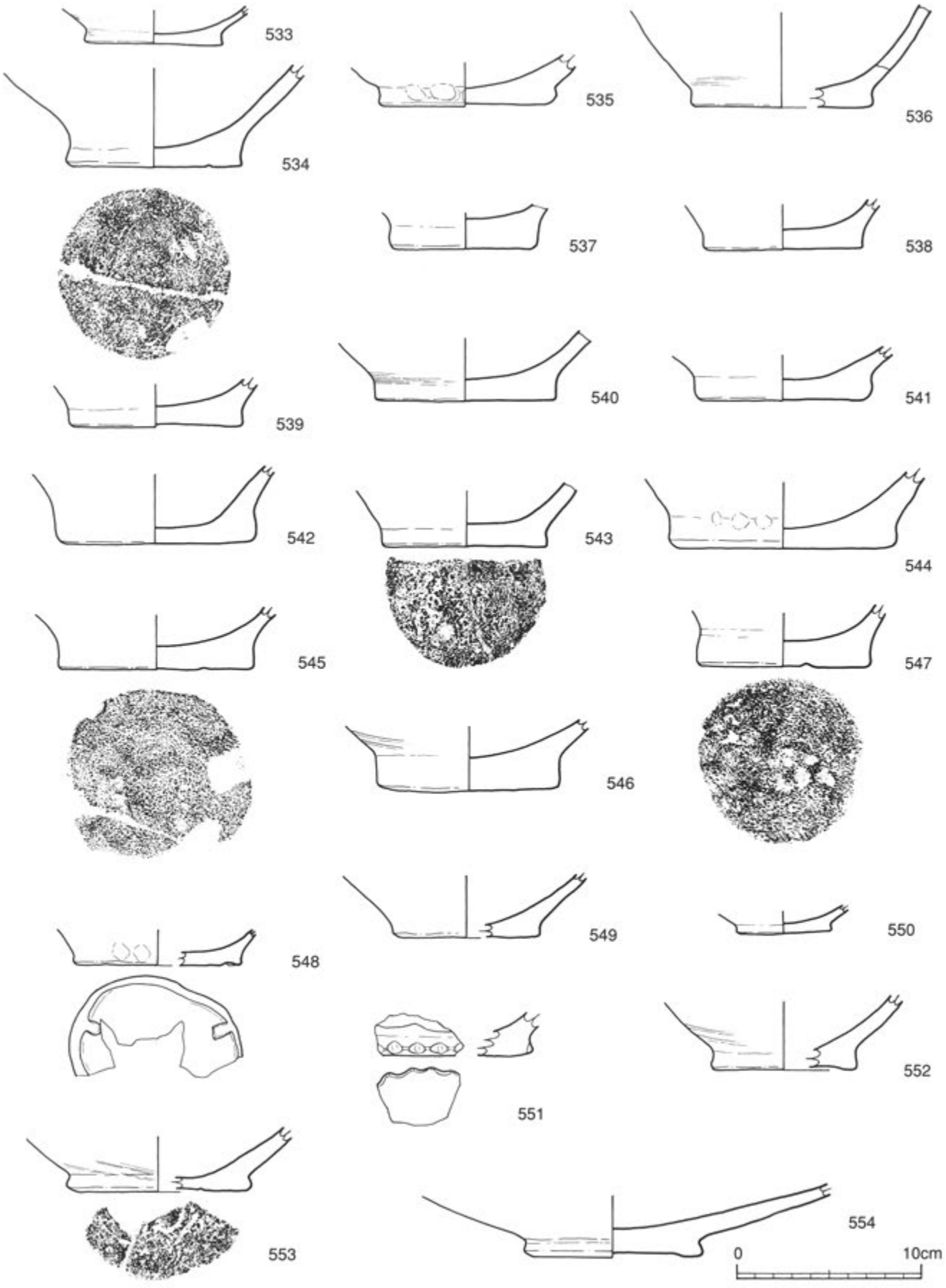




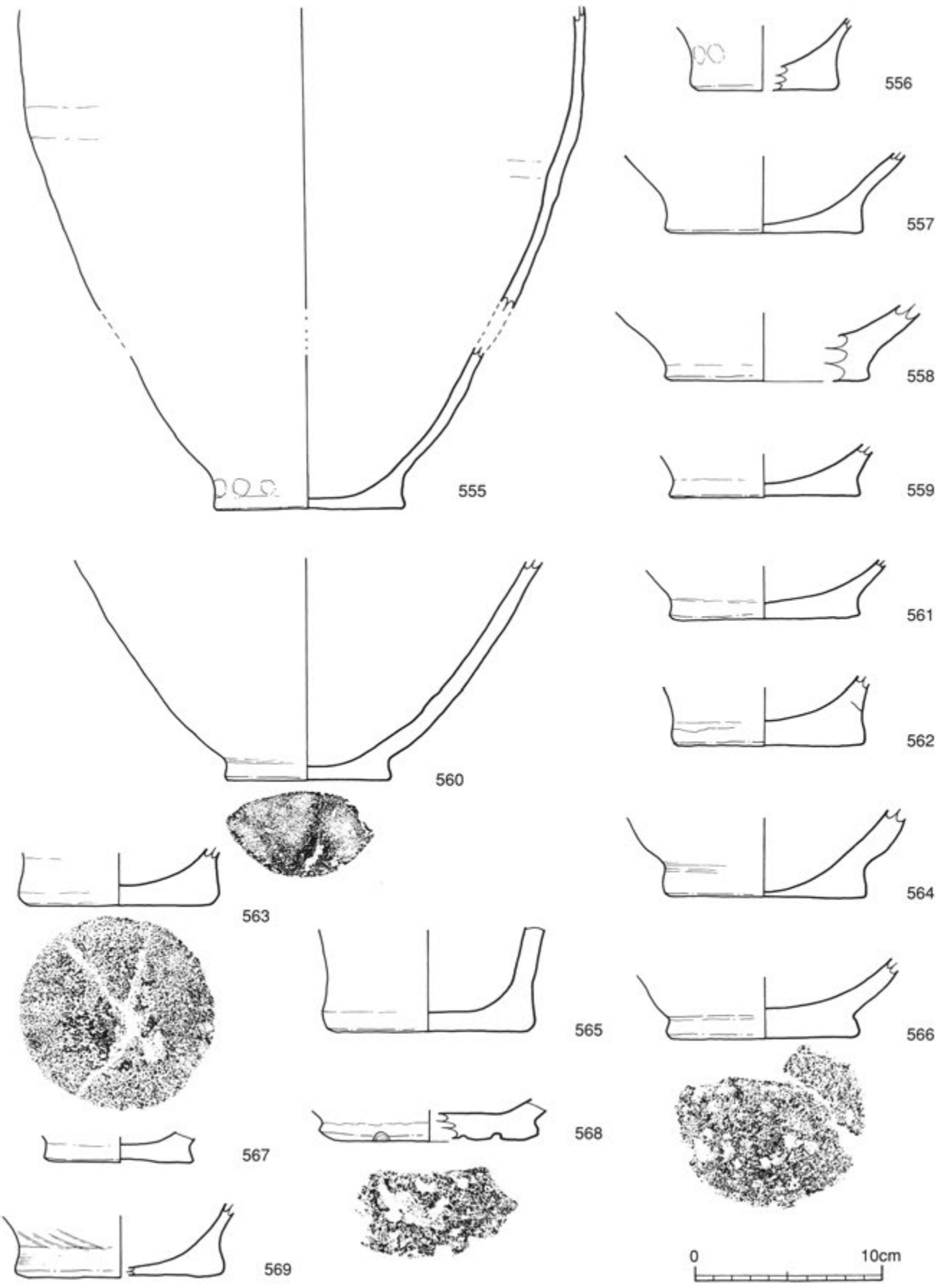
赤色顔料（459）の成分と拡大写真



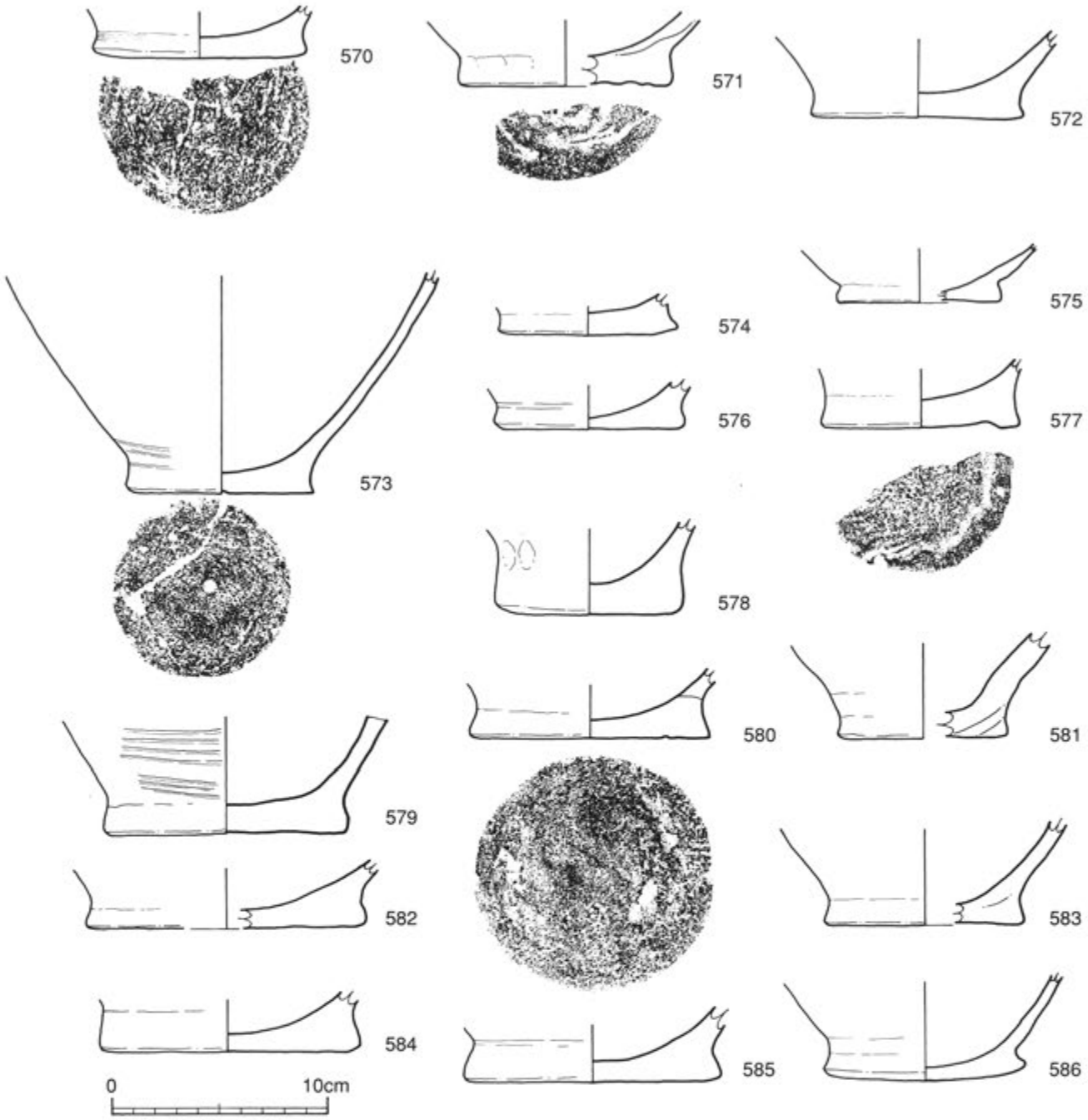
第183図　出土遺物　縄文土器(54)



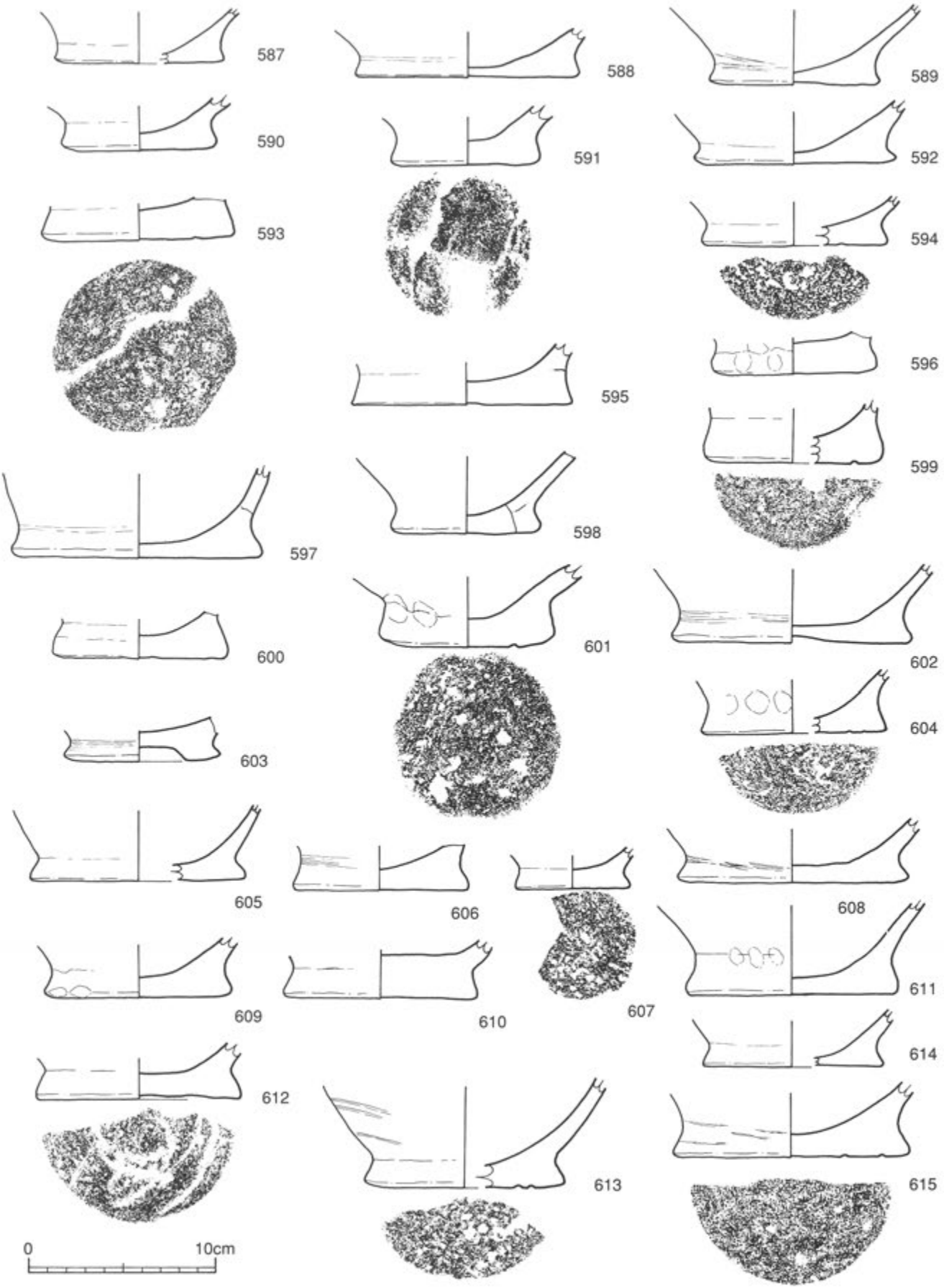
第184図　出土遺物　縄文土器(55)



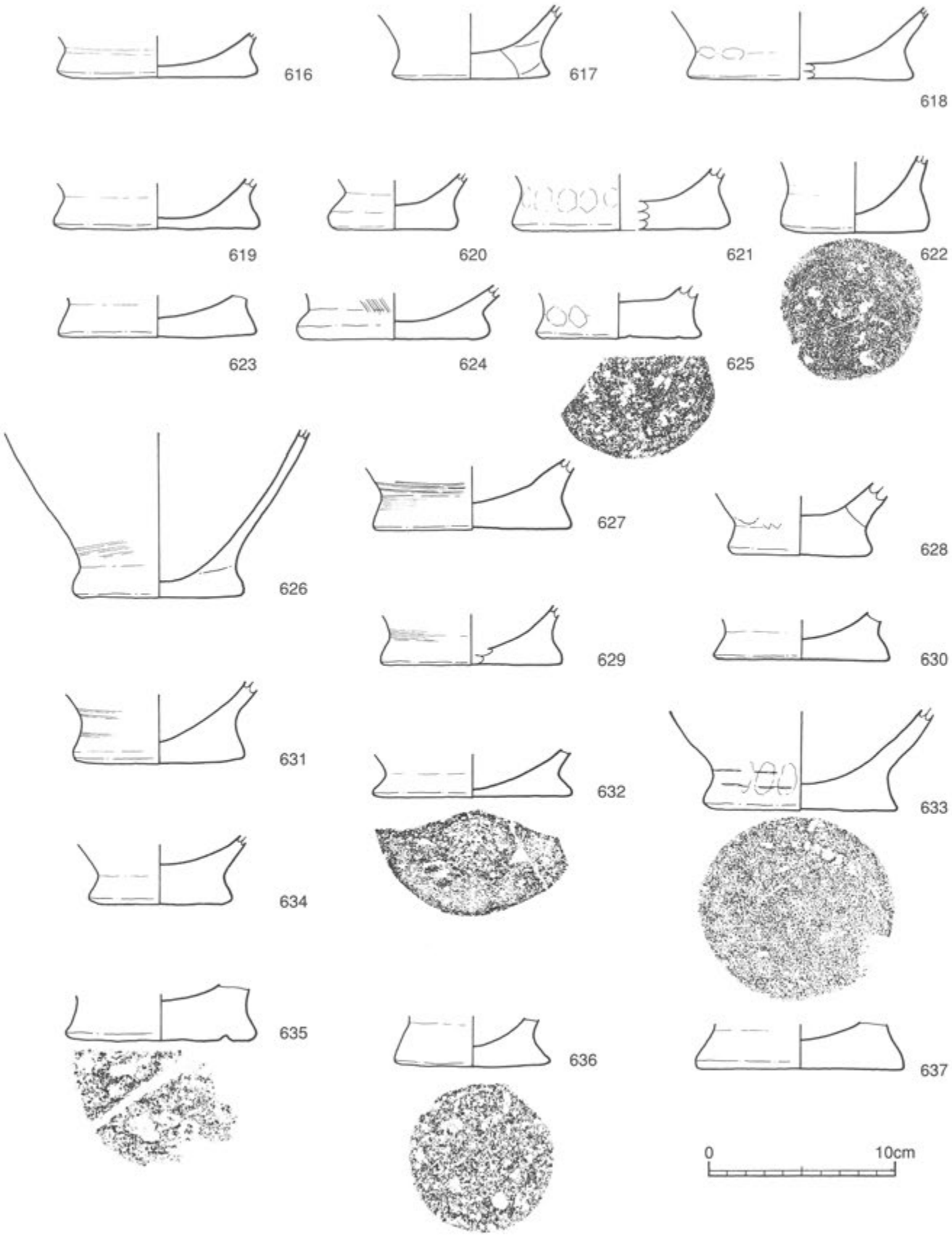
第185図　出土遺物　縄文土器(56)



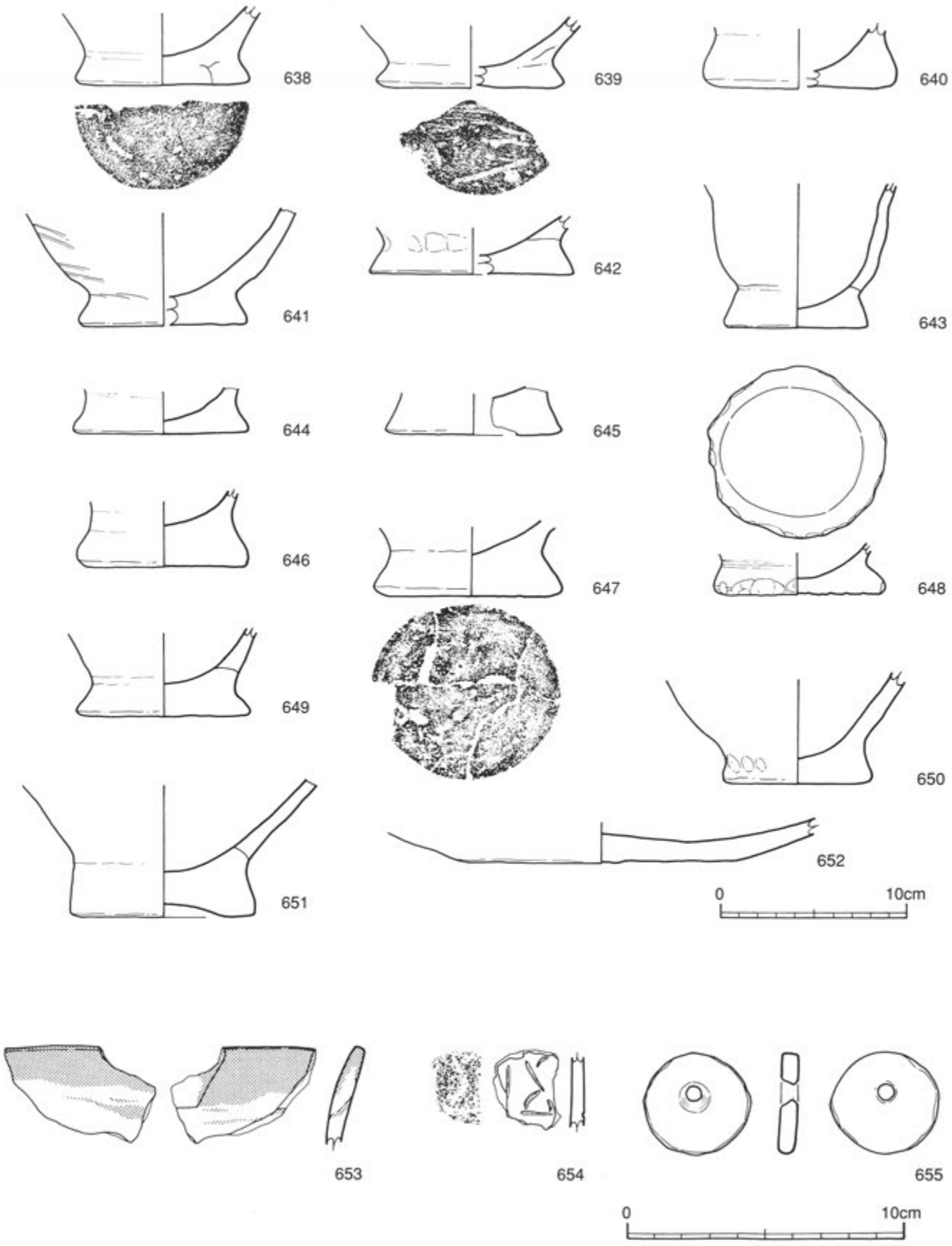
第186図　出土遺物　縄文土器(57)



第187図　出土遺物　縄文土器(58)



第188図　出土遺物　縄文土器(59)



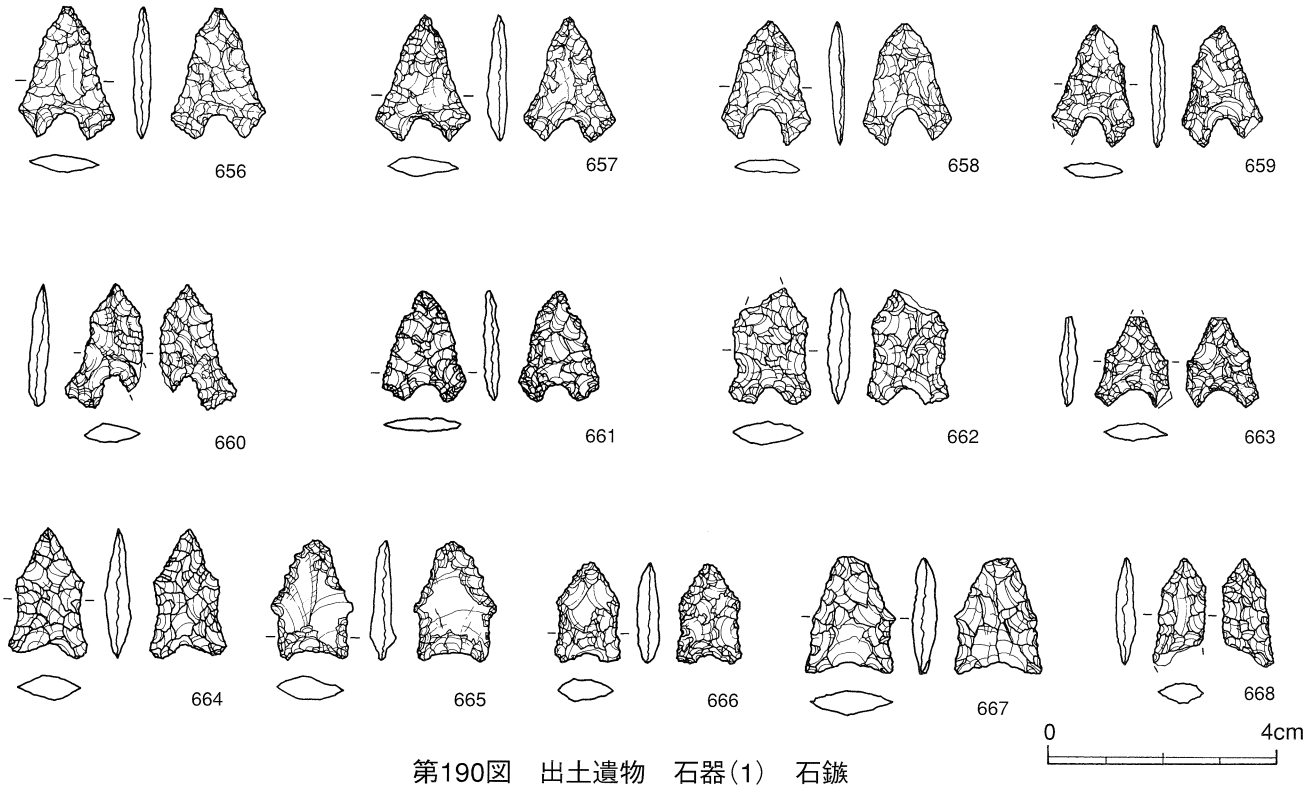
第189図　出土遺物　縄文土器(60)

表21　縄文土器観察表 12

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等		取上げ番号	レベル	特徴・胎土・焼成・その他　備考	写真図版
								外面	内面		(m)		
第182図	494	C-24		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	灰・丁寧なナデ	黒・丁寧なナデ	10633	8.44	−	−
	495				鉢形土器	口縁部	−	褐灰・ミガキ	褐灰・ミガキ	大坪	−	軽石	−
	496	C-14		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	褐灰・磨耗	褐灰・磨耗	976	8.16	−	−
	497	D-14		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	橙・ナデ	にぶい橙・ナデ	1112	8.19	−	−
	498	B-24		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	明褐灰・磨耗	灰黄褐・磨耗	15954	8.93	−	−
	499	A-25		Ⅳ	鉢形土器	口縁部	−	灰黄褐・ミガキ	褐・ミガキ	16579	9.86	−	−
	500	B-6	SK71		鉢形土器	口縁部	−	暗赤褐・ミガキ	明赤褐・ミガキ	大坪	−	−	−
	501	B-14		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	にぶい褐・ミガキ	黄褐・ミガキ	9753	8.36	−	−
	502	C-23		Ⅲ	鉢形土器	−	−	黒	黒		−	半透明の石英	37
	503	D-12		Ⅲ	鉢形土器	口縁部	−	褐灰・条痕	明赤褐・ミガキ	456	8.11	−	−
第183図	504	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤	明赤褐	14277	8.18	軽石	−
	505				深鉢形土器	底部	−	赤褐	黒	大坪	−	角閃石	−
	506	C-18			深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	にぶい橙	大坪	−	軽石	−
	507	C-18			深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	褐灰	大坪	−	−	−
	508	C-15		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	褐灰・丁寧なナデ	褐灰・丁寧なナデ	9831	8.50	金雲母	−
	509	B-14	SK77	Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい橙	13705	8.23	金雲母	−
	510	D-18			深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい橙	大坪	−	2㎜大の石英	−
	511	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	橙	8576	7.23	軽石	−
	512	B-18		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤	赤灰	8531	−	角閃石	−
	513	C-16		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	にぶい橙	1879	7.96	金雲母	−
	514			Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明褐・	赤褐・		−	金雲母	−
	515	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐・ミガキ	赤褐・ナデ	8361	8.30	角閃石・種子圧痕	−
	516	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	橙	大坪	−	金雲母	−
	517	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐・磨耗	黒褐・磨耗	9629	8.34	2㎜大の石英	−
	518	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	黒褐・ミガキ	大坪	−	金雲母	−
	519	B-35		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	褐灰・ナデ	灰褐・磨耗	5271	7.94	金雲母	−
	520	C-17		Ⅱb	深鉢形土器	底部	−	明赤褐・ナデ	褐灰・ナデ	8563	7.32	2㎜大の石英・圧痕	−
	521	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐・磨耗	黒・磨耗	95	8.17	2㎜大の石英	−
	522	C-17		Ⅱb	深鉢形土器	底部	−	にぶい黄橙・ナデ	黄橙・磨耗	8563	7.32	金雲母・小石	−
	523	C-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐・ナデ	黒褐・磨耗	11243	8.54	金雲母	−
	524	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐・ナデ	黒褐・ミガキ	14293	8.06	金雲母	−
	525	D-16		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐・ナデ	赤黒	5051	8.17	軽石・圧痕	−
	526	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐・ナデ	黒・ナデ	14008	8.11	金雲母	−
	527	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	淡赤橙・ナデ	褐灰・−	5577	8.95	−	−
	528	D-25		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐・ナデ	明赤褐・磨耗	11339	8.59	金雲母・小石・圧痕	−
	529	B-15		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐・ナデ	黒褐	13935	8.27	13848・13890、金雲母	−
	530				深鉢形土器	底部	−	橙・ナデ	黒褐・ナデ	大坪	−	軽石・角閃石	−
	531	C-18			深鉢形土器	底部	−	灰白・ナデ	褐灰		−	金雲母・凝灰岩・圧痕	−
	532	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐・ナデ	にぶい赤褐・ナデ	8341	8.31	小石・金雲母	−
第184図	533	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい橙		−	2㎜大の石英・金雲母	−
	534	B-15		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	2967	8.36	2㎜大の石英・圧痕	−
	535	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	11	8.15	2㎜大の石英	−
	536	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	にぶい赤褐	15264	8.72	小石・金雲母	−
	537	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい橙	4	8.17	2㎜大の石英	−
	538				深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい橙	注記ナシ	−	角閃石	−
	539				深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	褐灰	？217	0.00	2㎜大の石英・圧痕	−
	540	D-23		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい褐	10648	8.84	金雲母	−
	541	D-21		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	褐灰	10620	8.43	金雲母・軽石	−
	542	C-18			深鉢形土器	底部	−	明赤褐・ナデ	褐灰・丁寧なナデ	大坪	−	3㎜大の石英（白）	−
	543				深鉢形土器	底部	−	赤褐	黒褐	見入来	−	2㎜大の石英・種子圧痕	−
	544	B-15		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい黄橙	13661	8.28	角閃石	−
	545				深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい橙	注記ナシ	−	金雲母	−
	546	D-13		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	758	8.34	小石・金雲母	−
	547	B-22	SD43		深鉢形土器	底部	−	褐灰	褐灰	12803	8.94	2㎜大の石英・種子圧痕	−
	548	C-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	赤褐	11241	8.56	小石・金雲母・突起	−
	549	D-21		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	10049	8.43	金雲母	−
	550	C-24		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい黄橙	黒褐	12923	8.88	−	−
	551	D-20		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	暗赤褐	7583	8.46	金雲母・縁辺刻目	−
	552	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	にぶい赤褐	にぶい赤褐		−	軽石	−
	553	C-24		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	黄橙	褐灰	12888	8.45	金雲母・編物圧痕	−
	554	B-16		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	橙	12681	8.34	5㎜大の石英（白）・茶粒	−
第185図	555				深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	大坪	−	2㎜大の石英	−
	556	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐		−	2㎜大の石英	−
	557	B-15		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	黒褐	13749	8.27	2㎜大の石英	−
	558	C-22	SD43		深鉢形土器	底部	−	明赤褐	黒褐	12788	8.50	金雲母	−
	559	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	赤褐	赤褐		−	角閃石	−
	560	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	赤	にぶい橙		−	金雲母	−
	561				深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	注記ナシ	−	金雲母・小石	−
	562	C-24		Ⅳ	深鉢形土器	底部	−	黄橙	黄橙	12247	8.25	金雲母・小石	−
	563	D-13		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	暗赤褐	876	8.09	2㎜大の石英・種子圧痕	−
	564	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	13096	8.77	2㎜大の石英・圧痕	−
	565	D-13		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	845	8.04	石英・圧痕	−
	566	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい橙	大坪	−	金雲母・小石・種子圧痕	−
	567	D-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	黒	10243	8.59	角閃石	−
	568	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	11321	8.87	金雲母・種子圧痕	−
	569	B-23	SFK133		深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	にぶい橙	大坪	−	軽石・2㎜大の石英	−
第186図	570	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい橙	824	8.28	2㎜大の石英・圧痕	−
	571	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	にぶい橙	8409	8.28	2㎜大の石英・編物圧痕	−
	572	C-24		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	暗赤褐	12891	8.51	角閃石	−
	573				深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	大坪	−	凝灰岩・軽石・2㎜大の石英	−
	574	D-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	10330	8.59	小石・金雲母	−
	575	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい橙		−	凝灰岩	−
	576	A-35			深鉢形土器	底部	−	にぶい赤褐	にぶい赤褐	大坪	−	凝灰岩・角閃石	−

表22　縄文土器観察表 13

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	部位	分類	調整・文様・色調等		取上げ番号	レベル	特徴・胎土・焼成・その他　備考	写真図版
								外面	内面		(m)		
第186図	577	B-24		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	褐灰	明赤褐	15957	8.93	2㎜大の石英・角閃石	−
	578	B-36		Ⅱc	深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	褐灰	2467	9.57	2㎜大の石英・軽石	−
	579	B-15		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐・条痕	にぶい明赤褐	13927	8.23	13861・13890，小石	−
	580	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい橙	16480	9.60	2㎜大の石英・圧痕	−
	581	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	13702	8.24	軽石	−
	582				深鉢形土器	底部	−	明赤褐	褐灰	大坪	−	小石・金雲母・圧痕	−
	583	B-14		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい赤褐	にぶい橙	13878	8.18	2㎜大の石英	−
	584	C-23	SD68	Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	黄橙	明褐灰	13017	8.79	3㎜大の石英(白)・角閃石・圧痕	−
	585	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	にぶい黄橙	褐灰	大坪	−	金雲母・軽石・圧痕	−
	586	A-21	SD43		深鉢形土器	底部	−	暗赤褐	暗赤褐	1116？	0.00	金雲母・圧痕	−
第187図	587	A-32		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	にぶい橙	17054	9.55	2㎜大の石英	−
	588	C-12		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	にぶい橙	877	8.08	金雲母	−
	589				深鉢形土器	底部	−	褐・条痕	黒褐	注記ナシ	−	軽石・2㎜大の石英	−
	590	D-25		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	暗赤褐	11366	8.77	−	−
	591	C-24		Ⅳ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	12260	8.51	小石	−
	592	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	にぶい褐	316	8.16	角閃石	−
	593	A-33		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	赤褐	16486	9.56	2㎜大の石英・種子圧痕	−
	594	B-24		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	橙	15963	8.88	金雲母	−
	595	D-13		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	643	8.22	金雲母	−
	596	D-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	10632	8.40	角閃石	−
	597	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	橙	橙		−	金雲母	−
	598				深鉢形土器	底部	−	赤褐	赤褐	見入来	−	金雲母	−
	599	B-35		Ⅱc	深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	褐灰	2343	9.53	2㎜大の石英・種子圧痕	−
	600	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	にぶい赤褐	164	8.15	2㎜大の石英・軽石・種子圧痕	−
	601	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	にぶい橙	10861	8.73	角閃石・種子圧痕	−
	602	C-24		Ⅳ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	褐灰	12326	8.30	金雲母	−
	603	D-18		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	黒褐	3649	8.41	金雲母・脚台状	−
	604	大坪			深鉢形土器	底部	−	橙	橙	大坪	−	金雲母・圧痕	−
	605	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい褐	大坪	−	金雲母・種子圧痕	−
	606	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	14904	8.93	5㎜大の石英(白)・角閃石	−
	607				深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	注記なし	−	小石・圧痕	−
	608	D-17		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい橙	6758	8.15	小石	−
	609	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	にぶい赤褐	13485	8.76	金雲母・圧痕	−
	610	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	にぶい褐	16399	9.54	2㎜大の石英・軽石	−
	611				深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい赤褐	見入来	−	2㎜大の石英・圧痕	−
	612	C-17		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	8354	8.27	2㎜大の石英・編物圧痕	−
	613	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	淡赤橙	淡赤橙	549	8.10	2㎜大の石英・種子圧痕	−
	614	C-24	SX		深鉢形土器	底部	−	赤褐	にぶい赤褐		−	2㎜大の石英・金雲母	−
	615	C-24		Ⅳ	深鉢形土器	底部	−	黄橙	黄橙	12312	8.29	小石・金雲母	−
第188図	616	D-21		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	浅黄橙	浅黄橙	10002	8.58	金雲母	−
	617	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	にぶい橙	15732	8.92	−	−
	618	C-24		Ⅳ	深鉢形土器	底部	−			12324	8.27	−	−
	619	D-21		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	暗赤灰	9970	8.43	凝灰岩・圧痕	−
	620	B-16		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	11746	8.90	凝灰岩	−
	621	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	黒褐	1260	8.23	2㎜大の石英	−
	622	D-23		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	褐灰	9889	8.64	軽石・圧痕	−
	623	D-15		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	赤褐	1283	8.17	圧痕	−
	624	A-35			深鉢形土器	底部	−	赤褐	赤褐	大坪	−	圧痕	−
	625	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	にぶい赤褐	13481	8.98	小石・圧痕	−
	626	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	浅黄橙	11460	8.67	2㎜大の石英・圧痕	−
	627	C-14	SX75		深鉢形土器	底部	−	明赤褐	赤黒	14335	8.18	小石・角閃石・圧痕	−
	628	A-35	SD144	Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	16781	9.66	小石・金雲母・圧痕	−
	629	A-35	SF193		深鉢形土器	底部	−	にぶい赤褐	にぶい赤褐	大坪	−	小石・圧痕	−
	630	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	16514	9.49	2㎜大の石英	−
	631	D-12		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい赤褐	暗赤褐	283	8.11	2㎜大の石英・圧痕	−
	632	D-18			深鉢形土器	底部	−	灰白	浅黄橙	大坪	−	角閃石・圧痕	−
	633	B-34			深鉢形土器	底部	−	明赤褐	浅黄橙	大坪	−	2㎜大の石英・圧痕	−
	634	C-22	SD43		深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	12165	8.53	2㎜大の石英	−
	635	A-32	SD		深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい橙	17046	9.58	軽石・種子圧痕	−
	636	C-34		Ⅱb	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	1843	8.50	金雲母・種子圧痕	−
	637			Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	灰白	灰白	見入来	−	軽石・2㎜大の石英	−
第189図	638	D-17		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	暗赤褐	暗赤褐	7419	8.33	2㎜大の石英・圧痕	−
	639	B-22		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	明赤褐	14739	8.86	小石・圧痕	−
	640	D-21		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	黒褐	10161	8.65	小石・圧痕	−
	641	B-21		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	暗赤褐	暗赤褐	15161	8.76	金雲母	−
	642	B-14			深鉢形土器	底部	−	にぶい橙	にぶい橙	大坪	−	角閃石・凝灰岩	−
	643	C-23		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	橙	12603	8.78	−	−
	644	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	赤褐	16546	9.54	2㎜大の石英	−
	645	A-32		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	赤褐	赤褐	17080	9.32	小石	−
	646	D-11		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	黒褐	424	8.09	2㎜大の石英	−
	647	D-24		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	にぶい橙	10882	8.99	1686，金雲母・圧痕	−
	648	A-34		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	16803	9.43	凝灰岩・圧痕	−
	649	C-16		Ⅱb	深鉢形土器	底部	−	赤褐	黒褐	8729	8.33	凝灰岩	−
	650	D-26		Ⅳ	深鉢形土器	底部	−	明赤褐	にぶい赤褐	11254	8.66	小石・圧痕	−
	651	B-32		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	赤灰	17061	9.48	軽石・脚台状	−
	652	B-29		Ⅲ	深鉢形土器	底部	−	橙	赤褐	16071	9.28	2㎜大の石英・軽石・圧痕	−
	653	D-13		Ⅲ	縄文土製品	−	−	暗赤褐	明赤褐	大坪	−	−	−
	654	B-17						極暗赤褐	暗赤褐		−	−	−
	655				縄文土製品	−	−	明赤褐	にぶい赤褐		−	滑石粒	−



第190図　出土遺物　石器(1)　石鏃

（２）縄文石器

①石鏃（第 190～209 図　656～1166）

石鏃と判断できたものについては細片も図示してあるので，調査によって得られた実数に近いものと考える。加工して当初目的とした形状のものと未製品とに分け，さらに形状のわかるものについては形の特徴により細分した。石鏃は狩猟用の弓矢として矢の先端に取り付ける道具であり，対象動物に命中した際確実に突き刺さることが求められる。そのためには，先端が鋭く尖っていなければならない。また，突き刺さった矢が暴れまわる動物から簡単にはずれない様にするために，基部の逆刺の形状も重要となる。さらに，矢先への装着方法が紐でしばって固定する場合，側縁の形状にも意味がある。大きさ・厚さ・重さについても，対象動物が兎や鳥などの小動物と鹿や猪の大型獣とで違いがあったのかもしれないが，一定の数値におさまるようである。矢に毒が塗られていた可能性が想定される所以である。

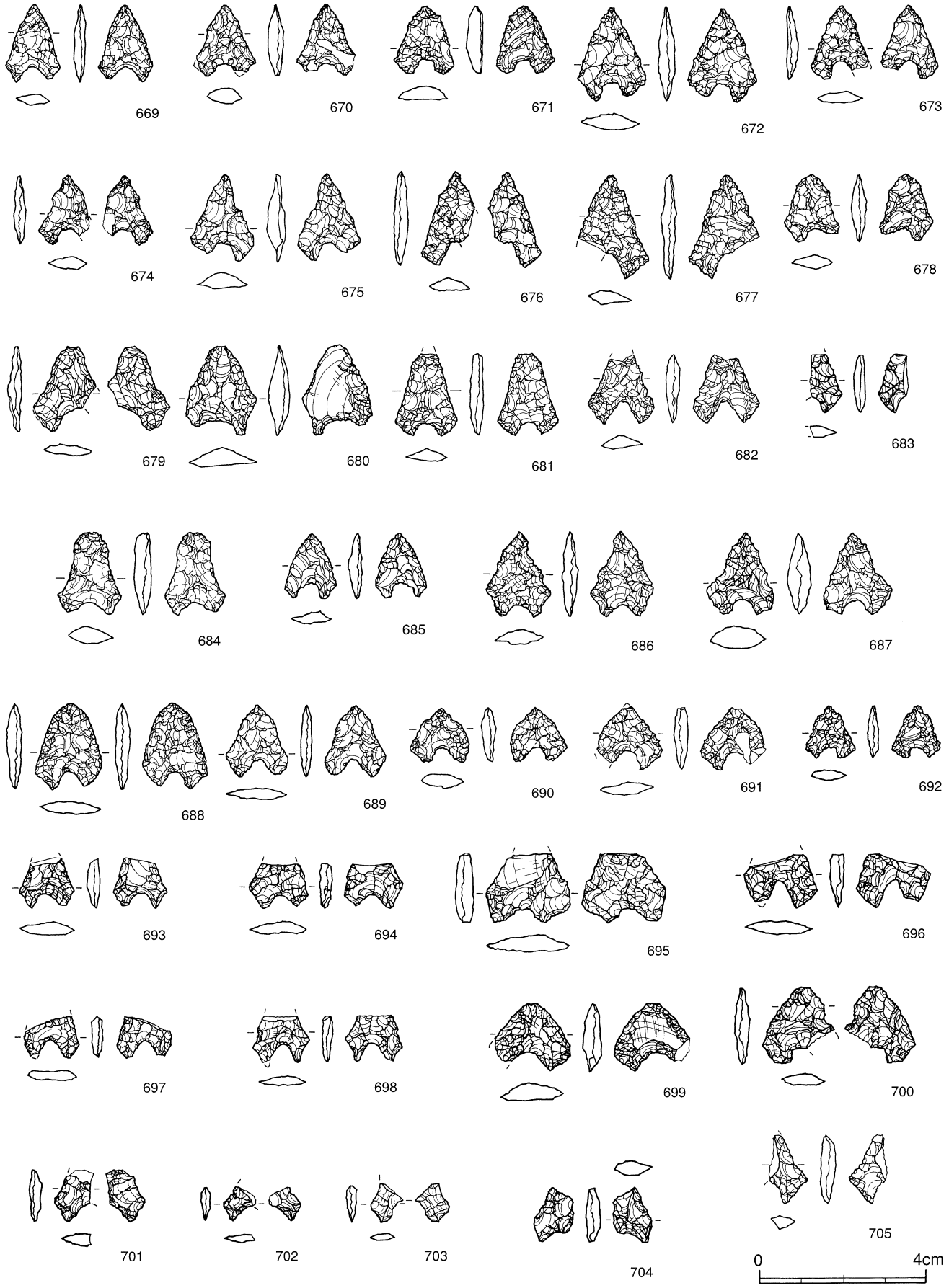
欠損した箇所を除き，この様な条件を満たさないものを未製品として扱い，それ以外を形態ごとに分類した。基部が抉れるものと平坦になるものに大きく分類し，その後側辺及び逆刺部分の形状からⅠ類～Ⅸ類に分類した。

Ⅰ類（第 190 図　656～668）

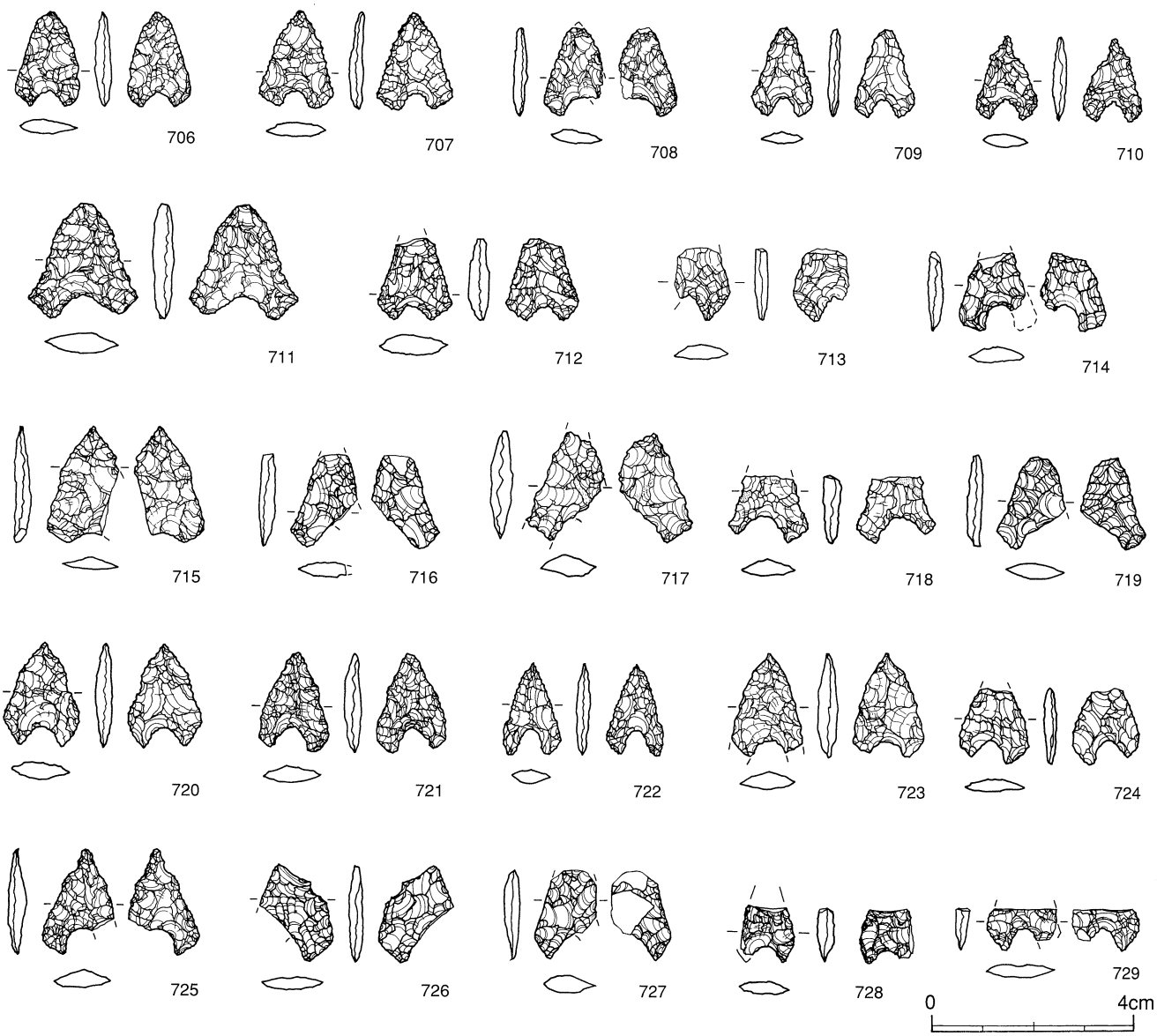
凹基式の長身で，側縁が直線的でなくいわゆる肩部をもつタイプである。さらに，いわゆる腰部から基部の形態によりⅠa～Ⅰc 類に分けた。Ⅰa 類（656～660）は腰部がやや上位にあり，脚部先端が尖るものである。Ⅰb 類（661～663・668）は肩部と腰部がやや下がった位置にあり，脚部が長方形状となるものである。Ⅰc 類（664～667）は腰の部分がなく，いわゆる五角形鏃と呼ばれるものである。

Ⅱ類（第 191・192・196 図　669～729・805～837）

Ⅱ類としたものは，凹基式で側縁が直線的でない点はⅠ類と同じであるが，縦横の長さの差がそれほど大きくないものであり，腰部以下の形状からⅡa～Ⅱc 類に細分した。Ⅱa 類（669～705）は腰部がやや上位にあり，脚端部が尖るものである。Ⅱb 類（706～719・805～818）は腰部がやや下がり，脚部が長方形状となるものである。Ⅱc 類（720～729・819～837）としたものは，Ⅱa 類に近い形であるが，腰部の角がなく丸みを帯びるタイプである。



第191図　出土遺物　石器(2)　石鏃



第192図　出土遺物　石器(3)　石鏃

Ⅲ類（第195図　772～804）

Ⅲ類は凹基式で側縁が丸みを帯びたタイプであり，脚部端の形状によってⅢa～Ⅲc類に細分した。Ⅲa類（772～783）は脚部端が水平になるものであり，基部は凹部を小さくつくり出している。Ⅲb類（785～789・791・792・794）は脚部端が丸みを帯びるものである。Ⅲc類（784・790・793・795～804）は脚部端が尖り，基部全体が大きく湾曲するタイプである。

Ⅳ類（第197～199図　838～905）

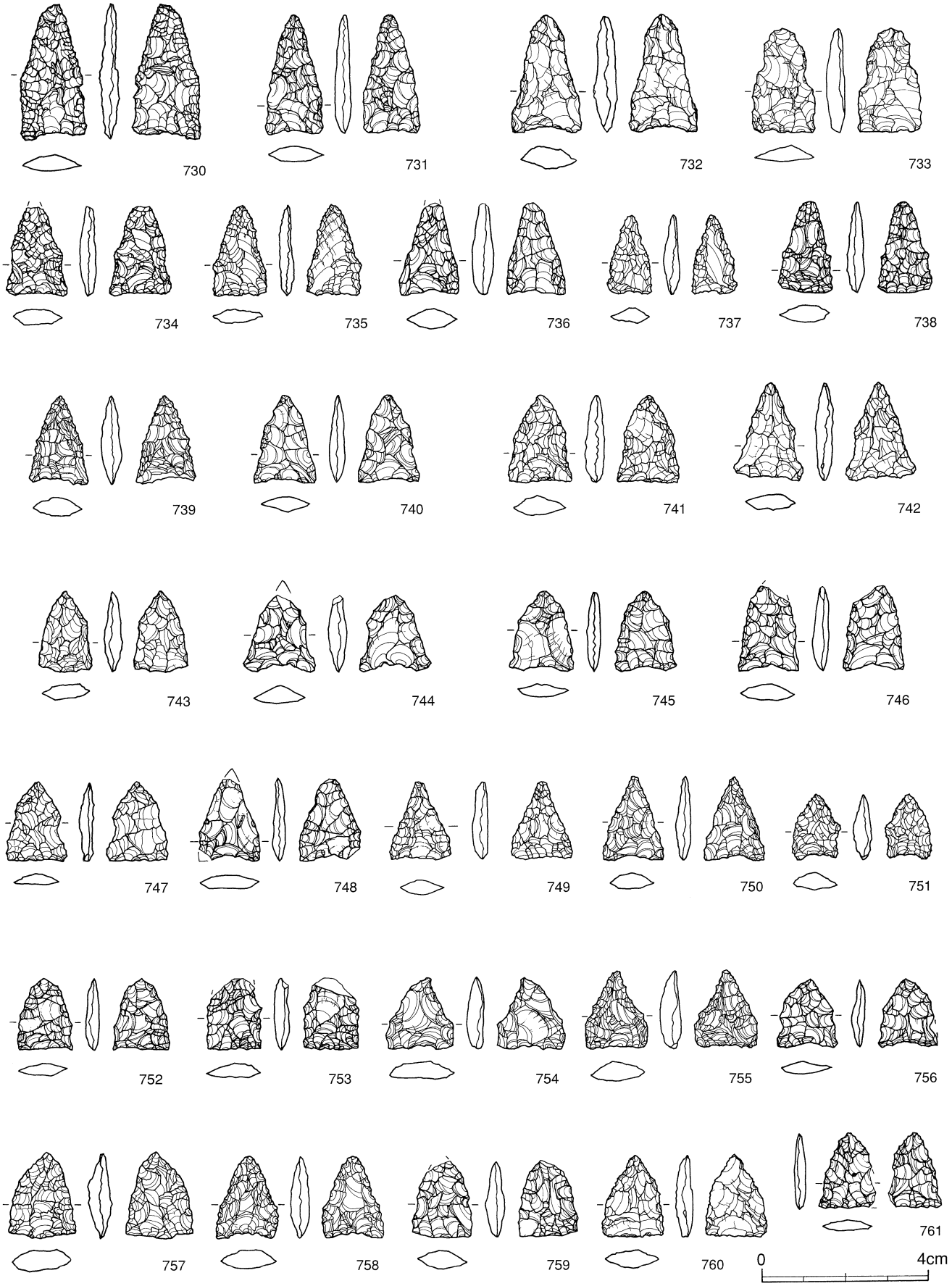
Ⅳ類は凹部があまり意識されないタイプである。2つに分類した。Ⅳa類（838～876）は基部全体がわずかに窪むタイプであり，全体の形状はⅥ類の二等辺三角形を呈する。Ⅳb類（877～905）は基部の中央部分を小さく窪ませる。全体の形状はⅢ類に近い。

Ⅴ類（第193・194図　730～771）

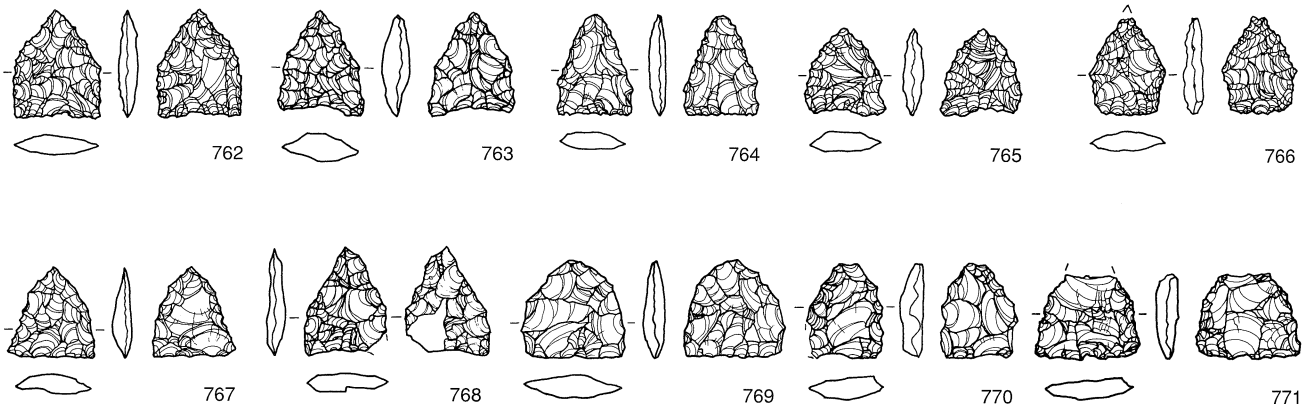
Ⅴ類は平基式であり，側縁が直線的でなく角をもつタイプで五角形鏃と呼ばれるものである。角の位置によってⅤa～Ⅴc類に分類した。Ⅴa類（730～738）は側縁の角がやや下の方に位置するもので，長身ではあるが重心が低い。Ⅴb類（739～761）は側縁の角が中央付近にあるもので，Ⅴa類とⅤc類の中間的な形態である。Ⅴc類（762～771）は側縁の角が上位にあるタイプであり，長さが短くホームベース形に近い。

Ⅵ類（第201図　942～974）

Ⅵ類は平基式で側縁も直線的であり，いわゆる三角形鏃と呼ばれるものである。縦横の長さの差で3つに細分した。Ⅵa類（959～974）は長身の二等辺三角形となるものである。Ⅵb類（942～950）はⅥa類とⅥc類のちょうど中間的なものをとり上げた。Ⅵc類（951～958）は縦横の長さの差が小さく，正三角形に近い形を呈するものである。



第193図　出土遺物　石器(4)　石鏃



第194図　出土遺物　石器(5)　石鏃

Ⅶ類（第202・203図　975～1011）

975～1011は，基部が凸するか，ふくらむタイプである。基部の形状により二分した。Ⅶa類（975～986）が凸するタイプであり，982や986などは特に強調している。Ⅶb類（987～1011）は基部がふくらむタイプである。Ⅶ類の中にも988や997などの様に，五角形を意識したものもみられる。

Ⅷ類（第204図　1038～1050）

1038～1050は，両面もしくは片面に剥離面を大きく残すタイプである。打面と対極にある薄い部分を先端とし，簡単な加工を行っている状況が見受けられる。

Ⅸ類（第200・203・205図　906～941・1012～1037・1051～1087）

Ⅸ類としたものは，欠損して判断できないものやⅠ～Ⅷ類にあてはまらないものを一括して含めた。

906～941は，基部が欠損しており，どこに分類して良いか判断がつかないものである。資料提示だけはしておきたい。

1012～1037は，上記の分類に入れられそうであるが，欠損しているために，どの類に入れられるか判断がつかないものである。資料提示だけはしておきたい。

1051～1087は，欠損したり，形状が単独のものであったりして，分類にあてはめることができなかったものである。資料提示だけはしておきたい。

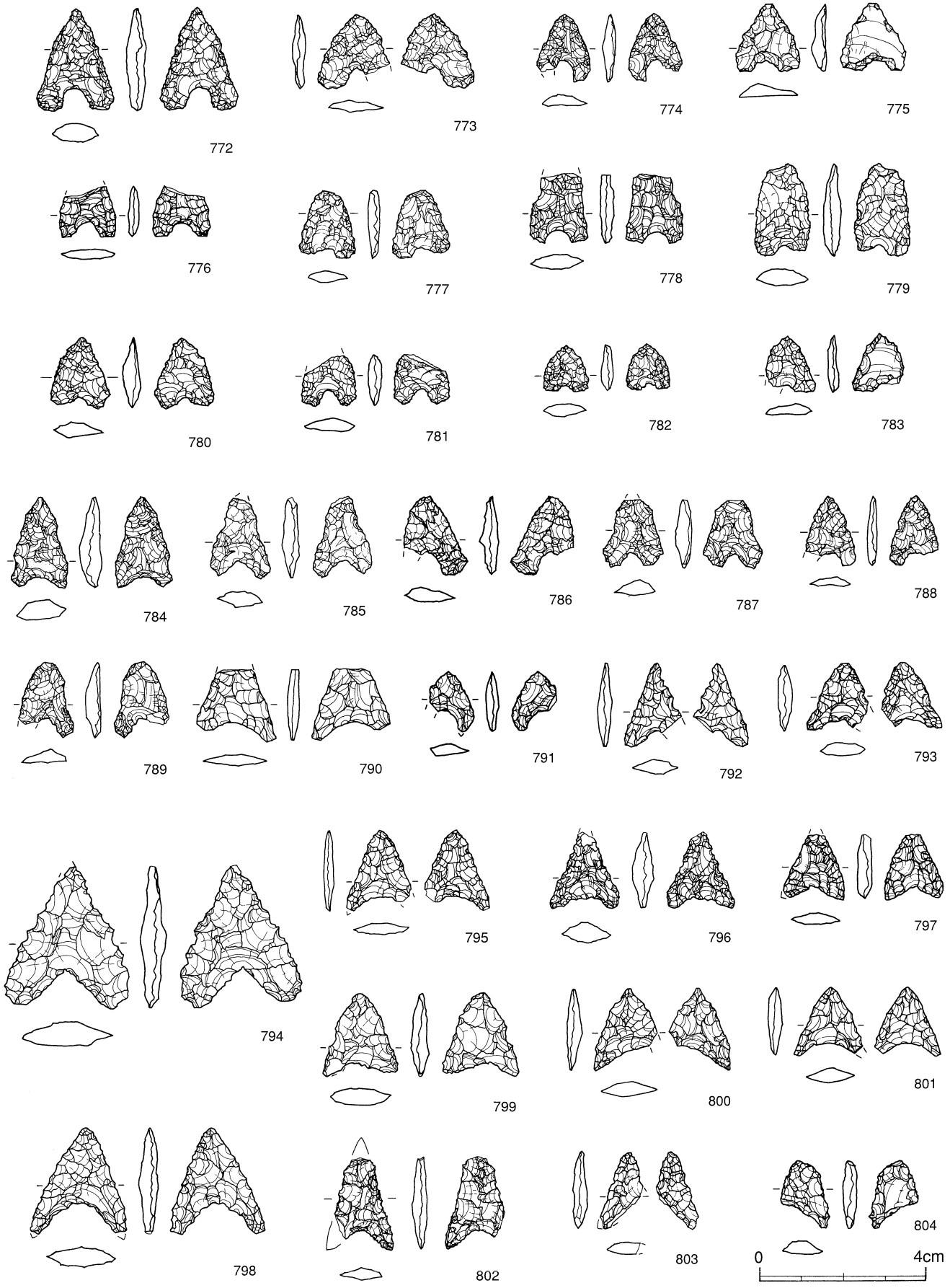
未製品（第206～209図　1088～1166）

1088～1166は，両面からの剥離がなされるものの定まった形はなく，しかも厚みをもつものであり，加工途中のものであると考えられる。石鏃を製作する途中の未製品と考えられる。

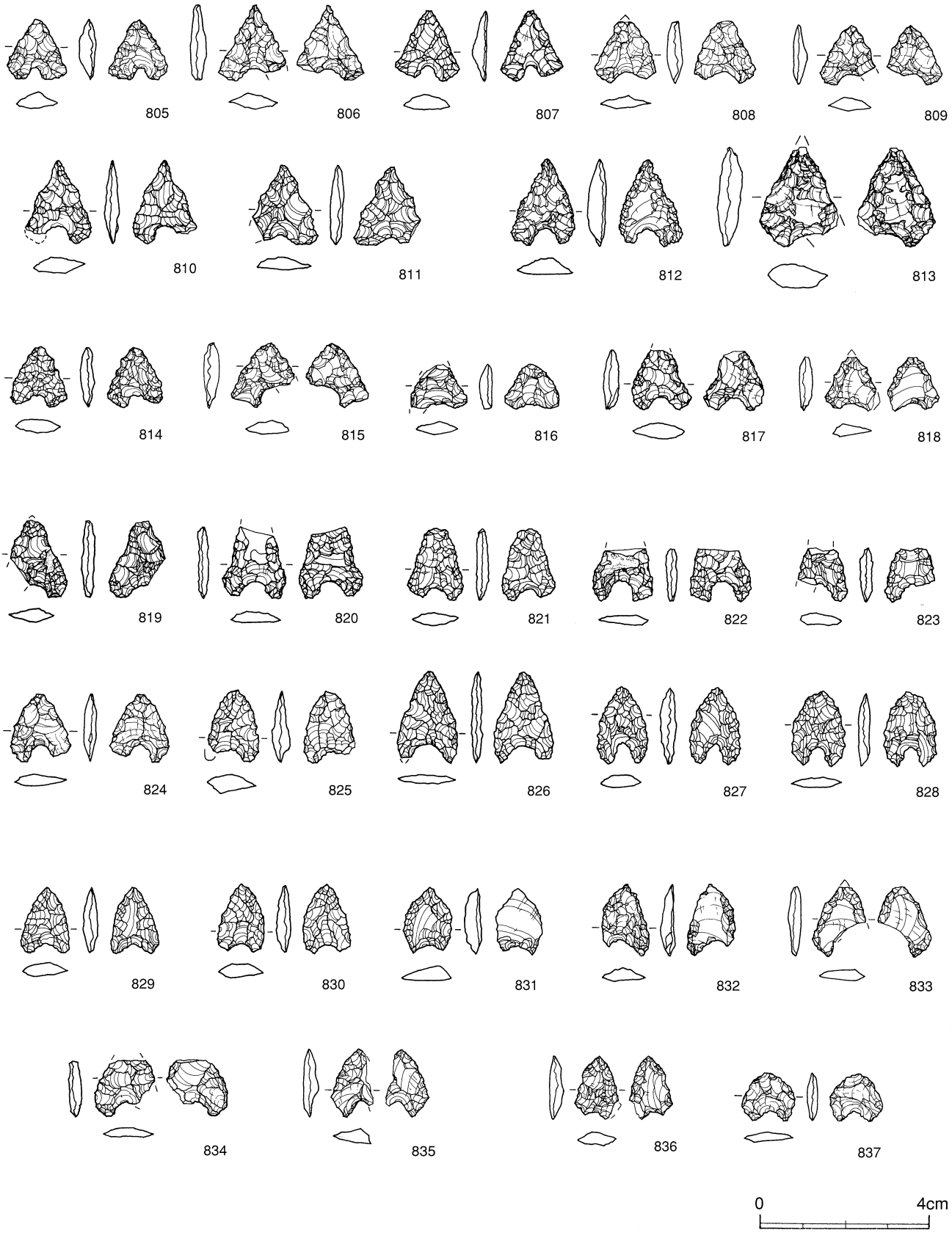
以上，大坪遺跡出土の石鏃を分類してはみたものの，相互の関係について言及することはできなかった。少なくともこれまで言われてきた様に，縄文時代後期後半～晩期にかけて五角形に近い形の石鏃が多いことは追認できた。

表23　石器観察表1

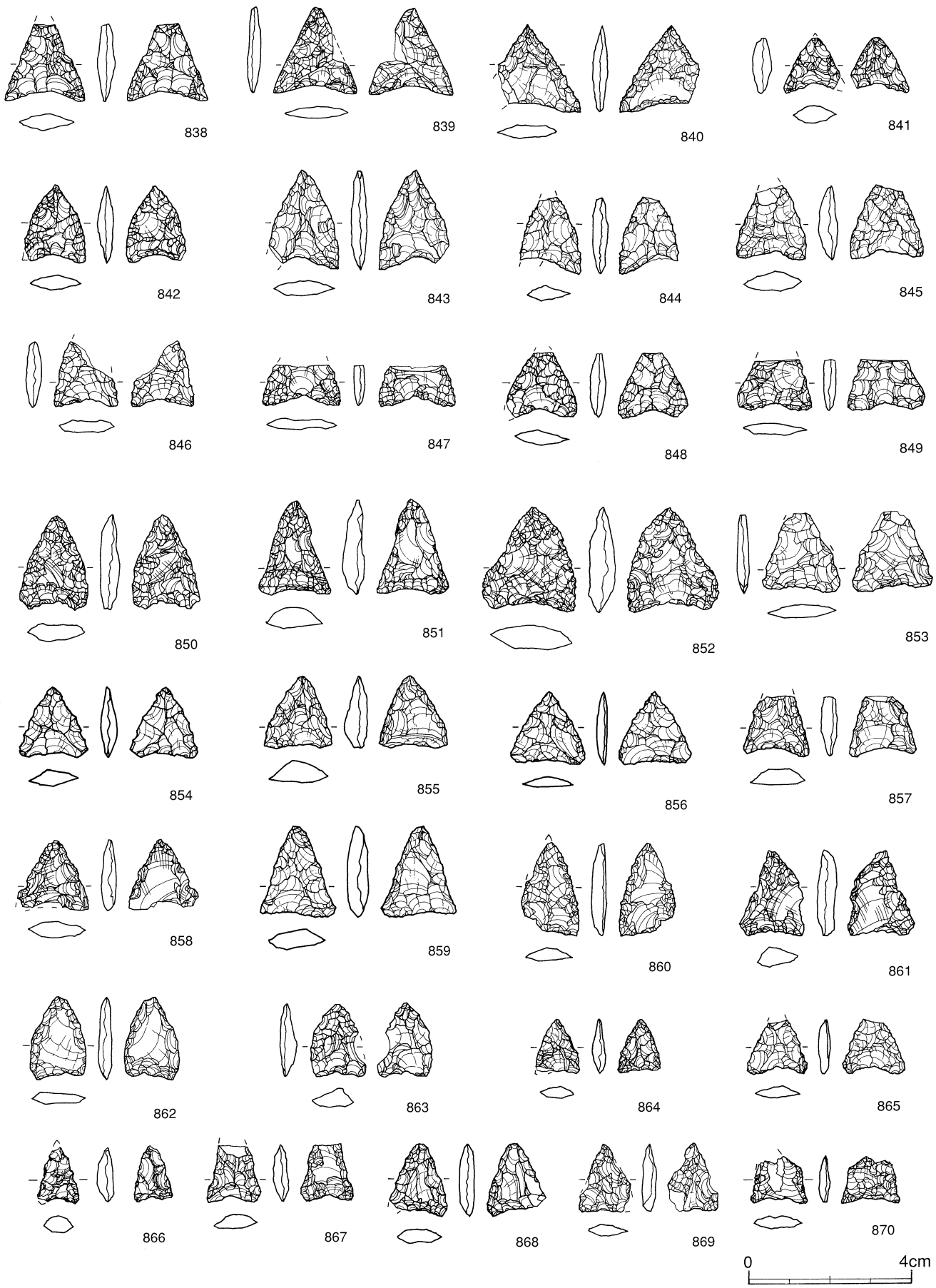
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第190図	656	C-23		Ⅲ	石鏃	Ⅰa類	安山岩(サヌカイト)	23.20	16.70	3.20	0.84	12846	8.92	40
	657	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅰa類	チャート	22.20	15.90	3.40	0.77	12643	9.065	40
	658	D-18		Ⅲ	石鏃	Ⅰa類	安山岩	21.80	15.50	2.80	0.61	7113	8.27	40
	659	D-22		Ⅲ	石鏃	Ⅰa類	黒曜石(腰岳系)	21.70	14.50	2.60	0.49	10241	8.36	40
	660	B-34			石鏃	Ⅰa類	黒曜石(腰岳系)	21.75	19.10	3.35	0.59	—		-
	661	C-24			石鏃	Ⅰb類	黒曜石(腰岳系)	19.80	13.80	2.70	0.53	—		-
	662	C-22	SD43		石鏃	Ⅰb類	黒曜石(腰岳系)	20.70	14.10	4.00	0.99	—		-
	663	C-22	SD44		石鏃	Ⅰb類	黒曜石(腰岳系)	16.10	13.00	3.20	0.43	11152	8.585	-
	664	C-18		Ⅲ	石鏃	Ⅰc類	チャート	23.00	13.70	4.30	1.06	8654	7.36	40
	665	B-31	SD44		石鏃	Ⅰc類	黒曜石(腰岳系)	20.90	14.10	4.10	0.85	16644	9.455	40
	666	C-22	SD43		石鏃	Ⅰc類	黒曜石(腰岳系)	17.90	11.00	3.80	0.72	—		40
	667	B-22	SD43		石鏃	Ⅰc類	安山岩(サヌカイト)	20.80	15.00	4.35	1.15	14727	8.555	-
	668	B-19	SD16		石鏃	Ⅰb類	黒曜石(腰岳系)	19.60	9.00	3.80	0.51	—		-
第191図	669	D-17		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	安山岩(サヌカイト)	19.10	13.00	2.90	0.49	6503	8.145	40
	670	D-16	SK	Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	17.40	14.00	3.80	0.66	6076	8.025	40
	671	C-24		Ⅳ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	16.70	14.10	3.80	0.60	12322	8.405	-
	672	D-23		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	23.00	16.50	4.15	0.96	10672	8.765	40
	673	D-23		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	18.20	14.10	2.70	0.43	10662	8.75	-
	674	D-12		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	17.00	11.60	2.90	0.35	334	8.115	-
	675	D-22	SD43		石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	21.45	15.15	4.50	0.84	9830	8.575	-
	676	D-17		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	23.00	15.40	3.65	0.60	10364	8.565	-
	677	C-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	24.90	17.30	3.70	0.82	9482	8.245	-
	678	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	安山岩(サヌカイト)	16.30	12.90	3.70	0.47	8208	8.24	-
	679				石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	20.50	14.30	3.20	0.56	—		-



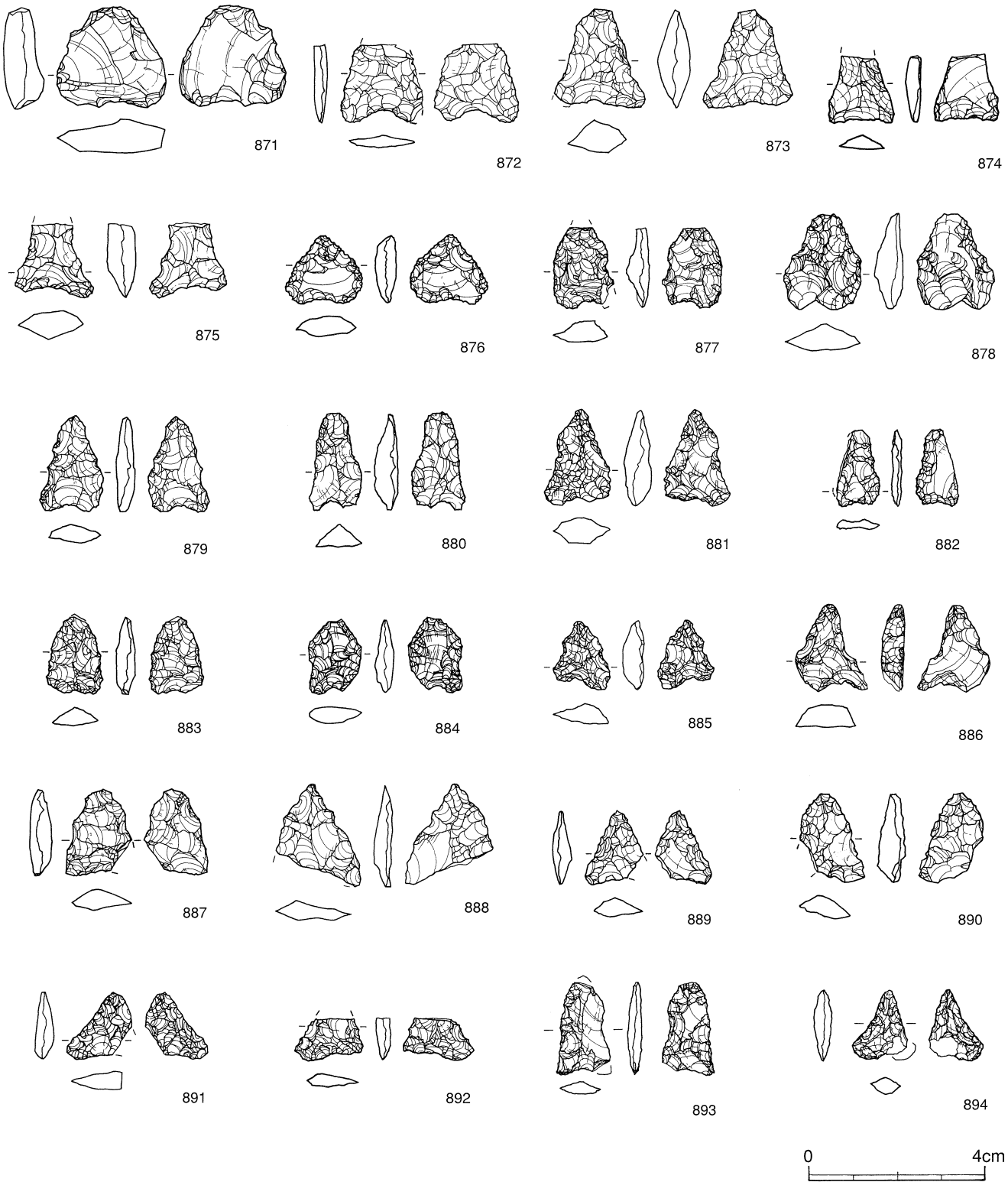
第195図　出土遺物　石器(6)　石鏃



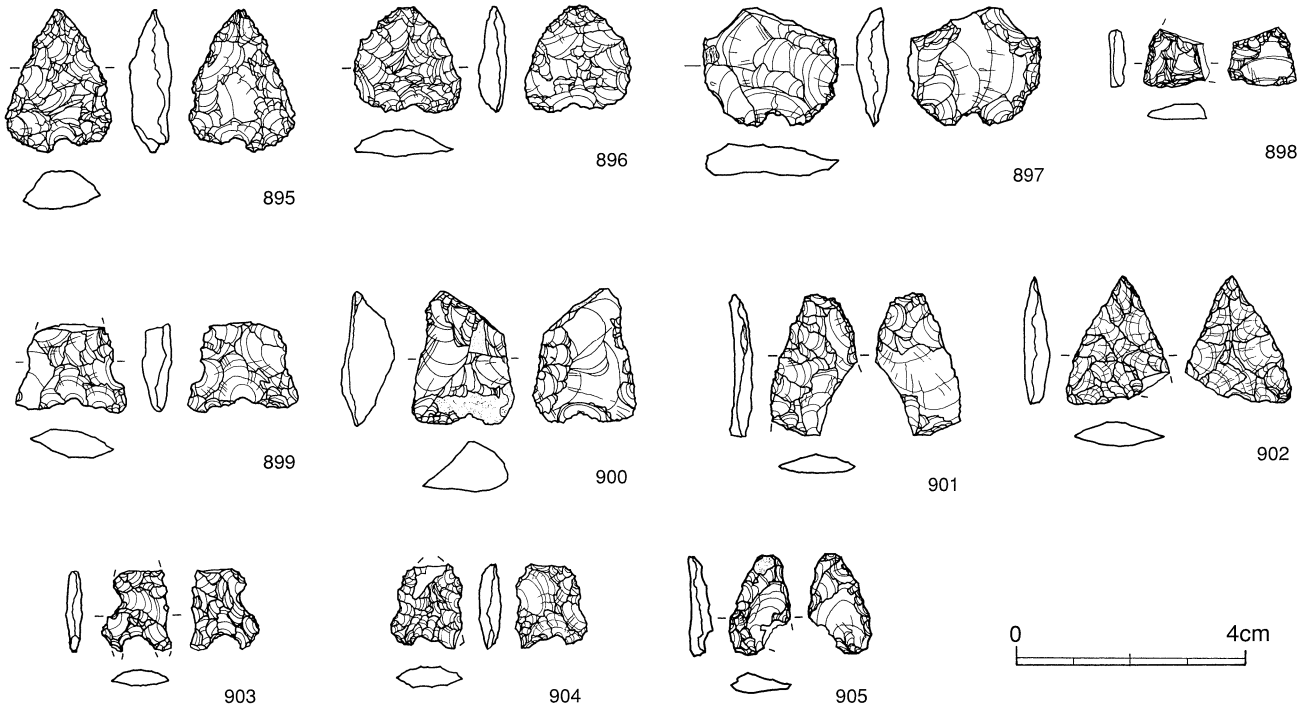
第196図　出土遺物　石器(7)　石鏃



第197図　出土遺物　石器(8)　石鏃



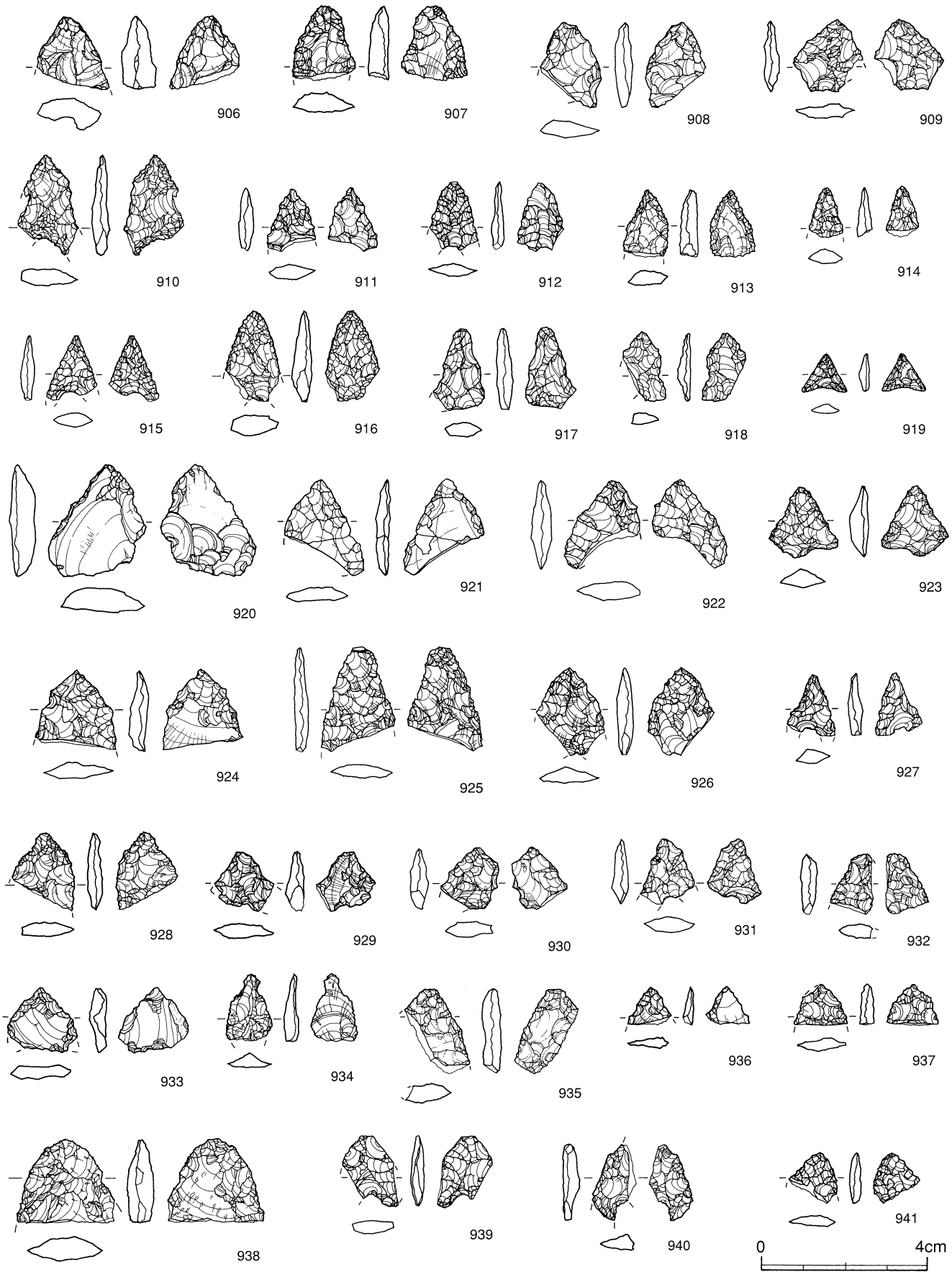
第198図　出土遺物　石器(9)　石鏃



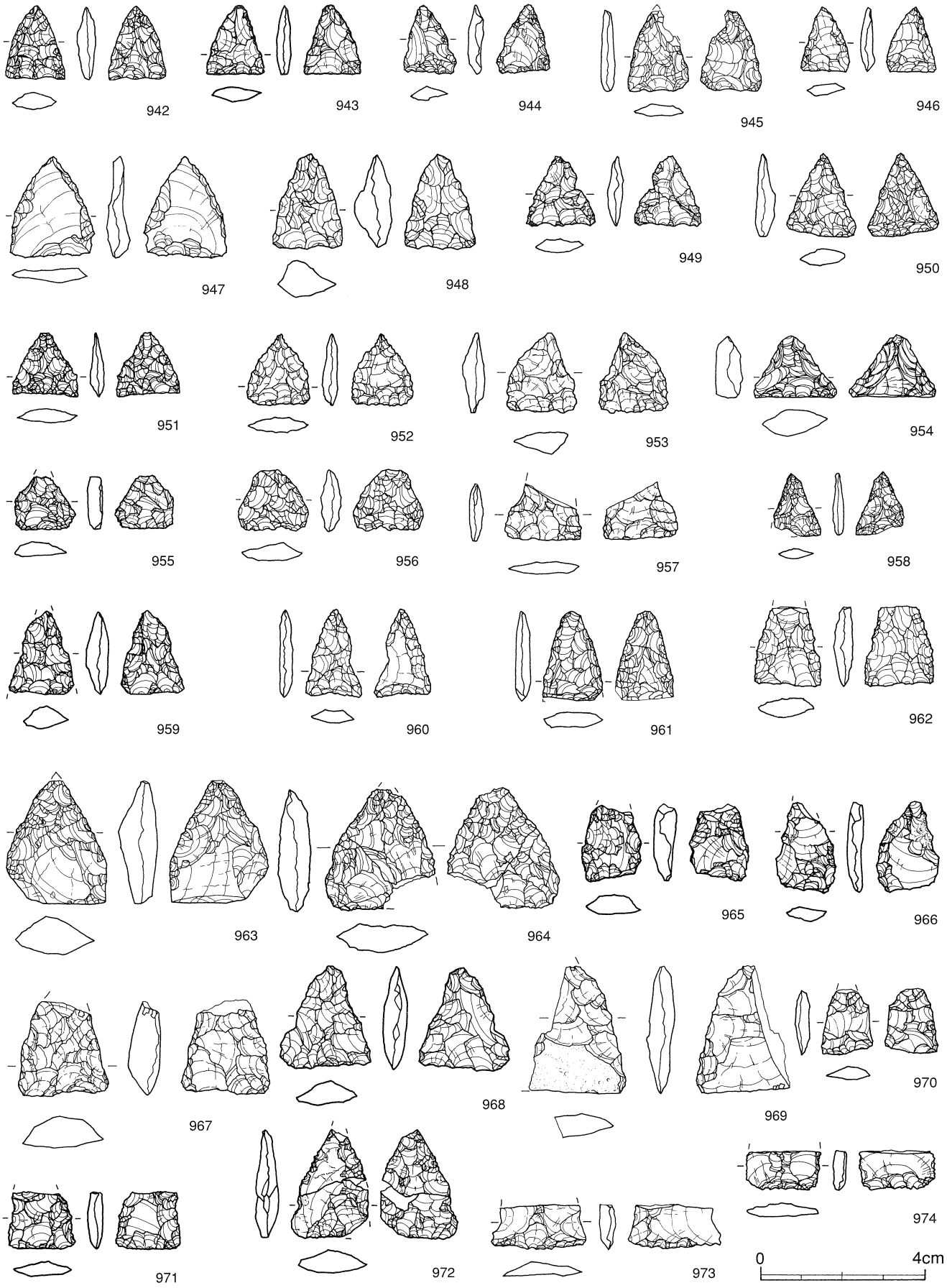
第199図　出土遺物　石器(10)　石鏃

表24　石器観察表２

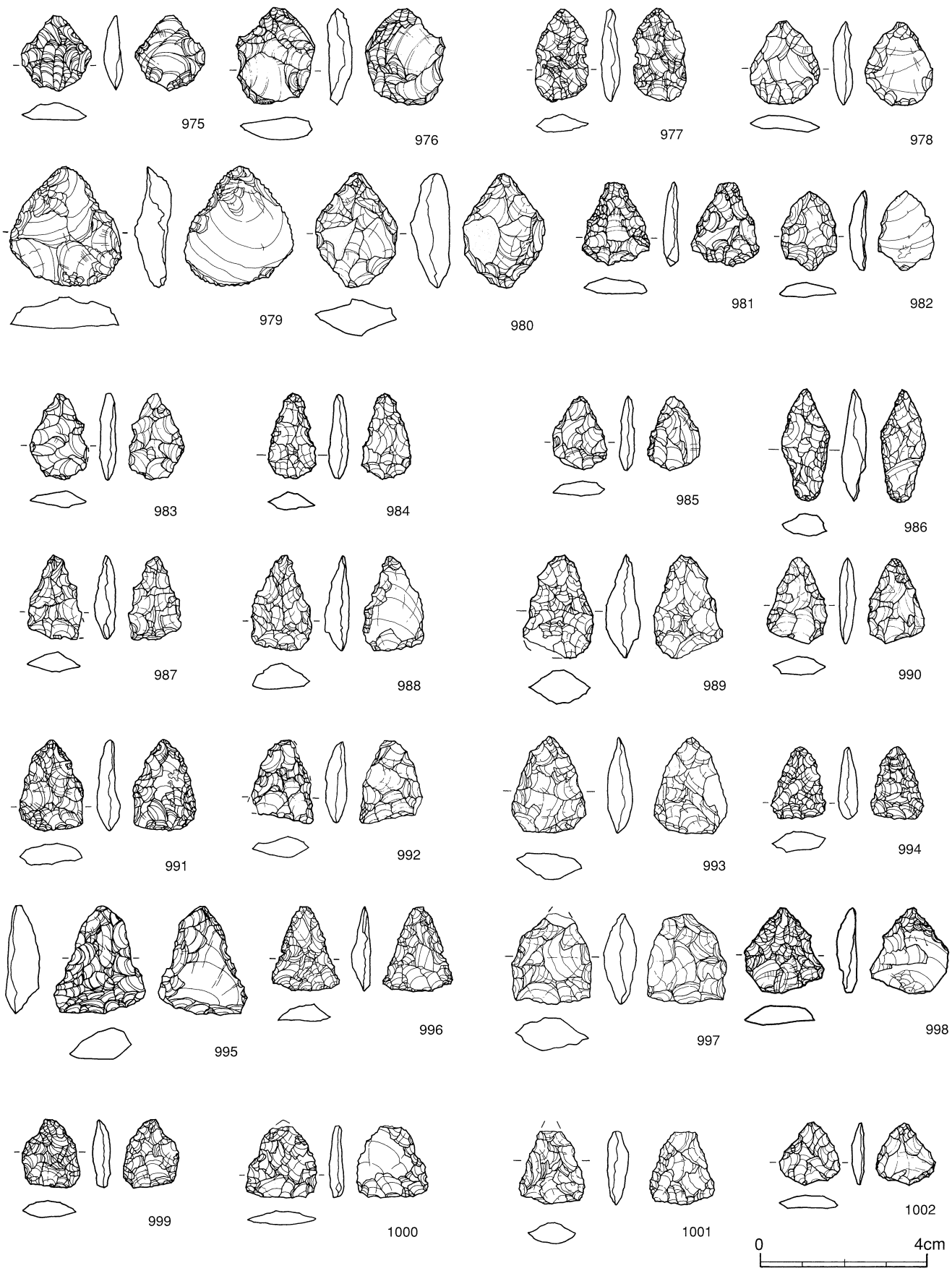
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第191図	680				石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	21.80	16.90	4.60	1.15	－		－
	681	C-19			石鏃	Ⅱa類	タンパク石	20.30	15.30	3.40	0.78	－		－
	682	B-19	SD16		石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	16.10	15.60	3.60	0.53	－		－
	683	D-17		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	タンパク石	14.50	7.80	2.80	0.23	6779	8.115	－
	684	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	安山岩(サヌカイト)	19.80	15.20	4.20	0.91	3950	8.27	－
	685	C-19		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	チャート	15.75	12.35	3.00	0.41	7650	8.55	－
	686	C-16		Ⅱb	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(日東系)	20.40	15.20	3.80	0.81	8499	8.38	40
	687	C-24		Ⅳ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	20.10	16.60	5.30	1.05	12310	8.255	40
	688				石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	21.10	15.70	3.50	0.91	－		40
	689	B-21	SK		石鏃	Ⅱa類	安山岩(サヌカイト)	17.70	14.90	2.80	0.51	－		40
	690	D-21		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	12.70	13.50	3.35	0.41	10004	8.315	40
	691	D-24			石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	14.30	15.35	3.45	0.54	－		－
	692	C-22			石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	12.60	11.60	2.60	0.24	－		40
	693	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	チャート	12.50	12.40	2.40	0.33	12980	8.355	－
	694	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	11.20	14.00	3.00	0.44	6049	8.06	－
	695	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	19.50	20.60	4.20	1.34	3798	8.265	－
	696	D-23		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	13.40	17.90	3.45	0.53	10688	8.74	－
	697	A-22			石鏃	Ⅱa類	タンパク石	10.15	12.85	2.50	0.27	－		－
	698	B-14		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	11.35	13.75	2.50	0.32	14274	8.15	－
	699				石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	16.30	18.20	4.50	1.00	－		－
	700	D-22			石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	18.50	16.30	3.80	0.78	－		－
	701	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	12.35	8.35	4.00	0.25	3782	8.275	－
	702	D-20		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	7.50	5.70	2.30	0.13	4254	8.605	－
	703	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	7.60	6.40	2.60	0.47	8109	8.065	－
	704	C-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	13.95	9.90	3.30	0.55	9491	8.2	－
	705				石鏃	Ⅱa類	黒曜石(腰岳系)	16.60	9.90	3.65	0.62	－		－
第192図	706				石鏃	Ⅱb類	チャート	18.90	12.00	3.00	0.55	－		40
	707	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	安山岩(サヌカイト)	19.30	14.70	2.80	0.56	8205	8.195	40
	708	B-22			石鏃	Ⅱb類	黒曜石(腰岳系)	17.80	11.50	3.00	0.44	－		－
	709	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	安山岩(サヌカイト)	18.00	12.90	2.50	0.37	9008	8.195	40
	710	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	黒曜石(腰岳系)	16.80	11.80	2.70	0.34	4954	8.195	40
	711	B-22		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	チャート	23.50	21.50	4.20	1.51	14996	8.62	40
	712	D-22		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	チャート	16.30	14.80	3.80	0.80	10321	8.605	－
	713	C-22			石鏃	Ⅱb類	鉄石英	14.50	11.50	0.27	0.45	－		－
	714	D-13		Ⅱ	石鏃	Ⅱb類	黒曜石(腰岳系)	17.00	11.50	3.10	0.52	822	8.25	－
	715	D-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	チャート	23.30	11.10	2.70	0.81	5751	7.875	－
	716	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	黒曜石(腰岳系)	20.10	10.90	3.30	0.65	8219	8.14	－
	717	B-25			石鏃	Ⅱb類	黒曜石(腰岳系)	20.30	11.10	4.20	0.88	－		－



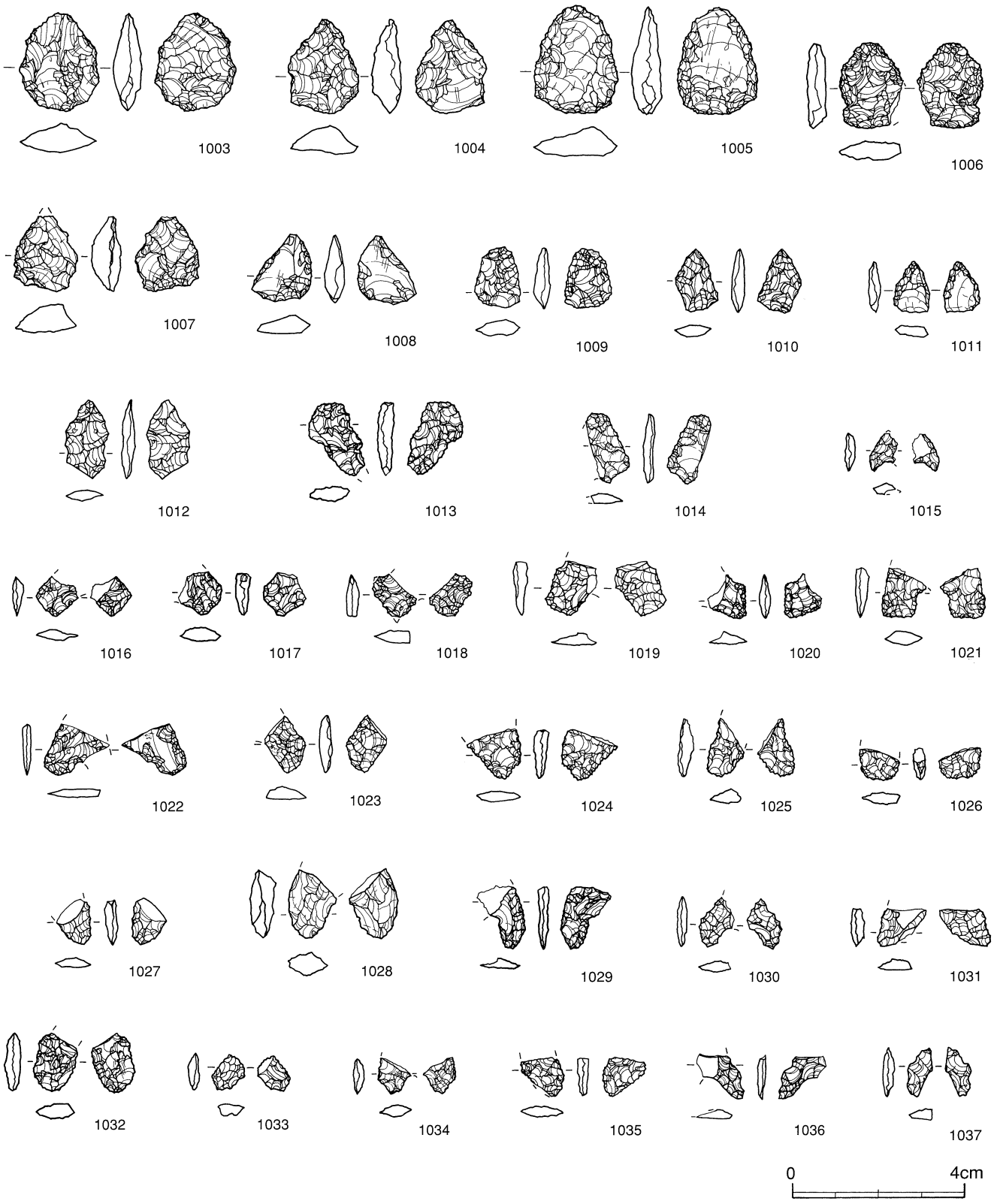
第200図　出土遺物　石器(11)　石鏃



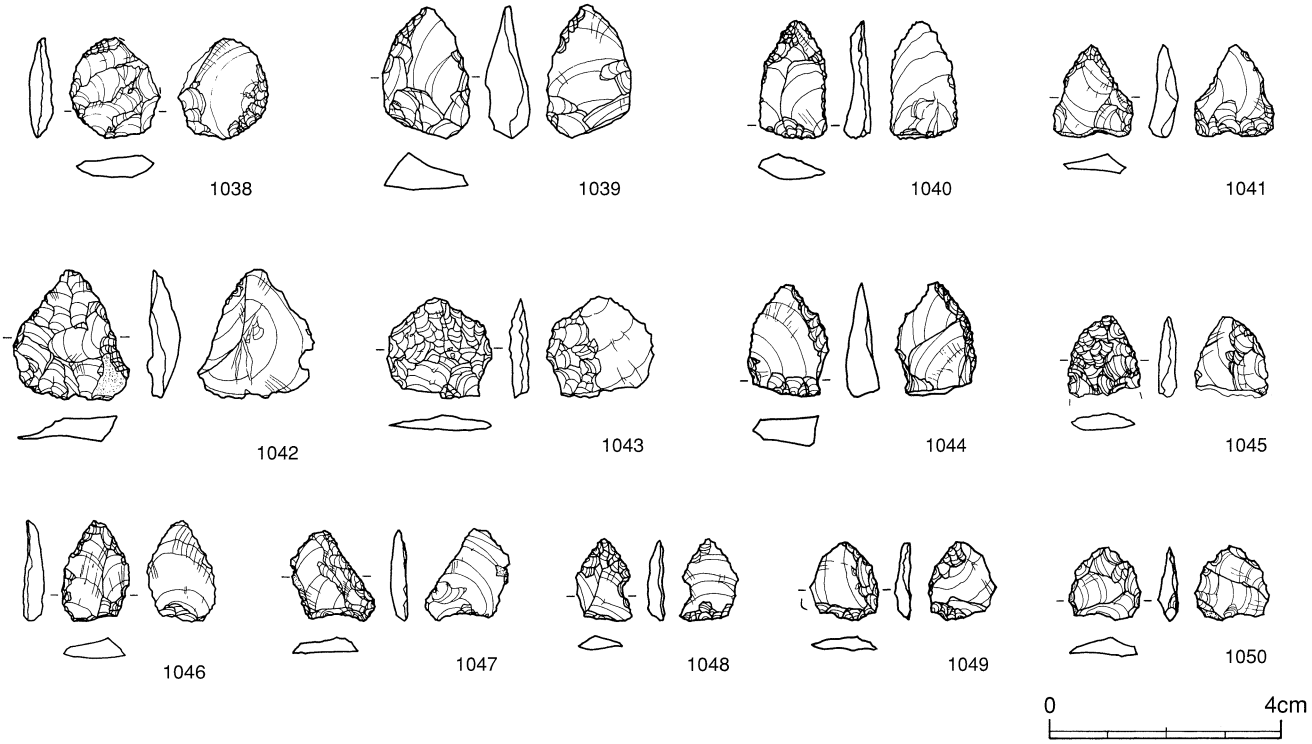
第201図　出土遺物　石器(12)　石鏃



第202図　出土遺物　石器(13)　石鏃



第203図　出土遺物　石器(14)　石鏃



第204図　出土遺物　石器(15)　石鏃

表25　石器観察表３

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第192図	718	C-16			石鏃	Ⅱb類	黒曜石(腰岳系)	13.00	11.40	3.30	0.53	－		－
	719	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	黒曜石(腰岳系)	18.45	13.40	3.00	0.57	6093	8.105	－
	720				石鏃	Ⅱc類	安山岩(サヌカイト)	20.30	14.20	3.30	0.67	－		40
	721	B-22	SD43		石鏃	Ⅱc類	黒曜石(腰岳系)	19.30	13.50	3.80	0.62	12831	8.985	40
	722	D-12		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石(姫島)	18.30	11.60	2.90	0.35	231	8.19	40
	723	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	安山岩(サヌカイト)	20.70	13.80	3.90	0.84	12925	8.875	－
	724	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石	15.60	14.00	2.70	0.44	8219	8.14	－
	725	D-23		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石(腰岳系)	21.30	13.80	3.60	0.60	10688	8.74	－
	726	C-16		Ⅱb	石鏃	Ⅱc類	黒曜石(腰岳系)	19.40	14.60	2.80	0.59	7722	8.3	－
	727	D-22			石鏃	Ⅱc類	黒曜石(腰岳系)	18.50	11.60	3.25	0.49	－		－
	728	C-17			石鏃	Ⅱc類	黒曜石	10.75	10.75	3.50	0.38	－		－
	729	D-24			石鏃	Ⅱc類	黒曜石(腰岳系)	8.40	13.75	3.00	0.24	－		－
第193図	730	B-34			石鏃	Ⅴa類	黒曜石(腰岳系)	33.50	16.00	4.75	1.98	－		40
	731	B-34		Ⅲ	石鏃	Ⅴa類	チャート	28.90	13.60	4.10	1.44	16744	9.555	40
	732	D-17	SD44	Ⅲ	石鏃	Ⅴa類	安山岩(サヌカイト)	28.80	16.50	6.80	1.96	1670	8.335	40
	733	D-18			石鏃	Ⅴa類	黒曜石(腰岳系)	24.40	15.20	4.00	1.26	－		－
	734	B-29	SD43	Ⅲ	石鏃	Ⅴa類	黒曜石(腰岳系)	22.10	14.50	4.00	1.08	16102	9.31	－
	735	D-18			石鏃	Ⅴa類	黒曜石(腰岳系)	22.10	12.90	3.60	0.81	－		40
	736	A-22		Ⅲ	石鏃	Ⅴa類	安山岩	22.70	14.10	5.10	1.07	15565	8.795	－
	737	D-16	SD44		石鏃	Ⅴa類	チャート	19.10	10.90	4.00	0.70	1477	8.36	40
	738	B-33	SD22		石鏃	Ⅴa類	玉髄	22.50	13.10	4.10	0.95	16237	9.19	40
	739	A-35		Ⅳ	石鏃	Ⅴb類	安山岩(サヌカイト)	21.00	13.60	4.80	0.97	17068	9.29	40
	740	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅴb類	安山岩(サヌカイト)	22.00	14.70	4.00	0.82	12031	8.99	40
	741	B-34		Ⅲ	石鏃	Ⅴb類	チャート	21.20	15.10	4.90	1.44	16728	9.545	40
	742	B-21			石鏃	Ⅴb類	安山岩	23.50	16.70	4.10	1.22	－		40
	743	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅴb類	安山岩(サヌカイト)	19.60	12.40	4.00	0.80	11767	8.94	40
	744	C-22	SD43		石鏃	Ⅴb類	安山岩(サヌカイト)	18.40	17.20	4.55	1.07	12780	8.515	－
	745	B-34	SD		石鏃	Ⅴb類	安山岩(サヌカイト)	19.50	15.10	3.40	0.84	－		40
	746	B-22		Ⅲ	石鏃	Ⅴb類	安山岩(サヌカイト)	20.80	14.80	4.30	1.09			－
	747	B-33			石鏃	Ⅴb類	安山岩(サヌカイト)	19.20	13.95	3.40	0.72	－		40
	748	C-24	SD43		石鏃	Ⅴb類	安山岩(サヌカイト)	20.40	14.50	3.10	0.75	－		－
	749	C-16		Ⅱb	石鏃	Ⅴb類	チャート	18.80	14.45	4.30	0.86	8715	8.35	40
	750	C-26	SK	Ⅲ	石鏃	Ⅴb類	安山岩(サヌカイト)	20.65	14.60	3.80	0.76	11616	8.7	40
	751	D-22		Ⅲ	石鏃	Ⅴb類	黒曜石(腰岳系)	16.10	11.35	4.60	0.58	9829	8.695	40
	752	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅴb類	黒曜石(腰岳系)	17.40	13.10	3.30	0.66	－		40
	753	D-21			石鏃	Ⅴb類	黒曜石(腰岳系)	18.45	13.50	3.80	0.92	－		－
	754	C-24	SD43		石鏃	Ⅴb類	安山岩(サヌカイト)	18.30	15.85	4.00	1.00	－		－
	755	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅴb類	黒曜石(腰岳系)	18.80	15.20	5.00	1.13	12933	8.94	40

表26　石器観察表４

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第193図	756	B-34			石鏃	Ⅴb類	安山岩（サヌカイト）	17.00	14.30	3.30	0.60	—		40
	757	D-24			石鏃	Ⅴb類	黒曜石（腰岳系）	20.60	15.45	5.10	1.36	—		－
	758	C-23		Ⅲ	石鏃	Ⅴb類	安山岩（サヌカイト）	20.10	14.60	4.60	1.07	12875	8.93	40
	759	D-24			石鏃	Ⅴb類	安山岩（サヌカイト）	18.50	14.10	4.90	0.97	—		－
	760	B-14		Ⅲ	石鏃	Ⅴb類	安山岩（サヌカイト）	20.25	14.70	4.40	1.07	9729	8.385	40
	761	C-24			石鏃	Ⅴb類	安山岩（サヌカイト）	18.70	13.05	3.00	0.57	—		－
第194図	762	C-16		Ⅳ	石鏃	Ⅴc類	黒曜石（腰岳系）	17.70	13.40	2.80	0.80	1893	8.995	40
	763	D-17		Ⅲ	石鏃	Ⅴc類	チャート	16.65	13.95	3.90	1.05	1751	8.355	40
	764	D-1		Ⅲ	石鏃	Ⅴc類	安山岩（サヌカイト）	16.75	12.35	1.15	0.64	1378	8.215	40
	765	B-32			石鏃	Ⅴc類	黒曜石（腰岳系）	14.10	12.80	2.60	0.69	—		40
	766	C-13		Ⅲ	石鏃	Ⅴc類	黒曜石（腰岳系）	16.45	12.35	2.55	0.78	954	8.1	－
	767	D-24			石鏃	Ⅴc類	安山岩（サヌカイト）	14.00	13.70	2.35	0.57	—		40
	768	B-22			石鏃	Ⅴc類	黒曜石（腰岳系）	18.60	13.70	2.65	0.80	—		40
	769	C-21	SD16		石鏃	Ⅴc類	安山岩（サヌカイト）	16.60	16.00	2.90	1.10	10194	8.61	40
	770	C-23		Ⅲ	石鏃	Ⅴc類	安山岩（サヌカイト）	15.70	11.10	2.95	1.01	11081	8.83	－
	771	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅴc類	黒曜石（腰岳系）	13.90	16.20	2.60	0.97	12113	8.885	－
第195図	772	C-22			石鏃	Ⅲa類	黒曜石（腰岳系）	24.50	17.70	3.80	1.41	—		40
	773	D-22			石鏃	Ⅲa類	黒曜石（腰岳系）	17.80	15.15	1.95	0.54	—		－
	774	D-18		Ⅲ	石鏃	Ⅲa類	黒曜石（腰岳系）	14.90	11.70	1.85	0.39	7112	8.285	－
	775				石鏃	Ⅲa類	安山岩（サヌカイト）	15.60	13.00	0.25	0.61	—		40
	776	B-34		Ⅱc	石鏃	Ⅲa類	チャート	11.70	12.30	0.17	0.48	1994	9.545	－
	777	D-13		Ⅱ	石鏃	Ⅲa類	黒曜石（腰岳系）	15.80	12.60	0.10	0.61	698	8.42	－
	778	D-22		Ⅲ	石鏃	Ⅲa類	黒曜石（腰岳系）	15.35	12.90	2.40	0.72	10703	8.62	－
	779	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅲa類	黒曜石（腰岳系）	20.85	12.40	3.30	1.16	4704	8.02	－
	780	C-21		Ⅲ	石鏃	Ⅲa類	黒曜石（腰岳系）	16.20	12.05	2.20	0.65	11785	8.385	－
	781	C-17		①	石鏃	Ⅲa類	黒曜石（腰岳系）	11.55	12.15	2.40	0.49	5940	8.31	－
	782	D-24		Ⅲ	石鏃	Ⅲa類	黒曜石（腰岳系）	10.45	9.75	1.90	0.28	11567	8.91	40
	783	C-17		①	石鏃	Ⅲa類	黒曜石（腰岳系）	12.90	10.25	1.50	0.33	5940	8.31	－
	784	B-21	SK		石鏃	Ⅲc類	黒曜石（腰岳系）	20.00	12.40	5.10	1.14	—		40
	785	B-14		Ⅲ	石鏃	Ⅲb類	安山岩（サヌカイト）	18.65	12.15	2.10	0.78	13994	8.23	－
	786	D-24		Ⅲ	石鏃	Ⅲb類	チャート	18.75	13.30	2.85	0.75	11541	8.65	－
	787	D-24			石鏃	Ⅲb類	黒曜石（腰岳系）	15.95	13.40	2.90	0.65	—		－
	788	D-23		Ⅲ	石鏃	Ⅲb類	黒曜石（腰岳系）	1.42	11.10	1.40	0.35	10722	8.88	－
	789	C-16		Ⅲ	石鏃	Ⅲb類	黒曜石（腰岳系）	16.45	11.40	2.70	0.55	7745	8.215	－
	790	B-34		Ⅱb	石鏃	Ⅲc類	安山岩（サヌカイト）	17.20	19.10	1.05	0.75	2341	9.5	－
	791	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅲb類	安山岩（サヌカイト）	13.50	8.60	1.70	0.30	1378	8.215	－
	792			Ⅲ	石鏃	Ⅲb類	黒曜石（腰岳系）	20.80	11.55	2.50	0.58	3701か3761●	0	－
	793	D-17	SD44		石鏃	Ⅲc類	黒曜石（腰岳系）	16.80	14.60	2.95	0.68	1708	8.415	－
	794	A-22		Ⅲ	石鏃	Ⅲb類	安山岩（サヌカイト）	34.65	28.50	4.40	3.29	15577	8.86	39
	795	D-17		Ⅲ	石鏃	Ⅲc類	安山岩（サヌカイト）	19.30	15.80	1.60	0.50	1643	8.35	39
	796	B-22		Ⅲ	石鏃	Ⅲc類	黒曜石（腰岳系）	18.50	15.65	5.40	0.79	14602	8.63	－
	797	C-22	SD43		石鏃	Ⅲc類	黒曜石（腰岳系）	14.35	13.40	2.60	0.56	12787	8.7	－
	798	D-24		Ⅲ	石鏃	Ⅲc類	安山岩（サヌカイト）	25.70	21.60	3.40	1.37	10913	8.92	39
	799	D-11		Ⅲ	石鏃	Ⅲc類	安山岩（サヌカイト）	19.50	16.15	2.10	0.98	359	8.08	－
	800	D-03		Ⅲ	石鏃	Ⅲc類	チャート	18.55	12.65	2.60	0.64	144	8.105	－
	801	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅲc類	安山岩（サヌカイト）	16.60	14.80	2.60	0.56	11767	8.94	－
	802	A-31	SF204		石鏃	Ⅲc類	チャート	20.65	13.55	10.40	0.94	—		－
	803	D-15		Ⅲ	石鏃	Ⅲc類	黒曜石（針尾系）	16.90	10.00	2.35	0.42	1307	8.155	－
	804	D-18		Ⅲ	石鏃	Ⅲc類	黒曜石（腰岳系）	14.75	11.70	2.40	0.55	6970	8.4	－
第196図	805	C-22	SD44		石鏃	Ⅱb類	黒曜石（腰岳系）	12.15	11.00	2.95	0.45	11166	8.61	39
	806	D-21		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	チャート	16.90	14.85	2.65	0.66	10538	8.5	－
	807	C-22	SD44		石鏃	Ⅱb類	黒曜石（腰岳系）	15.50	13.75	2.60	0.50	11184	8.59	39
	808				石鏃	Ⅱb類	安山岩（サヌカイト）	13.90	13.30	2.50	0.53	—		－
	809	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	安山岩（サヌカイト）	12.15	11.75	1.90	0.37	3825	8.285	－
	810	C-22	SD44		石鏃	Ⅱb類	黒曜石（腰岳系）	20.50	15.10	3.50	0.65	11163	8.54	－
	811	C-24			石鏃	Ⅱb類	チャート	20.90	13.60	3.25	0.83	—		－
	812	B-21		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	黒曜石（腰岳系）	21.00	13.70	4.50	0.90	15128	8.815	39
	813	C-17			石鏃	Ⅱb類	黒曜石	23.55	18.25	6.60	2.38	—		－
	814	B-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	黒曜石（腰岳系）	14.30	12.70	3.20	0.39	14365	8.255	39
	815	B-20	SD44		石鏃	Ⅱb類	黒曜石（腰岳系）	15.90	11.00	3.55	0.59	—		－
	816	B-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	黒曜石（桑木水流系）	11.10	12.90	3.90	0.41	11855	8.425	－
	817	C-22		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	黒曜石（腰岳系）	16.90	14.10	3.80	0.61	12004	8.545	－
	818	D-24		Ⅲ	石鏃	Ⅱb類	安山岩（サヌカイト）	12.50	11.90	2.90	0.46	11303	8.925	－
	819	D-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	19.20	10.80	2.80	0.53	5751	7.875	－
	820	B-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	16.60	15.40	2.40	0.60	11835	8.305	－
	821				石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	17.20	12.70	3.90	0.60	—		39
	822	D-22		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	12.60	14.40	2.90	0.46	10300	8.57	－
	823	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	12.60	11.10	2.80	0.40	12078	8.86	－
	824	C-22	SD44		石鏃	Ⅱc類	安山岩（サヌカイト）	16.30	13.40	2.70	0.48	11208	8.595	39
	825	D-15		Ⅱb	石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	17.20	11.60	3.80	0.62	5774	7.99	－
	826	D-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	22.30	14.10	2.40	0.65	1289	8.23	39
	827	D-18	SD43	Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	18.40	12.90	3.70	0.73	5317	8.34	39
	828	D-18			石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	18.90	12.40	2.90	0.57	—		39
	829	D-17		Ⅱ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	14.70	10.70	3.40	0.49	1739	8.39	39
	830				石鏃	Ⅱc類	黒曜石（腰岳系）	15.90	11.90	3.60	0.54	—		39

表27　石器観察表５

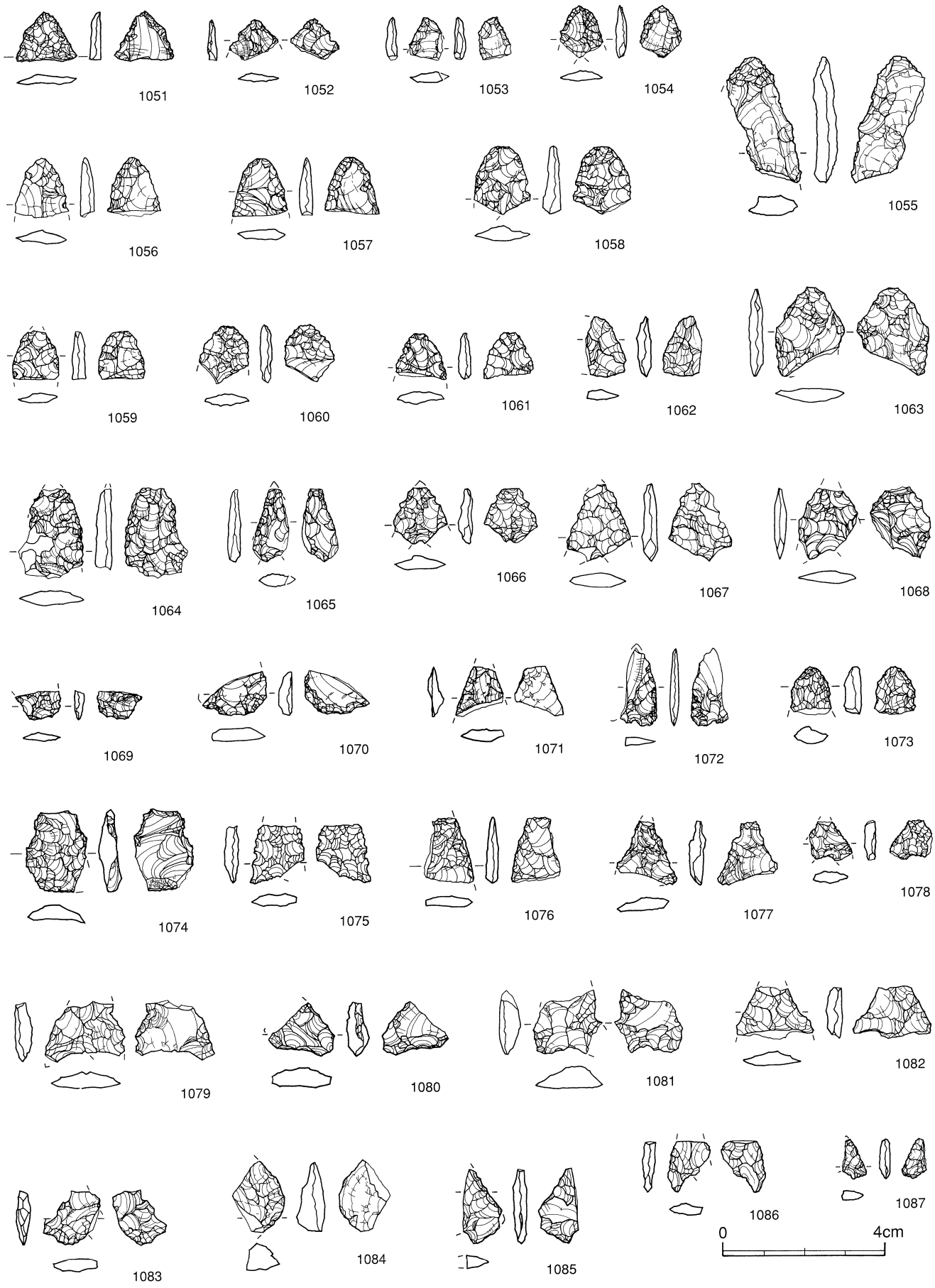
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第196図	831				石鏃	Ⅱc類	黒曜石(腰岳系)	15.80	10.80	3.50	0.62	—		39
	832	D-24		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石(腰岳系)	17.90	10.50	3.95	0.46	11502	8.78	－
	833	C-21		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	安山岩	16.10	15.70	2.50	0.33	11785	8.385	－
	834	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	黒曜石(腰岳系)	16.50	11.20	3.00	0.51	1546	8.36	－
	835	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	タンパク石	16.10	9.50	3.45	0.33	8927	8.065	－
	836	D-20		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	チャート	15.90	10.10	3.20	0.46	7582	8.67	39
	837	C-16		Ⅲ	石鏃	Ⅱc類	安山岩(サヌカイト)	11.20	12.10	2.20	0.26	9496	8.165	39
第197図	838	B-16	SK83		石鏃	Ⅳa類	チャート	20.35	20.00	3.80	1.05	14268	8.29	－
	839	B-22		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	23.20	23.90	2.80	0.84	14602	8.63	39
	840	C-16		Ⅱb	石鏃	Ⅳa類	安山岩	24.60	14.30	3.50	1.09	7758	8.27	39
	841	D-24			石鏃	Ⅳa類	チャート	15.45	13.90	4.60	0.67	—		－
	842	B-16		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	20.30	14.40	3.65	0.73	12693	8.395	39
	843	D-16	SD43	Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	25.50	16.90	3.90	1.26	3804	8.235	－
	844	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	硬質安山岩	19.00	14.10	3.30	0.69	3836	8.31	－
	845	D-15		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	19.10	17.20	4.80	1.21	4815	7.93	－
	846	D-13		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	硬質安山岩	16.40	14.80	3.40	0.69	830	8.33	－
	847	D-12		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	10.40	18.80	2.70	0.53	131	8.17	－
	848	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	14.70	15.85	2.95	0.79	—		－
	849	D-18			石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	11.70	17.40	1.05	0.67	—		－
	850	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	20.10	14.90	3.95	1.51	12295	8.62	39
	851	C-22	SD43		石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	22.55	16.35	4.40	1.53	12785	8.515	39
	852	B-22			石鏃	Ⅳa類	黒曜石(日東系)	24.75	20.50	4.85	2.75	—		39
	853	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	19.00	18.79	1.90	1.00	8959	8.097	－
	854	A-23	SD16	Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	16.45	15.35	2.00	0.69	16591	9.9	39
	855	C-2		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	17.60	15.40	4.35	1.09	850	8.025	－
	856	B-23		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	16.50	16.40	1.45	0.62	15482	8.82	－
	857	D-2	SD43	Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	13.65	14.80	2.90	0.81	1708	8.415	－
	858	D-22			石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	15.85	15.70	2.80	0.80	—		39
	859	D-17		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	20.90	16.80	3.65	1.45	1591	8.05	－
	860	B-34			石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	20.80	13.30	2.75	0.83	—		－
	861	B-22			石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	23.50	15.35	3.45	1.17	—		－
	862	D-13			石鏃	Ⅳa類	硬質安山岩	18.85	12.55	1.15	0.88	—		39
	863	C-24	SD43	Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	16.10	11.80	2.90	0.63	11749	8.91	－
	864	B-22	SD43		石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	11.10	9.50	2.20	0.36	—		－
	865	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	12.70	13.60	1.75	0.39	8981	8.11	－
	866	C-17			石鏃	Ⅳa類	黒曜石	13.50	1.95	4.45	0.48	—		－
	867	B-34	SD22		石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	13.20	11.70	2.80	0.56	—		－
	868	C-15	SD43		石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	16.25	13.35	2.45	0.85	—		－
	869	C-16			石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	15.95	11.20	2.40	0.51	—		－
	870	C-14		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	10.60	12.15	1.80	0.37	1055	8.065	－
第198図	871	B-34		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	黒曜石(日東系)	22.50	23.40	7.45	4.71	—		－
	872	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	16.70	17.35	1.15	1.11	9295	8.3	－
	873	D-11		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	20.65	18.00	6.30	2.10	387	8.065	－
	874	D-1		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	安山岩(サヌカイト)	13.50	13.65	1.10	0.61	1408	8.4	－
	875	A-22		Ⅲ	石鏃	Ⅳa類	チャート	15.25	16.35	5.35	1.44	15577	8.86	－
	876	C-26			石鏃	Ⅳa類	黒曜石(腰岳系)	14.70	16.20	3.70	1.07	—		－
	877	C-16		Ⅱb	石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	16.70	12.30	3.60	0.94	—		－
	878	C-16		Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	チャート	21.75	16.60	5.55	1.98	9394	8.16	－
	879	D-21		Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	玉髄	21.55	22.50	2.20	1.03	10156	8.626	－
	880	D-17	C-23		石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	20.85	10.65	4.40	0.94	1591	8.05	－
	881	D-29		Ⅱ	石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	20.80	13.90	5.90	1.36	831	8.32	－
	882	D-22			石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	16.75	8.80	1.20	0.37	—		－
	883	D-18	C-22		石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	16.95	10.50	4.00	0.75	—		－
	884	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	15.50	11.35	3.40	0.84	1484	8.34	－
	885	D-22			石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	14.25	12.50	3.80	0.70	—		－
	886	C-23	SD22		石鏃	Ⅳb類	チャート	12.25	20.30	3.80	1.40	11100	8.95	－
	887	D-17		Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	黒曜石(日東系)	18.80	13.55	3.20	1.20	1735	8.32	－
	888	C-22	SD43	Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	チャート	22.60	18.55	2.90	1.14	10421	8.52	－
	889	C-24	SD44		石鏃	Ⅳb類	安山岩(サヌカイト)	16.75	11.95	2.20	0.56	—		－
	890	C-16		Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	タンパク石	19.80	11.80	4.65	1.19	9394	8.16	－
	891	B-34			石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	8.30	15.70	2.20	0.68	—		－
	892	B-22	SD43		石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	8.30	14.40	1.95	0.42	—		－
	893	C-14			石鏃	Ⅳb類	チャート	21.25	12.45	3.85	0.75	—		－
	894	C-17			石鏃	Ⅳb類	安山岩	16.75	13.00	4.00	0.55	—		－
第199図	895	B-22			石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	24.60	18.20	7.20	2.97	—		39
	896	C-21			石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	19.80	18.10	5.90	1.39	—		－
	897	D-11		Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	21.90	24.20	5.90	2.37	371	8.01	－
	898	B-22		Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	11.70	12.60	3.70	0.38	8959	8.097	－
	899	C-34		Ⅱb	石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	15.90	19.10	5.60	1.14	1822	9.51	－
	900	C-22	SD43	Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	24.85	18.80	8.50	2.84	10383	8.685	－
	901	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	25.40	13.60	4.60	1.15	10606	8.45	－
	902	C-23		Ⅲ	石鏃	Ⅳb類	安山岩(サヌカイト)	22.70	18.40	4.70	1.32	11100	8.95	－
	903	C-22	SD43		石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	14.40	13.60	3.90	0.47	—		－
	904	D-17	SD43		石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	15.10	11.70	4.90	0.67	1735	8.32	－
	905	C-16			石鏃	Ⅳb類	黒曜石(腰岳系)	18.10	10.50	3.50	0.53	—		－

表28　石器観察表 6

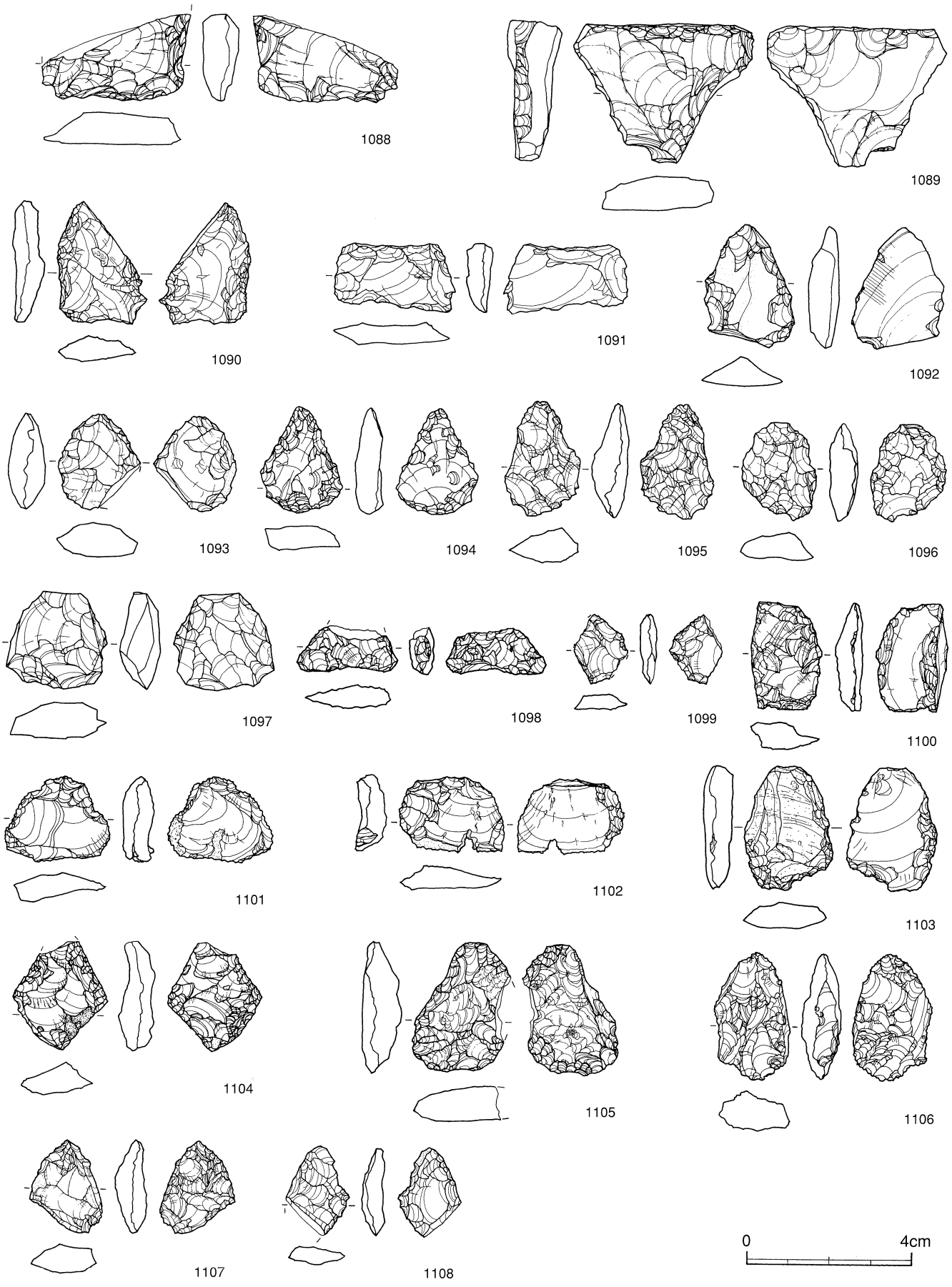
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第200図	906	D-24		Ⅱb	石鏃	Ⅸ類	安山岩(サヌカイト)	14.60	18.90	8.70	1.75	—		-
	907	C-22			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	18.10	15.30	5.70	1.11	—		-
	908	C-3		Ⅱ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	22.90	14.90	4.40	1.07	427	7.767	-
	909	C-23			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	19.90	12.70	4.50	0.74	—		-
	910	C-12	SD43		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	25.80	15.60	4.20	1.15	—		-
	911	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(桑木水流系)	16.80	11.40	4.50	0.40	—		-
	912	D-21		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	17.10	12.10	3.30	0.48	9974	8.43	-
	913	C-18		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	タンパク石	16.40	11.80	4.40	0.78	8806	7.35	-
	914	D-17	SD43		石鏃	Ⅸ類	チャート	12.20	9.55	4.70	0.26	—		-
	915	B-33		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	硬質安山岩	12.80	11.30	3.20	0.36	16252	9.63	-
	916	C-22		Ⅱb	石鏃	Ⅸ類	チャート	23.70	13.30	5.90	1.15	7702	8.275	-
	917	D-12		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	チャート	20.20	12.10	4.70	0.81	905	8.035	-
	918	D-15	SD44		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	17.00	9.20	3.10	0.39	—		-
	919	C-12			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(桑木水流系)	11.50	11.50	2.30	0.13	—		-
	920	D-17	SD		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	29.20	24.80	6.80	2.93	16989	9.47	-
	921	D-22		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	安山岩(サヌカイト)	24.40	16.80	3.70	0.95	—		-
	922	A-23		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	24.80	16.60	5.10	1.21	—		-
	923	C-22	SD44		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	17.80	16.90	4.50	0.77	11176	8.58	-
	924	D-22		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	18.60	19.80	4.10	1.15	—		-
	925	D-12	SD44		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	27.60	19.90	3.90	1.06	37	8.14	-
	926	D-23	SD43		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	22.60	17.10	4.00	1.10	10673	8.875	-
	927	D-17		Ⅱ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	16.70	11.40	3.50	0.38			-
	928	D-24		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(日東系)	20.10	16.30	3.30	0.64	—		-
	929	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	16.60	14.10	4.10	0.69	1547	8.365	-
	930	D-16		Ⅳ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	15.10	12.00	4.20	0.67	7475	8.39	-
	931	C-22	SD43	Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	16.10	13.00	4.20	0.59	1284—2		-
	932	D-21			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	15.00	10.00	4.70	0.48	—		-
	933	B-15	SD44		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	15.00	11.50	3.50	0.85	6008	8.005	-
	934	C-14		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	16.50	11.20	4.60	0.47	—		-
	935	D-22		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	20.75	15.85	4.20	0.97	7882	8.275	-
	936	C-16		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	9.10	10.00	2.10	0.15	9491	8.2	-
	937	C-18			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	10.00	12.45	3.55	0.32	—		-
	938	C-2			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(日東系)	20.25	23.10	6.55	2.76	—		-
	939	C-33			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	17.80	13.20	3.40	0.65	—		-
	940	C-16		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	18.75	10.45	4.25	0.58	4679	8.195	-
	941	D-15		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	12.55	11.00	2.80	0.31	2698	8.06	-
第201図	942	B-34		Ⅲ	石鏃	Ⅵb類	安山岩(サヌカイト)	17.65	14.10	4.10	0.78	16718	9.555	39
	943	C-22	SD44		石鏃	Ⅵb類	安山岩(サヌカイト)	16.80	13.80	3.40	0.63	12335	8.535	39
	944	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅵb類	黒曜石(腰岳系)	16.80	12.30	3.60	0.53	12105	8.895	39
	945	B-22			石鏃	Ⅵb類	安山岩(サヌカイト)	20.60	14.70	3.40	0.81	—		-
	946				石鏃	Ⅵb類	安山岩(サヌカイト)	16.30	11.65	3.00	0.50	—		39
	947	D-15			石鏃	Ⅵb類	チャート	24.40	19.30	4.80	1.83	—		39
	948	D-17			石鏃	Ⅵb類	チャート	23.00	17.10	9.00	2.62	—		39
	949				石鏃	Ⅵb類	黒曜石(腰岳系)	17.10	16.10	3.50	0.62	—		-
	950	C-24	SD44		石鏃	Ⅵb類	安山岩(サヌカイト)	20.40	16.85	4.60	1.18	—		39
	951	D-4		Ⅲ	石鏃	Ⅵc類	黒曜石(腰岳系)	15.30	15.70	3.30	0.58	1072	8.145	39
	952	C-22		Ⅲ	石鏃	Ⅵc類	安山岩(サヌカイト)	17.90	15.20	3.60	0.84	12105	8.895	39
	953	B-22			石鏃	Ⅵc類	安山岩(サヌカイト)	19.35	1.65	0.49	1.16	—		-
	954	B-16			石鏃	Ⅵc類	安山岩(サヌカイト)	19.80	17.60	6.70	1.80	—		-
	955	C-2	SK	Ⅲ	石鏃	Ⅵc類	黒曜石(腰岳系)	12.85	14.10	3.60	0.68	831	8.32	-
	956	B-22			石鏃	Ⅵc類	黒曜石(腰岳系)	15.00	16.80	4.90	1.03	—		-
	957	D-24		Ⅲ	石鏃	Ⅵc類	安山岩(サヌカイト)	14.10	18.10	3.40	0.73	—		-
	958	C-23		Ⅲ	石鏃	Ⅵc類	黒曜石(腰岳系)	15.30	11.80	2.80	0.31	11079	8.85	-
	959	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅵa類	黒曜石(腰岳系)	20.30	15.15	5.50	1.22	11749	8.91	-
	960	B-22			石鏃	Ⅵa類	チャート	21.25	13.80	3.30	0.86	—		-
	961	B-33	SD22		石鏃	Ⅵa類	安山岩(サヌカイト)	21.55	13.60	3.60	1.11	16206	9.32	-
	962	C-24？	SD44？		石鏃	Ⅵa類	チャート	19.50	16.30	4.90	1.60	—		-
	963	C-23		Ⅲ	石鏃	Ⅵa類	チャート	30.10	23.45	9.00	5.27	11090	8.845	-
	964	D-24	SD43		石鏃	Ⅵa類	黒曜石(日東系)	30.90	27.10	7.90	5.26	—		-
	965	C-19			石鏃	Ⅵa類	黒曜石(腰岳系)	18.80	15.20	5.60	1.67	—		-
	966	C-26		Ⅲ	石鏃	Ⅵa類	黒曜石(腰岳系)	22.40	14.25	4.00	1.00	11737	9.075	-
	967	D-12		Ⅱ	石鏃	Ⅵa類	安山岩(サヌカイト)	23.40	21.50	7.80	3.79	189	8.125	-
	968			Ⅱb？	石鏃	Ⅵa類	安山岩(サヌカイト)	26.00	21.75	5.80	2.24	ｵｵﾂﾎﾞC57・58Ⅰb		-
	969	D-24	SX		石鏃	Ⅵa類	安山岩(サヌカイト)	31.20	22.80	5.80	3.44	—		-
	970	D-24			石鏃	Ⅵa類	黒曜石(腰岳系)	15.95	12.50	3.60	0.67	—		-
	971	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅵa類	黒曜石(腰岳系)	14.00	15.50	3.60	0.81	12113	8.885	-
	972	D-13	SD44	Ⅲ	石鏃	Ⅵa類	黒曜石(日東系)	26.85	20.00	5.40	2.07	725	8.215	-
	973	D-17	SD？		石鏃	Ⅵa類	安山岩(サヌカイト)	11.05	22.30	3.60	0.91	—		-
	974				石鏃	Ⅵa類	黒曜石(腰岳系)	9.65	18.70	3.35	0.69	—		-
第202図	975	A-32	SD		石鏃	Ⅶa類	黒曜石(腰岳系)	18.60	16.70	4.25	1.02	7876	8.295	39
	976	C-22			石鏃	Ⅶa類	黒曜石(腰岳系)	23.40	19.15	5.80	2.55	—		39
	977	D-15		Ⅲ	石鏃	Ⅶa類	黒曜石(腰岳系)	22.85	12.80	4.40	1.07	1369	8.18	-
	978	D-16		Ⅱb	石鏃	Ⅶa類	チャート	20.60	17.50	4.10	1.41	5968	8.1	-
	979	D-16	SD44		石鏃	Ⅶa類	黒曜石(腰岳系)	28.75	26.55	8.20	4.79	—		39
	980	D-15		Ⅲ	石鏃	Ⅶa類	チャート	28.00	19.70	9.70	4.20	3957	8.035	-

表29　石器観察表７

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第202図	981	B-34	SD44		石鏃	Ⅶa類	黒曜石(腰岳系)	22.50	16.50	4.30	1.06	—		39
	982	C-17		Ⅲ	石鏃	Ⅶa類	黒曜石(腰岳系)	19.50	13.15	4.00	0.89	8100	8.18	–
	983	C-16		Ⅱb	石鏃	Ⅶa類	黒曜石(腰岳系)	20.40	13.10	4.10	0.93	8492	8.39	–
	984	B-18			石鏃	Ⅶa類	安山岩(サヌカイト)	21.30	11.80	4.70	0.91	—		–
	985	D-18		Ⅲ	石鏃	Ⅶa類	黒曜石(腰岳系)	18.50	13.10	3.70	0.75	4436	8.4	–
	986	C-23			石鏃	Ⅶa類	安山岩(サヌカイト)	27.85	11.70	5.60	1.38	—		–
	987	C-23			石鏃	Ⅶb類	安山岩(サヌカイト)	21.10	12.60	4.90	0.99	—		–
	988	C-22			石鏃	Ⅶb類	安山岩(サヌカイト)	23.40	15.10	5.90	1.62	—		–
	989	D-1		Ⅲ	石鏃	Ⅶb類	安山岩(サヌカイト)	25.50	16.30	8.20	2.52	1474	8.34	–
	990	A-22			石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	20.60	13.60	4.10	0.95	—		–
	991	D-21		Ⅲ	石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	22.20	15.10	4.90	1.37	9983	8.64	39
	992	C-16			石鏃	Ⅶb類	安山岩(サヌカイト)	19.80	14.80	5.40	1.36	—		–
	993				石鏃	Ⅶb類	安山岩(サヌカイト)	23.80	1.80	5.30	2.15	—		–
	994	C-15	SD22	Ⅲ	石鏃	Ⅶb類	チャート	17.30	12.60	4.60	0.92	8947	8.037	39
	995	C-22			石鏃	Ⅶb類	安山岩(サヌカイト)	26.70	22.10	7.80	3.63	—		–
	996	C-02		Ⅲ	石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	20.50	16.45	4.60	0.98	100	8.165	–
	997	D-16		Ⅱb	石鏃	Ⅶb類	チャート	22.80	20.20	7.70	3.36	3767	8.275	–
	998	B-15	SK	Ⅲ	石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	20.75	19.20	4.80	1.51	2828	8.355	–
	999	A-22			石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	16.40	13.80	4.00	0.70	—		39
	1000	A-22	SD44		石鏃	Ⅶb類	安山岩(サヌカイト)	17.80	17.40	3.60	0.99	—		39
	1001	D-15			石鏃	Ⅶb類	安山岩(サヌカイト)	17.60	15.70	5.10	1.24	—		–
	1002	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅶb類	チャート	15.30	14.40	3.10	0.57	1497	8.355	–
第203図	1003	C-19	SD44	Ⅲ	石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	23.25	18.60	7.00	2.26	9357	8.18	39
	1004	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	22.00	17.55	6.90	1.92	12029	8.95	39
	1005	D-16	SD146		石鏃	Ⅶb類	黒曜石(日東系)	25.45	18.90	7.20	3.12	16316	9.66	39
	1006	D-15		Ⅱ	石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	20.25	15.50	4.80	1.47	1730	8.365	39
	1007	D-15		Ⅲ	石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	17.30	14.50	7.00	1.47	1473	8.335	–
	1008	B-24			石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	16.40	12.20	4.30	0.69	—		–
	1009	B-34	SK151		石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	14.60	10.90	4.00	0.51	—		–
	1010	D-20		Ⅲ	石鏃	Ⅶb類	黒曜石(腰岳系)	15.10	10.25	3.00	0.36	1408	8.4	–
	1011	D-22			石鏃	Ⅶb類	チャート	12.00	8.30	2.90	0.25	—		–
	1012	D-24			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	18.45	10.00	3.00	0.43	—		–
	1013				石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	18.35	10.60	3.65	0.66	—		–
	1014	D-24		Ⅱb	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	16.30	7.70	2.70	0.28	7765	8.29	–
	1015	D-16	SR26		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	8.35	6.45	2.40	0.10	—		–
	1016	D-21	SD146	Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	9.15	9.15	2.80	0.10	9958	8.485	–
	1017	C-22	SD43		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	9.95	9.60	3.20	0.28	—		–
	1018	D-15			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	10.05	9.25	3.00	0.23	—		–
	1019	B-2		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	9.50	10.00	2.70	0.16	5179	8.39	–
	1020	C-3		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	10.80	9.35	2.80	0.14	5512	8.04	–
	1021	D-21		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	11.75	10.00	2.90	0.26	10579	8.54	–
	1022	C-22	SD43		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	11.50	15.80	2.10	0.25	—		–
	1023	D-15		Ⅱb	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	13.55	9.65	3.00	0.31	ｵｵﾂﾎﾞ5847	7.98	–
	1024	D-18		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	11.50	12.20	3.00	0.35	5422	8.305	–
	1025	D-21			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	13.40	9.20	3.40	0.23	—		–
	1026	D-20	SD43		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	7.05	9.60	3.00	0.21	—		–
	1027	B-15			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	10.55	7.70	2.70	0.10	—		–
	1028	C-3		Ⅱ	石鏃	Ⅸ類	チャート	16.00	11.20	6.50	0.84	ﾐｲﾘｷ613	7.702	–
	1029	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	14.80	11.35	2.65	0.26	4874	8.275	–
	1030	C-16	SR13	Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	チャート	11.25	7.75	2.40	0.13	1381	8.09	–
	1031	D-18		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	8.35	10.80	2.90	0.22	7032	8.345	–
	1032	C-19		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	13.15	10.85	3.35	0.39	525	8.035	–
	1033				石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	7.80	6.95	2.40	0.10	—		–
	1034	C-2		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	8.65	7.15	2.40	0.10	ｵｵﾂﾎﾞ4635	8.06	–
	1035	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	9.05	9.00	2.30	0.16	ｵｵﾂﾎﾞ12113	8.885	–
	1036	C-22	SD43		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	10.70	10.35	2.30	0.16	ｵｵﾂﾎﾞ4874	8.275	–
	1037	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	11.45	5.65	2.80	0.13	ｵｵﾂﾎﾞ8109	8.065	–
第204図	1038	C-24			石鏃	Ⅷ類	黒曜石(腰岳系)	17.20	15.78	2.90	0.98	—		–
	1039	D-21		Ⅲ	石鏃	Ⅷ類	チャート	25.90	15.90	7.10	2.41	2084	8.335	39
	1040		SD43		石鏃	Ⅷ類	黒曜石(腰岳系)	21.70	11.00	4.80	0.75	—		39
	1041	B-16		Ⅲ	石鏃	Ⅷ類	黒曜石(腰岳系)	16.10	14.40	3.15	0.57	12933	8.94	–
	1042	B-22			石鏃	Ⅷ類	黒曜石(腰岳系)	23.05	21.70	5.90	1.51	—		–
	1043				石鏃	Ⅷ類	黒曜石(日東系)	17.35	19.65	3.30	0.99	—		–
	1044	A-23	SD43		石鏃	Ⅷ類	黒曜石(腰岳系)	19.00	14.80	6.60	1.40	—		39
	1045	D-1		Ⅲ	石鏃	Ⅷ類	黒曜石(腰岳系)	15.35	14.50	3.30	0.54	1499	8.34	–
	1046	D-12	SD43		石鏃	Ⅷ類	黒曜石(腰岳系)	8.30	12.90	4.50	0.62	—		39
	1047	D-16			石鏃	Ⅷ類	黒曜石(腰岳系)	17.60	11.10	3.80	0.51	—		–
	1048	C-24		Ⅲ	石鏃	Ⅷ類	黒曜石(腰岳系)	15.10	9.10	3.80	0.29	12059	8.905	–
	1049	D-21		Ⅲ	石鏃	Ⅷ類	黒曜石(桑木水流系)	14.75	12.65	3.20	0.36	10522	8.555	39
	1050	B-22		Ⅲ	石鏃	Ⅷ類	黒曜石(腰岳系)	13.10	12.25	3.80	0.38	—		–
第205図	1051	D-14	SD43		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	13.00	15.90	3.90	0.42	1176	8.12	–
	1052	D-3	SD43		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	11.85	12.10	2.40	0.18	1742	8.365	–
	1053	B-22			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	10.00	8.10	3.80	0.21	—		–
	1054	D-29		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	12.05	11.55	3.55	0.28	—		–
	1055	D-11	Ⅲ		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(日東系)	32.15	12.35	5.00	2.62	371	8.01	–

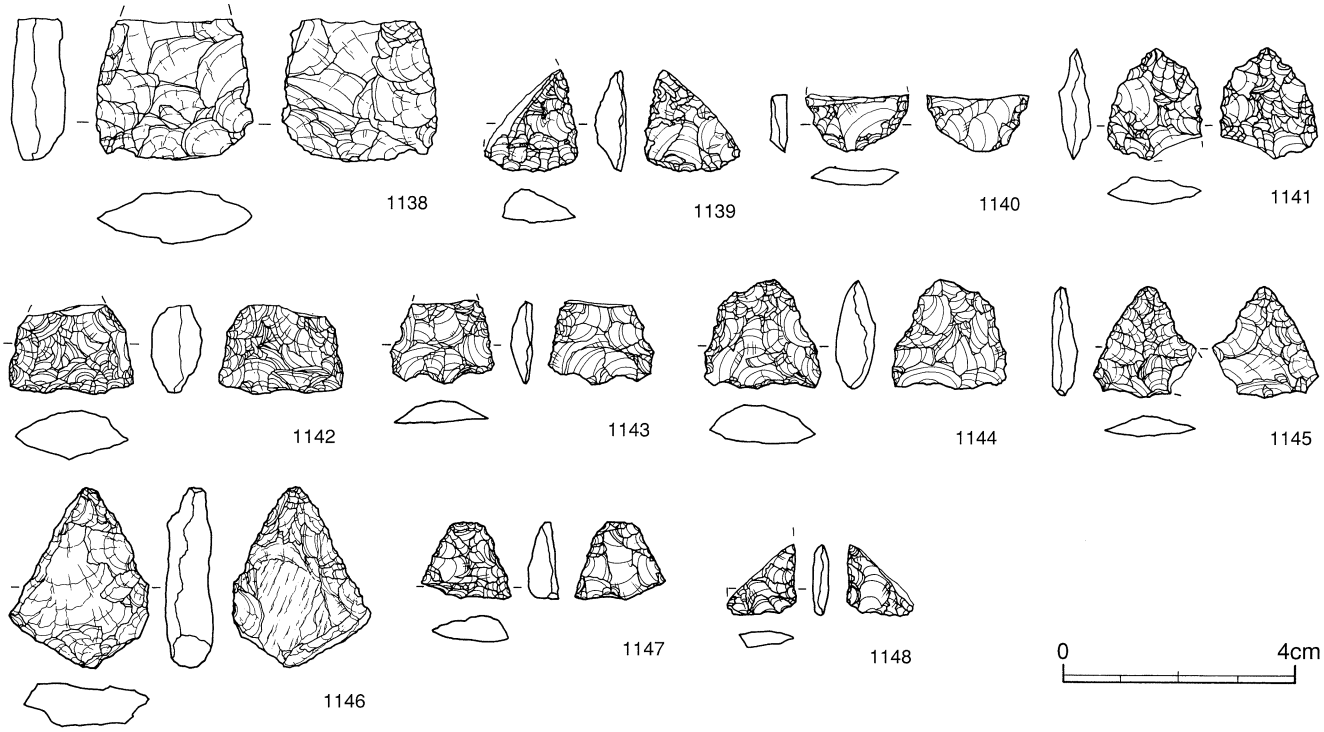


第205図　出土遺物　石器(16)　石鏃



第206図　出土遺物　石器(17)　石鏃

第207図　出土遺物　石器(18)　石鏃



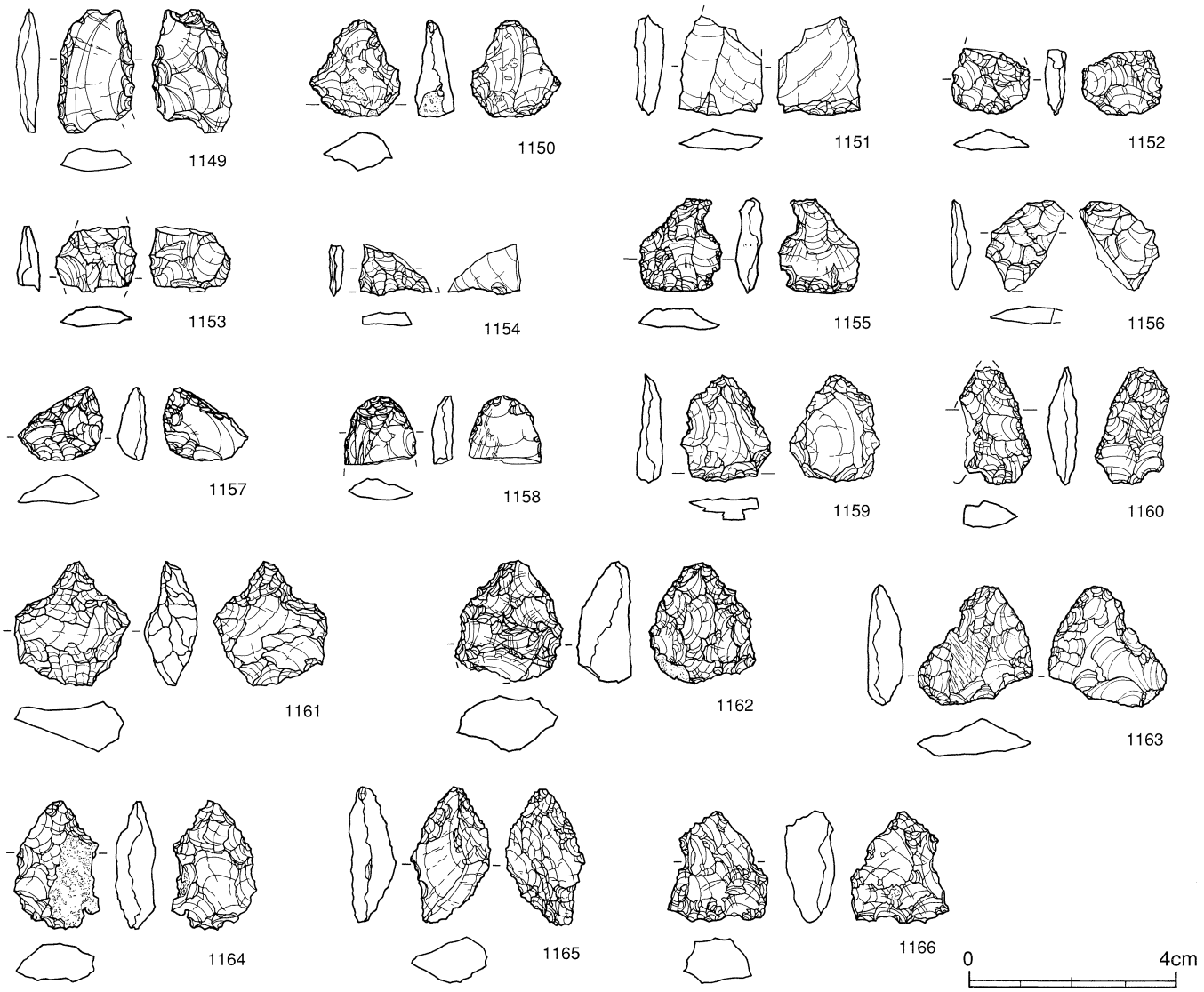
第208図　出土遺物　石器(19)　石鏃

表30　石器観察表 8

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第205図	1056	D-12		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	安山岩(サヌカイト)	14.65	12.40	3.30	0.48	ミイリキ1390	8.005	−
	1057	C-21		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	安山岩(サヌカイト)	14.80	13.10	3.00	0.61	4969	8.26	−
	1058	C-16			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	16.95	13.90	4.20	0.66	−		−
	1059	D-21			石鏃	Ⅸ類	安山岩(サヌカイト)	12.20	11.30	3.30	0.47	−		−
	1060	C-22	SD43		石鏃	Ⅸ類	チャート	14.25	11.90	2.80	0.42	−		−
	1061	C-24	SD43		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	11.30	12.05	3.10	0.34	14728	8.68	−
	1062	D-16			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	14.90	9.30	3.20	0.44	−		−
	1063	B-22	SK83	Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	22.55	16.55	3.80	1.09	14750	8.9	−
	1064	D-22			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	22.25	15.40	4.00	1.25	−		−
	1065	B-5		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	安山岩(サヌカイト)	18.50	8.60	3.10	0.48	325	8.15	−
	1066	B-22		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	13.30	12.60	3.40	0.41	7823	8.245	−
	1067	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	19.20	15.00	3.50	0.86	9942	8.39	−
	1068	C-16			石鏃	Ⅸ類	安山岩(サヌカイト)	19.20	13.50	3.40	0.82	−		−
	1069	C-16		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	6.95	11.30	2.80	0.20	9466	8.195	−
	1070	C-22		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	チャート	10.75	15.55	3.60	0.53	6008	8.005	−
	1071	D-23	SX85		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	12.05	12.25	3.10	0.34	−		−
	1072	C-16		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	19.40	8.90	2.30	0.30	9491	8.2	−
	1073	D-21	SD43		石鏃	Ⅸ類	チャート	11.70	1.00	4.60	0.55	10453	8.255	−
	1074	B-16			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	20.40	14.40	5.00	1.34	−		−
	1075	D-15	SD		石鏃	Ⅸ類	チャート	17.40	12.95	3.10	0.62	−		−
	1076	A-36			石鏃	Ⅸ類	チャート	17.00	11.75	2.90	0.53	−		−
	1077	C-24			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	15.80	14.90	4.00	0.57	−		−
	1078	D-18	SD44		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	10.40	0.90	2.80	0.27	−		−
	1079	C-23			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	14.75	19.40	4.40	1.04	−		−
	1080	C-15			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	13.30	16.20	4.90	0.93	−		−
	1081	D-16			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	15.65	16.80	5.20	1.50	−		−
	1082	D-16	SD	Ⅱb	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	12.90	18.60	3.90	0.72	5037	8.24	−
	1083	D-16		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	12.40	14.50	3.50	0.49	4548	8.415	−
	1084	B-30	SK151		石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	17.30	12.85	6.50	1.04	ミイリキ1742	7.655	−
	1085	D-23		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	18.55	10.25	3.30	0.44	10671	8.745	−
	1086	D-18			石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	12.30	10.35	3.00	0.32	−		−
	1087	C-15		Ⅲ	石鏃	Ⅸ類	黒曜石(腰岳系)	9.75	5.85	2.30	0.11	9004	8.127	−
第206図	1088	C-22	SD43		石鏃	未製品	安山岩(サヌカイト)	18.50	39.50	9.00	6.77	4999	8.21	38
	1089	B-22		Ⅲ	石鏃	未製品	安山岩(サヌカイト)	34.40	44.10	11.20	17.18	14950	8.645	38
	1090	C-16	SD43		石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	33.00	21.00	7.80	3.67	2785	8.365	−
	1091	C-16		Ⅱb	石鏃	未製品	チャート	17.00	29.30	6.30	3.71	8771	7.22	−
	1092	C-16		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	31.60	24.90	7.60	3.78	11564	8.865	−
	1093	B-22		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(日東系)	24.80	20.00	9.20	3.93	9989	8.445	−

表31　石器観察表９

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第206図	1094	C-16	SD43		石鏃	未製品	黒曜石(日東系)	26.30	20.50	6.30	3.18	2084	8.335	38
	1095	C-24		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	28.50	18.40	8.40	3.22	1012	8.16	38
	1096	D-15		Ⅱb	石鏃	未製品	チャート	25.00	18.60	6.60	3.02	1964	9.56	38
	1097	C-22	SD44	Ⅲ	石鏃	未製品	チャート	24.30	24.80	9.90	6.16	7547	8.395	－
	1098	B-16			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	11.40	24.80	6.40	1.63	—		－
	1099	D-22		Ⅱ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	17.90	13.00	4.10	0.77	2785	8.365	－
	1100	B-22		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	26.60	18.00	6.40	2.87	3380	8.37	－
	1101	D-16		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	21.00	25.60	6.00	3.29	10801	8.595	－
	1102	D-23		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	19.00	25.20	6.90	2.83	10650	8.7	－
	1103	C-15		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	30.70	21.10	7.00	5.10	16837	9.63	－
	1104	C-20？	SD43	Ⅲ？	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	27.30	23.90	6.70	3.39	—		－
	1105	D-16	SD43		石鏃	未製品	黒曜石(日東系)	32.10	22.30	8.40	6.45	—		38
	1106	D-24		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	31.10	18.90	9.20	4.79	12059	8.905	－
	1107	C-24			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	22.50	16.90	6.80	2.24	—		－
	1108	B-34			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	21.90	15.90	5.40	1.38	—		－
第207図	1109	D-24			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	20.10	12.30	5.30	1.24	—		－
	1110	D-18			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	18.50	18.70	6.60	1.77	—		－
	1111	D-16		Ⅲ	石鏃	未製品	安山岩(サヌカイト)	17.10	13.80	5.60	1.44	498	8.055	－
	1112	D-12	SD	Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	21.60	14.80	5.30	1.68	6731	8.12	－
	1113	D-13		Ⅲ	石鏃	未製品	チャート	16.50	14.90	3.60	0.77	772	8.235	－
	1114	B-24			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	20.40	17.30	3.60	1.07	ミー		－
	1115	D-16			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	21.00	17.20	3.80	1.42	—		－
	1116	C-22	SD43		石鏃	未製品	黒曜石	22.20	14.00	3.70	1.06	7475	8.39	－
	1117	D-16			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	25.20	18.40	7.20	3.73	—		－
	1118	C-16	SD16		石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	20.60	14.70	5.40	1.76	—		－
	1119	C-21		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	16.35	17.20	4.50	1.21	11632	8.355	－
	1120	C-22			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	20.50	16.30	4.60	1.55	—		－
	1121	D-17			石鏃	未製品	チャート	35.80	17.00	11.10	6.23	—		－
	1122	D-22			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	18.70	14.60	6.30	2.08	—		－
	1123	C-22			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	20.50	17.20	5.30	1.78	—		－
	1124	C-22			石鏃	未製品	安山岩	14.80	14.50	4.90	0.99	ミイリキ		－
	1125	D-22		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	22.60	17.70	7.30	2.26	10801	8.595	38
	1126	C-16	SD43		石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	19.30	14.00	5.50	1.33	—		38
	1127	C-23			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	19.00	12.30	4.10	0.90	—		－
	1128	D-22			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	15.60	13.90	5.90	1.11	—		－
	1129	C-22			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	14.60	11.70	4.40	0.60	—		－
	1130	B-23			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	11.30	19.10	9.70	2.46	—		－
	1131				石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	25.10	16.90	7.30	2.84	—		38
	1132	B-34	SD43		石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	16.50	16.20	8.90	1.81	10649	8.85	－
	1133	C-14	SR14		石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	22.00	16.50	5.20	2.07	—		38
	1134	D-16	SD22		石鏃	未製品	安山岩(サヌカイト)	26.80	11.10	2.80	1.11	—		－
	1135	C-23			石鏃	未製品	黒曜石(日東系)	19.40	17.30	4.00	1.76	—		－
	1136	D-16		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	19.20	12.50	4.60	0.78	3380	8.37	－
	1137	D-3			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	9.40	16.00	3.10	0.52	—		－
第208図	1138	C-22			石鏃	未製品	安山岩(サヌカイト)	24.40	26.70	9.90	7.82	—		－
	1139	C-22			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	20.20	16.50	5.50	1.12	エー		－
	1140	D-23		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	10.00	17.60	2.30	0.37	10059	8.475	－
	1141	C-16		Ⅲ	石鏃	未製品	チャート	19.50	16.10	4.90	1.22	9418	8.155	38
	1142	B-15			石鏃	未製品	チャート	16.00	21.30	8.60	2.93	—		－
	1143	C-3		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	14.40	17.70	3.60	0.96	?465		－
	1144	C-22		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	20.20	20.90	6.70	2.12	10522	8.555	38
	1145	D-17		Ⅲ	石鏃	未製品	安山岩(サヌカイト)	19.70	16.30	4.20	1.12	1643	8.35	－
	1146	B-34		Ⅲ	石鏃	未製品	チャート	32.00	24.00	8.80	6.25	10211	8.63	38
	1147	C-22		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	14.90	15.20	5.00	0.92	12113	8.885	－
	1148	D-22	SD43		石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	12.00	12.10	2.90	0.30	1340	8.175	－
第209図	1149	D-16		Ⅲ	石鏃	未製品	安山岩(サヌカイト)	25.00	14.40	5.00	1.21	3782	8.275	38
	1150	C-22			石鏃	未製品	黒曜石(日東系)	19.60	17.90	7.60	1.91	—		38
	1151	A-23			石鏃	未製品	玉髄	19.10	16.00	5.50	1.49	—		－
	1152				石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	11.40	15.20	3.80	0.67	—		－
	1153	B-23	SD44		石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	12.70	15.00	4.00	0.68	—		－
	1154	B-23		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	9.50	16.00	2.50	0.32	8109	8.065	－
	1155	D-13			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	18.60	15.80	4.60	1.29	—		38
	1156	C-21		Ⅲ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	19.70	12.00	4.00	0.69	8947	8.037	－
	1157	B-22	SD43		石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	16.00	15.50	5.50	1.10	—		38
	1158	A-22		Ⅱ	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	13.50	14.00	4.40	0.73	15294	8.93	－
	1159	D-23			石鏃	未製品	安山岩(サヌカイト)	21.50	17.00	5.20	1.62	ミイリキ		38
	1160	C-14			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	23.40	13.20	5.90	1.37	—		－
	1161	C-24		Ⅲ	石鏃	未製品	玉髄	24.90	22.20	10.00	3.65	16837	9.63	38
	1162	C-16		Ⅱb	石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	24.00	21.40	10.20	4.65	8771	7.22	38
	1163	C-14			石鏃	未製品	黒曜石(腰岳系)	24.20	20.30	6.70	2.71	—		38
	1164	D-21	SD16		石鏃	未製品	安山岩	25.65	17.00	7.60	2.93	10606	8.45	38
	1165	D-24			石鏃	未製品	チャート	27.00	15.50	6.90	2.64	—		38
	1166	C-22			石鏃	未製品	黒曜石(日東系)	22.70	18.70	8.90	3.39	—		－

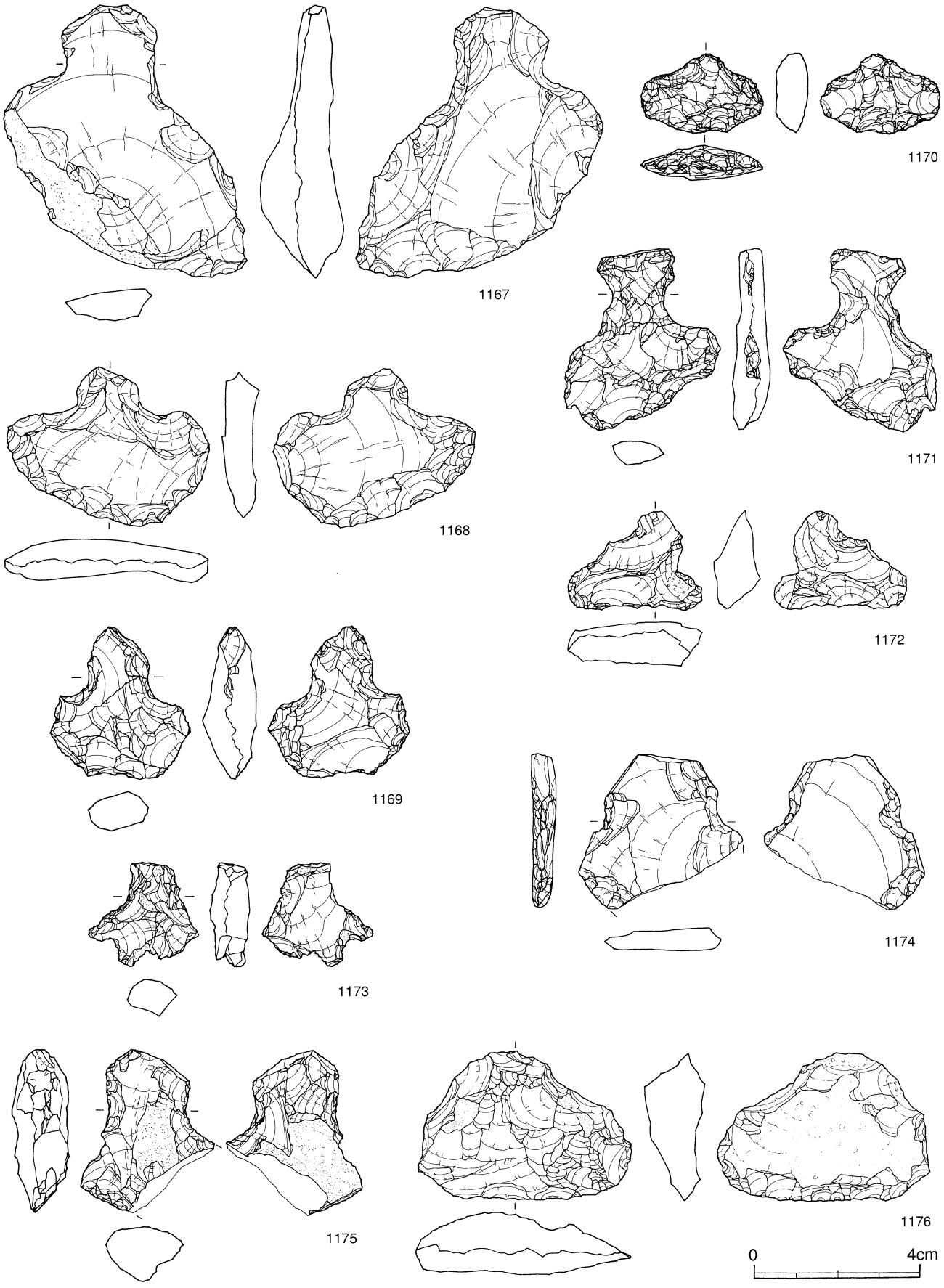


第209図　出土遺物　石器(20)　石鏃

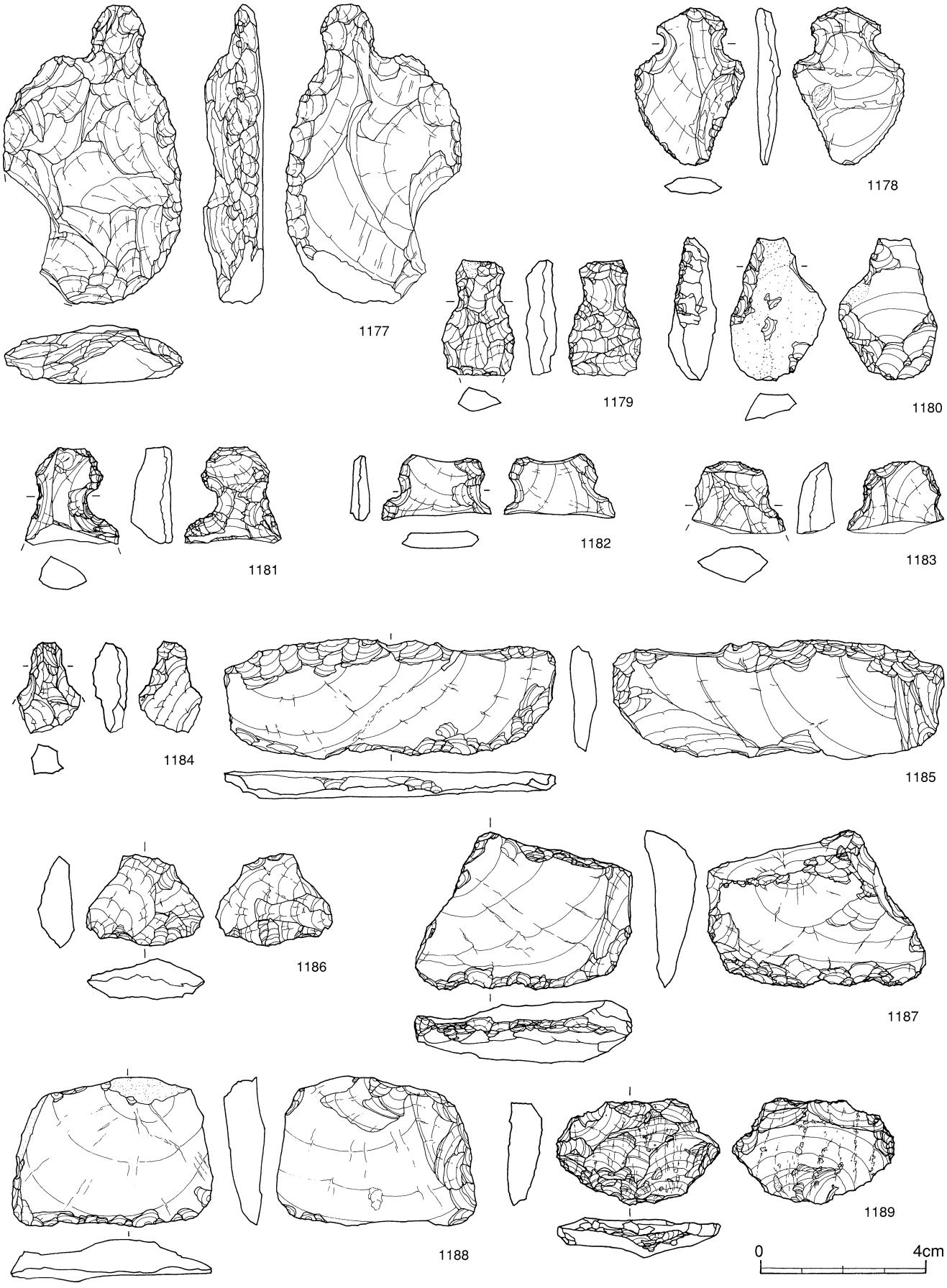
②石匙(第210～213・219図　1167～1211・1291～1295)

薄く剥ぎ取った剥片の一部を刃部とし，他の一部に両側から抉りを入れてつまみ部を作り出す石器である。刃部は両面から丁寧な押圧剥離を行って，直線あるいは曲線をなしている。つまみ部分がなくても同様の手法で刃部を作り出しているものも石匙に加えてある。石匙はいろいろな物を切るための万能な道具であり，いつでも使えるようにつまみには紐を結びつけて常に携帯していたと考えられている。切れ味が悪くなった場合は，再び押圧剥離を行い，新しい面を作り出して使っていたと考えられる。したがって，つまみ部分は製作した当初から変化がないのに対し，刃部の形は製作時点とは違った形をしているとみる方が良いだろう。今回大坪遺跡で出土した石匙をみると，まとまった形がなく，ほとんどそれぞれ個性的な感じを受けるのは，刃部の形態にまとまりがないためだと推察される。それは使用頻度が高く，刃部の再生を何度も繰り返したためだと考えられる。その理由としては，つまみ部の形態が1167と1175，1174と1178及び1182，1177と1181のように類似しているからである。

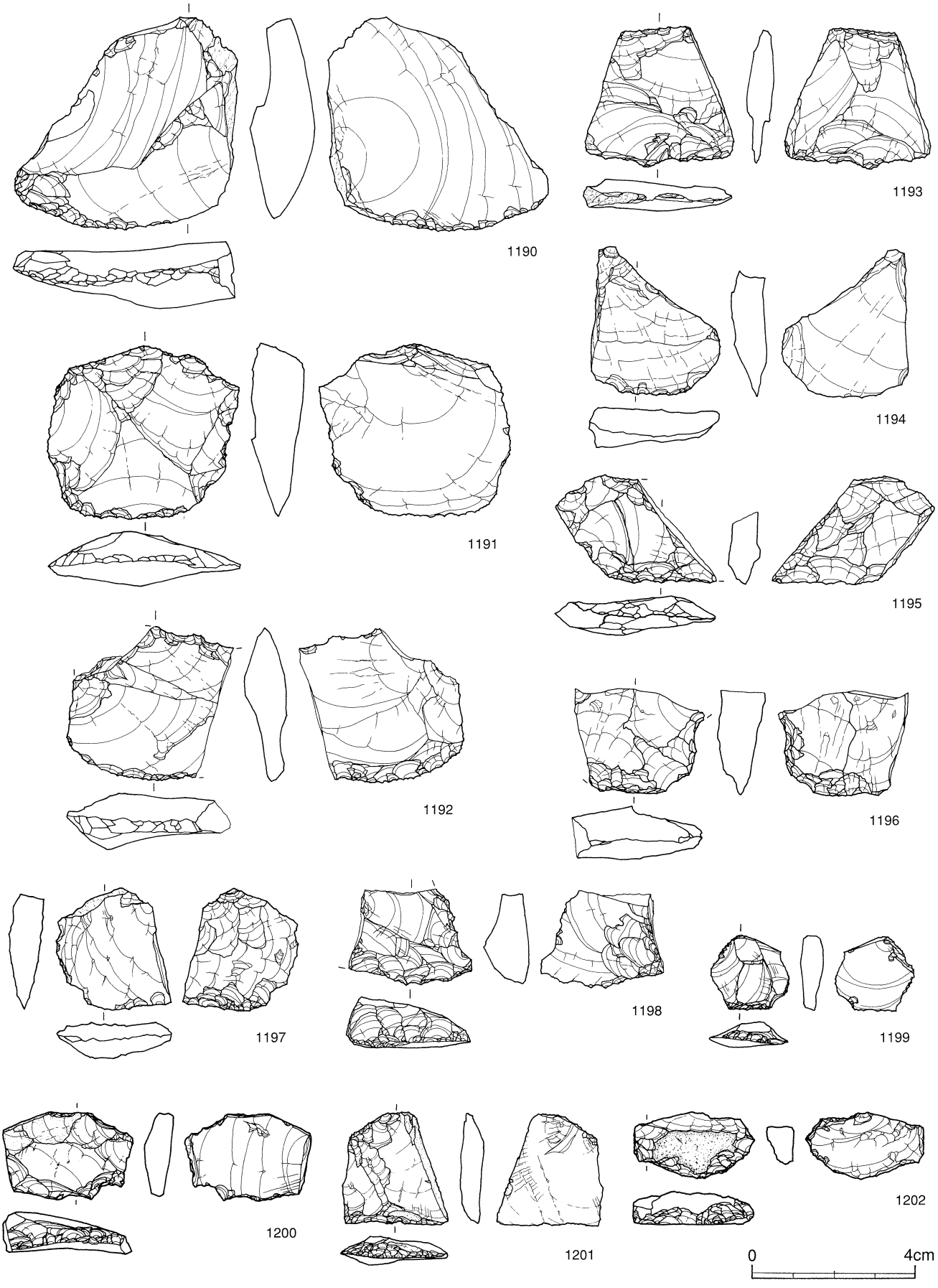
大坪遺跡出土の石匙が他の遺跡や異なる時期の石匙と異なる点は，鋭利な角度を持つものが1167ぐらいで，ほとんど無いという点である。発掘作業に参加していただいた剥製製作者の赤松貞行氏によると，鹿や猪を解体する場合は２種類の刃物が必要であるとのことである。一つは鋭利な角度の先端をもち，直線的な刃部の刃物である。これは，肉や脂肪が厚い部分を切るのに適しているとのことである。もう一つが湾曲した刃部の刃物で，頭部や脚部など



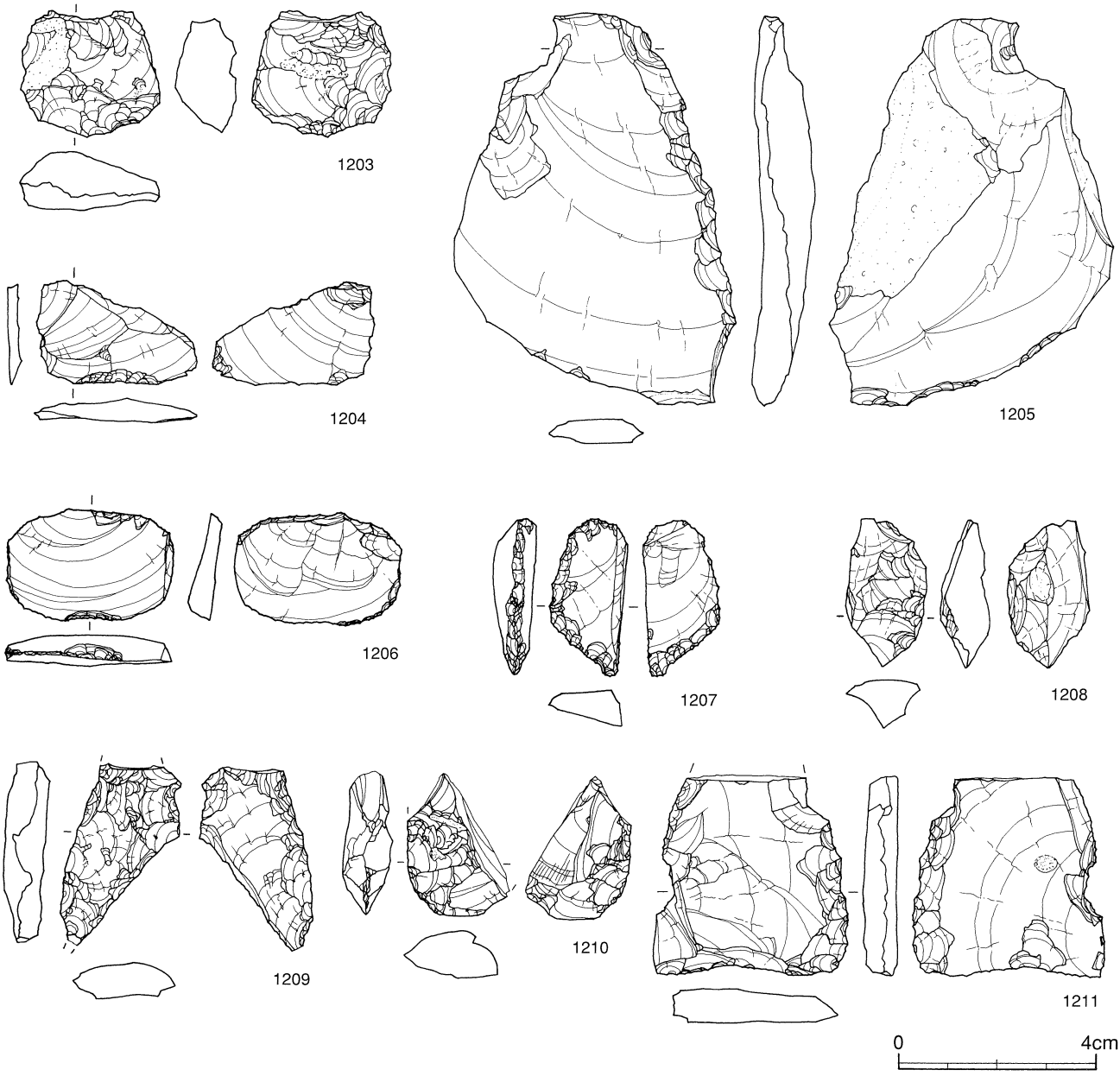
第210図　出土遺物　石器(21)　石匙



第211図　出土遺物　石器(22)　石匙

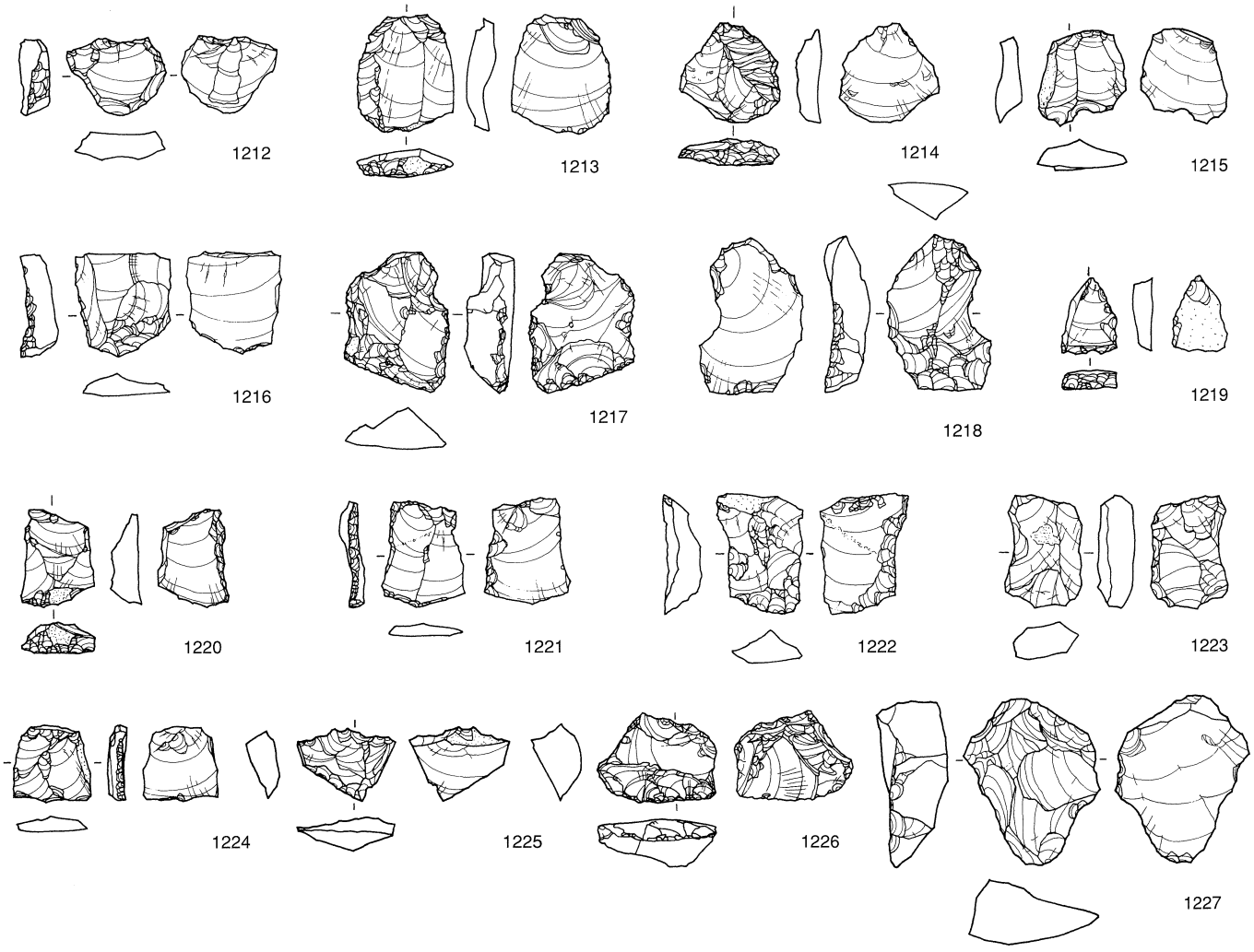


第212図　出土遺物　石器(23)　石匙



第213図　出土遺物　石器(24)　石匙

骨に近い部分で使うという。これは硬い骨に刃があたると刃こぼれしやすいからであるという。ガラス質の石材でつくられた石匙も同じように刃こぼれしたと思われ，同様な使い分けがなされていたと推察される。鋭利な先端部が少ないのは，刃部の再生が繰り返されて小さくなったことによることと，多く出土している剥片がその役目を担ったからだと考えられる。また，南九州では弥生時代になると石匙は全くみられなくなるので，縄文時代晩期まで営まれた大坪遺跡でも石匙の終焉が進んでいたのではないかと想定される。本遺跡出土の石匙が，他の時期の石匙と比較して，粗雑な感じを受ける点も，規格性がなくなって次第に必要な道具でなくなったのではないかと推察される。



第214図　出土遺物　石器(25)　スクレイパー

③スクレイパー（第214～219図　1212～1296）

1212～1227は，微細剥片の末端に45度以上の急角度の二次加工を施す掻器であり，刃部は凸形で半月形となる。1217は上部の両側から浅い抉りを入れてあるので，石匙に分類しても良いものである。

1228～1238は，厚めの剥片の一面を全方向から剥離した母指状のスクレイパーである。端部は角度が急であることから，掻器として用いられたと考えられる。1235は石核を利用したものである。

1239～1252は，微細剥片の側縁に45度未満の角度で二次加工を施した削器である。刃部は直線的である。

1265～1271は，剥片の一部に内湾した二次加工部もしくは使用部分があるノッチド・スクレイパーである。

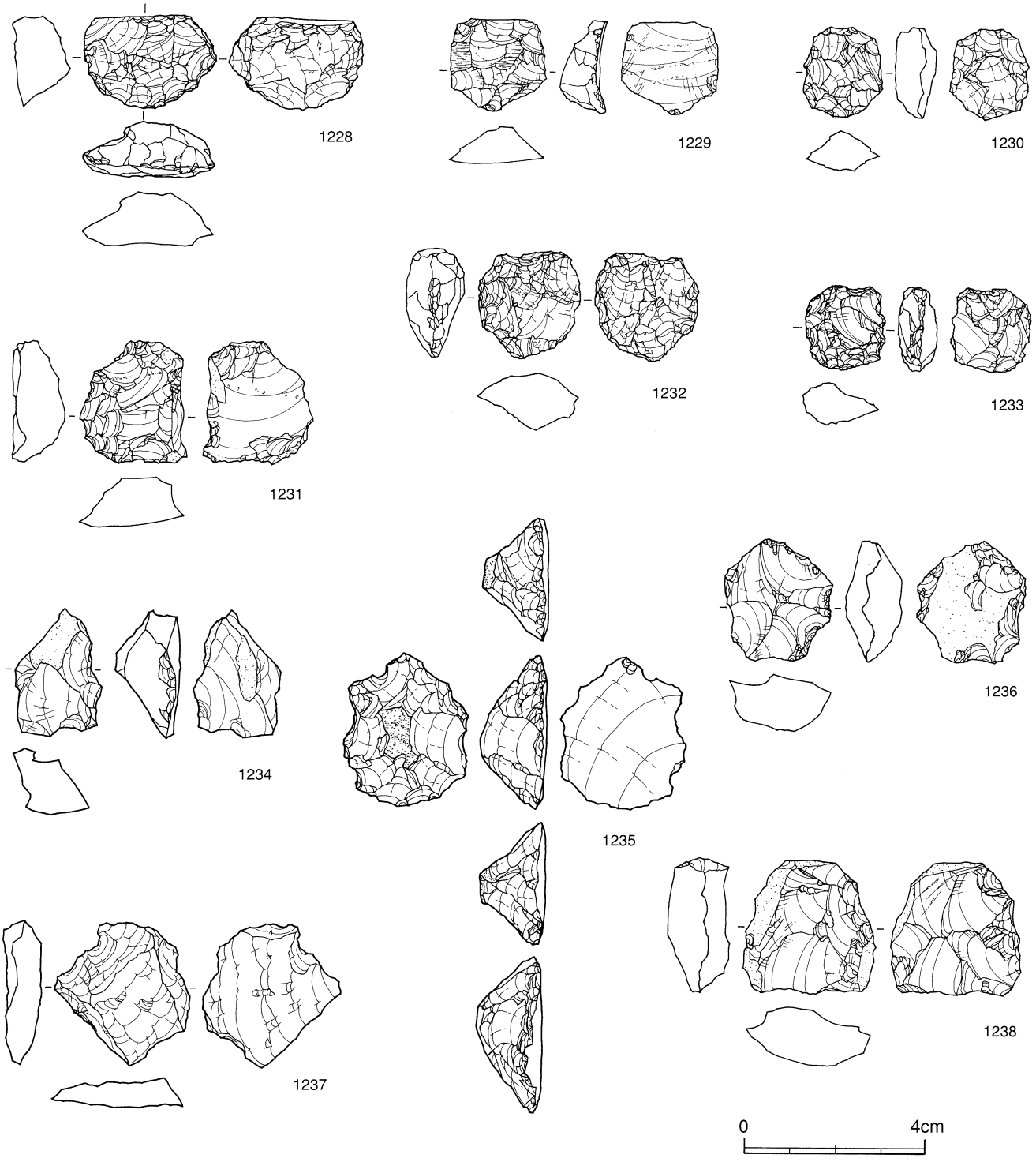
1253～1264・1272～1290・1296は，それぞれ二次加工あるいは使用痕のみられる剥片であり，他の剥片石器に分類されるべきものも含まれている。

1291～1295は，石匙に含めても良いものである。

④石錐（第220・221図　1297～1340）

石錐は回転によって孔をあける道具であり，遺跡で出土する対象物は土器の補修孔ぐらいであるが，木や骨や皮などあらゆる素材に対して使われたと考えられる。丁寧な剥離を加えて細長い錐部をつくり出し，断面は概ね三角形をなしている。断面の角数が少ないほど一つ一つの角度は鋭利となるので，対象物を削るのに都合が良かったと考えられる。この角がとれているほど使用頻度が激しかったことになり，水平方向に擦痕がみられれば回転させながら使用したことになる。したがって錐部の先端に水平方向の擦痕が観察されたものを石錐とした。また，錐部が欠損していてもつまみ部分がはっきりつくり出されているものについては石錐として扱った。

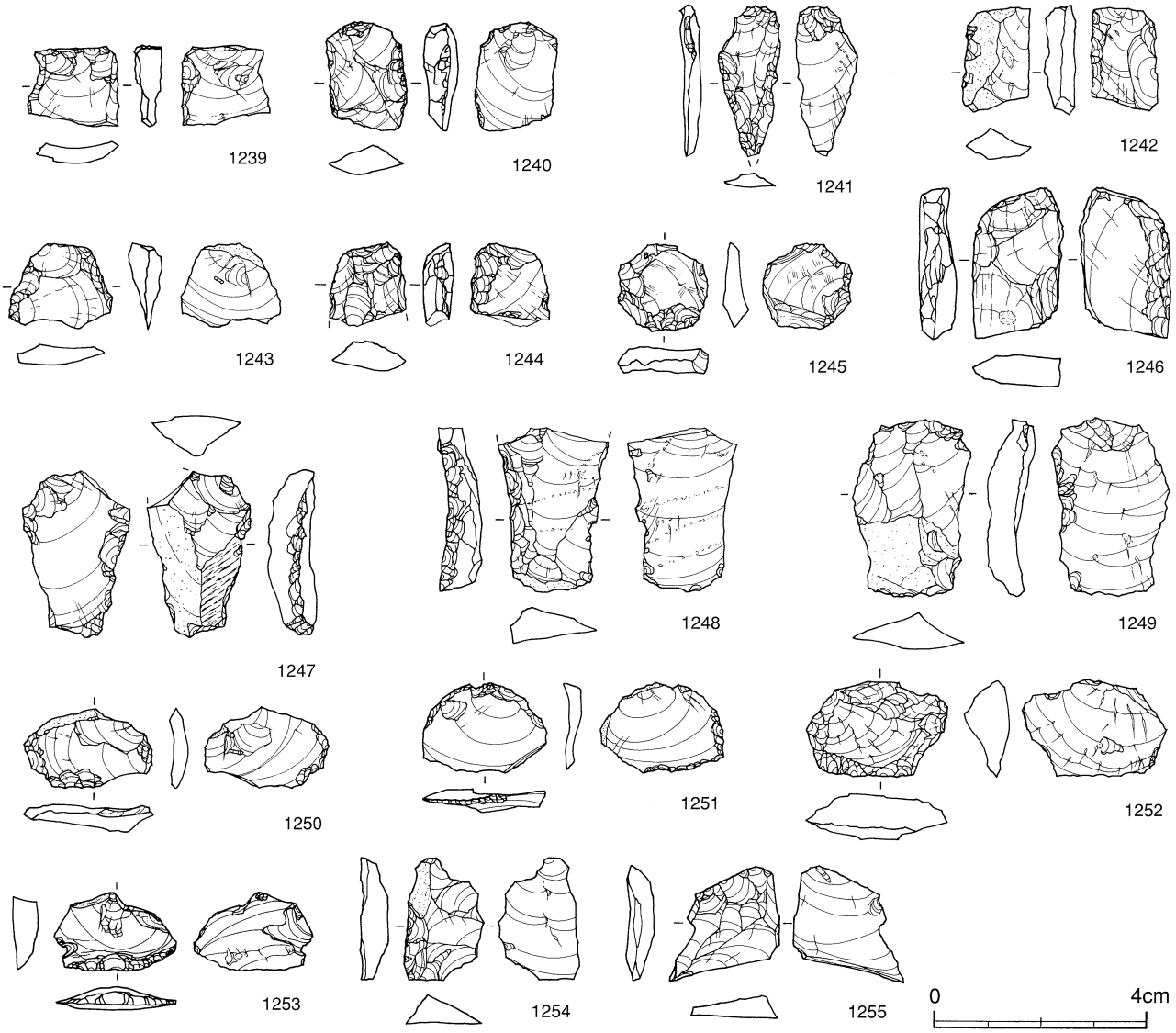
つまみ部と錐部との境がはっきりするのは，1302～1307・1312であり，1304と1312は直接手で持って使用したとしても十分使える大きさである。1297～1301は，つまみ部がなく錐部だけのものである。植物質や骨を利用



第215図　出土遺物　石器(26)　スクレイパー

表32　石器観察表 10

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第210図	1167	C-22	SD44		石匙		安山岩(サヌカイト)	72.50	38.50	20.00	46.85	—		41
	1168	D-24	SX		石匙		安山岩(サヌカイト)	40.50	48.30	9.00	15.47	—		41
	1169	D-24		Ⅲ	石匙		チャート	37.10	33.60	12.00	11.28	11400	8.89	41
	1170	A-22		Ⅲ	石匙		黒曜石(腰岳系)	18.10	29.30	8.00	3.98	15297	8.88	41
	1171	D-4		Ⅲ	石匙		チャート	39.80	36.90	9.00	11.75	ミ1080	7.572	41
	1172	B-33		Ⅲ	石匙		チャート	22.90	31.90	10.00	6.34	16137	9.36	41
	1173	D-18		Ⅲ	石匙		黒曜石(日東系)	24.20	25.40	8.00	3.63	3723	8.385	−
	1174	C-18			石匙		安山岩(サヌカイト)	39.30	38.75	5.15	9.24	—		−
	1175				石匙		タンパク石	36.10	30.90	13.00	11.78	—		−
	1176	C-24	SD43		石匙		玉髄	36.00	51.70	15.00	24.70	12995	8.325	41



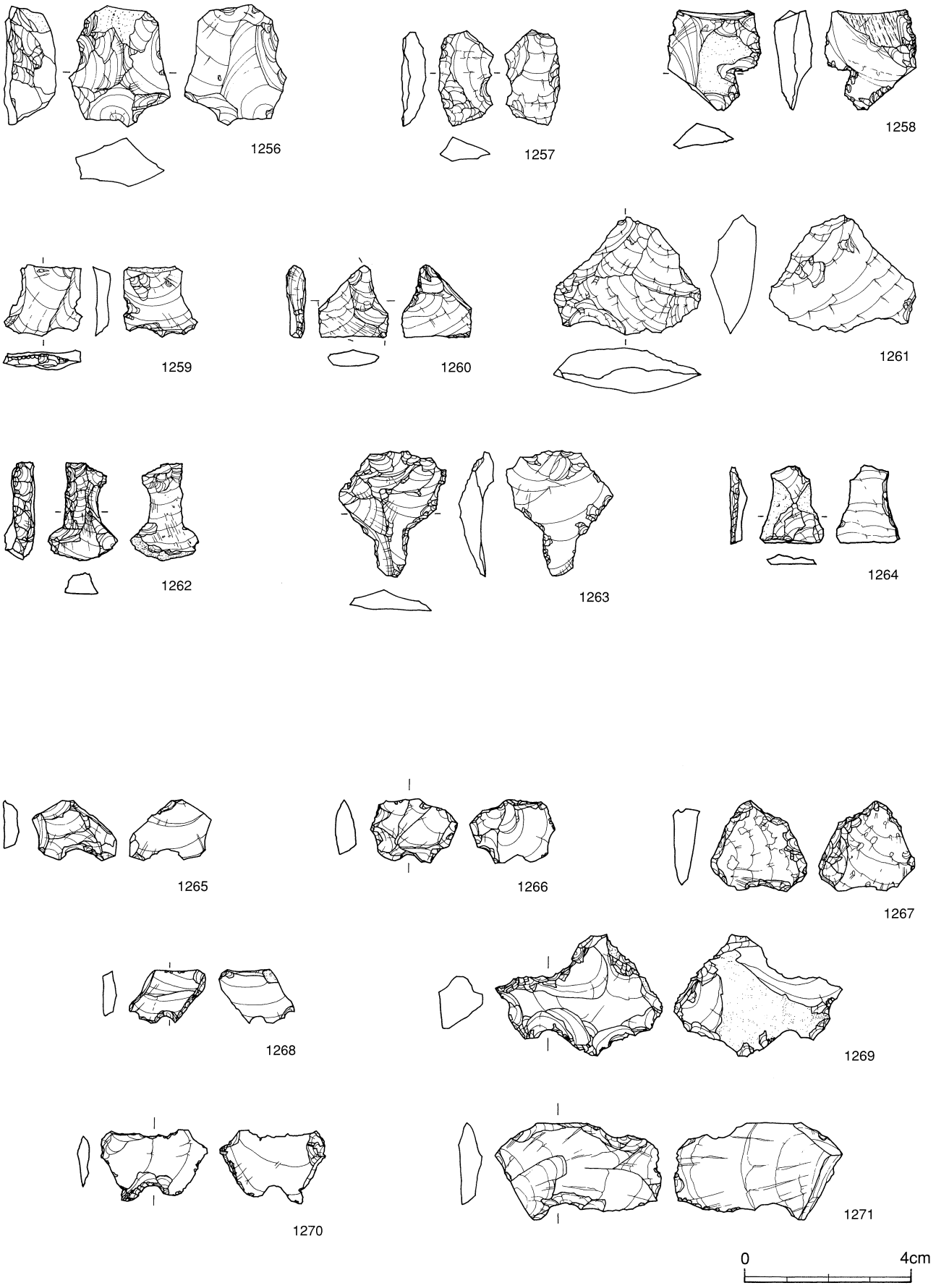
第216図　出土遺物　石器(27)　スクレイパー

表33　石器観察表 11

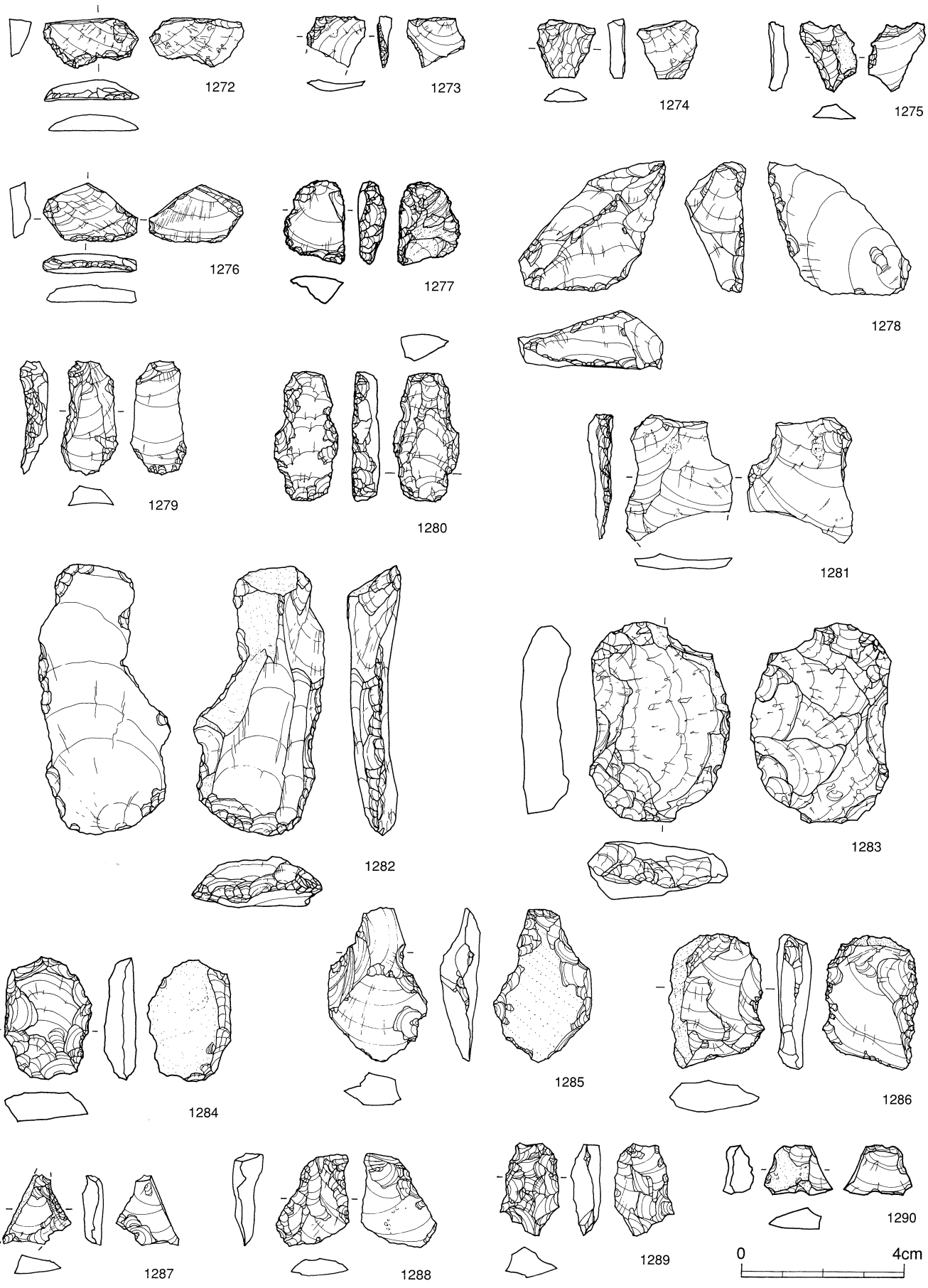
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第211図	1177	D-24		Ⅲ	石匙		安山岩(サヌカイト)	75.30	43.60	14.60	40.77	－		41
	1178	C-24		Ⅲ	石匙		安山岩(サヌカイト)	38.60	26.90	5.00	4.55	11744	8.86	41
	1179	C-16			石匙		黒曜石(日東系)	28.20	17.40	7.00	3.50	－		－
	1180	C-15		Ⅲ	石匙		黒曜石(腰岳系)	34.90	21.70	11.00	6.86	9114	8.36	－
	1181	C-16		Ⅱ	石匙		チャート	23.10	22.50	12.00	4.06	2763	8.355	－
	1182	C-17		Ⅲ	石匙		安山岩(サヌカイト)	15.90	26.10	5.00	2.03	8041	8.345	－
	1183	D-18		Ⅲ	石匙		安山岩(サヌカイト)	17.60	22.40	9.00	3.06	3927	8.43	－
	1184	B-29			石匙		黒曜石(日東系)	211.20	14.10	8.00	2.05	－		－
	1185	C-23		Ⅲ	石匙		チャート	28.70	79.70	6.00	20.64	－		41
	1186	B-32			石匙		黒曜石(日東系)	22.20	26.80	10.00	4.58	－		－
	1187				石匙		チャート	37.80	48.60	14.00	26.98	－		41
	1188	C-16		Ⅱb	石匙		安山岩(サヌカイト)	36.40	48.60	9.00	16.89	7709	8.24	41
	1189	B-35		Ⅰ	石匙		黒曜石(日東系)	25.60	39.90	9.00	8.18	2274	9.44	41
第212図	1190	D-1		Ⅲ	石匙		安山岩(サヌカイト)	49.40	51.20	16.00	36.78	≡1561	8.05	41
	1191	D-18		Ⅲ	石匙		安山岩(サヌカイト)	42.30	44.60	12.00	23.23	7025	8.335	－
	1192	D-22		Ⅲ	石匙		安山岩(サヌカイト)	38.20	38.00	13.00	14.93	10702	8.615	－
	1193	B-14			石匙		安山岩(サヌカイト)	34.00	35.70	7.00	8.77	－		－
	1194	B-22			石匙		安山岩(サヌカイト)	35.30	31.10	9.00	9.21	－		－
	1195	B-35			石匙		安山岩(サヌカイト)	24.50	20.60	8.00	7.84	－		－
	1196				石匙		安山岩(サヌカイト)	31.30	21.80	13.00	10.93	－		－
	1197	C-16		Ⅲ	石匙		黒曜石(日東系)	29.70	24.40	9.00	6.57	1873	9.26	－
	1198				石匙		黒曜石(腰岳系)	24.60	29.70	12.00	8.19	－		－

表34　石器観察表 12

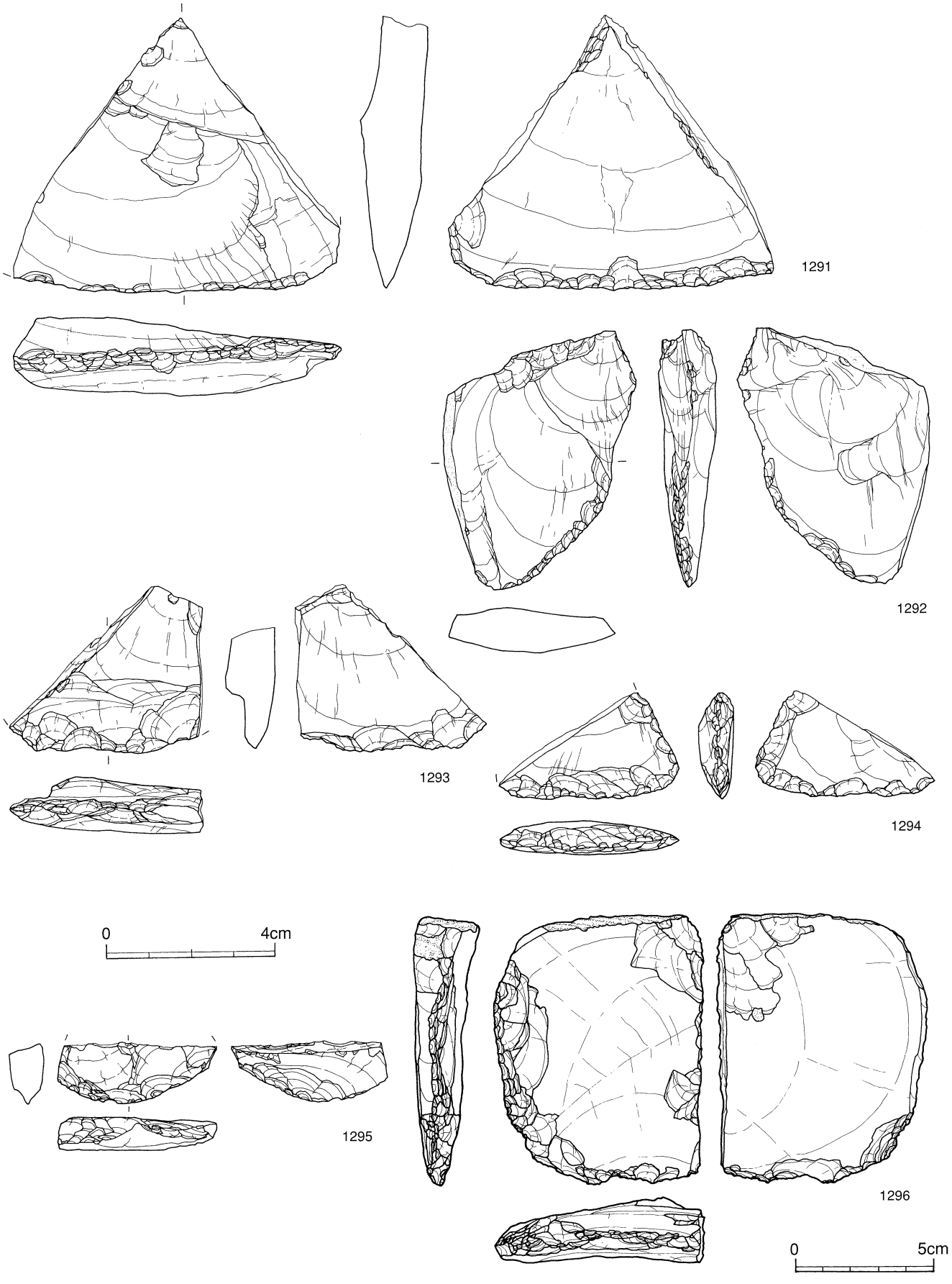
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第212図	1199	A-31			石匙		黒曜石（腰岳系）	17.70	19.20	6.00	1.86	—		41
	1200	D-25			石匙		黒曜石（腰岳系）	21.70	31.00	9.00	6.44	—		–
	1201	B-34		Ⅲ	石匙		黒曜石（腰岳系）	28.00	24.80	9.00	4.21	16736	9.61	41
	1202	D-14		Ⅲ	石匙		黒曜石（日東系）	16.50	29.30	8.00	3.64	1151	8.23	–
第213図	1203	C-14			石匙		黒曜石（腰岳系）	27.00	27.40	12.00	7.82	—		–
	1204	D-21			石匙		黒曜石（腰岳系）	18.60	33.80	4.00	1.83	10179	8.53	–
	1205	D-1		Ⅲ	石匙		安山岩（サヌカイト）	84.50	52.00	11.00	46.04	ミ1379	8.075	–
	1206	B-23			石匙		安山岩（サヌカイト）	22.90	33.20	5.00	4.48	—		–
	1207	B-34	SD146		石匙		チャート	31.90	14.30	8.00	3.71	16316	9.66	–
	1208	D-24			石匙		安山岩（サヌカイト）	31.20	15.70	10.00	34.0	—		–
	1209	C-22			石匙		黒曜石（日東系）	39.70	21.60	8.00	5.83	—		–
	1210	C-21			石匙		黒曜石（腰岳系）	29.30	19.20	10.00	4.70	—		–
	1211	F-30,31		表土	石匙		安山岩（サヌカイト）	41.10	39.00	7.00	14.99	—		–
第214図	1212		SD		スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	16.90	19.35	5.25	1.50	—		–
	1213	C-22	SD43		スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	23.45	19.95	4.90	1.70	—		–
	1214	C-14			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	20.80	19.40	4.70	1.66	—		–
	1215	D-13		Ⅲ	スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	19.60	12.25	5.20	1.41	5043	8.22	–
	1216	D-19			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	21.55	19.90	5.30	2.08	—		–
	1217	B-23			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	28.80	21.50	9.00	4.17	—		–
	1218	C-21			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	31.50	21.60	8.10	3.59	—		–
	1219	D-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	15.90	11.35	3.60	0.60	—		–
	1220	D-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	19.35	14.15	6.10	1.43	—		–
	1221	C-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	21.55	16.50	3.60	0.98	—		–
	1222				スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	23.10	17.85	7.80	2.10	—		–
	1223	B-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	23.95	14.40	6.10	2.49	—		–
	1224	B-20	SD44		スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	15.25	15.00	3.20	0.80	—		–
	1225	C-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	13.40	19.95	5.75	0.98	—		–
	1226	C-2			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	18.95	23.10	8.65	2.75	—		–
	1227	B-20			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	32.10	25.35	11.50	7.36	—		–
第215図	1228	D-14		Ⅲ	スクレイパー		チャート	21.00	29.45	12.05	7.44	5886	8.095	–
	1229	C-17		Ⅲ	スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	22.05	23.50	11.55	3.74	7967	8.16	–
	1230	C-17			スクレイパー		玉髄	22.75	28.10	9.10	3.29	—		–
	1231			Ⅲ	スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	28.65	25.95	11.80	7.28	1171	8.098	–
	1232	C-22	SD43		スクレイパー		黒曜石（日東系）	26.50	23.10	12.55	5.87	—		–
	1233	C-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	19.30	18.10	9.95	2.76	—		–
	1234				スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	29.05	18.45	9.45	4.79	—		–
	1235				石核		玉髄	15.55	34.50	25.35	10.63	—		–
	1236	C-01			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	27.25	23.40	12.35	6.42	—		–
	1237	D-22			スクレイパー		黒曜石（日東系）	32.00	30.75	8.15	6.48	—		–
	1238	A-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	31.00	29.80	13.00	11.07	—		–
第216図	1239	C-24			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	16.85	17.15	5.25	1.23	—		–
	1240	B-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	21.60	15.95	7.75	1.72	—		–
	1241	C-23			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	29.15	12.95	3.30	1.08	—		–
	1242	C-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	21.65	13.45	6.80	1.60	—		–
	1243	B-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	16.80	19.40	6.40	0.95	—		–
	1244	B-21			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	16.05	15.90	6.65	1.34	—		–
	1245	C-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	17.40	17.45	4.55	1.59	—		–
	1246	A-33		Ⅱb	スクレイパー		安山岩（サヌカイト）	29.45	17.20	4.65	4.22	8791	7.28	–
	1247	B-21			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	32.45	20.35	7.60	3.96	—		–
	1248	C-22	SD43		スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	32.20	21.05	6.65	3.92	—		–
	1249	C-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	34.35	21.55	7.20	4.97	—		–
	1250	C-22	SD43		スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	15.75	24.30	4.20	1.43	—		–
	1251	C-23			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	18.80	23.45	4.95	1.38	—		–
	1252	C-17			スクレイパー		黒曜石（日東系）	27.15	20.15	9.90	3.40	—		–
	1253	B-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	22.30	15.40	5.75	1.20	—		–
	1254	B-23			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	23.55	15.05	5.05	1.35	—		–
	1255	A-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	21.55	21.45	5.40	1.86	—		–
第217図	1256	B-21			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	30.90	25.85	12.80	8.25	—		–
	1257	C-23			スクレイパー		黒曜石（日東系）	24.30	23.40	5.65	1.61	—		–
	1258	B-14			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	25.30	22.90	9.90	3.54	—		–
	1259	B-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	18.05	19.40	4.95	1.22	—		–
	1260	C-22	SD43		スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	19.90	17.00	4.40	1.15	—		–
	1261	D-13		Ⅲ	スクレイパー		黒曜石（日東系）	30.90	36.80	10.90	8.39	862	8.41	–
	1262	D-18		Ⅲ	スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	25.55	17.00	6.35	1.85	3677	7.25	–
	1263	C-17		Ⅱb	スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	31.25	21.20	6.40	2.85	8075	8.415	–
	1264	B-22			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	19.70	16.80	3.35	0.88	—		–
	1265				ノッチドスクレイパー			14.70	17.50	3.90	1.02	—		–
	1266	C-18			ノッチドスクレイパー			15.50	20.10	5.30	1.54	—		–
	1267	B-19	SD16		ノッチドスクレイパー			22.20	23.20	6.70	2.70	—		–
	1268	B-22			ノッチドスクレイパー			13.00	17.10	3.40	0.76	—		–
	1269	C-22			ノッチドスクレイパー			29.60	40.30	11.60	9.38	—		–
	1270	D-22			ノッチドスクレイパー			16.70	25.20	3.30	1.29	—		–
	1271	D-24	SX		ノッチドスクレイパー			23.20	40.10	8.50	6.82	—		–
第218図	1272	C-14			スクレイパー		黒曜石（日東系）	12.60	23.50	5.25	1.38	—		–
	1273	C-22	SD43		スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	14.35	15.95	3.20	0.45	—		–
	1274	B-20	SD13		スクレイパー		黒曜石（日東系）	16.45	15.90	4.90	0.83	—		–
	1275	C-2			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	18.15	14.00	4.50	0.74	—		–
	1276	C-12	SD44		スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	16.75	23.20	5.90	1.63	—		–
	1277	B-20			スクレイパー		黒曜石（腰岳系）	22.95	26.80	7.85	1.80	—		–
	1278	C-14			スクレイパー		チャート	30.10	38.10	11.90	10.85	—		–



第217図　出土遺物　石器(28)　スクレイパー



第218図　出土遺物　石器(29)　スクレイパー



第219図　出土遺物　石器(30)　スクレイパー

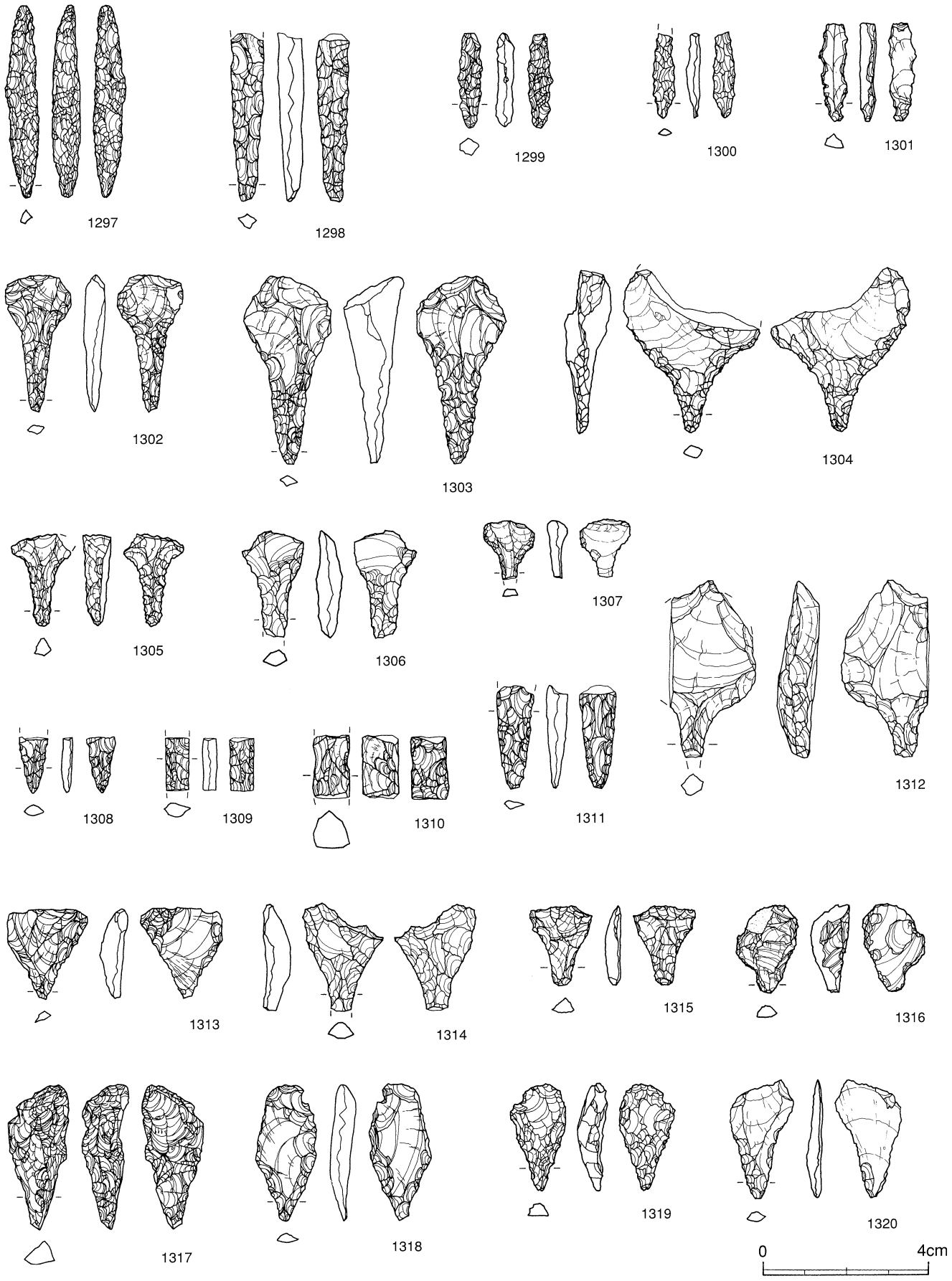
表35　石器観察表 13

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第218図	1279	C-22	SD43		スクレイパー		黒曜石(腰岳系)	29.00	14.30	6.60	2.38	—		–
	1280	B-14			スクレイパー		黒曜石(日東系)	33.15	16.55	6.80	3.47	—		–
	1281	D-18			スクレイパー		黒曜石(腰岳系)	32.90	26.55	6.25	3.90	—		–
	1282	C-15		Ⅲ	スクレイパー		安山岩	67.00	30.70	12.90	23.78	1753	8.23	–
	1283											—		–
	1284	C-22	SD43		スクレイパー		黒曜石(腰岳系)	31.95	21.50	7.15	4.59	—		–
	1285	B-33			スクレイパー		黒曜石(腰岳系)	39.25	24.40	9.00	5.70	—		–
	1286	B-14			スクレイパー		黒曜石(腰岳系)	34.30	24.50	8.15	6.12	814		–
	1287				スクレイパー		黒曜石(腰岳系)	19.80	17.75	5.90	0.93	—		–
	1288	D-12	SD43		スクレイパー		黒曜石(腰岳系)	23.90	18.55	5.85	1.79	22	8.164	–
	1289	C-2			スクレイパー		黒曜石(腰岳系)	24.90	15.15	7.55	2.03	—		–
	1290	B-20	SD44		スクレイパー		黒曜石(腰岳系)	13.50	17.55	7.70	1.01	—		–
第219図	1291	C-15		Ⅲ	スクレイパー		安山岩(サヌカイト)	66.60	77.40	18.70	76.74	14259	8.26	–
	1292	B-22		Ⅲ	スクレイパー		安山岩(サヌカイト)	57.70	47.70	13.20	34.95	14862	8.855	–
	1293	C-22	SD43		スクレイパー		安山岩(サヌカイト)	41.10	45.80	13.20	24.41	—		–
	1294	D-03		Ⅲ	スクレイパー		安山岩(サヌカイト)	26.30	42.90	8.60	8.20	106	7.585	–
	1295	B-22			スクレイパー		安山岩(サヌカイト)	16.25	39.80	8.45	5.72	—		–
	1296	C-17		Ⅱb	石製土掘具			97.20	75.00	18.00	220.00	8322	8.35	–
第220図	1297	B-23		Ⅲ	石錐		黒曜石(腰岳系)	47.20	6.90	6.20	2.25	15844	8.68	43
	1298	D-23		Ⅲ	石錐		安山岩(サヌカイト)	41.30	8.10	5.90	2.16	9903	8.61	43
	1299	C-14	SD44		石錐		黒曜石(腰岳系)	23.10	5.90	4.40	0.61	—		43
	1300	C-24		Ⅲ	石錐		黒曜石(腰岳系)	20.60	5.70	3.10	0.35	11768	8.9	43
	1301	C-25		Ⅰ	石錐		チャート	24.20	7.00	4.90	0.64	—		43
	1302	B-22	SD43		石錐		安山岩(サヌカイト)	33.60	16.70	5.00	1.85	12832	8.75	43
	1303	B-32		Ⅲ	石錐		チャート	50.80	21.10	13.70	7.14	16923	9.565	43
	1304	D-23		Ⅲ	石錐		チャート	39.80	4.20	8.80	6.53	10728	8.905	43
	1305	C-16		Ⅱ	石錐		安山岩(サヌカイト)	22.50	14.60	6.80	1.23	7760	8.355	43
	1306	C-2			石錐		黒曜石(腰岳系)	16.20	14.80	6.20	1.48	エノキダ		–
	1307	C-15		Ⅲ	石錐		チャート	14.00	12.00	4.10	0.55	8189	8.165	43
	1308	D-16		Ⅲ	石錐		安山岩(サヌカイト)	13.80	7.00	2.50	0.22	1442	8.355	–
	1309	C-15		Ⅲ	石錐		安山岩(サヌカイト)	13.20	5.80	3.60	0.34	8941	8.005	–
	1310	B-25			石錐		黒曜石(腰岳系)	15.60	9.00	9.00	1.61	—		–
	1311	C-22			石錐		安山岩(サヌカイト)	25.70	8.80	5.00	0.99	—		–
	1312	C-15		Ⅲ	石錐		安山岩(サヌカイト)	4.34	2.16	0.87	7.80	9146	8.3	43
	1313	B-32			石錐		チャート	22.20	19.30	5.80	1.85	—		–
	1314	C-16		Ⅲ	石錐		チャート	26.10	19.90	6.50	2.46	9485	8.315	–
	1315	B-20	SD44		石錐		安山岩(サヌカイト)	19.10	15.00	4.00	0.85	—		–
	1316	B-22			石錐		黒曜石(腰岳系)	21.10	14.00	7.90	2.15	—		–
	1317	D-20		Ⅲ	石錐		黒曜石(日東系)	30.60	14.80	11.30	4.08	4148	8.405	43
	1318	D-24	SX		石錐		安山岩(サヌカイト)	33.80	15.10	6.30	2.61	11597	8.36	43
	1319	D-18		Ⅱb	石錐		チャート	26.30	13.40	6.90	1.96	7421	8.405	43
	1320	D-11		Ⅲ	石錐		安山岩(サヌカイト)	29.40	15.60	3.80	1.02	365	8.19	43
第221図	1321	A-36	SD146		石錐		安山岩(サヌカイト)	46.60	16.70	9.30	5.58	16316	9.66	43
	1322	B-22	SD43		石錐		安山岩(サヌカイト)	36.00	17.40	8.20	4.17	13397	8.445	–
	1323				石錐		安山岩(サヌカイト)	30.90	11.10	10.90	2.42	ミイリキ		–
	1324	C-24			石錐		黒曜石(腰岳系)	31.10	11.20	4.00	1.17	—		43
	1325	B-14			石錐		黒曜石(腰岳系)	21.60	8.50	4.60	0.72	—		43
	1326				石錐		チャート	22.70	11.40	7.20	1.38	—		–
	1327	D-21		Ⅲ	石錐		黒曜石(腰岳系)	20.80	10.00	4.10	0.67	1045	8.11	–
	1328	B-23			石錐		黒曜石(針尾系)	21.80	11.00	9.80	1.68	—		–
	1329	C-22	SD43		石錐		黒曜石(腰岳系)	25.60	11.30	8.80	2.01	—		–
	1330	C-22			石錐		黒曜石(腰岳系)	33.60	15.80	6.50	2.99	—		–
	1331				石錐		黒曜石(腰岳系)	31.00	10.80	6.40	3.00	—		–
	1332	B-21			石錐		黒曜石(腰岳系)	27.00	12.50	5.50	1.71	—		–
	1333	C-22	SD44		石錐		チャート	22.90	12.20	4.70	1.33	—		43

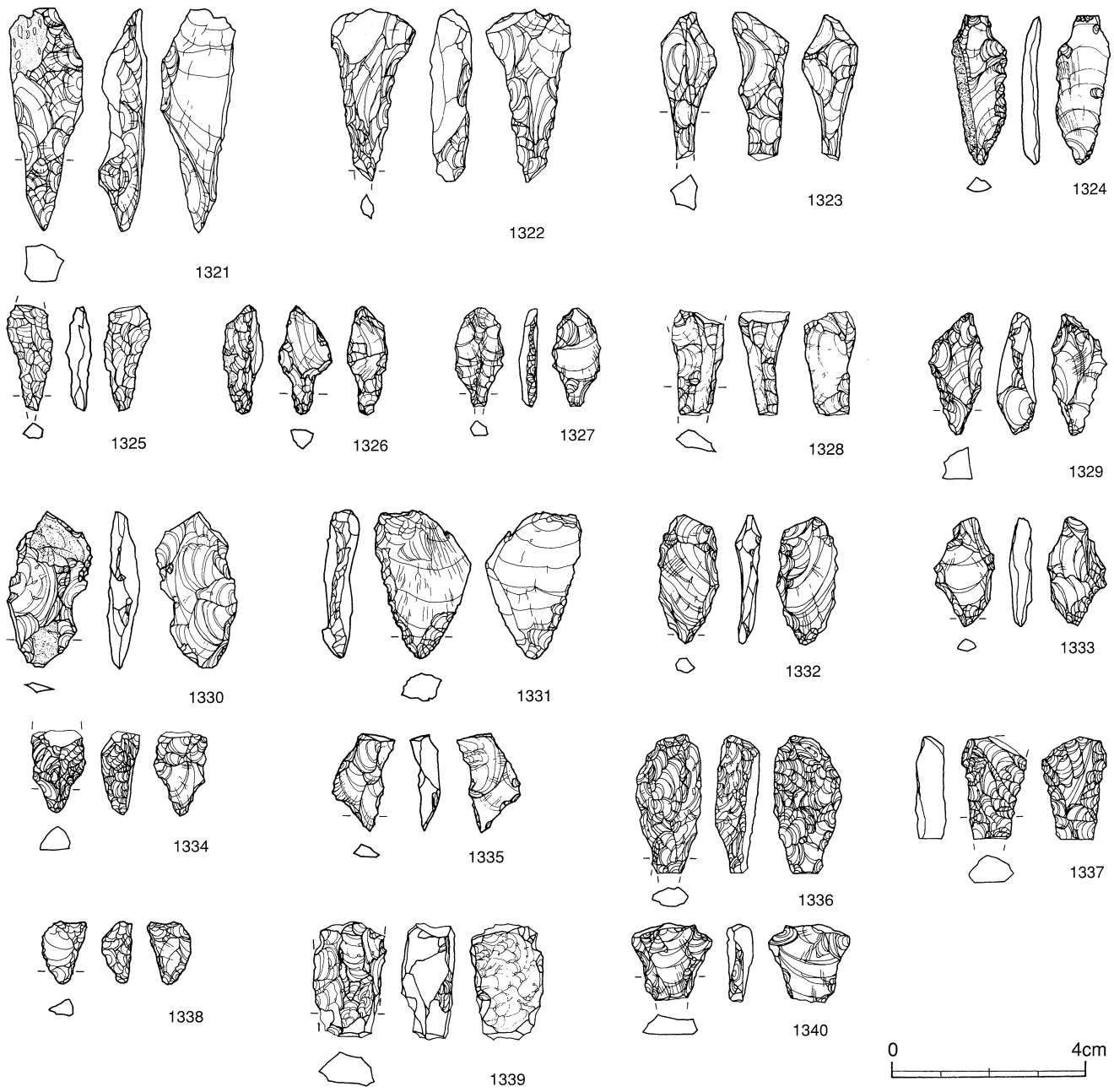
した柄があって，はじめて使用された石錐だと考えられる。1313～1340 はつまみ部と錐部の境がはっきりしないものであり，柄が使われていた可能性も高い。

⑤ピエス・エスキーユ（第 222・223 図　1341～1387）

ピエス・エスキーユは楔形石器と呼ばれ，木や骨などの対象物を割る時に用いる道具と考えられている。対象物に楔形石器を当て，ハンマーで上から叩くことによって割るので，上部には上からの力が加わり，下端には下からの力が加わる。このような両極打法に類似する作用によって，上下両端からの剥離が観察され，断面形はレンズ状となる。上下端はそれぞれ直線状の刃部となっている。指で摘めないほど小さなものもあるので，対象物に溝を彫って割ろうとする方向と平行



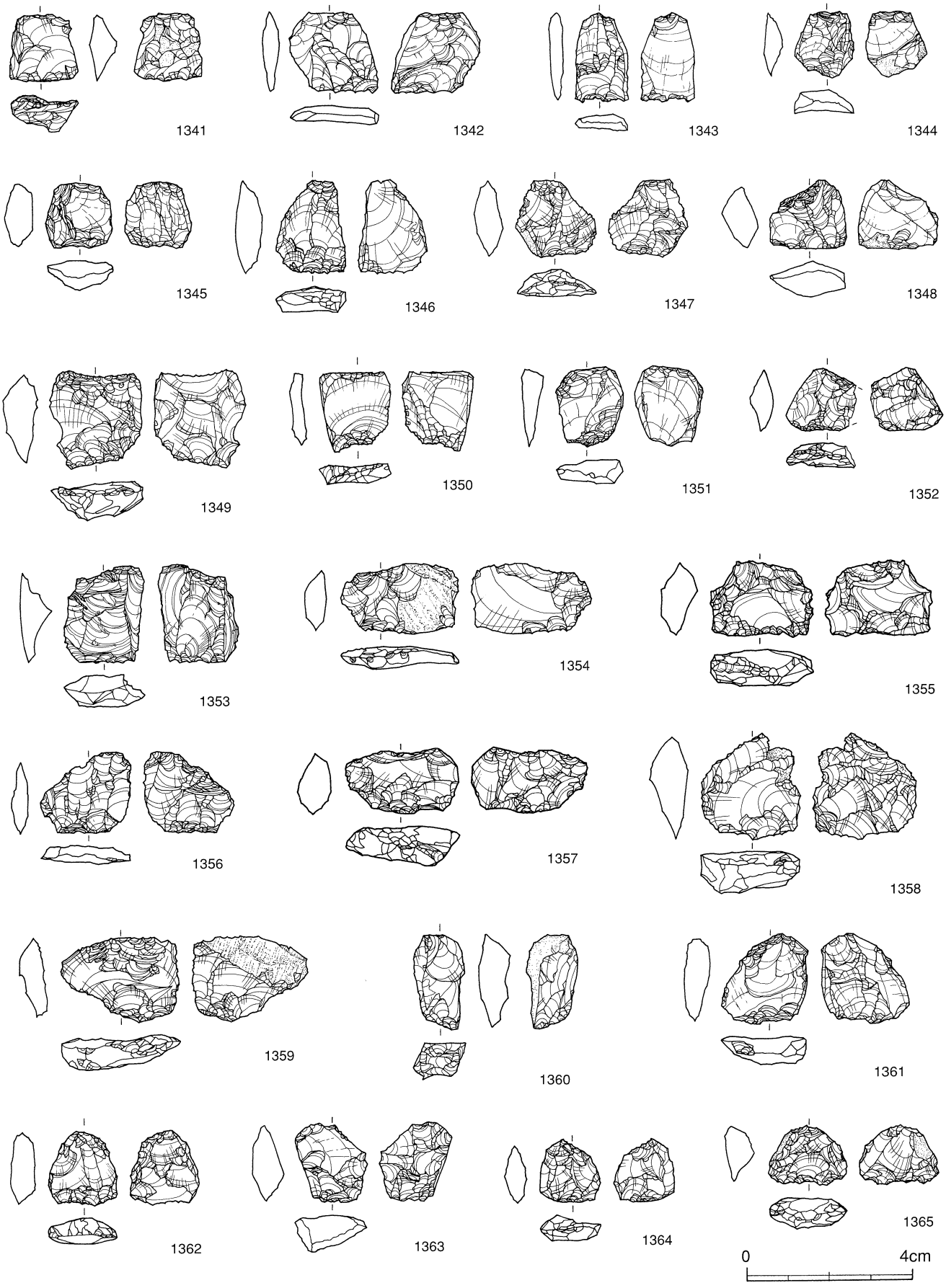
第220図　出土遺物　石器(31)　石錐



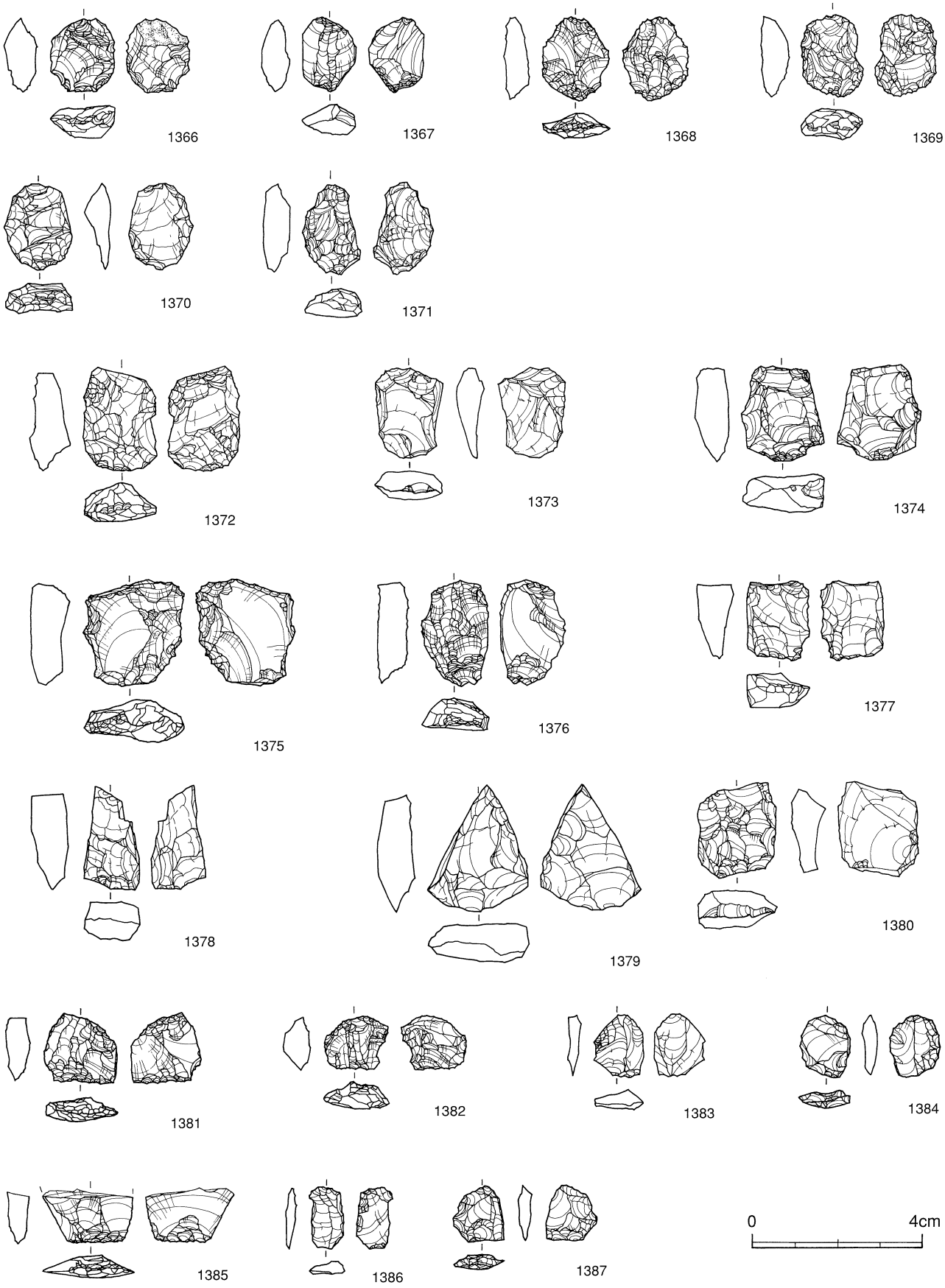
第221図　出土遺物　石器（32）石錐

表36　石器観察表14

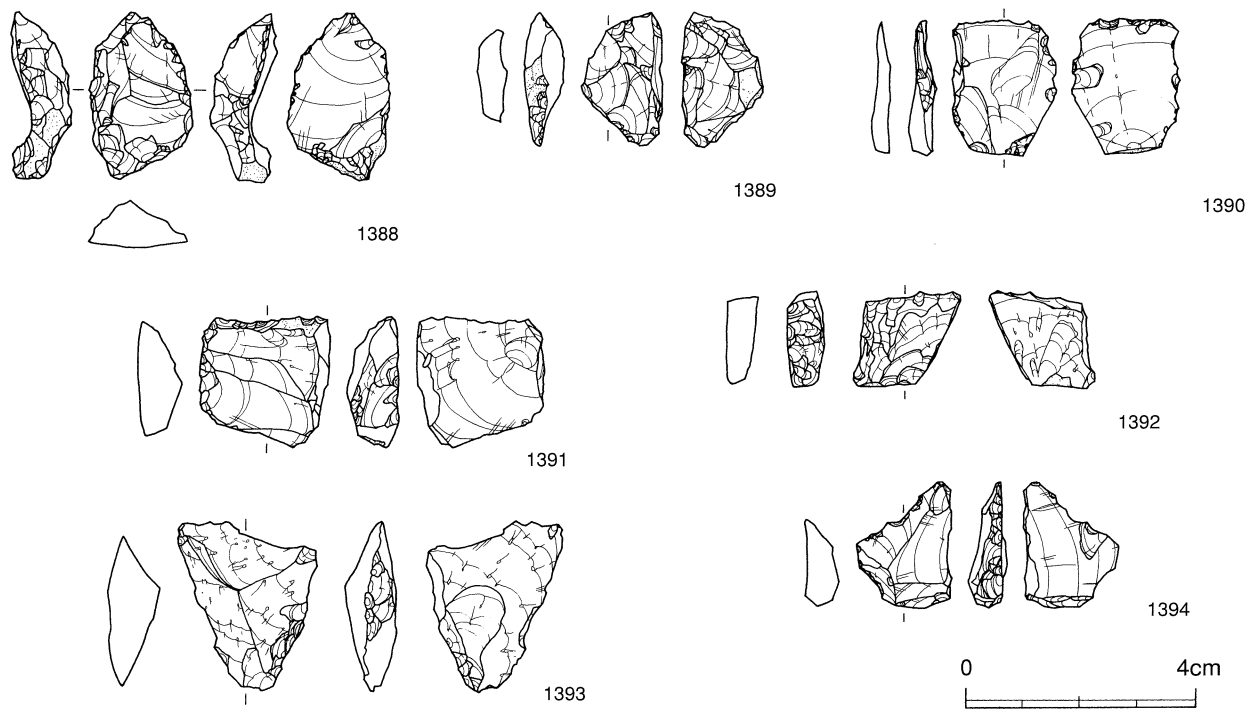
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第221図	1334				石錐		黒曜石（腰岳系）	17.40	11.20	7.50	1.20	—		—
	1335				石錐		黒曜石（腰岳系）	19.90	10.40	5.50	0.71	—		—
	1336	D-12		Ⅲ	石錐		黒曜石（日東系）	20.10	10.90	8.60	3.39	265	8.14	—
	1337	C-23			石錐		黒曜石（腰岳系）	21.60	13.50	6.60	2.01	—		—
	1338	C-14			石錐		チャート	13.20	7.40	5.80	0.58	—		—
	1339	C-2		Ⅱ	石錐		黒曜石（腰岳系）	24.50	15.30	11.80	4.54	ミ370	7.742	—
	1340	D-13		Ⅱ	石錐		黒曜石（腰岳系）	16.30	16.40	6.00	1.40	685	8.41	—
第222図	1341	C-22			ピエスエスキーユ	1類	黒曜石（腰岳系）				8.30	—		42
	1342	B-24			ピエスエスキーユ	1類	黒曜石（腰岳系）				9.10	—		42
	1343				ピエスエスキーユ	1類	黒曜石（腰岳系）				2.90	—		42
	1344	D-15		Ⅲ	ピエスエスキーユ	1類	チャート				5.20	5224	7.915	42
	1345				ピエスエスキーユ	1類	黒曜石（腰岳系）				7.00	—		42



第222図　出土遺物　石器（33）ピエス・エスキーユ



第223図　出土遺物　石器（34）ピエス・エスキーユ



第224図　出土遺物　石器（35）刃潰しのある石器

に楔形石器を置いたと推察される。

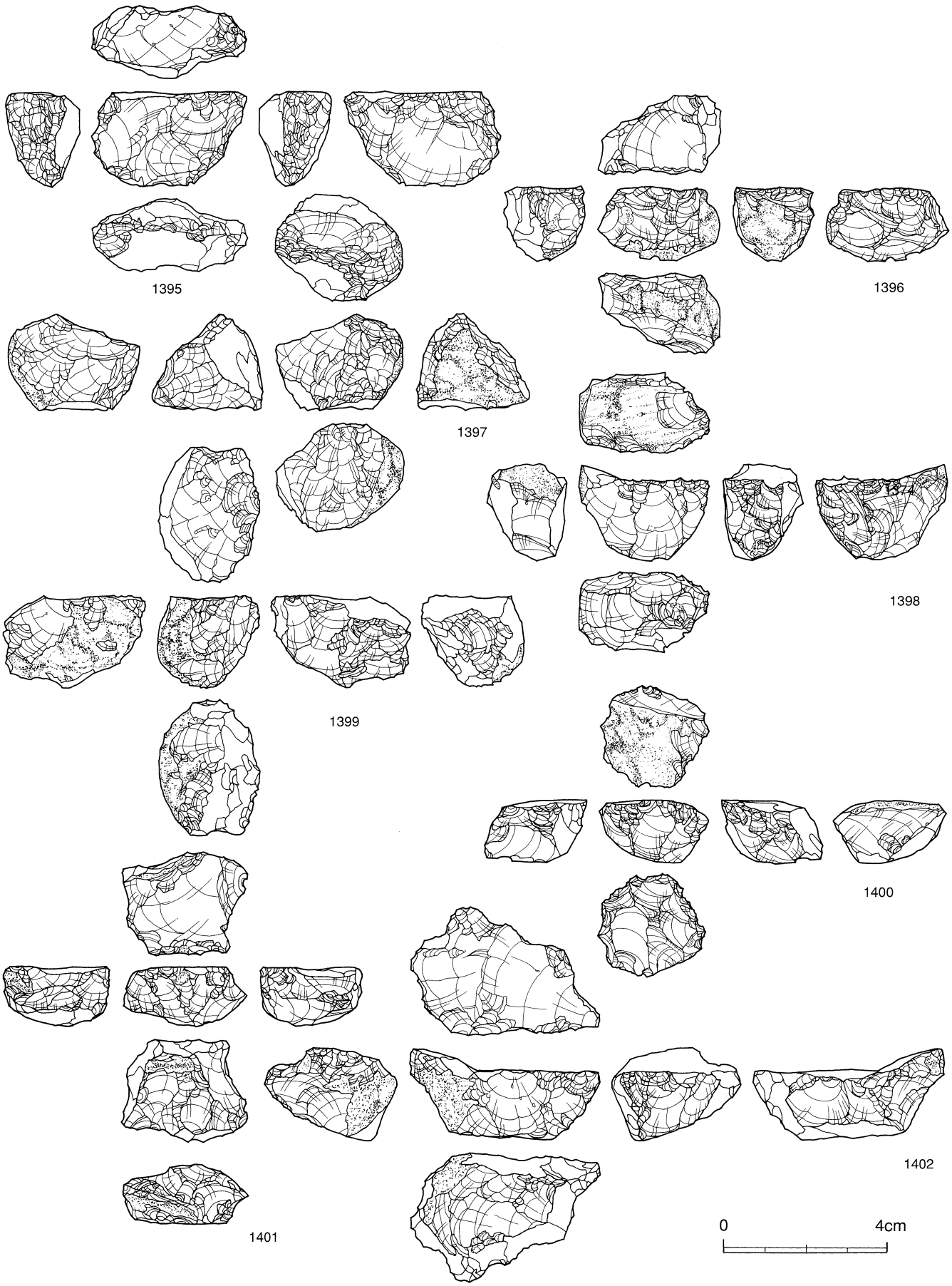
大坪遺跡出土の楔形石器は，次の６類に分類できそうである。１類（1341～1353）は，断面レンズ状でほぼ正方形の平面形をなし，上下直線状の刃部をもつもので，通常認識される一般的な形態である。２類（1354～1358）は，断面形と刃部は１類と同様であるが，平面形が横長で長方形を呈する。刃部の長さが広く，使用度の低い最初の形態と考えられる。３類（1359～1365）は，断面レンズ形というのは同じであるが，刃部の一方は直線状でもう一方は失っており，平面形は三角形となる。使用度は高いと考えられる。４類（1366～1371）は断面レンズ形で両端が尖り，平面形は菱形をなす。使用頻度が極めて高いのか，あるいは対象物の違いによるものかもしれない。５類（1372～1380）は，断面が楔形で両端とも直線状の刃部となるものであり，最初の形態の可能性がある。６類（1381～1387）としたものは，使用中に破砕したものであると考えられる。

⑥刃潰しのある石器（第 224 図　1388～1394）

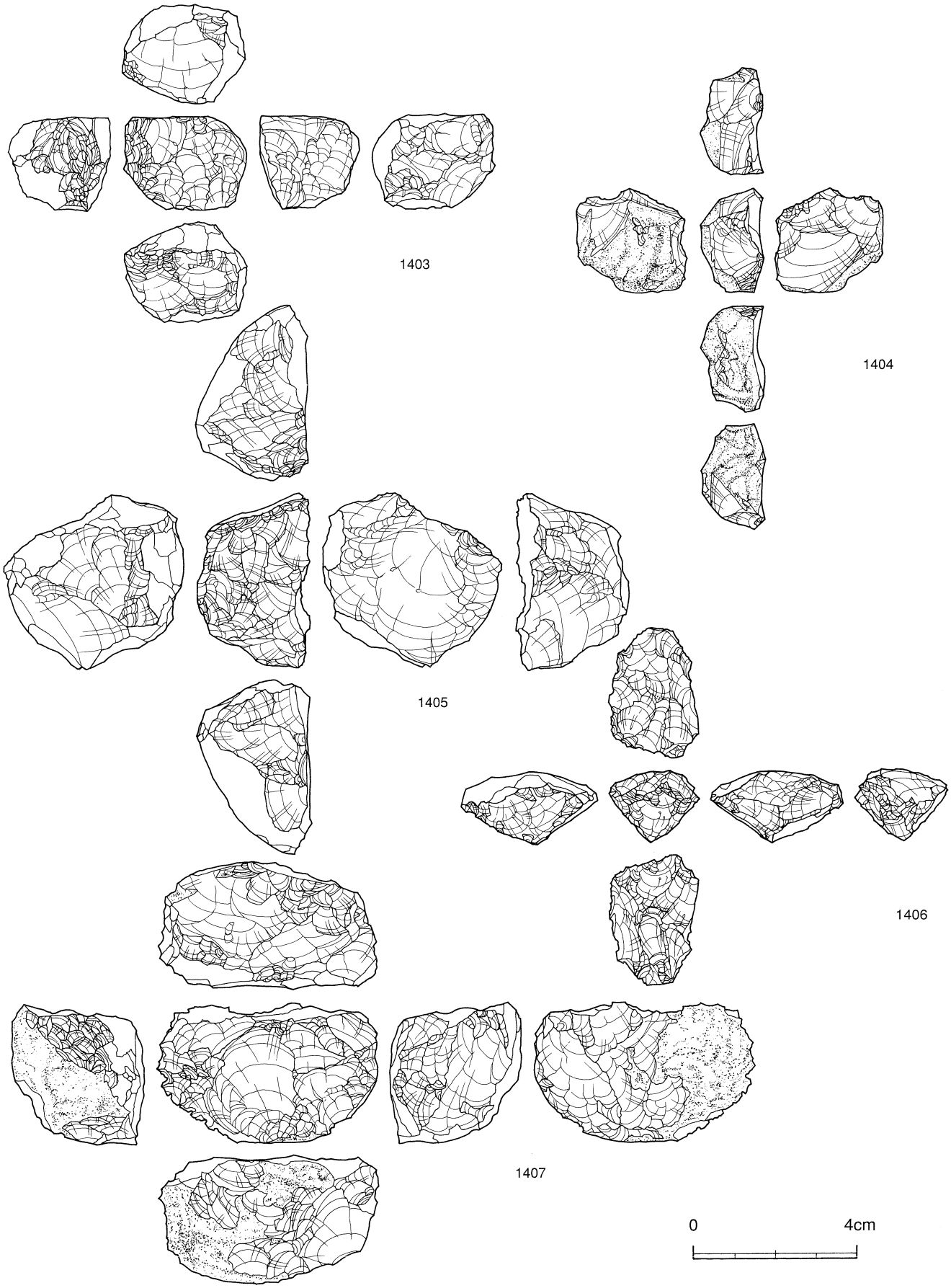
ブランティングと呼ばれる刃潰しが縁辺の一部に観察される石器である。大きさや厚さはそれほど差はないが，平面形はそれぞれ異なっている。旧石器時代のナイフ形石器や台形石器に施されるブランティングに極めて類似している。

⑦石核（第 225～227 図　1395～1415）

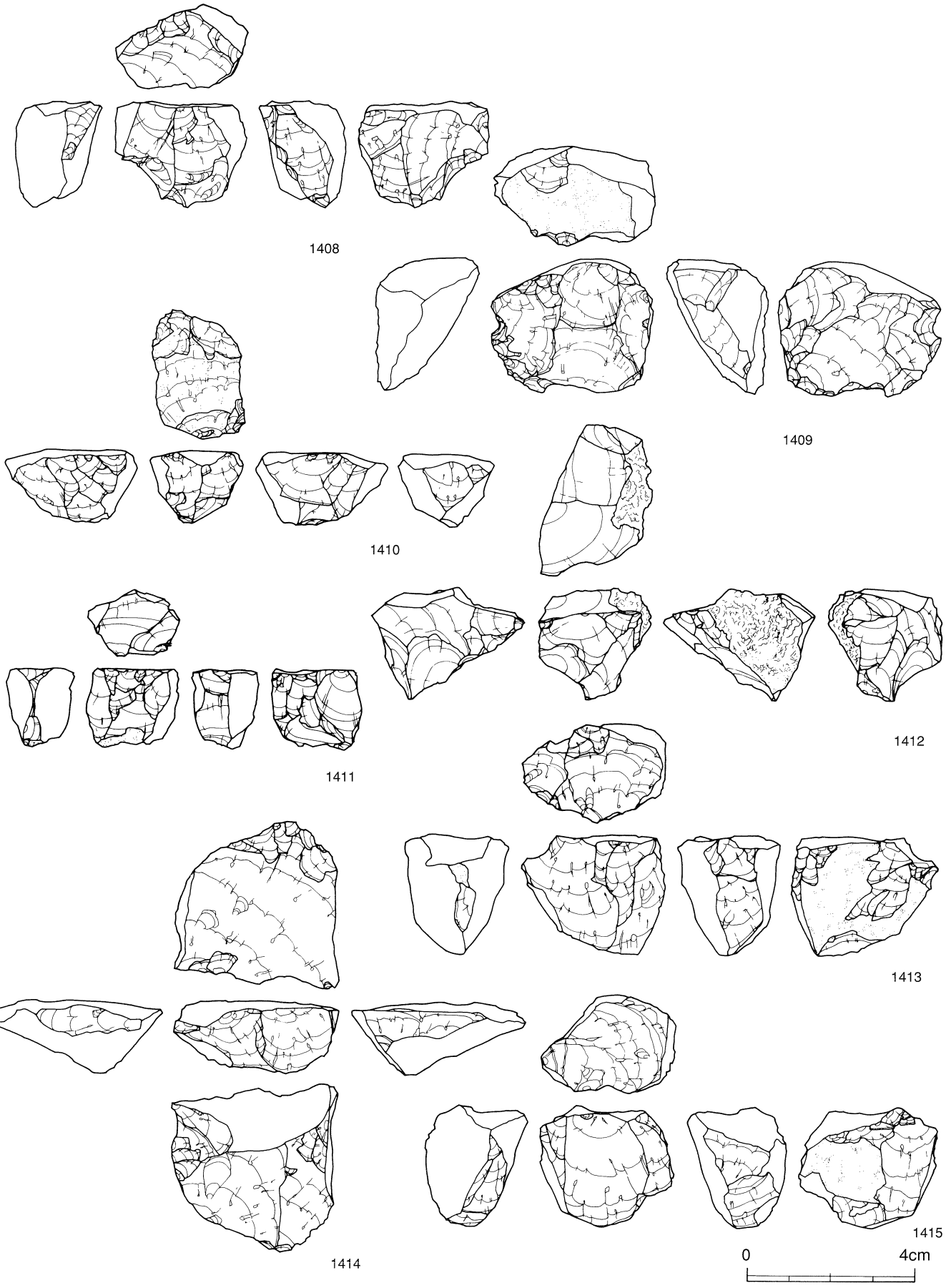
石核は原石から目的とする剥片を剥ぎとった後の残りであり，剥片の大きさや剥ぎとった順序がわかる。大坪遺跡出土の石核は次の５類に分類できる。１類（1395～1398）は小礫を素材とするもので，分割により平坦な打面を形成した後，同一打面から表と裏の２面を剥いだものである。２類（1399・1400）は小礫を素材とし，分割により平坦な打面を形成するのは１類と同様であるが，同一打面から１面のみ剥ぐものである。３類（1401・1402）は剥片を素材とするものであり，平坦な主要剥離面を打面とし，両側面から剥ぐものである。４類（1403～1405）は小礫を素材としたもので，前の作業面を打面とする打面転移がみられるものである。５類（1406・1407）としたものは礫を素材とし，周辺から中心に向かって剥ぐ求心的な石核と呼ばれるものである。1408～1415 は大型の厚みのある剥片を分割したものを素材とし，広い平坦面を打面にして剥片を取っているものである。



第225図　出土遺物　石器（36）石核



第226図　出土遺物　石器（37）石核



第227図　出土遺物　石器（38）石核

表37　石器観察表15

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第222図	1346				ピエスエスキーユ	1類	黒曜石(日東系)				6.40	—		42
	1347	C-14			ピエスエスキーユ	1類	黒曜石(腰岳系)				6.60	—		42
	1348	A-22			ピエスエスキーユ	1類	黒曜石(腰岳系)				8.40	—		42
	1349				ピエスエスキーユ	1類	黒曜石(腰岳系)				8.60	—		42
	1350				ピエスエスキーユ	1類	黒曜石(腰岳系)				4.40	—		42
	1351	C-14			ピエスエスキーユ	1類	黒曜石(腰岳系)				6.00	—		42
	1352				ピエスエスキーユ	1類	黒曜石(腰岳系)				5.80	ミイリキ		42
	1353	D-18		Ⅲ	ピエスエスキーユ	1類	黒曜石(腰岳系)				7.00	7073	8.295	42
	1354	C-23			ピエスエスキーユ	2類	黒曜石(腰岳系)				5.30	—		42
	1355				ピエスエスキーユ	2類	黒曜石(腰岳系)				8.60	—		42
	1356	D-21		Ⅲ	ピエスエスキーユ	2類	黒曜石(腰岳系)				4.60	10008	8.49	42
	1357	B-21			ピエスエスキーユ	2類	黒曜石(腰岳系)				9.50	—		42
	1358	C-22			ピエスエスキーユ	2類	黒曜石(日東系)				9.90	—		42
	1359	B-21			ピエスエスキーユ	3類	黒曜石(腰岳系)				6.80	—		42
	1360	B-22			ピエスエスキーユ	3類	黒曜石(腰岳系)				9.20	—		42
	1361				ピエスエスキーユ	3類	黒曜石(腰岳系)				7.00	—		42
	1362	A-31			ピエスエスキーユ	3類	黒曜石(腰岳系)				6.40	—		42
	1363	C-23			ピエスエスキーユ	3類	黒曜石(腰岳系)				8.90	—		42
	1364				ピエスエスキーユ	3類	黒曜石(腰岳系)				6.20	—		42
	1365	B-2		Ⅲ	ピエスエスキーユ	3類	黒曜石(腰岳系)				7.80	ミ887	7.667	42
第223図	1366	C-23			ピエスエスキーユ	4類	黒曜石(腰岳系)				7.20	—		42
	1367	B-23			ピエスエスキーユ	4類	黒曜石(腰岳系)				7.40	—		42
	1368	D-23			ピエスエスキーユ	4類	黒曜石(腰岳系)				5.70	—		42
	1369				ピエスエスキーユ	4類	黒曜石(腰岳系)				7.00	—		42
	1370	C-16		Ⅱb	ピエスエスキーユ	4類	チャート				9.30	8299	8.327	42
	1371				ピエスエスキーユ	4類	黒曜石(腰岳系)				7.00	—		42
	1372	C-15		Ⅲ	ピエスエスキーユ	5類	チャート				9.10	8227	7.945	42
	1373				ピエスエスキーユ	5類	チャート				6.90	—		42
	1374				ピエスエスキーユ	5類	黒曜石(腰岳系)				9.00	—		42
	1375	C-16			ピエスエスキーユ	5類	黒曜石(腰岳系)				9.60	—		42
	1376				ピエスエスキーユ	5類	黒曜石(腰岳系)				7.20	—		42
	1377	D-16		Ⅲ	ピエスエスキーユ	5類	安山岩(サヌカイト)				8.10	1434	8.34	42
	1378	B-24			ピエスエスキーユ	5類	チャート				4.30	—		42
	1379	C-17		Ⅱb	ピエスエスキーユ	5類	安山岩(サヌカイト)				9.40	8794	7.28	42
	1380	C-17		Ⅱb	ピエスエスキーユ	5類	黒曜石(腰岳系)				9.10	8584	7.225	42
	1381	B-22			ピエスエスキーユ	6類	黒曜石(腰岳系)				5.40	—		42
	1382				ピエスエスキーユ	6類	黒曜石(腰岳系)				6.40	—		42
	1383	D-24			ピエスエスキーユ	6類	黒曜石(腰岳系)				4.60	—		42
	1384	C-2			ピエスエスキーユ	6類	黒曜石(腰岳系)				3.80	—		42
	1385				ピエスエスキーユ	6類	黒曜石(腰岳系)				5.20	—		42
	1386	D-22			ピエスエスキーユ	6類	黒曜石(腰岳系)				2.90	—		42
	1387	D-18			ピエスエスキーユ	6類	黒曜石(腰岳系)				3.60	—		42
第224図	1388	C-22			刃潰し			30.0	18.1	7.8	3.86	—		－
	1389	D-23			刃潰し			23.8	14.1	5.8	1.88	—		－
	1390	B-20	SD44		刃潰し			24.2	18.3	3.8	1.65	—		－
	1391	D-22			刃潰し			23.0	22.4	8.2	4.90	—		－
	1392	B-32			刃潰し			19.1	17.4	6.6	2.27	—		－
	1393	C-24		Ⅲ	刃潰し			32.2	21.4	8.7	4.38	—		－
	1394	C-22	SD43		刃潰し			23.0	17.6	5.9	1.67	—		－
第225図	1395	C-16		Ⅲ	石核	1類	黒曜石(日東系)	25.70	31.90	23.25	17.77	2048		43
	1396	D-21		Ⅲ	石核	1類	黒曜石(腰岳系)	20.75	31.20	18.00	11.81	10017	8.51	43
	1397	B-21			石核	1類	黒曜石(日東系)	24.10	36.40	14.40	14.78	—		43
	1398	C-15		Ⅲ	石核	1類	黒曜石(腰岳系)	24.75	32.05	19.95	13.53	1781	8.215	43
	1399				石核	2類	黒曜石(日東系)	22.55	24.25	22.95	19.31	ミイリキ		43
	1400	D-23		Ⅲ	石核	2類	黒曜石(腰岳系)	16.35	27.70	14.20	8.78	10651	8.76	43
	1401	B-22			石核	3類	黒曜石(日東系)	14.20	30.25	14.25	12.11	—		43
	1402	D-17		Ⅲ	石核	3類	黒曜石(日東系)	22.50	46.90	29.00	23.67	3371	8.4	43
第226図	1403	C-22			石核	4類	黒曜石(日東系)	23.90	29.55	23.35	18.62	—		43
	1404	A-22			石核	4類	黒曜石(腰岳系)	15.60	25.30	25.95	10.97	—		43
	1405	D-12		Ⅲ	石核	4類	黒曜石(日東系)	43.65	27.40	38.85	41.37	153	8.105	43
	1406				石核	5類	黒曜石(腰岳系)	18.12	22.00	31.60	9.44	—		43
	1407	D-23		Ⅲ	石核	5類	黒曜石(日東系)	53.85	35.90	31.95	60.48	10649	8.85	43
第227図	1408	B-22			石核						14.51	—		－
	1409	C-23		Ⅲ	石核						28.86	12639	8.985	－
	1410	D-22	SD43		石核						13.60	—		－
	1411	A-32		Ⅲ	石核						7.98	16973	9.56	－
	1412	C-17		Ⅲ	石核						18.89	8336	8.205	－
	1413	A-22		Ⅲ	石核						24.36	15298	8.875	－
	1414	B-22		Ⅲ	石核						26.74	15023	8.54	－
	1415	B-32			石核						20.26	—		－

⑧磨製石斧（第 228～234 図　1416～1476）

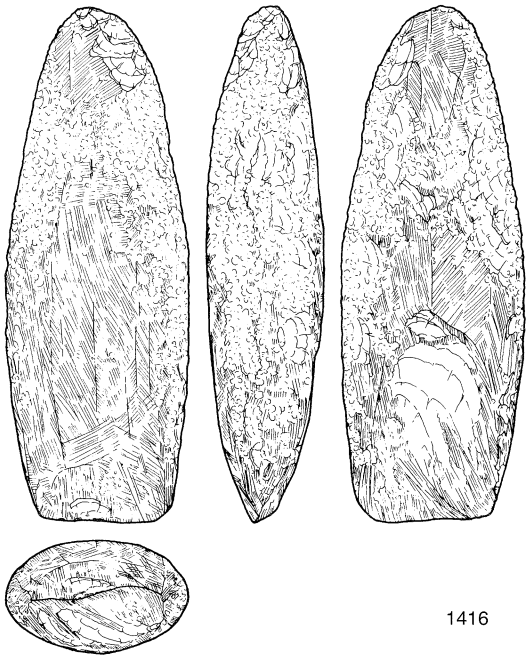
磨製石斧は木を切り倒したり，木材に加工したりする道具であるが，時には動物を料理する時，骨を断ち割るのにも使われたと考えられる。肉厚で重量があり，刃部が蛤の形をするタイプ（1類 1416～1458）は伐採や粗加工に使われたと考えられる。厚さが薄手で，幅広のタイプ（2類 1459～1467）は，伐採に使うには華奢なので，切り出してきた木の加工に使われたと考えられる。細長いタイプ（3類 1468～1476）は，刃部は片刃であり，鑿形石器と呼ばれ，木材の細加工に使われたものであると考えられる。

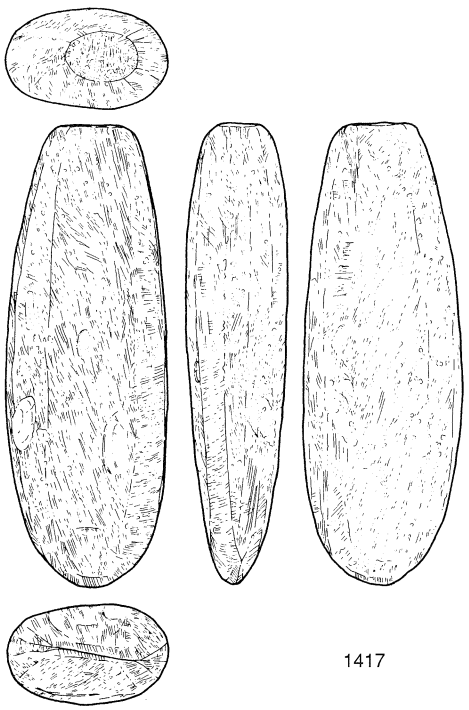
これらは単独で使用されたのではなく，木製の柄がついて初めて使える道具になったと考えられる。1類は刃部が柄と平行する直柄がつく縦斧である。一昔前の鉄製の斧（ヨキ）と材質が違うばかりで，使用法も似ている。ただし，実験結果によると，鉄製の斧がやや上から下へ振り下ろす感じで木を切るのに対し，磨製石斧はほぼ水平に打ち込んで繊維を切るようにして使うそうである。民具資料との比較から，刃部の使用頻度が高くて擦り減っている方が人間から遠い側になるようである。福岡県久留米市正徳寺遺跡の柄が付いたまま出土した磨製石斧は，先端の方が欠けており，このことが確かめられた。3類は片刃であることから，膝柄あるいは屈曲することなくまっすぐ伸びる短い柄が付けられていたと考えられる。より細かな細工をするには，対象物に直接刃を置き，力の強弱を考えながら木槌で柄の頭を叩いた方が良いと推察されるので，まっすぐな柄が付いていた可能性が高い。問題は2類の柄であるが，直柄及び膝柄両方とも使える形態であり，どちらとも言えない。直柄であった場合は，角材や板材をとり出す斧に対比できるし，膝柄の場合は手斧（チョウナ）のような使い方が考えられる。石製土掘具に転用したと考えられる 1692 も元々は2類の磨製石斧だったと考えられる。

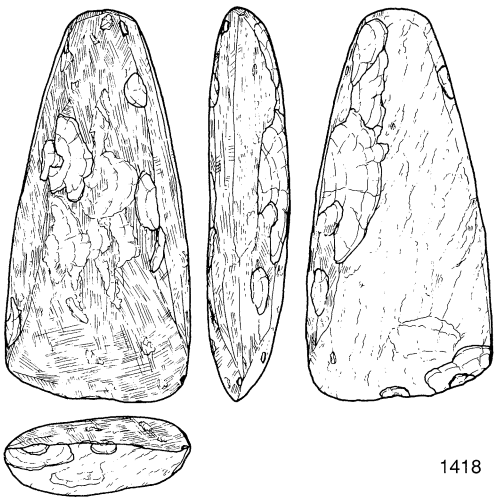
本遺跡出土の石斧の石材は，砂岩・頁岩及びそれらが被熱してホルンフェルス化したものがあり，加えて蛇紋岩もみられる。それぞれの石材産地の追究が課題である。

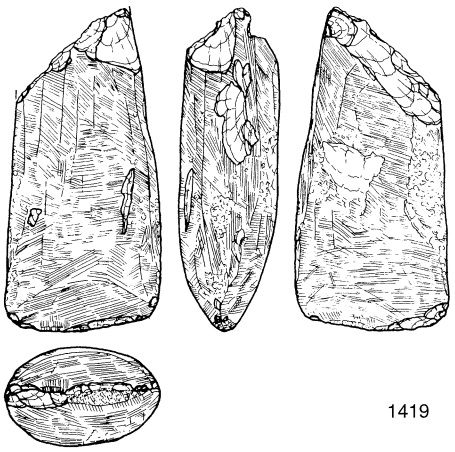
表38　石器観察表16

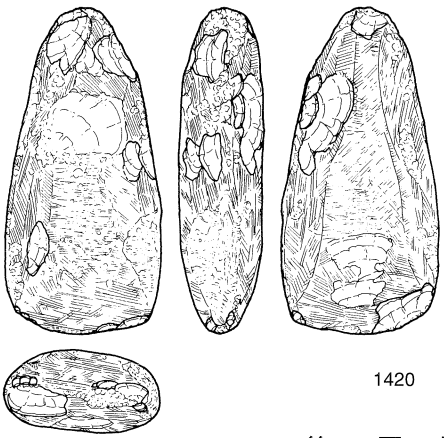
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第228図	1416	A-34		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	17.12	5.96	3.61	538.00	16531	9.46	－
	1417	C-16		Ⅲ	磨製石斧	1類	安山岩	15.30	5.22	3.33	415.00	—		44
	1418	C-23		Ⅲ	磨製石斧	1類	蛇紋岩	12.94	6.02	2.27	264.00	13024		44
	1419	B-22		Ⅳ	磨製石斧	1類	砂岩	10.34	4.99	3.09	240.00	14831	8.56	44
	1420	D-1		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	10.77	5.04	2.66	224.00	1387	8.095	44
	1421				磨製石斧	1類	砂岩	10.43	4.68	2.94	210.00	—		44
第229図	1422	D-18		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	7.70	7.17	2.81	235.00	6947	8.305	－
	1423	C-17		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	8.22	6.16	2.66	218.00	8596	7.11	－
	1424	D-20		Ⅱb	磨製石斧	1類	砂岩	10.34	6.34	3.77	410.00	4215	8.6	44
	1425	D-17		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	7.79	6.33	3.22	261.00	6806	8.185	－
	1426	C-17		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	5.70	5.84	2.11	110.00	—		－
	1427	C-16		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	6.20	4.98	3.10	150.00	7870	8.3	－
	1428	B-24		Ⅱ	磨製石斧	1類	頁岩	7.07	4.77	2.41	122.00	14569	8.96	－
	1429	D-20		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	5.50	3.85	2.91	48.00	4239	8.56	－
	1430	D-24	SX		磨製石斧	1類	砂岩	6.90	3.19	2.72	80.00	11592	8.325	－
	1431	B-14			磨製石斧	1類	頁岩	3.81	1.70	1.12	10.00	—		－
第230図	1432	D-12		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	13.88	5.61	3.02	332.00	150	7.652	44
	1433	C-23SJ			磨製石斧	1類	蛇紋岩	15.70	61.00	4.05	545.00	—		44
	1434	C-17		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	17.38	7.00	4.00	775.00	8059	8.345	－
	1435	B-22		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	11.66	5.86	3.51	328.00	13483	8.76	－
	1436	D-4		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	8.01	4.91	3.50	195.00	1092	7.477	－
	1437	B-22	SD43		磨製石斧	1類	砂岩	10.08	4.81	2.92	200.00	13051	8.62	－
第231図	1438	D-02			磨製石斧	1類	砂岩	13.17	4.07	2.17	166.00	—		－
	1439	B-22		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	12.39	6.79	2.78	334.00	15197	8.81	－
	1440	C-24			磨製石斧	1類	ホルンフェルス	4.86	5.05	2.44	85.00	—		－
	1441	B-22		Ⅲ	磨製石斧	1類	蛇紋岩	12.97	6.05	3.26	385.00	13332	8.79	－
	1442	C-01		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	10.50	52.00	2.70	220.00	8	7.6	－
	1443	C-24		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	8.46	5.17	3.16	176.00	11766	8.965	－
	1444	C-19		Ⅱ	磨製石斧	1類	砂岩	12.31	4.84	3.59	298.00	7455	8.51	－
第232図	1445	B-23		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	11.24	5.88	2.98	330.00	15474	8.795	－
	1446	B-24			磨製石斧	1類	砂岩	12.00	61.00	3.00	265.00	—		－
	1447	B-33		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	10.44	5.00	2.99	174.00	16164	9.49	－
	1448	D-15		Ⅱb	磨製石斧	1類	ホルンフェルス	9.70	5.42	2.75	220.00	5700	8.015	－
	1449				磨製石斧	1類	砂岩	12.49	5.13	3.02	336.00	—		－
	1450	C-18		Ⅱb	磨製石斧	1類	砂岩	6.20	5.16	2.80	140.00	8700	7.4	－
	1451	C-23		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	7.14	5.50	3.14	221.00	12871	8.935	－
	1452	D-15		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	6.45	2.50	1.60	25.00	1270	8.26	－
	1453	D-20		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	6.96	5.78	2.30	130.00	7511	8.33	－
	1454	D-17		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	5.86	5.40	1.77	111.00	6805	8.095	－
	1455	CD-17	SR26南		磨製石斧	1類	砂岩	6.20	4.15	2.80	120.00	—		－
第233図	1456	C-17		Ⅲ	磨製石斧	1類	頁岩	8.28	2.85	3.40	199.00	—		－
	1457	B-23		Ⅲ	磨製石斧	1類	砂岩	5.60	5.25	3.70	40.00	15966	8.73	－
	1458				磨製石斧	1類	ホルンフェルス	7.79	5.20	2.30	92.00	—		－

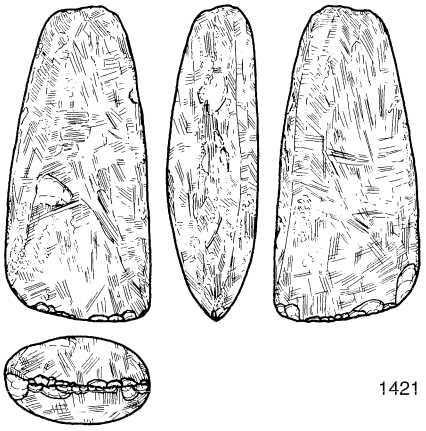






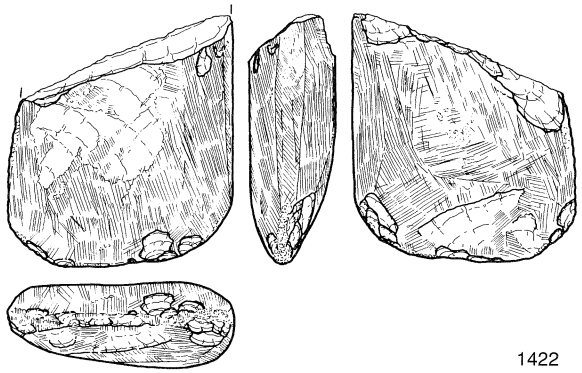


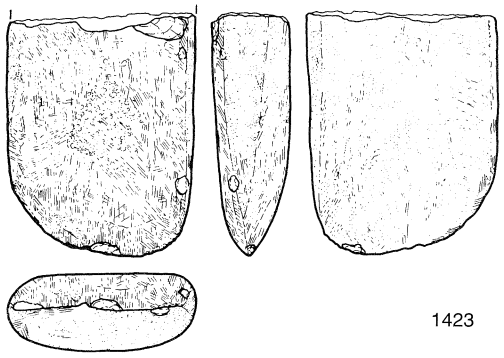


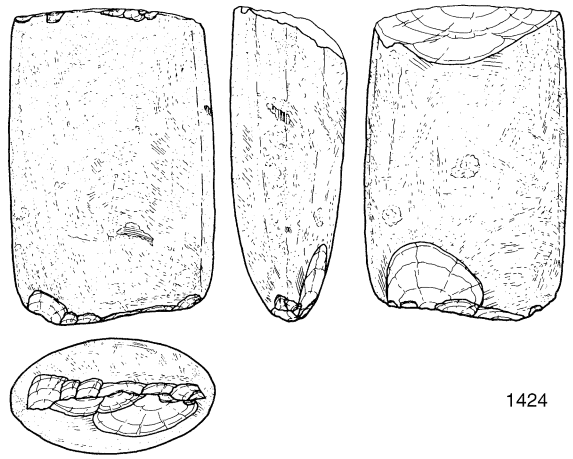


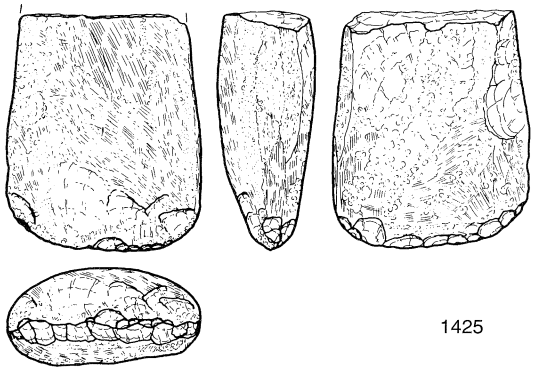
第228図　出土遺物　石器（39）磨製石斧

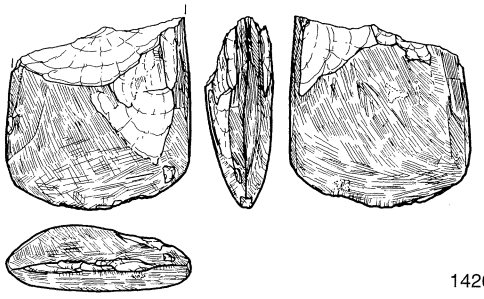
0　10cm

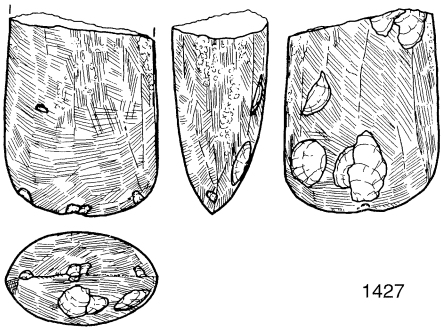


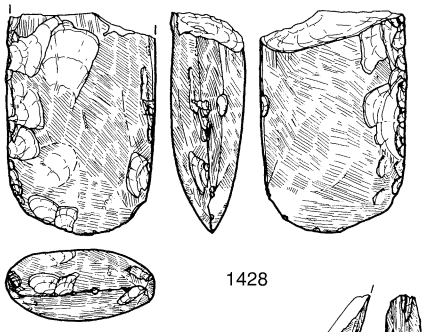


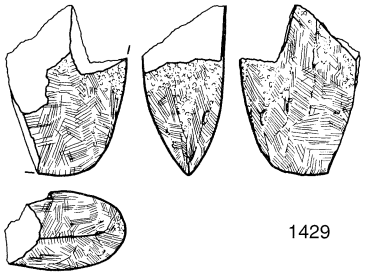


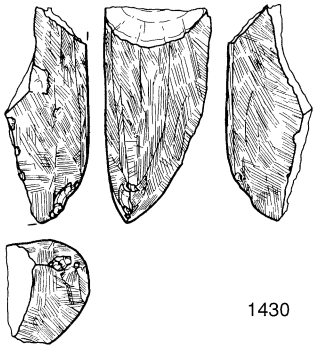


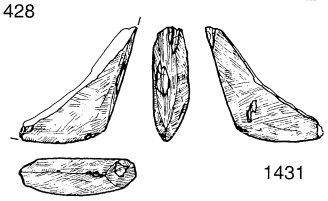




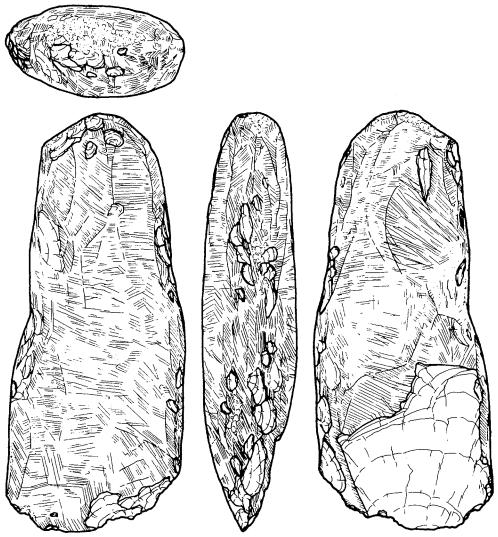




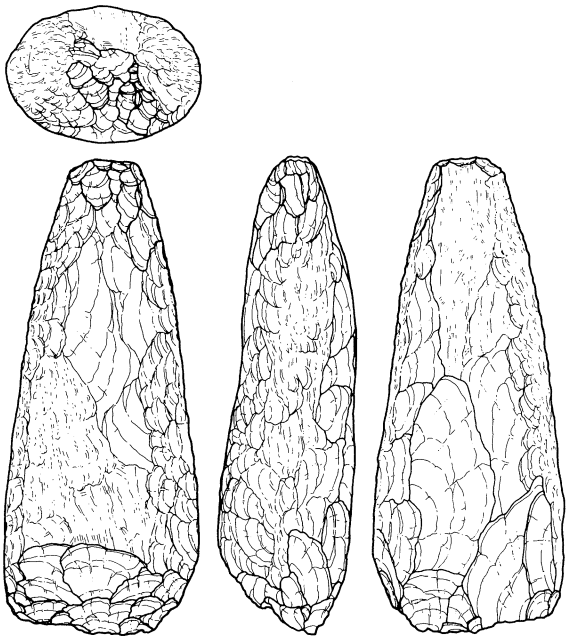




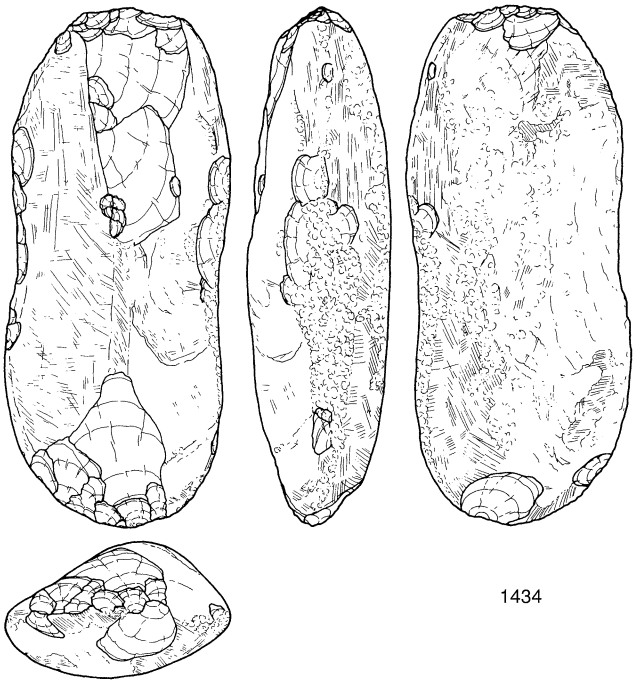
第229図　出土遺物　石器（40）磨製石斧



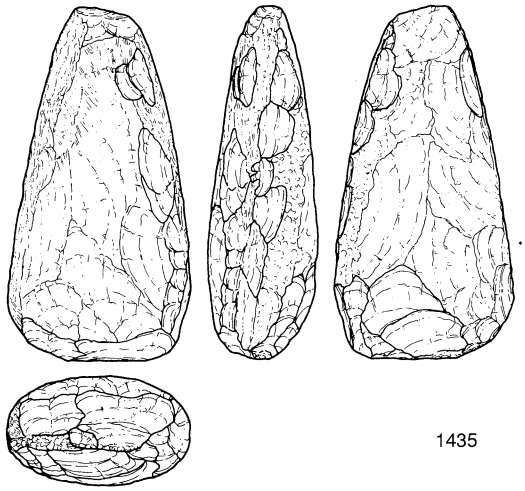
1432



1433

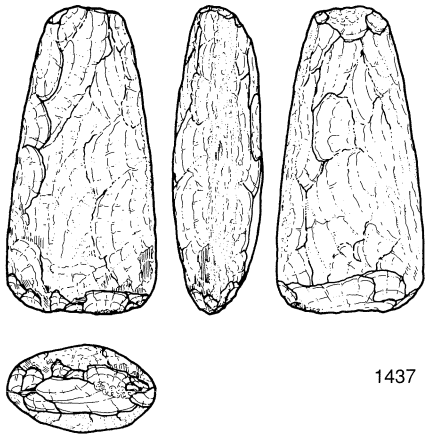


1434



1435

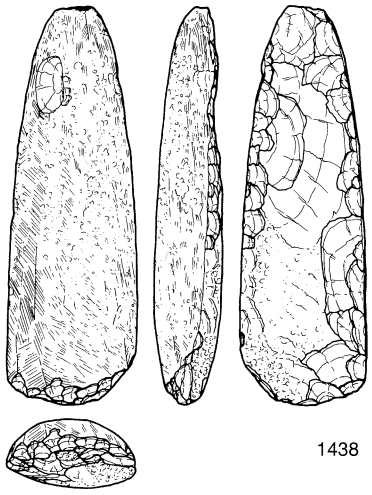
1436

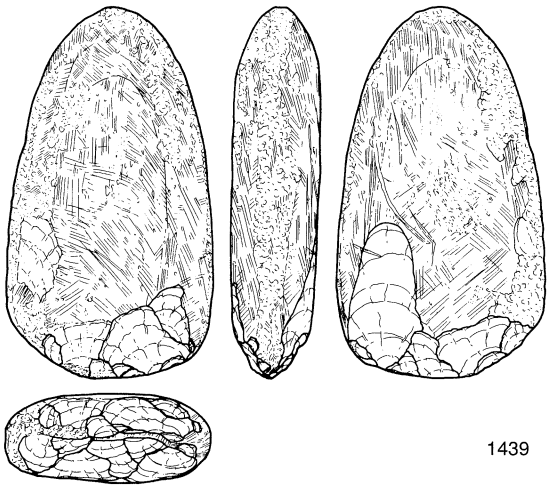


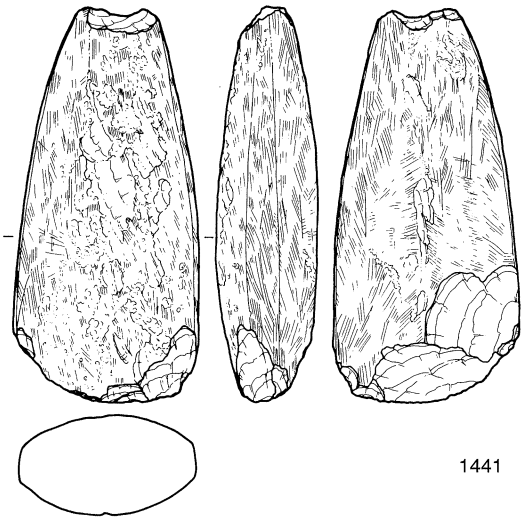
1437

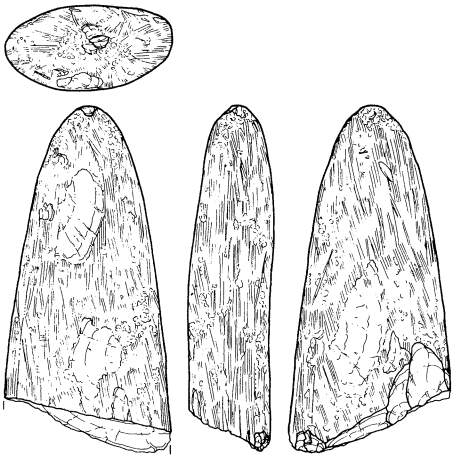
0 10cm

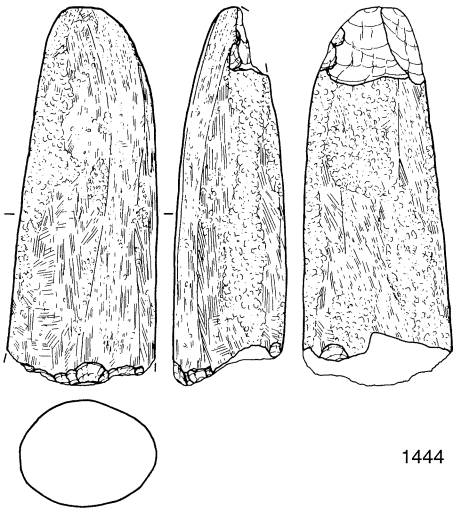
第230図　出土遺物　石器（41）磨製石斧

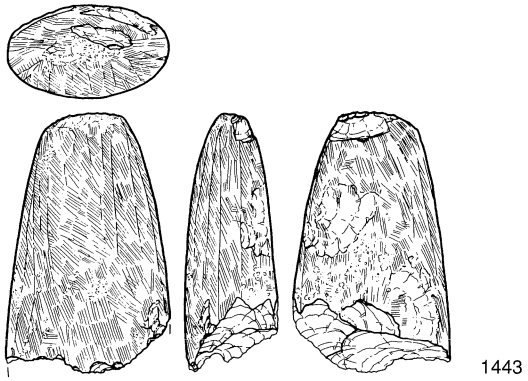




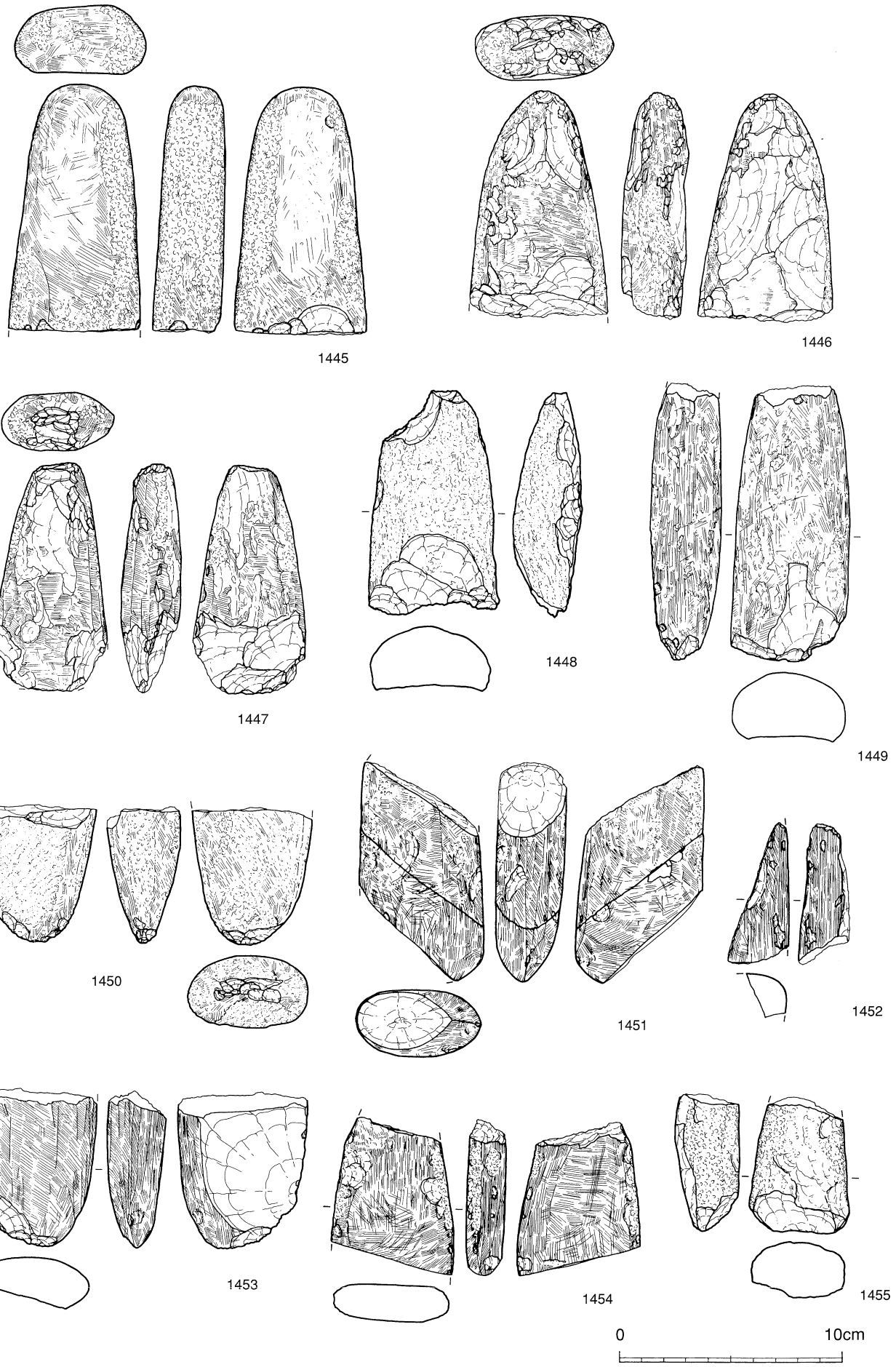




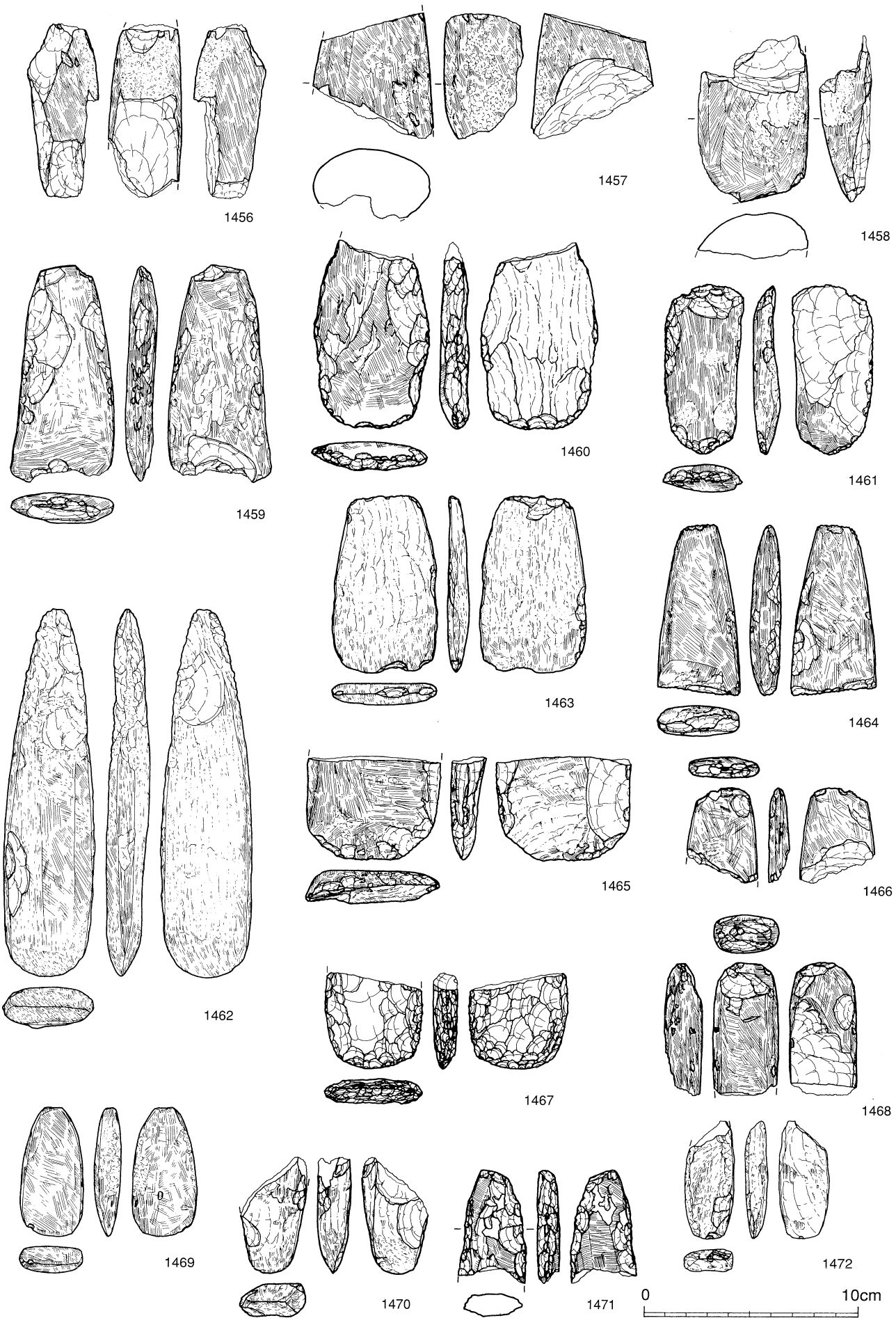




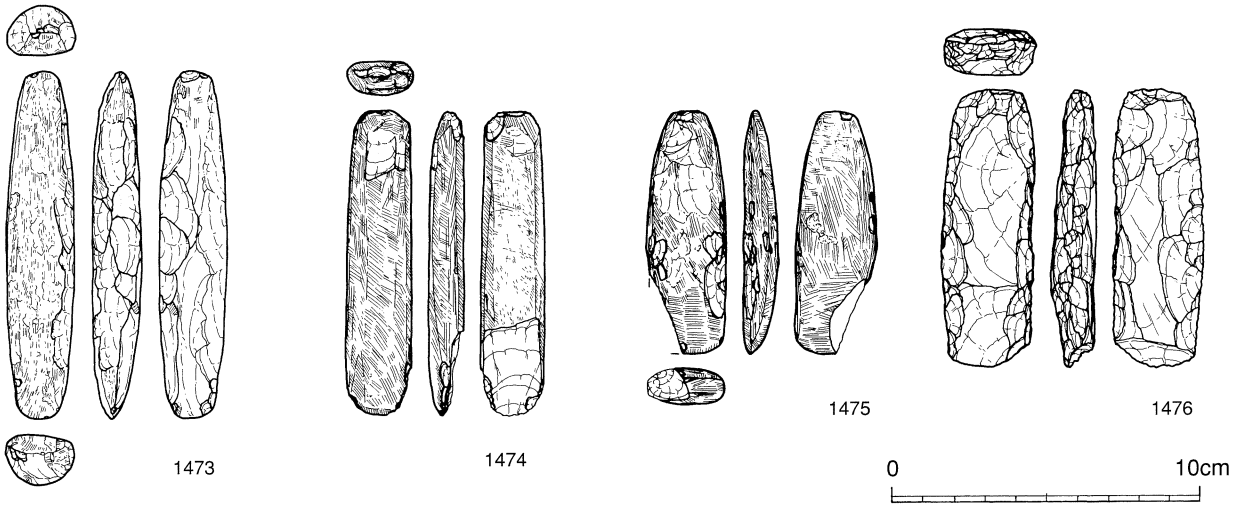
第231図　出土遺物　石器（42）磨製石斧



第232図　出土遺物　石器（43）磨製石斧



第233図　出土遺物　石器（44）磨製石斧



第234図　出土遺物　石器（45）磨製石斧

表39　石器観察表17

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第233図	1459	D-22		Ⅲ	磨製石斧	2類	頁岩	10.30	4.18	1.27	96.00	10261	8.525	−
	1460	D-24		Ⅳ	磨製石斧	2類	蛇紋岩	8.25	5.20	1.21	68.00	11581	8.53	−
	1461	C-17		Ⅲ	磨製石斧	2類	ホルンフェルス	7.90	3.29	1.12	41.00	7997	8.33	−
	1462	D-15		Ⅲ	磨製石斧	2類	蛇紋岩	17.57	42.00	1.52	65.00	5263	7.9	44
	1463	C-23		Ⅲ	磨製石斧	2類	蛇紋岩	8.20	4.60	0.72	48.00	12834	8.93	44
	1464	C-5		Ⅱ	磨製石斧	2類	蛇紋岩	8.10	3.78	1.46	70.00	345	7.682	−
	1465	C-02		Ⅲ	磨製石斧	2類	ホルンフェルス	4.90	6.17	1.63	65.00	28	7.495	−
	1466	C-15		Ⅲ	磨製石斧	2類	砂岩	3.95	3.21	1.00	20.00	9041	8.035	−
	1467	C-19		Ⅳ	石製土掘具	2類	砂岩	4.21	4.50	9.70	30.00	7609	8.535	−
	1468	D-15		Ⅲ	磨製石斧	3類	ホルンフェルス	6.25	3.11	1.80	45.00	5592	7.91	−
	1469	C-23		Ⅲ	磨製石斧	3類	蛇紋岩	6.08	2.93	1.20	36.00	12868	8.905	44
	1470	B-24		Ⅲ	磨製石斧	3類	ホルンフェルス	5.70	2.57	1.45	25.00	15918	8.905	−
	1471	B-22	SD43		磨製石斧	3類	頁岩	5.10	2.71	1.03	21.00	13469	8.745	−
	1472	D-12		Ⅱ	磨製石斧	3類	蛇紋岩	5.22	2.20	1.00	19.00	237	8.153	−
第234図	1473	C-17		Ⅲ	磨製石斧	3類	蛇紋岩	11.55	21.40	1.60	45.00	8062	8.265	44
	1474	C-5		Ⅲ	磨製石斧	3類	頁岩	10.03	1.97	1.16	40.00	945	7.602	44
	1475	CD-24	SX60		磨製石斧	3類	ホルンフェルス	8.19	2.59	1.11	34.00	−		−
	1476	CD-24	SX60		磨製石斧	3類	ホルンフェルス	9.21	2.98	1.41	50.70	−		−

⑨石製土掘具（第235～265図　1477～1692）

1　はじめに

総数216点の石製土掘具を図化した。石製土掘具の機能については，土掘具説と除草具説などがあり，研究者によって，石鍬・打製石斧・有肩石斧・打製土掘具などの名称で呼ばれている。本稿では柄に縛って土を掘る機能を想定しているので，「石製土掘具」の名称を使用する。まず，本遺跡から出土している石製土掘具の特徴について述べてみる。出土数は，本県において最も多く，石材は安山岩・頁岩などを多く用いている。製作にあたっては，扁平な板状の素材を剥出し，これに周縁部から簡単な粗い剥離加工を施している。特に基端近くの両側縁に対しては，細かな剥離や敲打によって形を整え，着柄を意識していることが窺える。石材が軟質なため表面の風化が著しく，剥離の切り合いや，自然面の観察が困難で，刃部・基部に残る使用痕は確認できない。刃部は使用による摩擦によって摩滅しているものや，刃部に加わった衝撃により欠損しているものが多い。また，半数以上の石製土掘具は，基部の途中から欠損している。このような特徴を鈴木忠司氏の文言を借りてまとめると「消耗率が高い作業に使用するために簡易な方法で多量に製作されている。」ということがいえる。平面形は，大きく3タイプに分類できる。平面形が長方形である短冊形（Ⅰ類1477～1604），基部から刃部に向かって幅が広がるバチ形（Ⅱ類　1605～1651），基部と刃部の堺に明瞭な肩をもつラケット形（Ⅲ類　1652～1691）である。以上の形態・製作技法は，これまでの研究論文や報告書の中で指摘されてきたことであり，本遺跡から出土している石製土掘具もこれまでに出土しているものと同様の特徴をもつ。

本遺跡で際立っている点は，短冊形とバチ形の数量がラケット形に対して圧倒的に多いことである。短冊形・バチ形・ラケット形の形態差は，機能差を反映していると思われ，その組成比は，当時の生業活動を解き明かす上で重要である。石製土掘具の法量差，機能差について検討した後に，大坪遺跡で暮らした人々が，石製土掘具でどのような作業をおこなったのかを考えてみたい。

2　土掘具の法量差について

これまでに石製土掘具の法量差については，主に長さを基準に論じられてきた。しかし，県内から出土している石製土掘具の刃部は，摩耗の進行状態に差があるだけでなく使用痕が新しい剥離によって切られているものも存在する。このことから，石製土掘具の長さは使用頻度と刃部の作り直しに大きく左右され，廃棄された時の平面形や大きさは個々でバラツキがあることが予想される。幅と長さは比例すると仮定すれば，法量差を知るためには変形の少ない基部幅を基準とした方がよいと考えた。また，石製土掘具が柄に装着された状態を考えると，柄の幅に合わせて石製土掘具の幅が規定されるのではないかと思われる。以上のことから，実測図は柄に接触したと想定される平坦な面を正面とし，レイアウトは原則的に基端から3㎝下の幅が広いものから並べた。表1の散布図を参考に短冊形・バチ形・ラケット形の法量差について考えてみたい。

Ⅰ類（1477～1604）

基部幅が４㎝～5.5 ㎝のＡグループと，６㎝～７㎝のＢグループに分かれる。各グループ内に含まれる石製土掘具は長さにバラツキがあり，長く使われ短くなったものと，短期間の内に廃棄されたものとが混在している状況が窺える。両グループの石製土掘具の長さは10㎝～15㎝の間にほとんどが納まる。長さは同じで，幅に違いがあることから，Ａ・Ｂグループの間には法量差があると考えられる。

Ⅱ類（1605～1651）

基部幅の多くは 3.5 ㎝～5㎝の間に含まれる。その中で長さに違いがあることは，Ⅰ類同様使用頻度の差であると思われる。1点のみ幅6㎝，長さが 20 ㎝以上の大型品（1651）があるが，これは短冊形とバチ形の中間形態のもので，短冊形のBグループに含まれる可能性がある。したがって，Ⅱ類に明瞭な法量差は認められない。

Ⅲ類（1652～1691）

基部幅が４㎝～５㎝に含まれるＡグループと，６㎝～７㎝に含まれるＢグループに分かれる。両グループとも長さは 10 ㎝～21 ㎝の範囲に含まれ，Ⅰ類・Ⅱ類同様，使用頻度の差による長さの違いが認められる。長さは同じで，基部幅に差があることから，Ⅲ類は法量差があると考えられる。

小結

以上の事から，Ⅰ類・Ⅲ類はサイズの違う2種類が製作されていた可能性が想定できる。基部の狭い石製土掘具は細い柄に，基部の広いものは太い柄に装着されていたことが想定され，基部の大きさは刃部幅に比例すると考えられる。例えば，刃幅の広い大型の石製土掘具は，荒掘りなどに，刃幅の狭いものは特定の場所を深く掘るなどのように使い分けがあったのではないか。表1から大型の石製土掘具は，全体の中でも少数であったことがわかる。Ⅰ類～Ⅲ類に共通していることは，長さが 10 ㎝になった時点で廃棄されていることである。これは，柄に縛られていた長さと関係する。つまり，Ⅰ類～Ⅲ類とも10㎝まで短くなると，柄が邪魔になり土掘具としての機能を喪失してしまうのである。土掘具としての機能を失ってしまった石製土掘具はどうなるのであろうか。大半は廃棄されてしまうが，中には再加工され他の石器へと姿を変えるものもある。1688 は両端の欠損部を敲打して楔に，1689・1690 は欠損部の周辺から細かい剥離を加え刃部へと作り変えている。

また，Ⅰ類・Ⅱ類には，基部幅が２㎝～３㎝の小型の土掘具が存在する。これらは，柄に装着される土掘具とは別の機能が想定される。さらに，1692 は磨製石斧の欠損品が石製土掘具に転用されている。これらの事例は石製土掘具が“壊れても利用できるものは利用する”という縄文人の観念をよく反映している道具であるということを示している。

3　石製土掘具の使用法について

（１）研究史

石製土掘具が“土を掻く道具”であると最初に論じたのは大山柏氏であるといわれている。その後多くの研究成果があり，主なものを表２にまとめた。

各研究者に共通していることは，柄に縛って使用するということである。形態の違いによる着柄方法は，各人によって意見の相違があるが，大きく２通りにまとめることができる。１つは，棒状の柄に石製土掘具を装着し，鋤または掘り棒として使用するという考え方である。鈴木氏は石製土掘具の身と刃部に残された使用痕を検討し，短冊形がこのような着柄によって使用されることを指摘している。東氏は，民具資料との比較・検討を行い，ラケット形が現在も山イモなどを掘る際に使われている「キンツ」と呼ばれる民具に似た使用方法を想定している。もう１つは，現在のクワのように，斜めに打ち下ろして使用するという考え方である。南九州でも刃部に残る使用痕を検討した宮田氏や栗畑氏によって指摘されている。小田氏は，短冊形に幅広い機能を考え，特に身の両端から抉りを入れた分銅形と呼ばれているものは，両頭の斧としての機能を考えている。分銅形については，松村氏も土掘具以外の機能を想定している。なお，東氏は民具事例を基に，短冊形とバチ形について打ち鍬と引き鍬を兼ねた手鍬のような使い方を想定している。

使用法については，様々な視点で研究が行われているが，短冊形・バチ形・ラケット形などの各形態ごとに統一した基準で検討した例は少ないように思われる。ここでは，Ⅰ類～Ⅲ類の刃部に残された使用痕から，着柄方法と使用法についてこれまでの研究成果を基に整理を行う。

本遺跡から出土している石製土掘具は，表面が摩耗しており，使用痕を観察することはできない。そのために，千迫遺跡・榎木原遺跡・中ノ原遺跡・榎木崎Ｂ遺跡から出土している資料を対象とした。また，小田氏・松村氏のいう分銅形は本遺跡から出土していない。したがって，分銅形は今回の分析対象に含まれていないということになる。

（２）短冊形・バチ形・ラケット形の使用法について

３つの中で最もよく使用痕が残っているものはラケット形である。その特徴は，片面に長くまたは広い範囲に線状痕と摩耗痕が残り，片刀となっているものが多い。おそらく，現在のクワのように斜めの方向から土に接するので，土との摩擦が大きい片側の面に使用痕がよく残ると考えられる。刃部が片刀状を呈するのも，使用により摩耗が進んだ結果であると理解される。さらに平面形をよく観察すると，刃部が片べりしたものが多く見受けられる。刃部を実体顕微鏡で覗いてみると，片べりした部分に縦方向の線状痕が集中している状況が確認できた。片べりの原因は，部分的に摩耗が進むことが原因と考えられる。この様な現象は現在の打ちクワなどにもみられ，右利きの人は右側が，左利きの人は左側がすり減るとされている。以上の事から，ラケット形は柄に装着され，土を掘り起こすだけでなく，混ぜたり，広げたりと様々な機能を持っていたことが想定される。使用される柄は，東氏が指摘しているように膝柄の可能性が考えられる。

短冊形はラケット形と違い，線状痕と摩耗痕の残りが悪い。このことは，両者の使用法や使用期間の違いを表しているのかもしれない。刃部に残る線状痕，摩耗痕の範囲は，ラケット形のように両面で大きな違いはみられず，ほぼ同じである。刃部は明瞭な片刃になるものはなく，両刃に近い。この様な特徴は鈴木氏が指摘しているように，棒状の柄に石製土掘具を平行に装着し，ほぼ垂直に突き刺して土を掘った結果であると思われる。縦方向に残る線状痕や摩耗痕の範囲に大きな差が認められないこともこの様な使い方に起因するのであろう。民具に類例を探せば，「キンツ」と呼ばれる山イモなどを掘る道具に使用法は近いと思われる。

バチ形は，短冊形同様，刃部に線状痕，摩耗痕がほとんど形成されず，刃部が明瞭な片刀となるものはみられない。摩耗痕や製作技法の検討を行った鈴木氏によれば，短冊形とバチ形に特別な機能差は存在しないとされている。バチ形の刃部に残された線状痕・摩耗痕の範囲は，短冊形と大きく変わらないことから，鈴木氏の指摘したように両者の間に明らかな機能差は認めがたい。つまり，バチ形は，短冊形同様，棒状の柄に装着し使用されたと考えられる。それでは，バチ形と短冊形の形態差はなぜ生じるのであろうか。円礫のどの部分の剥片が石製土掘具に使用されているのかを検討した小田氏によれば，短冊形とバチ形では素材となる剥片を剥出する場所に違いがみられるという。同時に，同じ場所から剥出した素材剥片を共有していることを述べている。本遺跡で出土している石製土掘具の法量の検討から，バチ形は短冊形に比べて大型品が存在しない可能性があり，バチ形の素材となる剥片の大きさに規制されるのかもしれない。以上を整理すると，小田氏のいうバチ形に本遺跡のラケット形が一部含まれている可能性があることには注意を要するが，短冊形とバチ形の形態差は，素材となる剥片の大きさと形態差によるものと考えておきたい。短冊形とバチ形の中間形態が多く存在することも，両者が似通った部分から剥出した剥片を利用するためであると思われる。両者の間に剥片選別の意識が薄いことは，「消耗が激しいために，簡単にたくさん作る」という石製土掘具の性格をよく表していると考えられる。

（３）大坪遺跡の人々は石製土掘具で何をしたのか

大坪遺跡で暮らした人々は，石製土掘具をどのような場面で使っていたのだろうか。これまでに，石製土掘具は畑作や根茎類の栽培に使用したという論が主流であった。本県でも，プラントオパール分析や収穫具の存在から畑作との関係が指摘されてきた。この問題を考える前に，石製土掘具の出土状況と遺跡の立地について再度触れておく必要がある。以下に要点をまとめた。

出土状況について：本遺跡から出土している石製土掘具の特徴は，短冊形とバチ形の比率がラケット形に比べ高いことは前に触れたが，それ以外に，短冊形の刃部片が多いことが注目される。

遺跡の立地について：米ノ津川によって形成された沖積地に立地し，多数の埋設土器・玉・石錘などが出土していることから，これまでに県内で見つかっている台地上の遺跡とは同じカテゴリーの中で論じることはできない。

刃部片が多いことは，遺跡周辺で石製土掘具が使用されたことを暗示している。具体的には，鋤に近い使用法が想定される短冊形とバチ形は狭く深い穴を掘ることに適しており，土器を埋設する土坑の掘削や，標高の低い沖積地周辺に生えている根茎類（ヤマイモ）の採取などに使用されたと考えたい。遺跡周辺の土壌は固い粘質土であるため，棒状の柄に装着された石製

土掘具は大きな力を発揮したものと思われる。では，ラケット形はどのような作業に使用されたのだろうか。明確に特定することはできないが，遺跡の立地や，収穫具が出土していないことから，本遺跡で焼畑などの農耕に使用された可能性は低いだろう。根を掘り起こし食べることのできる植物の中には，それほど深く掘り起こさなくても採取できるものがある。ラケット形はこのような植物の採取に使用したと想定したい。つまり，短冊形・バチ形とラケット形では対象とする植物が異なるということになる。

（４）各遺跡における石製土掘具の組成

表３に主要な遺跡における石製土掘具の組成比を示した。表は遺跡で主体となる土器を基に時期の古い方から並べている。

表３の組成グラフから干迫・大坪などの平野部の遺跡と榎木崎Ｂ・榎木原・上野原などの台地部の遺跡では組成比が違うことが見てとれる。特にラケット形は大隅半島を中心とする台地上の遺跡で安定して出土しており，台地上でよく使われる石器であるといえる。榎木原遺跡・中ノ原遺跡・榎木崎Ｂ遺跡では，石製の収穫具が伴い，栽培または農耕が行われたことが想定されていることから，台地上の遺跡では栽培または農耕にラケット形の石製土掘具を使用したことが推測される。ラケット形は土を掘り起こす，混ぜる，広げるなどの機能を持っていることから，作物の植付けや，雑草の除去など様々な場面で活躍したと思われる。ラケット形は，黒川式土器出現以降，主体となる傾向があり，孔列文土器を伴って朝鮮半島から伝播した畑作文化との関係が注目される。

各遺跡における石製土掘具の組成の違いは，根茎類の採取と栽培または農耕とのどちらに比重を置いているのかを反映している可能性がある。比較・検討できる資料が限られるために時期差を考慮しなければならないが，組成比の違いは大雑把に言えば台地上と平野の遺跡間での生業形態の違いを反映していると思われる。このことは，山崎純男氏が指摘した平野部の貝塚と台地部の遺跡間における「食料生産における地域相互の補完関係」を視野に入れながら，本県の遺跡についても検討していく必要がある。また，このような問題は各遺跡における石器組成の検討を通して解決していくことは言うまでもない。

（５）今後の問題

石製土掘具はこれまでに縄文農耕との関連で多くの論文や報告書の中で論じられてきた。しかし，想定されている縄文農耕の中味は，焼畑・畑作・栽培などがあり，各研究者間によって意見の統一をみていない。南九州でも，プラントオパール分析等によって，その実態の追求が行われてきたが，時期を明確に特定できる生産遺構を対象としていないために具体的な様相については不明な部分が多かった。そのような状況の中で，1988 年に調査が行われた末吉町桐木遺跡では，縄文晩期（入佐式新段階）にあたる竪穴住居跡からウォーターフローテーション法によって小豆が検出された。ウォーターフローテーション法は栽培種を特定する有効な手段の１つである。この様な調査成果の蓄積から導き出される農耕または栽培の具体像と石製土掘具の個別研究を両立させながら，石製土掘具の使用法について考えていく必要がある。

石製土掘具の形態分類は各報告書の中でそれぞれなされているが，中には細かな平面形態の違いのみで分類している例もある。遺跡で見つかる石製土掘具はあくまでも廃棄された時の姿であり，埋納されたかどうかや欠損・摩耗・刃部再生の状態によって個々の形態は大きく違う。このような，石製土掘具の性質と機能を十分にふまえて分類を行うべきである。また，当時の生業を復元する上で欠かすことのできない石器の組成についても，正確なデータが報告書の中で提示されているとは言い難い状況であると感じる。実測図を掲載する以前に基礎的分類や出土状況などを十分に吟味し，どのような情報を盛り込んでいくのか真剣に取り組んでいかねばならない。

1 鈴木忠司 1975「第5節石器 2. 打製石斧」『桑飼下遺跡』舞鶴市教育委員会

2 高木正文 1980「九州縄文時代の収穫用石器－打製石庖丁と打製石鎌について－」『鏡山猛先生古稀記念 古文化論攷』鏡山猛先生古稀記念論文集刊行会

3 小田静夫 1976「縄文中期の打製石斧」『どるめん』10

4 坂本嘉弘 1982「東九州における縄文後・晩期遺跡の動態－大分県を中心として－」『賀川光夫先生還暦記念論集』賀川光夫先生還暦記念会

5 山崎純男 1994「西日本後・晩期の農耕」『縄文文化の研究』2 雄山閣

6 鈴木次郎 1995「打製石斧」『縄文文化の研究』7 雄山閣

7 神村透 1985「打製耕作具」『弥生文化の研究』5 雄山閣

8 東和幸 1993「石製土掘具について」『鹿児島民具』第 11 号 鹿児島民具学会

9 藤巻正信 1991「第Ⅳ章2 城之腰遺跡の打製石斧」『関越自動車道関係発掘調査報告書 城之腰遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書 第29集 新潟県教育委員会

10 鹿児島県立埋蔵文化財センター 1997『干迫Ⅲ 縄文時代石器ほか・付篇』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(22)

11 鹿児島県教育委員会 1987『榎木原遺跡』鹿児島県埋蔵

文化財発掘調査報告書(44)
12 鹿児島県教育委員会 1989『中ノ原遺跡(Ⅰ)』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(48)
13 鹿児島県立埋蔵文化財センター 1993『榎木崎B遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(4)
14 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『上野原遺跡第5分冊(第2～7地点:縄文時代前期～晩期編)』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(52)
15 都城市教育委員会 1994『黒土遺跡』都城市文化財調査報告書 第28集

表1 基部幅と長さの関係(完形品のみ)

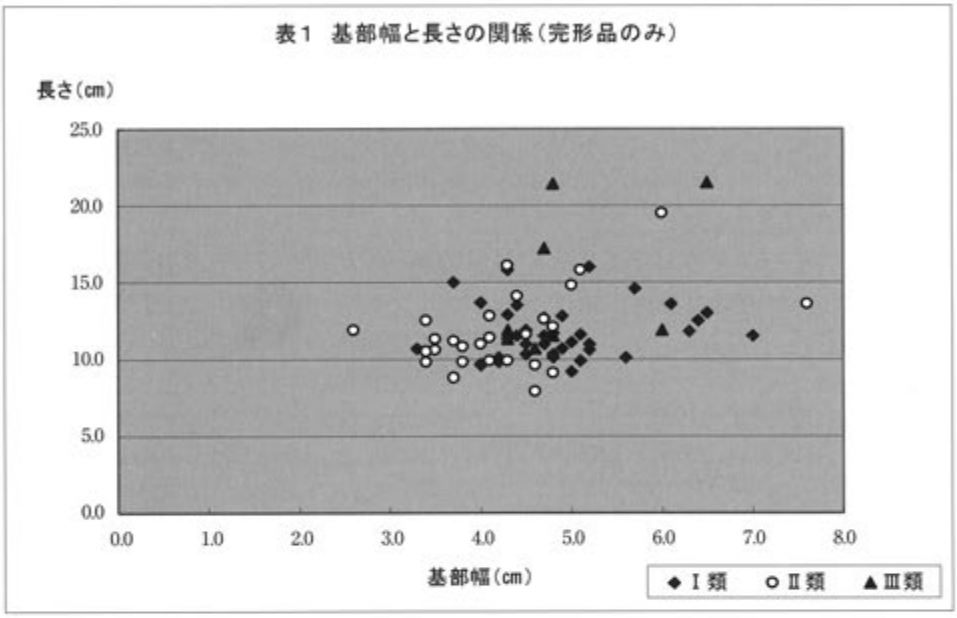
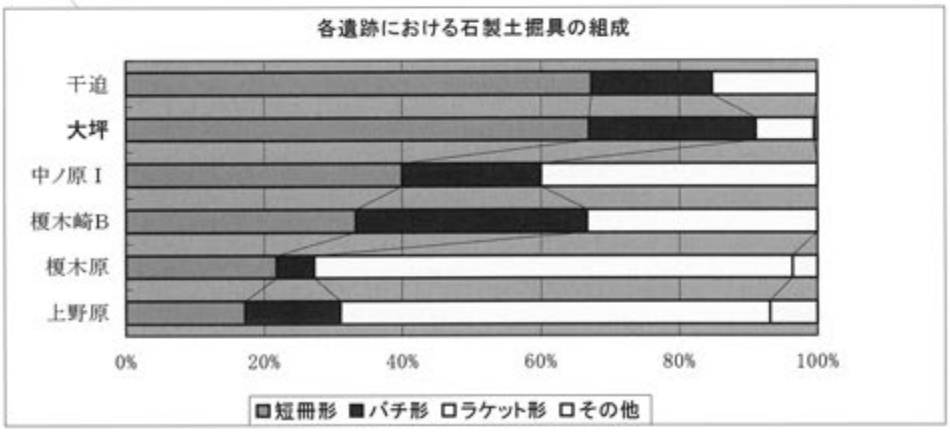


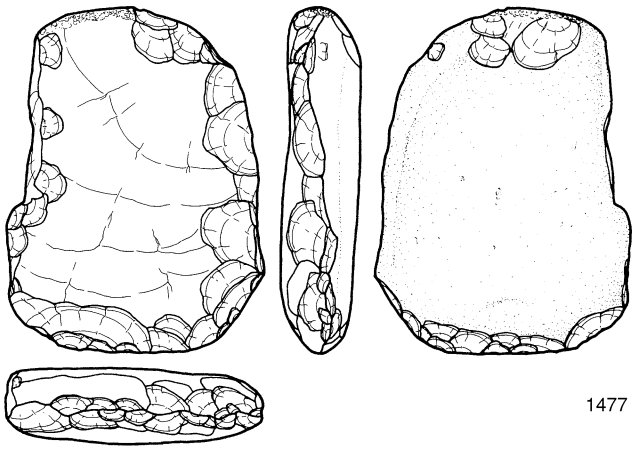
表2 石製土掘具の使用法について

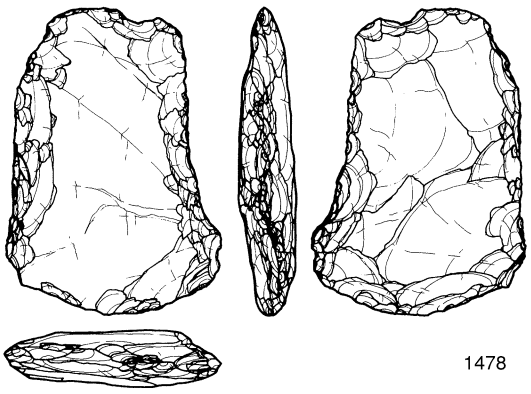
研究者	使用法			文献
	短冊形	パチ形	ラケット形	
小田静夫	多種類に利用(片刃の斧・クワ・掘棒などに使用	クワのように着柄し使用		3
鈴木忠司	柄に装着し鋤として使用			1
神村透	除草具のための土掻き具			7
宮田栄二	柄に装着し、鋤・クワとして使用			13
桒畑光博			手クワとして使用	15
東和幸	打ち鍬と引き鍬を兼ねた手鍬として使用		民具の「キンツ」のような道具(鋤として使用)	8
藤巻正信	柄に装着し、樹木の草刈り用具として使用			9

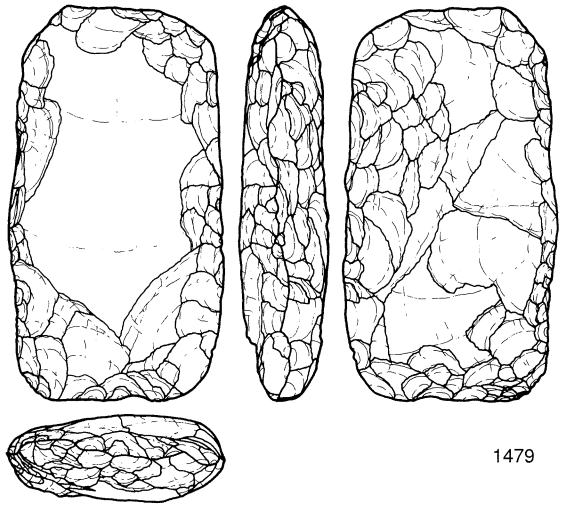
表3 各遺跡における石製土掘具の組成

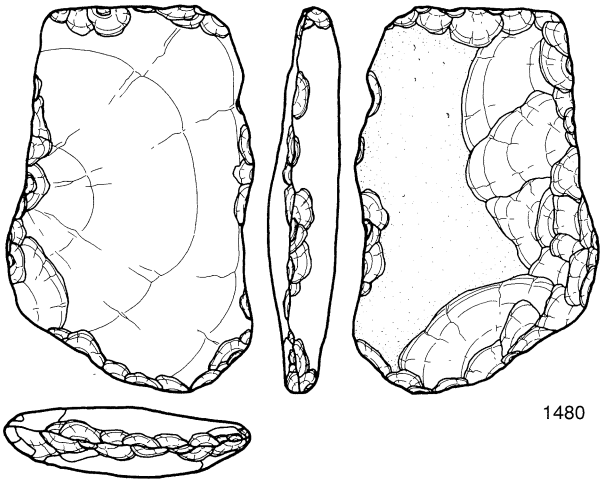
遺跡名	土器型式	立地	短冊形	パチ形	ラケット形	その他	不明
干迫		扇状地	31	8	7		82
大坪		扇状地	128	46	16	1	15
中ノ原Ⅰ		台地	4	2	4		6
榎木崎B		台地	5	5	5		4
榎木原		台地	12	3	38	2	3
上野原		台地	5	4	18	2	14

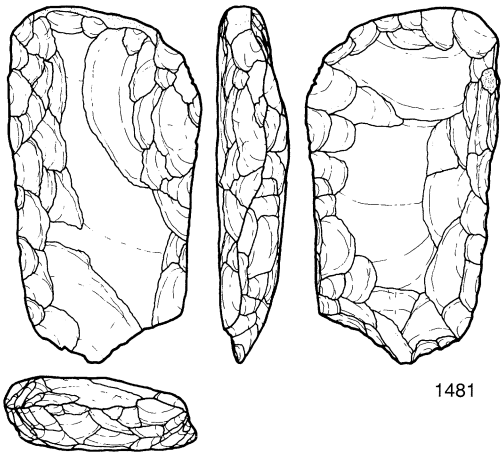


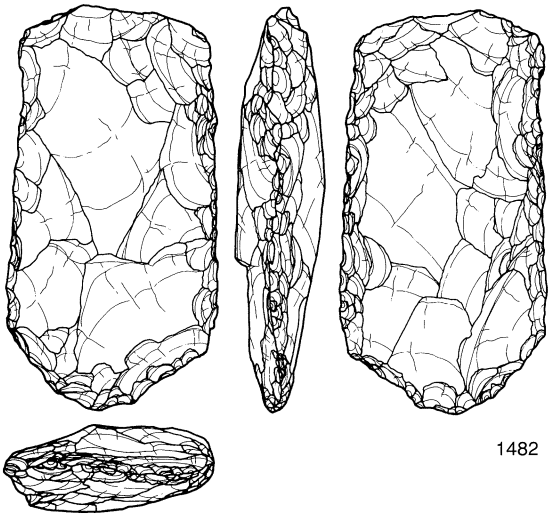


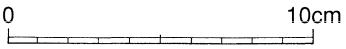




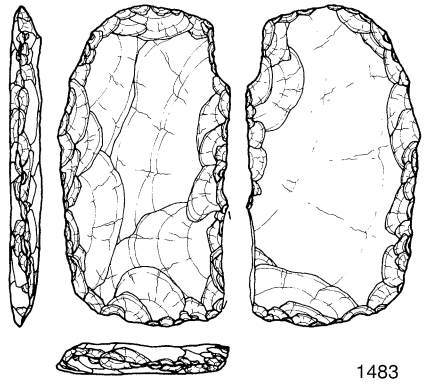


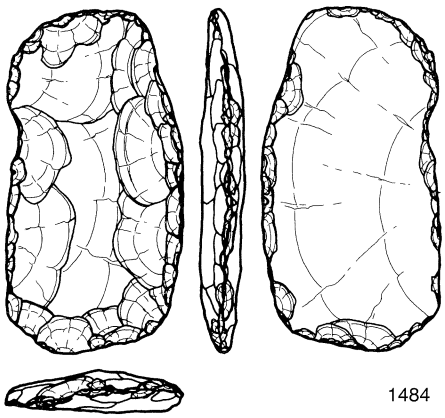


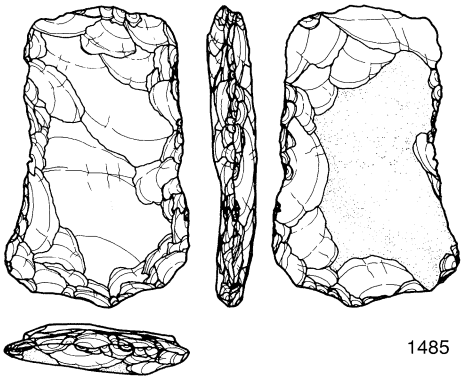


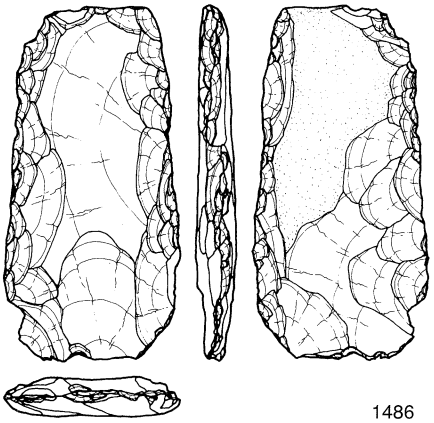


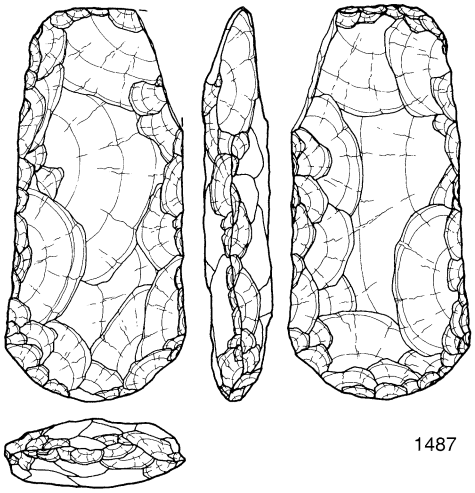
第235図　出土遺物　石器(46)　石製土掘具

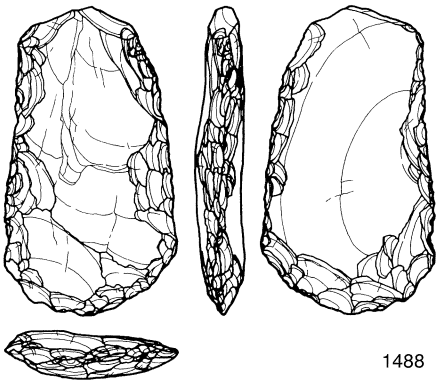

1483

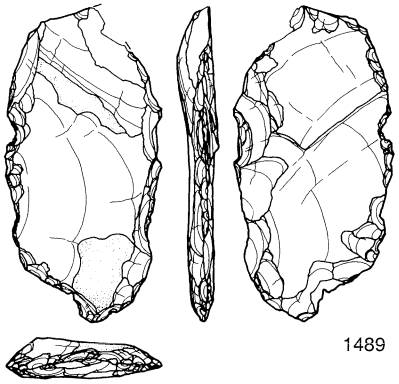

1484

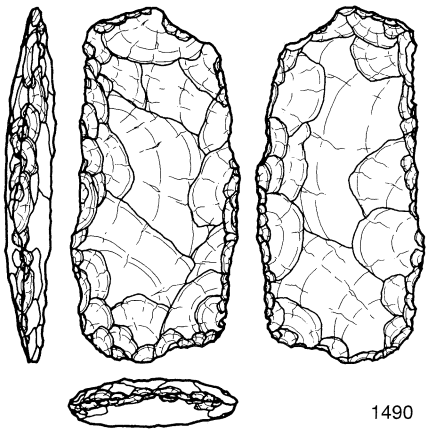

1485

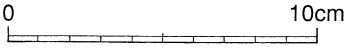

1486


1487

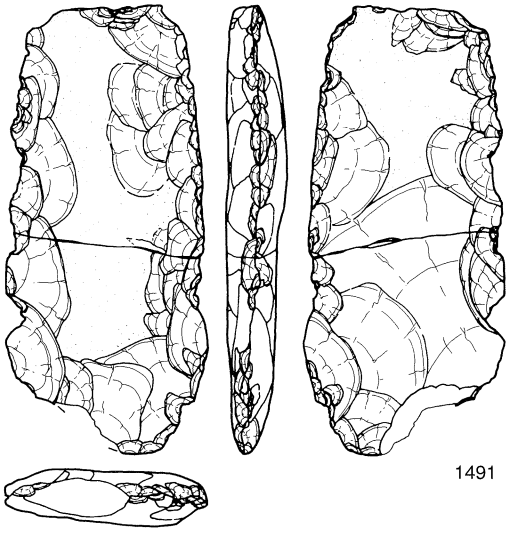

1488

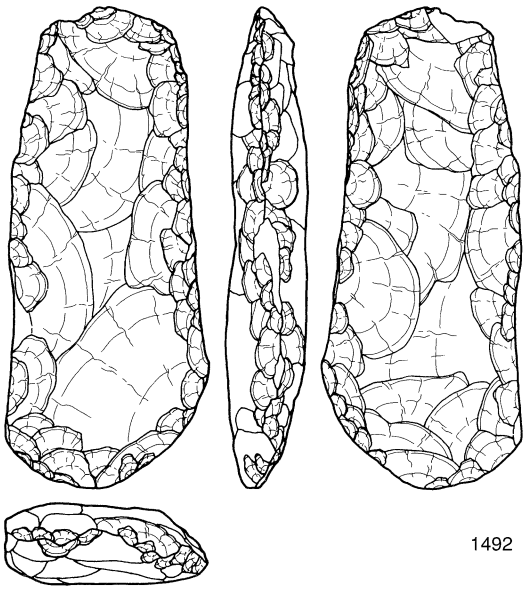

1489

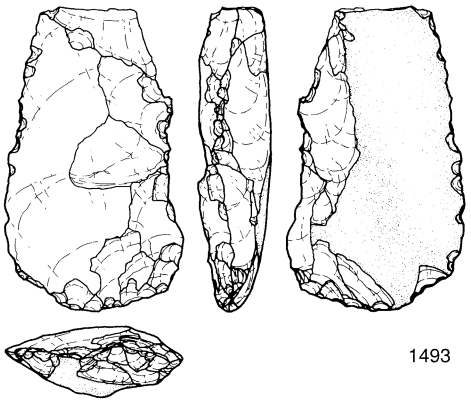

1490

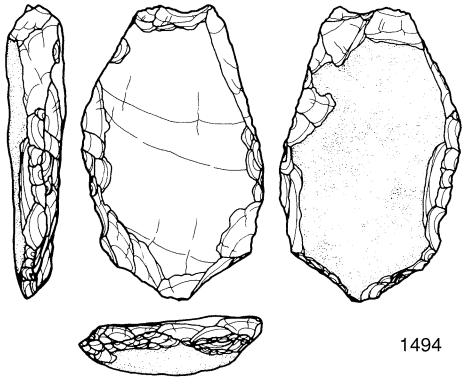


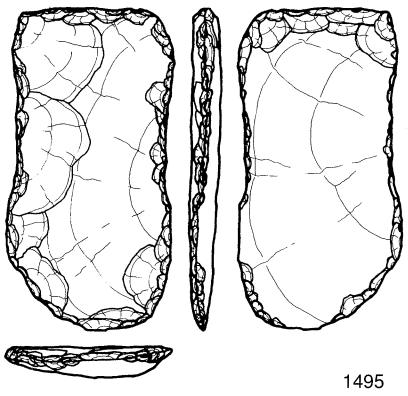
第236図　出土遺物　石器(47)　石製土掘具

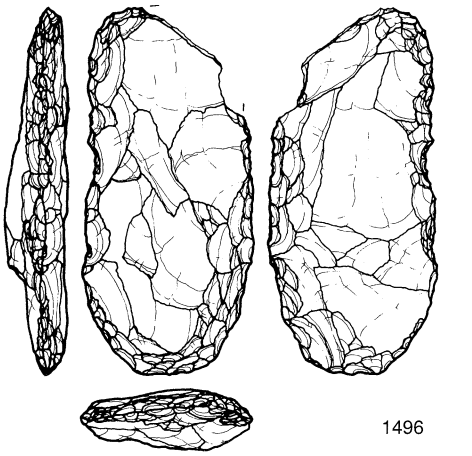




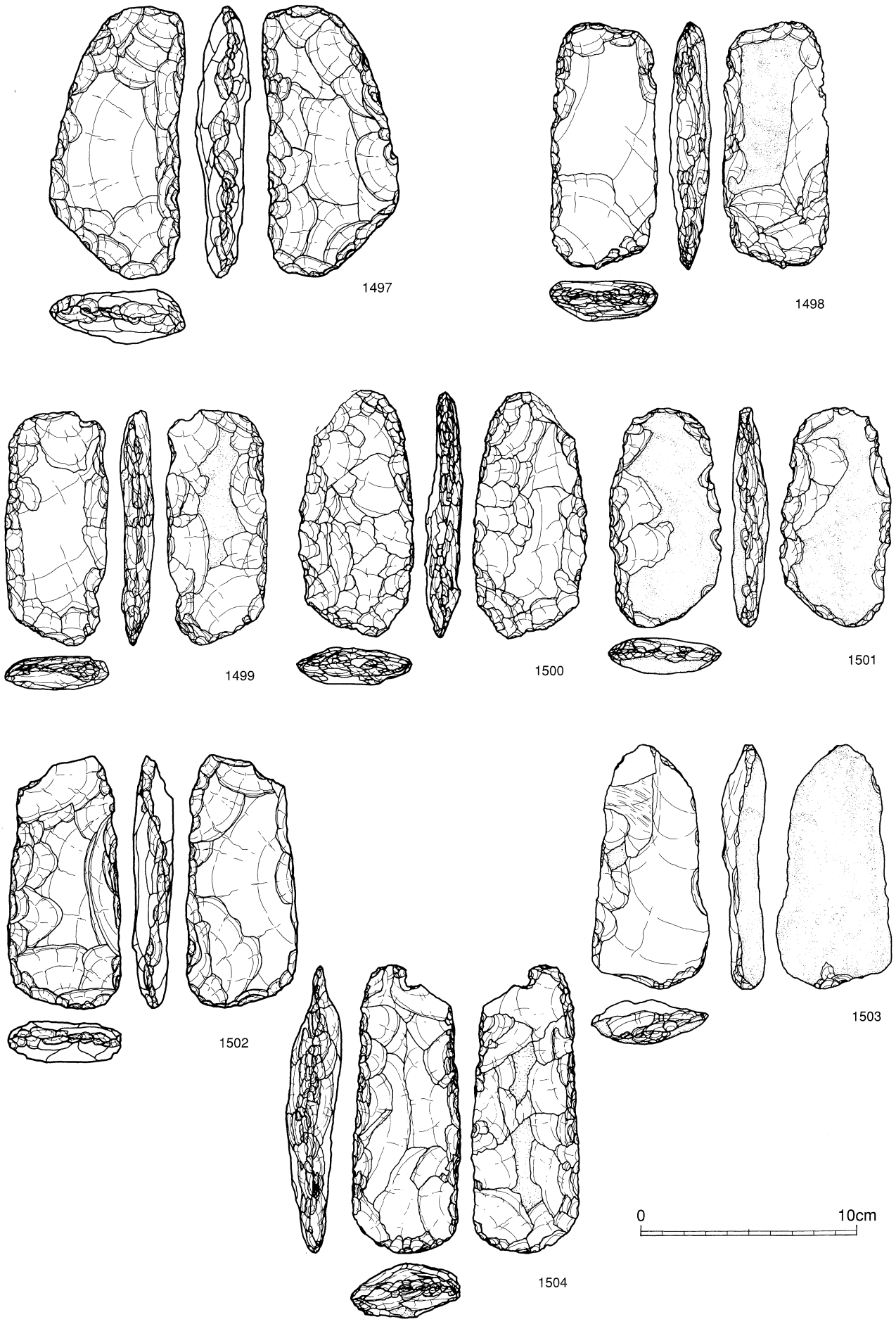




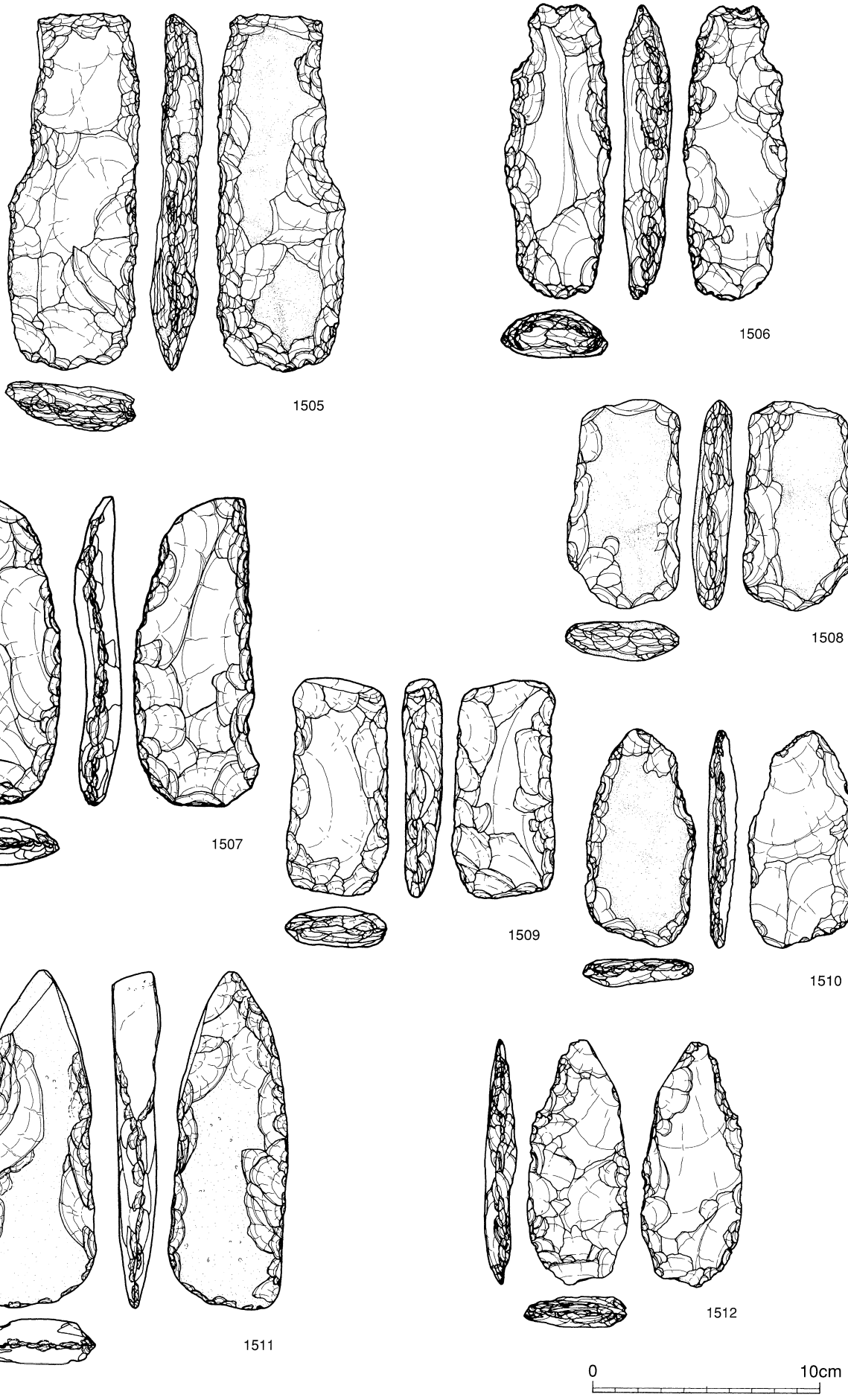




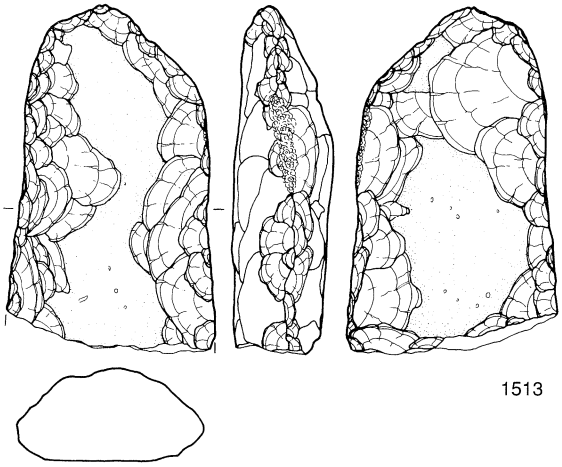
第237図　出土遺物　石器(48)　石製土掘具

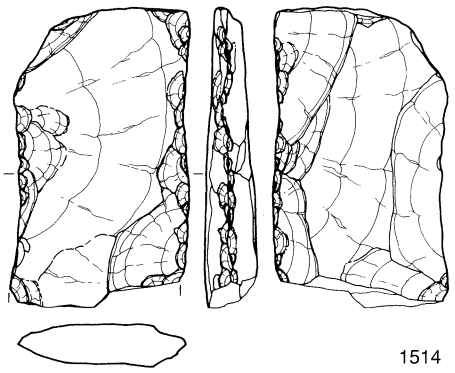


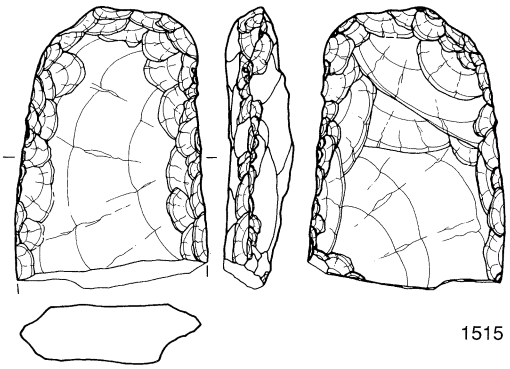
第238図　出土遺物　石器(49)　石製土掘具

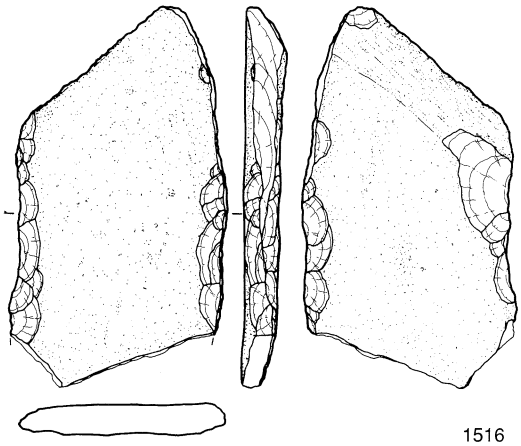


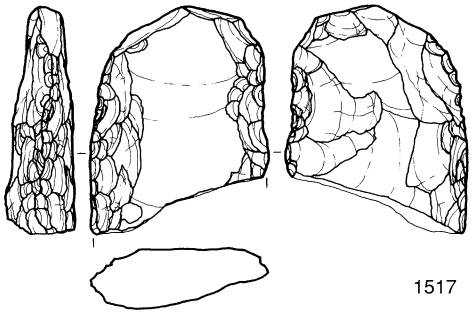
第239図　出土遺物　石器(50)　石製土掘具

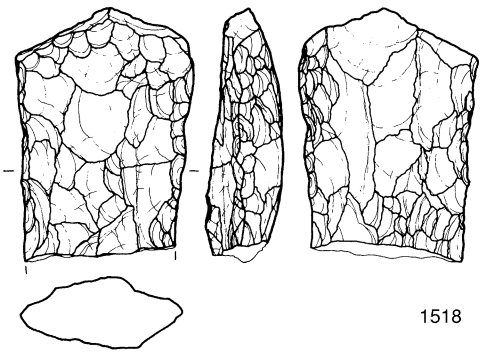


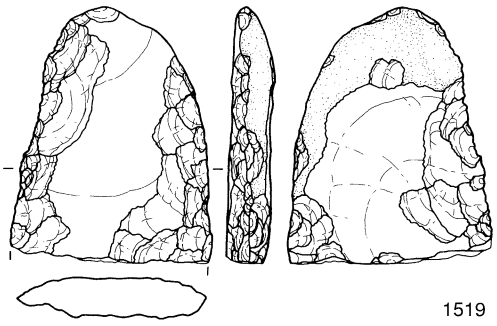


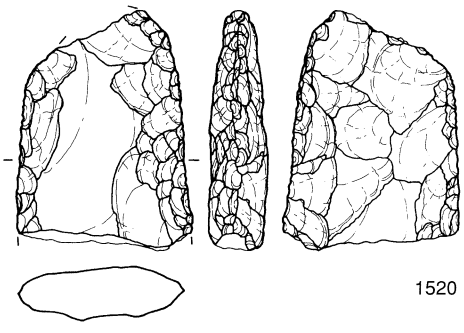


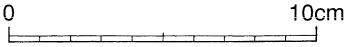




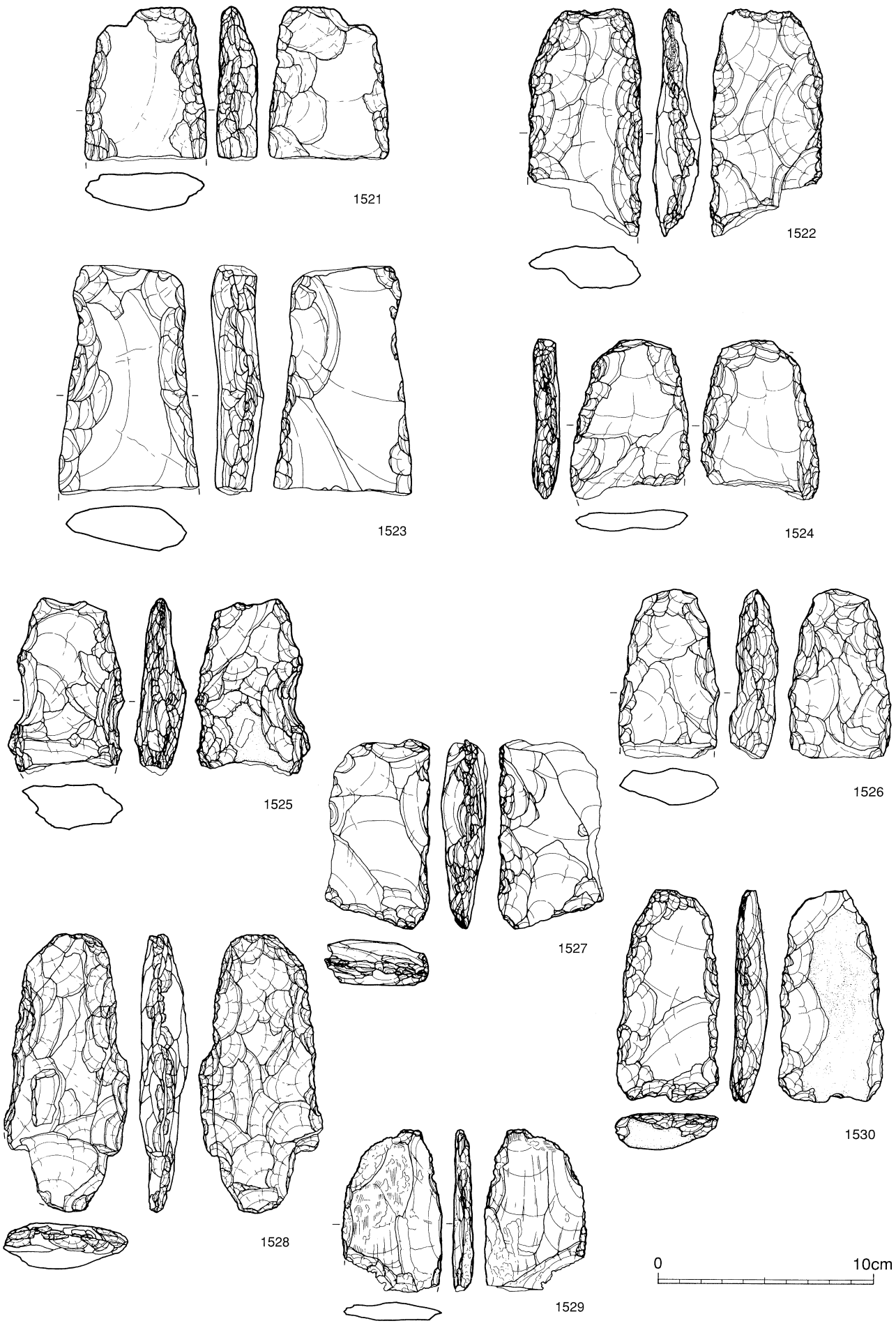




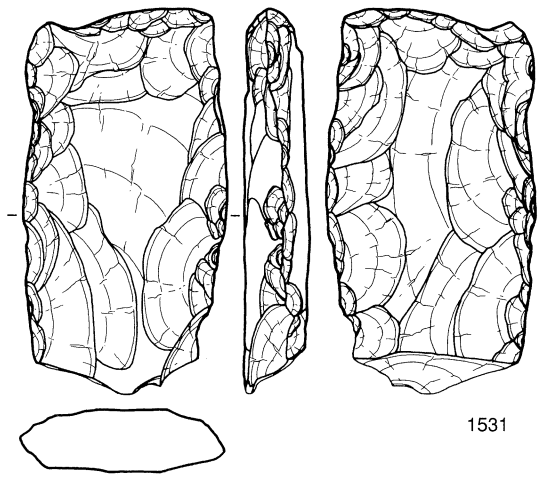


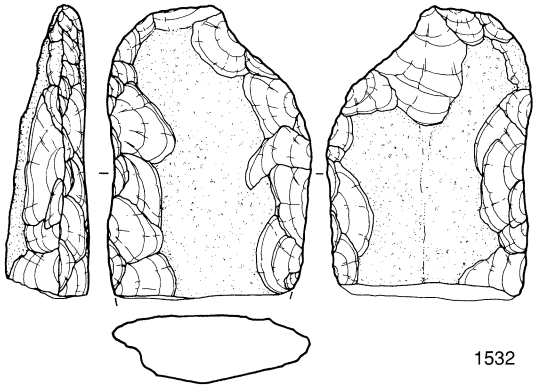


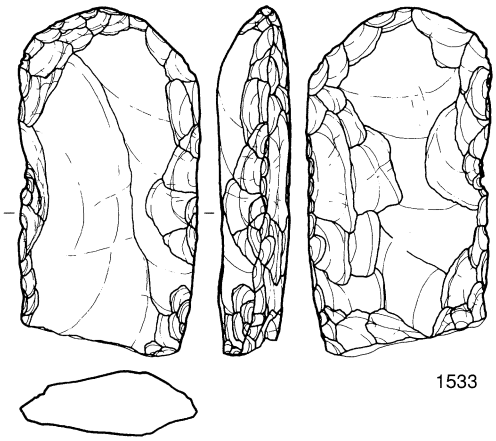
第240図　出土遺物　石器(51)　石製土掘具

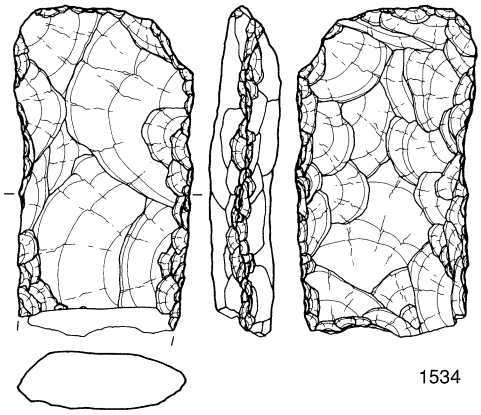


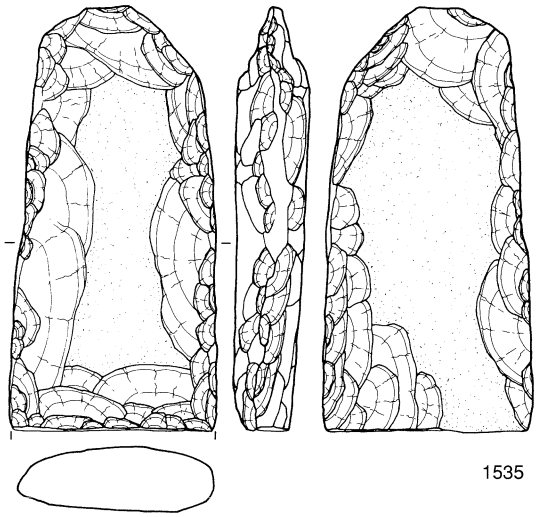
第241図　出土遺物　石器(52)　石製土掘具

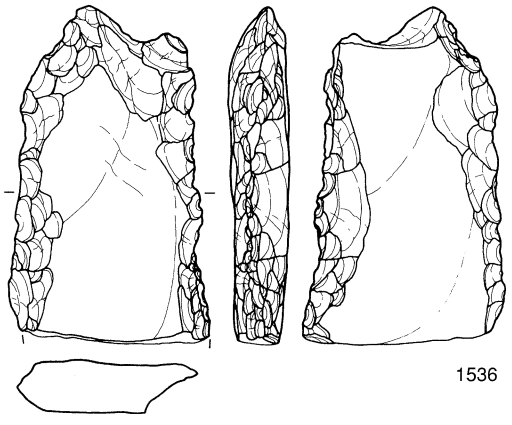


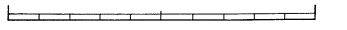




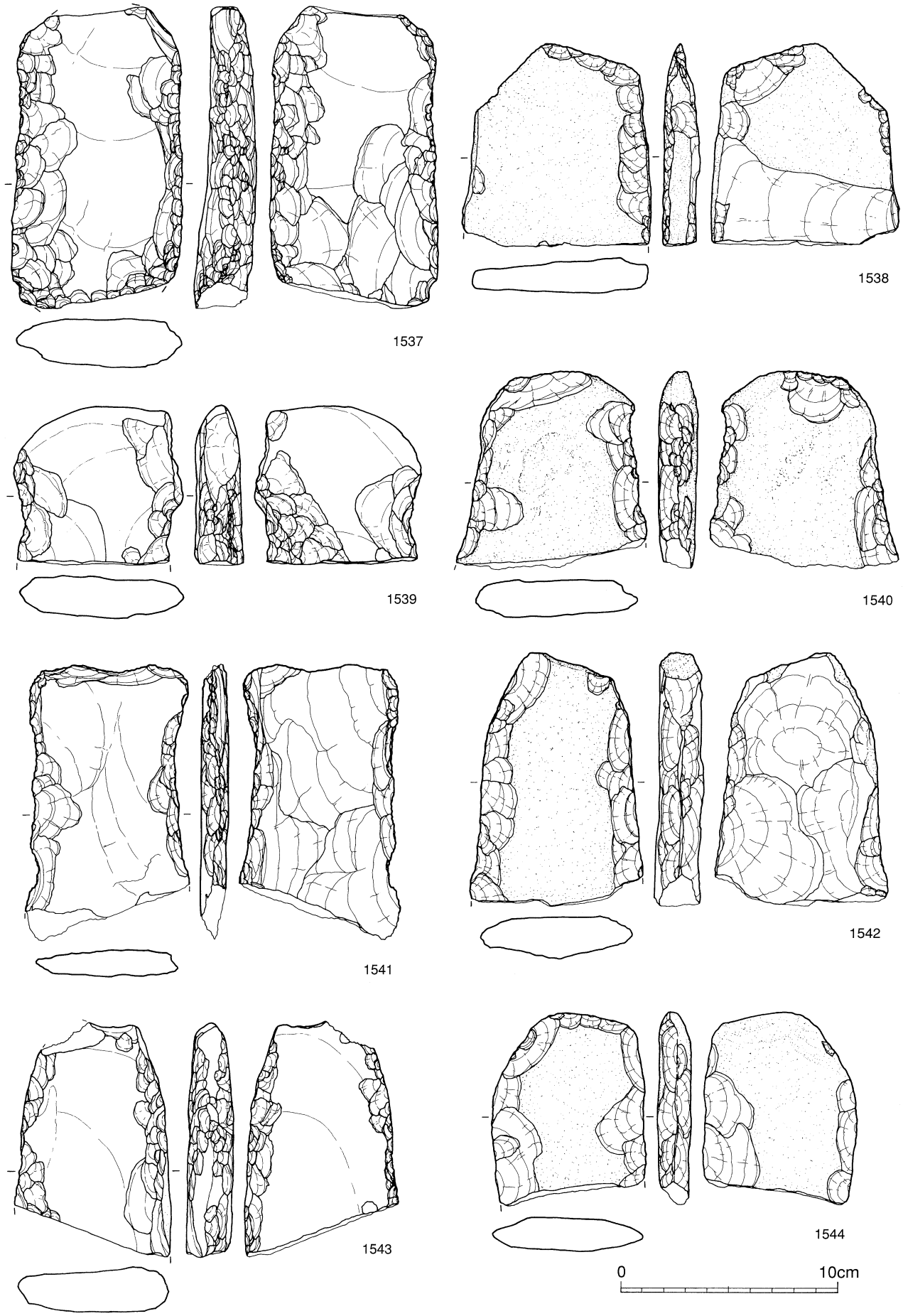




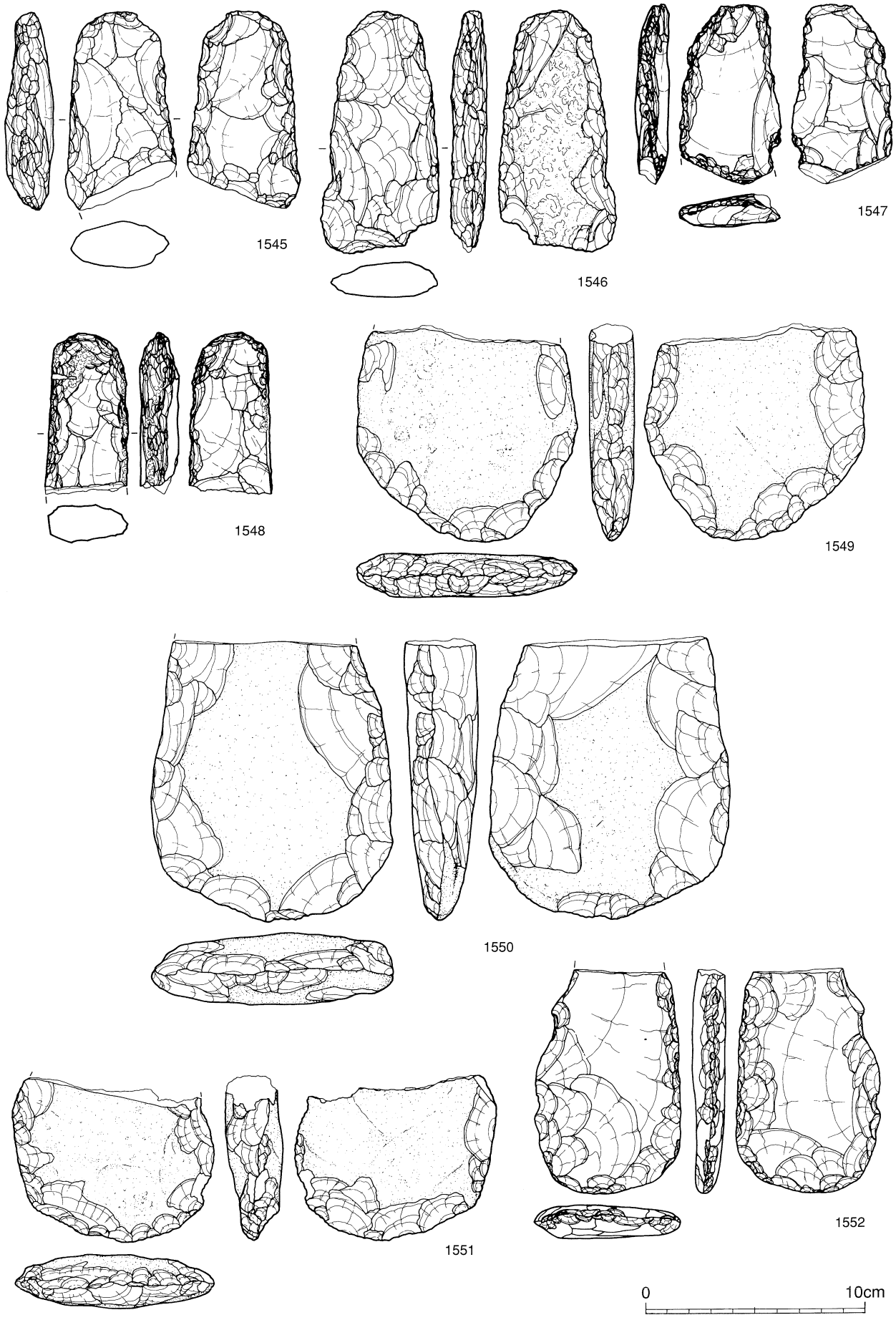




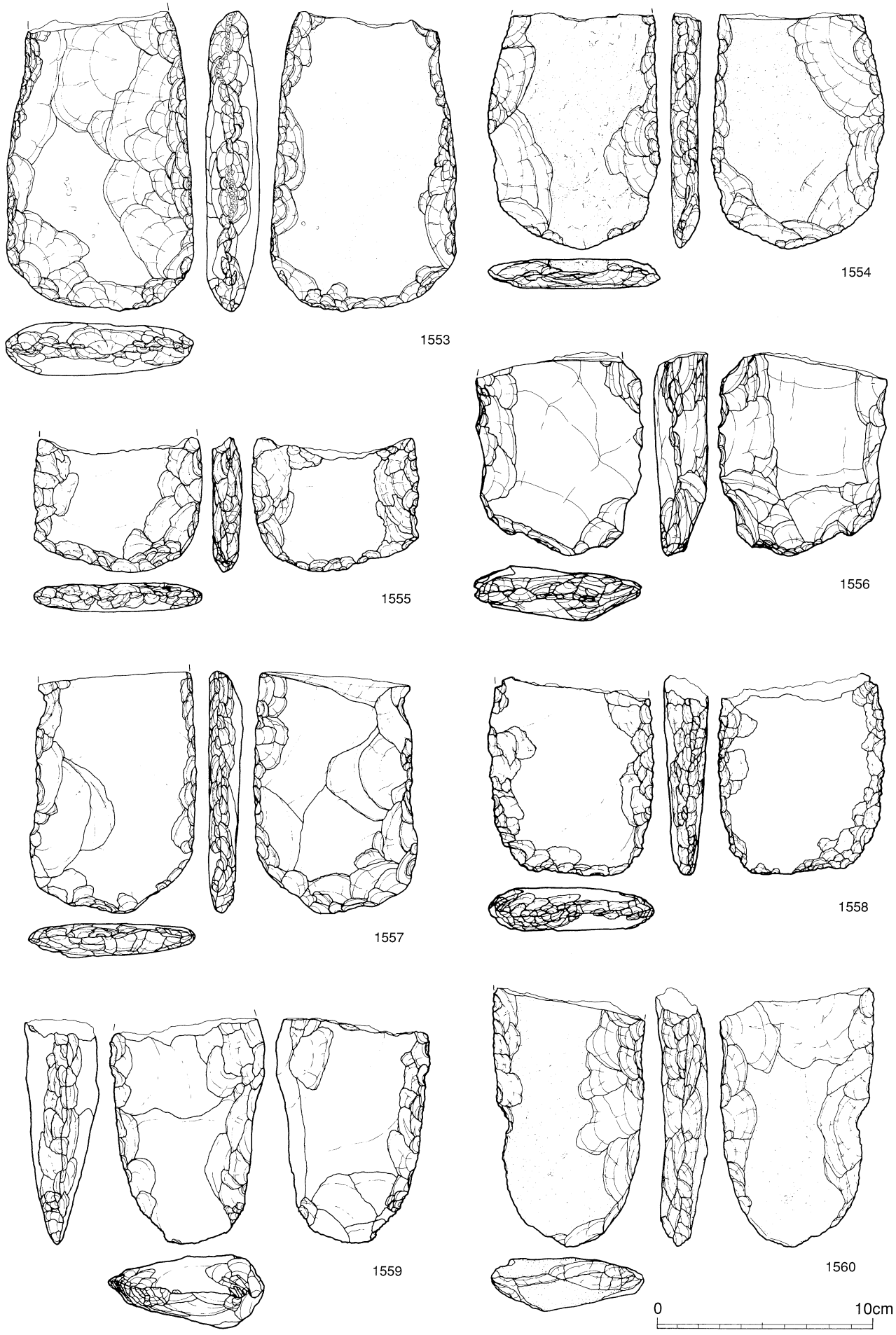
第242図　出土遺物　石器(53)　石製土掘具



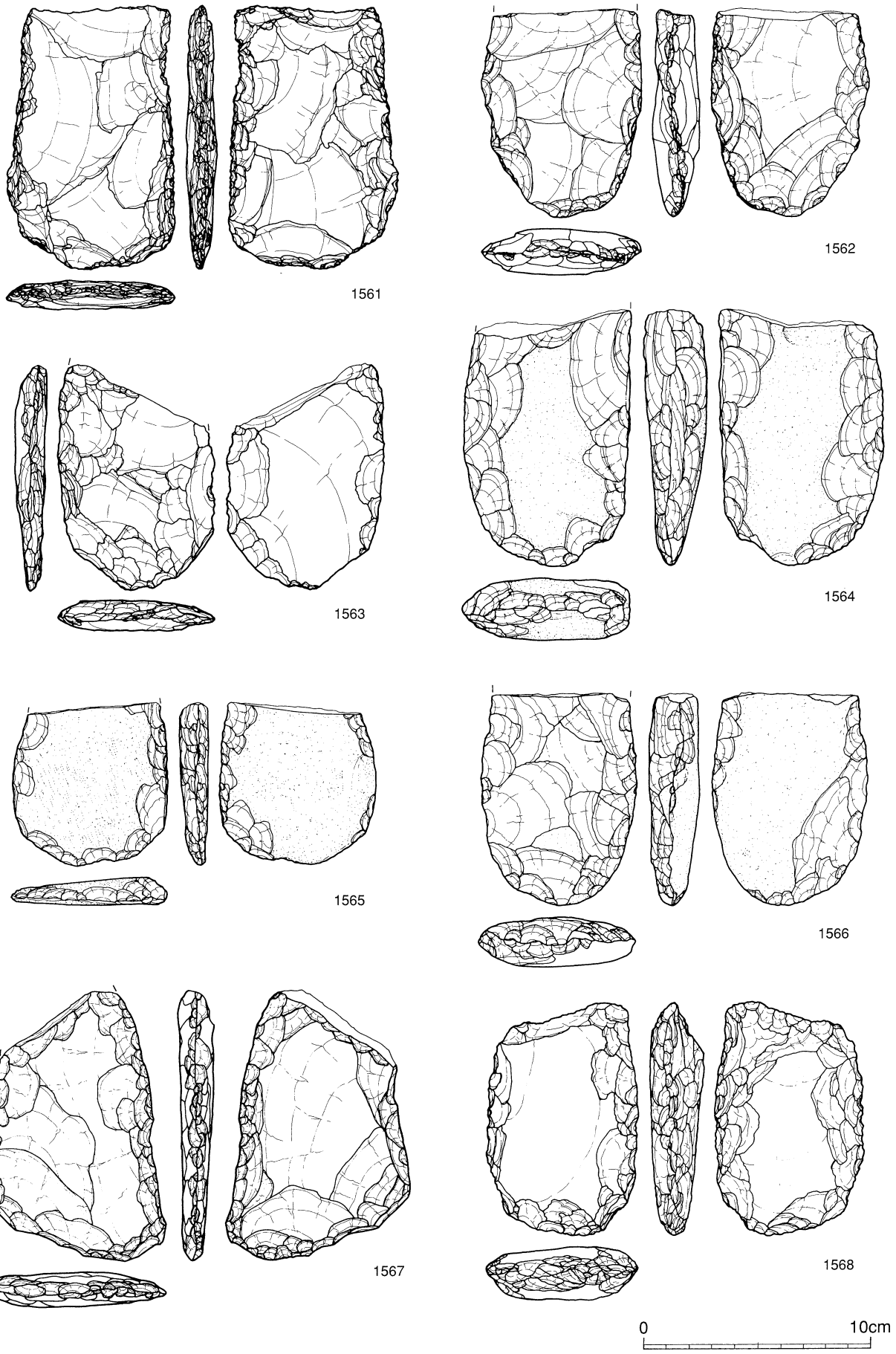
第243図　出土遺物　石器(54)　石製土掘具



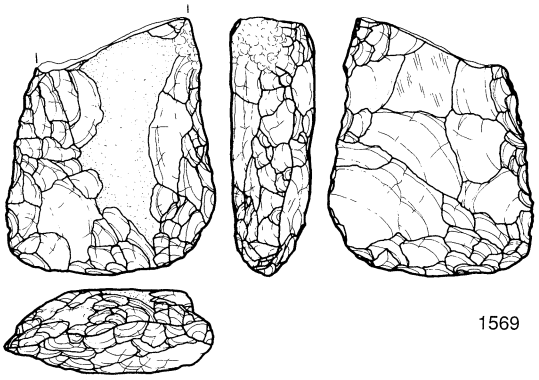
第244図　出土遺物　石器(55)　石製土掘具

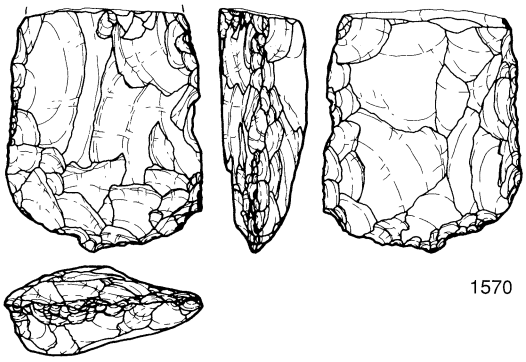


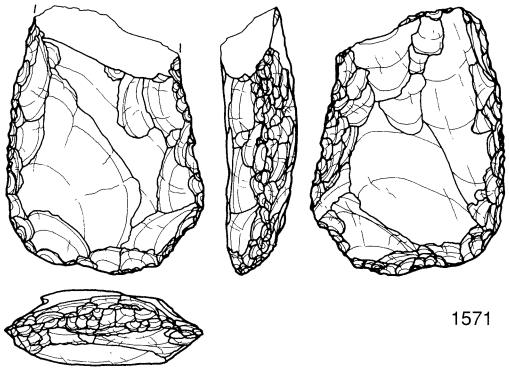
第245図　出土遺物　石器(56)　石製土掘具

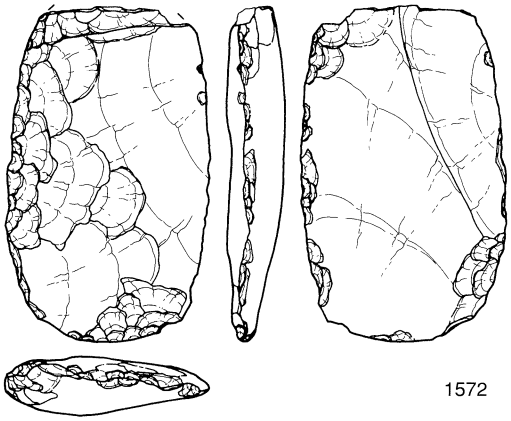


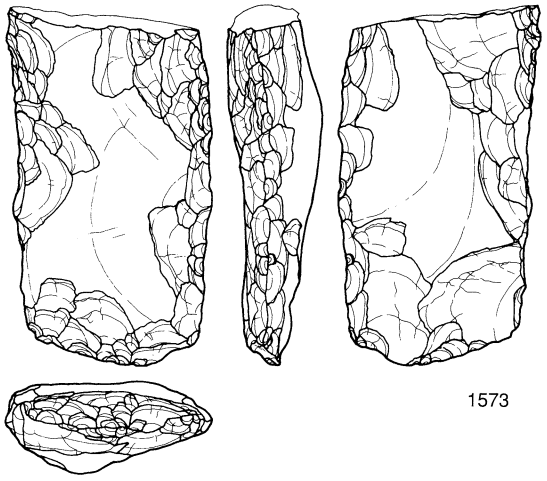
第246図　出土遺物　石器(57)　石製土掘具

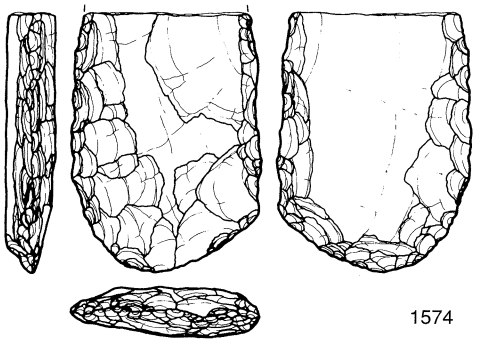

1569

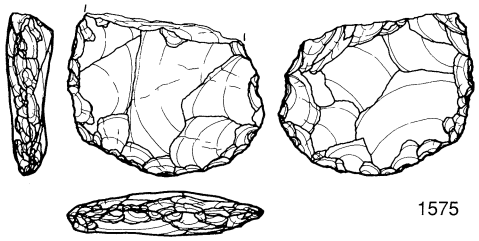

1570

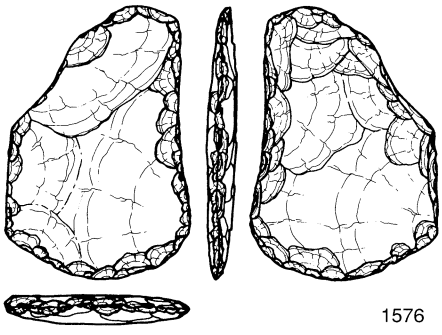

1571

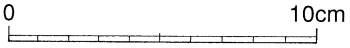

1572


1573

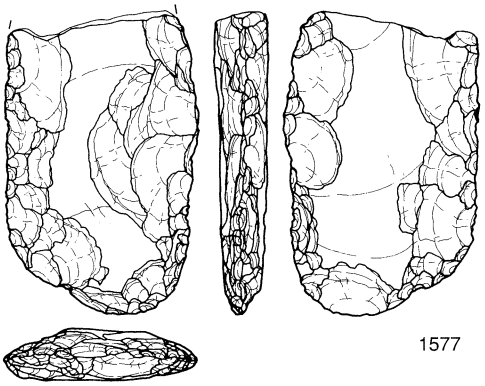

1574

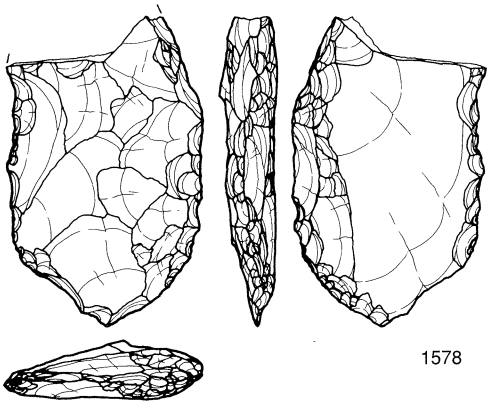

1575

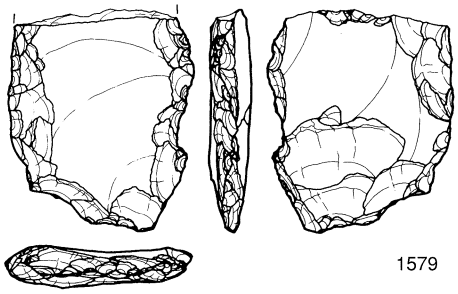

1576

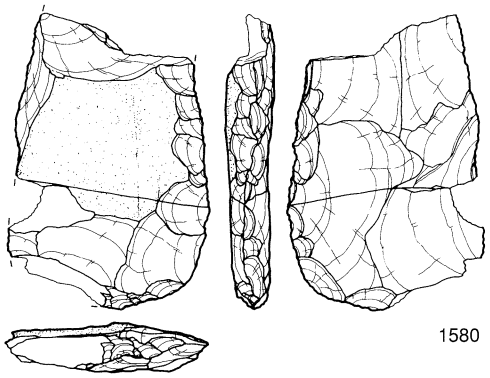


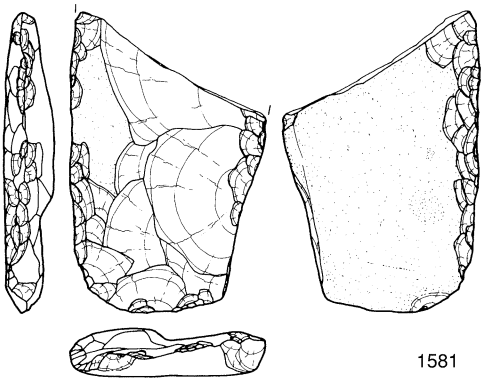
第247図　出土遺物　石器(58)　石製土掘具

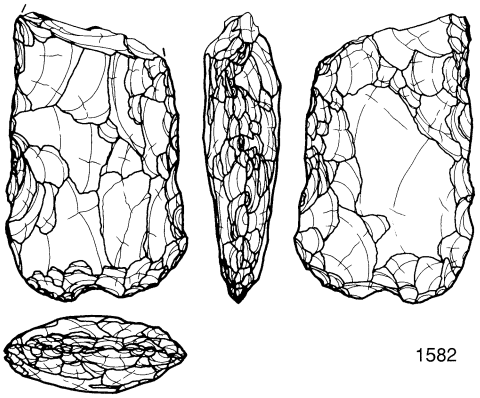


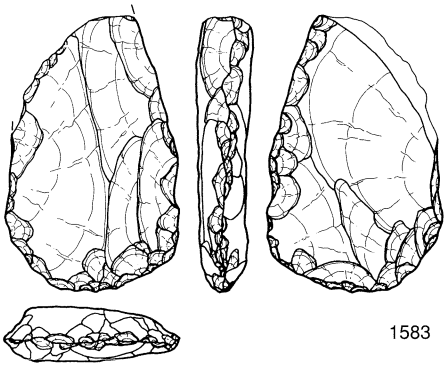


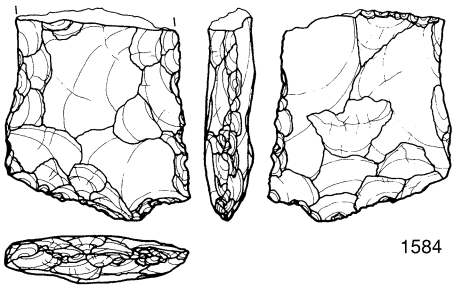




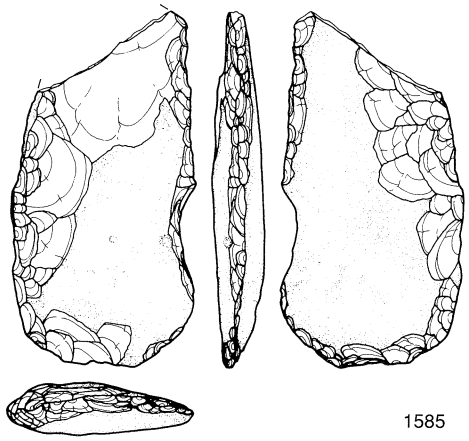


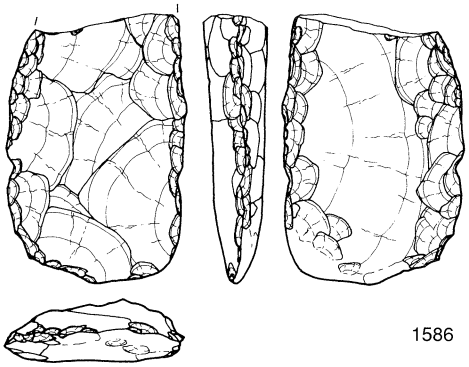


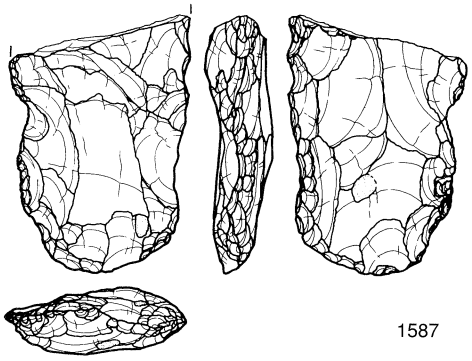


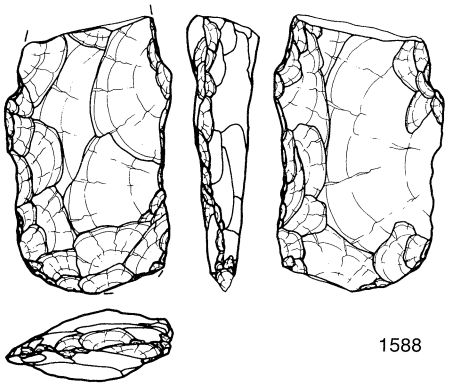


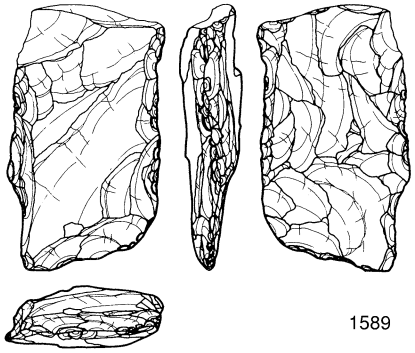
第248図　出土遺物　石器(59)　石製土掘具

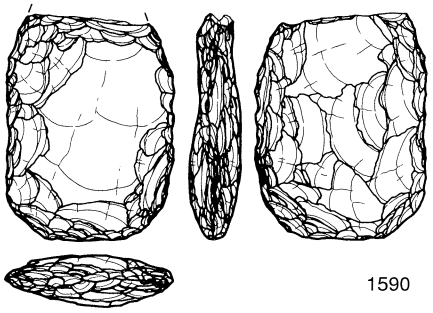


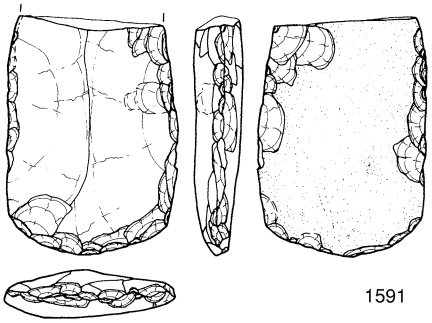


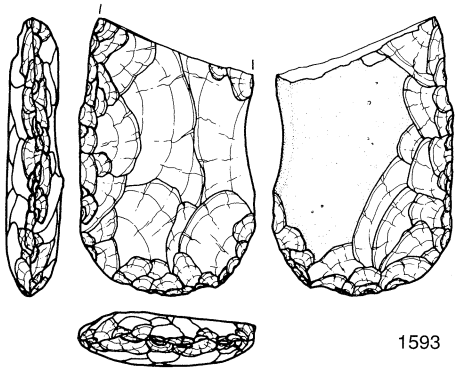


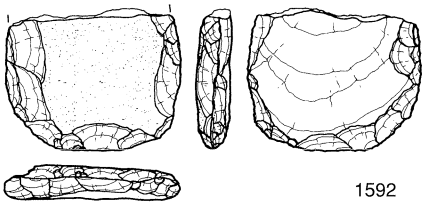




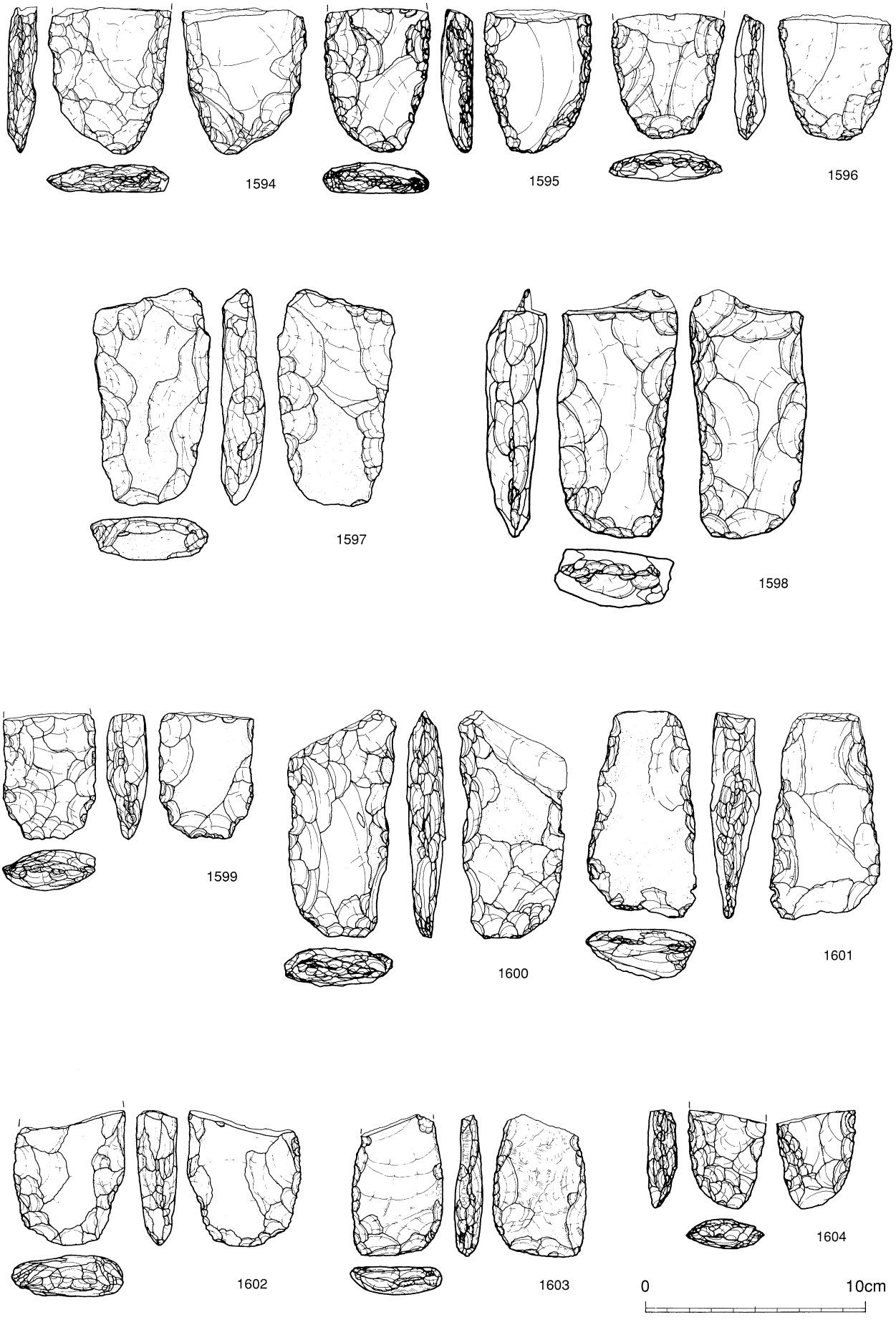




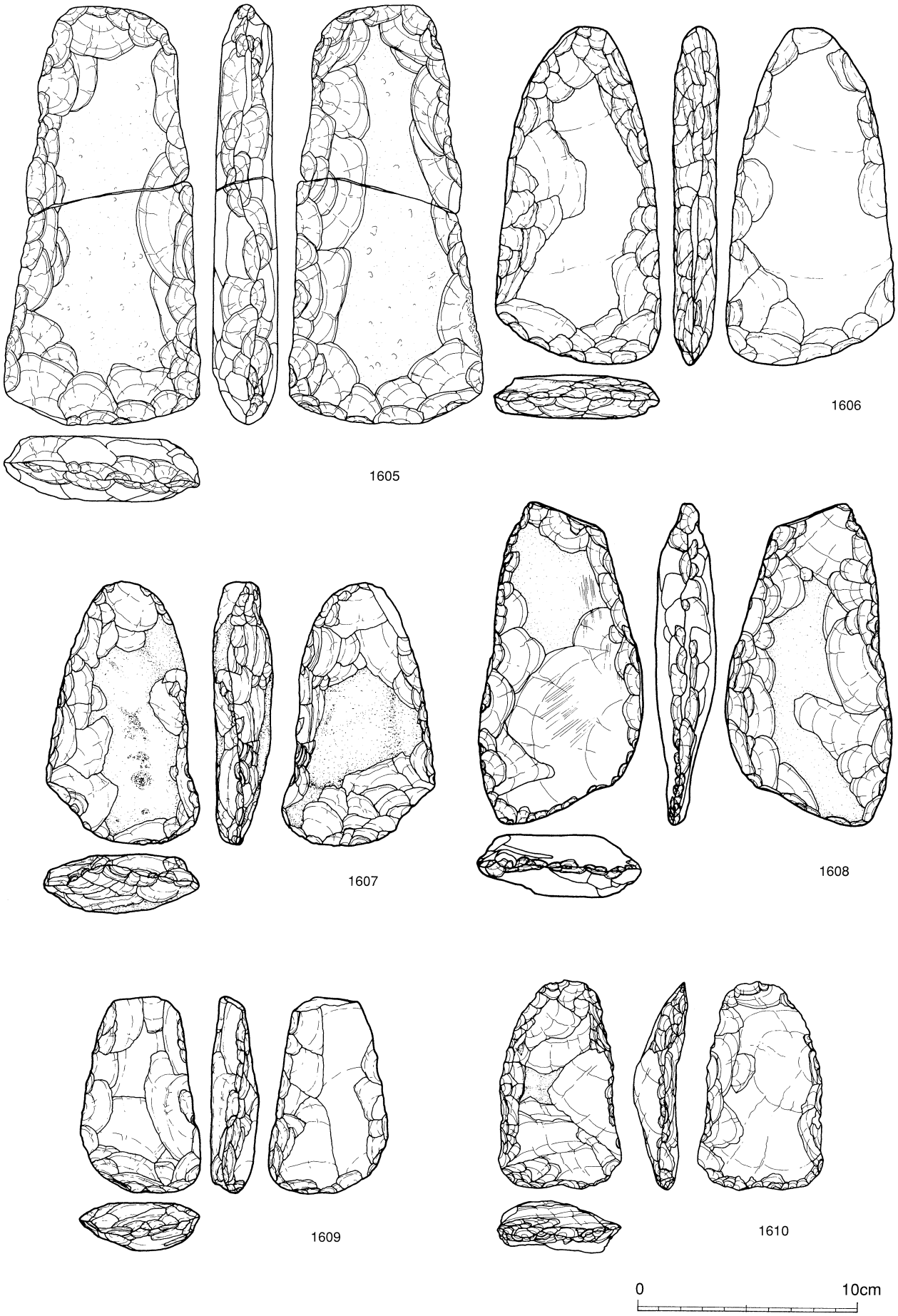




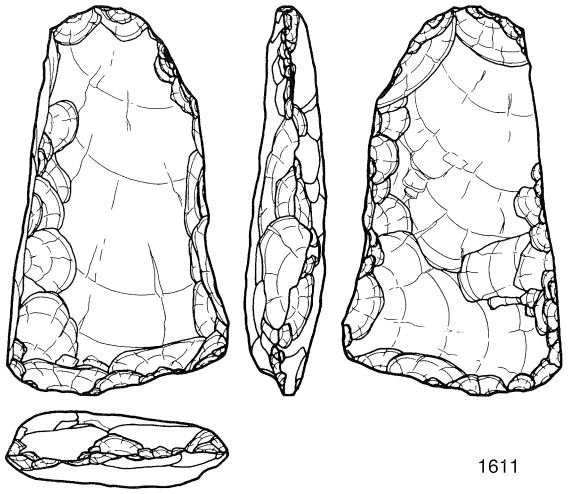
第249図　出土遺物　石器（60）石製土掘具



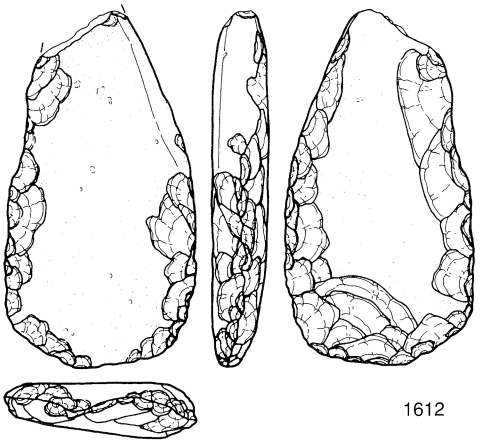
第250図　出土遺物　石器（61）石製土掘具



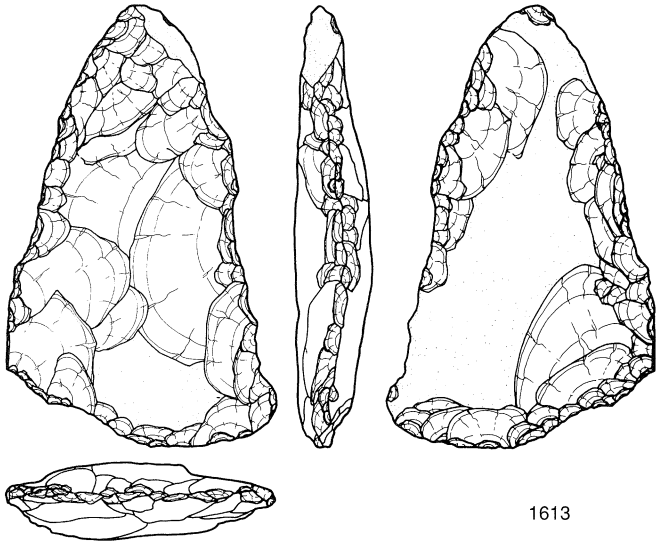
第251図　出土遺物　石器（62）石製土掘具



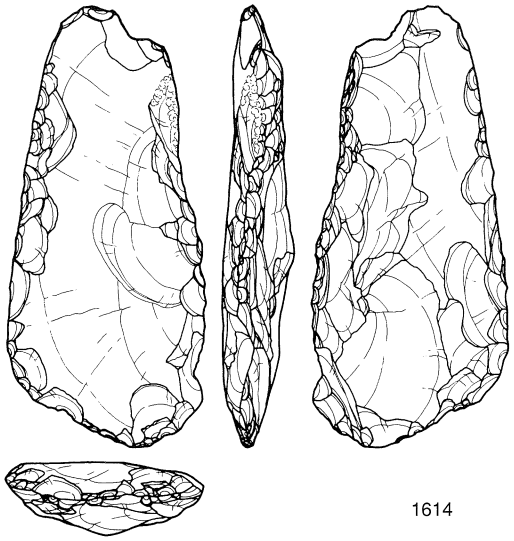
1611



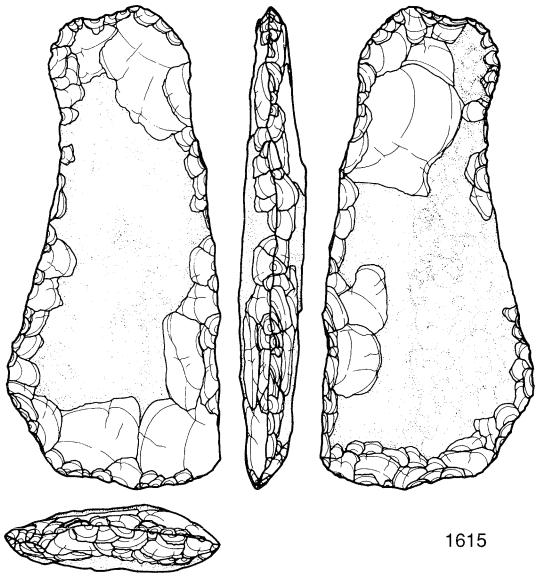
1612



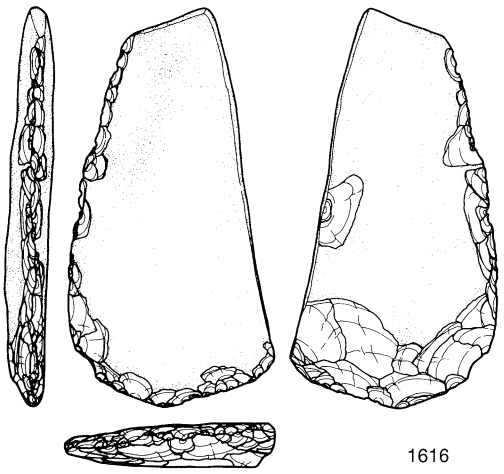
1613



1614



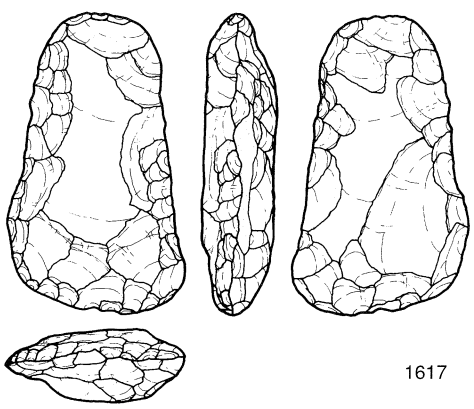
1615

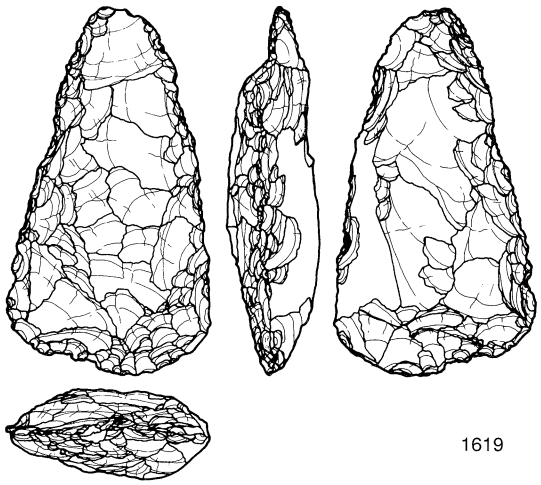


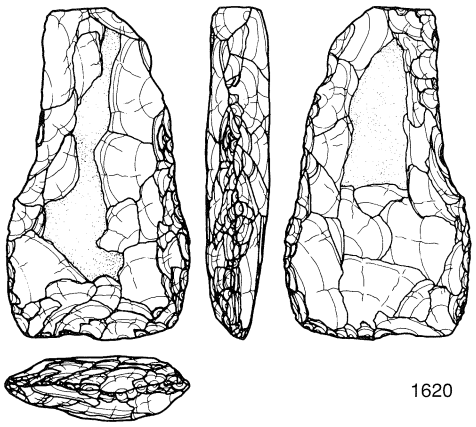
1616

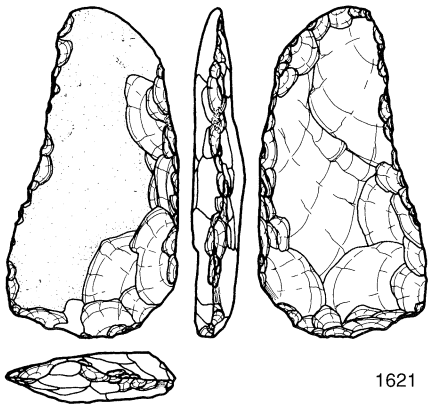
0 10cm

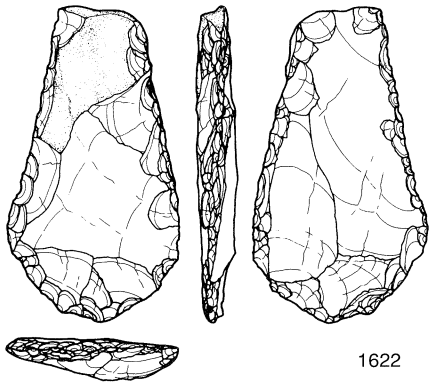
第252図　出土遺物　石器（63）石製土掘具

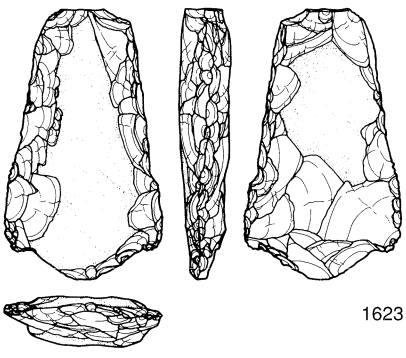


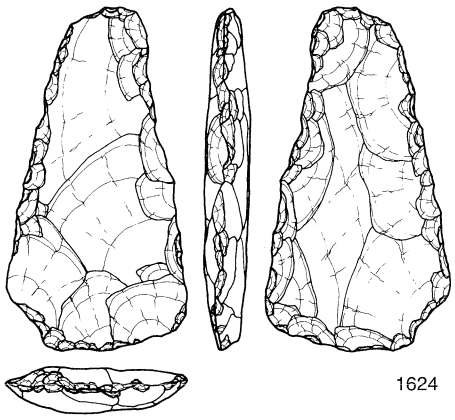


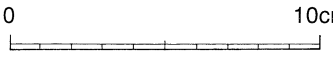




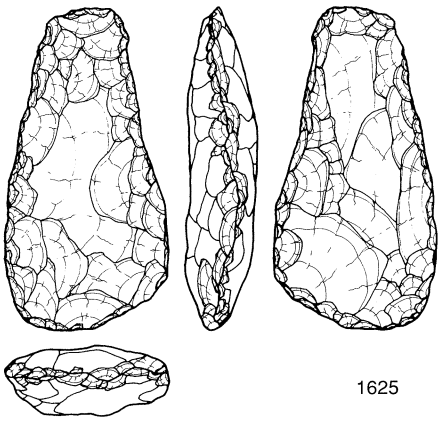


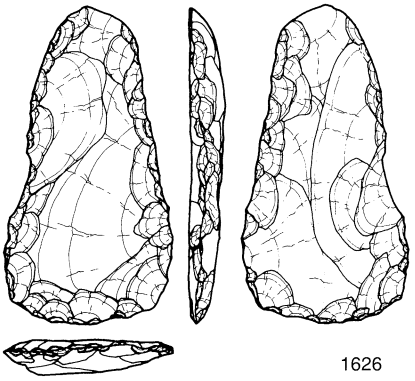


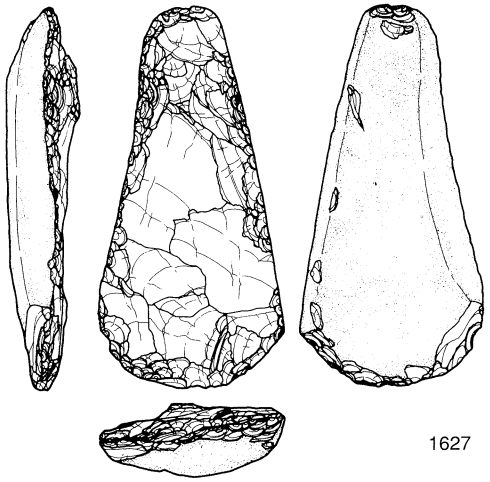


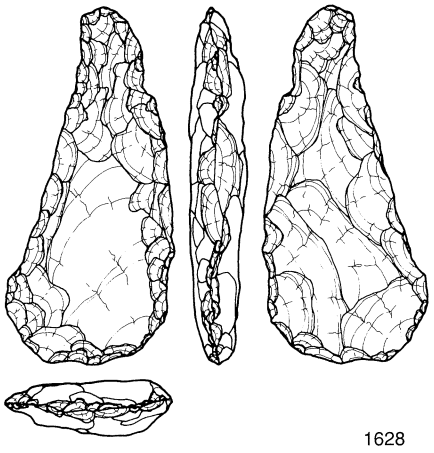


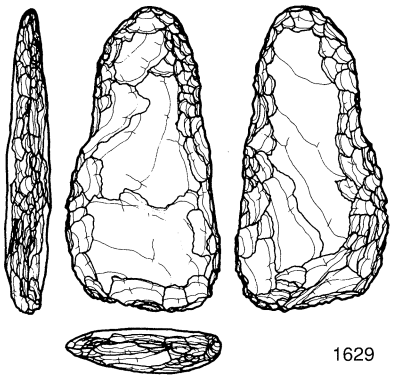
第253図　出土遺物　石器（64）石製土掘具

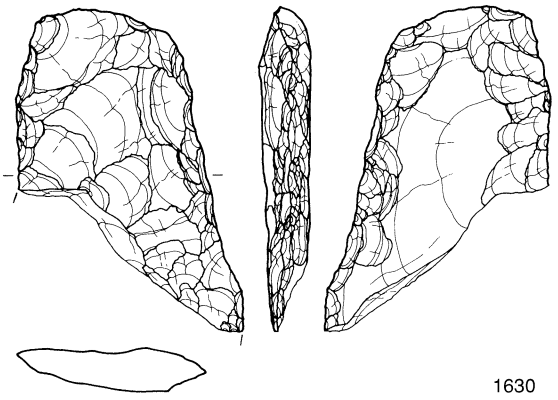


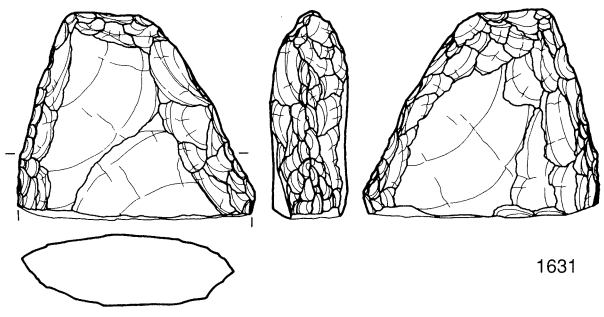


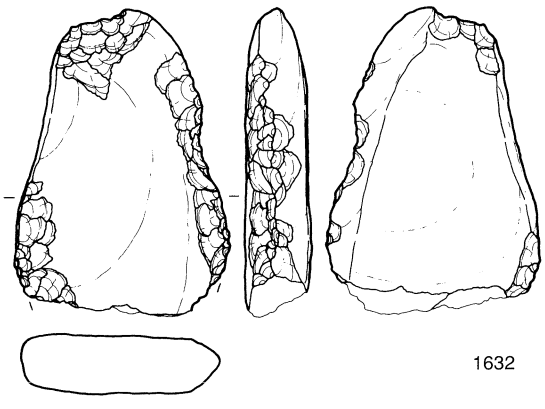


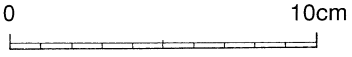




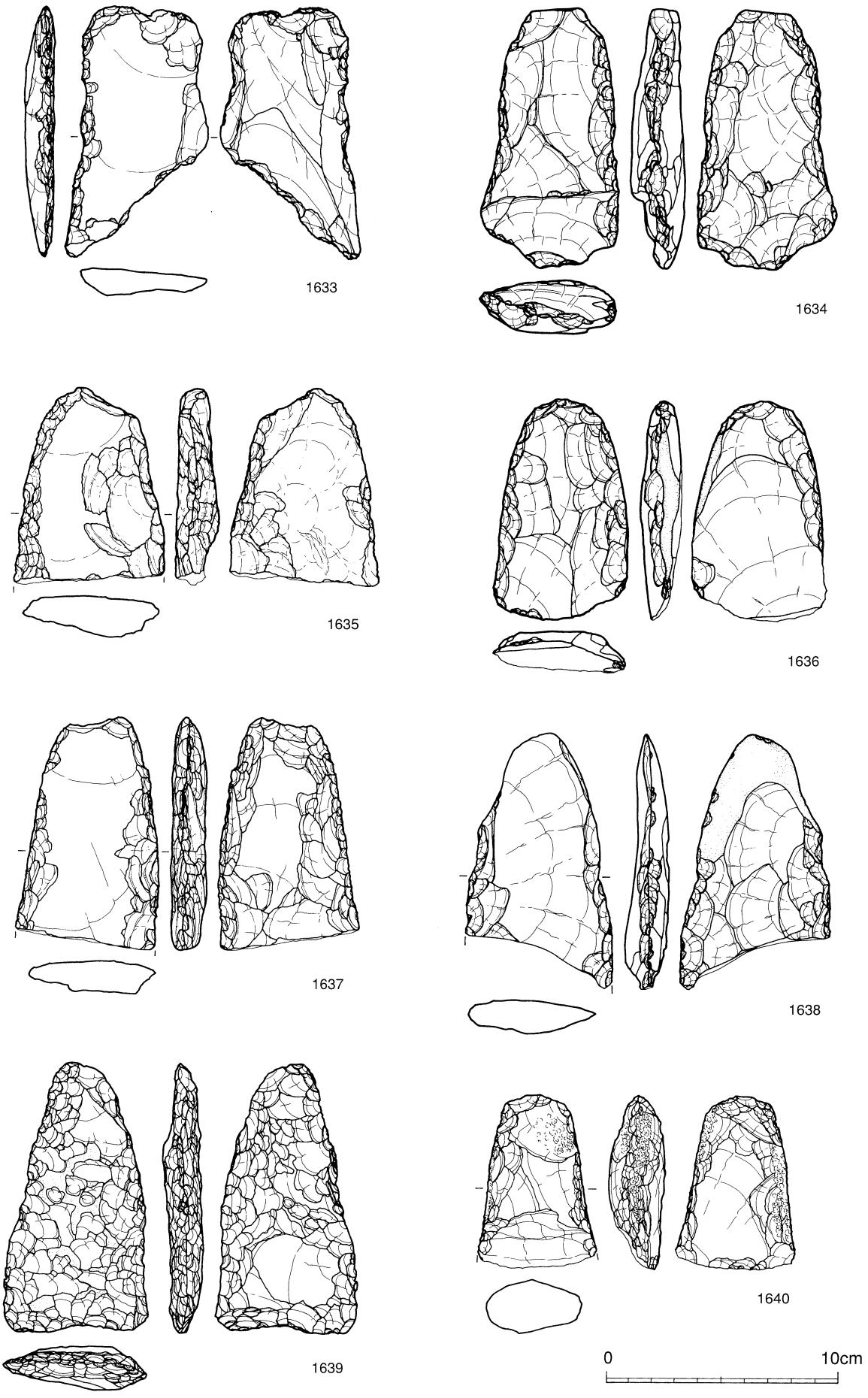




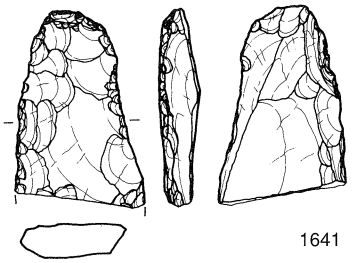


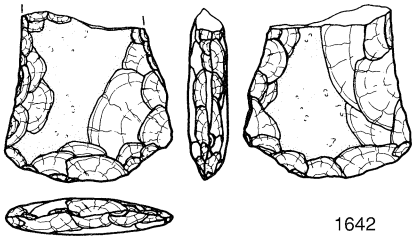


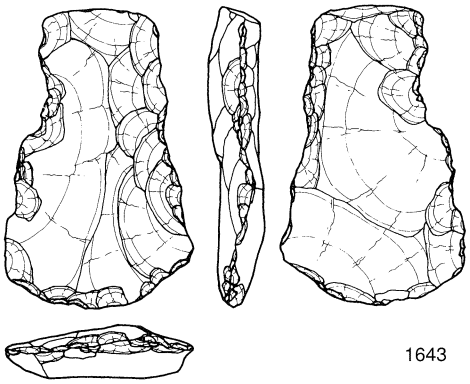
第254図　出土遺物　石器（65）石製土掘具

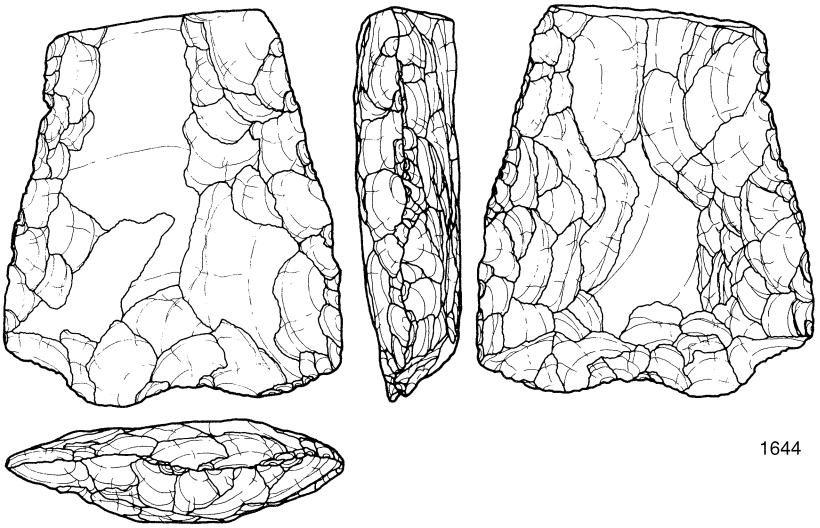


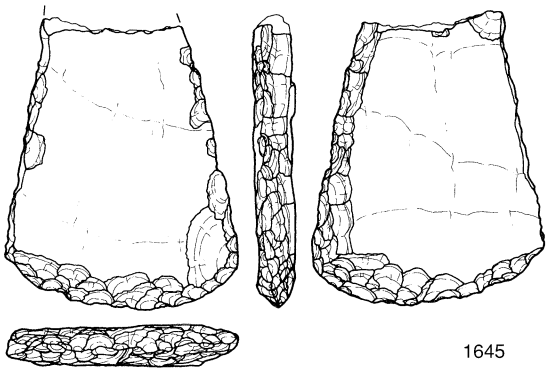
第255図　出土遺物　石器（66）石製土掘具

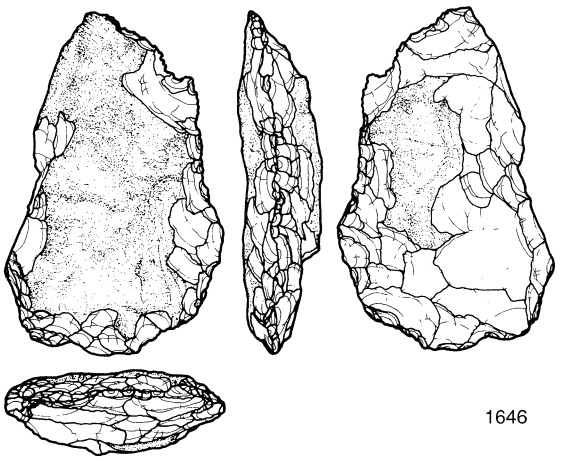




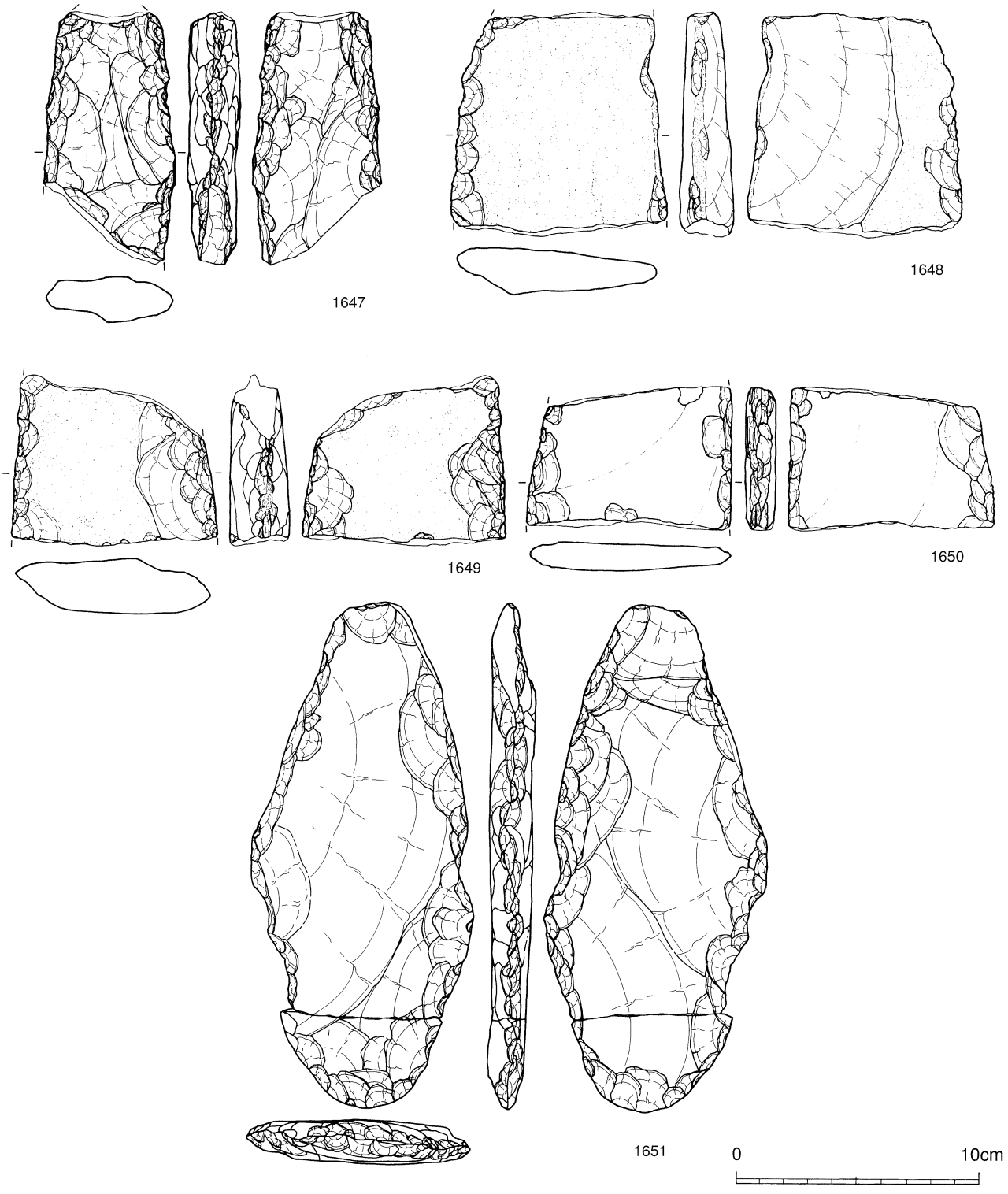




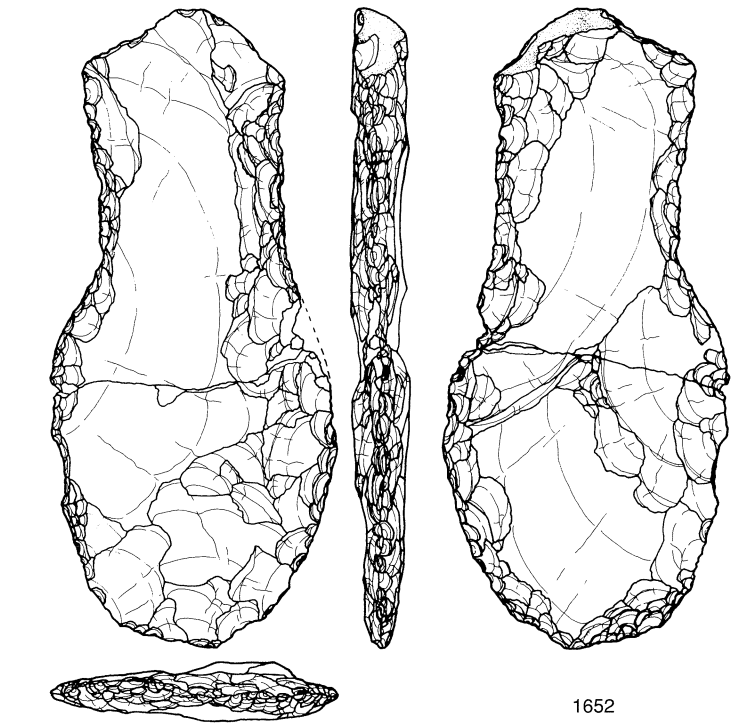


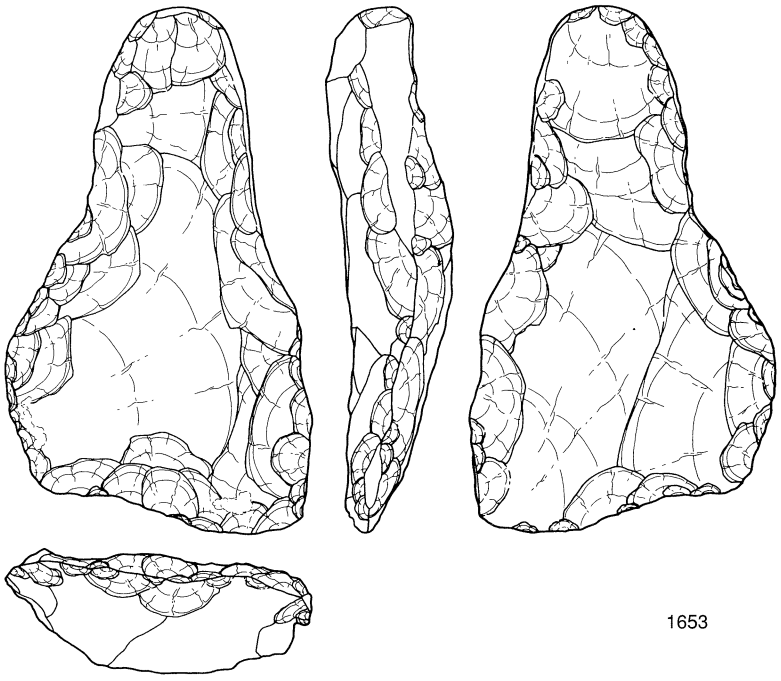


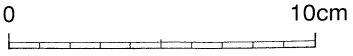
第256図　出土遺物　石器（67）石製土掘具



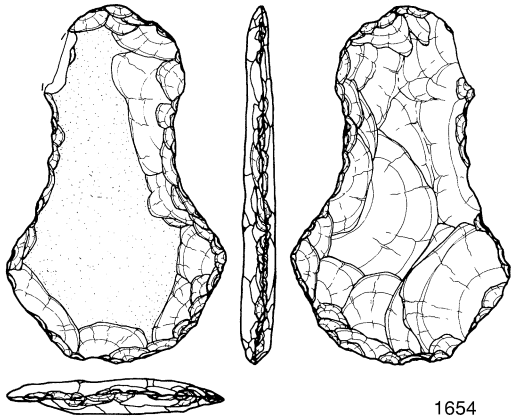
第257図　出土遺物　石器（68）石製土掘具

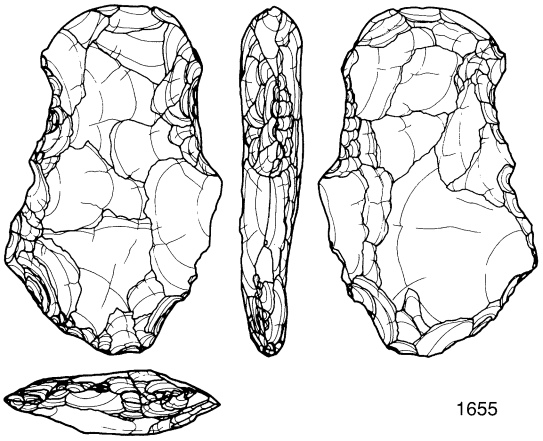


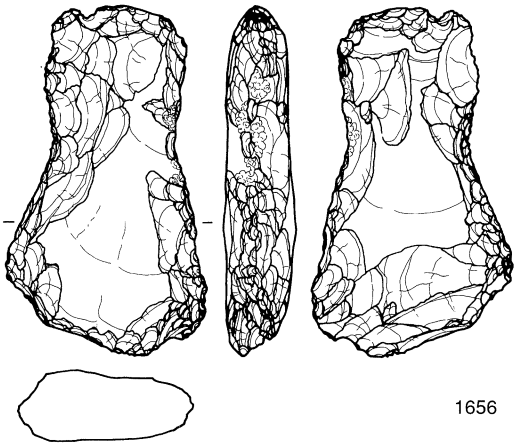


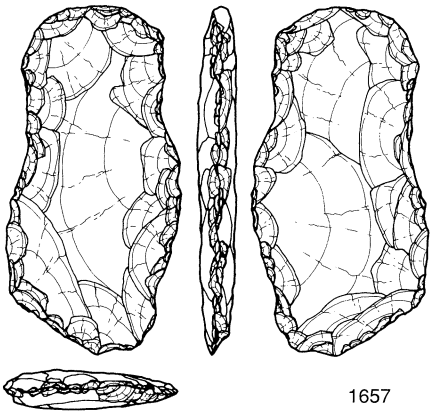


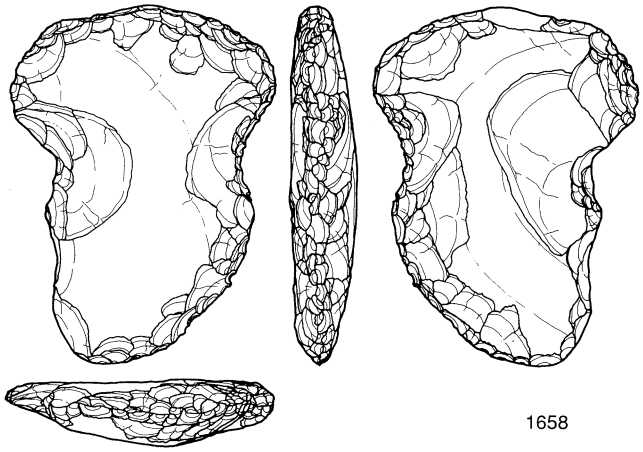
第258図　出土遺物　石器（69）石製土掘具

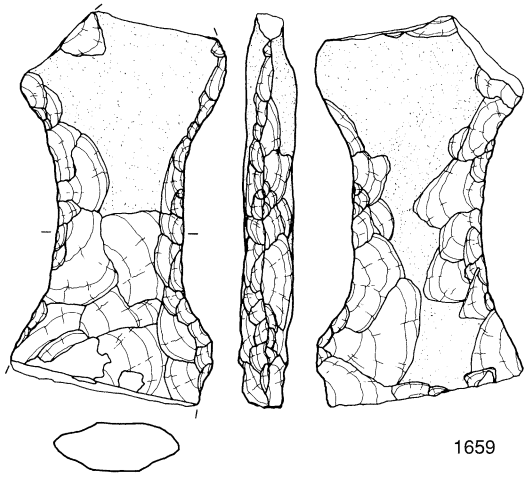


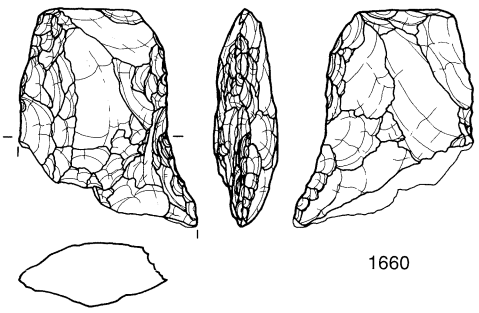


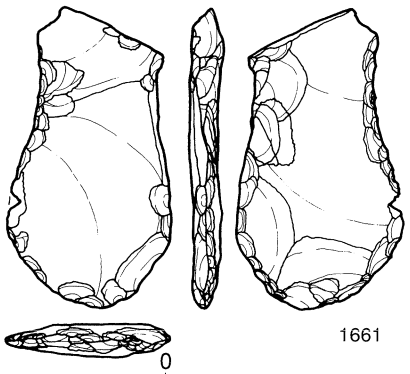




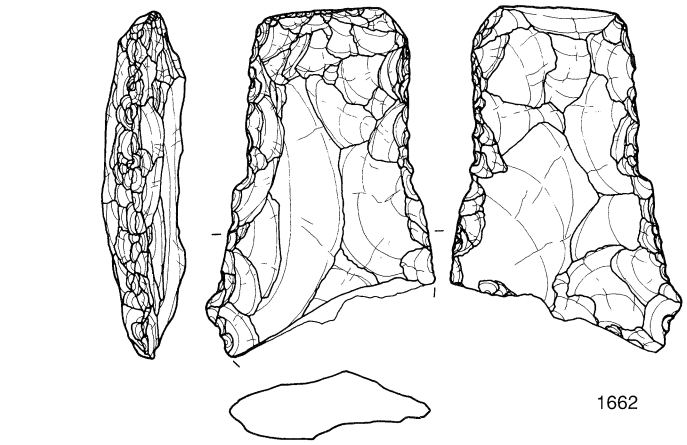


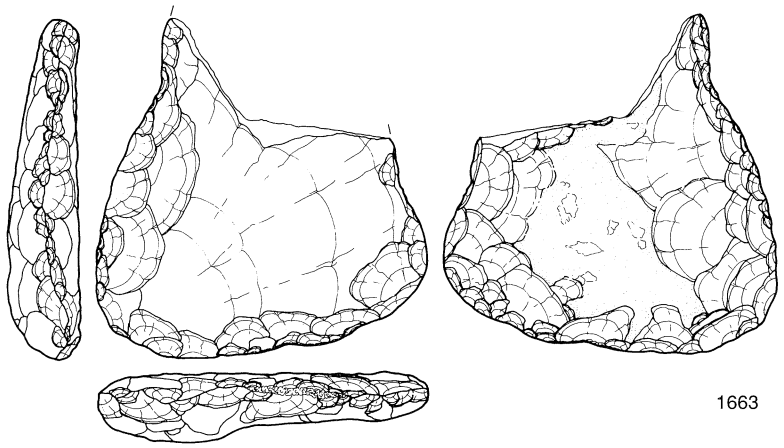


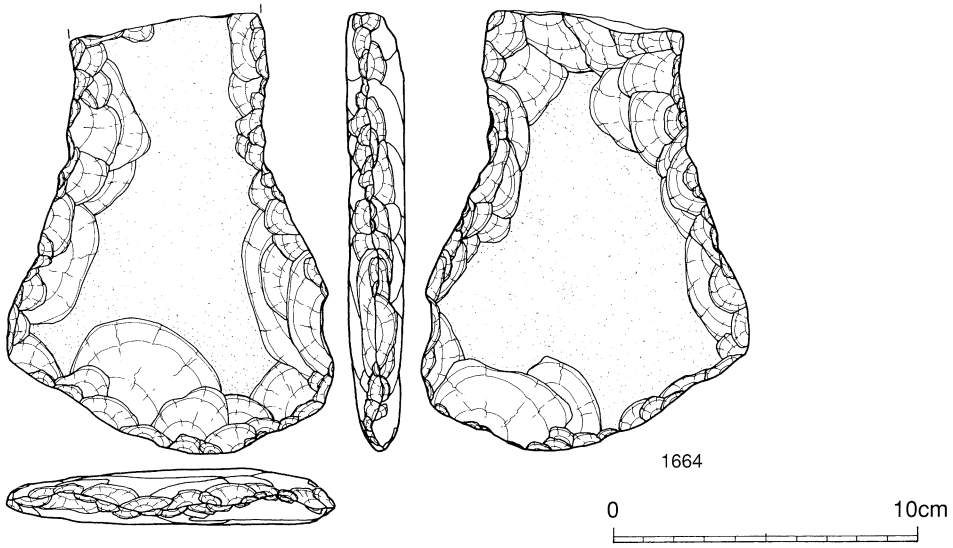




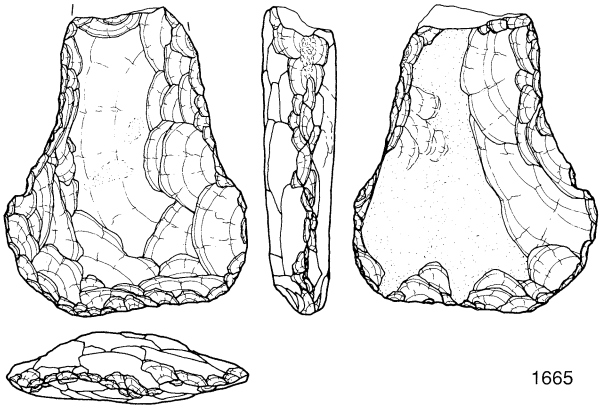
第259図　出土遺物　石器（70）石製土掘具



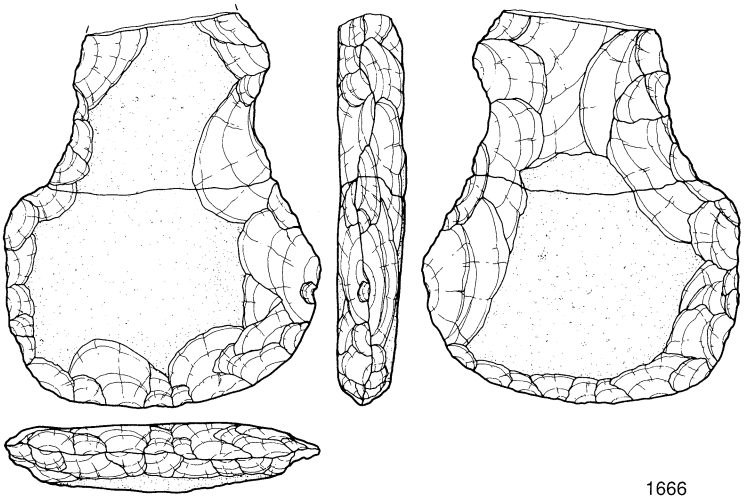




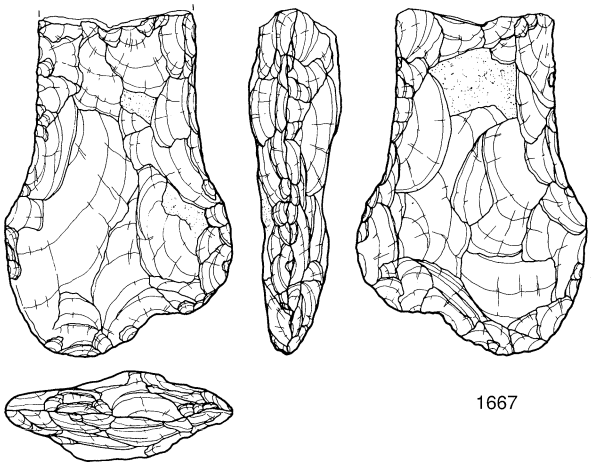
第260図　出土遺物　石器（71）石製土掘具



1665



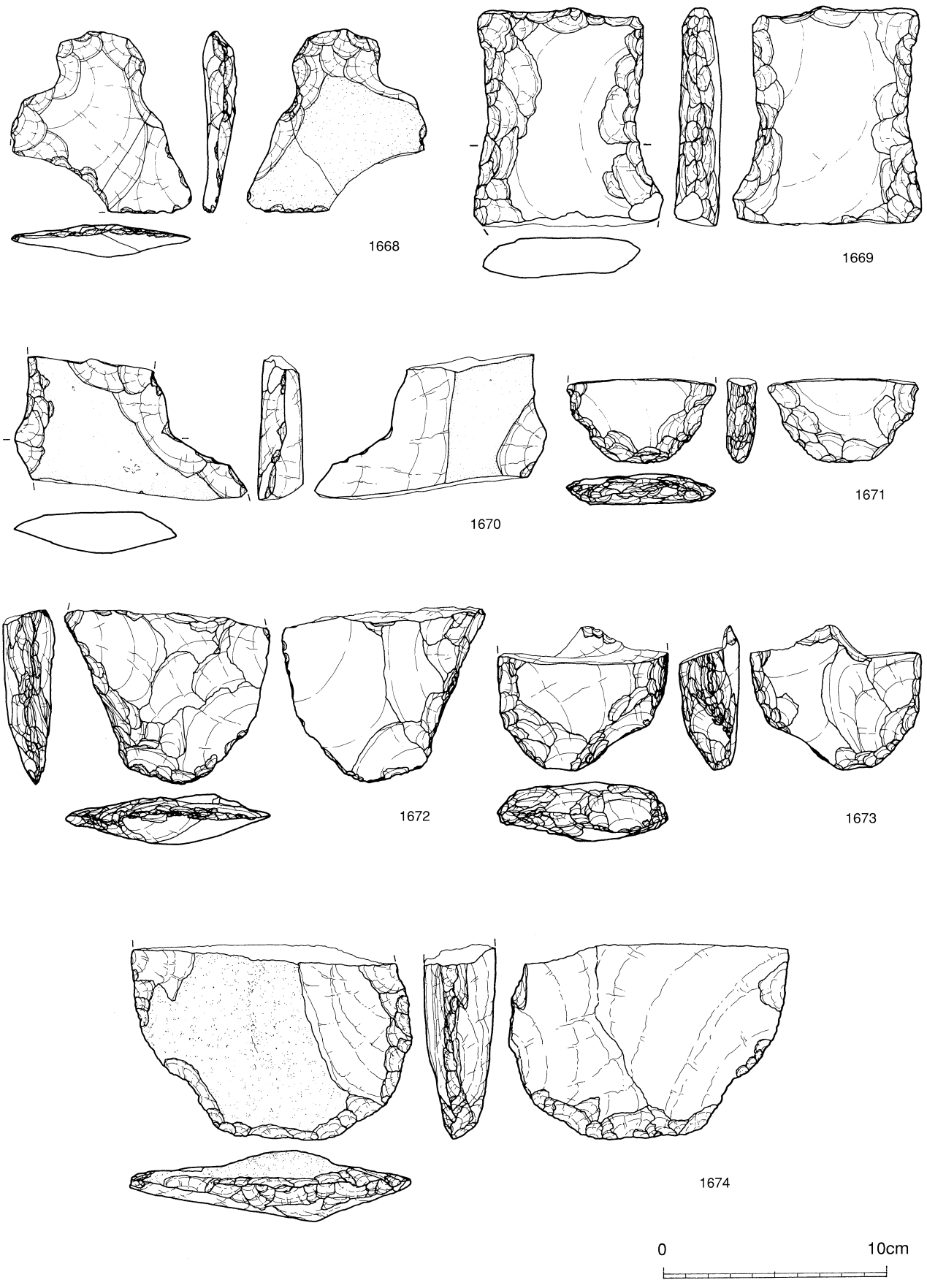
1666



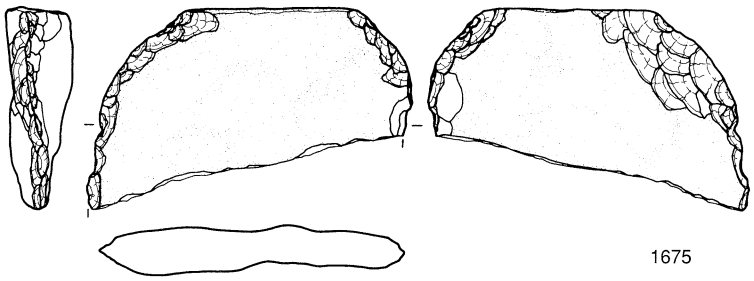
1667

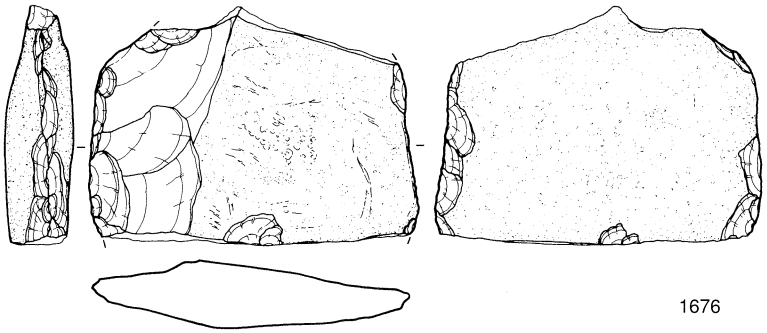
0 10cm

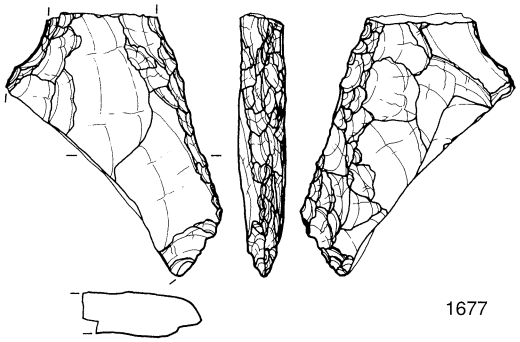
第261図　出土遺物　石器（72）石製土掘具

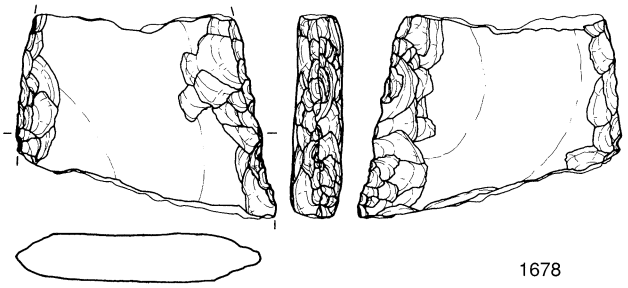


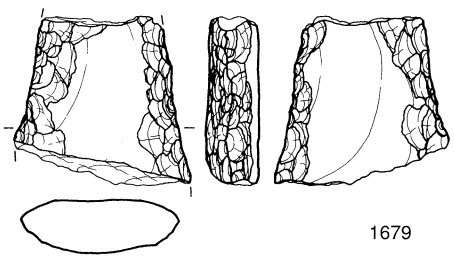
第262図　出土遺物　石器（73）石製土掘具

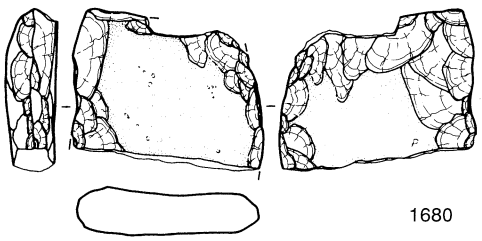


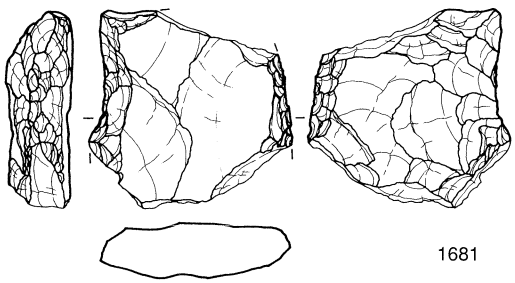


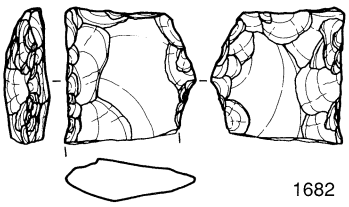


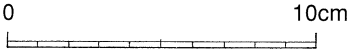




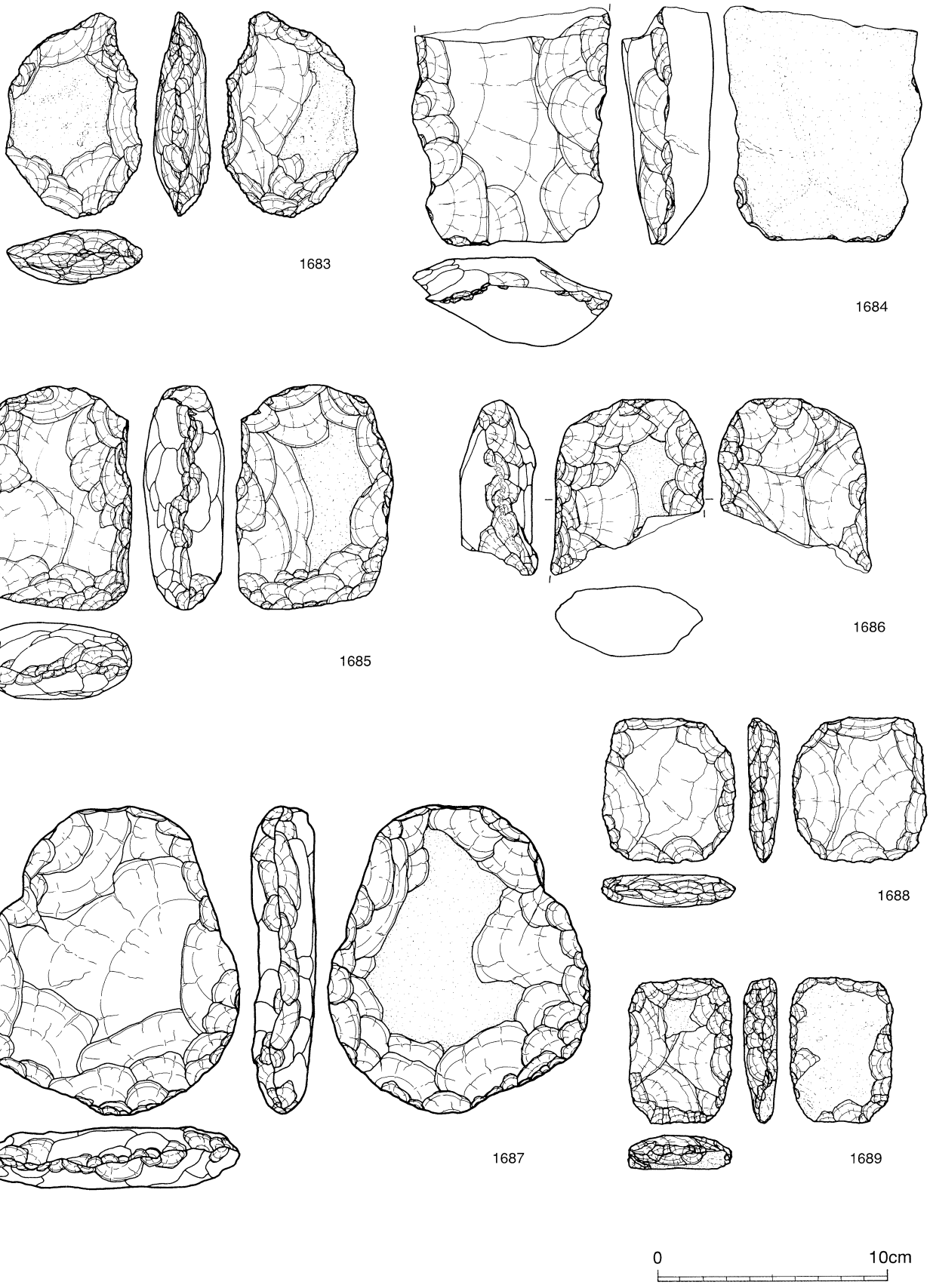




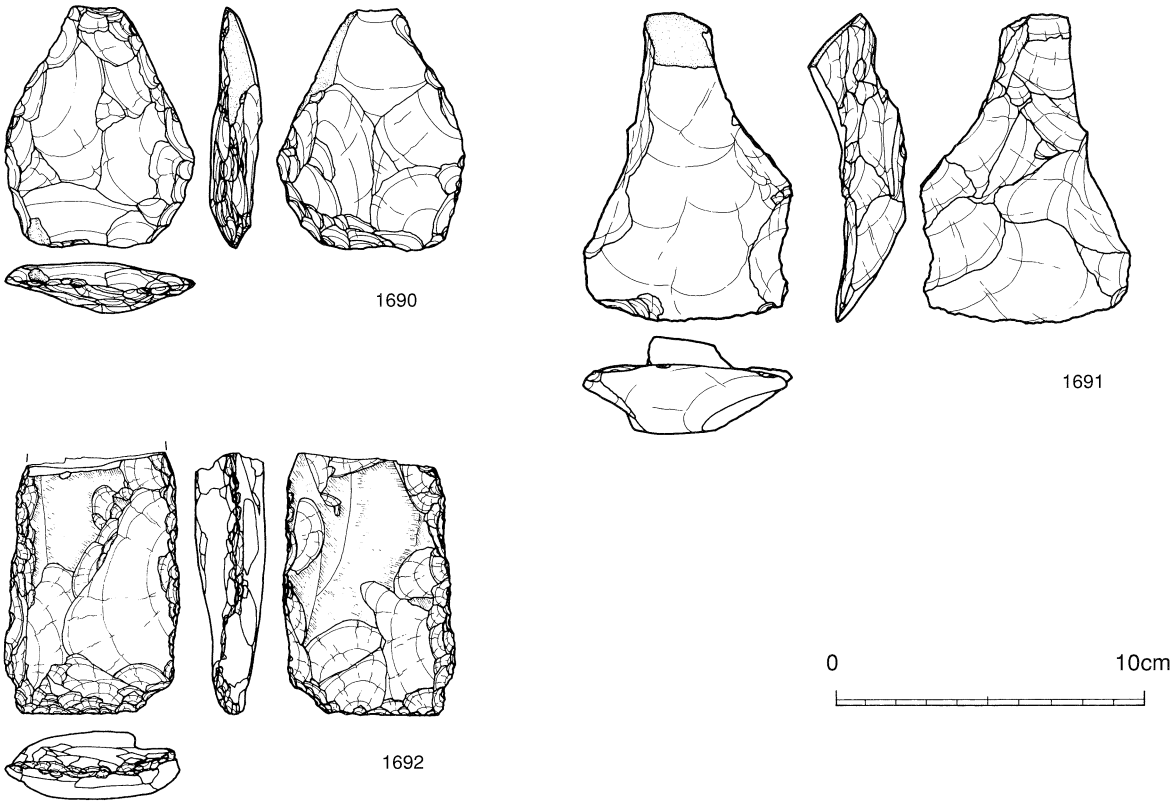




第263図　出土遺物　石器（74）石製土掘具



第264図　出土遺物　石器（75）石製土掘具



第265図　出土遺物　石器（76）石製土掘具

表40　石器観察表18

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第235図	1477	B-21		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	砂岩	11.48	8.35	2.34	360.00	15146	8.785	47
	1478	D-23	SD44		石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.07	6.98	1.92	155.00	9877	8.64	－
	1479				石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	13.02	6.95	2.52	355.00	－		47
	1480	B-21		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	12.47	7.59	2.21	250.00	15160	8.775	47
	1481	C-02		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	11.81	6.21	2.19	217.00	55	7.625	－
	1482	D-13		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	13.59	6.78	2.71	211.00	808	8.26	47
第236図	1483	C-19		Ⅱ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.61	5.46	0.96	85.00	7446	8.52	47
	1484	B-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.97	5.31	1.25	113.00	13484	8.76	47
	1485	B-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.91	5.73	1.41	106.00	13101		－
	1486	C-14		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	11.60	5.29	1.00	110.00	14341	8.2	－
	1487	C-22	SD44		石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	12.76	5.57	2.00	230.00	－		47
	1488	B-14		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.08	5.58	10.05	105.00	14473	8.375	47
	1489	C-20		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.32	4.99	1.17	65.00	7626	8.64	－
	1490	B-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	11.67	5.35	1.55	119.00	14830	8.89	－
第237図	1491	B-29	SR72		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	14.59	6.47	1.79	234.00	13165	9.225	－
	1492	C-36		Ⅱc	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	16.00	6.34	2.55	337.00	2375	9.545	47
	1493	D-4		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	11.10	5.74	2.31	140.00	－		－
	1494	C-17		Ⅱb	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.24	5.72	1.85	137.00	8320	8.325	－
	1495	C-17		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.73	5.70	0.92	76.00	8083	8.295	－
	1496				石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	11.34	5.44	1.85	140.00	－		－
第238図	1497	B-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	12.73	5.33	2.39	210.00	13638	8.22	－
	1498	C-24		Ⅰ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	11.52	4.71	1.79	132.00	11773	9.105	－
	1499	C-22	SD44		石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.98	4.51	1.41	106.00	12333	8.57	－
	1500	D-15		Ⅱ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	11.03	5.11	1.66	110.00	1380	8.02	－
	1501	B-27	SR72		石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.29	5.10	1.71	109.00	13114	9.04	－
	1502	B-24		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	11.93	5.05	1.83	155.00	14563	8.96	－
	1503	C-22	SD43		石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	11.45	5.29	1.83	126.00	－		－
	1504	B-22			石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	13.54	4.91	2.32	176.00	－		－
第239図	1505	C-14	SX75		石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	15.80	5.54	1.57	215.00	14337	8.17	47
	1506				石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	12.91	4.60	1.98	150.00	－		－
	1507	D-23		Ⅰ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	13.65	5.06	1.52	151.00	10686	8.62	47
	1508	C-24		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.79	4.85	1.63	105.00	－		－
	1509	D-4		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.58	3.95	1.11	100.00	690	7.647	－
	1510	B-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.65	4.68	1.29	61.00	11838	8.305	－
	1511				石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	15.02	4.86	1.99	175.00	－		47
	1512	D-12		Ⅱ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.73	4.35	1.31	68.00	237	7.652	－

表41　石器観察表19

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第240図	1513	C-24		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	11.27	6.16	3.10	330.00	12181	8.73	−
	1514	C-18		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.75	5.70	1.30	110.00	8859	7.355	−
	1515	B-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.00	6.17	1.90	170.00	15490	8.905	−
	1516	B-14		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	10.32	6.68	1.05	120.00	9685	8.34	−
	1517	D-4		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	7.60	6.00	2.25	100.00	1087	7.557	−
	1518	D-1		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	7.97	5.60	2.25	40.00	1428	8.095	−
	1519	C-48	C-48・一括		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	8.35	6.41	1.37	100.00	—		−
	1520	D-24		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	7.11	5.42	1.67	110.00	11585	8.535	−
第241図	1521	D-1		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	7.11	5.49	1.83	100.00	1563	8.09	−
	1522	B-30		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.95	4.99	2.14	110.00	16625	9.36	−
	1523	B-3		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	10.71	6.30	1.90	200.00	600	7.652	−
	1524	B-14		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	6.97	5.41	1.11	57.00	14091	8.265	−
	1525	D-16		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	8.09	5.07	2.10	99.00	1437	8.395	−
	1526	C-23			石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	7.94	4.06	2.98	89.00	—		−
	1527	D-16		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	8.99	4.79	2.11	114.00	3751	8.25	−
	1528	C-13		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	13.21	5.27	2.06	170.00	962	8.08	−
	1529				石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	7.12	4.47	0.99	30.00	—		−
	1530	D-20		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.05	4.61	1.53	94.00	7588	8.615	−
第242図	1531	D-15		Ⅱb	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	12.81	6.68	2.07	260.00	5607	8.085	−
	1532	B-32	SD23		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.71	5.94	2.91	200.00	16959	9.34	−
	1533	B-6		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	10.83	5.81	2.18	210.00	1352	7.69	−
	1534	A-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.50	5.50	1.88	190.00	15868	8.83	−
	1535	D-17		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	13.87	6.67	2.24	340.00	6407	8.1	−
	1536	D-18		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	11.03	6.35	1.83	200.00	6934	8.385	−
第243図	1537	C-22	SD43		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	13.50	7.80	2.35	420.00	12155	8.525	−
	1538	C-17		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.41	8.51	1.52	180.00	7651	8.445	−
	1539	C-5		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	7.27	7.05	1.22	175.00	943	8.12	−
	1540	B-23			石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	8.92	8.39	1.67	190.00	—		−
	1541	B-39			石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	11.31	6.66	1.14	160.00	—		−
	1542	B-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	11.47	7.20	1.86	280.00	15820	8.775	−
	1543	D-21		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.57	6.83	2.09	220.00	10033	8.635	−
	1544	D-23	SD44		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	6.71	8.74	2.44	195.00	9893		−
第244図	1545	C-3		Ⅱ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	8.80	4.88	2.10	110.00	449	7.702	−
	1546	B-33			石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.86	5.16	1.55	120.00	—		−
	1547	C-23			石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	8.03	4.49	1.36	64.00	—		−
	1548	A-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	7.22	3.61	1.68	70.00	15361	8.8	−
	1549	B-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.11	12.20	2.02	310.00	14857	8.895	−
	1550	C-22	SD43		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	13.00	10.75	2.94	660.00	12827	8.58	−
	1551	B-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	6.79	9.00	2.47	190.00	2991	8.345	−
	1552	B-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	10.19	6.47	1.53	140.00	13548	8.805	−
第245図	1553	D-02			石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	13.33	8.42	2.53	420.00	—		−
	1554	C-18		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	10.89	7.72	1.36	160.00	8862	7.425	−
	1555	B-14		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	5.57	7.58	1.35	100.00	14103	8.39	−
	1556	C-17		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.19	7.61	2.13	220.00	7669	8.375	−
	1557	B-15	SD43		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	11.12	7.55	1.25	200.00	13633	8.275	−
	1558	B-3		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	8.60	7.50	1.94	160.00	601	7.467	−
	1559	D-17		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.96	7.11	3.22	280.00	1595	8.075	−
	1560	C-22	SD43		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	11.59	6.91	1.91	220.00	12168	8.535	−
第246図	1561	D-16		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	11.44	6.90	1.20	150.00	5988	8.09	−
	1562				石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.06	6.90	1.92	165.00	—		−
	1563	B-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	8.72	6.77	1.36	100.00	13672	8.27	−
	1564	D-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	10.49	6.75	1.80	295.00	10672	8.765	−
	1565	D-13		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	6.75	6.64	1.80	70.00	680	8.37	−
	1566	D-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.51	6.64	2.16	190.00	10767	8.95	−
	1567	C-18		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.93	6.51	1.50	180.00	8854	7.365	−
	1568	A-32	SD		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.89	6.49	2.32	190.00	17043	9.465	−
第247図	1569	D-01	SK26	Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	7.78	6.40	2.22	190.00	194	7.405	−
	1570	D-1		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	8.09	6.38	2.65	180.00	1509	8.09	−
	1571	D-12		Ⅱ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	8.44	6.34	2.44	160.00	165	7.622	−
	1572				石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	11.14	6.32	1.90	131.00	—		−
	1573	C-14		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	11.05	6.24	2.30	275.00	977	8.17	−
	1574	D-12		Ⅱ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	8.42	6.20	1.52	120.00	561	7.632	−
	1575			Ⅱ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	5.19	6.20	1.47	60.00	—		−
	1576	C-16		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.15	6.16	0.86	60.00	14022	8.275	−
第248図	1577	D-24	SX		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.87	6.13	1.77	140.00	11605	8.33	−
	1578	C-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.85	6.06	1.96	110.00	8137	8.16	−
	1579	C-22	SD44		石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	7.00	5.94	1.22	80.00	11149	8.66	−
	1580	B-24			石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	8.25	5.91	1.95	100.00	—		−
	1581	C-14		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.78	5.84	1.62	115.00	1002	8.175	−
	1582	B-14	SX81		石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.09	5.75	2.58	148.00	14306	8.3	−
	1583	D-13		Ⅱ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.00	5.69	1.81	115.00	670	8.34	−
	1584	D-12		Ⅱ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	6.61	5.69	1.49	80.00	25	7.747	−
第249図	1585	D-12		Ⅱ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	11.25	5.67	1.65	131.00	48	7.717	−
	1586	B-22	SD43		石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	8.50	5.64	1.99	140.00	12830	9.1	−
	1587	C-14		Ⅱb	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	7.93	5.64	1.68	110.00	8438	8.275	−
	1588	C-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	8.22	5.52	2.53	110.00	12874	8.91	−
	1589				石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	8.75	5.35	1.89	87.00	—		−
	1590	B-33		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	7.35	5.46	1.60	81.00	16156	9.575	−

表42　石器観察表20

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第249図	1591	B-34		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	7.72	5.30	1.43	95.00	16458	9.415	−
	1592	C-17		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	4.33	5.50	1.14	40.00	−		−
	1593	B-32		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	7.75	5.29	1.55	130.00	16937	9.13	−
第250図	1594	C-17		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	6.73	5.27	1.21	59.00	8596	7.11	−
	1595	B-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	6.59	5.12	1.44	60.00	13955	8.27	−
	1596	B-24			石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	5.55	5.05	1.43	50.00	−		−
	1597	C-19			石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	9.34	5.10	1.71	120.00	−		−
	1598				石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	11.46	4.94	2.52	198.00	−		−
	1599	D-4		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	5.86	4.18	1.95	60.00	654	7.707	−
	1600				石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	10.41	4.78	1.62	102.00	−		−
	1601	D-17		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	頁岩	9.55	4.73	2.12	114.00	1703	7.67	−
	1602	C-01		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	5.41	4.93	8.55	80.00	−		−
	1603				石製土掘具	Ⅰ類	砂岩	6.05	4.00	1.24	40.00	−		−
	1604	C-5		Ⅲ	石製土掘具	Ⅰ類	安山岩	4.10	3.22	1.26	20.00	943	8.12	−
第251図	1605	B-34		Ⅱ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	19.50	8.08	2.91	670.00	1927	9.485	45
	1606	D-02		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	15.78	7.53	2.00	329.00	141	7.575	45
	1607	D-13		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	12.12	6.38	2.72	263.00	832	7.547	45
	1608	D-16		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	14.83	7.52	2.65	310.00	6028	8.11	45
	1609			Ⅱ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	9.05	5.19	2.07	117.00	574?		−
	1610	D-16		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	9.60	5.52	1.81	119.00	1526	8.095	−
第252図	1611	C-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	12.55	7.07	2.39	266.00	11238	8.54	−
	1612	C-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	11.58	6.19	1.81	175.00	2631	8.115	−
	1613	C-24		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	14.08	8.56	2.45	275.00	12456	8.27	−
	1614	Tr	Tr		石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	14.63	6.36	2.25	200.00	−		−
	1615	B-20		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	16.10	6.81	1.91	239.00	−		−
	1616	D-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	12.81	6.16	1.34	149.00	10844	8.505	45
第253図	1617	C-3		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	9.85	5.52	2.30	153.00	1240	7.635	45
	1618	C-16		Ⅱb	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	11.36	8.08	10.44	138.00	8749	7.235	45
	1619	D-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	9.83	7.91	2.27	225.00	3956	8.035	45
	1620	D-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	10.97	5.92	2.15	163.00	5654	7.93	45
	1621	C-14		Ⅱb	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	10.83	5.36	1.46	100.00	8449	8.03	45
	1622	C-25		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	11.23	5.68	1.07	74.00	11622	8.85	−
	1623	D-12		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	8.84	5.09	1.63	88.00	59	7.652	−
	1624	D-23	SD44	Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	11.34	5.91	1.09	110.00	9898	8.575	45
第254図	1625	C-15		Ⅱb	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	10.61	5.14	2.00	140.00	2636	8.14	−
	1626	C-14		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	10.48	5.44	1.02	70.00	976	8.155	−
	1627	B-22		Ⅳ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	12.46	5.29	2.35	179.00	13082	8.44	45
	1628	B-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	11.85	5.18	1.84	115.00	16611	9.835	45
	1629	B-2		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	9.84	4.55	1.46	85.00	1156	7.617	−
	1630				石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	7.84	5.65	1.96	100.00	−		−
	1631	B-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	6.80	7.71	2.50	158.00	14610	8.66	−
	1632	D-16		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	9.47	6.44	2.18	200.00	1525	8.1	−
第255図	1633	C-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	7.18	3.65	1.94	70.00	12866	8.925	−
	1634	C-14	SX75		石製土掘具	Ⅱ類	砂岩	11.45	5.84	2.34	173.00	14327	8.19	−
	1635	D-13		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	8.03	6.90	1.48	110.00	768	7.562	−
	1636	C-17		Ⅱb	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	9.54	5.71	9.58	112.00	7994	8.36	−
	1637	Tr	Tr		石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	9.81	5.83	1.44	120.00	−		−
	1638	B-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	9.30	6.36	1.79	120.00	15821	8.81	−
	1639	C-02			石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	11.69	6.02	1.53	120.00	−		45
	1640				石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	7.64	5.05	2.42	100.00	−		−
第256図	1641	B-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	6.13	4.12	1.26	20.00	16608	9.55	−
	1642	D-16		Ⅱb	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	5.16	5.18	1.26	50.00	7360	0	−
	1643	C-22	SD44		石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	9.89	5.80	1.60	110.00	11170	8.615	−
	1644	D-02		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	12.41	10.61	3.16	560.00	1476	8.325	−
	1645	B-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	9.18	7.50	1.15	125.00	15455	8.83	−
	1646	C-22	SD44	Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	11.34	6.92	2.61	198.00	11150	8.605	−
第257図	1647	B-30		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	頁岩	10.41	5.18	2.21	160.00	16634	9.375	−
	1648				石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	9.06	8.61	2.01	220.00	−		−
	1649	B-23		Ⅱ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	6.54	8.19	2.59	210.00	14887	8.92	−
	1650	C-22	SD43		石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	5.41	8.23	10.23	110.00	−		−
	1651	B-20		Ⅲ	石製土掘具	Ⅱ類	安山岩	21.37	8.91	1.83	425.00	−		46
第258図	1652	D-20		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	21.50	8.98	1.60	330.00	4270	8.595	46
	1653	A-32		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	17.20	10.05	3.50	575.00	16358	9.595	46
第259図	1654	D-23	SD44	Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	11.88	7.02	1.08	95.00	9896	8.505	46
	1655				石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	11.53	6.21	2.00	180.00	−		46
	1656	C-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	11.33	6.20	2.30	200.00	11803	8.925	46
	1657	A-34		Ⅱ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	10.66	5.64	1.30	110.00	−		46
	1658	A-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	11.86	8.22	2.16	255.00	15869	8.805	−
	1659	B-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	12.19	6.94	1.44	180.00	15837	8.76	−
	1660	C-3		Ⅱ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	6.64	4.92	2.10	37.00	391	7.672	−
	1661	C-02		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	9.16	6.40	0.92	70.00	95	7.575	−
第260図	1662	D-12		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	10.34	6.90	2.48	199.00	148	7.642	−
	1663	A-33		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	11.47	10.61	2.27	260.00	16472	9.66	−
	1664				石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	14.20	10.42	1.77	330.00	−		−
第261図	1665	B-29	SD55		石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	9.83	7.77	2.03	220.00	13167	9.225	−
	1666	D-21		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	12.53	12.10	2.14	370.00	−		−
	1667	B-21			石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	11.25	7.20	2.83	220.00	15140	8.675	−
第262図	1668	D-25	SP59		石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	8.66	7.75	1.21	60.00	−		−

表43　石器観察表21

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第262図	1669	C-22	SD43		石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	9.81	8.22	1.76	230.00	—		–
	1670	D-24		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	5.73	9.75	2.00	140.00	—		–
	1671	C-02			石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	3.75	6.22	1.30	40.00	—		–
	1672	C-24		Ⅳ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	7.63	8.87	2.25	140.00	12317	8.265	–
	1673	C-23		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	6.41	7.55	2.70	121.00	12949	8.58	–
	1674	C-26		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	8.33	11.78	2.95	320.00	11732	9.005	–
第263図	1675	C-14		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	5.16	10.72	2.14	130.00	8486	8.325	–
	1676	D-23	SD44		石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	7.53	10.23	2.24	220.00	9886	8.57	–
	1677	B-3		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	7.50	5.50	1.25	75.00	988	7.547	–
	1678	B-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	5.42	8.26	1.52	130.00	15198	8.805	–
	1679	C-17		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	5.04	5.41	1.60	80.00	7692	8.32	–
	1680	BC-23			石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	4.18	6.18	1.42	80.00	—		–
	1681	C-16		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	6.55	6.61	1.88	120.00	7784	8.18	–
	1682	C-26		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	4.27	4.15	1.21	40.00	11729	8.96	–
第264図	1683	C-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	8.11	5.79	2.36	130.00	9081	8.047	–
	1684	C-14		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	9.52	7.83	3.23	360.00	1017	8.175	–
	1685	D-12		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	9.98	6.66	3.41	330.00	165	8.19	–
	1686	B-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	5.83	7.00	3.33	180.00	2824	8.375	–
	1687	A-33		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	安山岩	13.59	11.25	2.78	498.00	16489	9.46	–
	1688	B-15		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	6.23	5.45	1.35	70.00	11805	8.355	46
	1689	D-22		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	砂岩	6.33	4.39	1.57	60.00	10262	8.5	46
第265図	1690	B-26		Ⅲ	石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	7.94	6.05	1.52	78.00	14669	9.115	46
	1691	C-16	SJ31		石製土掘具	Ⅲ類	頁岩	10.06	6.37	2.76	124.00	—		46
	1692	D-16		Ⅱb	石製土掘具	石斧転用	砂岩	8.30	6.13	2.27	135.00	7382		–

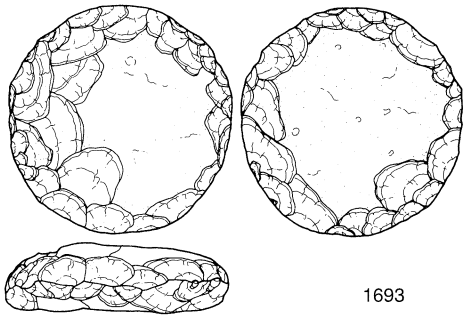
⑩円盤状石製品（第 266～269 図　1693～1717）

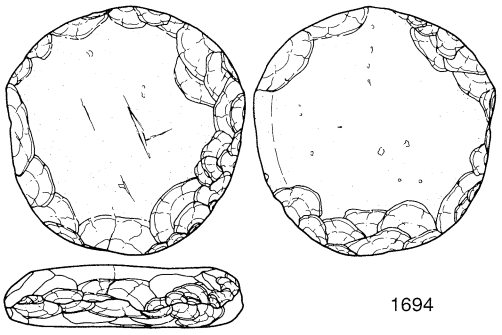
今回の調査では 25 点の円盤状石製品が出土した。石材は安山岩が最も多く，砂岩や頁岩もある。平面の形状は正円に近いものが多いが，1704・1706・1708・1714・1716 などややいびつなものもある。大きさや厚さが類似している点と，剥離の仕方が同様であることから，円盤状石製品に含めてある。円盤状石製品は縄文時代後期から晩期にかけて使われたものであり，石材，厚さ，剥離方法が石製土掘具に類似している。楔として使われた結果，最終的な形が円盤状になったという考えもあるが，直径５cm以下のものがみられない点など疑問も多い。使われた時期が一時的である点も，縄文時代を通して一般的に使われていたとは考えにくい。時期的に重複しながら先行する十字形石器も同様な材質と剥離手法を用いることから，何らかの関係が窺える。両者の共通点は，他にも直径が近い点と求心的な形をしているという点がある。十字形石器は祭祀用とする考え方もあるが量的に多すぎる。

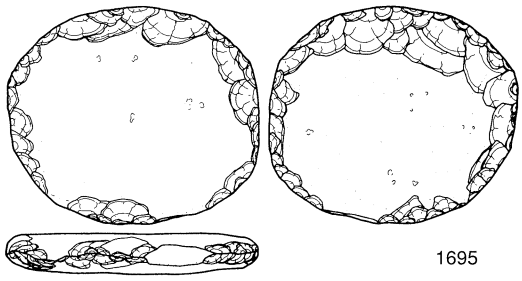
ある程度実用的でありながら，時間的に継続しない点は他の材質に置き換わった可能性もある。石の特性は硬い点や重い点などがあり，その特性を活かした使われ方も想定しなければならない。形状と石材，それに継続性がない同様な石器には環状石斧もある。いろいろな点を考慮しながら想定される用途を出し合った上で，実物を観察しながら絞り込んでいく方法が良いと考える。その想定される用途の一つとして，民族事例にある十字形と円形の突起をもつ棍棒も挙げておきたい。

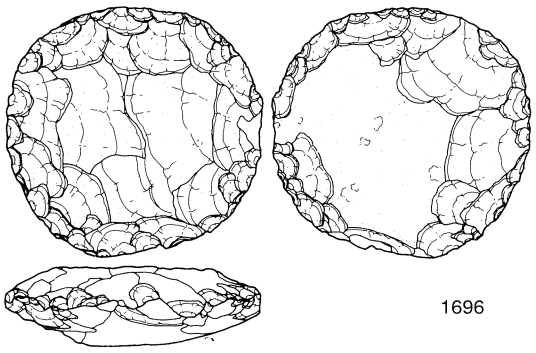
表44　石器観察表22

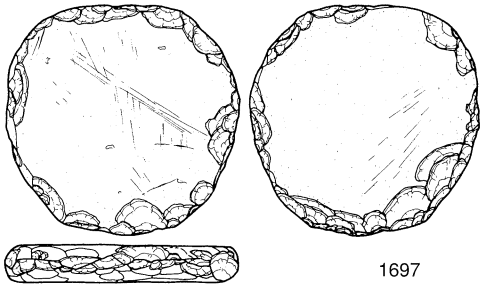
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第266図	1693	D-12		Ⅱ	円盤形石製品		安山岩	7.56	7.22	1.82	160.00	20	7.632	49
	1694	B-15		Ⅱb	円盤形石製品		安山岩	8.11	7.74	1.94	190.00	3000	8.405	49
	1695	A-22		Ⅲ	円盤形石製品		安山岩	7.11	8.00	1.34	110.00	14834	8.9	49
	1696	D-18		Ⅲ	円盤形石製品		安山岩	8.30	8.31	2.26	220.00	7145	8.365	49
	1697	C-18		Ⅱb	円盤形石製品		砂岩	7.78	7.94	1.19	120.00	8844	7.44	49
	1698	C-15		Ⅲ	円盤形石製品		安山岩	7.84	6.76	2.51	140.00	9068	8.105	–
	1699	D-21		Ⅲ	円盤形石製品		砂岩	9.39	10.82	2.49	320.00	10820	8.44	49
	1700	A-21			円盤形石製品		安山岩	6.24	6.35	1.02	70.00	—		–
第267図	1701	C-17		Ⅱb	円盤形石製品		砂岩	6.44	7.42	1.95	120.00	8314	8.39	–
	1702	D-21		Ⅲ	円盤形石製品		安山岩	9.25	11.25	1.00	120.00	10615	8.485	–
	1703	B-22		Ⅲ	円盤形石製品		安山岩	8.92	8.14	2.25	260.00	13544	8.605	–
	1704	C-24		Ⅳ	円盤形石製品		安山岩	11.58	9.95	2.23	335.00	12328	8.315	–
	1705		SR?		円盤形石製品		安山岩	6.25	10.50	1.69	140.00	—		–
	1706	C-15			円盤形石製品		安山岩	7.97	7.90	1.17	115.00	—		–
	1707	C-18		Ⅲ	円盤形石製品		安山岩	4.53	9.42	1.44	100.00	8832	7.37	–
	1708				円盤形石製品		安山岩	9.01	12.18	1.57	270.00	—		–
第268図	1709	A-26			円盤形石製品		頁岩	6.18	6.12	0.90	43.00	—		49
	1710	B-15	SK76		円盤形石製品		安山岩	8.28	12.50	2.01	350.00	—		49
	1711	C-16		Ⅲ	円盤形石製品		頁岩	8.86	9.48	1.65	205.00	7877	8.265	49
	1712	D-22		Ⅲ	円盤形石製品		安山岩	8.50	9.61	3.14	310.00	10266	8.53	–
	1713	D-01	SK26	Ⅲ	円盤形石製品		安山岩	7.69	8.26	2.10	180.00	190	7.375	–
	1714	D-21		Ⅲ	円盤形石製品		砂岩	7.77	11.08	2.63	320.00	—		–
	1715	C-16	SD49?		円盤形石製品		安山岩	9.57	8.13	1.88	180.00	9383	8.2	–
	1716	D-11		Ⅲ	円盤形石製品		頁岩	8.91	10.06	1.84	190.00	1555	8.07	–
第269図	1717	D-21		Ⅲ	円盤形石製品		安山岩	14.50	14.68	1.65	405.00	10570	8.575	–

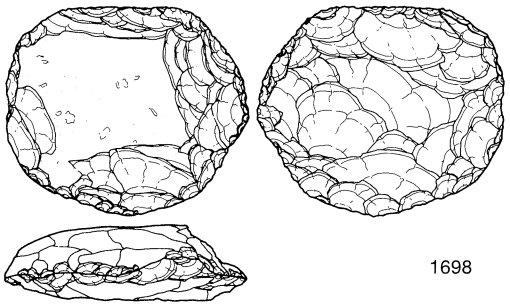


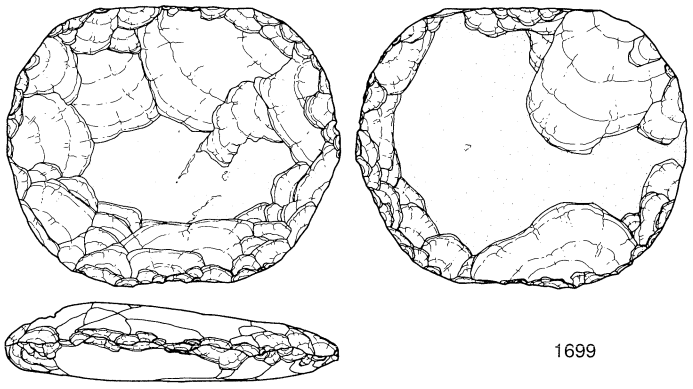


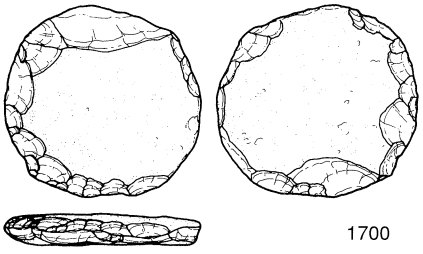




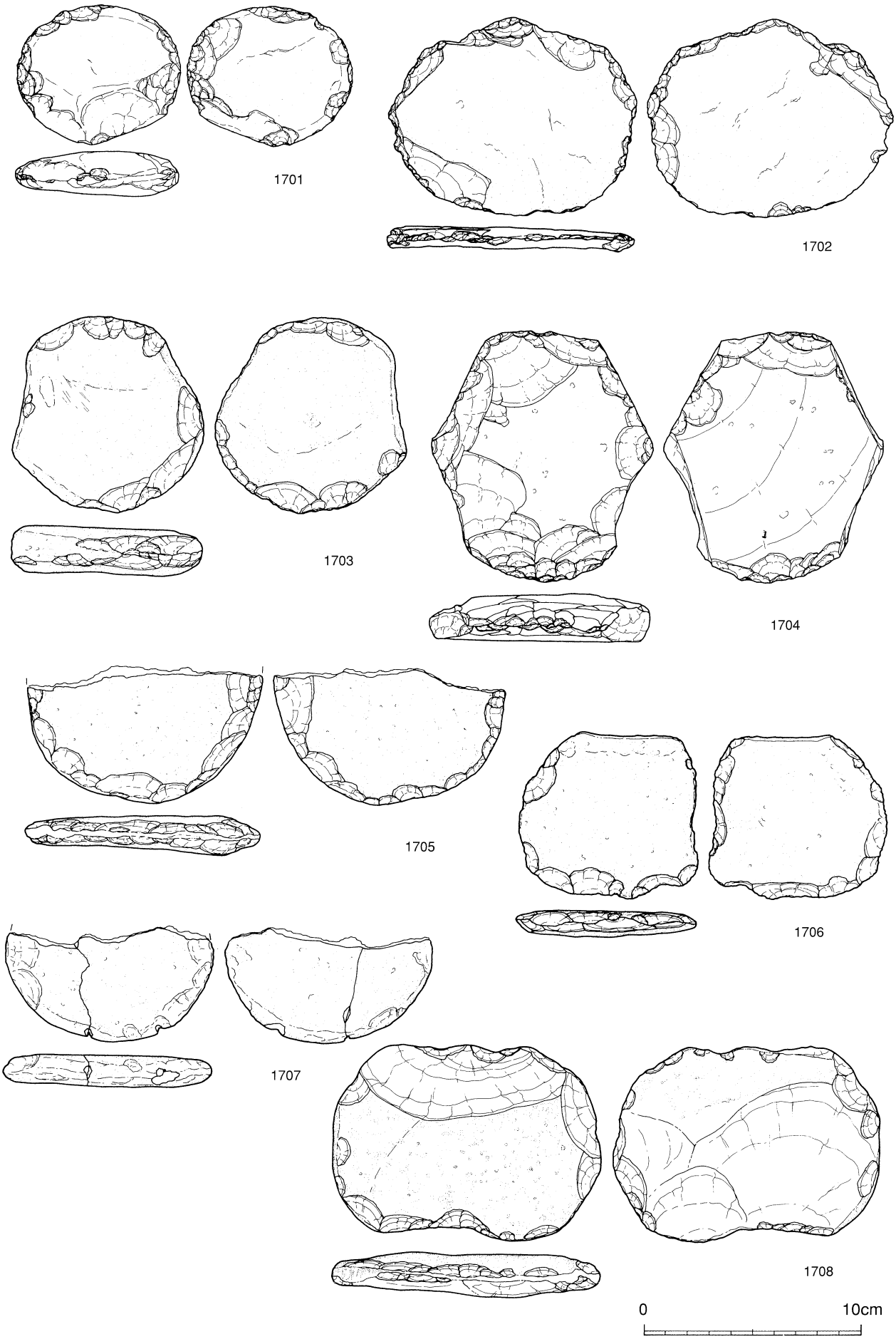




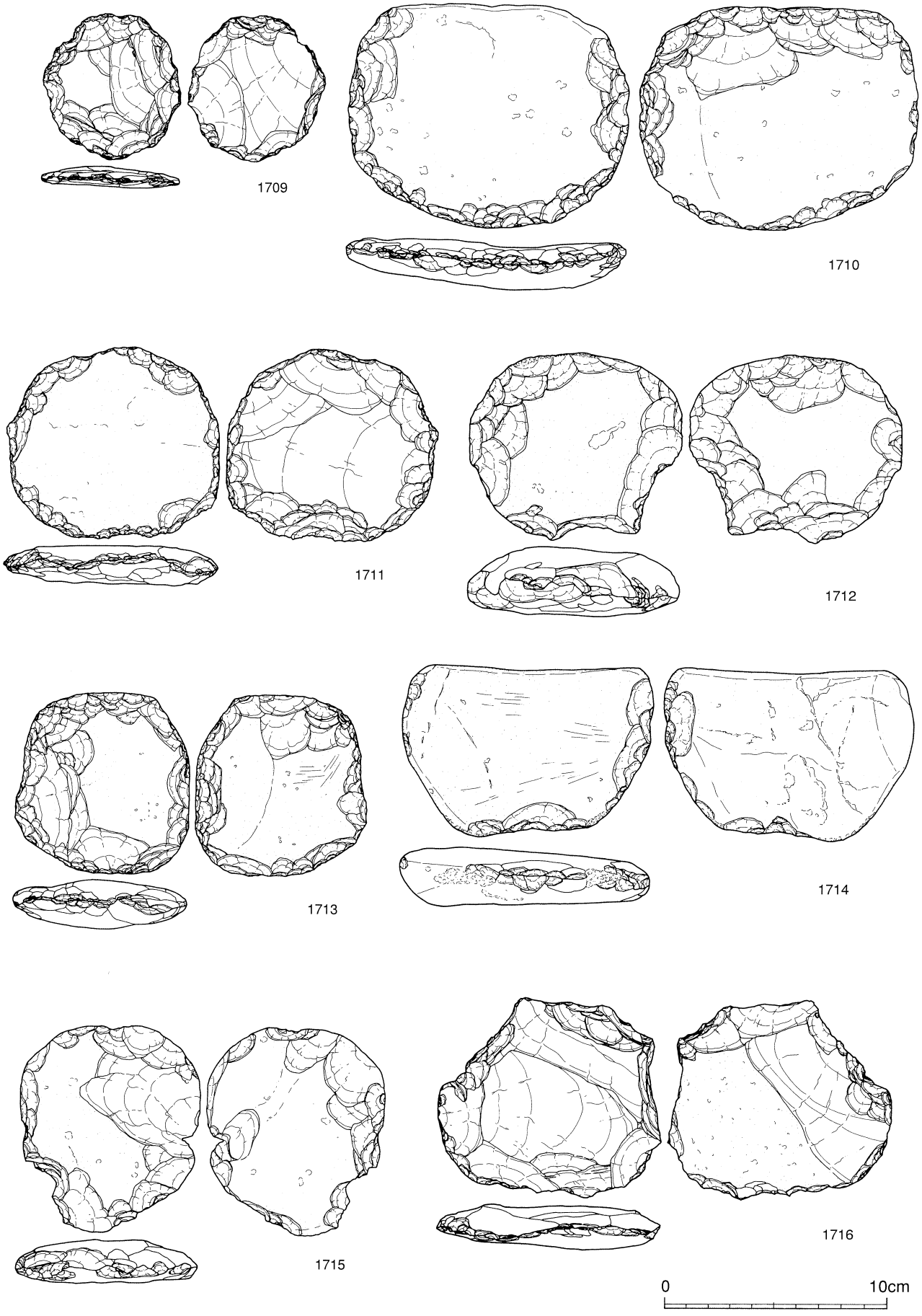




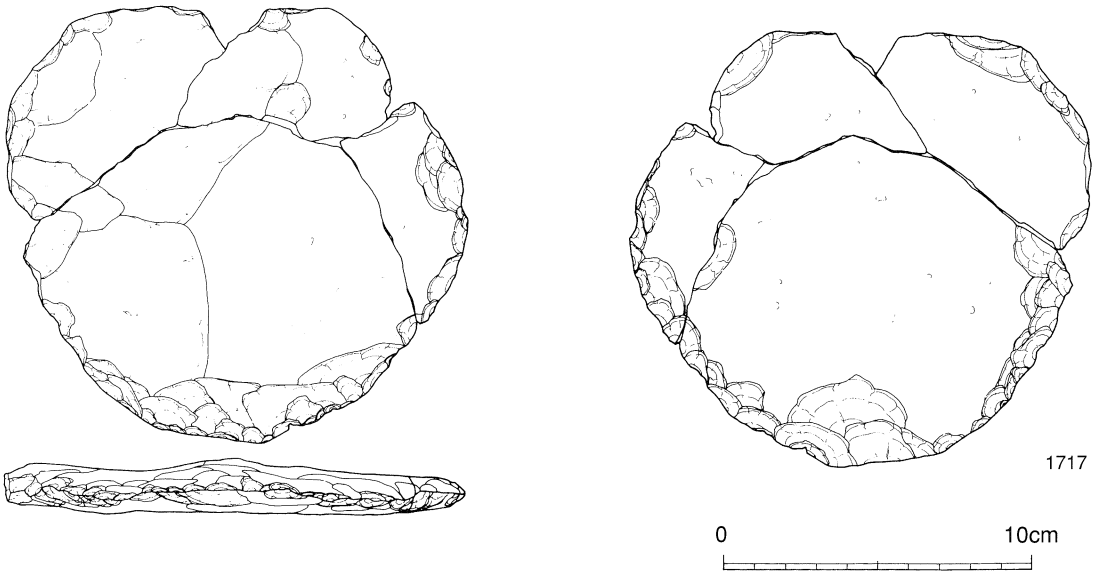
第266図　出土遺物　石器（77）円盤状石製品



第267図　出土遺物　石器（78）円盤状石製品



第268図　出土遺物　石器（79）円盤状石製品



第269図　出土遺物　石器（80）円盤状石製品

⑪磨石・敲石・凹石（第270～285図　1718～1928）

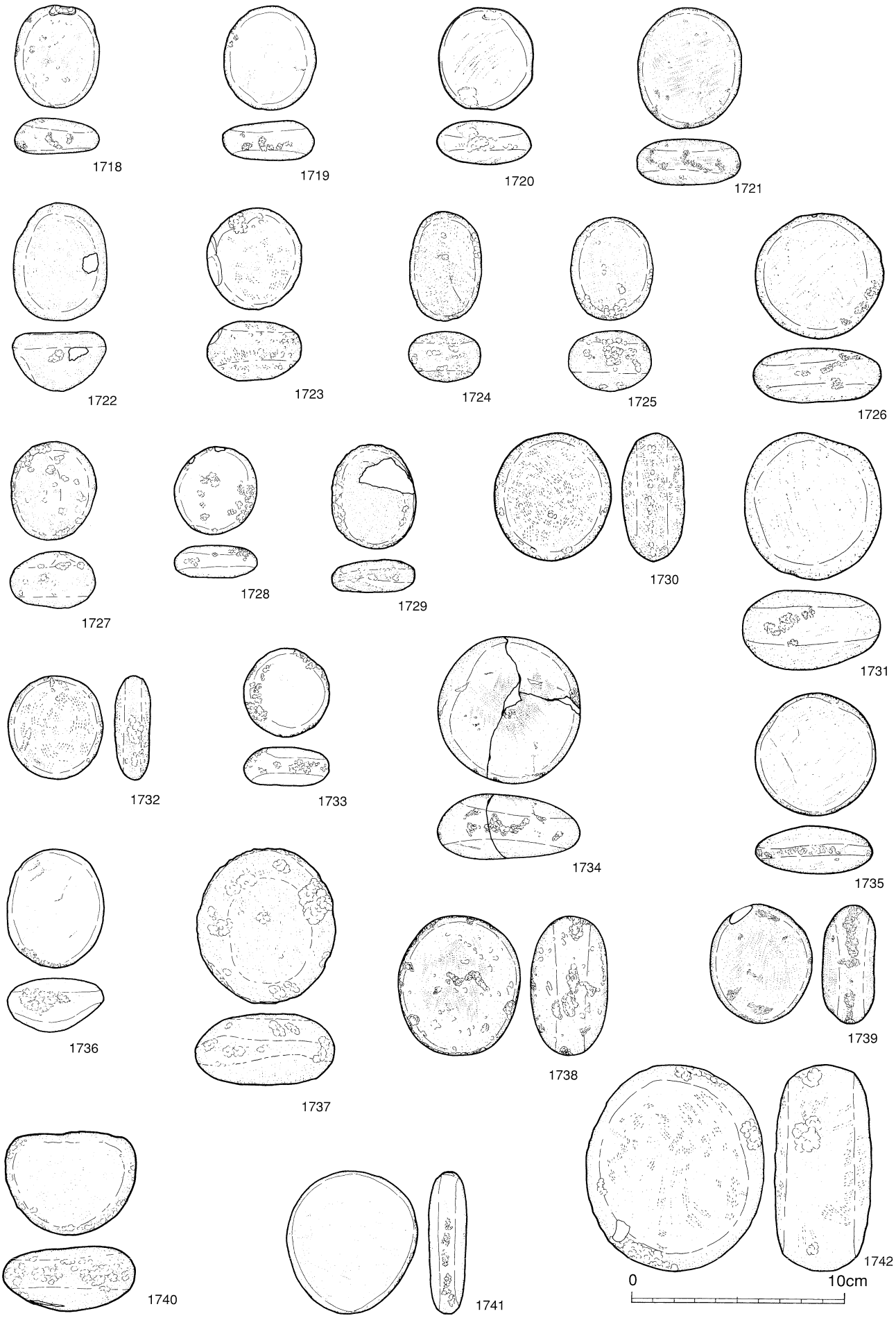
今回，大坪遺跡で出土した磨石・敲石・凹石類は 700 点を超える量であったが，実測して掲載したのは半分以上が残った211点である。全体を見通しての印象は，大中小と大きさが多彩であることである。特に，他の遺跡では小型の磨石や凹石を目にしないので，違和感を覚える。最大長及び欠損したものについては短軸から推定した最大長を基にして，小型は6cm未満，中型は6～11 cm未満，そして大型は 11～16 cmとした場合，それぞれ 85 点・65 点・32 点である。最大長が欠損している場合，基にした最大幅は小型 5.5 cm未満，中型 5.5～9cm未満，大型9cm以上である。個数としては大差ないが，大型の磨石類は欠損品が多い。この点については，どのような使い方によって割れやすいのか検討することが課題である。なお，割れた後も敲打具として割れ面を使用している例も 1801・1802 などにみられる。石材は安山岩と砂岩が大半を占め，大型には安山岩が多い。次に機能面に注目して，研磨面のみをもつものを磨石，側面に敲打痕のみをもつものを敲石，平面の中央部に敲打痕をもつものを凹石として分類した場合，次の様な組み合わせが仮定される。それぞれの観察結果は表 45～48 に示したとおりである。

形状だけが磨石等に似るもの　：A類
磨石のみのもの　：B類
敲石のみのもの　：C類
凹石のみのもの　：D類
磨石＋敲石　：E類
磨石＋凹石　：F類
敲石＋凹石　：G類
磨石＋敲石＋凹石　：H類

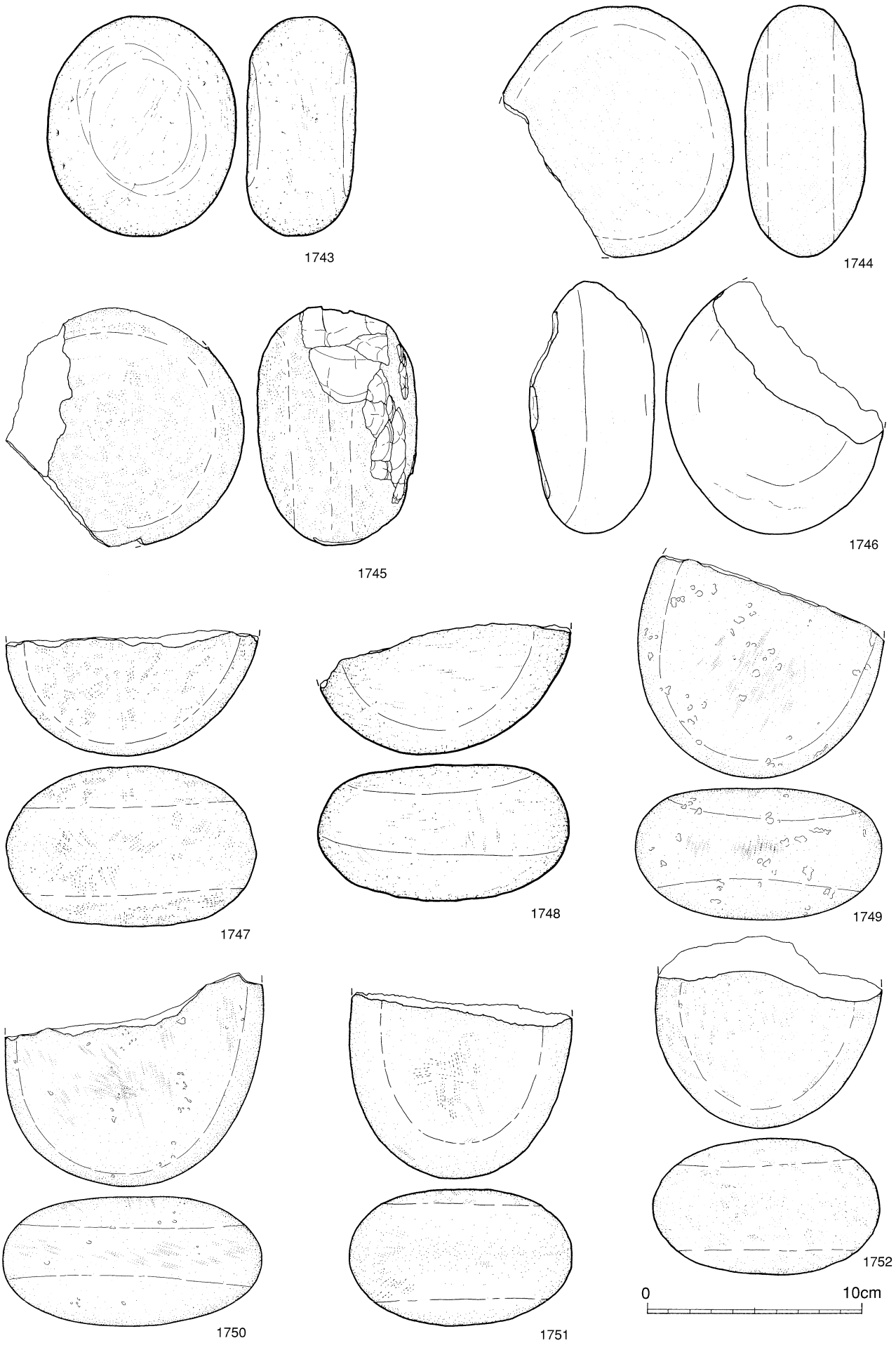
使用痕を基に，重複しながらも3つの機能を基準にして割合を求めると，磨石（B+E+F+H）：敲石（C+E+G+H）：凹石（D+F+G+H）＝199：105：43 となり，磨石の量がかなり多いことがわかる。両面に研磨痕が認められるのが大半であり，長軸に対してやや斜めの方向に磨面の向きがある。同じ面に角度の異なる磨面が認められるのは，1780・1822・1924 である。いずれも長軸の方向より少し角度をもった部分に境があるので，石皿の上で動かす時，磨石類の一側面を掌から親指全体にかけて，もう片方の側面を中指・薬指・小指で掴んで，手首を曲げない方向に前後運動を行ったのではないかと想定される。1925 は片面が平坦になっており，使用状況の検討を要する。敲打痕については，敲打痕だけがみられるという例はほとんどなく，大半は同一個体に磨面もみられる。大型の磨石類には敲打痕のあるものは少ないが，小型の磨石類では顕著である。1742 や 1837 の様に敲打痕のあるものについては，磨面も広くて研磨度も高い。敲打される位置は長軸の頂部とは限らず，時計の短針に例えると1時及び7時の方向に敲打痕が著しい。

凹部をもつ磨石類については，1886 例の様に研磨度が高く，周縁もよく敲打されている。1889 や 1890 の様に両面に抉りを入れて親指と人差し指で握りやすくしている例もみられる。なお，1894 は石錘として再利用していた可能性がある。

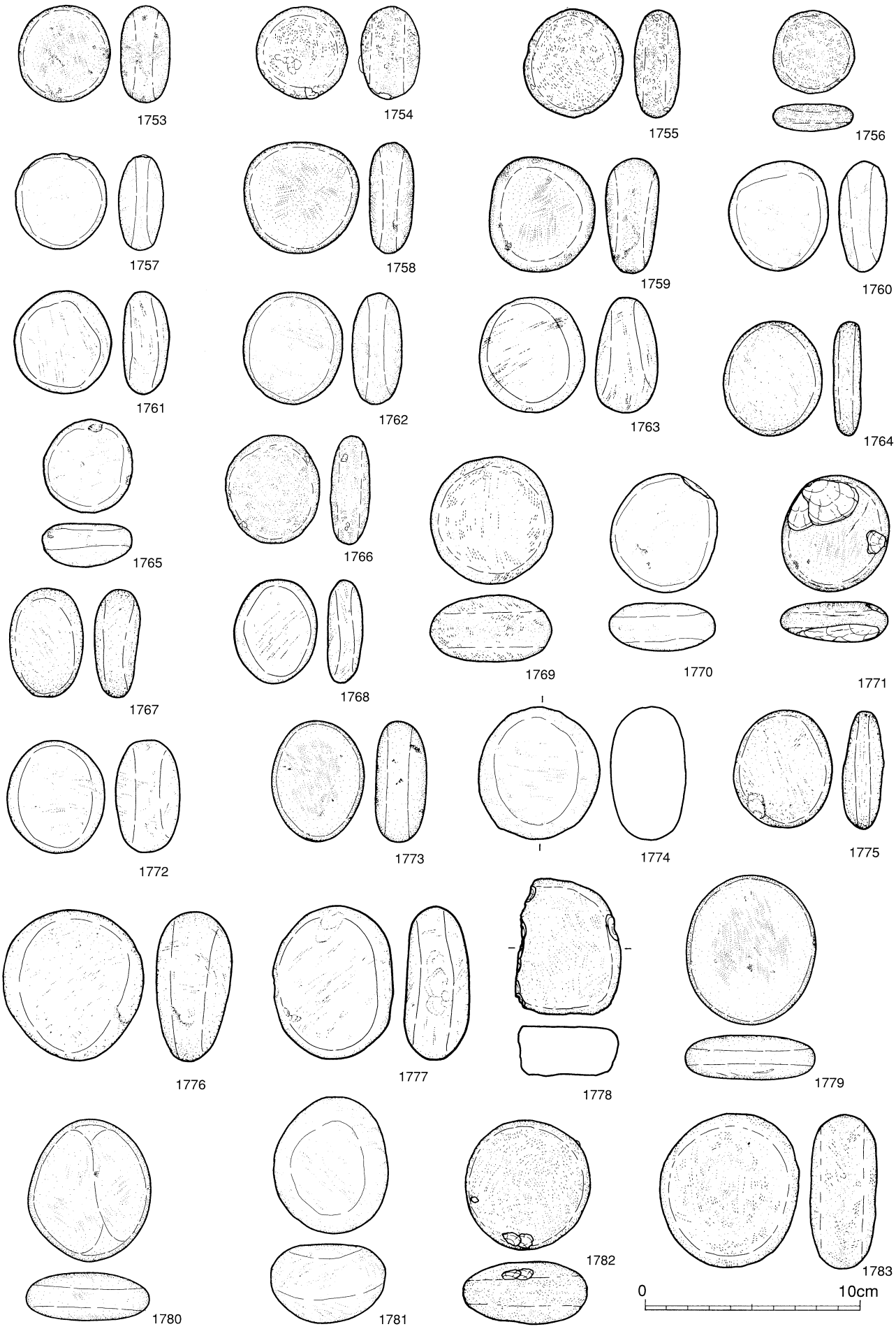
磨石・敲石・凹石は，それぞれ磨る・敲く・打撃を受けるといった行為が長年なされた結果，そのような痕跡となったと考えられているが，同じ個体の中に複数の痕跡がみられることも多い。磨石は石皿とセットになって，木の実などを磨り潰す道具と考えられており，数も最も多い。磨り潰すためにはある程度の摩擦が必要であり，摩擦がなくなると使い物にならなくなる。したがって，表面がザラザラしているうちは使えるが，ツルツルになってしまうと利用



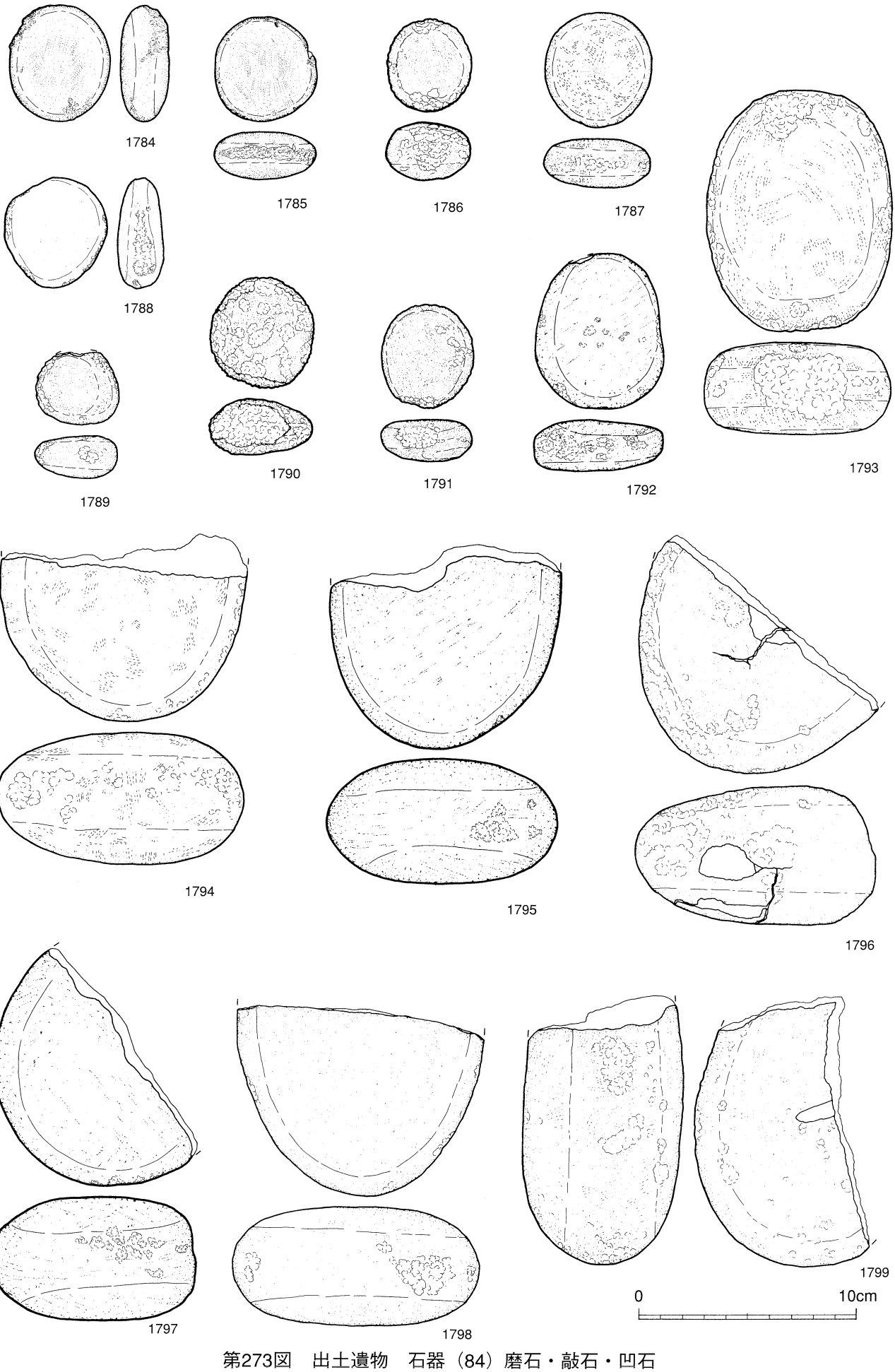
第270図　出土遺物　石器（81）磨石・敲石・凹石



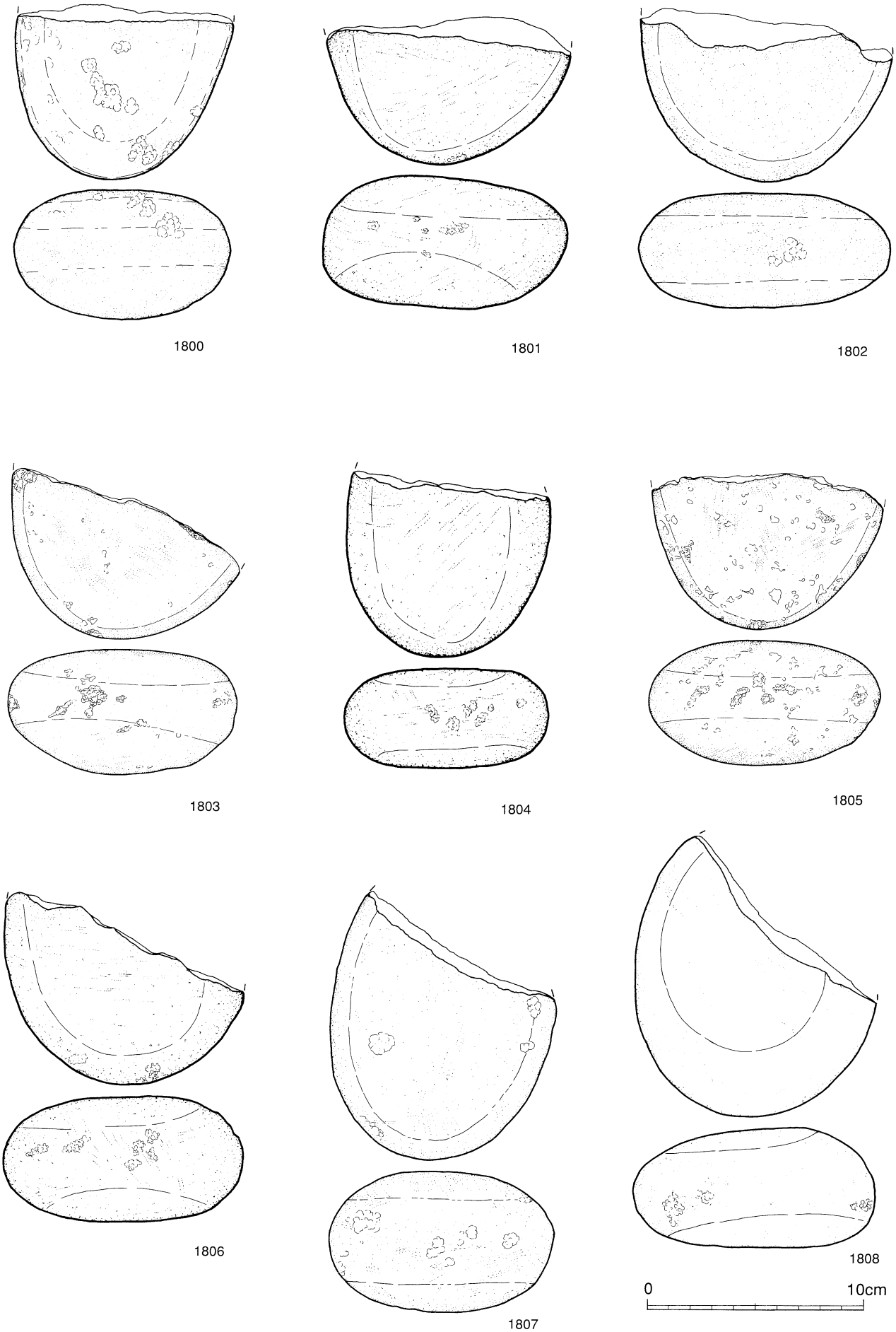
第271図　出土遺物　石器（82）磨石・敲石・凹石



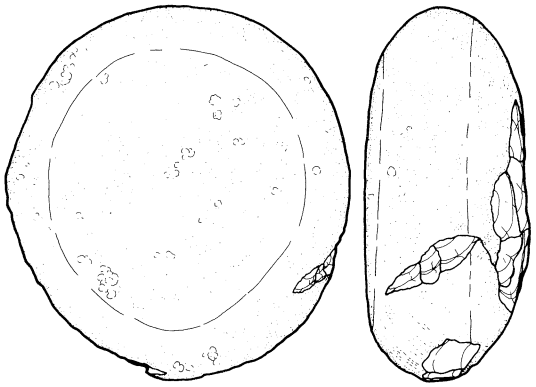
第272図　出土遺物　石器（83）磨石・敲石・凹石



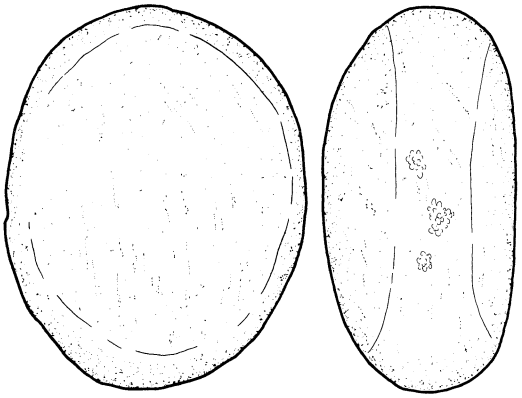
第273図　出土遺物　石器（84）磨石・敲石・凹石



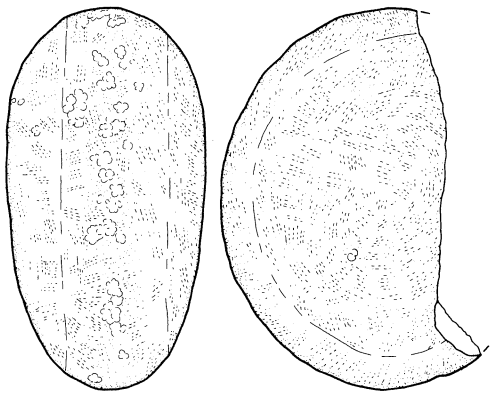
第274図　出土遺物　石器（85）磨石・敲石・凹石



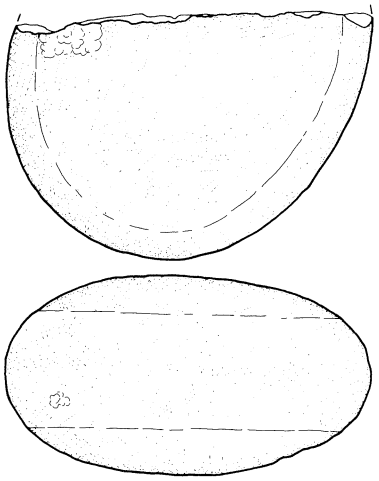
1809



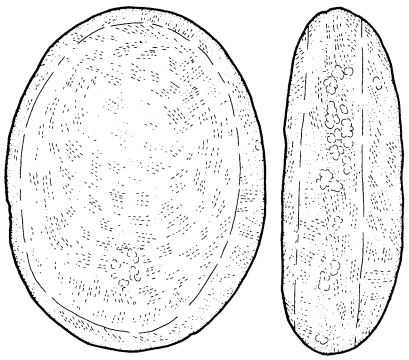
1810



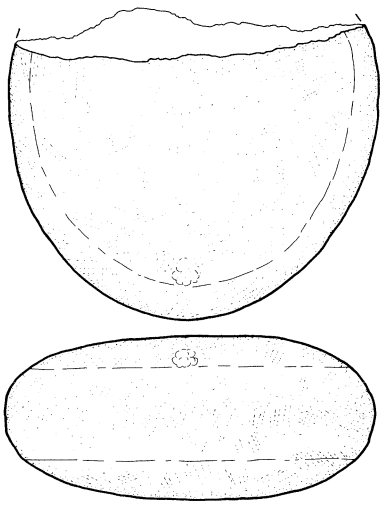
1811



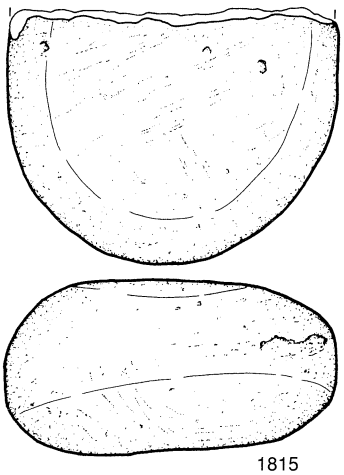
1812



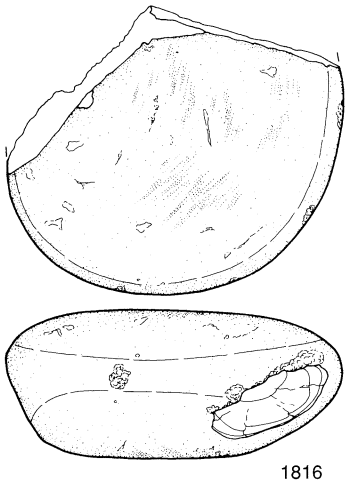
1813



1814



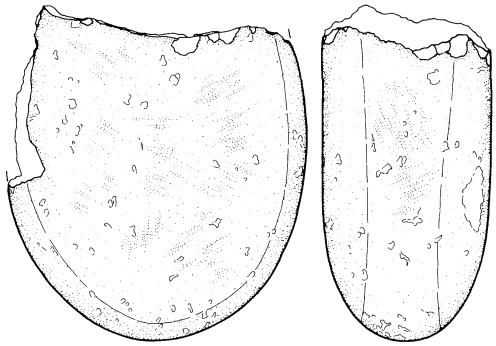
1815



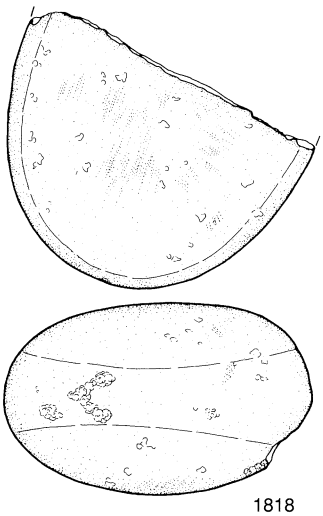
1816

0 10cm

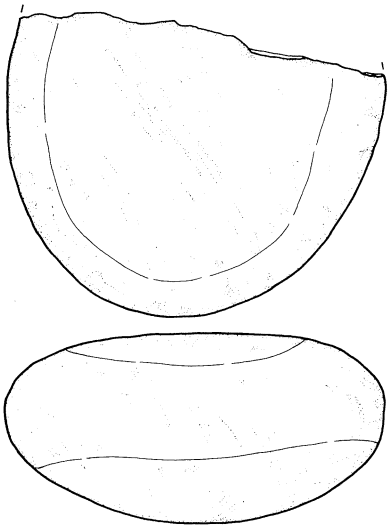
第275図　出土遺物　石器（86）磨石・敲石・凹石



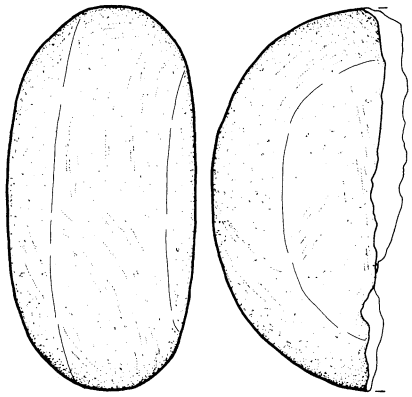
1817



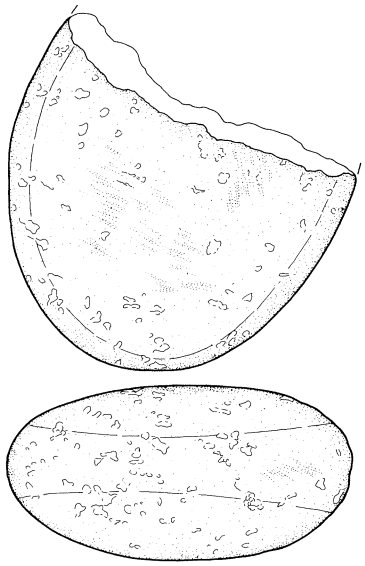
1818



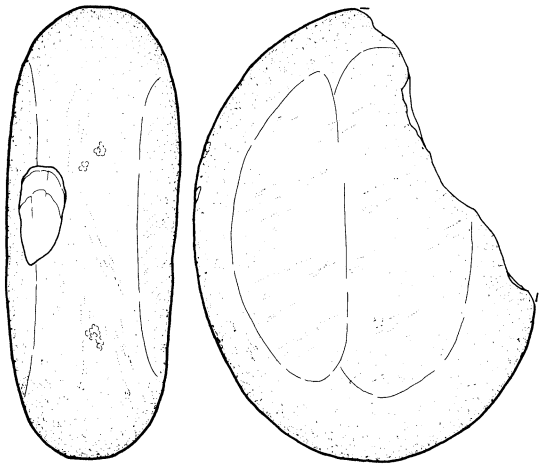
1819



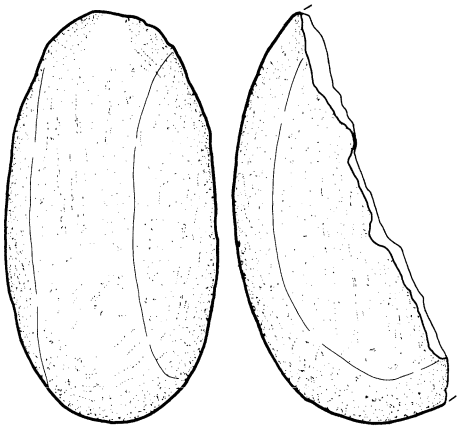
1820



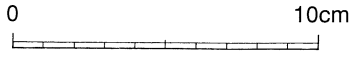
1821



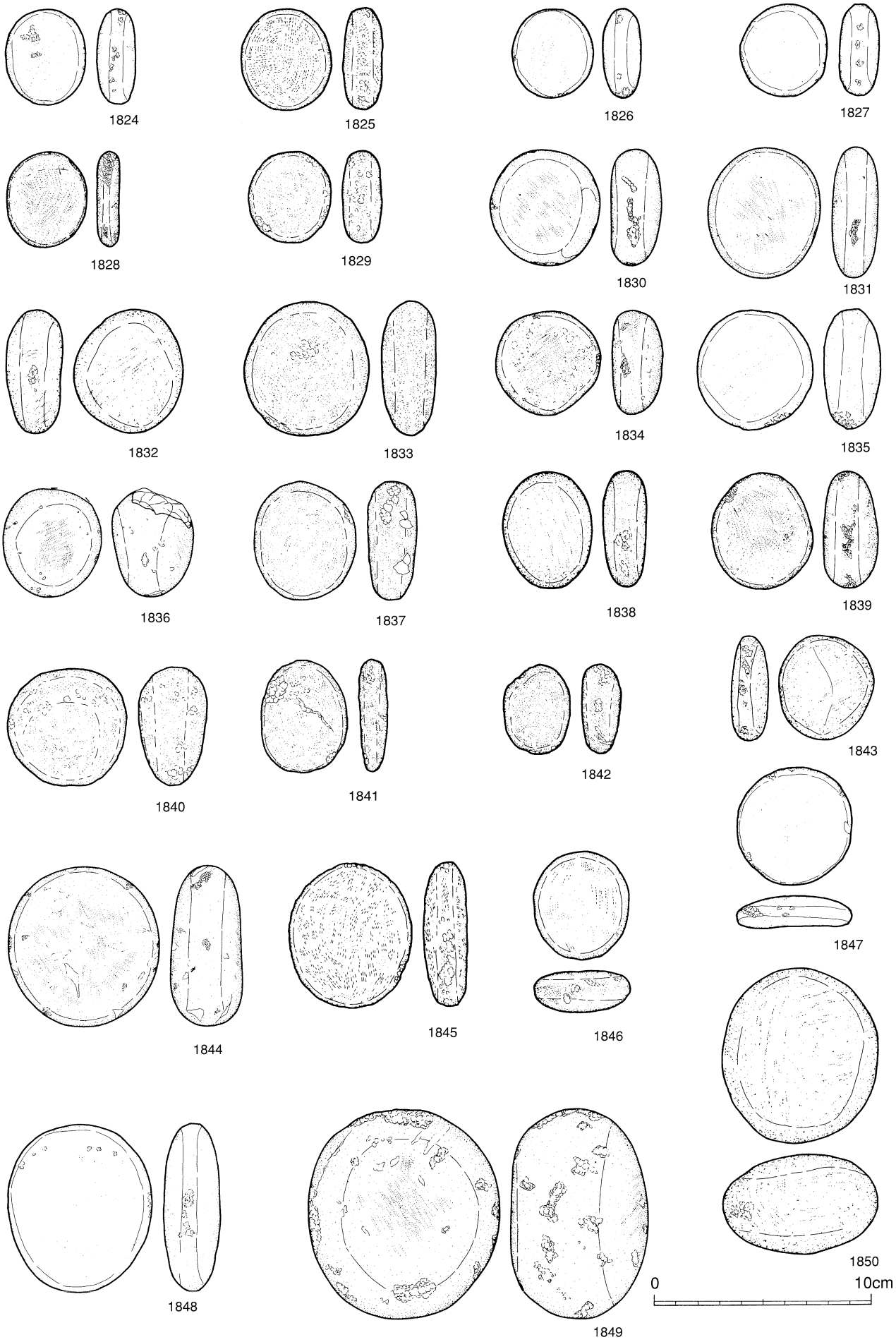
1822



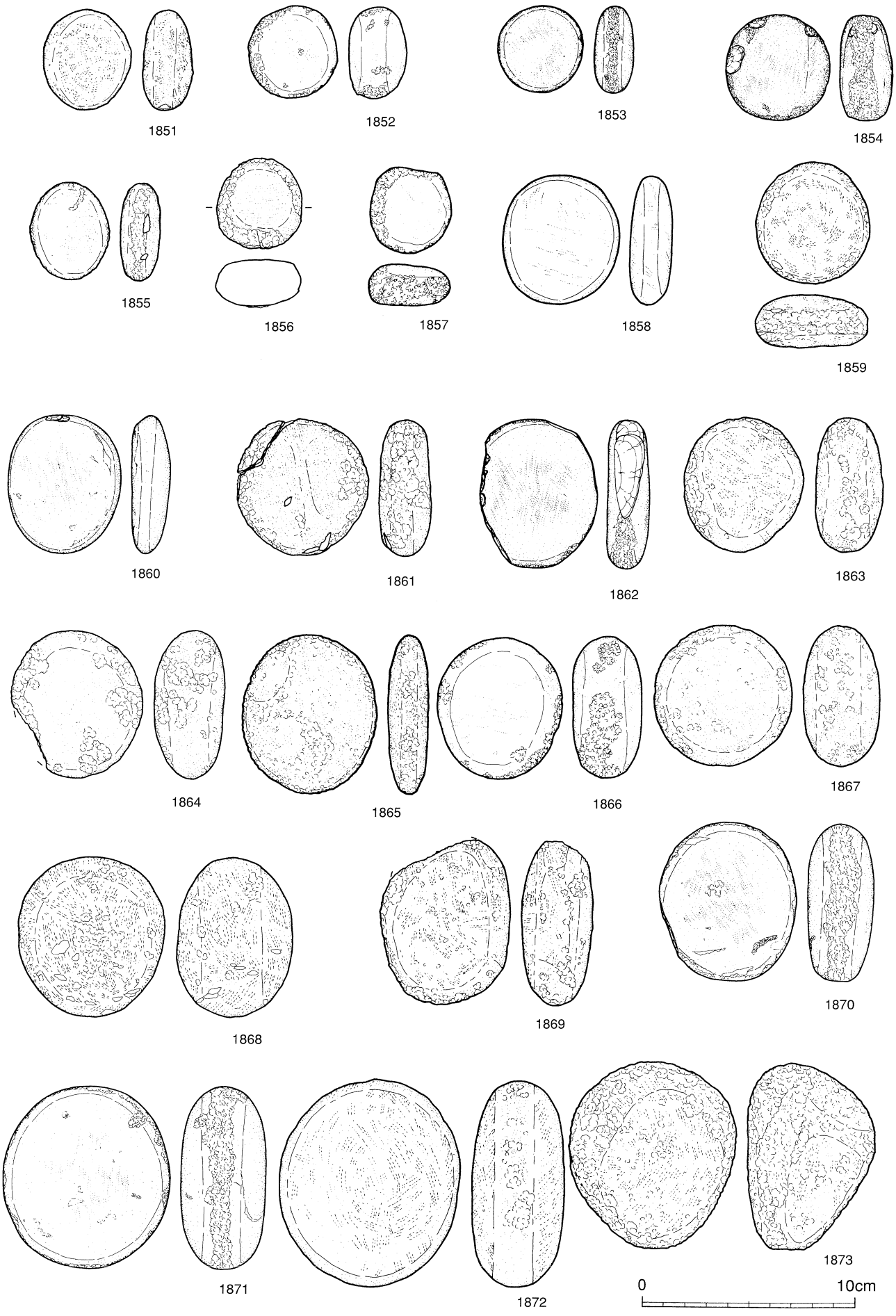
1823



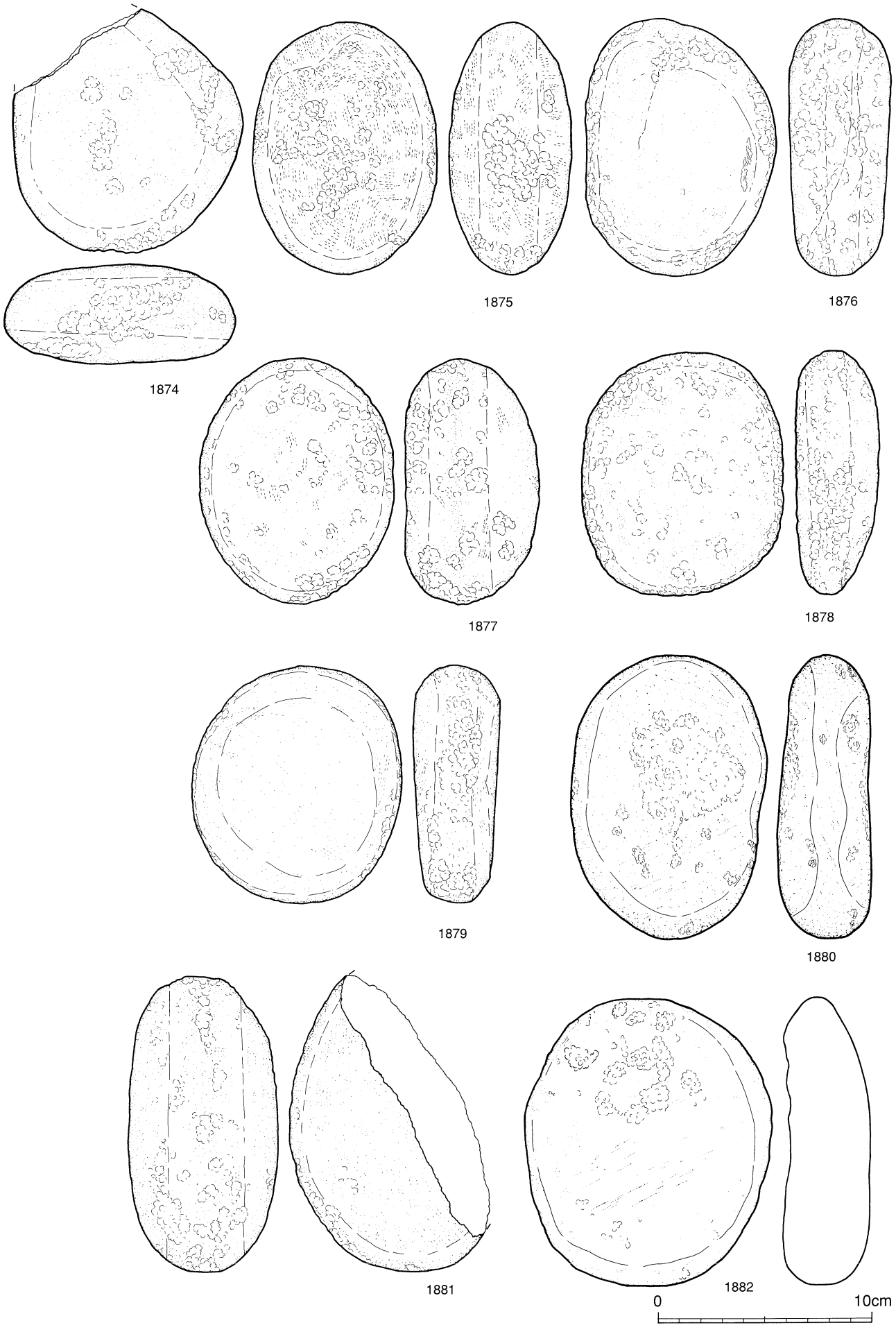
第276図　出土遺物　石器（87）磨石・敲石・凹石



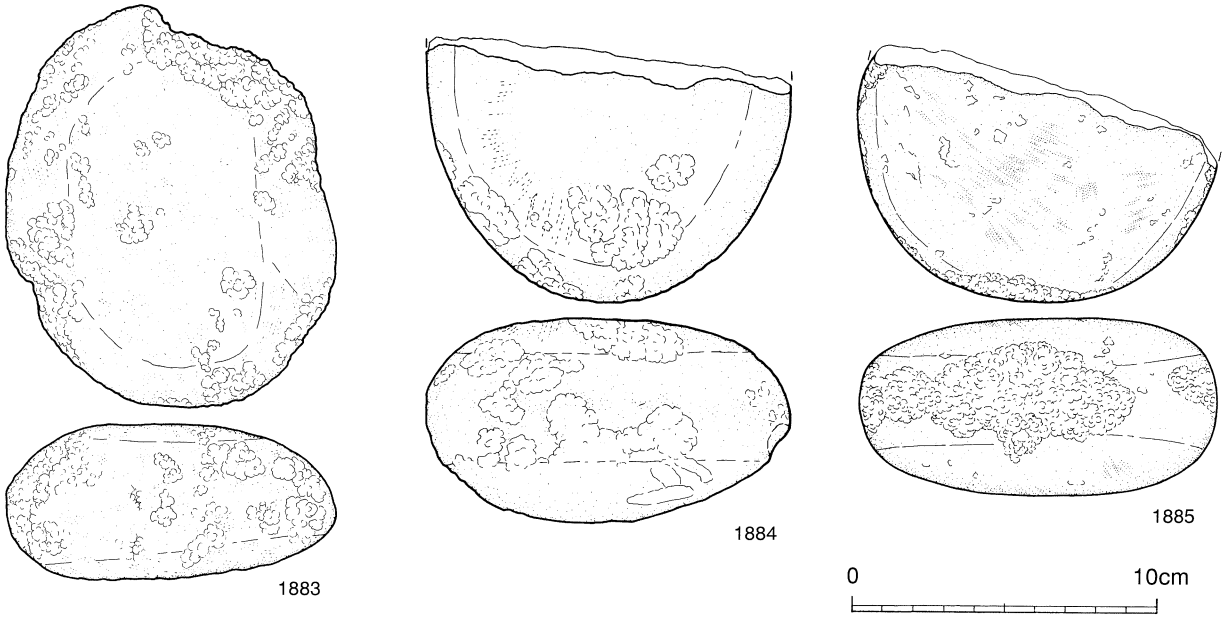
第277図　出土遺物　石器（88）磨石・敲石・凹石



第278図　出土遺物　石器（89）磨石・敲石・凹石



第279図　出土遺物　石器（90）磨石・敲石・凹石



第280図　出土遺物　石器（91）磨石・敲石・凹石

表45　石器観察表23

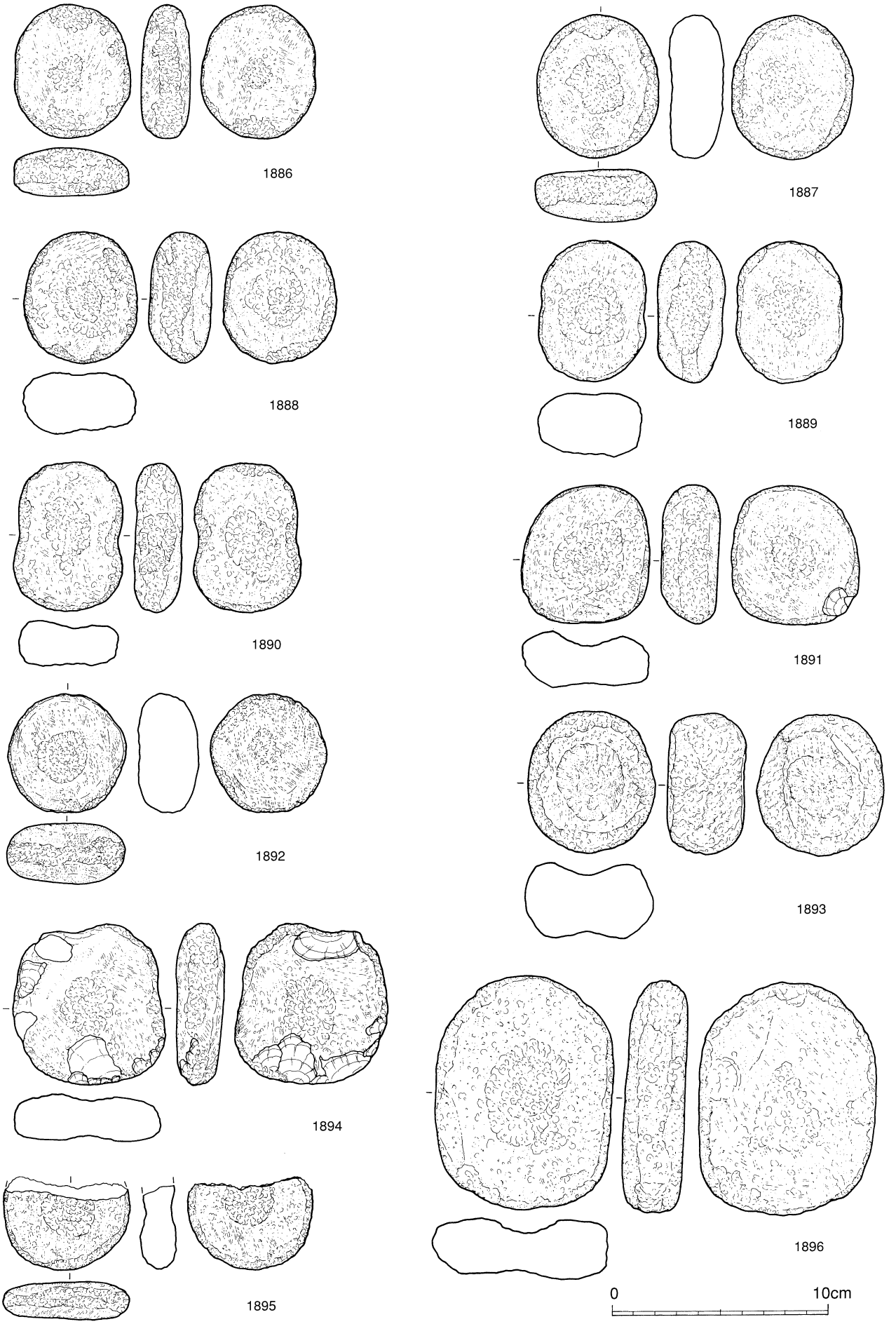
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第270図	1718	A-22			磨石類	E	安山岩	4.88	3.81	1.65	40.00	—		–
	1719	C-24			磨石類	E	砂岩	4.95	4.33	1.80	60.00	—		–
	1720	A-22		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	4.89	4.46	2.07	62.00	15867	8.855	–
	1721				磨石類	B	安山岩	5.72	4.90	2.12	100.00	—		–
	1722	B-4		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	5.61	4.42	2.80	100.00	622	8.11	–
	1723	B-22		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	4.80	4.45	2.89	85.00	14856	8.885	–
	1724	D-03		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	5.05	3.32	2.39	60.00	128	7.605	–
	1725	D-02		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	4.89	3.91	2.94	80.00	181	7.6	–
	1726	D-18		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	5.94	5.93	2.50	120.00	6991	8.455	–
	1727	C-3		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	4.77	3.99	2.24	70.00	474	7.657	–
	1728	A-34		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	4.11	3.72	1.52	40.00	16539	9.38	–
	1729	D-15		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	4.78	3.72	1.53	40.00	5076	8.015	–
	1730				磨石類	B	砂岩	6.05	5.34	2.95	135.00	—		–
	1731	C-16		Ⅳ	磨石類	B	安山岩	6.97	6.35	3.74	250.00	7775	8.23	–
	1732	B-22		Ⅳ	磨石類	B	砂岩	4.83	4.33	1.59	55.00	14864	8.885	–
	1733	D-22			磨石類	E	砂岩	4.12	3.97	1.73	42.00	—		–
	1734	C-16			磨石類	E	砂岩	7.01	6.65	3.09	190.00	—		–
	1735	B-22		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	5.68	5.51	2.30	100.00	15270	8.705	–
	1736	D-22			磨石類	E	砂岩	5.68	4.51	2.35	90.00	—		–
	1737	C-16		Ⅱ	磨石類	A	安山岩	7.40	6.50	3.38	200.00	2739	8.375	–
	1738				磨石類	E	安山岩	6.67	5.66	3.59	180.00	—		–
	1739	D-22			磨石類	E	安山岩	5.41	4.74	2.79	100.00	—		–
	1740	D-15		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	4.94	5.99	3.04	137.00	5567	7.825	–
	1741	C-24			磨石類	B	砂岩	6.59	6.05	1.64	115.00	—		–
	1742	D-22		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	9.90	8.44	4.43	660.00	10308	8.65	–
第271図	1743	A-34		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	10.20	8.56	4.77	680.00	16412	9.615	–
	1744	D-17		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	11.90	11.00	5.62	890.00	6714	8.08	–
	1745	C-18		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	10.86	11.90	7.78	1240.00	8858	7.435	–
	1746	A-25		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	12.00	10.20	5.60	685.00	16581	9.965	–
	1747	C-18		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	7.60	11.60	7.27	700.00	8881	7.255	–
	1748	A-21		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	9.60	8.50	6.42	505.00	15145	8.69	–
	1749				磨石類	B	安山岩	8.85	11.46	6.53	1060.00	—		–
	1750	C-17		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	10.20	11.70	6.00	905.00	—		–
	1751	D-23		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	8.21	10.21	6.55	855.00	10669	8.815	–
	1752	D-17	SD	Ⅱb	磨石類	B	安山岩	8.95	10.38	6.45	715.00	1744	8.325	–
第272図	1753	B-22			磨石類	B	安山岩	4.49	4.29	2.35	65.00	—		–
	1754	D-22		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	4.23	4.19	2.71	70.00	10363	8.6	–
	1755	D-24			磨石類	E	砂岩	5.13	4.56	2.10	80.00	—		–
	1756	D-12		Ⅱ	磨石類	B	砂岩	3.81	3.66	1.30	30.00	84	8.2	–
	1757	D-16			磨石類	B	安山岩	4.50	4.25	2.03	60.00	—		–
	1758	D-22			磨石類	B	砂岩	5.28	5.22	2.01	90.00	—		–
	1759	C-22	SD43		磨石類	B	安山岩	5.40	4.77	2.94	90.00	—		–
	1760	C-17		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	5.20	4.68	2.14	80.00	—		–

表46　石器観察表24

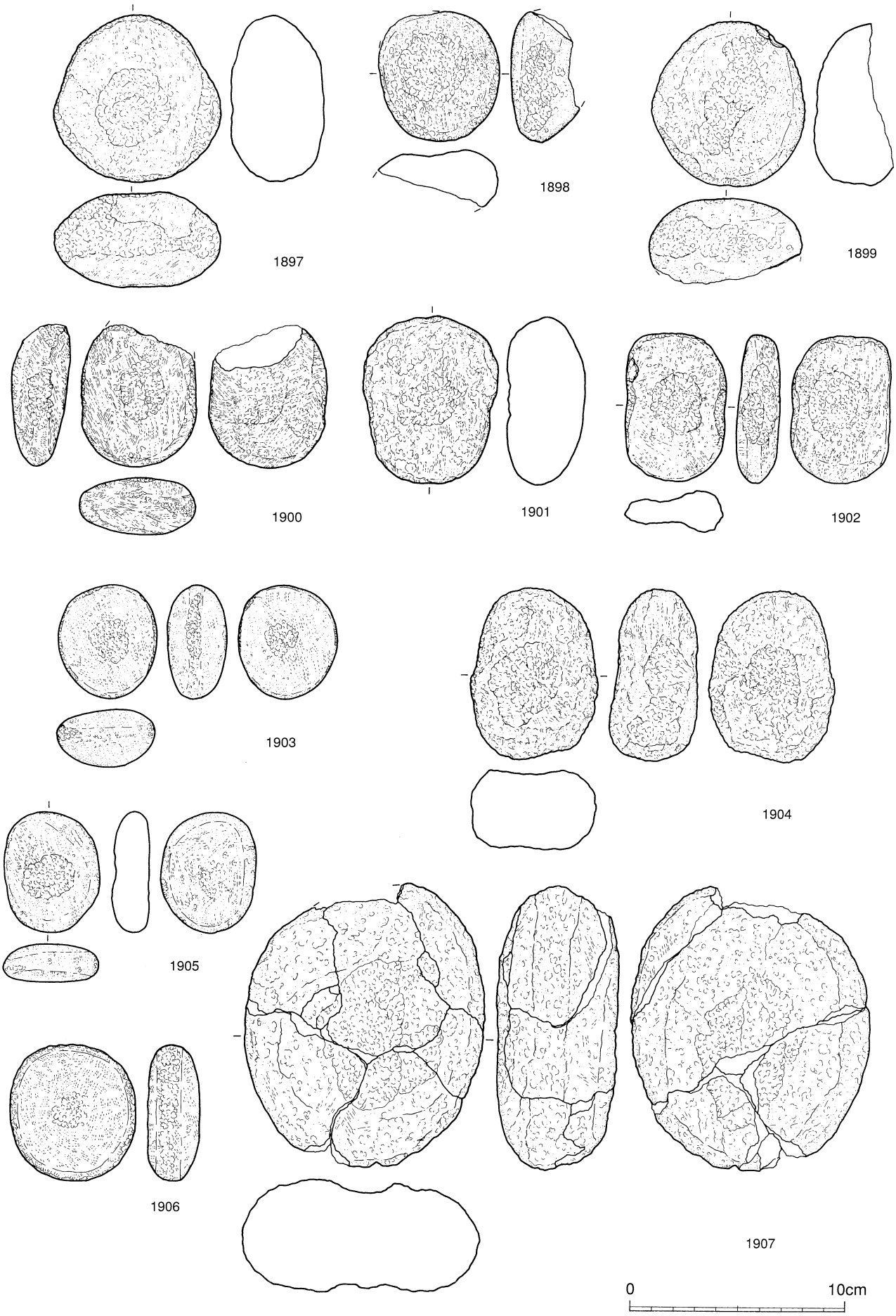
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第272図	1761	B-23		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	4.84	4.49	2.12	72.00	15862	8.725	−
	1762	B-14			磨石類	B	砂岩	5.32	4.60	2.28	90.00	−		−
	1763	B-22		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	5.29	4.77	2.88	110.00	15245	8.795	−
	1764	B-22		Ⅱ	磨石類	B	砂岩	5.27	4.53	1.19	60.00	14889	8.82	−
	1765	D-15			磨石類	B	砂岩	4.33	4.14	2.04	59.00	−		−
	1766	D-12		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	5.45	4.33	1.79	62.00	455	7.552	−
	1767	C-17		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	5.19	3.37	1.93	50.00	8586	7.175	−
	1768	A-21		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	4.71	3.81	2.64	50.00	15713	8.755	−
	1769	B-22		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	5.97	5.52	3.18	155.00	13487	8.685	−
	1770	C-24			磨石類	E	安山岩	5.51	4.88	2.23	98.00	−		−
	1771				磨石類	B	砂岩	5.49	5.00	1.79	65.00	−		−
	1772	A-33		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	5.31	4.48	2.94	100.00	16450	9.52	−
	1773	A-21			磨石類	E	砂岩	5.71	4.34	2.23	85.00	−		−
	1774	A-32	SD		磨石類	E	砂岩	6.24	5.52	3.66	180.00	16991	9.46	−
	1775	B-22		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	5.43	4.55	1.73	60.00	15025	8.65	−
	1776	B-22		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	7.05	6.45	3.60	215.00	15078	8.395	−
	1777	B-33		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	7.23	5.49	3.01	125.00	16165	9.47	−
	1778	B-35		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	6.33	4.69	2.42	130.00	2185	9.51	−
	1779				磨石類	B	砂岩	7.07	6.06	2.06	140.00	−		−
	1780	D-24			磨石類	B	砂岩	6.69	5.53	2.27	130.00	−		−
	1781	B-35		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	6.44	5.34	3.70	183.00	16840	9.545	−
	1782	B-5		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	6.21	6.09	2.91	150.00	1226	7.975	−
	1783	B-14		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	7.28	6.48	3.03	230.00	9774	8.33	−
第273図	1784	D-22			磨石類	B	砂岩	5.42	4.58	2.11	85.00	−		−
	1785	D-24			磨石類	E	砂岩	5.18	4.71	2.57	80.00	−		−
	1786	B-15		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	4.22	3.91	2.74	60.00	2979	8.37	−
	1787	D-21		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	5.43	4.78	2.35	100.00	10066	8.44	−
	1788	A-22			磨石類	E	砂岩	5.05	4.69	2.16	80.00	−		−
	1789	D-13		Ⅲ	磨石類	E	砂岩		3.28	2.01	40.00	860	8.07	−
	1790	D-15		Ⅲ	磨石類	E	花崗岩	5.09	4.74	2.61	80.00	5728	7.965	−
	1791	D-18		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	4.80	4.23	1.99	70.00	3668	8.365	−
	1792	B-21		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	7.31	5.83	2.27	145.00	15148	8.76	−
	1793	Tr	Tr		磨石類	E	安山岩	11.43	8.56	4.31	770.00	−		−
	1794	C-18		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	7.94	11.33	6.05	850.00	8858	7.435	−
	1795	B-22	SD42	Ⅲ	磨石類	E	安山岩	9.07	10.58	5.76	850.00	12826	8.47	−
	1796	D-18		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	7.68	12.44	6.57	765.00	5417	8.41	−
	1797	B-21		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	9.20	10.80	5.60	705.00	15147	8.775	−
	1798	C-2		Ⅱ	磨石類	B	安山岩	8.67	11.40	5.63	805.00	246	7.617	−
	1799	D-17		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	12.57	6.35	7.22	970.00	6723	8.085	−
第274図	1800	C-6		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	8.40	9.90	6.02	745.00	809	7.617	−
	1801	B-23		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	6.90	11.10	6.10	600.00	15461	8.8	−
	1802	D-16			磨石類	B	安山岩	7.80	11.60	5.10	700.00	1524	8.33	−
	1803				磨石類	B	安山岩	6.61	11.36	6.18	545.00	−		−
	1804	B-22		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	8.76	9.37	4.56	625.00	15435	8.805	−
	1805			Ⅲ	磨石類	B	安山岩	7.05	10.74	5.85	580.00	−		−
	1806	B-22		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	9.40	10.70	5.78	655.00	15253	8.7	−
	1807	D-4		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	11.10	10.60	6.50	1100.00	1088	7.632	−
	1808	B-30		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	10.50	12.30	5.50	1070.00	16618	9.18	−
第275図	1809	D-12		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	12.33	11.18	4.96	1040.00	276	8.145	−
	1810	C-19		Ⅲ	磨石類	A	安山岩	12.65	9.74	6.03	950.00	7486	8.645	−
	1811	C-14		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	12.00	10.50	6.33	800.00	9543	8.335	−
	1812	D-18		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	9.20	11.45	6.70	900.00	3896	8.415	−
	1813	D-23		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	11.52	8.43	4.06	605.00	10683	8.615	−
	1814	D-15		Ⅱ	磨石類	B	安山岩	10.40	12.05	5.40	1060.00	4075	7.985	−
	1815	B-33		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	8.31	10.55	6.67	830.00	16242	9.435	−
	1816				磨石類	B	砂岩	9.28	9.90	4.97	720.00	−		−
第276図	1817	D-22			磨石類	B	安山岩	11.30	9.80	5.57	950.00	−		−
	1818	C-17		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	7.24	10.38	6.36	695.00	−		−
	1819	A-35		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	9.52	12.13	6.31	1060.00	16824	9.46	−
	1820	A-26		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	12.32	5.94	6.16	655.00	16001	9.035	−
	1821	C-18			磨石類	F	安山岩	10.35	11.10	5.76	875.00	−		−
	1822	C-19		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	14.80	11.40	5.45	1190.00	7468	8.485	−
	1823	B-18		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	13.78	4.80	6.85	600.00	8556	7.16	−
第277図	1824	B-35			磨石類	E	砂岩	4.50	3.67	1.77	50.00	−		−
	1825	B-22		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	4.74	4.11	2.77	55.00	13102		−
	1826	C-17		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	4.06	3.60	1.72	40.00	−		−
	1827	A-34		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	4.33	4.00	1.82	45.00	16540	9.4	−
	1828	B-14			磨石類	E	砂岩	4.79	3.52	0.94	30.00	−		−
	1829	D-17		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	4.30	3.73	1.73	50.00	6795	8.2	−
	1830	C-24			磨石類	E	砂岩	5.40	5.08	2.50	95.00	−		−
	1831	C-17		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	6.16	5.18	2.13	110.00	−		−
	1832	B-22		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	5.79	4.92	2.45	110.00	15088	8.76	−
	1833	B-5		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	6.30	5.69	2.52	135.00	1227	7.97	−
	1834	B-24			磨石類	B	安山岩	4.88	4.90	2.88	80.00	−		−
	1835	A-35		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	5.60	5.32	2.57	100.00	16769	9.6	−

表47　石器観察表25

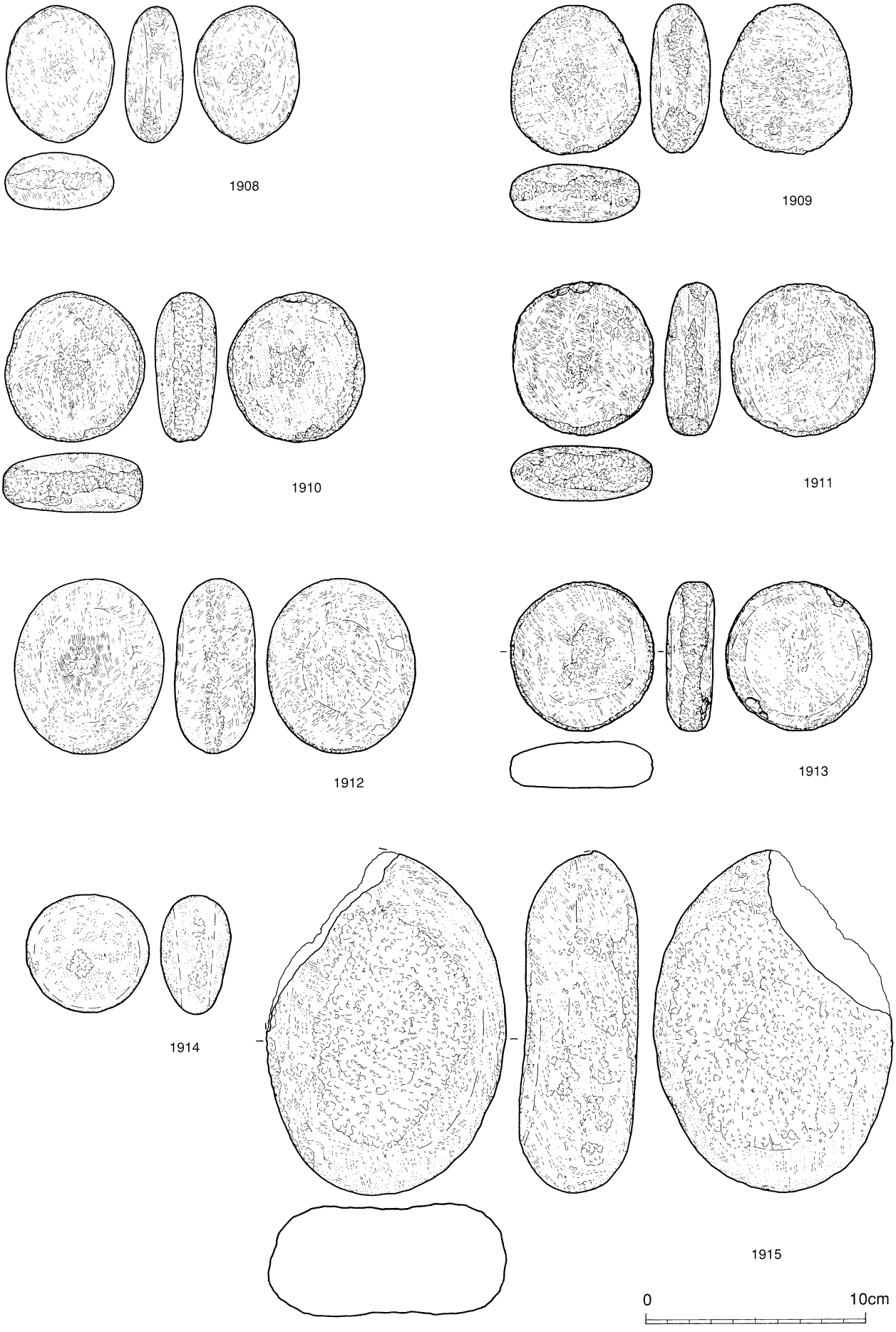
図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第277図	1836	D-22			磨石類	B	安山岩	5.02	4.51	3.75	115.00	—		−
	1837	D-12		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	5.39	4.60	2.22	90.00	238	8.145	−
	1838	C-17		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	5.96	4.10	2.02	80.00	8082	8.34	−
	1839	A-22			磨石類	E	砂岩	5.34	4.60	2.49	85.00	—		−
	1840	C-18		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	5.55	5.44	3.12	130.00	8831	7.405	−
	1841	D-13		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	5.18	3.86	1.21	50.00	776	7.867	−
	1842	B-15		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	4.16	3.03	1.76	35.00	2974	8.4	−
	1843	B-22		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	4.89	4.33	1.69	50.00	14944	8.9	−
	1844	D-22	SD43		磨石類	E	砂岩	7.00	6.88	3.35	260.00	—		−
	1845	D-22		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	6.74	5.47	2.20	120.00	10443	8.615	−
	1846	D-21		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	5.03	4.50	1.94	70.00	10602	8.55	−
	1847	A-34		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	5.47	5.30	1.44	65.00	16542	9.3	−
	1848				磨石類	B	砂岩	7.91	6.33	2.62	200.00	—		−
	1849	D-22			磨石類	E	砂岩	9.76	8.59	6.32	735.00	—		−
	1850	C-18		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	8.22	7.08	4.10	365.00	8810	7.345	−
第278図	1851	D-22		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	4.80	4.09	2.34	70.00	10344	8.63	−
	1852	A-22			磨石類	E	砂岩	4.43	4.10	2.68	70.00	—		−
	1853	C-14			磨石類	E	砂岩	4.11	3.94	1.84	45.00	—		−
	1854	B-23			磨石類	E	砂岩	5.03	4.95	2.35	95.00	—		−
	1855	D-15		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	4.48	3.59	1.80	49.00	4792	7.96	−
	1856	D-12		Ⅲ	磨石類	E	頁岩	4.20	3.95	2.27	50.00	507	7.667	−
	1857	D-24			磨石類	H	砂岩	3.95	3.76	1.95	50.00	—		−
	1858	B-24		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	6.17	5.38	1.92	100.00	15962	8.91	−
	1859	C-16		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	5.83	5.40	3.66	120.00	9432	8.21	−
	1860	B-15	SF117		磨石類	B	頁岩	6.55	5.72	1.83	95.00	—		−
	1861	D-14		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	6.45	6.10	2.33	140.00	1187	8.115	−
	1862				磨石類	E	砂岩	7.05	5.37	1.84	120.00	—		−
	1863			Ⅲ	磨石類	E	砂岩	6.27	5.62	3.20	150.00	—		−
	1864	D-12		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	6.99	6.03	3.15	160.00	456	8.105	−
	1865	D-16		Ⅲ	磨石類	E	頁岩	7.53	6.26	1.88	140.00	1498	8.05	−
	1866	B-15	SF117		磨石類	E	安山岩	6.75	5.86	3.25	180.00	—		−
	1867	B-35		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	6.71	6.50	3.55	220.00	3294	9.48	−
	1868	C-22		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	7.64	6.88	5.36	375.00	11236	8.545	−
	1869	B-14	SX81	Ⅲ	磨石類	E	砂岩	6.75	6.07	3.33	220.00	14307	8.27	−
	1870	B-23			磨石類	E	砂岩	7.58	6.28	3.10	205.00	—		−
	1871				磨石類	E	砂岩	8.72	7.75	3.93	415.00	—		−
	1872	C-22	SD43	Ⅲ	磨石類			9.88	8.49	4.24	575.00	12342	8.45	−
	1873			Ⅳ	磨石類	B	安山岩	8.88	7.99	6.05	540.00	—		−
第279図	1874	D-16		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	11.20	11.00	4.66	865.00	6191	8.095	−
	1875	D-21		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	12.04	8.61	5.74	800.00	10519	8.54	−
	1876	D-18		Ⅱb	磨石類	E	砂岩	12.41	8.90	4.30	765.00	4342	8.355	−
	1877	D-21		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	11.73	9.12	6.35	755.00	10063	8.395	−
	1878	D-20		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	11.60	9.43	3.89	580.00	4125	8.635	−
	1879	C-02		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	11.33	9.70	4.00	730.00	25	7.61	−
	1880	C-24		Ⅲ	磨石類	F	安山岩	13.56	9.09	4.27	780.00	12096	8.97	−
	1881	D-16		Ⅲ	磨石類	B	安山岩	14.60	7.70	7.00	1100.00	4648	8.02	−
	1882	D-18		Ⅲ	磨石類	H	安山岩	13.88	11.65	4.02	830.00	6939	8.32	−
第280図	1883	D-12	SD44		磨石類	B	安山岩	13.46	10.50	4.99	1070.00	178	8.11	−
	1884	C-22	SD	Ⅲ	磨石類			8.40	12.00	6.84	850.00	11169	8.645	−
	1885				磨石類	B	安山岩	7.36	11.94	5.80	830.00	—		−
第281図	1886	D-21		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	6.30	5.35	2.25	116.00	10567	8.55	−
	1887	C-17		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	6.68	5.19	2.29	135.00	8354	8.265	−
	1888	C-23		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	6.17	5.20	2.92	135.00	11103	8.775	−
	1889	D-18		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	6.62	4.90	3.13	154.00	4282	8.325	−
	1890				磨石類	D	安山岩	6.92	5.00	2.18	105.00	—		−
	1891	D-15		Ⅱ	磨石類	H	砂岩	6.50	5.90	2.20	160.00	5826	7.94	−
	1892	A-26		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	5.70	5.40	2.95	129.00	16863	9.065	−
	1893	B-24		Ⅲ	磨石類	H	安山岩	6.60	5.83	3.55	185.00	15110	8.82	−
	1894	C-16		Ⅱb	磨石類	H	安山岩	7.50	6.87	2.22	135.00	8280	8.352	−
	1895	D-12		Ⅲ	磨石類	H	安山岩	4.58	5.70	1.73	55.00	544	8.045	−
	1896	B-30		Ⅲ	磨石類	G	安山岩	11.01	8.40	2.74	360.00	16619	9.185	−
第282図	1897	C-22		Ⅲ	磨石類	D	安山岩	7.87	7.59	4.29	290.00	11134	8.6	−
	1898	C-16		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	6.00	5.40	2.90	120.00	7831	8.27	−
	1899	D-12		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	7.80	7.10	3.95	234.00	12	7.592	−
	1900	C-22	SD44		磨石類	H	砂岩	6.76	5.33	2.60	130.00	—		−
	1901	D-18		Ⅲ	磨石類	D	安山岩	7.86	6.14	3.58	175.00	7092	8.395	−
	1902	C-17		Ⅱb	磨石類	H	砂岩	6.90	4.50	1.88	100.00	8874	7.24	−
	1903	C-24	SX		磨石類	H	砂岩	5.36	4.58	2.79	96.00	—		−
	1904	C-15		Ⅲ	磨石類	G	安山岩	8.05	5.90	4.00	215.00	9325	8.295	−
	1905				磨石類	H	砂岩	5.70	4.37	2.10	60.00	—		−
	1906	B-22		Ⅳ	磨石類	E	砂岩	6.45	5.92	2.50	150.00	14833	8.54	−
	1907	C-17		Ⅱb	磨石類	D	安山岩	13.50	11.35	5.50	763.00	5864	8.35	−
第283図	1908	C-22	SD43		磨石類	H	砂岩	6.40	4.75	2.20	120.00	82003	0	−
	1909	C-15		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	6.90	5.87	2.77	174.00	14210	8.165	−
	1910	B-22		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	7.00	6.20	2.84	185.00	15288	8.775	−



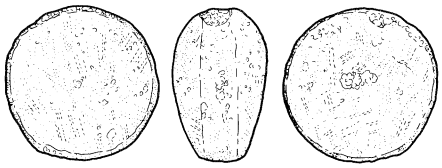
第281図　出土遺物　石器（92）磨石・敲石・凹石



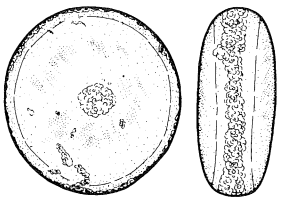
第282図　出土遺物　石器（93）磨石・敲石・凹石



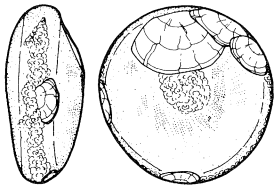
第283図　出土遺物　石器（94）磨石・敲石・凹石



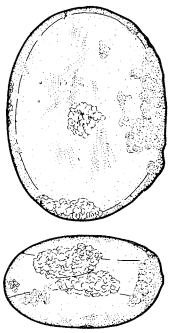
1916



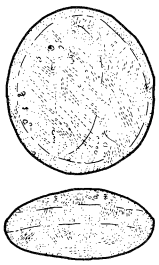
1917



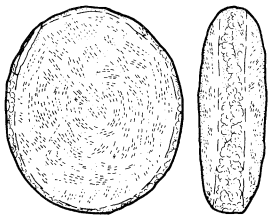
1918



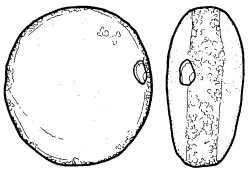
1919



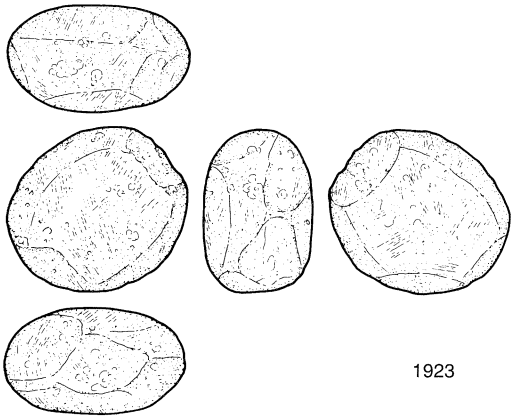
1920



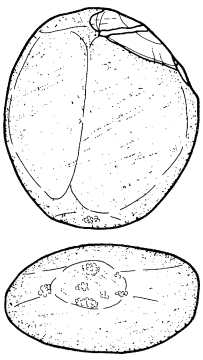
1921



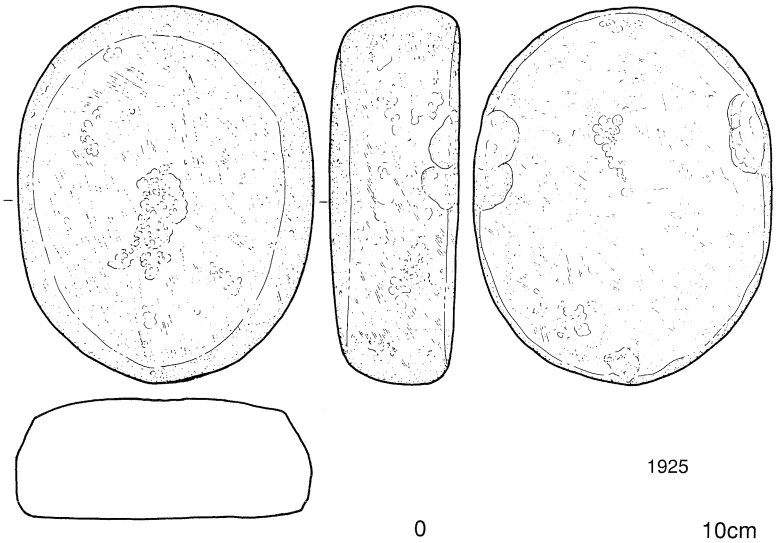
1922



1923

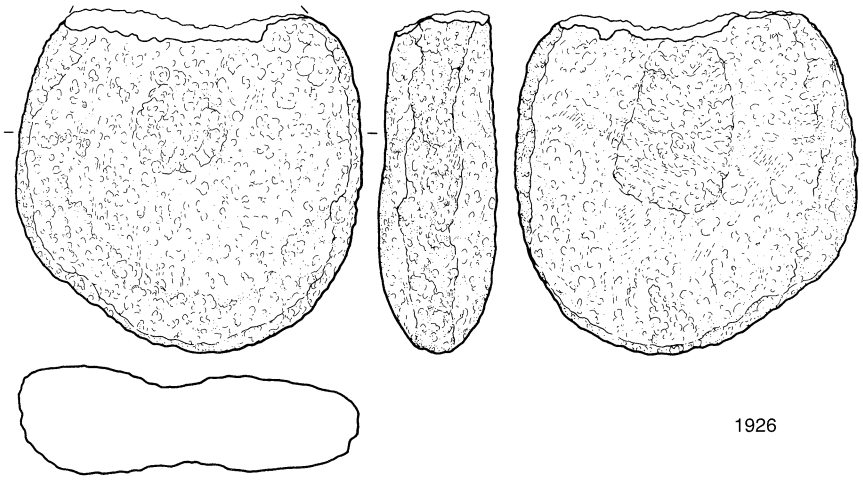


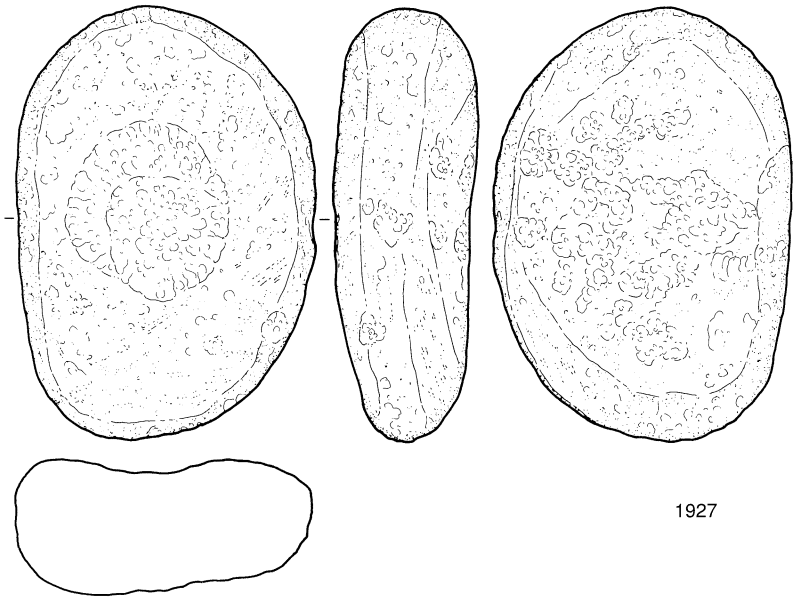
1924

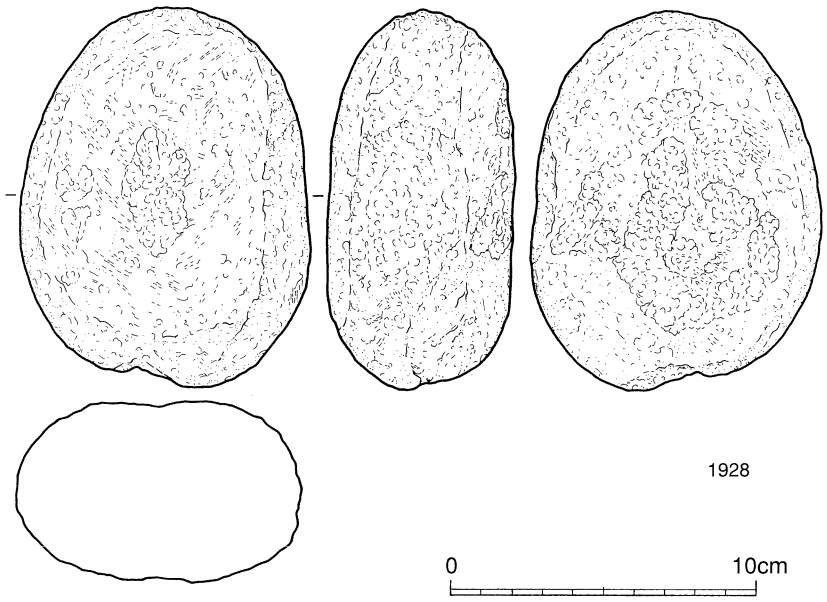


1925

第284図　出土遺物　石器（95）磨石・敲石・凹石







第285図　出土遺物　石器（96）磨石・敲石・凹石

表48　石器観察表26

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第283図	1911	D-23		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	7.00	6.50	2.97	190.00	10745	8.9	−
	1912	D-11		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	8.04	6.63	3.60	295.00	417	8.12	−
	1913	B-22		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	6.93	6.53	2.10	160.00	14988	8.73	−
	1914	D-22		Ⅲ	磨石類	F	砂岩	5.61	5.57	3.17	140.00	10328	8.7	−
	1915	D-03		Ⅲ	磨石類	H	砂岩	15.80	11.10	5.00	1290.00	132	7.605	−
第284図	1916	D-22		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	5.80	4.93	3.00	104.00	10343	8.565	−
	1917	C-23			磨石類	H	砂岩	6.13	5.69	2.43	135.00	−		−
	1918				磨石類	H	砂岩	5.88	5.64	2.52	105.00	−		−
	1919	C-22	SD43		磨石類	H	砂岩	7.08	5.67	3.05	165.00	−		−
	1920	C-15		Ⅲ	磨石類	B	砂岩	5.47	4.87	2.32	88.00	8176	8.245	−
	1921	D-22		Ⅲ	磨石類	E	砂岩	6.90	5.30	2.19	138.00	10341	8.685	−
	1922	A-3			磨石類	E	砂岩	5.24	4.80	2.47	97.00	−		−
	1923	D-17		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	5.90	5.10	3.66	165.00	1625	7.98	−
	1924	C-17		Ⅲ	磨石類	E	安山岩	7.18	6.22	3.50	235.00	8584	7.225	−
	1925	B-14		Ⅲ	磨石類	H	安山岩	12.55	9.85	4.50	776.00	14288	8.22	−
第285図	1926	D-16		Ⅲ	磨石類	D	安山岩	10.60	11.20	3.60	635.00	4984	8.205	−
	1927				磨石類	D	安山岩	14.40	9.80	5.50	780.00	−		−
	1928	B-22		Ⅲ	磨石類	H	安山岩	12.45	9.60	5.95	915.00	15070	8.485	−
第286図	1929	A-33		Ⅲ	石皿		細粒砂岩	28.30	31.50	5.50	9300.0	−		44
	1930	D-17			石皿		安山岩	20.60	23.00	5.00	2900.0	−		−
	1931	A-34		Ⅲ	石皿		安山岩	20.00	20.60	6.00	3600.0	16530	9.47	−

価値がなくなる。敲石は側面を使って，石皿の上で木の実などを敲き潰す道具である。凹石は平面の表裏中央が窪んだものであり，木の実を割る時殻だけを割って中身は潰さないようにするために使うと説明される。窪んだ部分に対応するような細い敲石が無いのは懸念されるが，現在目にしているのは最大に窪んだ状態であるわけで，窪みが浅いうちは普通の敲石でも十分窪みと接する。凹石になる石は磨り面も残っており，敲き痕も多く残っている。むしろ側面の敲痕は普通の敲石よりも多いぐらいである。

以上のことから考えると，これまで3つの動作が同時になされたという見解が一般的だったけれども，一つの道具が使われる時間の長さと使用不能になる時を考慮すると違った見解ができる。つまり，磨石の機能を終えたら敲石として利用し，さらに凹石としても利用したのではないかということである。一つの遺物にみられる痕跡が全て同じ時間で行われた行為でなく，長い時間の中で行われたそれぞれの痕跡を内包しているという見方である。これは遺物に限らず，遺構でもそうであるし，遺跡を考える上でも最も注意しなければならない点ではないかと考える。

⑫石皿（第286～289図　1929～1951）

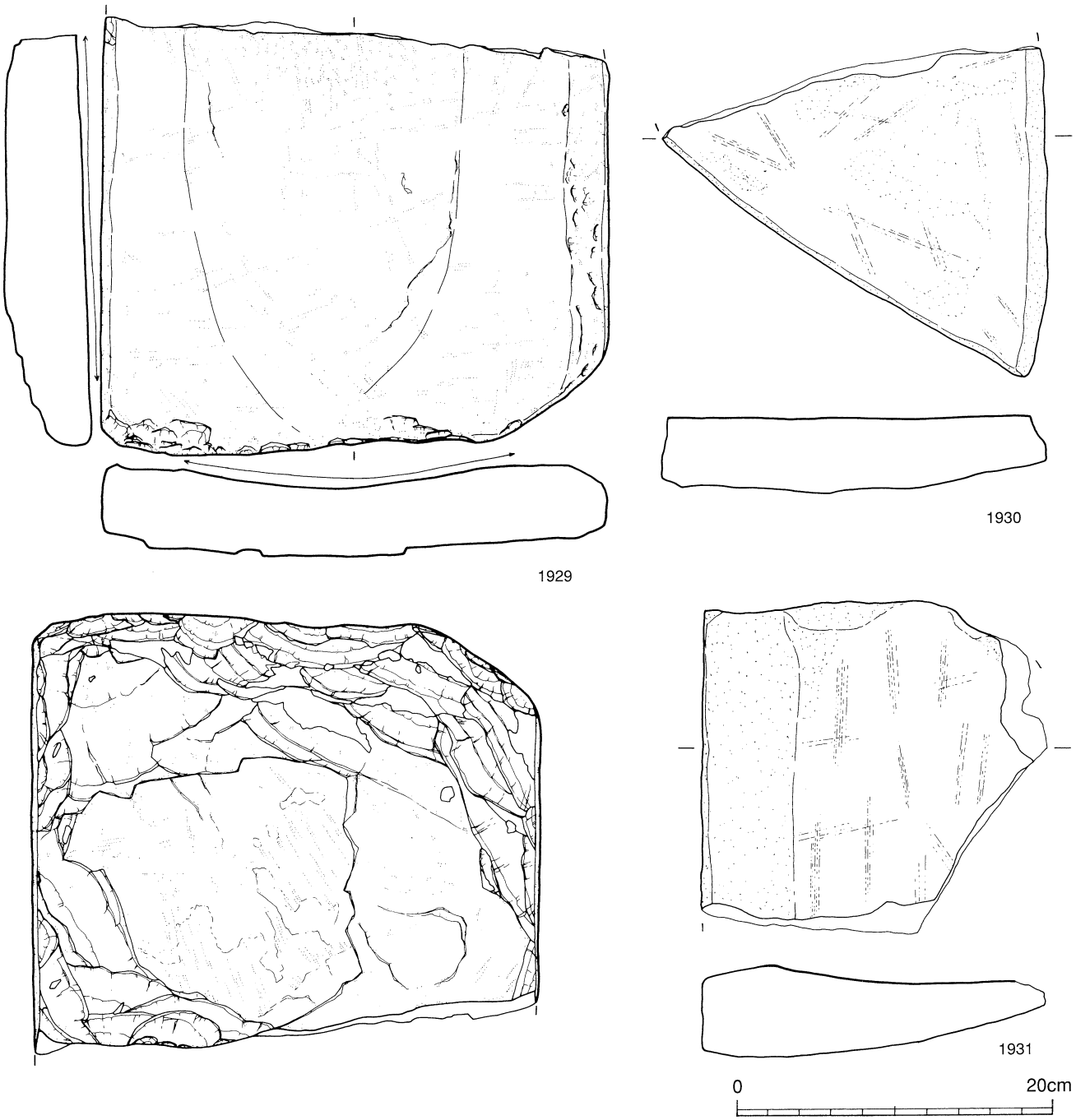
石皿は木の実をすり潰す時など，臼となる道具であり，磨石や敲石とセットとなって使われたと考えられる。調理を主体としながらも，赤色顔料の様に粉状にする作業の際は石皿が使われたと考えられている。ある程度の厚さを保ちながらも，全体的には扁平な石材を利用しており，使用頻度が増してくると全体が凹レンズ状に窪んでくる。窪みの長軸方向に対して磨石などを掴んだ両手で前後方向の反復運動を繰り返して，粉状にしたと考えられる。石のザラザラした表面を利用した道具であるので，安山岩や砂岩などの石質が多用される。

1929は細かな目をもつ砂岩を利用したものであり，半分に割れてはいるものの長方形に加工された石皿である。最も深い部分は1.7cmほど窪んでおり，凹面の部分の手ざわりはスベスベするほど良く使われている。最も深い部分は細かな凹凸がみられ，ザラザラを再生したのかどうか検討する必要がある。裏面の中央部分も摩滅痕がはっきりしており，それを切る様な形で各外縁

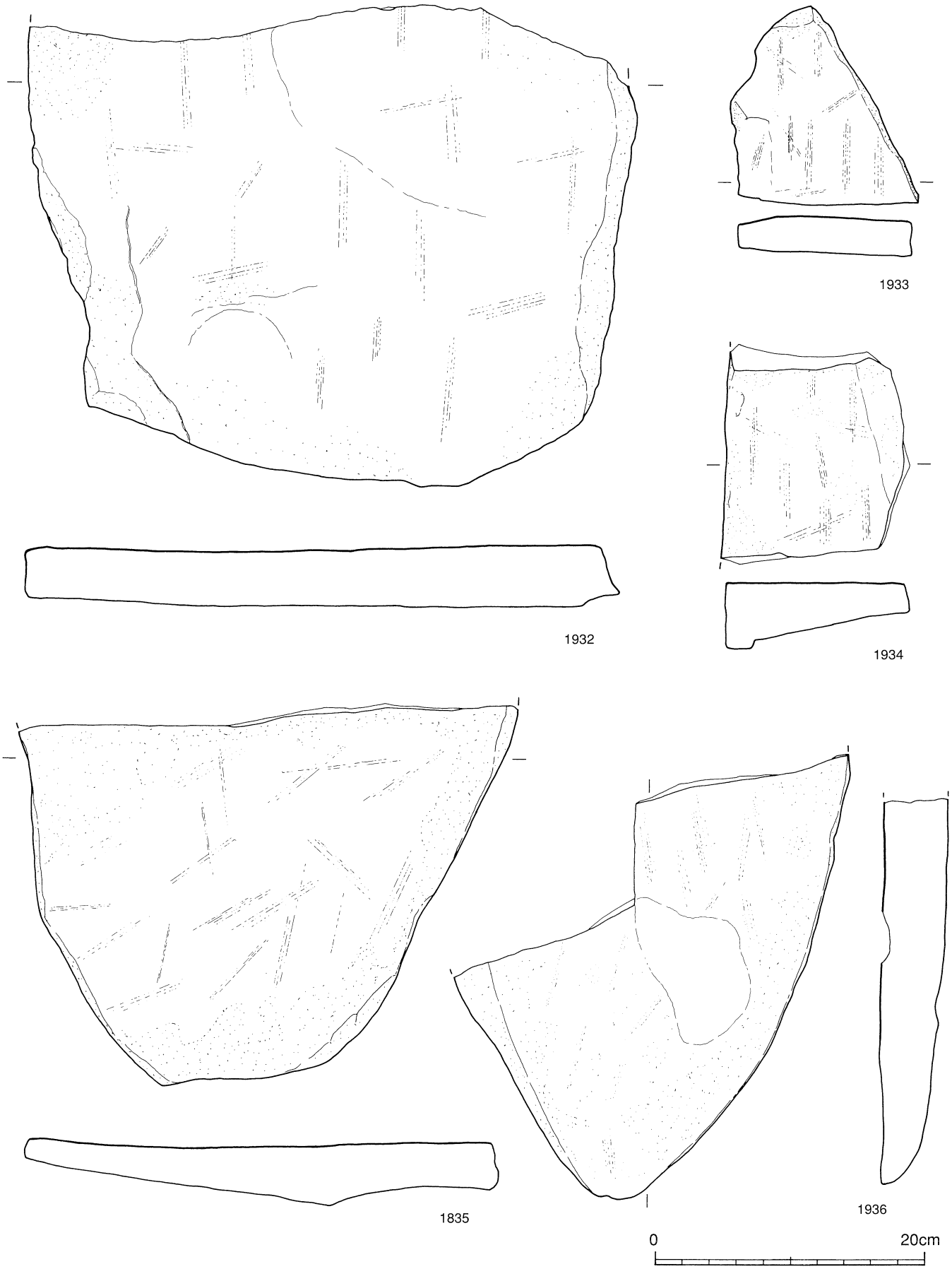
表49　石器観察表27

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第287図	1932				石皿		安山岩	36.00	43.00	4.60	14100.0	−		−
	1933	B-16		Ⅲ	石皿		安山岩	13.80	13.40	2.60	800.0	11866	8.41	−
	1934	D-15		Ⅲ	石皿		安山岩	14.00	13.20	5.00	1600.0	2661	8.135	−
	1935				石皿		安山岩	6.80	26.00	4.60	7000.0	−		−
	1936	D-15		Ⅲb	石皿		安山岩	33.40	29.60	4.60	4200.0	5821	8.1	−
第288図	1937				石皿		細粒砂岩	21.95	13.50	3.14	1562.0	−		44
	1938				石皿		安山岩	42.60	36.40	10.60	23000.0	−		−
第289図	1939	D-14		Ⅲ	石皿		安山岩	20.00	38.00	13.20	19500.0	1179	8.05	−
	1940	B-35			石皿		安山岩	19.60	15.00	10.40	5100.0	−		−
	1941	B-23		Ⅲ	石皿		安山岩	19.40	17.60	7.60	4600.0	16609	9.645	−
	1942	D-21		Ⅲ	石皿		安山岩	16.40	13.00	5.20	2200.0	10562	8.54	−
	1943	B-14		Ⅲ	石皿		安山岩	5.80	8.00	5.40	500.0	14097	8.23	−
	1944	B-3		Ⅱ	石皿		砂岩	16.20	14.00	5.60	2400.0	592	7.667	−
第290図	1945			Ⅱb	石皿		安山岩	10.62	7.60	2.69	250.0	−		−
	1946	B-18		Ⅲ	石皿		安山岩	11.20	9.20	4.80	1100.0	8553	7.405	−
	1947				石皿		安山岩	21.60	16.34	7.00	2700.0	−		−
	1948				石皿		安山岩	25.60	17.40	9.00	5700.0	−		−
	1949	C-15		Ⅲ	石皿		安山岩	16.40	14.00	4.00	1000.0	9310	8.15	−
	1950	C-17			石皿		安山岩	5.00	16.00	5.00	900.0	−		−
	1951	C-17			石皿		安山岩	18.00	31.10	10.00	8400.0	−		−

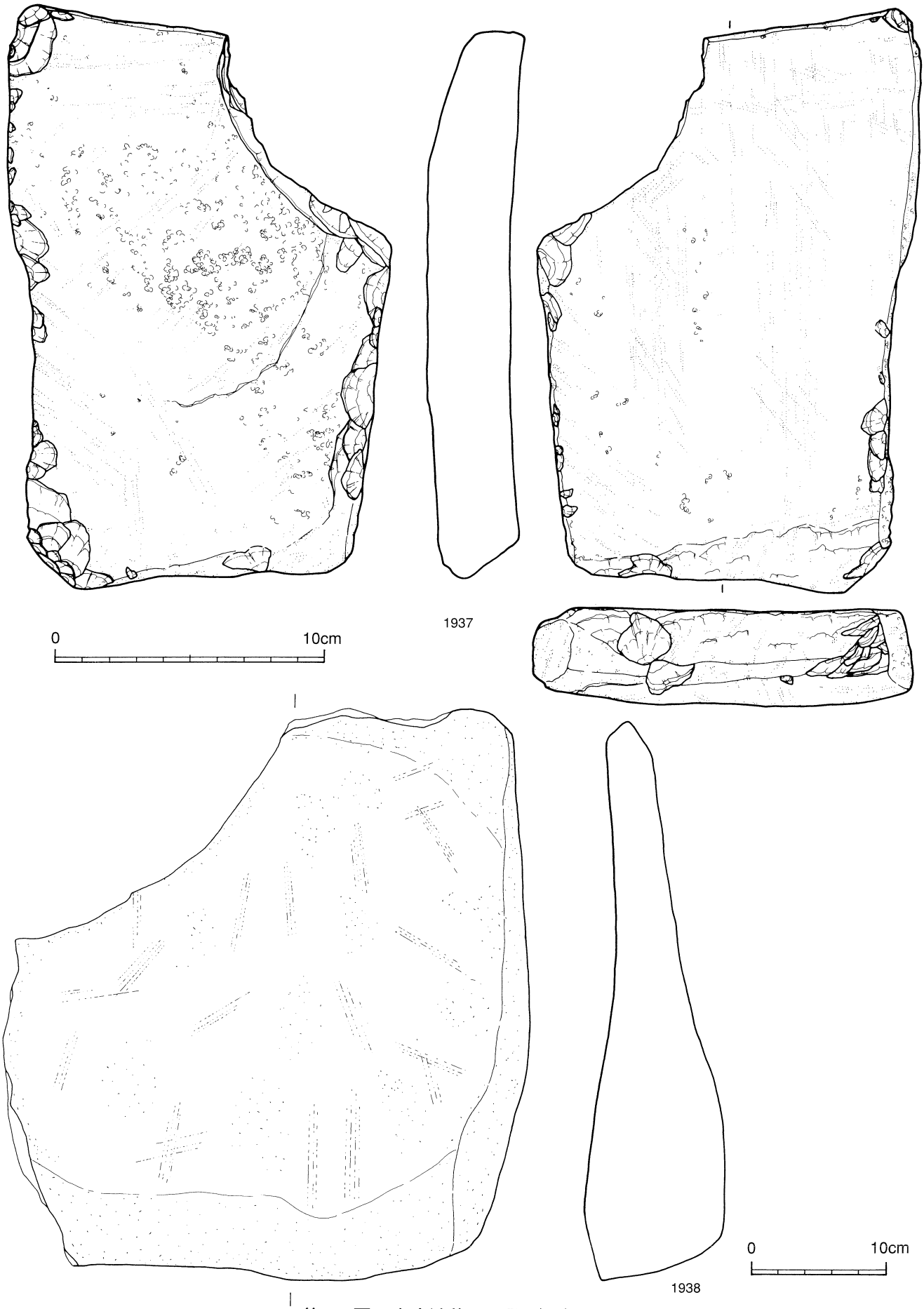
からの剥離がみられる。この状況は当初裏面を使用していたのを再加工し，逆の面を使い始めたことを示していると考える。そして，半分に割れたために使用を断念したと推察される。1930・1933～1936はほぼ平坦で摩滅した面も所々であり，使用頻度が高くないものと考えられる。1931は図面には出ていないものの，裏面の片方の縁を剥離しており，置く時の安定性を考慮したものと思われる。1932は元々の形状を保っているもので，板石状の安山岩の右上だけを剥離して形を整えている。磨面は中心に向かうほど強くなり，中心部はわずかに窪んでいる。1938は広い磨面の中にいくつかゆるやかに盛り上がった部分があることから，素材の凹凸を残しながら使用している様子が窺える。1937は1929と同じ様な石材を用いており，上面全体の手ざわりがツルツルしている。はっきりした溝状にはならないものの，3㎝幅の浅い溝状のものが3方向にみられる。玉類に使用したかどうかはわからない。なお，裏面にも使用した痕跡がある。1939は大型の安山岩を使用しており，2方向で欠損している。なぜこの様な大きな石が2方向で割れたのかはわからない。1943は手の平におさまる程の素材であるが，一面に使用痕が認め



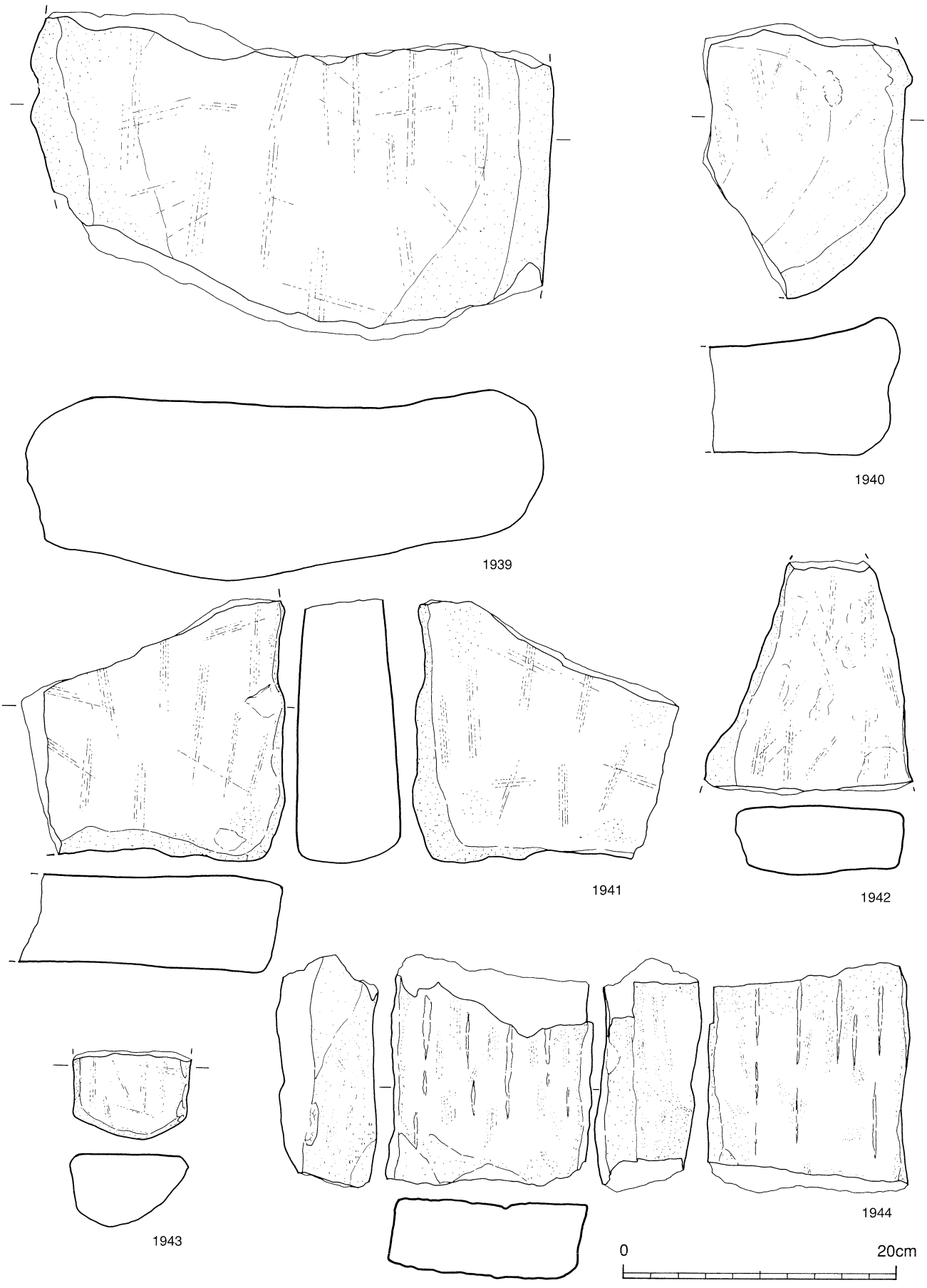
第286図　出土遺物　石器（97）石皿



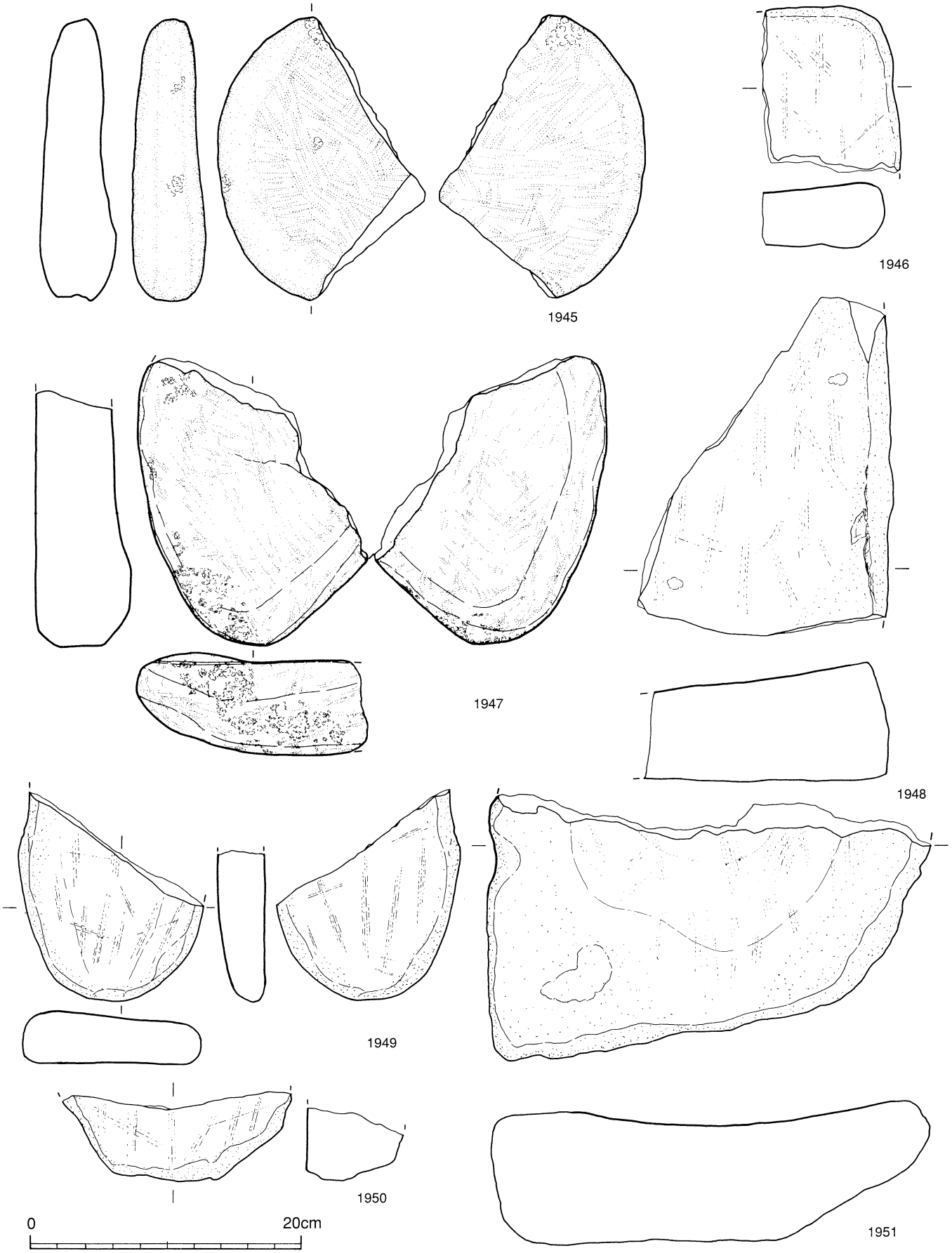
第287図　出土遺物　石器（98）石皿



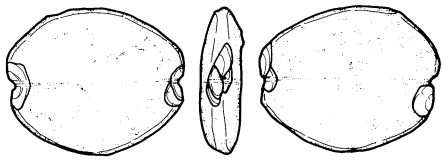
第288図　出土遺物　石器（99）石皿



第289図　出土遺物　石器（100）石皿

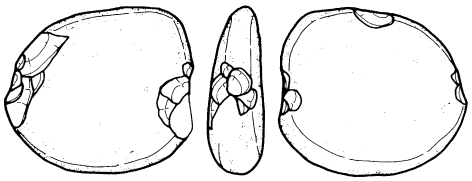


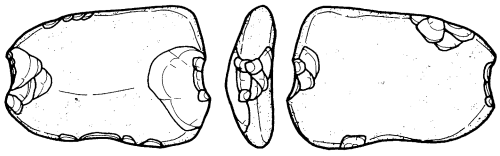
第290図　出土遺物　石器（101）石皿

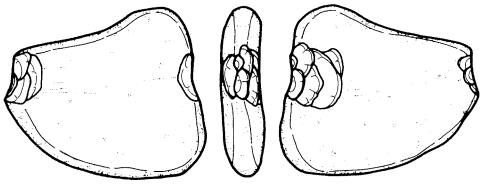

1952

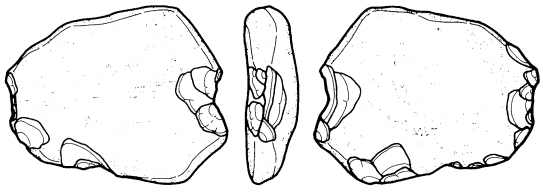
1953

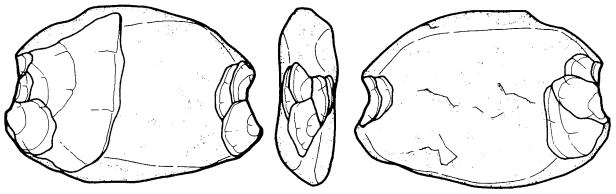
1954

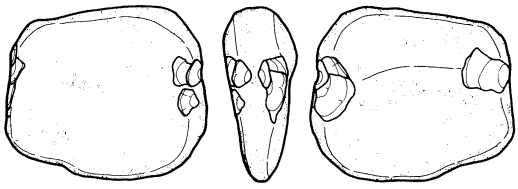

1955

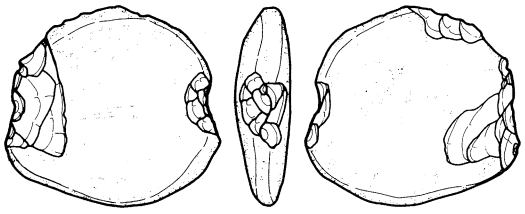

1956

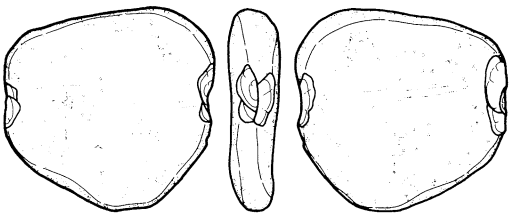

1957

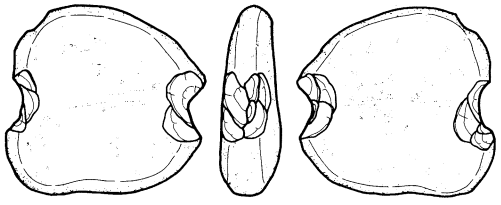

1958

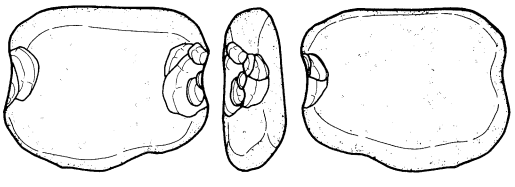

1959

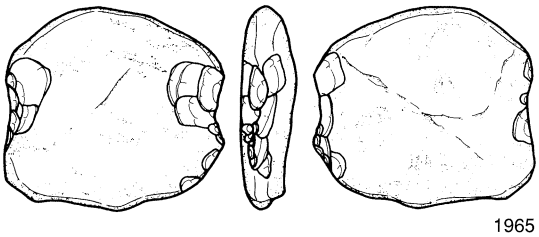

1960

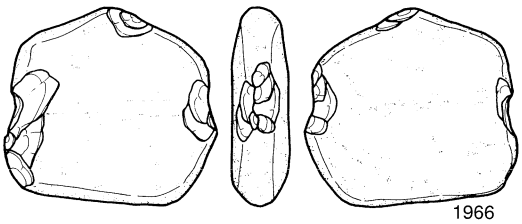

1961

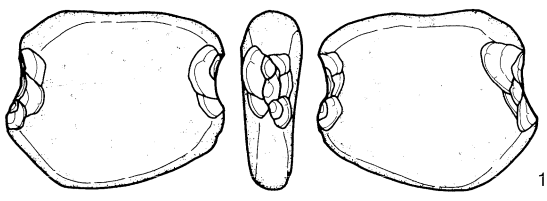

1962


1963


1964

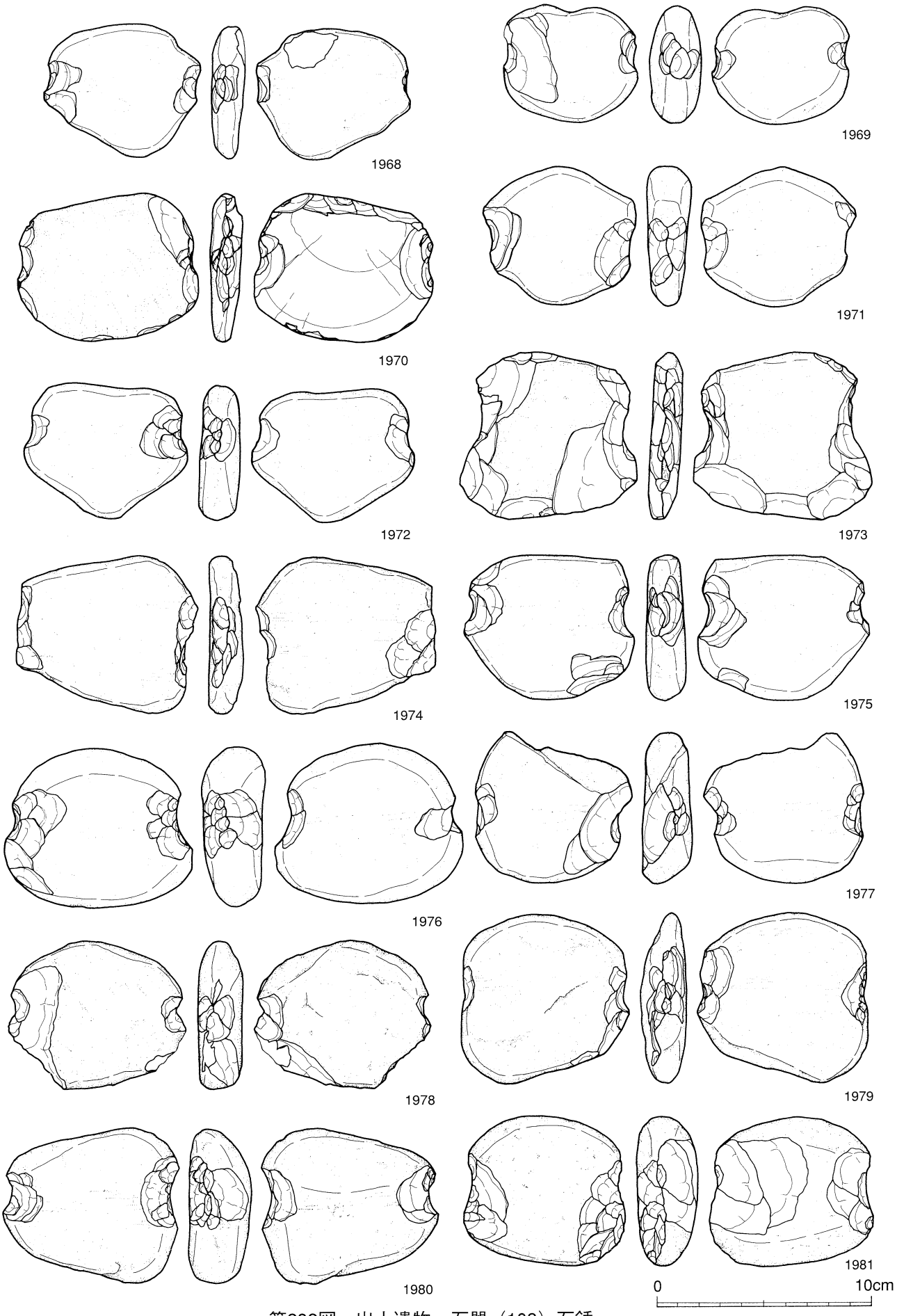

1965


1966


1967

0 10cm

第291図　出土遺物　石器（102）石錘



第292図　出土遺物　石器（103）石錘

られたので，石皿に含めた。1944 は長方形の砂岩を素材としており，磨面内にもゆるやかな凹凸が認められる。1949 は幅 14 ㎝の比較的小さな安山岩礫を素材とし，両面に使用痕がある。1948 は側面を丁寧に加工しており，両面に対して直角になるほどの断面形である。

今回出土した石皿は，欠損したものばかりであり，全形を窺い知る例はなかったが，長方形を意識した形状が目についた。磨石や敲石の出土点数に比較して少ない様な印象もあるが，消耗頻度の差を示しているものであろう。それにしても，大きな安山岩製の石皿が割れている点が不思議である。普通に使用していて，石皿が割れるほどの力が加わるとは考えにくい。当時の人々の何らかの考えによるものなのかどうかについては，同時期の他の遺跡例や異なる時期の石皿と比較しながら検討しなければならない。

⑬石錘（第 291～297 図　1952～2018）

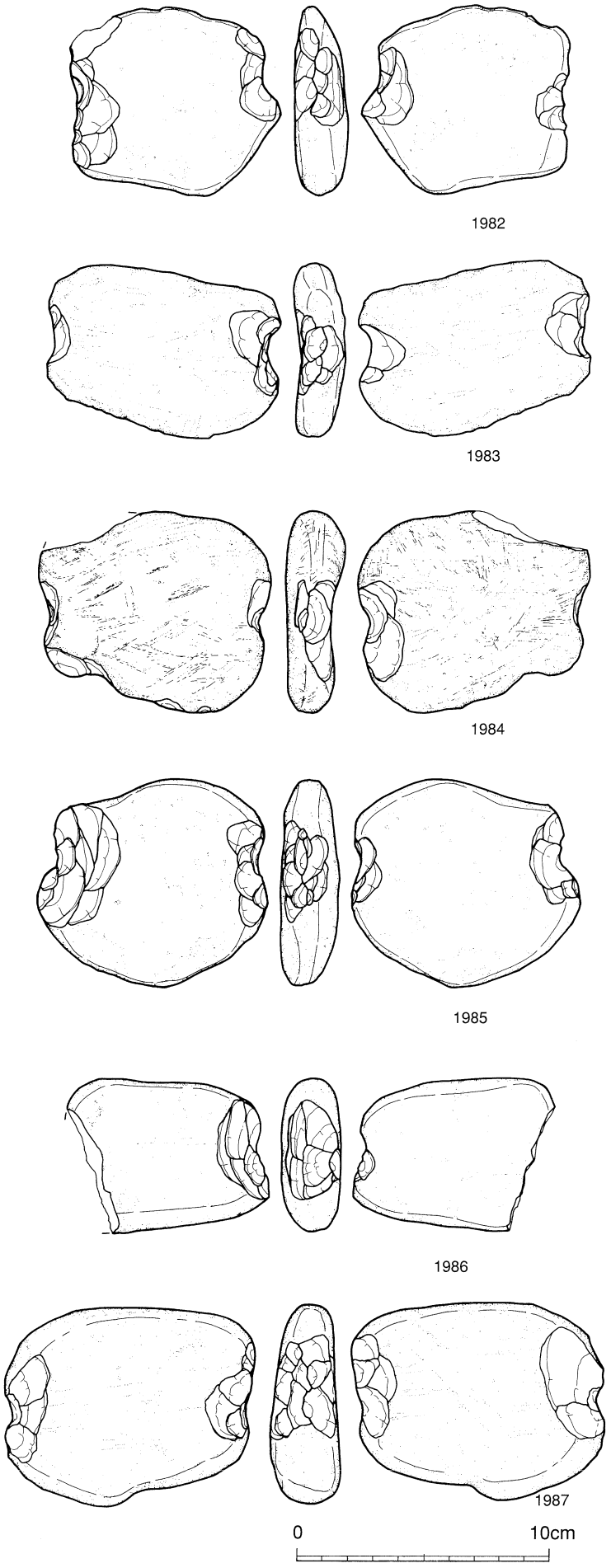
石錘は 67 点出土している。石材は安山岩が最も多く，砂岩・凝灰岩・頁岩が使用されている。重量は 50ｇ～354ｇのものが出土しており，統一性はみられない。

1952 は切目石錘で１点だけ出土している。両端を打ち欠いた後，溝状に切り込みを施している。石材は赤っぽい頁岩を使用しており，重量は石錘の中で最も軽く 50ｇである。

1953～2018 は礫石錘である。表と裏の両方の面から剥離を施しており，石材は扁平で主に長軸を打ち欠いて使用している。2003～2008 は楕円形をした石材の短軸を打ち欠いている。2009 は焼成をうけており，外面の一部が赤褐色をしている。

2016～2018 は３か所打ち欠いている。2016・2017 は短軸の他に長軸を１か所打ち欠いているが，短軸のように，両方の面から打ち欠いていないことから，使用目的で打ち欠いたのかは不明である。

67 点出土したうちで，1952 のみが擦り切りによる切目石錘であるとともに，重さが最も軽い。したがって，錘としての機能であることには変わりないが，他の礫石器とは用途が異なっていたのではないかと考えられる。他の礫石器が打ち欠きによる礫石錘であり，抉りが深くて頑丈に結びつけられたのではないかと想定されるのに対し，切目石錘の場合は，抉りが浅くて華奢な感じを受ける。また礫石器の数は多くて網に何個も付けられたと考えられるのに対し，切目石錘は１点だけの出土であり，単独で使われたのではなかろうか。これらの点から考えられるのは，蛸を捕る時に用いる蛸石である。鹿児島水産高等学校の徳留秋輝氏によると，蛸はえさを捕獲す



第293図　出土遺物　石器（104）石錘

る際，８本の足で包み込むようにして捕らえるそうで，疑似餌の先に鉤を付け，錘としての機能と蛸が抱きつくための機能を兼ねた蛸石が必要となるとのことである。また，「タコゲタ」と呼ばれる細長い角材に２つの鉤が付いた道具にも６㎝前後の両端を打ち欠いた石の錘をくくりつけてあるのを，熊本県天草の資料館で見たことがある。なお，平川敬治氏（平川　1988）の文献には蛸石のことは出てこないが，興味深い記述がある。それは，イイダコ用の沈子が30～50ｇで，マダコ用が 50～160ｇであるとのことである。また，蛸は白または赤系統に反応するということで，1952 が赤っぽい石材であることに示唆を与える。蛸は近海の水深 20m～30mにもすんでおり，大坪遺跡沖の海岸でもたくさん生息していたであろう。蛸は貝塚や洞穴等から出土した例はなく，いつ頃から日本人が食べていたのか定かではないが，蛸石としての可能性が高まってくると，縄文時代にも蛸を食していた証拠となるだろう。いずれにしても，今回は１点だけの出土であり，憶測にすぎないが，海に関する道具は魚介類及び海草類の生態に併せて数多くあったことが想定されるので，少しでもこれらのことを考える契機になればと思って記した。

大坪遺跡出土の礫石錘は，長軸方向に網掛け部をもつものがほとんどであるが，出水貝塚で出土した礫石錘は短軸方向にもつものである。両遺跡は米ノ津川を挟んで対峙する位置にあるものの，漁業環境に大差はないものと思われる。出水貝塚が縄文時代後期前半であることから，両者の関係は時期差であると考えられる。後期前半から後期後半に至る間で，どの時期に石錘装着の変更が行われたのか，そしてそれは何を意味するのか解明することが，今後の課題である。

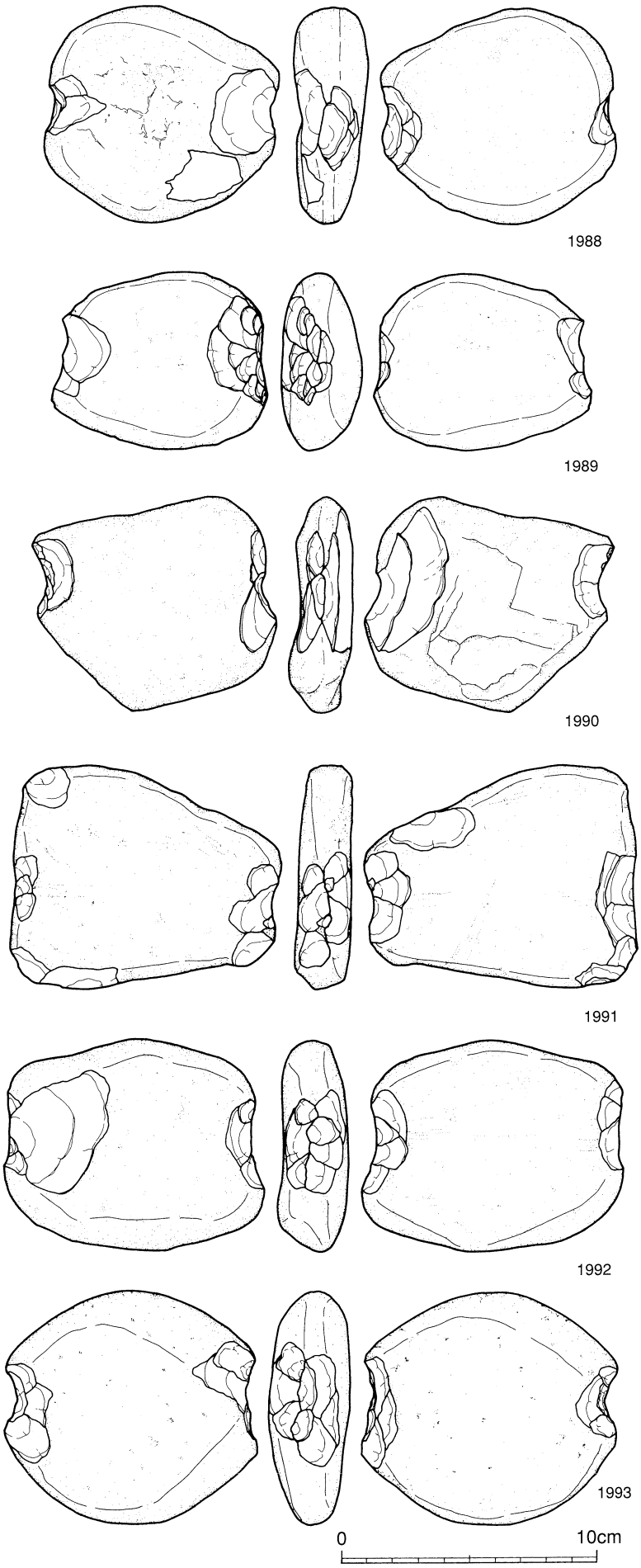
大坪遺跡出土の礫石錘の機能については，網掛け部が長軸方向にあることから，中尾篤志氏（中尾2002）が述べる様に漁網のための錘と考えたい。

平川敬治　1988. 3「タコ手釣り漁における漁撈文化の一側面」　『日本民族・文化の生成』　永井昌文教授退官記念論文集　六興出版

中尾篤志　2002. 10「中・四国地方における縄文時代の漁網錘」　『往還する考古学』　近江貝塚研究会

⑭異形石器（第 298 図　2019～2033）

黒曜石を素材とし，両面から丁寧な剥離を行う。刃部となるような鋭さではなく，刃潰しのようにして形を整えてある。利器としての機能性が考えられない点と，同じ形が無いことから異形石器として扱った。大きさが限られていることと，横長にした場



第294図　出土遺物　石器（105）石錘

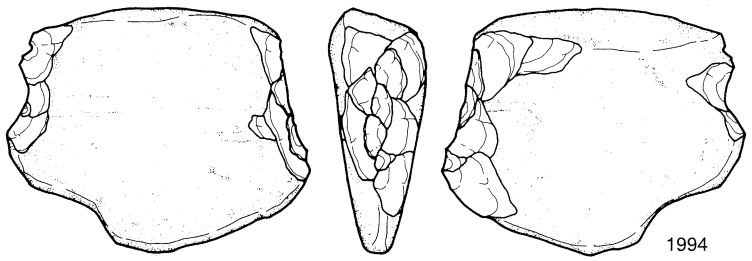
合，線対称となるものが多いという点が特徴である。

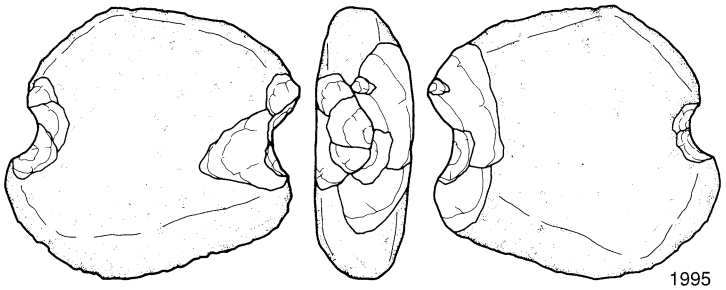
他の遺跡で出土する異形石器も時期的に同一であり，作り方や大きさも似ている。形としてはバリエーションがあり，規格品と呼ばれるほどのものはない。使われ方としては，単独で使われたとは考えにくく，何かの一部であった可能性が高い。一つ考えられるのは，衣類やヘアバンドなど身に付けるものに縫い込んであったのではないかというものである。しかし，衣に関しての証拠は土偶や組織痕土器など限られたものしかなく，解明されるまでには有機質を伴う湿地帯などの良好な資料の増加を待つほかない。

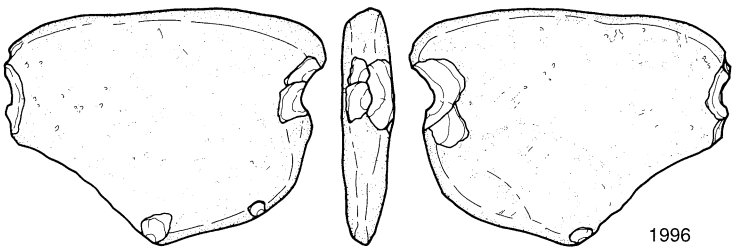
⑮石刀？（第298図　2034）

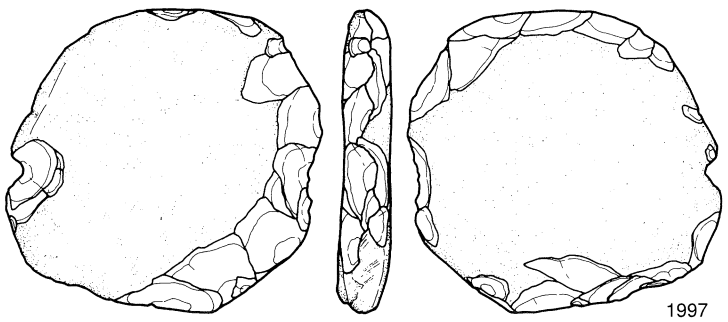
2034は確実なことは言えないのであるが，注意を喚起する意味で石刀？とした。県内では大坪遺跡と同じ時期にみられ，末吉町南之郷・胡麻・塚ヶ段・五位塚・鹿屋市水の谷・金峰町農業センター遺跡群での出土が知られている。なお，熊本県牛深市天附遺跡から最初に見つかっていることから，天附型石刀と呼ばれる。両面とも両脇から粗く剥離して形を整える点は石斧と同様であるが，端部が一方に片寄る点で異なる。端部のおさめ方や厚みがこれまで県内で出土している石刀に似ており，敲打による整形や研磨による仕上げをする以前の未製品である可能性も捨て難いのである。天附型石刀が湾曲しているのに対し，本遺物は直線的である点は否定的である。いずれにしても，本遺物については今後使用する方々に判断していただくとして，一般遺物の中に埋没だけはさせたくなかった点をご理解いただきたい。

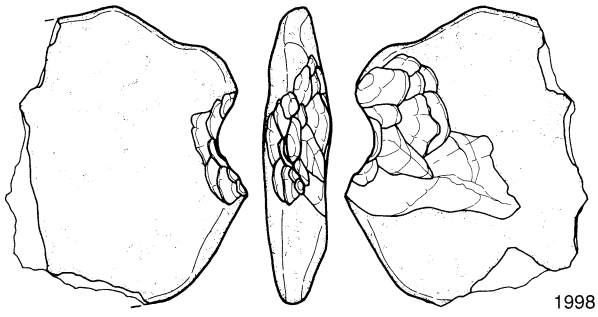
東和幸　2001．3「九州・近畿地域における石製呪術具集成（5）　九州地域（熊本県・宮崎県・鹿児島県）の概要と集成」　『縄文・弥生移行期の石製呪術具2』　小林青樹

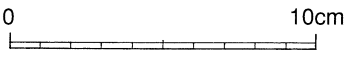




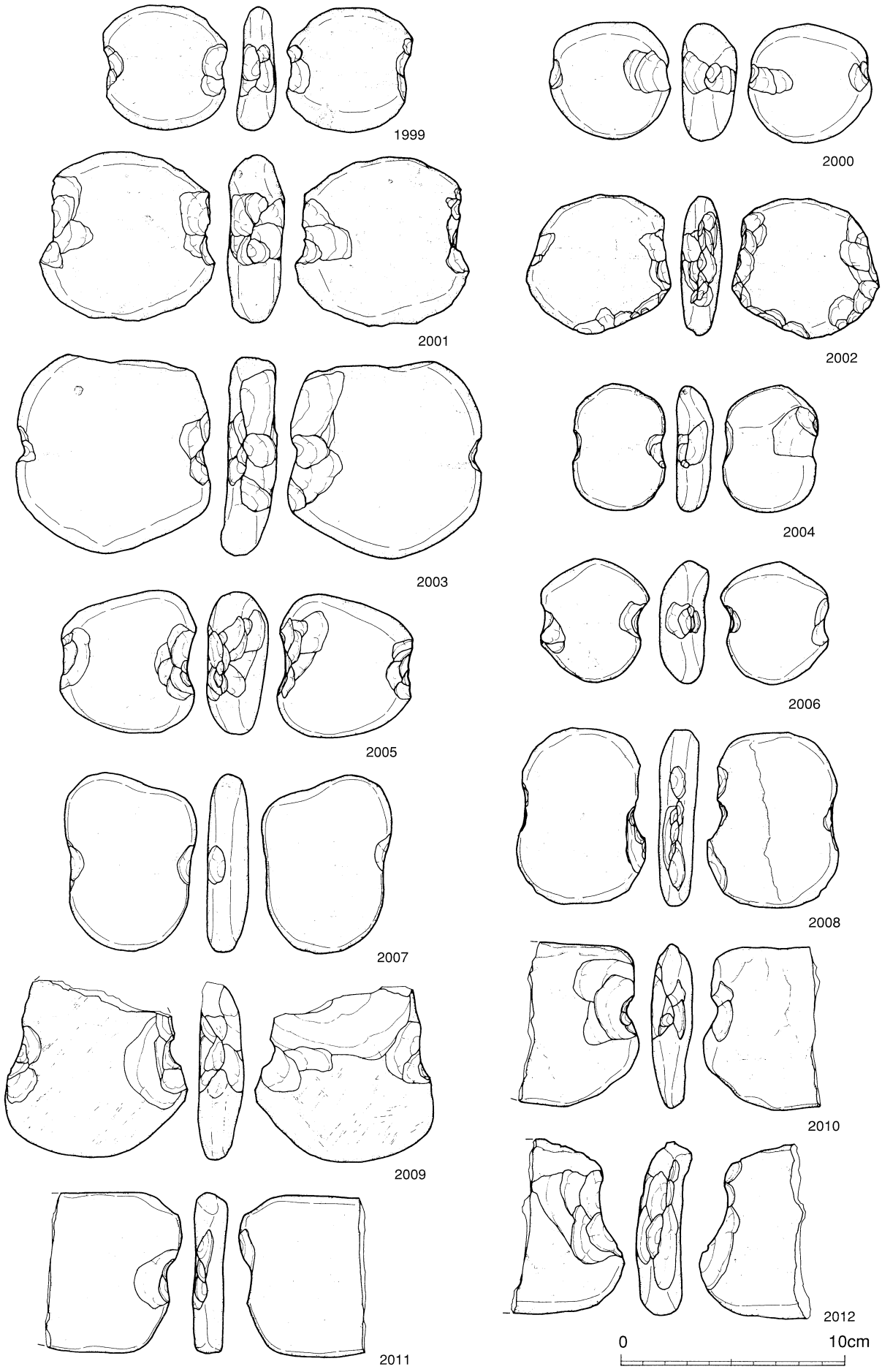




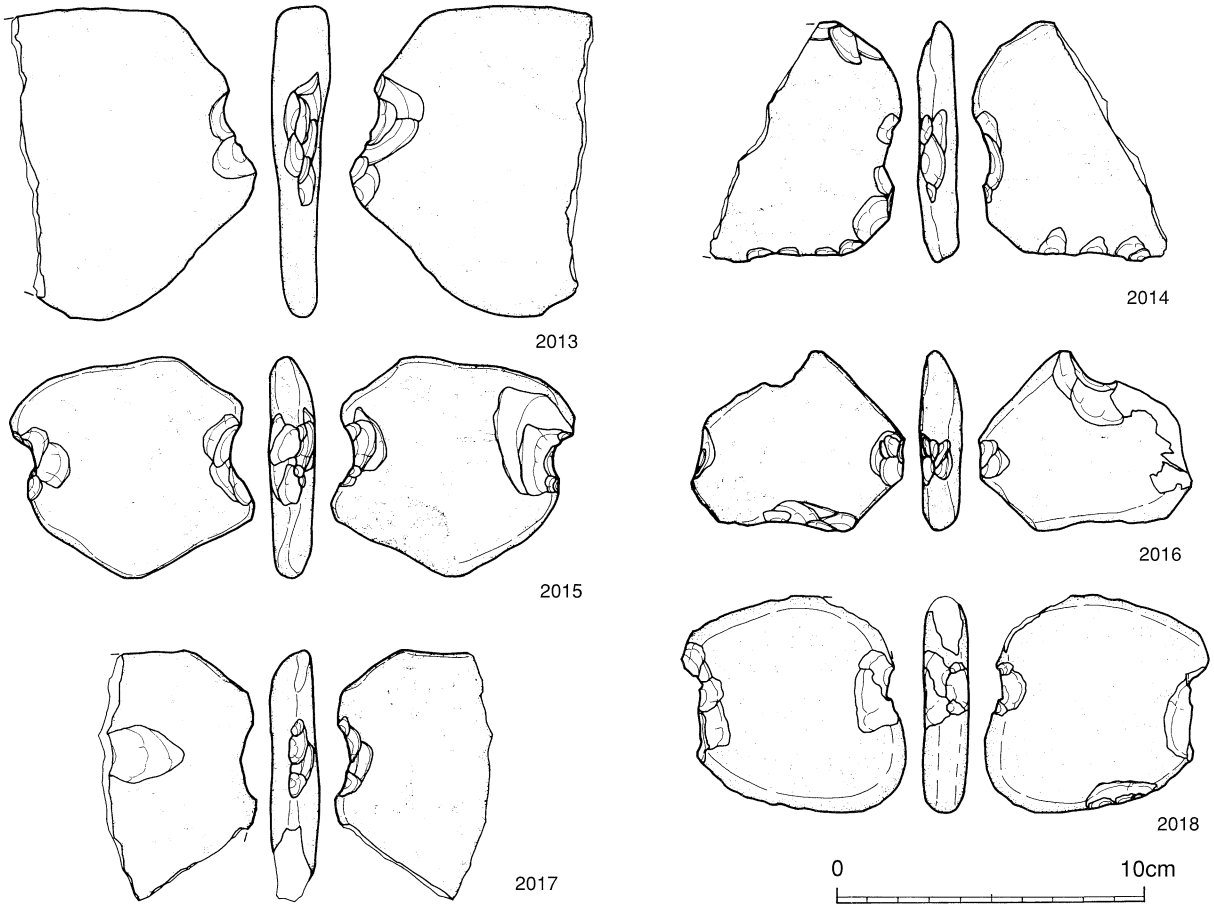




第295図　出土遺物　石器（106）石錘



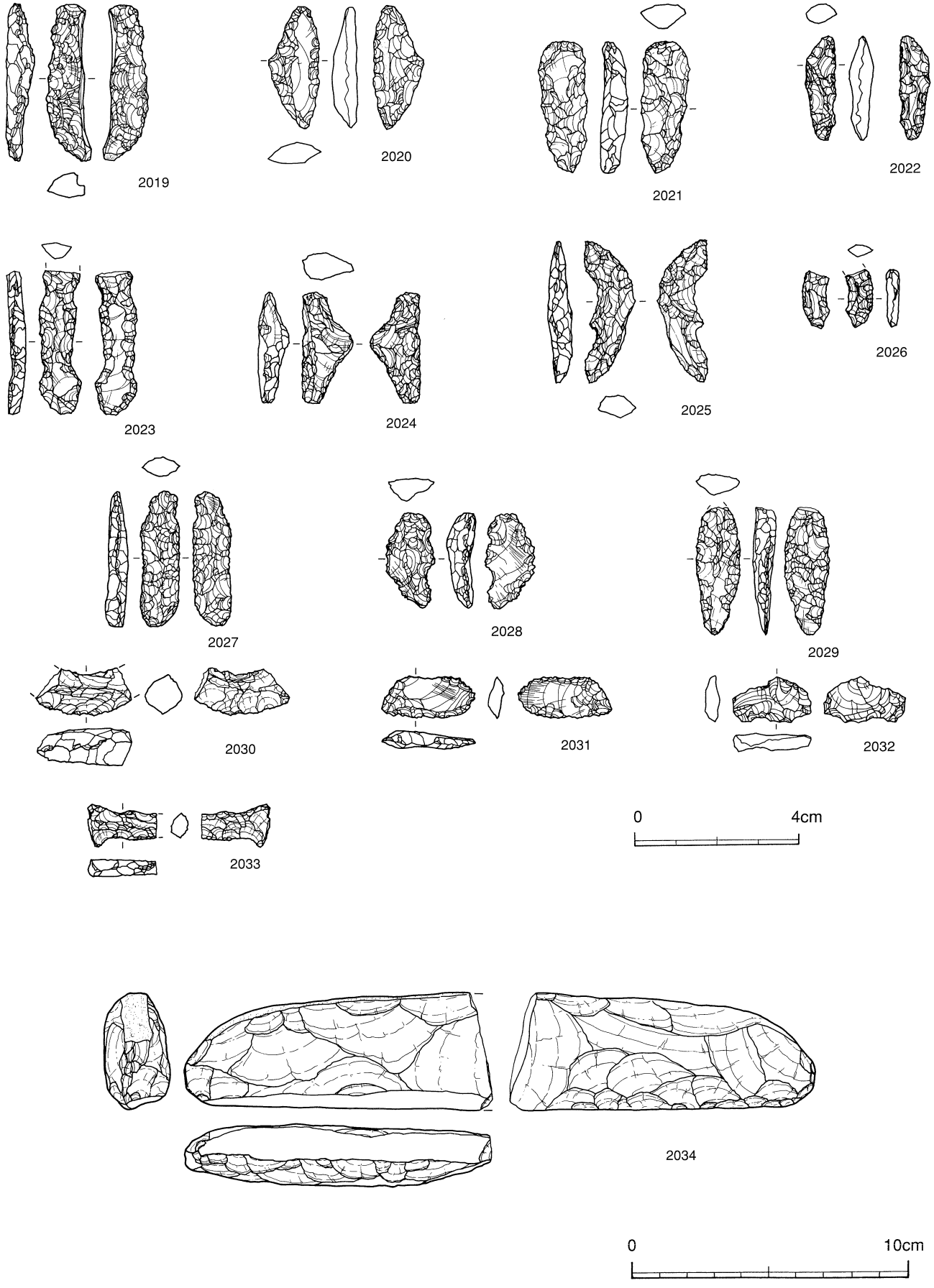
第296図　出土遺物　石器（107）石錘



第297図　出土遺物　石器（108）石錘

表50　石器観察表28

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第291図	1952	D-24			石錘		頁岩	4.69	5.66	1.29	50.00	—		48
	1953	B-21		Ⅲ	石錘		砂岩	4.90	5.54	1.42	59.00	15140	8.675	48
	1954	D-20		Ⅲ	石錘		砂岩	4.37	4.35	2.23	58.00	4234	8.56	48
	1955	C-18		Ⅱb	石錘		砂岩	5.32	5.82	1.68	78.00	—		48
	1956	C-24		Ⅲ	石錘		砂岩	4.56	6.60	1.93	60.00	12269	8.605	48
	1957	D-24			石錘		安山岩	5.51	6.21	1.13	65.00	—		－
	1958	D-15		Ⅱ	石錘		安山岩	5.73	7.02	1.41	65.00	3061	8.375	－
	1959	C-21		Ⅲ	石錘		凝灰岩	5.74	8.06	1.76	91.00	11226	8.56	48
	1960	D-18		Ⅲ	石錘		凝灰岩	5.64	6.54	2.33	99.00	7286	8.305	－
	1961	D-18		Ⅲ	石錘		砂岩	6.52	6.91	1.62	101.00	5146	8.335	48
	1962			Ⅲ	石錘		安山岩	6.54	6.76	1.41	102.00	—		－
	1963	C-18		Ⅲ	石錘		安山岩	6.05	6.22	1.88	103.00	—		48
	1964	D-16		Ⅲ	石錘		安山岩	5.38	6.65	1.94	109.00	—		48
	1965	C-17			石錘		砂岩	6.57	7.11	1.81	110.00	—		－
	1966	B-21		Ⅲ	石錘		安山岩	6.36	6.70	1.85	122.00	15123	8.33	48
	1967			Ⅲ	石錘		安山岩	5.89	7.02	1.82	123.00	—		48
第292図	1968	D-18		Ⅱb	石錘		凝灰岩	6.78	7.03	1.43	81.00	5461	8.31	－
	1969	B-14		Ⅱ	石錘		砂岩	5.48	6.98	2.42	118.00	14302	8.255	48
	1970	D-12		Ⅲ	石錘		頁岩	6.65	8.26	1.50	124.00	29	8.143	－
	1971	C-16		Ⅱb	石錘		安山岩	6.55	7.05	2.01	126.00	8294	8.38	48
	1972	D-15		Ⅲ	石錘		安山岩	6.25	7.50	1.78	128.00	4859	7.99	－
	1973	D-02		Ⅲ	石錘		安山岩	7.84	8.20	1.37	133.00	143	7.615	－
	1974	C-16		Ⅲ	石錘		安山岩	7.22	8.20	1.37	134.00	7836	8.3	－
	1975	D-17		Ⅲ	石錘		安山岩	6.80	7.90	1.84	140.00	6857	8.115	48
	1976	C-18		Ⅱb	石錘		安山岩	7.52	8.70	2.75	270.00	8847	7.46	48
	1977	C-17		Ⅲ	石錘		砂岩	6.19	7.25	2.28	149.00	8867	7.21	－
	1978	D-12		Ⅲ	石錘		安山岩	7.01	8.15	2.06	160.00	—		－
	1979	A-35		Ⅳ	石錘		頁岩	7.47	7.92	2.11	185.00	16850	9.3	－
	1980	C-23		Ⅲ	石錘		砂岩	7.94	8.11	2.81	236.00	12969	8.935	48



第298図　出土遺物　石器（109）異形石器・石刀？

表51　石器観察表29

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第292図	1981	D-12	SD43	Ⅲ	石錘		安山岩	6.98	7.67	2.86	200.00	475	7.95	48
第293図	1982	B-23		Ⅲ	石錘		安山岩	7.67	8.23	2.05	188.00	15970	8.695	48
	1983	C-16		Ⅱ	石錘		安山岩	6.43	9.46	1.77	143.00	8540	7.575	48
	1984				石錘		安山岩	7.75	9.22	2.44	167.00	—		–
	1985	B-14		Ⅲ	石錘		安山岩	8.31	8.97	2.17	210.00	13701	8.24	48
	1986	D-21	SR26	Ⅲ	石錘		安山岩	6.15	7.20	2.29	166.00	10137	8.37	–
	1987	C-24			石錘		安山岩	7.94	9.50	2.70	307.00	—		–
第294図	1988	B-14		Ⅲ	石錘		安山岩	8.69	8.98	2.49	281.00	14490	8.155	48
	1989	D-15		Ⅲ	石錘		安山岩	7.05	8.44	2.97	205.00	5639	7.955	48
	1990	C-18	SD44		石錘		頁岩	7.20	9.19	2.25	250.00	8682	7.39	–
	1991	D-22		Ⅲ	石錘		安山岩	9.05	10.54	2.22	300.00	—		–
	1992	D-18		Ⅲ	石錘		砂岩	8.98	10.21	2.94	354.00	3603	8.345	–
	1993	D-17		Ⅲ	石錘		凝灰岩	9.39	9.92	3.01	315.00	6422	8.15	48
第295図	1994	C-16			石錘		砂岩	8.09	9.69	3.10	282.00	—		–
	1995			Ⅲ	石錘		安山岩	8.95	9.33	3.13	304.00	—		48
	1996	B-22			石錘		安山岩	7.70	9.76	1.66	177.00	—		–
	1997	C-22			石錘		安山岩	10.10	9.96	1.59	262.00	12817	8.5	–
	1998	C-24		Ⅲ	石錘		安山岩	9.34	7.68	1.82	193.00	4649	8.07	–
第296図	1999	B-22			石錘		安山岩	5.65	5.16	1.58	61.00	14951	8.895	48
	2000	C-17		Ⅱb	石錘		安山岩	5.37	5.46	2.38	83.00	8056	8.4	48
	2001	C-22	SD43		石錘		安山岩	7.61	7.67	2.33	190.00	12006	8.57	48
	2002	C-17		Ⅲ	石錘		砂岩	6.06	6.19	1.70	98.00	8875	7.25	48
	2003	C-18●D-18？		Ⅲ	石錘		砂岩	8.76	8.60	1.90	230.00	—		–
	2004	C-15			石錘		砂岩	5.64	4.13	1.11	56.00	—		48
	2005			Ⅲ	石錘		安山岩	6.55	5.92	2.49	151.00	—		48
	2006	C-22	SD43		石錘		凝灰岩	5.51	4.68	2.07	68.00	—		48
	2007	C-17		Ⅲ	石錘		砂岩	7.87	5.72	1.85	125.00	—		–
	2008	C-16			石錘		安山岩	7.91	5.73	1.71	107.00	—		–
	2009	D-03	SH	Ⅲ	石錘		安山岩	7.48	7.80	1.81	151.00	111	7.565	–
	2010	C-17		Ⅱ	石錘		安山岩	7.31	4.87	1.78	79.00	—		–
	2011				石錘		安山岩	7.18	5.36	1.29	90.00	—		–
	2012	D-21			石錘		安山岩	7.17	4.37	1.99	89.00	—		–
第297図	2013	D-16		Ⅲ	石錘		安山岩	10.33	7.24	1.57	164.00	6347	8.145	–
	2014	D-20			石錘		安山岩	7.81	5.51	1.08	66.00	—		–
	2015	D-18		Ⅲ	石錘		砂岩	7.00	7.16	1.35	102.00	4560	8.37	–
	2016	C-17		Ⅱb	石錘		安山岩	5.74	6.68	1.08	56.00	8316	8.425	–
	2017	C-15		Ⅲ	石錘		安山岩	8.11	4.67	1.59	73.00	8135	7.905	–
	2018	D-22	SX81		石錘		砂岩	7.05	6.66	1.43	96.00	10634	8.57	–
第298図	2019	C-16		Ⅲ	異形石器		黒曜石（腰岳系）		1.000	0.710	2.13	9402	8.205	49
	2020	C-22			異形石器		黒曜石（腰岳系）	3.105	1.220	0.620	1.97	—		49
	2021	D-15		Ⅱb	異形石器		黒曜石（腰岳系）		1.170	0.660	2.41	6001	8.25	49
	2022	C-21		Ⅲ	異形石器		黒曜石（腰岳系）	2.625	0.895	0.590	0.88	10212	8.615	49
	2023	C-17	SR26		異形石器		黒曜石（腰岳系）		0.410	0.440	1.50	5895	8.405	49
	2024	C-15		Ⅲ	異形石器		黒曜石（腰岳系）		1.240	0.740	1.76	1784	8.185	49
	2025	C-24	SD68		異形石器		黒曜石（腰岳系）		1.210	0.610	1.81	12972	8.875	49
	2026	D-16		Ⅱb	異形石器		黒曜石（腰岳系）		0.630	0.320	0.27	5053	8.08	49
	2027	D-15		Ⅲ	異形石器		黒曜石（腰岳系）		0.900	0.490	1.61	2666	8.14	49
	2028	D-17		Ⅱb	異形石器		黒曜石（腰岳系）		1.190	0.640	1.40	7412	8.33	49
	2029	C-34		Ⅱb	異形石器		黒曜石（腰岳系）		1.100	0.530	1.68	1931	9.56	49
	2030	C-17		Ⅲ	異形石器		タンパク石	1.150	2.310	0.890	2.20	8795	7.255	49
	2031	D-16			異形石器		黒曜石（腰岳系）		1.010	0.430	0.92	4903	8.195	49
	2032			Ⅱb	異形石器		黒曜石（腰岳系）	1.150	1.935	0.400	0.84	—		49
	2033	C-18			異形石器		黒曜石（腰岳系）		1.010	0.410	0.64	8860	7.46	49
	2034			Ⅲ	石刀？		ホルンフェルス	11.075	4.26	2.11	176.12	—		–

⑯**玉類**（第 299～302 図　2035～2110・①～⑤）

縄文時代の玉類は全部で 137 点出土した。そのうち石材同定に出したのが 130 点であり，第Ⅴ章に報告されている。今回図化した縄文時代の玉類は，73 点である。2108～2110 は縄文時代より新しい玉であるが，分析や記述等の関係によりこの項目で扱うこととするので注意されたい。また，①～⑤については，昭和 48 年（1973 年）に沖田岩戸遺跡を発掘調査した時の出土遺物を，当時調査担当者であった長野真一氏が実測しておいたものである。平成 12 年（2000 年）刊行の『沖田岩戸遺跡』に掲載されなかったものを参考までに提示する。ただし，現物は行方不明である。この他，図示はしなかったけれども，玉つくりのための原石３点，剥片及び石屑 61 点が出土しており，玉つくりの工房があったことがわかる。なお，今回の調査では玉砥石及び玉穿孔用の錐は出土していない。

2035～2040 は勾玉である。「コ」の字形をしており，この時期に一般的にみられるものと同様である。2036 と 2037 が上加世田式土器から入佐式土器古段階に伴うものである。2041～2069 は管玉及びその未製品である。中央部が膨らむ「エンタシス」の形をしており，穿孔も両端から行って貫通させてある。2043 は側面の中央部にも穿孔している。藤田富士夫氏はこの様な玉を，孔の断面形でみるとＴ字状に孔が抜けていることから，「Ｔ字孔管玉」と仮称している（藤田 1998）。同様の管玉は，熊本県三万田東原遺跡，佐賀県菜畑遺跡，宮崎県学頭遺跡，それに鹿児島県上加世田遺跡で出土しているという。2048 は他の材質に比べて透明感があり，光をあてると透ける点，摩耗が他と異なり「トロリ」としている点，キラキラした粒子がみられる点，穿孔がストレートである点等から，当初ガラスと疑ったものである。奈良国立文化財研究所の肥塚隆保先生の分析で，ガラスではなく岩石であることがわかった。この点については後述する。2062・2066～2069 は，未穿孔あるいは穿孔途中のものであり，その作られ方がわかる好資料である。穿孔直前の状態は６～８角柱状に粗加工した後，2066 のように上下から穿孔し，全体を磨いて仕上げていたことがわかる。

2070～2072 は固有名詞で呼ぶことができないけれども，大振りの玉である。いずれも入佐式土器新段階に伴うものである。2070 の未製品にみられるように，穿孔方法は両端から行っており，管玉と同様である。

2073～2084 は平玉または丸玉及びそれらの未製品である。2084 は穿孔直前の状態を示しており，多角面を作りながら上面を浅く窪めてある。穿孔方法は同様に両端から行っている。

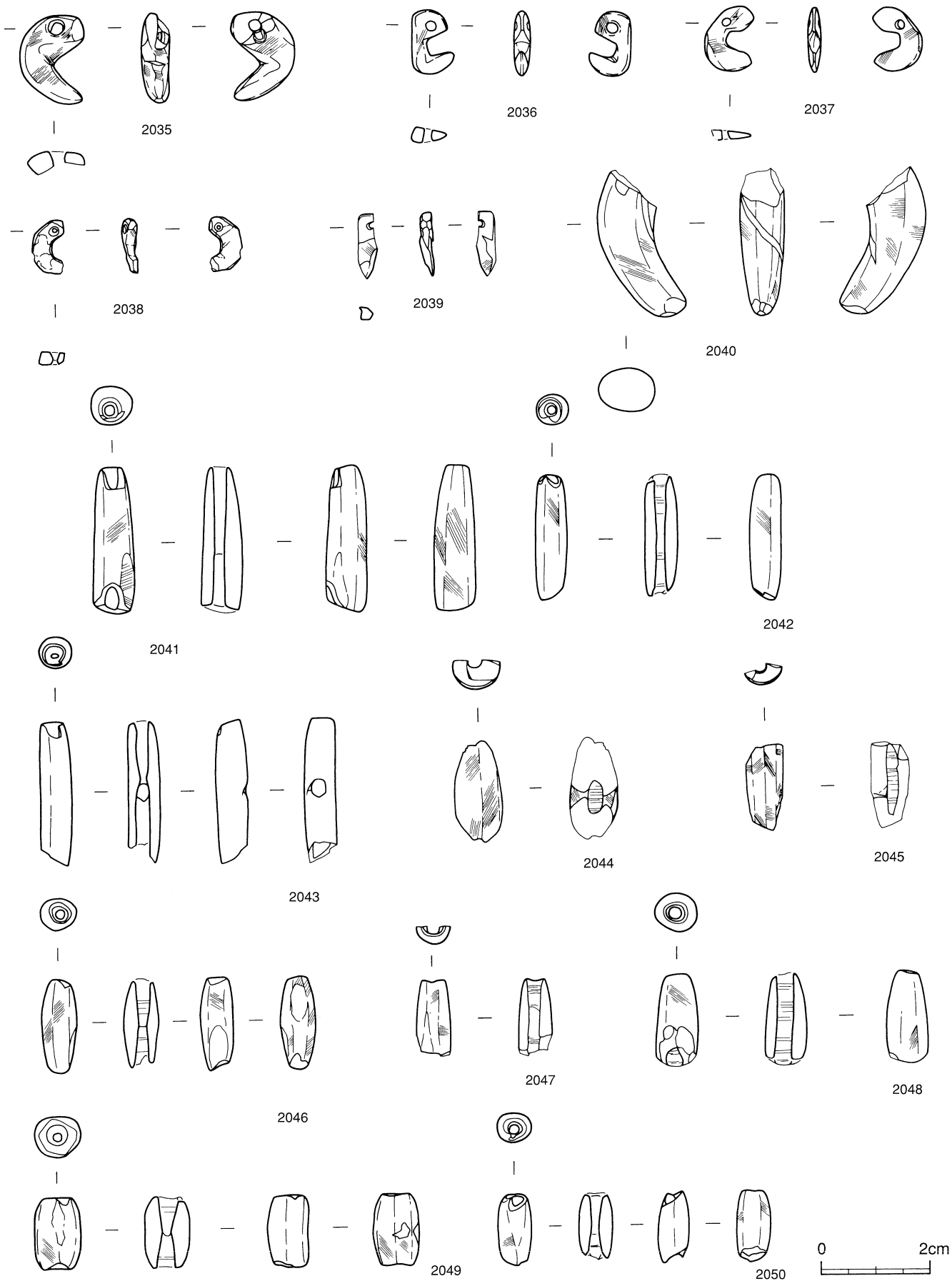
2085 は端部のみ穿孔し，中央部分は溝状に切り込んである。欠損しているが，おそらく糸を通した場合横長に垂れ下がったと考えられる。現在のところ類例を知らない。2086～2107 は擦り切り面をもつなど製作の初期段階の欠損品である。2093 は両面から擦り切り技法を用いて切り込みを入れ，最後は折り取っている様子が窺える。2094～2096 にも同様の手法が観察される。ただし，擦り切り用の石器は出土していない。

2108・2109 はガラス玉である。2108 は直径 5.8 ㎜，長さ 4.95 ㎜で，中心に直径 2.1 ㎜の孔が貫通する。2109 は 2108 の孔内に入っていた粟玉であり，出土した時点では２個入っていたが，もう１点は紛失してしまった。直径は 1.8 ㎜ほどで，中心に直径 0.35 ㎜の孔があいている。2108・2109 ともに両端とも切り口は斜めである。素材がガラスであることと，形状が古墳時代以降にみられること，それに出土した近くで８世紀代の遺物が多いことから，古代初期の玉であると考える。

2110 は表土の出土であり，色調や分析結果からも近現代のものであることが確かめられた。

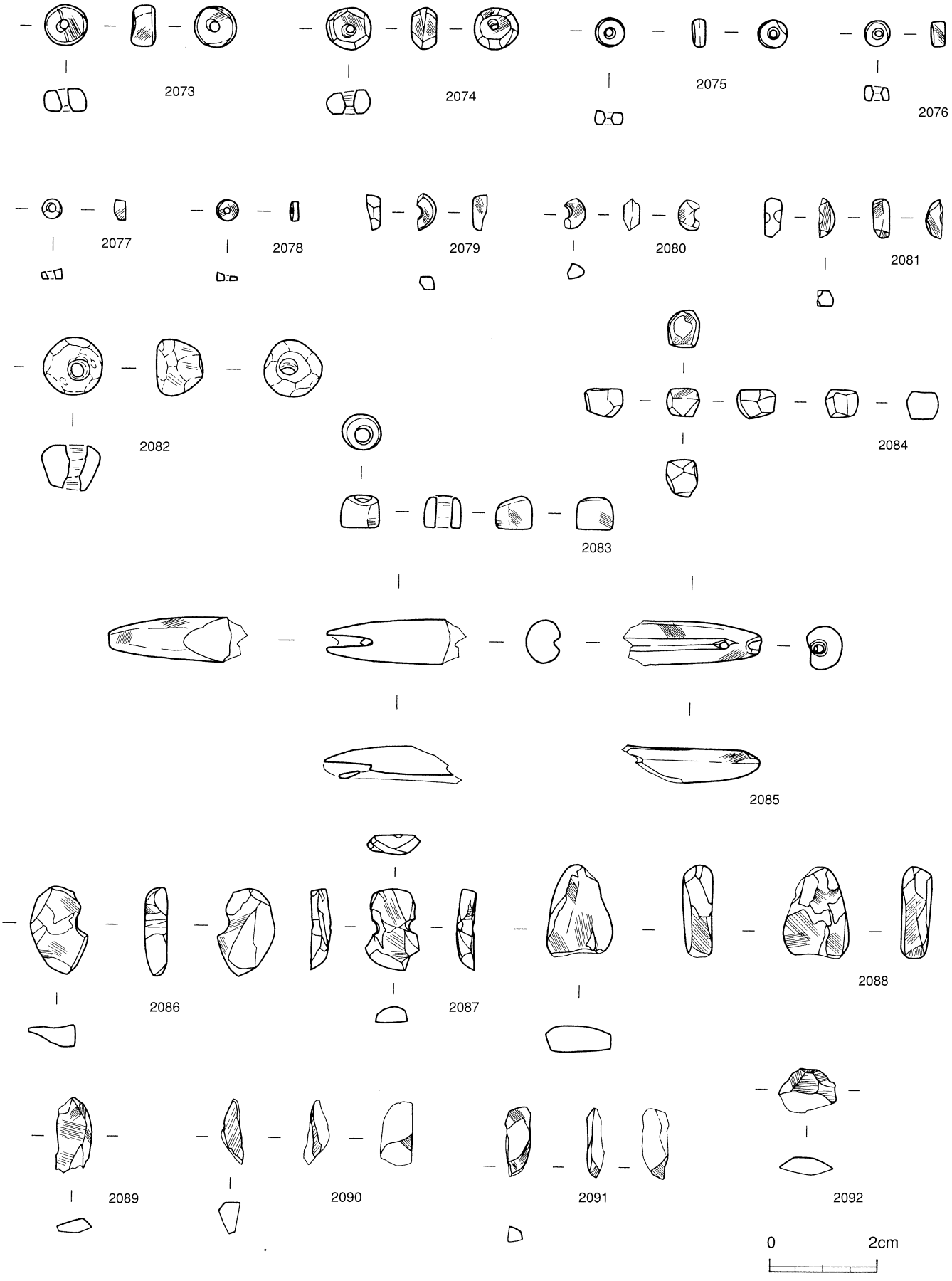
再度，本遺跡で出土した縄文時代の玉類の加工品を含めた点数を記すと，勾玉６点，管玉 29 点，大振りの玉３点，丸玉及び平玉 12 点，垂飾品１点，加工途中あるいは擦り切り痕のある石材 22 点，原石３点，剥片及び石屑 61 点である。

藤田富士夫　1998.6『日本海文化の原像　縄文再発見』大巧社



第299図　出土遺物　石器（110）玉類

第300図　出土遺物　石器（111）玉類



第301図　出土遺物　石器（112）玉類

第302図　出土遺物　石器（113）玉類

表52　石器観察表30

図番号	遺物番号	出土区	遺構	層位	器種	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	孔径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	取上げ番号	レベル (m)	写真図版
第299図	2035	D-24			勾玉		16.50	11.25	3.00	5.00	1.00	11395	8.89	21
	2036	D-15		Ⅱb	勾玉		11.95	7.50	1.25	3.20	0.40	3694	8.43	21
	2037	C-17			勾玉		11.95	8.70	1.35	2.35	0.20	8591	8.23	21
	2038	D-24	SK60	Ⅲ	勾玉		10.00	5.75	1.35	2.35		—		21
	2039	C-24		Ⅲ	勾玉		11.65	3.35	1.00	2.25		12886	8.72	21
	2040	C-24		Ⅲ	勾玉		28.85	16.00		8.20	3.20	11757	8.985	21
	2041	D-18		Ⅲ	管玉		27.25	7.20	24.00		2.00	4518	8.29	21
	2042	D-15		Ⅲ	管玉		23.05	5.80	2.10		1.20	2699	8.1	21
	2043			Ⅲ	管玉		(26.35)	5.45	2.15		1.00	—		21
	2044	C-17		Ⅲ	管玉		18.70	8.35	2.25		0.80	8866	8.13	21
	2045	C-17		Ⅲ	管玉		(15.80)	6.80			0.40	—		21
	2046	D-16		Ⅲ	管玉		16.90	6.35	2.10	5.65	0.80	4614	8.115	21
	2047	C-17		Ⅱb	管玉		13.95	5.90	2.05		0.20	5914	8.35	21
	2048	C-18		Ⅲ	管玉		(17.00)	7.50	2.45		1.20	8614	8.35	21
	2049	D-22			管玉		13.25	7.95	3.15	7.25	1.20	10700	8.62	21
	2050	C-18		Ⅱb	管玉		13.25	6.05	2.05	5.35	0.60	8427	8.345	21
第300図	2051	C-16			管玉		13.85	6.00	1.90		0.40	—		21
	2052	C-18		Ⅱb	管玉		(12.35)	4.75	1.50			8428	8.365	21
	2053	C-15		Ⅲ	管玉		11.70	6.00	2.25		0.40	—		21
	2054	B-14		Ⅲ	管玉						0.40	14475	8.16	21
	2055	B-23		Ⅲ	管玉		9.75	7.30	3.15		0.60	15850	8.695	21
	2056	D-21			管玉		10.10	(5.50)			0.20	—		21
	2057	C-24		Ⅲ	管玉		8.65	5.00	1.75		0.20	12235	8.785	21
	2058	C-17		Ⅱb	管玉		12.00	(5.45)	1.60		0.20	8600	8.24	21
	2059	C-16		Ⅲ	管玉		8.35	5.15	2.10		0.20	—		21
	2060	C-15		Ⅲ	管玉		7.60	4.75	1.60			—		21
	2061	C-22	SD43		管玉		6.80	4.00	1.80		0.20	—		21
	2062	B-15		Ⅲ	管玉未製品		16.65	6.05	3.40		1.20	—		21
	2063	C-18		Ⅱb	管玉		(11.70)	4.90	1.40		0.20	8426	8.345	21
	2064	C-17		Ⅱb	管玉		9.40	5.60	2.00		0.20	7908	8.405	21
	2065	B-16		Ⅲ	管玉							14035	8.2	21
	2066	C-15		Ⅲ	未製品		9.30	5.90	1.40		0.20	8903	8.102	21
	2067	B-14		Ⅲ	管玉							9749	8.32	21
	2068	C-15		Ⅲ	管玉未製品							13909	8.265	21
	2069	C-16			管玉未製品							—		21
	2070	B-22		Ⅲ	管玉未製品						0.80	13516	8.78	-
	2071	B-23		Ⅲ	玉		20.65	14.45	5.15	9.90	4.80	15500	8.86	21
	2072	A-33		Ⅲ	管玉						3.60	16415	9.53	21
第301図	2073	D-21			丸玉		4.20	7.70	2.05		0.40	—		21
	2074	C-18			丸玉		4.55	7.70	1.60		0.40	—		21
	2075	D-26			丸玉		2.25	5.10	1.25			—		21
	2076	B-23			平玉		2.65	4.50	1.85			—		21
	2077	C-21		Ⅲ	平玉		1.95	3.45	1.35			11143	8.515	21
	2078	C-21		Ⅲ	平玉		1.55	3.65	0.75			11804	8.33	21
	2079	D-22	溝内		丸玉		(2.35)	6.40				—		21
	2080	B-24		Ⅲ	平玉							—		21
	2081	C-24		Ⅲ	管玉未製品							12236	8.845	21
	2082	D-17		Ⅲ	丸玉		8.55	10.40			1.40	6872	8.11	21
	2083	A-22		Ⅳ	管玉		5.80	6.70	3.15		0.40	15865	8.45	21
	2084	C-15		Ⅲ	丸玉未製品		5.15	5.60			0.40	8915	8.085	21
	2085	B-18			垂飾品		25.00	7.95	1.60	6.30	1.60	—		21
	2086	C-15		Ⅲ	未製品		15.85	10.40		4.15	0.80	8910	8.105	21
	2087	C-15		Ⅲ	未製品		14.95	9.60		3.20	0.60	8950	8.073	21
	2088	C-16		Ⅲ	未製品						1.60	—		21
	2089	C-15		Ⅲ	研磨痕						0.20	9003	8.065	21
	2090	B-15		Ⅲ	研磨痕						0.40	—		21
	2091	C-15		Ⅲ	研磨痕						0.20	9082	8.008	-
	2092	C-15		Ⅲ	研磨痕						0.20	8913	8.005	21
第302図	2093	D-21		Ⅰ	擦切痕						3.20	—		21
	2094	D-15		Ⅲ	擦切痕		(22.50)	(10.50)		3.00	0.80	4080	7.98	21
	2095	C-15		Ⅲ	擦切痕						0.40	—		21
	2096	B-15		Ⅲ	擦切痕						0.60	14156	8.235	21
	2097	B-15		Ⅲ	研磨痕						1.00	—		21
	2098	C-15			研磨痕						0.40	—		21
	2099	C-15		Ⅲ	研磨痕						1.20	—		21
	2100	B-14		Ⅲ	研磨痕						0.20	13711	8.26	21
	2101	C-15		Ⅲ	研磨痕						0.20	9261	7.989	21
	2102	C-15			研磨痕							—		21
	2103	C-15		Ⅲ	研磨痕							—		21
	2104	C-15		Ⅲ	研磨痕							8914	8.065	21
	2105	C-24		Ⅲ	研磨痕							12194	8.465	21
	2106	C-15			擦切痕						0.40	—		21
	2107	C-15		Ⅲ	擦切痕						0.40	9262	7.98	21
	2108	C-15		Ⅱb	ガラス玉		4.95	5.80	2.10		0.20	2566	8.23	-
	2109	C-15		Ⅱb	ガラス玉							—		-
	2110	B-25	表土		ビーズ		2.50	4.20	0.95			—		-

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（79）
九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　XII

大坪遺跡

上巻

発行　2005年3月
編集　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899－4461
鹿児島県国分市上之段1175番地1
印刷　和田印刷株式会社
〒891-0122　鹿児島市南栄三丁目1番